公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（17）

東九州自動車道（志布志IC～鹿屋串良JCT）建設に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

# 永吉天神段遺跡３
## 第２地点-２

**（曽於郡大崎町）**

**古代・中世・近世編**

２０１８年１月

鹿 児 島 県 教 育 委 員 会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋 蔵 文 化 財 調 査 セ ン タ ー



第２地点Ｃ地区出土中世溝状遺構



第２地点Ｇ地区と道路建設の進む永吉天神段遺跡



土坑墓２号と出土遺物



土坑墓２号から出土した白磁碗・湖州六花鏡・ミニチュア羽釜



土坑墓５号



土坑墓６号



遺物集中　出土五輪塔・石鍋

# 序　文

この報告書は，東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ）の建設に伴って実施した，曽於郡大崎町に所在する永吉天神段遺跡第２地点における発掘調査の記録です。

永吉天神段遺跡第２地点では，旧石器時代から近世の遺構・遺物が発見されました。本報告書では，そのうち古代・中世・近世の報告を行っています。

古代では，黒色土器を伴う柱穴１基と，包含層遺物として土師器・内黒土師器・内赤土師器・須恵器が出土しました。

中世では，掘立柱建物跡，溝状遺構，祭祀遺構，屋敷に伴うと考えられる土坑墓や，火葬土坑，鹿児島県で初となる地下式坑が検出されたほか，貿易陶磁器や，紀伊産土師質釜をはじめとする国内の交易品が出土し，中世の人々の祭祀・信仰面や交易経路を考える上で重要な資料が得られました。

近世では，六道銭と考えられる寛永通寶と人骨が伴う土坑墓や溝状遺構，肥前系陶磁器や薩摩焼が出土しており，近世の人々の生活の在り方を考える上で，有効な情報を得ることができました。

本報告書が，県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに，文化財の普及・啓発の一助になれば幸いです。

最後に，調査にあたり本県の埋蔵文化財保護のためにご協力いただきました国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所，鹿児島県教育庁文化財課，鹿児島県立埋蔵文化財センター，大崎町教育委員会，調査中にご指導をいただいた先生方，株式会社パスコ，発掘作業員，整理作業員，本遺跡の所在する大崎町永吉の档ヶ山集落の皆様，その他関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 30 年 1 月

公益財団法人　鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター長　前迫　亮一

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ながよしてんじんだんいせき３　だい２ちてん－２ |
| 書名 | 永吉天神段遺跡３　第２地点－２　古代・中世・近世編 |
| 副書名 | 東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | 17 |
| 編集者名 | 上村　俊洋・隈元　俊一<br>株式会社パスコ（池畑　耕一・松村　由記・関口　真由美・黒沢　聖子・関口　昌和・浦辻　栄治・翁長　武司・相川　薫） |
| 編集機関 | 公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター |
| 所在地 | 〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号　TEL0995-70-0574　FAX0995-70-0576 |
| 発行年月日 | 2018年1月 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 発掘期間 | 発掘面積 | 発掘原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ながよしてんじんだんいせき<br>永吉天神段遺跡<br>だい２ちてん<br>第２地点 | かごしまけん<br>鹿児島県<br>そおぐん<br>曽於郡<br>おおさきちょう<br>大崎町<br>ながよし<br>永吉<br>あざてんじん<br>字　天神 | H 25-46468 | 104 | 31°<br>26'<br>35" | 130°<br>58'<br>58" | 確認調査<br>2011. 07. 01<br>～<br>2011. 09. 28<br>本調査<br>2012. 07. 02<br>～<br>2016. 01. 27 | 22,734㎡ | 東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ）建設に伴う記録保存調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 永吉天神段遺跡<br>第２地点 | 散布地 | 古代 | 柱穴１基 | 土師器・内黒土師器・内赤土師器・須恵器・白磁 | |
| | 集落 | 中世 | 掘立柱建物跡 10 棟<br>竪穴建物跡１軒<br>土坑墓６基<br>土坑 46 基（地下式坑・火葬土坑含む）<br>溝状遺構 16 条<br>柱穴 | 土師器・瓦質土器・瓦器・東播系須恵器・備前焼・瀬戸焼・常滑焼・カムィヤキ・青磁・白磁・青白磁・染付・中国産陶器・石鍋・石臼・軽石製品・石塔・湖州六花鏡・砥石・紡錘車・古銭・刀子・庖丁・鞴の羽口・土錘・円盤形土製品 | |
| | 集落 | 近世 | 土坑墓５基<br>土坑１基<br>溝状遺構９条<br>柱穴１基 | 薩摩焼・備前系陶磁器・内野山焼・古銭 | |

**要　約**

本遺跡は持留川とその支流に挟まれた標高約 50 mのシラス台地縁辺部に位置し，旧石器時代～近世の複合遺跡である。本報告書は，そのうち古代・中世・近世を報告している。
主となる時代は，中世である。
従来，大隅半島の古代～中世は発掘調査事例が少なく，詳細に調査研究されてこなかった。本遺跡では，火葬土坑や地下式坑など，大隅半島の当該時期を考える上で，貴重な資料となる遺構が発見された。




第１図　遺跡位置図（1:50,000）

# 例　言

1　本書は，東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ）建設に伴う永吉天神段遺跡第２地点の発掘調査報告書(古代・中世・近世篇)である。
2　本遺跡は，鹿児島県曽於郡大崎町永吉字天神に所在する。
3　発掘調査は，国土交通省九州地方整備局から鹿児島県が受託し，鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下，「埋文センター」）及び公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（以下，「埋文調査センター」）が実施した。
4　発掘調査は，平成 24～27 年度に県立埋文センター及び公財埋文調査センターが実施した。
5　整理・報告書作成は，平成 28・29 年度に公財埋文調査センターが実施した。
6　平成 24～27 年度は，発掘調査支援業務を株式会社パスコへ委託し，県立埋文センター及び公財埋文調査センターの指揮・監督のもと調査を行った。また，空中写真撮影は株式会社ふじたに再委託した。
7　平成 28 年度は，整理作業及び報告書作成支援業務を株式会社パスコへ委託し，上村俊洋と隈元俊一の指揮・監督のもと業務を実施した。（平成 29 年度刊行）
8　遺構図・遺物分布図の作成及びトレースは，上村が株式会社パスコの協力を得て行った。
9　出土遺物の実測・拓本・トレースは，上村が株式会社パスコの協力を得て行った。なお，報告書の作成には adobe 社製「InDesignCS5」，「IllustratorCS5」，「PhotoshopCS5」を使用した。
10　出土遺物の写真撮影は，埋文センターの写場にて，埋文調査センターの吉岡康弘が行った。
11　金属製品の保存処理は，埋文センターの武安雅之が実施した。
12　本報告に係る自然科学分析は，テフラ分析・放射性炭素年代測定・植物珪酸体分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に，放射性炭素年代測定及び種実同定を株式会社古環境研究所へ委託した。
13　執筆担当は以下のとおりである。また本書の編集は上村が株式会社パスコの協力を得て行った。

第１章～第３章，第４章第２節１・第３節，第６章
上村俊洋
第４章　第１節・第２節２
池畑耕一・松村由記・関口昌和・関口真由美
黒沢聖子・浦辻栄治・翁長武司
第５章　パリノ・サーヴェイ株式会社，
株式会社 古環境研究所

14　使用した土色は『新版　標準土色帖』（1970 農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づく。
15　本書で用いたレベル数値は，海抜絶対高度である。
16　本書で使用した方位は，すべて座標北（Ｇ．Ｎ．）であり，測量座標は国土座標系第Ⅱ系を基準としている。
17　遺構種別ごとに略記号を付して調査を行った。遺構の略記号を以下に示す。
ＳＢ：掘立柱建物跡　ＳＩ：竪穴建物跡　ＳＫ：土坑
ＳＤ：溝状遺構　ＳＬ：鍛冶関連遺構　ＳＴ：土坑墓
Ｐ：柱穴
18　遺構の縮尺は次を基本とした。
祭祀遺構・土坑墓：1/20
土坑・鍛冶関連遺構・焼土・火葬土坑・柱穴：1/40
掘立柱建物跡・竪穴建物跡：1/60
溝状遺構：1/80，1/200
19　遺物の縮尺は次のとおりである。
土器・土製品 1/3，小型石器 1/1～1/2，大型石器 1/3～1/4，鉄製品 1/3。（大型土器・拓本についてはこの限りでない。）各図中にスケールを示してある。
20　掲載遺物番号はすべて通し番号であり，本文，挿図，表及び図版の番号は一致する。
21　掲載土器の拓本を表裏とも貼付の場合，表面が左，裏面が右に配置してある。
22　本報告書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は，県立埋文センターで保管し，展示・活用を図る予定である。なお，遺物注記等で用いた遺跡記号は「ＮＴＪ」である。

# 本文目次

表紙
巻頭図版（カラー）
序文
報告書抄録
例言
目次
第１章　発掘調査の経過…… 1
　第１節　調査に至るまでの経緯…… 1
　第２節　確認調査…… 1
　第３節　本調査…… 2
　第４節　調査の経過…… 3
　第５節　整理・報告書作成…… 6
第２章　遺跡の位置と環境…… 8
　第１節　地理・地質的環境…… 8
　第２節　歴史的環境…… 8
　第３節　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡…… 14
第３章　調査の方法と層序…… 19
　第１節　調査の方法…… 19
　第２節　層序…… 23
第４章　調査の成果…… 31
　第１節　古代の調査…… 32
　第２節　中世の調査…… 36
　第３節　近世の調査…… 152
第５章　自然科学分析…… 206
　第１節　自然科学分析の種類と目的…… 206
　第２節　永吉天神段遺跡における放射性炭素年代…… 206
　第３節　永吉天神段遺跡における種実同定…… 208
　第４節　放射性炭素年代測定…… 210
第６章　総括…… 212
　第１節　古代について…… 212
　第２節　中世について…… 212
　第３節　近世について…… 215
　第４節　永吉天神段遺跡周辺の歴史的環境…… 216

# 挿図目次

第１図　遺跡位置図
第２図　周辺遺跡位置図…… 11
第３図　東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ）建設に伴って調査された遺跡…… 18
第４図　確認調査トレンチ位置図…… 20
第５図　グリッド配置図及び本調査範囲図…… 21
第６図　基本土層図…… 24
第７図　土層断面図作成位置図…… 24

第８図　土層断面図（１）…… 25
第９図　土層断面図（２）…… 26
第 10 図　土層断面図（３）…… 27
第 11 図　土層断面図（４）…… 28
第 12 図　土層断面図（５）…… 29
第 13 図　土層断面図（６）…… 30
第 14 図　古代・中世の地形図…… 31
第 15 図　古代の柱穴と出土遺物…… 32
第 16 図　古代の遺物分布図…… 32
第 17 図　古代の土師器…… 33
第 18 図　黒色土器・内黒土師器・内赤土師器…… 34
第 19 図　須恵器…… 35
第 20 図　中世の遺構（１）…… 36
第 21 図　中世の遺構（２）東半部…… 37
第 22 図　中世の遺構（３）西半部…… 38
第 23 図　掘立柱建物跡１号…… 39
第 24 図　掘立柱建物跡２号…… 40
第 25 図　掘立柱建物跡３号…… 41
第 26 図　掘立柱建物跡４号…… 42
第 27 図　掘立柱建物跡５号…… 43
第 28 図　掘立柱建物跡６号と出土遺物…… 44
第 29 図　掘立柱建物跡７号…… 45
第 30 図　掘立柱建物跡８号…… 46
第 31 図　掘立柱建物跡９号…… 47
第 32 図　掘立柱建物跡 10 号と出土遺物 …… 48
第 33 図　竪穴建物跡（１）…… 49
第 34 図　竪穴建物跡（２）と出土遺物…… 50
第 35 図　土坑１号と出土遺物・土坑２号…… 51
第 36 図　土坑３号と出土遺物…… 52
第 37 図　土坑４号・土坑５号と出土遺物…… 53
第 38 図　土坑６号と出土遺物…… 54
第 39 図　土坑７号～土坑 11 号と出土遺物 …… 55
第 40 図　土坑 12 号～土坑 15 号と出土遺物…… 56
第 41 図　土坑 16 号～土坑 19 号…… 57
第 42 図　土坑 20 号～土坑 23 号…… 58
第 43 図　土坑 24 号・土坑 25 号と出土遺物…… 59
第 44 図　土坑 26 号 …… 60
第 45 図　鍛冶関連遺構と出土遺物…… 61
第 46 図　焼土１～６…… 62
第 47 図　祭祀遺構１号と出土遺物…… 63
第 48 図　祭祀遺構２号と出土遺物（１）…… 64
第 49 図　祭祀遺構２号の出土遺物（２）…… 65
第 50 図　溝状遺構１号・２号…… 66
第 51 図　溝状遺構３号と出土遺物…… 67
第 52 図　溝状遺構４号・５号・７号…… 68
第 53 図　溝状遺構５号・７号…… 69
第 54 図　溝状遺構５号南西側と出土遺物…… 70
第 55 図　溝状遺構６号と出土遺物…… 71
第 56 図　溝状遺構７号…… 72
第 57 図　溝状遺構７号の出土遺物（１）…… 73
第 58 図　溝状遺構７号の出土遺物（２）…… 74
第 59 図　溝状遺構７号の出土遺物（３）…… 75
第 60 図　溝状遺構８号と出土遺物（１）…… 76
第 61 図　溝状遺構８号の出土遺物（２）…… 77
第 62 図　溝状遺構９号…… 78
第 63 図　溝状遺構 10 号 …… 79
第 64 図　溝状遺構 11 号・12 号と出土遺物 …… 80
第 65 図　溝状遺構 13 号～16 号と出土遺物 …… 81
第 66 図　地下式坑１号と出土遺物…… 82
第 67 図　地下式坑２号…… 83
第 68 図　地下式坑２号の出土遺物…… 84
第 69 図　地下式坑３号と出土遺物…… 85
第 70 図　火葬土坑１号…… 86
第 71 図　火葬土坑１号の出土遺物…… 87
第 72 図　火葬土坑２号…… 88
第 73 図　火葬土坑２号の出土遺物・火葬土坑３号 …… 89
第 74 図　土坑墓１号と出土遺物…… 90
第 75 図　土坑墓２号と出土遺物…… 91
第 76 図　土坑墓２号の出土遺物・
　土坑墓３号と出土遺物…… 92
第 77 図　土坑墓４号と出土遺物…… 93
第 78 図　土坑墓５号と出土遺物…… 94
第 79 図　土坑墓６号と出土遺物…… 95
第 80 図　遺物集中…… 96
第 81 図　遺物集中の出土遺物…… 97
第 82 図　柱穴と出土遺物（１）…… 98
第 83 図　柱穴と出土遺物（２）…… 99
第 84 図　中世の土師器（１）…… 100
第 85 図　中世の土師器（２）…… 101
第 86 図　中世の土師器（３）…… 102
第 87 図　中世の土師器（４）…… 103
第 88 図　中世の土師器（５）…… 104
第 89 図　中世の土師器（６）…… 105
第 90 図　土師器分布図…… 106
第 91 図　瓦器・瓦質土器・土師質土器…… 107
第 92 図　須恵質土器・土師質土器…… 108
第 93 図　東播系須恵器（１）…… 109
第 94 図　東播系須恵器（２）…… 110
第 95 図　東播系須恵器（３）…… 111
第 96 図　東播系須恵器（４）…… 112
第 97 図　東播系須恵器（５）…… 113
第 98 図　東播系須恵器（６）・カムィヤキ …… 114
第 99 図　国内産陶器分布図…… 115
第 100 図　備前焼…… 116
第 101 図　常滑焼・灰釉陶器…… 118
第 102 図　青磁（１）…… 119

第 103 図　青磁（２）…… 120
第 104 図　青磁（３）…… 121
第 105 図　青磁（４）…… 122
第 106 図　青磁（５）…… 123
第 107 図　青磁（６）…… 124
第 108 図　青磁（７）…… 125
第 109 図　青磁（８）…… 126
第 110 図　青磁（９）…… 127
第 111 図　青磁分布図…… 128
第 112 図　白磁（１）…… 129
第 113 図　白磁（２）…… 130
第 114 図　白磁（３）…… 131
第 115 図　白磁（４）…… 132
第 116 図　白磁（５）…… 133
第 117 図　白磁（６）…… 134
第 118 図　白磁（７）…… 135
第 119 図　白磁（８）・青白磁…… 136
第 120 図　白磁・中国陶器分布図…… 137
第 121 図　染付…… 139
第 122 図　中国製陶器（１）…… 140
第 123 図　中国製陶器（２）…… 141
第 124 図　土製品…… 142
第 125 図　滑石製石鍋…… 143
第 126 図　滑石製石製品（１）…… 144
第 127 図　滑石製石製品（２）…… 145
第 128 図　砥石（１）…… 146
第 129 図　砥石（２）…… 147
第 130 図　砥石（３）・石製品・軽石製品…… 148
第 131 図　石器・石製品・金属製品分布図…… 149
第 132 図　鉄製品…… 150
第 133 図　渡来銭…… 151
第 134 図　土坑１号…… 152
第 135 図　近世の遺構…… 153
第 136 図　溝状遺構１号・２号…… 154
第 137 図　溝状遺構３号と出土遺物…… 155
第 138 図　溝状遺構４号・５号…… 156
第 139 図　溝状遺構４号・５号の出土遺物…… 157
第 140 図　溝状遺構６号～９号…… 157
第 141 図　土坑墓１号と出土遺物…… 158
第 142 図　土坑墓２号と出土遺物…… 159
第 143 図　土坑墓３号と出土遺物…… 160
第 144 図　土坑墓４号と出土遺物…… 161
第 145 図　土坑墓５号と出土遺物…… 162
第 146 図　柱穴１号と出土遺物…… 162
第 147 図　碗（１）…… 163
第 148 図　碗（２）…… 164
第 149 図　碗（３）…… 165
第 150 図　坏・碗…… 166
第 151 図　皿…… 167
第 152 図　蓋・土瓶…… 168
第 153 図　徳利…… 169
第 154 図　鉢・擂鉢・蓋…… 170
第 155 図　甕・壺…… 171
第 156 図　灯明皿・仏具・古銭…… 172
第 157 図　暦年較正年代グラフ（参考）…… 208
第 158 図　暦年較正結果…… 210
第 159 図　中世の遺構の推定年代…… 212
第 160 図　中世前半期土製煮炊具分布図…… 214
第 161 図　鹿児島県出土の中世前半期土製煮炊具… 215

# 表目次

第１表　周辺遺跡一覧表…… 12～13
第２表　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡…… 14～17
第３表　古代遺構出土土師器観察表…… 174
第４表　古代の土師器観察表…… 174～175
第５表　古代の須恵器観察表…… 175
第６表　中世遺構出土土師器観察表…… 175～176
第７表　中世遺構出土国産陶器観察表…… 176～177
第８表　中世遺構出土舶来産陶磁器観察表… 177～178
第９表　中世遺構出土石器・石製品観察表…… 179
第 10 表　中世遺構出土金属製品観察表…… 179
第 11 表　中世遺構出土渡来銭観察表…… 179
第 12 表　中世の土師器観察表…… 180～182
第 13 表　瓦器・瓦質土器・須恵質土器・土師質土器観察表…… 182
第 14 表　東播系須恵器・カムィヤキ・備前焼・常滑焼・灰釉陶器観察表… 183～185
第 15 表　青磁・白磁・青白磁観察表…… 186～195
第 16 表　染付観察表…… 196
第 17 表　中国陶器観察表…… 197
第 18 表　土製品観察表…… 198
第 19 表　石器・石製品観察表…… 199
第 20 表　鉄製品観察表…… 200
第 21 表　渡来銭観察表…… 200
第 22 表　近世遺構出土遺物観察表…… 201
第 23 表　近世遺構出土銭観察表…… 201
第 24 表　近世出土遺物観察表…… 202～205
第 25 表　近世出土銭観察表…… 205
第 26 表　放射性炭素年代測定結果…… 207
第 27 表　放射性炭素年代測定結果（較正年代）…… 207

第 28 表　種実同定結果…… 208
第 29 表　測定試料及び処理…… 211
第 30 表　放射性炭素年代測定及び暦年較正
　　の比較…… 211
第 31 表　中世土坑墓出土土師器法量…… 214
第 32 表　鹿児島県内の土製煮炊具…… 214

# 図版目次

巻頭図版２　土坑墓２号
巻頭図版３　土坑墓５号・６号・遺物集中
本文中写真１　第２地点の土層…… 24
本文中写真２　種実遺体…… 209
図版１　中世の遺構…… 219
図版２　中・近世の遺構…… 220
図版３　中世の竪穴建物跡１号…… 221
図版４　中世の掘立柱建物跡…… 222
図版５　中世の掘立柱建物跡と土坑…… 223
図版６　中世の土坑…… 224
図版７　中世の土坑…… 225
図版８　中世の土坑と鍛冶関連遺構…… 226
図版９　中世の鍛冶関連遺構…… 227
図版 10　中世の鍛冶関連遺構と焼土…… 228
図版 11　中世の祭祀遺構と溝状遺構…… 229
図版 12　中世の溝状遺構…… 230
図版 13　中世の溝状遺構…… 231
図版 14　中世の溝状遺構…… 232
図版 15　中世の溝状遺構と地下式坑…… 233
図版 16　中世の地下式坑と火葬土坑…… 234
図版 17　中世の火葬土坑と土坑墓…… 235
図版 18　中世の土坑墓と柱穴…… 236
図版 19　近世の土坑と溝状遺構…… 237
図版 20　近世の溝状遺構と土坑墓…… 238
図版 21　近世の土坑墓…… 239
図版 22　古代の土師器・黒色土器…… 240
図版 23　古代の須恵器（外面）…… 241
図版 24　古代の須恵器（内面）…… 242
図版 25　中世遺構出土の遺物（１）…… 243
図版 26　中世遺構出土の遺物（２）…… 244
図版 27　中世遺構出土の遺物（３）…… 245
図版 28　中世遺構出土の遺物（４）…… 246
図版 29　中世遺構出土の遺物（５）…… 247
図版 30　中世遺構出土の遺物（６）…… 248
図版 31　中世遺構出土の遺物（７）…… 249
図版 32　中世遺構出土の遺物（８）…… 250
図版 33　中世遺構出土の遺物（９）…… 251
図版 34　中世遺構出土の遺物（10）…… 252
図版 35　中世遺構出土の遺物（11）…… 253
図版 36　中世遺構出土の遺物（12）…… 254
図版 37　土師器…… 255
図版 38　瓦質土器・須恵質土器・土師質土器…… 256
図版 39　東播系須恵器（１）…… 257
図版 40　東播系須恵器（２）…… 258
図版 41　東播系須恵器（３）…… 259
図版 42　東播系須恵器（４）・
　　カムィヤキ・備前焼…… 260
図版 43　常滑焼・灰釉陶器…… 261
図版 44　青磁（１）…… 262
図版 45　青磁（２）…… 263
図版 46　青磁（３）…… 264
図版 47　青磁（４）…… 265
図版 48　青磁（５）…… 266
図版 49　青磁（６）…… 267
図版 50　白磁（１）…… 268
図版 51　白磁（２）…… 269
図版 52　白磁（３）…… 270
図版 53　白磁（４）…… 271
図版 54　白磁（５）…… 272
図版 55　白磁（６）…… 273
図版 56　染付・中国製陶器（１）…… 274
図版 57　中国製陶器（２）・土製品…… 275
図版 58　石鍋・滑石製品（１）…… 276
図版 59　砥石…… 277
図版 60　中国製陶器（３）・
　　石臼・軽石製品…… 278
図版 61　鉄製品・渡来銭…… 279
図版 62　近世遺構出土の陶磁器と六道銭…… 280
図版 63　近世の陶磁器（１）…… 281
図版 64　近世の陶磁器（２）…… 282
図版 65　近世の陶磁器（３）…… 283
図版 66　近世の陶磁器（４）…… 284
図版 67　近世の陶磁器（５）…… 285
図版 68　近世の陶磁器（６）…… 286

# 第１章　発掘調査の経過

## 第１節　調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会は，文化財の保護・活用を図るため，各開発関係機関との間で，事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し，諸開発との調整を図ってきた。この事前協議制に基づき，日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所は，東九州自動車道の建設を計画し，志布志ＩＣ～末吉財部ＩＣ区間の事業に先立って，事業地内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育委員会に照会した。

この計画に伴い鹿児島県教育庁文化財課（以下，県教委文化財課）は，平成 11 年１月に鹿屋串良ＪＣＴ～末吉財部ＩＣ間を，平成 12 年２月には志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の埋蔵文化財分布調査を実施し，50 か所の遺跡（調査対象表面積 854,100㎡）の存在を明らかにした。

この結果をもとに，事業区間内の埋蔵文化財の取扱いについて，日本道路公団九州支社鹿児島工事事務所，鹿児島県土木部道路建設課高速道対策室，県教委文化財課，県立埋蔵文化財センター（以下，埋文センター）の４者で協議を重ね対応を検討してきた。

その後，日本道路公団民営化の政府方針が提起され，事業の見直しと建設コストの削減を検討することとなった。このような社会情勢の変化に伴い，遺跡の厳密な把握が要求されることとなり，埋蔵文化財の詳細分布調査や確認調査が実施されることとなった。

そこで，県教委文化財課は，まず，平成 13 年１月 29 日から２月６日に調査の利便性や面積等を考慮して宮ヶ原遺跡，加治木堀遺跡，石綰遺跡，十三塚遺跡の試掘調査を実施した。さらに，平成 13 年７月 10 日から７月 26 日に鹿屋串良ＪＣＴ～末吉財部ＩＣ間の工事計画図をもとに 33 の遺跡について詳細分布調査を実施し，同年９月 17 日～10 月 26 日及び 12 月３日～12 月 25 日の２期間にわたり各遺跡の調査範囲及び遺物包含層の層数を把握するための試掘調査を実施した。

これらの詳細分布調査や試掘調査に加えて，既に合意されていた本線工事用道路及び側道部分の確認調査も実施することとなり，関山西遺跡，関山遺跡，狩俣遺跡の３遺跡を対象に平成 13 年 10 月１日から平成 14 年３月 22 日にかけて確認調査を実施した。

平成 14 年４月には，志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡について再度分布調査を実施した結果，遺跡の調査対象範囲が 678,700㎡となった。

その後，日本道路公団民営化の閣議決定と新直轄方式に基づく道路建設の確定，平成 15 年 11 月に暫定２車線施行に伴う議事確認書締結，同年 12 月に大隅ＩＣ（平成 21 年４月 28 日，「曽於弥五郎ＩＣ」へ名称変更）から末吉財部ＩＣ間の発掘調査協定書締結，平成 16 年３月に国土交通省九州地方整備局長，日本道路公団九州支社長，鹿児島県知事の間で新直轄方式施行に伴う確認書が締結され，工事は日本道路公団が国土交通省から受託し，発掘調査は日本道路公団が鹿児島県に再委託することとなり，これまでの確認書，協定書はそのまま継続されることになった。

また，日本道路公団からの委託業務は曽於弥五郎ＩＣまでで終了し，曽於弥五郎ＩＣからの先線部は国土交通省からの受託事業となった。

## 第２節　確認調査

永吉天神段遺跡の確認調査は，県内遺跡事前調査事業で平成 23 年７月１日から同年９月 28 日に実施した。

### １　調査体制

| | | |
|---|---|---|
| 事業主体 | 鹿児島県教育委員会 | |
| 調査主体 | 鹿児島県教育委員会 | |
| 調査統括 | 県立埋蔵文化財センター所長 | 寺田　仁志 |
| 調査企画 | 次長兼総務課長 | 田中　明成 |
| | 次長兼南の縄文の森調査室長 | 井ノ上秀文 |
| | 調査第一課長 | 堂込　秀人 |
| | 調査第一課第二調査係長 | 大久保浩二 |
| 調査担当 | 文化財主事 | 馬籠　亮道 |

### ２　調査の経過

調査の経過については，日誌抄を月ごとに集約して記載した。写真撮影は適宜行っているので記述を省略した。

７月　調査開始。調査施設設営及び環境整備。１～31 トレンチ（以下，Ｔ）を設定・掘削。

８月　トレンチ調査。遺物取上げ。１Ｔ：旧石器時代剥片・縄文時代早期被熱破砕礫出土。２Ｔ：方形竪穴住居跡検出。弥生土器・石剣出土。４Ｔ：柱穴検出。下剥峯式土器・被熱破砕礫出土。８Ｔ：柱穴検出。磨製石鏃出土。15 Ｔ：縄文時代早期土器片出土。16 Ｔ：Ⅱ層遺物集中部下部硬化面検出。23 Ｔ：Ⅱ層土器片及び柱穴検出。Ⅴ層被熱破砕礫検出。24 Ｔ：柱穴検出。隣接地の民家敷地から古銭を多量に採取。27 Ｔ：Ⅱ・Ⅲ層土器片が密集して出土。Ⅶ層（サツマ層上面）柱穴検出。30 Ｔ：Ⅱ層土師器出土。Ⅲ層縄文時代後期土器片出土。

９月　29・30・31 トレンチ調査。遺物取上げ。埋め戻し。16 Ｔ：硬化面を竪穴住居跡と判断。６・15・18 Ｔ：縄文時代早期土器片（石坂式土器）出土。12・13・16・21・27 Ｔ：弥生時代～古墳時代土器片（山ノ口式土器・東原～辻堂原式土器）出土。30・31 Ｔ：縄文時代晩期土器片（組織痕土器）出土。文化庁記念物課埋蔵文化財部門林正憲調査官来跡（14 日）。

## 第３節　本調査

確認調査の結果，遺物の集中は調査対象地の広い範囲で確認され，主に中世～古代，古墳時代～弥生時代，縄文時代晩期，縄文時代早期，旧石器時代の包含層が確認された。調査対象範囲が広大であり，各地点で存在する包含層の時期や内容には差があるが，調査対象表面積37,100㎡，調査対象延面積87,588㎡と確認した。

確認調査の結果を踏まえ，改めて遺跡の取り扱いについて県教委文化財課，国土交通省，埋文センターの三者で協議し，遺跡の現状保存は困難であることから，埋文センターが本調査を実施することとなった。平成24年度は埋文センターが本調査を実施し，発掘調査は，「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査（民間委託）実施要綱」に基づき，株式会社パスコへ発掘調査業務の委託を行い実施した。

平成25年度からは，東九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を含めた国事業関係を円滑に進めるために発足した公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（以下，埋文調査センター）が，県から受託して発掘調査を進めることになった。

平成27・28年度の整理作業・報告書作成業務は，「公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター埋蔵文化財整理作業及び報告書作成作業支援業務の委託実施要綱」に基づき，株式会社パスコへ整理作業及び報告書作成作業支援業務の委託を行い実施した。

本調査は，平成24年7月2日から平成25年1月28日（第1地点含む），平成25年6月13日から平成26年1月28日，平成26年5月12日から平成27年1月28日，平成27年5月11日から平成28年1月27日（第3地点含む）までの期間実施した。調査体制については，以下のとおりである。

### 1　調査体制

#### (1) 平成24年度

| | | |
|---|---|---|
| 事業主体 | 国土交通省九州地方整備局 | |
| | 大隅河川国道事務所 | |
| 調査主体 | 鹿児島県教育委員会 | |
| 企画・調整 | 鹿児島県教育庁文化財課 | |
| 調査統括 | 県立埋蔵文化財センター所長 | 寺田　仁志 |
| 調査企画 | 次長兼総務課長 | 新小田　穣 |
| | 次長兼南の縄文調査室長 | 井ノ上秀文 |
| | 調査第二課長 | 冨田　逸郎 |
| | 調査第二課第一調査係長 | 八木澤一郎 |
| 調査担当 | 文化財主事 | 川口　雅之 |
| 調査事務 | 主幹兼総務係長 | 大園　祥子 |
| | 主査 | 岡村　信吾 |
| 現地指導 | 鹿児島大学大学院理工学研究科 | |
| | 准教授 | 井村　隆介 |
| | 福岡大学人文学部教授 | 武末　純一 |

#### (2) 平成25年度

| | | |
|---|---|---|
| 事業主体 | 国土交通省九州地方整備局 | |
| | 大隅河川国道事務所 | |
| 調査主体 | 鹿児島県教育委員会 | |
| 企画・調整 | 鹿児島県教育庁文化財課 | |
| 調査統括 | （公財）鹿児島県文化振興財団 | |
| | 埋蔵文化財調査センター長 | 冨田　逸郎 |
| 調査企画 | 総務課長兼総務係長 | 山方　直幸 |
| | 調査課長 | 鶴田　靜彦 |
| | 調査第一係長 | 八木澤一郎 |
| 調査担当 | 文化財専門員 | 湯場﨑辰巳 |
| | 文化財専門員 | 彌榮　久志 |
| 事務担当 | 主査 | 岡村　信吾 |
| 現地指導 | 福岡大学人文学部教授 | 武末　純一 |

#### (3) 平成26年度

| | | |
|---|---|---|
| 事業主体 | 国土交通省九州地方整備局 | |
| | 大隅河川国道事務所 | |
| 調査主体 | 鹿児島県教育委員会 | |
| 企画・調整 | 鹿児島県教育庁文化財課 | |
| 調査統括 | （公財）鹿児島県文化振興財団 | |
| | 埋蔵文化財調査センター長 | 堂込　秀人 |
| 調査企画 | 総務課長兼総務係長 | 山方　直幸 |
| | 調査課長 | 八木澤一郎 |
| | 調査第一係長 | 中村　和美 |
| 調査担当 | 文化財専門員 | 湯場﨑辰巳 |
| | 文化財専門員 | 彌榮　久志 |
| | 文化財専門員 | 隈元　俊一 |
| 事務担当 | 主査 | 岡村　信吾 |
| 現地指導 | 福岡大学人文学部教授 | 武末　純一 |
| | 福岡大学人文学部教授 | 桃崎　祐輔 |
| | 鹿児島大学法文学部教授 | 本田　道輝 |
| | 鹿児島大学教育学部教授 | 日隈　正守 |
| | 鹿児島国際大学国際文化学部教授 | 中園　聡 |
| | 鹿児島県立短期大学生活科学科教授 | 揚村　固 |
| | 鹿児島女子短期大学助手 | 下野真理子 |

#### (4) 平成27年度

| | | |
|---|---|---|
| 事業主体 | 国土交通省九州地方整備局 | |
| | 大隅河川国道事務所 | |
| 調査主体 | 鹿児島県教育委員会 | |
| 企画・調整 | 鹿児島県教育庁文化財課 | |
| 調査統括 | （公財）鹿児島県文化振興財団 | |
| | 埋蔵文化財調査センター長 | 堂込　秀人 |
| 調査企画 | 総務課長兼総務係長 | 有村　貢 |
| | 調査課長 | 八木澤一郎 |
| | 調査第一係長 | 中村　和美 |
| 調査担当 | 文化財専門員 | 隈元　俊一 |

| | | |
|---|---|---|
| | 文化財専門員 | 上村　俊洋 |
| 事務担当 | 主査 | 荒瀬　勝己 |
| 現地指導 | 大分県立歴史博物館 | |
| | 企画普及課長 | 原田　昭一 |
| | 鹿児島大学大学院理工学研究科 | |
| | 准教授 | 井村　隆介 |

## 2　発掘調査の民間委託

発掘調査の実施にあたり，埋文センター及び埋文調査センターは「鹿児島県埋蔵文化財発掘調査（民間委託）実施要綱」に基づき，株式会社パスコへ発掘調査の委託を行った。なお，埋文センター及び埋文調査センターの各年度調査担当職員が常駐監理して，統括，指揮及び運営を行った。委託内容等は以下のとおりである。

### (1) 平成 24 年度

| | | |
|---|---|---|
| 委託先 | 株式会社パスコ | |
| 契約期間 | 平成 24 年 6 月 8 日～平成 25 年 2 月 22 日 | |
| 委託内容 | 発掘調査業務 | 1 式 |
| | 測量業務 | 1 式 |
| | 土工業務 | 1 式 |
| 担当者 | 主任技術者 | 新川　浩 |
| | 主任調査員 | 池畑　耕一 |
| | 調査員 | 西田　茂　丸山　清志 |
| | | 黒沢　聖子 |
| | 測量技士 | 小林　進哉 |
| 検査 | 中間検査 | 平成 24 年 10 月 18 日 |
| | 完成検査 | 平成 25 年 2 月 13 日（実地検査） |
| | | 平成 25 年 2 月 15 日（成果物検査） |

### (2) 平成 25 年度

| | | |
|---|---|---|
| 委託先 | 株式会社パスコ | |
| 委託期間 | 平成 25 年 6 月 3 日～平成 26 年 3 月 14 日 | |
| 委託内容 | 発掘調査業務 | 1 式 |
| | 測量業務 | 1 式 |
| | 土工業務 | 1 式 |
| 担当者 | 主任技術者 | 川野　勝弘 |
| | 主任調査支援員 | 池畑　耕一 |
| | 調査支援員 | 西田　茂　秀嶋　龍男 |
| | | 黒沢　聖子　翁長　武司 |
| | | 宮本　栄二 |
| | 測量技士 | 小林　進哉 |
| 検査 | 中間検査 | 平成 25 年 10 月 10 日 |
| | 完成検査 | 平成 26 年 2 月 19 日（実地検査） |
| | | 平成 26 年 3 月 4 日（成果物検査） |

### (3) 平成 26 年度

| | | |
|---|---|---|
| 委託先 | 株式会社パスコ | |
| 委託期間 | 平成 26 年 4 月 11 日～平成 27 年 3 月 12 日 | |
| 委託内容 | 発掘調査業務 | 1 式 |
| | 測量業務 | 1 式 |
| | 土工業務 | 1 式 |
| 担当者 | 主任技術者 | 川野　勝弘 |
| | 主任調査支援員 | 西田　茂 |
| | 調査支援員 | 池畑　耕一　秀嶋　龍男 |
| | | 小柳　太一　黒沢　聖子 |
| | | 翁長　武司　宮本　英二 |
| | | 上屋　眞一（5 月 26 日～） |
| | | 関口　昌和（7 月 1 日～） |
| | | 関口　真由美（7 月 1 日～） |
| | | 玉城　乾一朗（～11 月 27 日） |
| | 測量主任技士 | 中野　広行 |
| | 測量技士 | 河野　正博 |
| 検査 | 中間検査 | 平成 26 年 10 月 16 日 |
| | 一部完成検査 | 平成 26 年 12 月 19 日 |
| | （工事着手に伴う一部引き渡しのため） | |
| | 完成検査 | 平成 27 年 3 月 3 日（実地検査） |
| | | 平成 27 年 3 月 5 日（成果物検査） |

### (4) 平成 27 年度

| | | |
|---|---|---|
| 委託先 | 株式会社パスコ | |
| 委託期間 | 平成 27 年 4 月 13 日～平成 28 年 3 月 11 日 | |
| 委託内容 | 発掘調査業務 | 1 式 |
| | 測量業務 | 1 式 |
| | 土工業務 | 1 式 |
| 担当者 | 主任技術者 | 川野　勝弘 |
| | 主任調査支援員 | 西田　茂 |
| | 調査支援員 | 上屋　眞一　浦辻　栄治 |
| | | 関口　昌和　翁長　武司 |
| | | 宮本　栄二 |
| | | 島田　由利佳（～11 月 26 日） |
| | 測量主任技士 | 中野　広行 |
| 検査 | 一部完成検査 | 平成 27 年 8 月 10 日 |
| | （工事着手に伴う一部引き渡しのため） | |
| | 中間検査 | 平成 27 年 10 月 21 日 |
| | 完成検査 | 平成 28 年 2 月 23 日（実地検査） |
| | | 平成 28 年 3 月 1 日（成果物検査） |

## 第４節　調査の経過

第 2 地点の調査は，平成 24 年度から 27 年度まで実施した。本報告書は，古代から近世までを対象としているため，平成 25 年度については一部省略した。平成 25 年度の全調査経過については，「埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書」（13）に記載してある。

### (1) 平成 24 年度

平成 24 年度は，第 1 地点と第 2 地点の 48 区以東を調査対象とした。第 1 地点の調査経過については，「埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書」（8）に記載してある。

7 月　調査開始（2 日）。新規入場者教育。環境整備。表土剥ぎ。Ⅱ層調査。

８月　Ｈ～Ｋ－52～55区Ⅱ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。全景写真撮影。おおさきっこ歴史探検隊発掘体験（３日）。

９月　Ｂ～Ｉ－49～53区，Ｆ～Ｉ－57～61区表土剥ぎ。Ｂ～Ｄ－49～53区，Ｆ～Ｉ－50～53区，Ｋ・Ｌ－51～53区Ⅱ・Ⅲ層調査。竪穴住居跡多数検出。遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。

10月　Ｃ～Ｆ－49～53区，Ｄ～Ｈ－47～49区，Ｉ－48・49区表土剥ぎ。Ｄ～Ｋ－48～54区Ⅱ層調査。遺構調査。地形測量。竪穴住居跡21基・円形周溝１基検出。南日本新聞社取材（24日）。

11月　Ｅ～Ｈ－47・48区表土剥ぎ。Ｃ～Ｅ－47～50区，Ｆ～Ｈ－47～49区Ⅱ層調査。遺構調査。地形測量。中世の竪穴建物・土坑検出。

12月　Ｄ－48区Ⅱ層調査。Ｄ－48･49区で土坑２基検出。遺構調査。下層確認調査（５×５ｍのトレンチ８本設定）。空撮（４日）。南日本新聞社取材（５・８日）。福岡大学武末純一教授現地指導（６・７日）。現地説明会（８日：見学者：270名）

１月　弥生時代中期の遺構調査。ＳＩ23は次年度調査へ。下層確認調査で縄文時代早期の包含層が全面にあることを確認。旧石器時代包含層をＣ～Ｇ－50～53区の約1,400㎡で確認。遺物水洗い。遺構埋土フローテーション。調査終了。

**(2) 平成25年度**

Ｃ～Ｌ－48～55区をＡ地点，Ｃ～Ｊ－26～47区をＢ地点として調査を行った。Ａ地点は縄文時代早期以前の地層を調査対象としているため，調査経過については省略する。なお，平成25年度から，民間委託支援業務として，基礎整理作業（水洗い･接合）も並行して行っている。

**【発掘調査】**

６月　調査開始（10日）。新規作業員研修。環境整備。Ｇ～Ｉ－38～43区表土剥ぎ。Ⅱ層調査。土坑墓（SK30）・溝状遺構の検出・調査。遺物取り上げ。

県教委文化財課中村和美文化財主事監理業務（11日）。

７月　Ｅ・Ｆ－52・53区，Ｇ・Ｈ－53・54区遺構・遺物の広がりを調査のため，表土剥ぎ，Ⅱ層調査。Ｆ・Ｇ－49・50区Ⅲ層掘立柱建物跡調査終了。Ｄ～Ｆ－32～35区・40～45区表土剥ぎ。Ｄ～Ｆ－32～35区・40～45区・Ｇ～Ｉ－38～43区Ⅱ層調査。遺構調査。Ⅱ層から中世～縄文時代晩期の遺物多数出土。

県教委文化財課中村和美文化財主事監理業務（３日）。鳥取県埋蔵文化財センター長他２名現地視察（19日）。始良市チャレンジ！遺跡発掘体験＆キャンプ泊（23日：38名）

８月　Ｅ～Ｊ－37～43区表土剥ぎ・Ⅱ層調査。土坑墓から白磁・湖州六花鏡（SK30），土師皿３点（SK32）出土。弥生時代中期竪穴住居跡多数検出・調査。

霧島市キッズ発掘体験（６日：18名），埋文センター堂込秀人調査課長監理業務（７日）。熊本大学社会教育主事講習（８日：15名）。喜界町教育委員会現地視察（９日：７名）。

９月　Ｄ～Ｆ－30・31区・37～39・44・45区表土剥ぎ。Ｄ～Ｊ－37～45区Ⅱ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。

古環境研究所（植物珪酸体分析現地採取）（19日）。京都府立大学生６名見学（24日）

10月　Ｄ・Ｅ－29・30区表土剥ぎ。Ｄ～Ｆ－37～39区Ⅳ層重機掘削。Ｅ－45・46区，Ｇ－36・37・43・44区，Ｊ－40～43区Ⅱ層調査。竪穴住居跡･掘立柱建物跡等遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。

福岡大学武末純一教授現地指導（１・２日）。湧水町田尾遺跡作業員一行24名見学（1日）。志布志市有明地区高齢者学級24名見学(4日)。中間検査(10日)。空撮(16日)。埋蔵文化財発掘調査現地研修会15名（29日）

11月　Ｄ・Ｅ－37～47区，Ｆ～Ｉ－36～39区Ⅳ層及びＦ－38区Ⅶ～Ⅸ層重機掘削。Ｄ～Ｆ－30～35区Ⅱ・Ⅲ層調査。土坑墓１基等検出。竪穴住居跡・掘立柱建物跡等遺構調査。Ｄ・Ｅ－37～47区，Ｆ～Ｉ－36～39区Ⅴ層調査。ＳＩ23～41調査終了。Ｆ－38区Ⅹ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。

現地説明会（9日：見学者310名）。鹿児島県大隅地域振興局局長･建設部長見学（12日）。パリノ・サーベェイ（テフラ現地採取）（15日）。埋文センター堂込秀人調査課長監理業務（22日），埋文センター井ノ上秀文所長監理業務（25日）。曽於地区文化協会13名見学（27日）

12月　Ｃ－27･28区，Ｄ－28･29区，Ｇ・Ｈ－44～46区，Ｉ－44区表土剥ぎ。Ｄ～Ｈ－30～44区Ⅳ層重機掘削。Ｄ～Ｆ－30～34区Ⅵ～Ⅸ層重機掘削。Ｃ・Ｄ－27～29区Ⅱ・Ⅲ層調査。Ｄ～Ｆ－30～34区・Ｇ～Ｊ－40～43区Ⅴ層調査。Ｄ～Ｆ－30～34区・Ｄ～Ｇ－36～47区Ⅹ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。

１月　Ｅ・Ｆ－36区表土剥ぎ。Ｅ～Ｇ－33～36区・Ｅ～Ｉ－40～47区Ⅳ層重機掘削。Ｈ・Ｉ－40・41区Ⅶ～Ⅸ層重機掘削。Ｅ～Ｇ－33～36区，Ｈ・Ｉ－43～45区Ⅱ・Ⅲ層調査。Ｅ～Ｇ－33～36区，Ｆ－40～47区，Ｇ～Ｉ－43･44区，Ｇ－45～47区Ⅴ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。

埋蔵文化財専門職員養成講座（17日）

**【整理作業】**

平成24年度出土遺物について，水洗い･注記等が未済のものがあったため，６月からこの整理作業を優先とした。６月・７月に水洗い・注記。７月～９月に分類・接合。平成25年度出土遺物については７月から水洗い・注記を始め，その後，分類・接合・台帳作成も行った。１月に収納準備を始め，２月５日，埋文センターへ収納

した。

**(3) 平成 26 年度**

**【発掘調査】**

平成 26 年度は，C～L－18～41 区を中心に，中世から縄文時代早期と地形観察用の土層ベルト沿いに２m幅のトレンチを設定して，Ⅶ層（サツマ火山灰層）上面にて縄文時代早期の遺構確認調査と旧石器時代の下層確認調査を行った。遺物の出土が見られた箇所については，一部拡張を行い遺物の広がりがないかを確認した。なお，D～J－24～28 区は弥生時代から中世の墳丘等も予想されたため，表土から人力による掘削を行った。

５月　調査開始（７日）。C～K－18～22 区表土剥ぎ，Ⅱ層調査。D～J－24～28 区は表土から人力による調査。

県教委文化財課黒川忠広文化財主事監理業務（20 日）。

６月　C～K－18～23 区，D～J－24～28 区Ⅱ層調査。弥生時代中期の土坑墓等多数検出，遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。

７月　C～K－18～23 区Ⅲ層調査。Ⅳ層重機掘削及びⅤ層調査。D～J－24～28 区Ⅱ～Ⅲ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。

文化庁高橋宏治記念物課長現地視察（1 日）。

８月　I・J－36～38 区表土剥ぎ及びⅡ・Ⅲ層調査。K・L－38～40 区，C～E・H・I－20～22 区Ⅴ層調査。J－19～22 区Ⅶ層重機掘削及びⅧ～Ⅹ層調査。D～J－24～28 区Ⅱ・Ⅲ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。

空撮（12 日）。鹿児島大学本田道輝教授，鹿児島国際大学中園聡教授，鹿児島県立短期大学揚村固教授現地指導（19 日）。福岡大学武末純一教授現地指導（20･21 日）。大崎町おおさきっこ歴史探検隊発掘体験（20 日：15 名）。志布志市立宇都中学校職員研修（20 日：２名）。

９月　F～H－21・22 区，I～L－36～38 区Ⅳ層重機掘削及びⅤ層調査。D－20～22 区，K・L－39 区Ⅶ層重機掘削及びⅧ～Ⅹ層調査。E～K－27～30 区表土剥ぎ及びⅡ･Ⅲ層調査。D～J－24～28 区Ⅱ･Ⅲ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。

大崎町ひまわり女性講座 28 名見学（４日）。弥生時代中期墓域についての現地報道発表（10 日）。鹿児島女子短期大学下野真理子助手現地指導（10 日）。現地公開（13 日：370 名）。

10 月　E～K－27～32 区，I～L－36～38 区表土剥ぎ及びⅡ・Ⅲ層調査。D・E－23～26 区，I～K－23～26 区Ⅴ層調査。D～I－23 区，G－22 区Ⅶ層重機掘削及びⅧ～Ⅹ層調査。D～J－24～28 区Ⅱ・Ⅲ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。

全埋協・四国・中国・九州ブロック会議 22 名見学（３日）。福岡大学桃﨑祐輔教授現地指導（７日）。中間検査（16 日）。大崎町立菱田小学校 17 名見学（23 日）。

11 月　JK－33・35 区，H～L－36～38 区Ⅱ・Ⅲ層調査。D～K－23～30 区Ⅳ層重機掘削及びⅤ層調査。D～F－27 区，G－23～26 区，J－25・26 区，J・K－27 区Ⅶ層重機掘削及びⅧ～Ⅹ層調査。

鹿児島大学日隈正守教授現地指導（６日）。現地公開（８日：210 名）。大隅教育事務所埋蔵文化財現地研修会（11 日：10 名）。大崎町立中沖小学校 19 名見学・地層学習（13 日）。

12 月　K－24～26 区，K・L－33～35 区Ⅲ層調査。E・F－28・29 区，G－27・28 区，H～K－27 区，H～L－36～38 区Ⅴ層調査。G・H・I－23・24 区，G－27 区Ⅶ層重機掘削及びⅧ～Ⅹ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。

県教委文化財課黒川忠広文化財主事監理業務（12・22 日）。埋文センター前迫亮一調査課長監理業務（19 日）。一部完成検査（19 日）。

１月　K・L－27～31 区Ⅲ層調査及びⅤ層調査。F～L－28～32 区Ⅴ層調査。G－29･30 区，G～I－27･31 区，J・K－23・24 区，K－31 区，H～K－36 区，J－36～38 区Ⅷ層～Ⅹ層調査。遺構調査。遺物取り上げ。地形測量。調査終了。

**【整理作業】**

未済であった平成 25 年度出土遺物について，６月に水洗い･注記を行った。平成 26 年度分については，７月から水洗い･注記を始め，９月～１月は，併行して分類･接合を行い，２月４日，埋文センターに収納した。

**(4) 平成 27 年度**

**【発掘調査】**

平成 27 年度は，第３地点の調査と併せて行った。第３地点の調査経過については，今後，報告書刊行を計画しているため，ここでは省略した。また，第１地点の報告書作成と第２地点のＡ地点の整理作業も同時に行ったが，この経過については，「埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（８）」に記載してある。

５月　調査開始（11 日）。７月までは第３地点だけを調査した。埋文センター福山徳治所長監理業務（14 日）。

７月　県教委文化財課黒川忠広文化財主事監理業務（16 日）。

８月　K･L－32 区，I・J－34･35 区表土剥ぎ。K･L－32 区Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ層調査。

空撮（５日）。一部完成検査（10 日）。

９月　L－31 区表土剥ぎ。L－31 区Ⅱ・Ⅲ層調査。L－31 区Ⅴ層調査。

大崎町モニターツアー鹿児島大学学生（18 日：８名）

10 月　G～J－33・34 区，G・H－35・36 区，G～I－37 区，I・J－38・39 区表土剥ぎ。G～J－33・34 区，G・H－35 区，G－36 区Ⅱ・Ⅲ層調査。

中間検査（21 日）。

11月　D・E－28区，D～F－29区，E～G－30・31区，F・G－32区，I・J－32区，F～J－33区，G～J－34・35区，G～I－36区Ⅱ・Ⅲ層調査。

電柱撤去作業終了（24日）。

12月　E～G－30・31区，F・G－32区，I・J－32区，F～J－33区，G～J－34・35区，G～I－36区Ⅱ・Ⅲ層調査。J－33区，G・H－34区Ⅴ層調査。J－33区Ⅷ～X層調査。

大崎町教育委員会２名来跡（２日）。空撮（４日）。大分県立歴史博物館原田昭一企画普及課長現地指導（１～２日）

１月　E～G－31･32区，I・J－32区，H－36区Ⅱ～Ⅲ層調査。F・G－31･32区，I・J－32区，H－36区Ⅴ層調査。J－34・35区，G・H－34区，E～G－31区旧石器調査。全調査終了。

地下式坑について報道機関に公表（18日）及び現地公開（21日）。

**【整理作業】**

平成26年度出土遺物について，５月・６月に水洗い・注記を行った。平成27年度出土遺物については，６月から水洗い・注記を開始し，併行して10月～１月に分類を行い，１月は接合を行った。２月４日，埋文センターに遺物を収納した。

## 第５節　整理・報告書作成

### １　整理・報告書作成作業の組織

本報告書に伴う整理・報告書作成作業は，県から受託した埋文調査センターが平成27・28年度に実施した。平成27年５月～平成28年１月は，永吉天神段遺跡整理作業場を中心に行った。平成28年５月～平成29年２月は，上野原縄文の森の第二整理作業所で行った。なお，平成25～27年度は，発掘調査の一部として基礎的整理作業（水洗い・注記中心）を行った。整理・報告書作成作業に係る組織は以下のとおりである。

**(1) 平成27年度**（平成27年４月～平成28年３月）

事業主体　国土交通省九州地方整備局
　　大隅河川国道事務所
作成主体　鹿児島県教育委員会
作成統括　（公財）鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター長　堂込　秀人
作成企画　総務課長兼総務係長　有村　貢
　　調査課長　八木澤一郎
　　調査第一係長　中村　和美
作成担当　文化財専門員　湯場﨑辰巳
　　文化財専門員　隈元　俊一
事務担当　主査　荒瀬　勝己

報告書作成検討委員会
　　６月８日・８月18日・11月９日・11月26日
　　調査課長ほか５名

**(2) 平成28年度**（平成28年４月～平成29年３月）

事業主体　国土交通省九州地方整備局
　　大隅河川国道事務所
作成主体　鹿児島県教育委員会
作成統括　（公財）鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター長　堂込　秀人
作成企画　総務課長兼総務係長　有村　貢
　　調査課長　八木澤一郎
　　調査第一係長　中村　和美
作成担当　文化財専門員　隈元　俊一
　　文化財専門員　上村　俊洋
事務担当　主査　荒瀬　勝己

報告書作成指導委員会
　　６月１日・８月23日・10月６日・11月４日
　　12月５日・２月１日　調査課長ほか５名

報告書作成検討委員会
　　６月６日・８月26日・10月11日・11月８日
　　12月27日・２月13日　センター長ほか６名

**(3) 平成29年度**（平成29年４月～平成30年３月）

事業主体　国土交通省九州地方整備局
　　大隅河川国道事務所
作成主体　鹿児島県教育委員会
作成統括　（公財）鹿児島県文化振興財団
　　埋蔵文化財調査センター長　前迫　亮一
作成企画　総務課長兼総務係長　中村伸一郎
　　調査課長　中原　一成
　　調査第一係長　今村　敏照
作成担当　調査第一係長　今村　敏照
　　文化財専門員　横手浩二郎
事務担当　主査　荒瀬　勝己

報告書作成指導委員会
　　６月７日・８月２日　調査課長ほか５名

報告書作成検討委員会
　　６月12日・８月９日　センター長ほか５名

### ２　整理作業及び報告書作成作業支援業務の委託

整理作業・報告書作成作業の実施にあたり，埋文調査センターは「公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター埋蔵文化財整理作業及び報告書作成作業支援業務の委託実施要綱」に基づき，平成27・28年度は株式会社パスコへ整理作業及び報告書作成作業支援業務の委託を行った。委託内容等は以下のとおりである。

**(1) 平成27年度**

委託先　株式会社パスコ
契約期間　平成27年４月13日～平成28年３月11日
作業期間　平成27年５月11日～平成28年１月28日
委託内容　報告書作成作業支援業務　１式
　　整理作業支援業務　１式

印刷製本業務　　1式
担当者　主任調査支援員　池畑　耕一
調査支援員　黒沢　聖子　関口真由美
松本　拓
検査　中間検査　平成27年10月21日
完成検査　平成28年3月1日

**(2) 平成28年度**

委託先　株式会社パスコ
契約期間　平成28年4月11日～平成28年3月10日
作業期間　平成27年5月9日～平成28年2月17日
委託内容　報告書作成作業支援業務　1式
整理作業支援業務　1式
自然科学分析業務　1式
印刷製本業務　1式
担当者　主任調査支援員　池畑　耕一
調査支援員　黒沢　聖子　浦辻　栄治
関口　昌和　関口真由美
翁長　武司　松村　由記
相川　薫
検査　中間検査　平成28年10月25日
完成検査　平成29年2月27日

## 3　整理作業の経過

整理作業の経過は以下のとおりである。

**(1) 平成27年度**

第1地点の報告書作成業務と第2地点のA地点の整理作業を行った。第1地点の報告書作成業務経過については,「(公財) 埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(8)」に記載してあるので，ここでは省略した。

4月　支援業務委託準備，入札，土器分類
5月　支援業務委託開始，対象遺物を埋文センターから搬入，土器再分類・再選別，石器実測準備・実測（～1月），図面整理（～9月）
6月　土器実測（～1月）・トレース（～2月），石器トレース（～2月），図面トレース（～9月）・調整（～9月）
7月　台帳作成（～1月），原稿執筆（～9月）
8月　トレースに係る管理（～9月）
9月　観察表作成
10月　中間検査
1月　遺物を埋文センターに収納
2月　支援業務委託作業終了，検査準備
3月　成果物提出，支援業務委託終了，完成検査

※　本遺跡第1地点の報告書を刊行。

**(2) 平成28年度**

第2地点の「旧石器時代～縄文時代編」報告書作成刊行業務と「古代・中世・近世編」報告書作成業務を行ったが,「旧石器時代～縄文時代編」については,「(公財) 埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 (13)」に記載してあるので，ここでは省略した。

4月　支援業務委託準備，入札
5月　支援業務委託開始，対象遺物を埋文センターから第2整理作業場へ移動，土師器・陶磁器再分類・再選別・接合，石・金属製品実測準備，図面整理
6月　土師器復元・実測（～12月），陶磁器復元・実測（～12月），石製品実測・トレース（～10月），金属製品実測・トレース（～10月），図面整理・トレース・調整（～1月），台帳作成・修正（～2月）
7月　原稿執筆（～1月）
8月　レイアウト（～2月）
9月　観察表作成（～2月），中間検査準備
10月　中間検査（25日）
12月　校正（～2月）
1月　遺物仮撮影，成果物収納準備
2月　成果物収納，支援業務委託作業終了，検査準備
3月　成果物提出，支援業務委託終了，完成検査

※　本遺跡第2地点旧石器時代～縄文時代編の報告書を刊行。

**(3) 平成29年度**

本報告書(第2地点「古代・中世・近世編」)の刊行と，第3地点の報告書作成業務及び第2地点「弥生・古墳時代編」の整理作業を埋文調査センター直営で行ったが，本報告書の業務経過のみを掲載する。

5月　遺物図版作成（～6月）
7月　原稿等所内校正（～9月）
10月　印刷・製本入札
1月　報告書納品

※　本遺跡第2地点「古代・中世・近世編」の報告書を刊行。

# 第２章　遺跡の位置と環境

## 第１節　地理・地質的環境

大崎町は，鹿児島県の東南部，大隅半島の東部に位置する。東は志布志市，南は肝属郡東串良町，西は鹿屋市，北は曽於市と接し，南東は志布志湾に面している。

大隅半島は，南北方向に走る山地，その間の丘陵，台地及び低地などの低地帯から構成され，地質は大部分がシラス，ボラなどの火山灰土壌となっている。

東側の山地は，志布志湾北部から宮崎県に張出した形で北から南へと延びる鰐塚山地である。主峰は宮崎県内の鰐塚山（1,119 m）である。

西側の山地は北部の霧島火山の分脈から湾奥に形成された姶良カルデラのカルデラ壁を含み南部の高隈山地へと連なっている。高隈山地は，北部の白鹿岳・荒磯岳など500～600 m級の山々と，南部の大篦柄岳（1,236.8 m）を主峰に横岳・御岳など1,000 m級の山から成る山地で山容は急峻で深い森林に覆われている。

東西の山地は，ともに九州山地の延長上にあり，その間は丘陵や台地及び低地帯となっている。これらの山間地を埋めるような形で，洪積世の火山活動による火砕流が堆積し，丘陵や台地が広く分布した典型的なシラス地形となっている。この火砕流は，鹿児島湾口にある阿多カルデラの火砕流や，湾奥にある姶良カルデラの入戸火砕流で，これらの火砕流をはじめとする噴出物の堆積がベースとなっている。噴出物は，堆積後から現在に至るまで大小多くの河川で開析されるが，丘陵状地形や原面はほとんど浸食されず，広大な台地となっている。

一方，低地は高隈山地や鰐塚山地などを水源とする大小の河川が走り，志布志湾，鹿児島湾などに注いでいる。この河川は，上・中流域で狭い谷底平野を形成し，また，幾段かの河岸段丘も認められる。海岸線には砂丘の形成される所もあり，特に東側の志布志湾岸では幅広い。

大崎町の地形は，北部に菱田川とその上流にあたる大鳥川，東部を田原川，中央部を持留川が南流し，志布志湾に注いでいる。大崎町の地勢は概ね２つに分けられ，北端部は大鳥川を中心として河川が溶結凝灰岩を切り開き，起伏の激しい渓谷を構成している。中部から南部地帯は北西から東南の海岸線に向かって，緩やかに傾斜している起伏の少ない平坦な地帯であり，場所によっては志布志湾まで見通せる。これらの河川によって台地は区切られ，西部から永吉台地，仮宿台地，飯隈（中沖）台地に分けられる。永吉台地の西側を串良川，永吉台地と仮宿台地の間を持留川，飯隈台地の東側を菱田川が流れている。台地の大部分は，約29,000年前の姶良カルデラ起源のシラス土壌の上に形成された「クロボク」と呼ばれる黒色火山灰土壌が広がっている。

大崎町は，志布志市から東串良町まで約16㎞にわたって続く幅１～1.5㎞の砂丘海岸のほぼ中央部にあたる。菱田川河口から南西に弧状を描いて，東串良町に至るまで約７㎞の海岸線があり，弥生時代などの遺跡は数mにわたって砂に厚く覆われている。

永吉天神段遺跡は，永吉台地の東側縁辺部に位置し，志布志湾から直線距離で約６㎞ある。持留川とその支流に，東側と南西側を挟まれた標高約35 mの河岸段丘及び標高約50 mの舌状台地に立地する。調査前は宅地あるいは畑地であった。持留川の流域沿いには，下堀遺跡や荒園遺跡・麦田下遺跡・高久田Ａ遺跡などがあり，本遺跡同様，旧石器時代～中世の遺構・遺物が確認されている。また，台地の麓には，三所大権現や档ヶ山古石塔群が所在し，付近の民家では多量の古銭が採取されていることから，中・近世においても歴史的に重要な地域であったことがうかがえる。

## 第２節　歴史的環境

大崎町では，主に田原川，持留川，菱田川，大鳥川を臨む台地の縁辺部に沿って遺跡の分布がみられる。本遺跡の周辺は，これまで本格的な発掘調査がなされていなかったため詳細は不明であったが，近年大隅中央広域農道や東九州自動車道建設などに伴う発掘調査によって，次第に歴史的様相が明らかになりつつある。

### 旧石器時代

野方の天神段遺跡でナイフ形石器文化期と細石刃文化期の石器製作跡及び石器類が，二子塚Ａ遺跡で剥片が発見されている。永吉天神段遺跡とは持留川を挟んだ位置にある仮宿の荒園遺跡では，細石刃文化期の石器類が発見されている。永吉天神段遺跡では角錐状石器やナイフ形石器文化期の遺物やその製作跡などが発見されている。

### 縄文時代

周辺では，縄文時代の発掘調査例が増えつつある。

早期では，野方の天神段遺跡で，多数の集石・連穴土坑・落とし穴状遺構等と，前平式・桑ノ丸式・石坂式・塞ノ神式・苦浜式土器，石鏃・打製石斧が，二子塚Ａ遺跡で集石と，吉田式・石坂式・塞ノ神式土器，石鏃・石匙などが出土している。井俣では金丸城跡で石坂式土器・石鏃・凹石などが，岡別府の下堀遺跡では集石13基や土坑と，前平式・石坂式・桑ノ丸式・平栫式・塞ノ神式土器，石鏃・石錐等が発見されている。平良上Ｃ遺跡では，竪穴住居跡・集石・連穴土坑と，石坂式・下剥峯式土器が，仮宿の荒園遺跡では，集石や土坑と，前平式・石坂式・桑ノ丸式・平栫式・塞ノ神式土器，石鏃・石匙，

耳栓などが出土している。串良川の東側，永吉台地の西端にある鹿屋市串良町益畑遺跡では，前平式土器の時期の竪穴住居跡２軒，連穴土坑 16 基，集石 85 基，土坑 160 基などが検出された。他に前平式・吉田式・石坂式・下剥峯式・辻タイプ・桑ノ丸式・塞ノ神式などの土器や，石鏃・石皿・磨石・敲石・石斧・ハンマーなどの石器が出土した。

前期では，天神段遺跡で，曽畑式土器に伴い西日本最古となるその時期の石剣や，石鏃・石皿・磨石等の多数の遺物が出土している。野方の立山Ｂ遺跡で，曽畑式土器が出土している。

中期では，立山Ｂ遺跡で阿高式土器が出土している。持留の京の塚遺跡では前期末から中期前半の土坑が 170 基以上検出され，在地の深浦式土器とともに東海系土器，近畿地方の大歳山式土器，瀬戸内～北部九州系の鷹島式・船元式土器が出土していることから広域な交流を示している。石鏃・石匙など石器の出土数も多く，抉状耳飾りも出土している。

後期では，京の塚遺跡で丸尾式・辛川式・西平式・中岳Ⅱ式土器，磨石・石皿などが出土している。下堀遺跡では，指宿式・擬似磨消縄文系土器が，細山田段遺跡では，土坑や丸尾式・北久根山式・西平式・御領式土器が確認されている。

晩期では，天神段遺跡で，竪穴住居跡・土坑群とともに，入佐式・黒川式土器，石鏃・打製石斧・磨製石斧・石鏃・砥石が出土している。立山Ｂ遺跡と細山田段遺跡で，黒川式土器が出土している。京の塚遺跡では入佐式・黒川式土器が出土している。永吉天神段遺跡第１地点では突帯文土器の伴う竪穴住居跡や鉢・壺，打製石斧・石鏃・石匙・石皿などが発見されている。第２地点でも同時期の土器・石器などが多量に出土している。

**弥生時代**

砂丘後背地に立地する益丸の沢目遺跡は，砂丘に埋没した中期から終末期にかけての遺跡である。平成 11 年に行われた発掘調査で，竪穴住居跡 53 軒・土坑約 20 基・柱穴約 180 基が発見され，入来Ⅰ式・入来Ⅱ式・山ノ口Ⅰ式・山ノ口Ⅱ式・須玖式土器，鉄製品・軽石製加工品が出土している。近くの砂丘では戦前に人骨が発見されており，河口付近の横瀬では甕棺破片も採集されているので，埋葬遺構の可能性もある。岡別府の下堀遺跡では，山ノ口式土器や須玖式土器を伴った直径８ｍの円形大型住居跡２軒・掘立柱建物跡５棟などが検出されている。下堀遺跡と同じ台地にある河岸段丘状の荒園遺跡でも吉ヶ崎式・山ノ口式土器を伴う竪穴住居跡が検出されている。下堀遺跡より一段下がった河岸段丘上にある麦田下遺跡では，高付式土器，西南四国系土器，瀬戸内系土器など後期の土器溜まりが検出されている。

田原川・持留川沿いには弥生土器片の散布地が多く点在している。

**古墳時代**

志布志湾岸沿いには，巨大前方後円墳をはじめとする古墳群などがあり，畿内との関連をうかがわせる地域とされている。

横瀬古墳は古墳時代中期（５世紀前半頃）の大型前方後円墳で，隣町に所在する東串良町唐仁大塚古墳に次いで県内第２の規模を誇る。墳長 132 m，前方部幅 72 m，前方部長 68 m，後円部径 64 m，くびれ部幅 48 mあり，そのまわりを幅が 12～23 m，深さが約 1.5 mの壕が巡っているが，さらに周堤帯を挟んで周濠が巡る二重周濠の可能性も考えられている。周濠跡からは伽耶系陶質土器あるいは大阪府陶邑窯産の須恵器や埴輪が出土している。墳丘の高さは，後円部が 10.5 m，前方部が 11.5 mであるが，後円部の頂上部に石室が露呈していることから，本来の後円部は現在より高かったと考えられる。墳丘からは円筒埴輪片，形象埴輪片が採集されている。明治 35 年に盗掘を受け，腐食した直刀や鎧，勾玉類が出土し，石室内は朱塗りであったと伝えられている。

神領古墳群は，前方後円墳４基，円墳９基で構成されている。10 号墳は墳長 54 mの前方後円墳である。主体部は６か所の縄掛突起のある刳抜式舟形石棺を軽石で覆った礫槨で，周辺から管玉・勾玉，鉄剣，短甲の一部，鉄鏃束などが出土している。周溝からは盾持人埴輪や朝顔形埴輪などの埴輪や，愛媛県市場南組窯産などの初期須恵器・土師器高坏・製塩土器などを含む大量の祭祀土器群が出土している。５世紀前半のものである。まわりには４基の地下式横穴墓が発見されている。６号墳（天子ヶ丘古墳）は墳長 43 mの前方後円墳で，後円部に花崗岩質板石を使用した組合せ箱形石棺があった。日光鏡・倣製獣帯鏡各１面が採集され，石棺内から，鉄剣・鉄刀・鏡等の副葬品が出土した。神領古墳群では他に５・６世紀の地下式横穴墓も８基検出されている。１号は，長方形家形の玄室，妻入りの羨道部取り付けで，軽石製箱形石棺内から鉄剣・イモガイ製貝釧・倣製内行花文鏡・骨製簪などの副葬品が出土した。５号からも，イモガイ製貝釧が出土した。６号の玄室内では南側に歯が数本，北側に大腿骨が残存しており，副葬品はなかった。

海岸から離れた所にも高塚古墳は広がり，田原川の東に位置する仮宿台地の縁辺部に立地する原田古墳群には，直径 40 mの円墳が現存する。また，軽石製組み合わせ石棺をもつ地下式横穴墓は，玄室が家形をなし，羨道部の取り付けが妻入りである。石棺内には，女性の人骨が残っており，刀子が副葬されていた。

町内では他に，飯隈台地に飯隈古墳群（円墳９基，地下式横穴墓 21 基）・仮宿台地に田中古墳群（円墳３基）・後迫古墳群・鷲塚地下式横穴墓群・下堀遺跡（地下式横穴墓７基）が知られている。

集落遺跡として，原田古墳群と同じ台地の北側には長田遺跡があり，竪穴住居跡３軒が検出されている。野方の二子塚Ａ遺跡では，竪穴住居跡３軒，土坑１基が検出され，４～５世紀代の在地の成川式土器や，宮崎平野の影響を受けたと考えられる土師器が出土している，沢目遺跡では，古墳時代初頭の竪穴住居跡５軒があり，住居内から成川式土器，土師器が意図的に並べられた状態で出土した。遺物には，布留式土器をまねて作られた土師器等が出土している。岡別府の下堀遺跡では，竪穴住居跡７軒・溝状遺構が，仮宿の荒園遺跡では，笹貫式土器とともに竪穴住居跡が検出され，そのうちの１軒は焼失住居跡である。永吉の高久田Ａ遺跡では１軒，永吉天神段遺跡では４軒の竪穴住居跡が見つかっている。これらに続く永吉台地の西端にある鹿屋市串良町細山田小牧遺跡でも花弁状を呈する竪穴住居跡などが検出されている。また，大崎町の二子塚で採集されたと伝わっている朝鮮半島製の鋳造鉄斧もある。

**古代**

古代の大崎は日向国諸県郡に属し，その南端にあったと思われるが郡境は定かでなく，西端・南端とも不明である。この周辺の古代の考古学的様相も今のところ出土例が少なく定かでない。

古代の遺跡としては，天神段遺跡で掘立柱建物跡・竪穴建物跡・土坑・炉跡・土師器・墨書土器・刻書土器・鍛造剥片が確認されている。永吉天神段遺跡の第１地点では７棟の掘立柱建物跡や墨書土器･刻書土器･須恵器･焼塩土器・鉄製刀子・砥石などが発見されている。

**中世**

中世には各地で山城が造られ，大崎城跡・胡摩ヶ崎城跡・野卸城跡・竜相城跡・金丸城跡・椎谷城跡・遠見ヶ丘などがある。金丸城跡では，溝状遺構・土坑が検出され，青磁・白磁・青花・東播系こね鉢・瓦質土器・備前焼擂鉢・天目碗など 14 世紀半ばから 15 世紀の遺物が出土している。

近年の発掘調査では村落跡も各地で確認されている。天神段遺跡では，多くの掘立柱建物跡・溝状遺構・土坑墓が検出され，中でも土坑墓１号からは，同安窯系青磁６点・青磁１点・青白磁１点・銅鏡１点・滑石製石鍋２点・鉄製品・木製品・土師器などの豊富な副葬品が出土している。下堀遺跡では，溝状遺構・畝跡とともに，青磁・青花・中国陶器などが発見されている。荒園遺跡では，掘立柱建物跡や土坑・溝などが検出され，土師器・東播系須恵器などとともに華南三彩も出土している。永吉天神段遺跡でも，湖州六花鏡･白磁碗･羽釜のミニチュア土器や土師器皿･坏の副葬された土坑墓等が検出され，青磁･白磁・陶器壺などの輸入陶磁器や，東播系こね鉢・常滑焼・備前焼などの国内産陶器，楠葉型瓦器？，滑石製石鍋，茶臼など多くの遺物が出土している。

**近世**

井俣の金丸城跡は，中世から近世にかけての遺跡だが，17 世紀前半を主体とする陶磁器が多く出土している。多くの柱穴とともに，掘立柱建物跡７棟や水溜土坑（大型６基・小型２基），炉跡 16 基，溝状遺構，墓などが検出されている。炉跡はいずれも意図的に壊され，炉周辺に炉壁を構成していたと思われる軽石や熱変粘土片が集中している場所も確認された。周辺で椀形鉄滓が出土していることから，この炉については鉄生産に関連する可能性も考えられる。肥前染付・瓦器・中国製陶磁器・龍門司窯および苗代川窯産の薩摩焼・鉄製品・鉄滓など多くの遺物も出土している。野方の天神段遺跡では，安永ボラ（1779 年）を埋土とする畠畝状遺構や薩摩焼などが発見されている。持留の京の塚遺跡では近代まで続く溝状遺構や古道が検出されている。永吉天神段遺跡でも薩摩焼や肥前系染付などが出土し，道跡や寛永通宝を副葬した墓坑５基が検出されている。

**（参考・引用文献）**


大崎町教育委員会

2001「立山Ｂ遺跡」大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(3)

2005「金丸城跡」大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)

2005「下堀遺跡・大崎細山田段遺跡」大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(5)

2006「美堂Ａ遺跡」大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)

2014「麦田下遺跡」大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(7)

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2010「加治木堀遺跡・宮ノ本遺跡・椿山遺跡・柿木段遺跡・野方前段遺跡Ａ地点」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(154)

2012「宮ヶ原遺跡･野方前段遺跡Ｂ地点･柿木段遺跡２」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(173)

鹿児島県教育委員会　(公財)埋蔵文化財調査センター

2015「天神段遺跡１」公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(3)

2016「永吉天神段遺跡　第１地点」公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(8)

2017「永吉天神段遺跡　第２地点（旧石器・縄文時代編）」公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(13)

2017「荒園遺跡」公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(12)

橋本達也

2010「古墳築造南限域の前方後円墳―鹿児島県神領 10 号墳の発掘調査とその意義」『考古学雑誌』第 94 巻第３号




第２図　周辺遺跡位置図(1:25,000)

## 第１表　周辺遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡台帳番号 | | 遺跡名 | 所　在　地 | 地形 | 種類 | 時　代 | 遺物等 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 468 | 116 | 佐土原 | 曽於郡大崎町野方<br>佐土原 | 台地 | 散布地 | 縄文，古墳 | 土器 | 平成 12 年：農政分布調査 |
| 2 | 468 | 115 | 大久保Ｂ | 曽於郡大崎町持留<br>大久保 | 台地 | 散布地 | 縄文 | 土器 | 平成 12 年：農政分布調査 |
| 3 | 468 | 3 | 大久保Ａ | 曽於郡大崎町持留<br>大久保 | 台地 | 散布地 | 縄文(後) | 指宿式・市来式土器，打製石斧 | |
| 4 | 468 | 99 | 赤野原 | 曽於郡大崎町持留<br>赤野原 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | 土器 | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 5 | 468 | 2 | 川上神社 | 曽於郡大崎町持留<br>中持留 | 扇状地 | 散布地 | 縄文(後) | 指宿式・市来式土器 | |
| 6 | 468 | 67 | 持留牧 | 曽於郡大崎町持留牧，<br>東尾ノ花 | 台地 | 散布地 | 縄文，古墳 | 磨製石斧片，成川式土器 | 平成 9 年：農政分布調査 |
| 7 | 468 | 135 | 西ノ上 | 曽於郡大崎町永吉<br>西ノ上 | 台地 | 散布地 | 弥生 | | 平成 18 年 7 月：NTT ドコモ九州の電話基地局建設に伴う分布調査 |
| 8 | 468 | 100 | 栫木段 | 曽於郡大崎町永吉<br>栫木段 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | 土器 | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 9 | 468 | 101 | 永迫 | 曽於郡大崎町永吉永迫 | 台地 | 散布地 | 縄文，<br>弥生，古墳 | 土器 | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 10 | 468 | 127 | 高久田Ｂ | 曽於郡大崎町永吉<br>高久田 | 沖積地 | 散布地 | 弥生(前・末)，<br>古墳 | 弥生終末～古墳住居跡 | 平成 18 年：農政分布調査<br>平成 21 年：県営農総事業に伴い発掘調査 |
| 11 | 468 | 97 | 坂本原 | 曽於郡大崎町岡別府<br>坂本原 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 12 | 468 | 96 | 五鳴 | 曽於郡大崎町岡別府<br>五鳴 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 13 | 468 | 98 | 早馬 | 曽於郡大崎町岡別府<br>早馬 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 14 | 468 | 128 | 小柳 | 曽於郡大崎町岡別府<br>小柳 | 沖積地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 18 年：農政分布調査 |
| 15 | 468 | 137 | 麦田下 | 曽於郡大崎町岡別府<br>麦田下 | 台地 | | 弥生(後)，<br>古墳，古代 | 土器溜まり，高付式・西南四国系・瀬戸内系土器，勾玉，砥石，成川式土器，墨書土器 | 大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(7) |
| 16 | 468 | 129 | 宮田 | 曽於郡大崎町岡別府<br>宮田 | 沖積地 | 散布地 | 弥生，古墳 | 弥生土器 | 平成 18 年：確認調査 |
| 17 | 468 | 130 | 高久田Ａ | 曽於郡大崎町高久田・<br>尾ノ迫 | 台地 | 集落 | 縄文(晩)，<br>弥生(前～終末)，<br>古墳，古代～近代 | 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構，入佐式・黒川式・刻目突帯文，山ノ口式，中津野式，東原式土器，磨製石鏃・石錐・ガラス玉，青磁・古銭 | 大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(8) |
| 18 | 468 | 102 | 船迫 | 曽於郡大崎町永吉船迫 | 台地 | 散布地 | 縄文，弥生，<br>古墳 | | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 19 | 468 | 103 | 下原 | 曽於郡大崎町持留下原 | 台地 | 散布地 | 縄文(後)，<br>弥生，古墳 | 指宿式土器・市来式土器・弥生土器・土師器・磨製石斧 | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 20 | 468 | 134 | 椎木段 | 曽於郡大崎町永吉<br>椎木段 | 台地 | 散布地 | 縄文，古墳，<br>中世 | 成川式土器・磨製石斧 | 平成 18 年：分布調査 |
| 21 | 468 | 104 | 永吉天神段<br>(本報告書) | 曽於郡大崎町永吉天神 | 河岸段丘・台地 | 集落<br>墓域 | 旧石器，縄文，<br>弥生，古墳，<br>古代，中世・近世 | 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑墓・集石，ナイフ形石器・尖頭器・縄文土器・弥生土器・成川式土器・土師器・銅鏡・古銭 | 平成 24～27 年度　発掘調査<br>平成 27 年度　第 1 地点埋文調査センター報告書(8) |
| 22 | 468 | 53 | 下堀 | 曽於郡大崎町岡別府<br>下堀 | 台地 | 集落<br>地下式<br>横穴墓 | 縄文(早・後)，<br>弥生(中)，古墳，古代，中世 | 集石遺構，大型住居跡，土坑を伴う掘立柱建物跡，地下式横穴墓等，縄文土器・山ノ口式土器・成川式土器 | 平成 13～15 年　大隅グリーンロード建設に伴う発掘調査<br>平成 17 年度　大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書(5) |
| 23 | 468 | 90 | 干浅 | 曽於郡大崎町井俣浅瀬 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 11 年度：農政分布調査 |
| 24 | 468 | 30 | 金丸城跡 | 曽於郡大崎町井俣<br>小牧・金丸 | 台地・<br>沖積地 | 城館跡 | 縄文(早)，古墳，古代，中世，近世 | 掘立柱建物跡・土坑・溝，石坂式土器・石鏃・凹石・土師器・須恵器・青磁・白磁・青花・備前焼・砥石・硯・鉄製品等 | 救仁郷氏築城と言われているが，調査でも不明<br>平成 11・12 年　大隅グリーンロード建設に伴う発掘調査<br>平成 17 年度　大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書（4） |
| 25 | 468 | 86 | 井俣牧 | 曽於郡大崎町井俣<br>井俣牧 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 11 年：農政分布調査 |

| 番号 | 遺跡台帳番号 | | 遺跡名 | 所　在　地 | 地形 | 種類 | 時　代 | 遺物等 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | 468 | 122 | 井俣和田 | 大崎町井俣和田 | 沖積地 | 散布地 | 古墳 | 成川式土器 | 平成 18 年：確認調査 |
| 27 | 468 | 88 | 宮脇 | 大崎町井俣宮脇 | 台地 | 散布地 | 旧石器，縄文(早) | 集石，加栗山式・下剥峯式・桑ノ丸式・押型文・平栫式・塞ノ神式土器，石核・石鏃・磨石 | 平成 27・28 年：発掘調査 |
| 28 | 468 | 89 | 堂園堀 | 大崎町井俣堂園堀 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 11 年：農政分布調査<br>平成 23 年：確認調査 |
| 29 | 468 | 87 | 坂上 | 大崎町井俣坂上 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 30 | 468 | 95 | 荒園 | 大崎町仮宿荒園 | 台地 | 散布地 | 旧石器，縄文(早)，弥生(中)，古墳，中世，近世 | 竪穴住居跡・溝状遺構，細石刃核・細石刃・集石，前平式・平栫式・塞ノ神式土器，山ノ口式土器，成川式土器，東播系須恵器，備前焼 | 平成 24～26 年　東九州自動車道建設に伴う発掘調査 |
| 31 | 468 | 49 | 美堂 A | 曽於郡大崎町仮宿美堂 | 台地 | 散布地 | 古墳，中世，近世 | 古道・土坑，成川式土器・土師器・青白磁・備前焼・常滑焼 | 平成 14 年　県営農免農道整備事業に伴う発掘調査<br>大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書（6） |
| 32 | 468 | 50 | 美堂 B | 曽於郡大崎町仮宿胡摩 | 台地 | 散布地 | 古墳 | | 平成 7 年：農政分布調査 |
| 33 | 468 | 34 | 大崎城跡 | 曽於郡大崎町仮宿城内ほか | 台地 | 城館跡 | 中世(室町)，近世 | | |
| 34 | 468 | 33 | 胡摩ヶ崎城跡 | 曽於郡大崎町仮宿古城 | 台地 | 城館跡 | 中世(室町) | | 楡井氏の城 |
| 35 | 468 | 51 | 小園 | 曽於郡大崎町仮宿小園 | 沖積地 | 散布地 | 古墳 | | 平成 14 年：確認調査 |
| 36 | 468 | 29 | 野卸城跡 | 曽於郡大崎町永吉前岡・深坂 | 台地 | 城館跡 | 古代，中世 | | 平安時代末築城（1190 年）<br>シラス採取で半壊 |
| 37 | 468 | 106 | 外園 | 曽於郡大崎町永吉外園 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 38 | 468 | 126 | 牧谷・白山 | 曽於郡大崎町永吉牧谷・白山 | 沖積地 | 散布地 | 中世 | 野卸城の堀の可能性有り | 平成 17 年：農政分布調査 |
| 39 | 468 | 105 | 大迫 | 曽於郡大崎町永吉大迫 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 11 年：農政分布調査 |
| 40 | 468 | 17 | 高井田 | 曽於郡大崎町井俣高井田（飛地） | 台地 | 散布地 | 弥生(中) | 土器 | 平成 17 年：農政分布調査 |
| 41 | 221 | 449 | 五色 | 志布志市有明町野神字五色，風穴 | 台地 | 散布地 | 古墳 | | 平成 10 年度：農政分布調査 |
| 42 | 221 | 450 | 西ノ堀 | 志布志市有明町原田字西ノ堀，下五敷 | 台地 | 散布地 | 古墳 | | 平成 10 年度：農政分布調査 |
| 43 | 221 | 407 | 坂ノ上 | 志布志市有明町原田字坂ノ上，前田，西原 | 台地 | 散布地 | 弥生，古墳 | | 平成 11 年度：農政分布調査<br>旧遺跡名：坂ノ下 |
| 44 | 221 | 352 | 清水 | 志布志市有明町原田字清水 | 台地 | 散布地 | 弥生(中) | 磨製石斧・打製石斧 | 昭和 58 年度：大隅地区埋蔵文化財分布調査　旧遺跡名：平田，原田，元宮の下，永田 |
| 45 | 221 | 439 | 東中原 | 志布志市有明町原田字東中原，大塚，藤原，中須 | 台地 | 散布地 | 古墳 | | 平成 10 年度　農政分布調査<br>旧遺跡名：中須 |
| 46 | 221 | 504 | 大塚 | 志布志市有明町原田字大塚，出口，有本，竹塚 | 台地 | 散布地 | 縄文，古墳 | | 平成 8・10 年度：農政分布調査 |
| 47 | 221 | 386 | 原田古墳群 | 志布志市有明町原田字大塚，竹塚 | 台地 | 円墳・地下式横穴墓 | 古墳 | 原田古墳（円墳直径 40m 高さ 5.6m 石棺露出）大塚 A 古墳（円墳直径 20m 高さ 4.5m 石棺露出長さ 1.3m 高さ 1.2m）大塚 B 古墳（円墳直径 10m 高さ 1.3m）坂ノ上 1･2 号古墳（小円墳）・地下式横穴墓（妻入型・軽石石棺・鉇・人骨（成人女性）・刀子） | 昭和 58 年度　大隅地区埋蔵文化財分布調査<br>旧遺跡名：大塚殿，大塚古墳群，大塚 A 古墳・大塚 B 古墳，坂ノ上 1 号古墳，坂ノ上 2 号古墳・大塚<br>平成 26 年　鹿児島国際大学発掘調査 |
| 48 | 221 | 366 | 長田 | 志布志市有明町原田長田，牧，春日免 | 台地 | 散布地 | 縄文，弥生(中)，古墳，中世 | 竪穴住居跡（弥生 4･古墳 3）・土坑墓（中世）・掘立柱建物跡（弥生 3・古墳 4・中世 4），山ノ口式土器，成川式土器，白磁，竪穴住居跡（弥生・古墳） | 平成 11 年度　発掘調査<br>平成 15 年　有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（2） |
| 49 | 482 | 9 | 上市ノ園古墳群 | 肝属郡東串良町岩弘 | 台地 | 古墳 | 古墳 | 古墳群 1～5 号 | |

## 第３節　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡

東九州自動車道の志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間には，第２表に示すとおり 23 か所の遺跡が存在する。ここでは調査済み及び調査中の遺跡の概要を記載する。詳細については各報告書等を参照していただきたい。

### 第２表　志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間の遺跡

| 番号 | 遺跡名 | 所在地・立地 | 調査 | 整理・報告書 | 遺跡の概要 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 時代 | 主な遺構 | 主な遺物 |
| 1 | 見帰 | 志布志市志布志町志布志<br>台地上<br>標高約 70 m | H 25 年度<br>H 28 年度<br>終了<br><br>※H 25 年度は埋文センター調査 | 作業中 | 旧石器 | — | 細石刃，ナイフ形石器，ハンマーストーン |
| | | | | | 縄文早期 | 土坑 | 押型文，石坂式・下剥峯式，石鏃，磨石，石皿 |
| | | | | | 縄文前・中期 | 落とし穴，土坑 | — |
| | | | | | 縄文後・晩期 | 溝状遺構 | 磨消縄文・丸尾式・西平式・中岳Ⅱ式，磨石，敲石 |
| | | 縄文時代を中心とした遺跡である。旧石器時代は細石刃並びにナイフ形石器文化期に比定される。縄文時代早期は，土器に比べ石器の出土が極めて少ない。前～中期の落とし穴は２基で，底部に杭跡は確認できなかったが全体形状から想定した。 | | | | | |
| 2 | 宮ノ上 | 志布志市志布志町安楽<br>台地上<br>標高約 45 m | 県教委文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |
| 3 | 安良 | 志布志市志布志町安楽<br>台地上<br>標高約 30 m | H 28 年度<br>H 29 年度<br>調査中 | 作業中 | 縄文早・後期 | | 納曽式，西平式 |
| | | | | | 弥生中期 | | 山ノ口式，須玖式 |
| | | | | | 古墳時代 | 溝状遺構 | 笹貫式，須恵器 |
| | | | | | 古代 | | 土師器，須恵器 |
| | | | | | 中世 | 掘立柱建物跡，土坑，ピット他 | 青白磁，滑石製石鍋，土師皿 |
| | | これまでのところ，古墳時代後半期と中世の複合遺跡であることが判明。調査区内における両時期の集落構造把握等に向けて調査中である，さらに古い時期の包含層も確認されている。 | | | | | |
| 4 | 小牧古墳群 | 志布志市志布志町安楽<br>台地上<br>標高約 50 m | H 27 年度<br>H 28 年度<br>終了 | 作業中 | 旧石器 | — | 細石刃核，細石刃，ナイフ形石器 |
| | | | | | 縄文草創期 | 集石 | 黒曜石剥片，土器片，磨石，敲石，石皿 |
| | | | | | 縄文早期 | 集石 | 吉田式・妙見・天道ヶ尾式・塞ノ神Ａ式，塞ノ神Ｂ式，苦浜式，耳栓，石鏃，磨石，異形石器 |
| | | | | | 弥生 | — | 弥生土器，石包丁 |
| | | 起伏のある地形に立地し，縄文時代早期を中心に旧石器時代，縄文草創期も出土した。塞ノ神式土器の壺形土器や，耳栓，異形石器，円盤状石器等が特筆される。 | | | | | |
| 5 | 次五 | 志布志市有明町野井倉<br>台地縁辺部標高約 50 m | H 27 年度<br>終了 | H 27 年度<br>終了 | 旧石器 | — | 畦原型細石刃核，細石刃，剥片 |
| | | | | | 縄文早期 | 落とし穴，連穴土坑，土坑，集石，磨石集積遺構 | 前平式・加栗山式・吉田式・札ノ元Ⅶ類，石坂式・中原Ⅴ式・下剥峯式・桑ノ丸式・押型文・手向山式・塞ノ神Ｂ式，打製・磨製石鏃，石錘，局部磨製石斧 |
| | | 旧石器時代から縄文時代早期を中心とする遺跡。旧石器時代は，細石刃文化期の遺物が出土している。縄文時代早期は，前葉に該当する遺構や遺物を多く発見した。既知の当該期遺跡と同様，被熱破砕礫が多量に出土した。 | | | | | |
| 6 | 大代 | 志布志市有明町野井倉<br>台地縁辺部<br>標高約 40 m | 県教委文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |
| 7 | 木森 | 志布志市有明町野井倉<br>河岸段丘<br>標高約 30 m | H 26 年度<br>調査中 | 作業中 | 縄文早期 | 集石 | 前平式・加栗山式・吉田式・下剥峯式・押型文石鏃，石匙，磨石・敲石 |
| | | | | | 中世 | 掘立柱建物跡 | 須恵器，土師器，青磁，白磁，滑石製石鍋片，鉄製品，鉄滓 |
| | | 縄文時代早期と中世を中心とする遺跡。遺構では縄文時代早期の集石，中世の掘立柱建物跡等が発見され，遺物では縄文時代早期の土器，石器，石匙，磨石・敲石の他，須恵器，土師器，青磁，白磁，滑石製石鍋片，鉄製品等が出土している。 | | | | | |
| 8 | 春日堀 | 志布志市有明町蓬原<br>河岸段丘<br>標高約 30 m | H 26 年度<br>H 27 年度<br>H 28 年度<br>調査中 | 作業中 | 縄文早期 | 竪穴住居跡，連穴土坑，集石，土坑，土器集中，炭化物集中，落とし穴 | 前平式・加栗山式・石坂式・下剥峯式・桑ノ丸式・押型文・手向山式・塞ノ神式，打製石鏃，打製・環状石斧，トロトロ石器，磨石，台石，石皿，砥石，穿孔円礫 |
| | | | | | 弥生 | 竪穴住居跡 | 山ノ口式 |
| | | | | | 古墳 | 溝状遺構，竪穴住居跡，土坑，棒状礫集積遺構 | 甕(笹貫式，東原式)，壺，坩，高坏，須恵器高坏，棒状礫，磨製石鏃片 |
| | | | | | 古代～中世 | 焼土跡，竪穴建物跡，土坑墓，掘立柱建物跡，柵列 | 土師器(坏，甕，椀) |
| | | | | | 近世 | 古道，溝状遺構，土坑，遺物集中 | 陶器，磁器 |
| | | 縄文早期から中世を中心とする遺跡。遺構では縄文時代早期の竪穴住居跡，連穴土坑，集石，落とし穴，弥生時代の竪穴住居跡，古代～中世の掘立柱建物跡が検出され，遺物では縄文時代早期の土器，打製石斧，環状石斧，トロトロ石器等をはじめ，弥生時代から中近世の遺物が出土している。また鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象の痕跡も確認されている。 | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 稲荷堀 | 曽於郡大崎町<br>菱田<br>台地上<br>標高約 50 m | 県教委文化財課の試掘調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |
| 10 | 平良上C | 曽於郡大崎町<br>井俣<br>台地上<br>標高約 40 m | H 26 年度<br>H 27 年度<br>終了 | H 28 年度<br>終了 | 縄文早期 | 竪穴住居跡，連穴土坑，集石，埋設土器，チップ集中 | 吉田式・石坂式・下剥峯式・押型文・平栫式，石鏃，石匙，打製・磨製石斧，扁平打製石斧，磨石，石皿，礫石器，石核，フレーク，チップ |
| | | 縄文時代早期を中心とする遺跡。遺構では竪穴住居跡，連穴土坑，集石，土坑が検出されている。遺物では，縄文時代早期の土器，石鏃，石匙，打製石斧，磨製石斧等が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象の痕跡も確認されている。 | | | | | |
| 11 | 宮脇 | 曽於郡大崎町<br>井俣<br>台地上<br>標高約 40 m | H 27 年度<br>調査中 | — | 旧石器 | — | 石核，円礫，フレーク，チップ |
| | | | | | 縄文早期 | 集石，土坑，土器集中 | 加栗山式・小牧３A・下剥峯式・桑ノ丸式・押型文・平栫式・塞ノ神式，打製石鏃，磨石，チップ |
| | | | | | 近　世 | — | 土瓶（薩摩焼），寛永通宝 |
| | | 旧石器時代・縄文時代早期を中心とする遺跡。旧石器時代では，石器製作に関連すると考えられる石核，フレーク，チップ等が出土している。縄文時代早期では，集石，土坑，土器集中，ピットと土器，石器等が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象の痕跡も確認されている。 | | | | | |
| 12 | 堂園堀 | 曽於郡大崎町<br>井俣<br>台地上<br>標高約 45 m | 県教委文化財課の試掘調査及び埋文センターの確認調査により，本路線上には遺構・遺物がないことが確認されたため，本調査を実施せず。 | | | | |
| 13 | 荒園 | 曽於郡大崎町<br>仮宿<br>台地縁辺部<br>標高約 50 m | H 24 年度<br>H 25 年度<br>H 26 年度<br>調査中<br><br>※H 24 年度は埋文センター調査 | H 28 年度<br>（第１地点）<br>作業中 | 旧石器 | — | 畦原型細石核・細石刃・水晶剥片 |
| | | | | | 縄文早期 | 素材剥片（頁岩）遺構，集石，チップ，剥片集中区，土坑 | 前平式・吉田式・加栗山式・下剥峯式・押型文・手向山式・平栫式・塞ノ神式・苦浜式・条痕文，壺形土器，石鏃，スクレイパー，石匙，耳栓，打製・磨製石斧，磨石，石皿，フレーク，チップ |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴住居跡，土坑 | 吉ヶ崎式・山ノ口式，磨製石鏃未製品，砥石 |
| | | | | | 古　墳 | 竪穴住居跡 | 東原式・笹貫式，須恵器，砥石 |
| | | | | | 古代以前 | 片薬研堀 | — |
| | | | | | 中　世 | 掘立柱建物跡，土坑，溝状遺構，帯状硬化面 | 土師器，東播系須恵器，陶器，青磁，華南三彩 |
| | | | | | 近世以降 | 帯状硬化面 | 薩摩焼 |
| | | 縄文時代早期から古墳時代を中心とする遺跡。遺構は，縄文時代早期の集石，弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡，古代以前の片薬研堀，中世の掘立柱建物跡等が検出され，遺物は縄文時代早期の土器，石器，弥生時代・古墳時代の土器，土師器，陶器，磁器等が出土している。また，鬼界カルデラ噴火に伴う液状化現象の痕跡も確認されている。 | | | | | |
| 14 | 永吉天神段 | 曽於郡大崎町<br>永吉<br>台地縁辺及び河岸段丘<br>標高 30～50 m | H 24 年度<br>H 25 年度<br>H 26 年度<br>H 27 年度<br>終了<br><br>※H 24 年度は埋文センター調査 | H 27 年度<br>（第１地点）<br>H 28 年度<br>（第２地点１）<br>作業中 | 旧石器 | ブロック，礫群 | 尖頭器，ナイフ形石器，台形石器，剥片 |
| | | | | | 縄文早期 | 集石，土器埋設遺構 | 前平式・吉田式・加栗山式・手向山式・下剥峯式・押型文・平栫式・塞ノ神式・苦浜式・条痕文，石鏃，石匙，石斧，磨石，敲石，石皿，フレーク，チップ |
| | | | | | 縄文前期 | — | 曽畑式 |
| | | | | | 縄文後期 | — | 岩崎上層式・北久根山式，中岳Ⅱ式 |
| | | | | | 縄文晩期 | 竪穴住居跡，落とし穴，土坑 | 入佐式・黒川式・刻目突帯文，管玉，打製石斧 |
| | | | | | 弥　生 | 竪穴住居跡，円形周溝墓，土坑墓群，掘立柱建物跡，土坑 | 入来式・山ノ口式・黒髪式，鉄鏃，磨製石鏃，管玉 |
| | | | | | 古　墳 | 竪穴住居跡，土坑 | 成川式，須恵器 |
| | | | | | 古　代 | 掘立柱建物跡，土坑 | 須恵器，土師器 |
| | | | | | 中　世 | 掘立柱建物跡，土坑墓，地下式坑，火葬土坑，土坑 | 白磁，青磁，土師器，瓦質土器，東播系須恵器，備前焼，常滑焼，湖州六花鏡，砥石，石塔，古銭 |
| | | | | | 近　世 | 近世墓 | 薩摩焼，染付，寛永通宝，石臼 |
| | | 旧石器時代から近世までの遺跡。弥生時代中期の円形周溝墓を頂点とする土坑墓群から，国内では最古級となる鉄鏃が出土した。中世では白磁，青磁，瓦質土器，東播系須恵器等が多量に出土した。また，地下式坑と呼ばれる中～近世の大型土坑も発見された。 | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 京の塚 | 曽於郡大崎町<br>西持留<br>台地上<br>標高約 95 m | H 25 年度<br>H 26 年度<br>H 27 年度<br>終了 | 作業中 | 縄文早期 | 集石 | 石坂式・下剥峯式・中原式・押型文・塞ノ神式，打製石鏃，石核 |
| | | | | | 縄文前期～<br>中期初頭 | 土坑，土器集中 | 曽畑式・深浦式・大歳山式・鷹島式・船元式，打製石鏃，石匙，石錐，スクレイパー，二次加工剥片，磨石，敲石，石皿，石核，フレーク |
| | | | | | 近世以降 | 溝状遺構・古道 | — |
| | | 縄文時代前期から中期初頭を中心に，縄文時代早期から近世まで含む遺跡。縄文中期では，200 基を超える土坑が検出された他，在地系土器の深浦式土器，近畿地方の大歳山式土器や鷹島式土器，瀬戸内地方の船元式土器などが出土し，当時の遠隔地交流の一端が明らかとなった。 | | | | | |
| 16 | 小牧 | 鹿屋市串良町<br>細山田<br>台地上<br>標高約 60 m | H 27 年度<br>H 28 年度<br>H 29 年度<br>調査中 | 作業中 | 旧 石 器 | — | 細石刃，フレーク，チップ |
| | | | | | 縄文早期 | 竪穴住居跡，連穴土坑，土坑，集石 | 前平式・吉田式・石坂式，下剥峯式・平栫式・条痕文，石匙，磨石，石皿 |
| | | | | | 縄文前期 | — | 曽畑式，深浦式，磨石 |
| | | | | | 縄文後期 | 竪穴住居跡，伏甕，石皿立石遺構，石斧集積遺構，集石，土坑 | 阿高式系・岩崎上層式・指宿式・市来式，石鏃，横刃型石器，打製石斧，磨石，石皿，大珠 |
| | | | | | 縄文晩期 | — | 入佐式・黒川式・刻目突帯文 |
| | | | | | 弥生中期 | — | 入来式，山ノ口式，砥石 |
| | | | | | 古　　墳 | 竪穴住居跡，礫集積，土器溜，土坑 | 東原式・辻堂原式・布留系，須恵器，鉄鏃，鉄製品，敲石，勾玉，軽石加工品 |
| | | | | | 古　　代 | 土坑 | 土師器（甕・坏），須恵器短頸壺 |
| | | | | | 中世以降 | 竪穴建物跡，掘立柱建物跡，溝状遺構，土坑，焼土域 | 土師器（坏），白磁，青磁，石鍋，鞴の羽口 |
| | | 旧石器時代から中世までの遺跡。縄文時代早期前半から中葉の集落，後期の石皿遺構を伴う環状構造の集落とこれらに伴う遺物が特筆される。この他，古墳時代の花弁形住居跡を伴う集落や中世の掘立柱建物跡群も発見されている。周辺の遺跡を含めて串良川沿岸における人間活動の変遷を継続的に追うことができる遺跡である。 | | | | | |
| 17 | 川久保 | 鹿屋市串良町<br>細山田<br>河岸段丘<br>標高 30～50 m | H 26 年度<br>H 27 年度<br>H 28 年度<br>H 29 年度<br>調査中 | 作業中 | 旧 石 器 | 礫群 | 畝原型細石核，ナイフ形石器，剥片尖頭器 |
| | | | | | 縄文早期 | 集石，土坑 | 前平式・加栗山式・吉田式・倉園Ｂ式・石坂式・下剥峯式・押型文・塞ノ神式，石鏃，打製石斧，石皿 |
| | | | | | 縄文前期 | 集石 | 轟式・曽畑式，磨製石斧 |
| | | | | | 縄文晩期 | 集石 | 黒川式・刻目突帯文 |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴建物跡 | 高橋式・下城式・山ノ口式 |
| | | | | | 古　　墳 | 竪穴住居跡，鍛冶関連建物跡，竪穴状遺構，古道跡 | 笹貫式，鞴羽口，高坏脚転用鞴羽口，鉄鏃，鉄滓，勾玉，管玉 |
| | | | | | 古　　代 | 掘立柱建物跡 | 須恵器，土師器 |
| | | | | | 中　　世 | 掘立柱建物跡，古道跡，溝状遺構 | 青磁，白磁，瓦器椀 |
| | | 旧石器時代から中世までの遺跡。特に古墳時代では，集落を構成する多数の竪穴建物跡や鍛冶関連遺構を伴う遺構が多数発見されているほか，専用の鞴の羽口も出土している。古墳時代の鉄製品の生産過程を明らかにする良好な資料である。 | | | | | |
| 18 | 町田堀 | 鹿屋市串良町<br>細山田<br>台地縁辺部<br>標高約 90 m | H 25 年度<br>H 26 年度<br>H 27 年度<br>H 28 年度<br>調査中 | H 27 年度<br>(1)<br>作業中 | 縄文早期 | 集石 | 下剥峯式・平栫式 |
| | | | | | 縄文後期 | 竪穴住居跡，埋設土器，落とし穴，土坑，石斧集積遺構 | 中岳Ⅱ式，石刀，打製・磨製石斧，石鏃，ヒスイ製垂飾，小玉，勾玉，管玉 |
| | | | | | 縄文晩期 | — | 刻目突帯文 |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴住居跡 | 山ノ口式 |
| | | | | | 古　　墳 | 竪穴建物跡，地下式横穴墓，円形周溝墓，溝状遺構 | 成川式（壺・高坏・坩），人骨，鉄剣，鉄鏃，刀子，ヤリ鉋，異形石器 |
| | | | | | 古　　代 | 焼土跡，古道 | 土師器，須恵器 |
| | | 縄文時代早期から古代までの遺跡。古墳時代では地下式横穴墓が 88 基発見され，円形周溝を伴う例も初めて確認されている。立小野堀遺跡や下堀遺跡等と類似性が想定され，高塚墳と共存する志布志湾沿岸部の地下式横穴墓との比較が可能になり，大隅半島の古墳時代像解明に必須の遺跡である。このほか，縄文時代後期の竪穴建物跡から，橿原文を施す完全な石刀が出土している。 | | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 牧山 | 鹿屋市串良町細山田<br>台地縁辺部<br>標高約 110 m | H 25 年度<br>H 26 年度<br>H 27 年度<br>H 28 年度<br>H 29 年度<br>調査中 | H 28 年度<br>（A 地点 1）<br>作業中 | 旧 石 器 | — | 剥片 |
| | | | | | 縄文早期 | 竪穴住居跡，連穴土坑，土坑，集石構，石器製作跡 | 吉田式・石坂式・下剥峯式・辻タイプ・桑ノ丸式・押型文，石鏃，石匙，スクレイパー，磨石，剥片，チップ |
| | | | | | 縄文前期 | 埋設土器（轟式） | 轟式・条痕文 |
| | | | | | 縄文後期 | 土坑，落とし穴状遺構，埋設土器，石器集中部 | 市来式・西平式・丸尾式・太郎迫式・三万田式・中岳Ⅱ式，打製・磨製石斧，磨石，剥片，石核，台石，石冠 |
| | | | | | 縄文晩期 | 土坑 | 入佐式・刻目突帯文 |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴住居跡，掘立柱建物跡，土坑 | 山ノ口式，打製・磨製石斧，磨製・打製石鏃，磨石，敲石，石皿，青銅鑿 |
| | | | | | 中・近世 | 古道跡 | 青磁，白磁，薩摩焼 |
| | | 旧石器時代から中世にかけての遺跡。特に，縄文時代後期の建物跡を構成していた可能性のある柱穴群（300～400 個）が環状に発見されたのが注目される。また，同時期の複数の埋設土器と，石冠も 1 点出土している。 | | | | | |
| 20 | 田原迫ノ上 | 鹿屋市串良町細山田<br>台地縁辺部<br>標高約 120 m | H 22 年度<br>H 23 年度<br>H 24 年度<br>H 25 年度<br>H 26 年度<br>調査中<br><br>※ H 22～24 は埋文センター調査 | H 26 年度<br>(1)<br>H 28 年度<br>(2)<br>作業中 | 縄文早期 | 竪穴住居跡，連穴土坑，集石，落とし穴，土坑，石器制作跡 | 前平式・吉田式・倉園Ｂ式・石坂式・下剥峯式・辻タイプ・桑ノ丸式・中原式・押型文・手向山式・平栫式・塞ノ神式，石槍，石鏃，石匙，磨石，敲石，石皿，打製石斧 |
| | | | | | 縄文後期 | 落とし穴，礫集積 | 指宿式・市来式，石鏃，磨石 |
| | | | | | 縄文晩期 | — | 黒川式 |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴住居跡，大型建物跡，掘立柱建物跡，円形・方形周溝，土坑 | 山ノ口式・中溝式，擬凹線文系壺，土製勾玉，鉄器，磨製石鏃，石匙，砥石，敲石，台石 |
| | | | | | 古墳時代以降 | 溝状遺構，畝状遺構 | 土師器椀，薩摩焼 |
| | | 縄文時代早期から弥生時代中期を中心とした遺跡。弥生時代中期では，ベッド状遺構を伴う方形や円形の大型竪穴住居跡，棟持柱をもつ掘立柱建物跡 2 棟を含む建物跡群，柱穴列や円形・方形の周溝など，大隅半島中央部での当時の集落の様相を知る上で貴重な遺跡である。また，大型建物跡の可能性が高い遺構の一部が現地に保存されたことは特筆される。このほか，縄文時代早期では竪穴住居跡 20 軒，連穴土坑 40 基など，集落を想定させる遺構が多数発見されていることも注目される。 | | | | | |
| 21 | 立小野堀 | 鹿屋市串良町細山田<br>台地縁辺部<br>標高約 125 m | H 22 年度<br>H 23 年度<br>H 24 年度<br>H 26 年度<br>調査中<br><br>※ H 22～24 は埋文センター調査 | H 28 年度<br>(1)<br>作業中 | 縄文前・中期 | — | 深浦式 |
| | | | | | 縄文後期 | — | 指宿式・西平式・市来式 |
| | | | | | 弥生中期 | — | 山ノ口式 |
| | | | | | 古　　墳 | 地下式横穴墓，土坑墓，溝状遺構 | 成川式，須恵器，鉄器（刀・剣・槍・鉾・刀子・鏃等），青銅鈴，人骨 |
| | | | | | 時期不詳 | 溝状遺構 | — |
| | | 縄文時代前期から古墳時代までの遺跡。特筆すべきは，古墳時代の地下式横穴墓が 190 基発見されたことである。玄室内には鉄鏃や鉄剣等の鉄器，青銅製鈴等の副葬品と人骨が多数残っていたほか，墓周辺から多量の土器や須恵器が出土した。青銅製鈴をはじめ，これだけ多種多様な副葬品を伴った地下式横穴墓群の発見は，個別研究のみならず南九州の古墳時代墓制の様相全体を解明していく上で貴重な資料である。 | | | | | |
| 22 | 十三塚 | 鹿屋市串良町細山田<br>台地上<br>標高約 140 m | H 20 年度<br>H 21 年度<br>終了<br><br>※埋文センター調査 | H 22 年度<br>終了 | 縄文早期 | — | 石坂式 |
| | | | | | 縄文後期 | — | 凹線文・市来式・三万田式 |
| | | | | | 縄文晩期 | — | 黒川式 |
| | | | | | 弥生中期 | 竪穴住居跡，掘立柱建物跡，土坑 | 山ノ口式，土製勾玉，打製・磨製石鏃，棒状敲具，鉄鏃 |
| | | | | | 古墳時代 | — | 成川式 |
| | | | | | 中世～近世 | 道路状遺構 | 加治木銭 |
| | | 弥生時代中期を中心とする遺跡。花弁形・方形・円形に分類された竪穴住居跡が発見された。出土遺物等から，王子遺跡（鹿屋市王子町）や前畑遺跡（同市郷之原町）等と同時期の集落跡と考えられている。また，7 号住居跡の埋土内から，松木薗遺跡（南さつま市金峰町）や永吉天神段遺跡（曽於郡大崎町）で出土した鉄鏃と類似する無茎の鉄鏃が出土したほか，別の竪穴住居跡内から集石が発見されている。 | | | | | |
| 23 | 石縊 | 鹿屋市串良町細山田<br>台地上<br>標高約 140 m | H 20 年度<br>H 21 年度<br>終了<br><br>※埋文センター調査 | H 22 年度<br>終了 | 縄文早期 | 集石，土坑 | 岩本式・前平式・志風頭式・石坂式・平栫式・貝殻条痕文・鎌石橋式・轟Ａ式，打製石鏃，磨石，敲石 |
| | | | | | 弥生中期 | — | 山ノ口式，須玖式 |
| | | 縄文時代早期前半から早期末を中心とする遺跡。鎌石橋式土器が 1 個体と轟Ａ式が 2 個体出土し，両型式が同時期に存在した可能性を示唆する遺跡である。 | | | | | |




第３図　東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ）建設に伴って調査された遺跡(1:80,000)

# 第３章　調査の方法と層序

## 第１節　調査の方法

本節では，発掘調査の方法，遺構の認定と検出方法，整理作業・報告書作成作業の方法について記す。

### １　発掘調査の方法

永吉天神段遺跡の発掘調査は，平成 23 年度に確認調査，平成 24～27 年度に本調査を実施した。調査対象表面積は 37,100㎡，調査対象延面積は 87,500㎡である。

本遺跡の調査区割り（グリッド）は，平成 23 年度の確認調査時において工事用基準杭「ＳＴＡ 113」と「ＳＴＡ 105」の延長線を中心に，10 ｍ間隔で西から東に向かって１・２・３…，北から南に向かってＡ・Ｂ・Ｃ…と設定した。

このグリッドを基にして，Ｍ－１区の左下を原点（０，０），縦軸をＸ，横軸をＹとし，遺構・遺物の測量作業を行うこととした。また，トータルステーションで測量作業を行う場合，公共座標に基づき基準点を設定した。

発掘調査は，基本的に重機で表土を除去した後，確認調査の結果に基づき，遺物包含層については人力で掘り下げを行った。無遺物層，火山灰の一次堆積層は，一部重機を用いて慎重に掘り下げた。遺構は，移植ごて等の遺構掘削に適した道具を用いて慎重に調査し，実測，写真撮影等を行い，遺物は，トータルステーションを使用して取り上げを行った。

各年度の発掘調査の方法及び概要（詳細は第１章に掲載）は，以下のとおりである。

**平成 23 年度**

確認調査は，荒園遺跡と同時に実施した。その結果，永吉天神段遺跡の調査延面積は 87,588㎡となった。

平成 23 年７月１日から９月 28 日までの約３か月間，調査対象地域にグリッドに沿ってトレンチを 31 か所設定し，調査区全体の包含層の有無について調査した。トレンチの形状は１×８ｍの長方形を基本とし，必要に応じて拡張した。表面を覆う雑草の除去・雑木の伐採を人力で行った後，重機及び人力により徐々に包含層を掘り下げた。遺物・遺構を発見した場合には，重機による掘り下げを即時中止し，山鍬・鋤簾等による人力掘削で遺構・遺物の検出を行った。検出した遺構については，写真撮影，実測を行った。出土遺物はトータルステーションで取り上げた後，掘り下げを続けた。いくつかのトレンチでは，遺構に影響のない部分について，安全対策を施しながら下層確認トレンチを設定し，Ⅺ層（シラス）上面まで調査を実施した。しかしながらⅦ層（薩摩火山灰）より下位の旧石器時代相当層については，上層の包含層が厚く十分な調査面積を確保することができなかったため，本調査にて範囲を確定させることとなった。

**平成 24 年度**

隣接する第１地点と並行して調査を実施した。調査期間は平成 24 年７月２日～平成 25 年１月 28 日で，調査延面積は第１地点が 2,262㎡・第２地点が 4,449㎡であった。第１地点の調査区は本遺跡の東側に位置しており，標高約 35 ｍに位置するＥ～Ｉ－57～62 区の河岸段丘の平坦面であった。Ⅱａ～Ⅴａ層上面まで調査を実施した。Ｆ～Ｈ－57～59 区にトレンチを６本設定し，約 40㎡で縄文時代早期の下層確認調査を行い，調査終了後，埋め戻しを行った。

調査は重機で表土を除去した後，基本的には山鍬・鋤簾等による人力にて掘り下げを行った。地形測量は，縄文時代晩期が主体になると想定していたため，当初Ⅳ層上面で行う予定であったが，古代の遺構・遺物が全域で確認されたため，Ⅲ層上面での測量を追加した。また，鬼界カルデラの噴火に伴う液状化現象（噴砂）を確認したトレンチでは，該当層の断面も記録した。

遺物が発見された場合は，小片はグリッド毎に一括して取り上げ，詳細が観察できる遺物は，必要に応じて写真撮影を実施した後にトータルステーションを用いて取り上げを行った。一括性が高いと判断した遺物及び遺構に関係すると想定した遺物については，縮尺１／５～１／10 で実測を行った。

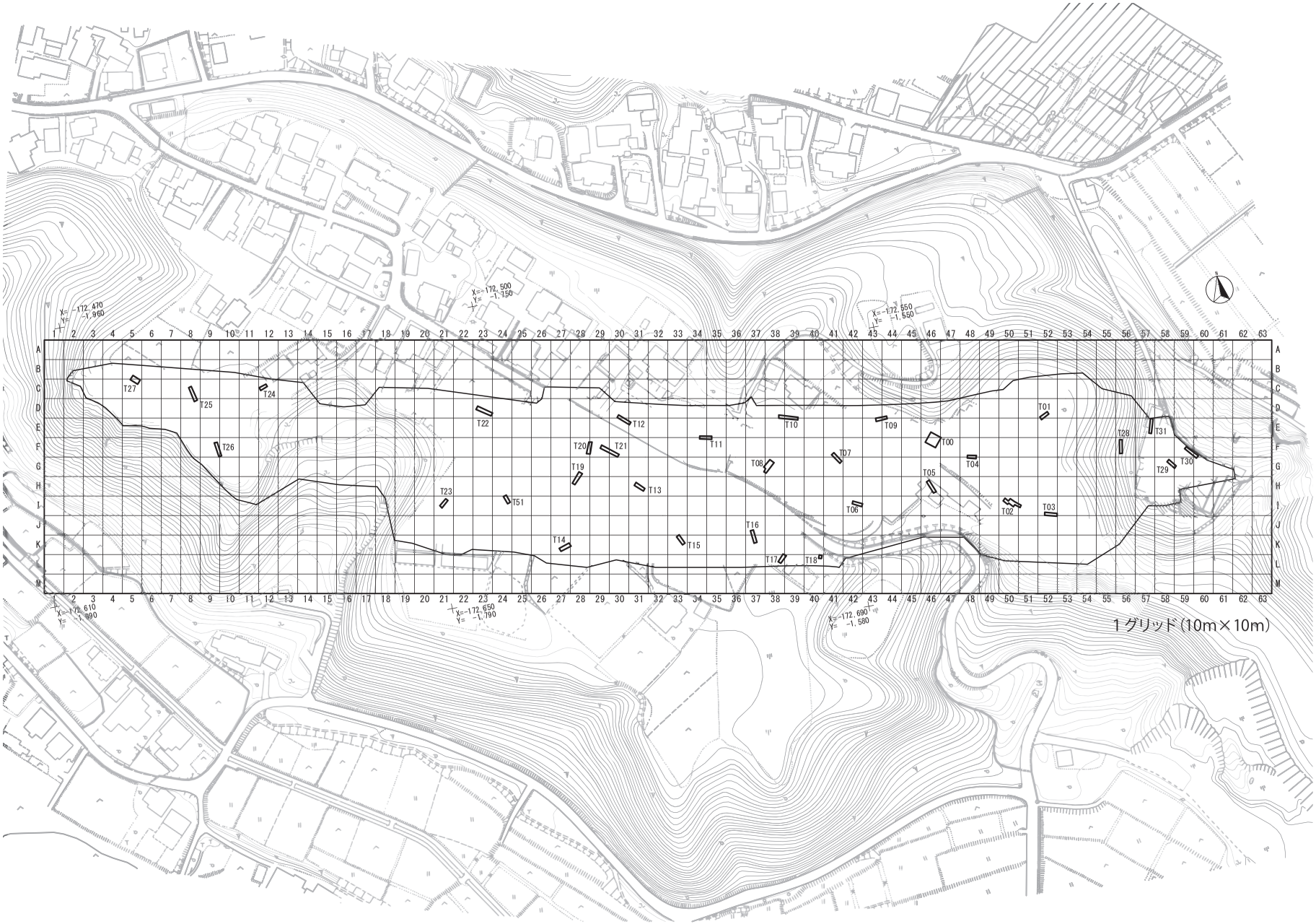
なお，遺構実測や遺物取り上げは，調査担当者の指揮・監督の下，発掘調査支援業務委託業者（株）パスコの測量士及び調査支援員と発掘作業員で実施した。

**平成 25 年度**

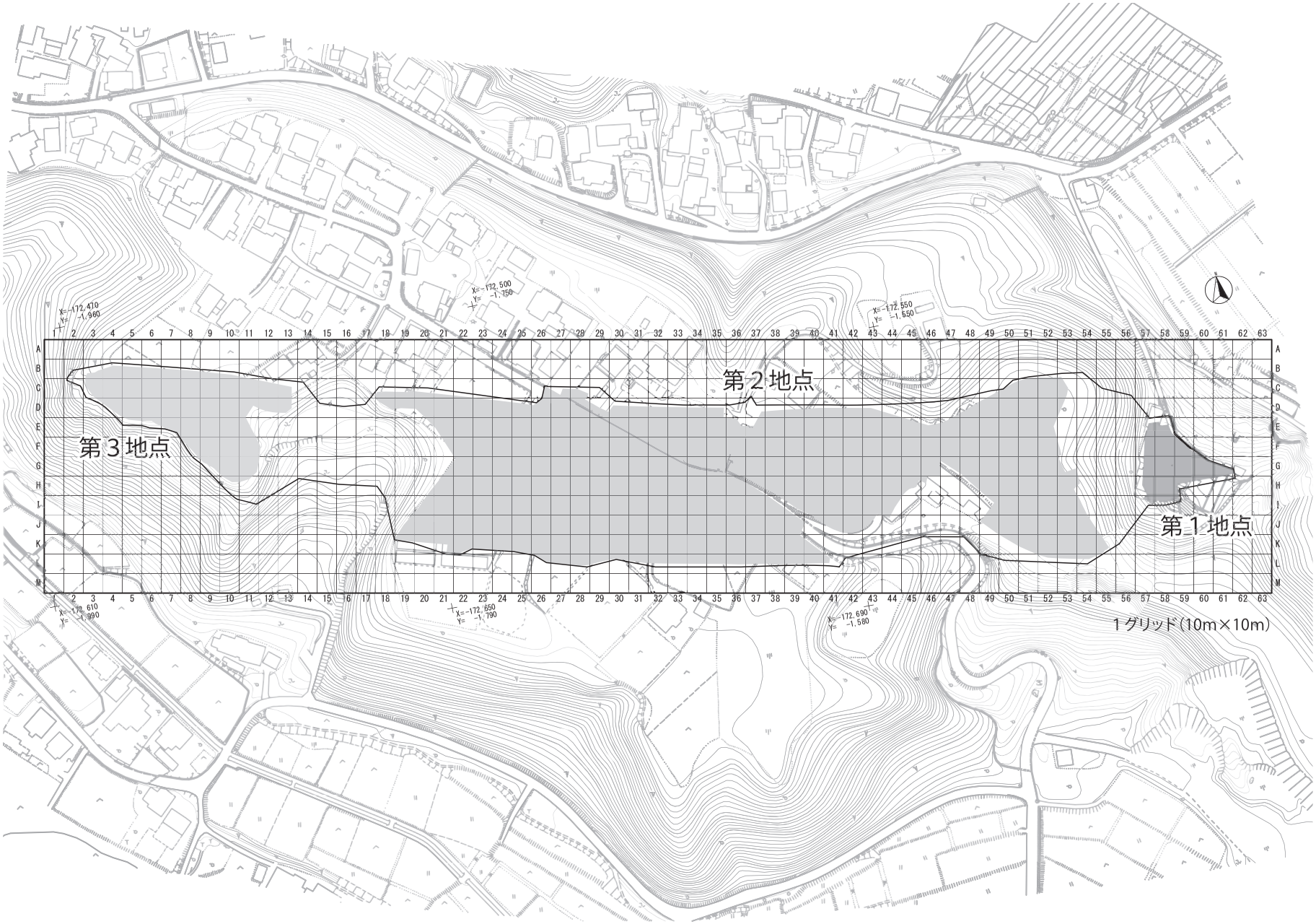
調査期間は平成 25 年６月 13 日～平成 26 年１月 28 日で，調査延面積は約 26,291㎡であった。第２地点の調査区は，標高約 50 ｍでシラス台地の縁辺部から中央部に位置しており，調査対象区の中央部にあたる。調査は用地境界などでは安全上の措置として約 1.0～3.0 ｍ程度内側に控えて調査範囲を設定し，重機により表土を剥いだあと，人力による掘り下げ作業を実施した。

Ｃ～Ｌ－48～59 区は，平成 24 年度調査からの継続で，縄文時代早期（Ⅴ層）とＣ～Ｆ－50～53 区（約 1,400㎡）の旧石器時代を調査した。また，Ｃ～Ｊ－27～47 区は，Ⅱ～Ⅴ層（中世～縄文時代早期）の調査を行い，地形確認用土層ベルト沿いに，Ⅶ層上面（サツマ火山灰）とⅧ～Ｘ層の旧石器時代について確認調査を行った。調査終了後，埋め戻しを行った。

調査は，重機で表土を除去した後，山鍬・鋤簾等による人力掘り下げを基本に行った。弥生時代中期と縄文時代早期が主体になることから，Ⅲｂ層上面とⅥ層上面の地形測量を行った。




第４図　確認調査トレンチ位置図




第５図　グリッド配置図及び本調査範囲図

遺物が発見された場合は，小片はグリッド毎に一括して取り上げ，詳細が観察できる遺物は，必要に応じて写真撮影を実施した後にトータルステーションを用いて取り上げを行った。一括性が高いと判断した遺物及び遺構に関係すると想定した遺物については，縮尺１／５～１／10で実測を行った。

なお，遺構実測や遺物取り上げは，調査担当者の指揮・監督の下，発掘調査支援業務委託業者（株）パスコの測量士及び調査支援員と発掘作業員で実施した。

**平成 26 年度**

調査期間は平成 26 年５月 12 日～平成 27 年１月 28 日で，調査延面積 31,500㎡であった。調査は用地境界などでは安全上の措置として約 1.0～3.0 ｍ程度内側に控えて調査範囲を設定し，重機により表土を剥いだあと，人力による掘り下げ作業を実施した。平成 26 年度調査区は，シラス台地の中央部に位置しており，標高は約 50 ｍである。

Ｃ～Ｌ－ 18～41 区を中心に，中世から縄文時代早期（Ⅱ～Ⅴ層）の調査と地形確認用の土層ベルト沿いに２ｍ幅のトレンチを設定し，Ⅶ層（サツマ火山灰層）上面で縄文時代早期の遺構とⅧ～Ⅹ層の旧石器時代の確認調査を行った。なお，旧石器時代の遺物が確認された場合は，周辺を拡張し遺物の広がり等について確認した。また，Ｄ～Ｊ－ 24～28 区は弥生時代から中世の墳丘等の存在も予想されたため，表土から人力による掘削を行った。調査終了後，埋め戻した。

調査は，重機で表土を除去した後，山鍬・鋤簾等による人力掘り下げを基本に行った。弥生時代中期と縄文時代早期が主体になることから，Ⅲｂ層上面とⅥ層上面の地形測量を行った。なお，Ⅱ層調査中に中世の遺構・遺物が多数発見されたため，Ⅲａ層上面でも地形測量を追加した。

遺物が発見された場合は，小片はグリッド毎に一括して取り上げ，詳細が観察できる遺物は，必要に応じて写真撮影を実施した後にトータルステーションを用いて取り上げを行った。一括性が高いと判断した遺物及び遺構に関係すると想定した遺物については，縮尺１／５～１／10で実測を行った。

なお，遺構実測や遺物取り上げは，調査担当者の指揮・監督の下，発掘調査支援業務委託業者（株）パスコの測量士及び調査支援員と発掘作業員で実施した。

**平成 27 年度**

平成 27 年５月 11 日～平成 28 年１月 28 日の期間に，第２地点から谷を挟んだ遺跡西端の第３地点と併せて，第２地点の町道部分の調査（８月～）を行った。調査延面積は，第２地点が約 4,650㎡・第３地点が約 7,724㎡であった。調査は用地境界などでは安全上の措置として約 1.0～3.0 ｍ程度内側に控えて調査範囲を設定し，重機により表土を剥いだあと，人力による掘り下げ作業を実施した。

第３地点は，中世から縄文時代早期のⅡ～Ⅵ層の調査，第２地点は町道の付替え工事と並行して，中世から縄文時代早期（Ⅱ～Ⅴ層）の調査を行った。地形確認用の土層ベルト沿いに４ｍ幅のトレンチを設定して，Ⅶ層（サツマ火山灰層）上面で縄文時代早期の遺構とⅧ～Ⅹ層の旧石器時代の確認調査を行った。遺構・遺物が検出されたか所については適宜調査範囲を拡張し，遺構・遺物の広がりを確認した。調査終了後，埋め戻しを行った。

調査は，重機で表土を除去した後，山鍬・鋤簾等による人力掘り下げを基本に行った。中世・弥生時代中期と縄文時代早期が主体になることから，Ⅲｂ層上面とⅥ層上面の地形測量を行った。

遺物が発見された場合は，小片はグリッド毎に一括して取り上げ，詳細が観察できる遺物は，必要に応じて写真撮影を実施した後にトータルステーションを用いて取り上げを行った。一括性が高いと判断した遺物及び遺構に関係すると想定した遺物については，縮尺１／５～１／10で実測を行った。

なお，遺構実測や遺物取り上げは，調査担当者の指揮・監督の下，発掘調査支援業務委託業者（株）パスコの測量士及び調査支援員と発掘作業員で実施した。

## ２　遺構の認定と検出方法

検出された遺構の認定と検出方法については，以下のとおりである。

### (1) 遺構の認定

検出面，埋土状況，規模等を総合的に判断し，調査担当者で検討したうえで認定した。本編掲載の主な遺構の認定は以下のとおりである。

竪穴住居跡は，埋土や形状，床面の有無，遺物の出土など総合的に判断し，検出された順にＳＩの略記号と番号を付した。溝状遺構は，底面に硬化面を有するもの，硬化面はないが溝状に明らかな掘り込みをもつと判断したものに，検出された順にＳＤの略記号と番号を付した。土坑及びピットについては，埋土や形状，床面の有無，遺物の出土など総合的に判断し，検出した順に土坑はＳＫ，ピットはＰの略記号とそれぞれ番号を付した。大まかな時期判断はできたものの埋土の色調の違いや時期の異なる遺物が混在する遺構については，時期の判定を控えた。また，掘立柱建物跡は，埋土状況や出土遺物の状況を総合的に検討して時期判断した後，検出した順にＳＢの略記号と番号を付した。なお，遺構は，検出状況の撮影後掘り下げ・実測を行った。遺構に応じて縮尺１／10～１／20で実測を行った。

### (2) 遺構の検出方法

遺構の検出及び調査に際しては，可能な限り当時の生活面を把握することを目指したが，火山灰層上面などで

検出せざるを得ない場面も多かった。特に，黒色土層中で調査する中世～弥生時代については，当時の生活面を掴みきれず，結果として「検出面からの深さ」にばらつきがでることとなった。

また，調査前が宅地や耕作地，雑木林等だった区域では，撹乱を受けている地点も多く，遺構検出をはじめ調査は難航した。対策として，ミニトレンチの多用など撹乱部分を排除する最善の調査方法を遺構毎に調査担当で検討し，想定も含め可能な限り残存部の記録保存に努めた。

### ３　整理作業・報告書作成作業の方法及び内容

平成 25～27 年度の発掘調査支援業務においては，発掘調査と並行して遺物の水洗・注記を行った。

水洗作業は，基本的には柔らかいブラシを用いたが，黒曜石や剥片石器には超音波洗浄機を用いて進めた。

注記は，水洗終了後順次行った。注記は，十分な換気に留意しつつ手作業で進めた。遺跡記号は，データを管理している県の南の縄文調査室に確認をとった上で，「ＮＴＪ」とした。その後に出土区，層，取り上げ番号等が記してある。

平成 27・28 年度の整理作業及び報告書作成作業支援業務では，分類・接合から作業を開始した。遺構内遺物と包含層遺物に分類し，包含層出土土器については胎土や文様等で時期ごとに分別し，接合した。石器については，剥片石器と礫石器に分けた後，器種及び石材別に分類した。作業の効率化を図るため，整理作業及び報告書作成作業支援業務委託先である（株）パスコで遺物の実測を行った。

遺物出土分布図は，トータルステーションで取り上げたデータを統合し，図化ソフトを使用して作成した。

遺構の認定・分類は，実測図や写真等を用いて，発掘調査担当者と連携を取りながら再検討し確定した。

土層断面や遺構図は，原図データの点検・修正後，デジタルトレースを行った。

原稿を執筆し，本報告書作成作業・印刷・製本を行った。

## 第２節　層序

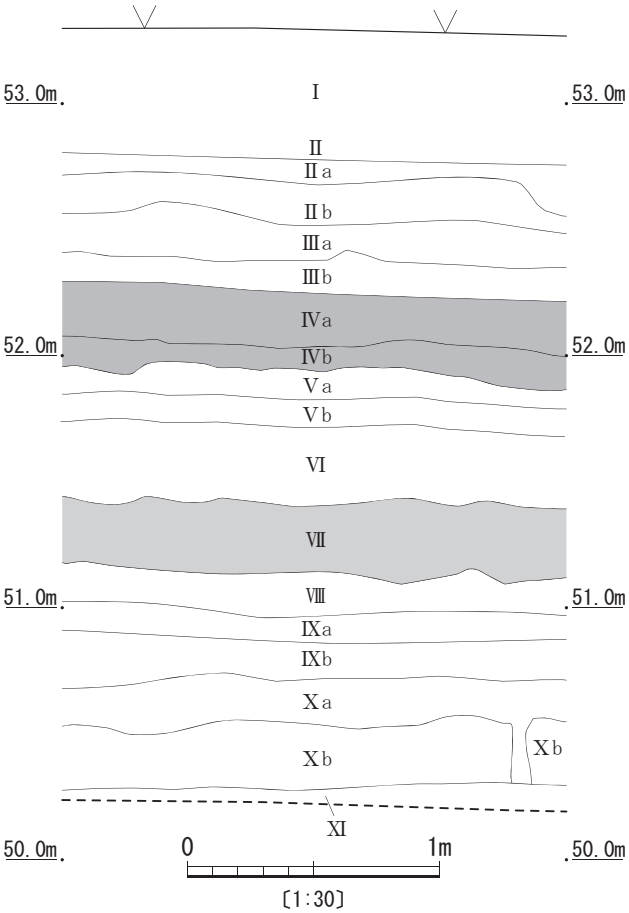
永吉天神段遺跡は，住宅地であったことや長年の耕作の影響で一部に削平・盛土・撹乱等の影響がみられたが，表土が厚くⅡ層以下の残存状況は比較的良好であった。Ⅱ層は，Ⅱａ層とⅡｂ層に細分したが，Ｄ～Ｋ－ 27～31 区では，Ⅰ層（表土）とⅡ層の間にⅡ層より明るく褐色が強い土層が確認された。部分的だったため基本層位には記載しなかったがⅡ'層と位置づけている。また，Ⅸｃ層・Ｘａ層・Ｘｃ層については残存範囲が少ない。なお，包含層や遺構・遺物の年代を把握する手掛かりの１つとなる火山灰等の詳細については，以下のとおりである。

Ⅰ層：表土（造成土及び耕作土）である。３～５㎜程度の白色軽石を多く含み，しまりがあり固い層と白色の軽石粒を含み，軟質である層の２つに分かれるか所もある。
Ⅱａ層：黒色腐植土層で，下層に比べてわずかに暗い。中世の包含層である。
Ⅱｂ層：黒褐色砂質土で 0.5㎜程度の褐色粒子を多く含む。上層に比べてわずかに明るい。古墳時代・弥生時代の包含層である。
Ⅲａ層：黒色腐植土層で若干光沢があり，保湿性に富み，わずかに粘りがある。縄文時代前期～晩期の包含層である。
Ⅲｂ層：褐色土で１～２㎝程度の黄色軽石粒（池田火山灰：約 6,300 年前の池田カルデラ起源の噴出物）含む。粘りはないが，硬い粒子を多く含みしまりがある。
Ⅳａ層：黄橙色土。アカホヤ火山灰（約 7,300 年前の鬼界カルデラ起源の噴出物）の堆積層。
Ⅳｂ層：黄色パミス（３～５㎜）。幸屋降下軽石（アカホヤ火山灰一次降下軽石）である。
Ⅴａ層：にぶい黄褐色土で軟質な土である。縄文時代早期の包含層である。
Ⅴｂ層：褐色土で，粘性がありⅤａ層に比べて硬い。にぶい黄褐色土の２～３㎝のブロックを含む。縄文時代早期の包含層である。
Ⅵ層：黒褐色砂質土で，しまりがあり硬い。上層は縄文時代早期の包含層である。
Ⅶ層：灰黄褐色土。薩摩火山灰（約 12,800 年前の桜島起源の噴出物）である。
Ⅷ層：暗褐色粘質土。
Ⅸａ層：Ⅷ層に比べてやや明るく，粘性が弱い。
Ⅸｂ層：灰黄褐色粘質土。
Ⅸｃ層：褐色粘質土。
Ｘａ層：にぶい黄橙色粘質土。
Ｘｂ層：灰黄色粘質土で，やや暗い暗褐色の硬質土がブロック状に含まれる。粘性は弱い。旧石時代の包含層である。
Ｘｃ層：暗灰黄色ロームで，粘性は弱い。
Ⅺ層：二次シラス（約 29,000 年前の姶良カルデラ起源の噴出物・ＡＴ）。

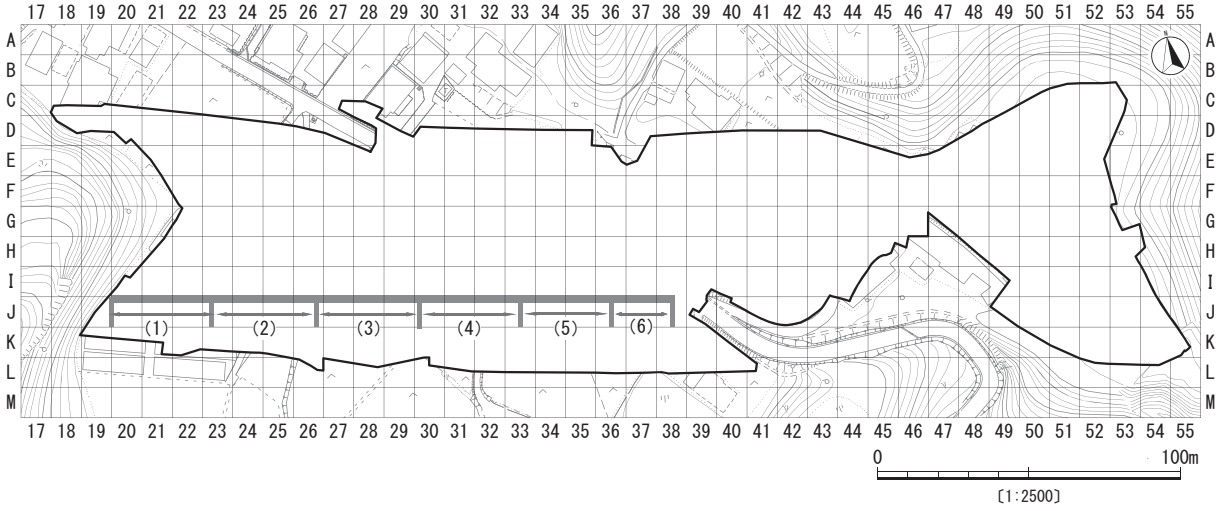
※　火山灰の年代については，町田洋　新井房夫著東京大学出版会　2003『新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺－』（p108～110）から引用した。なお，年代は放射性炭素年代測定法で算出され，暦年較正した年代である。



写真１　第２地点の土層

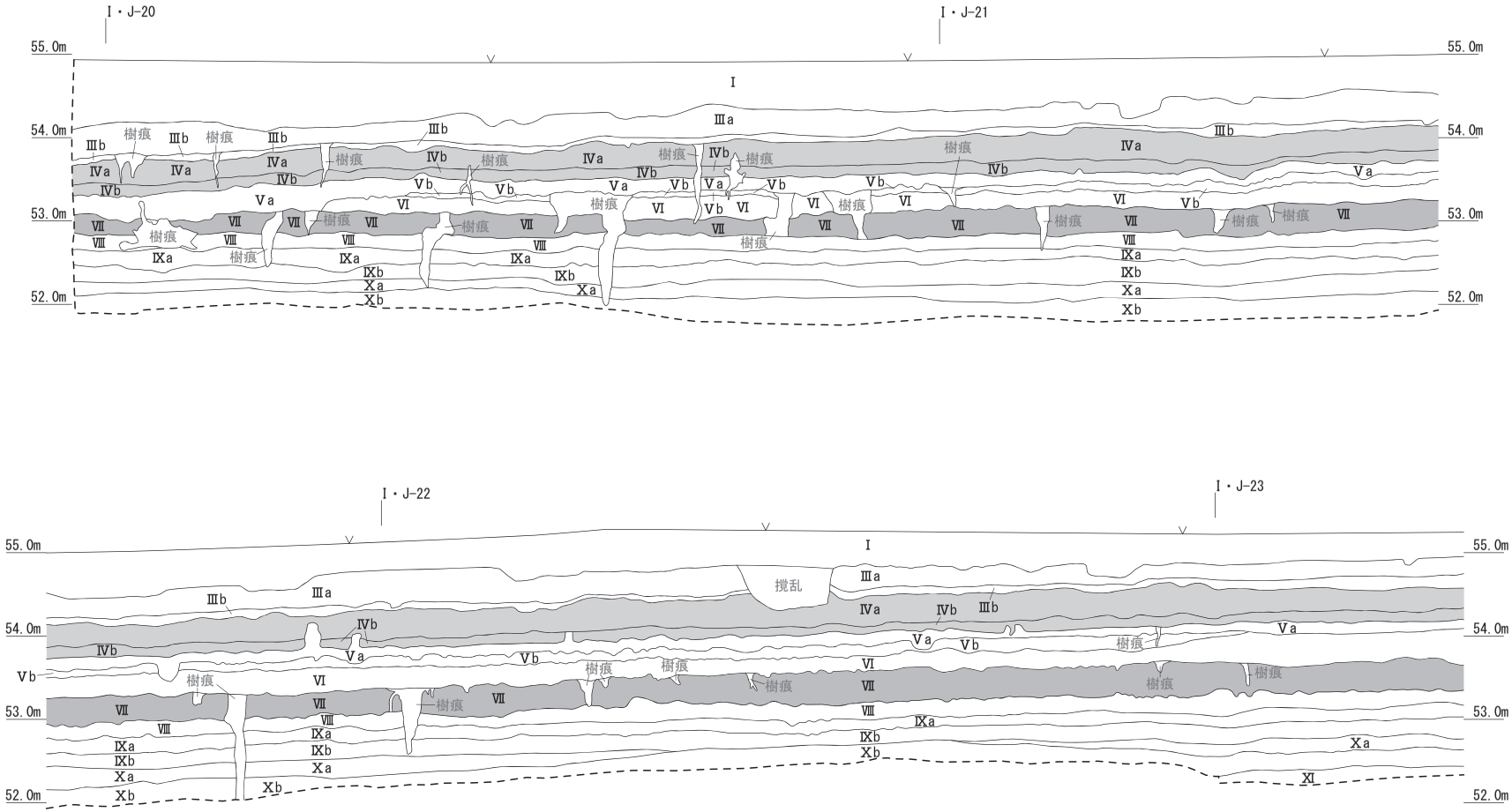



第６図　基本土層図



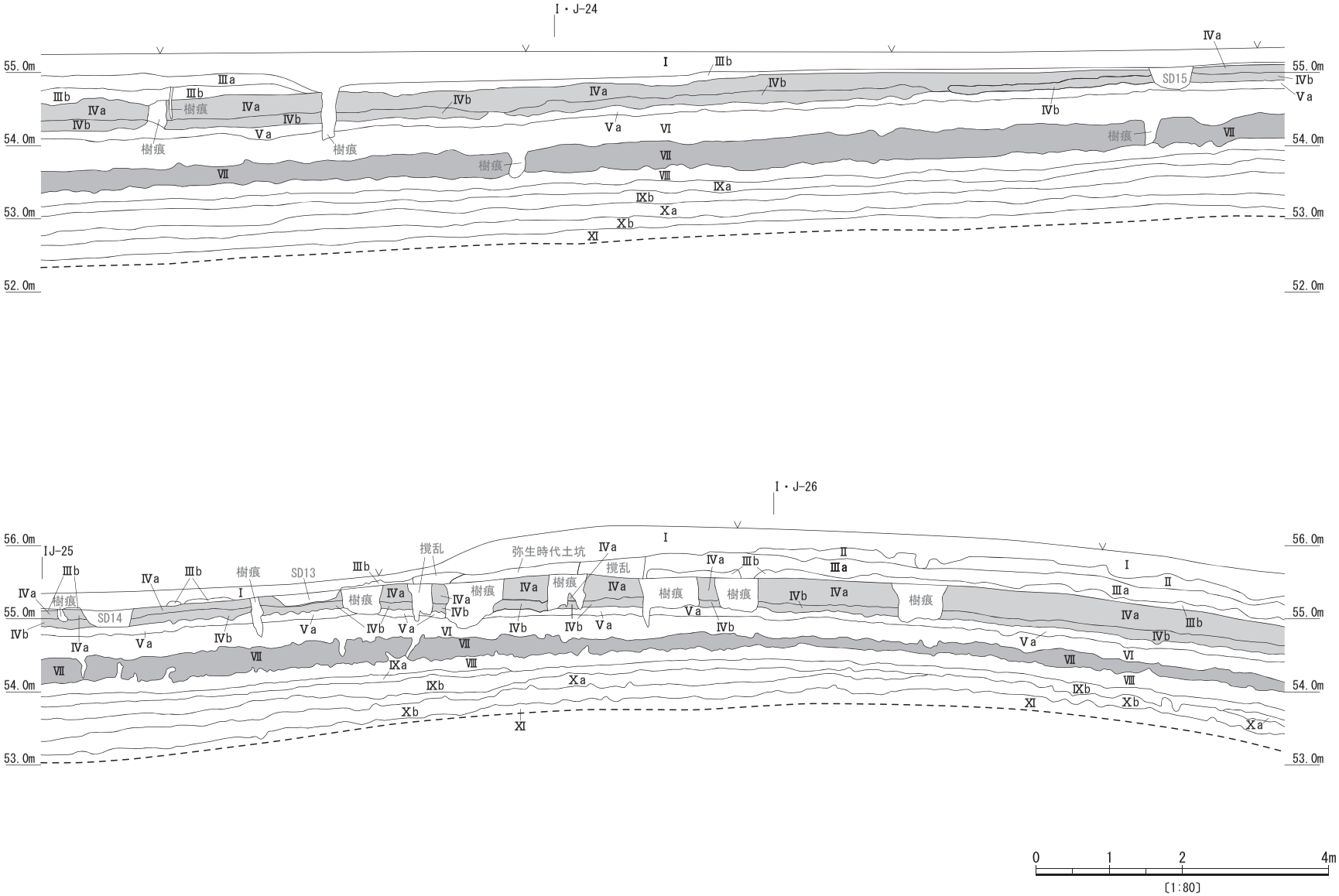

第７図　土層断面図作成位置図

（１）

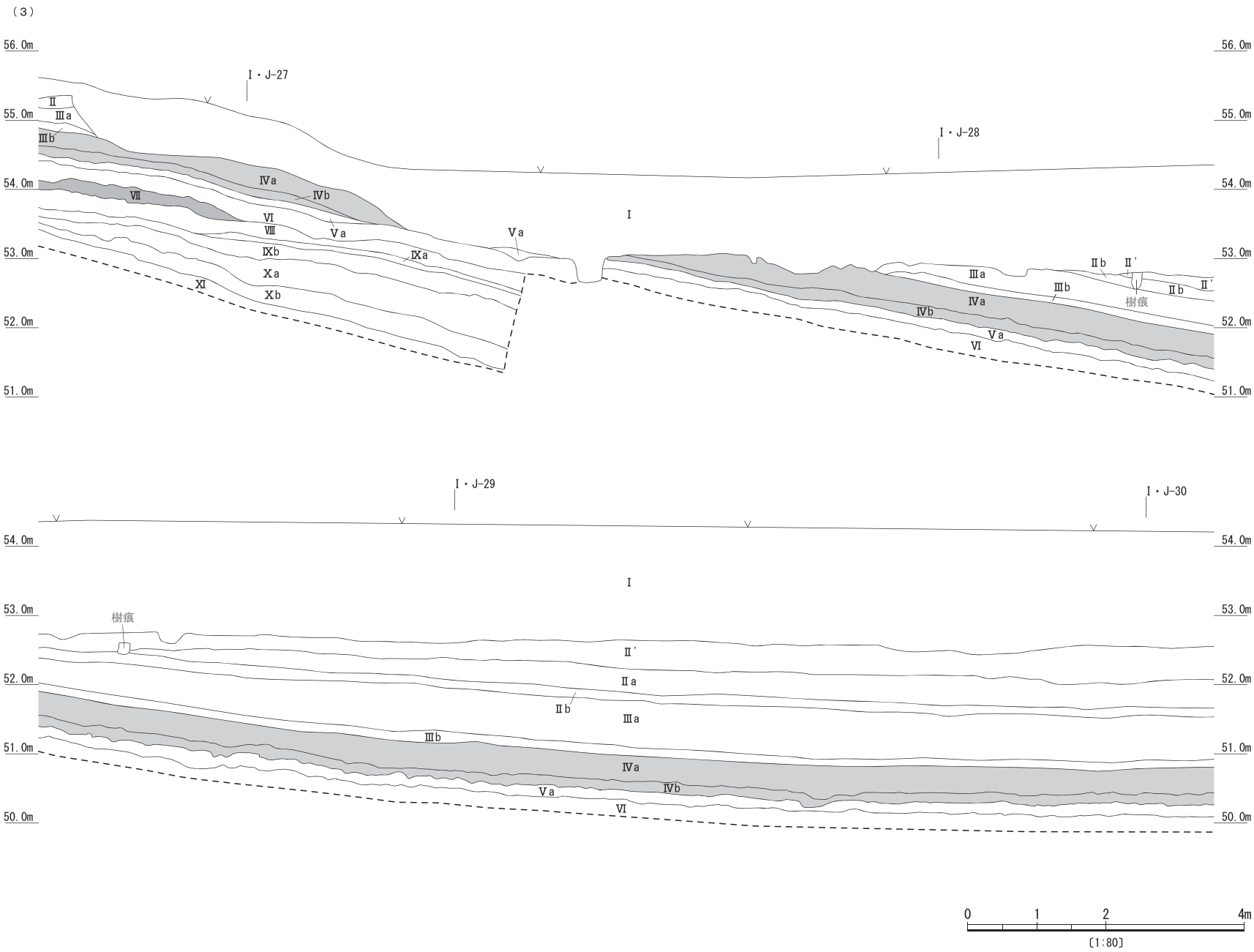



第８図　土層断面図（１）　Ⅰ・Ｊ－19～23区

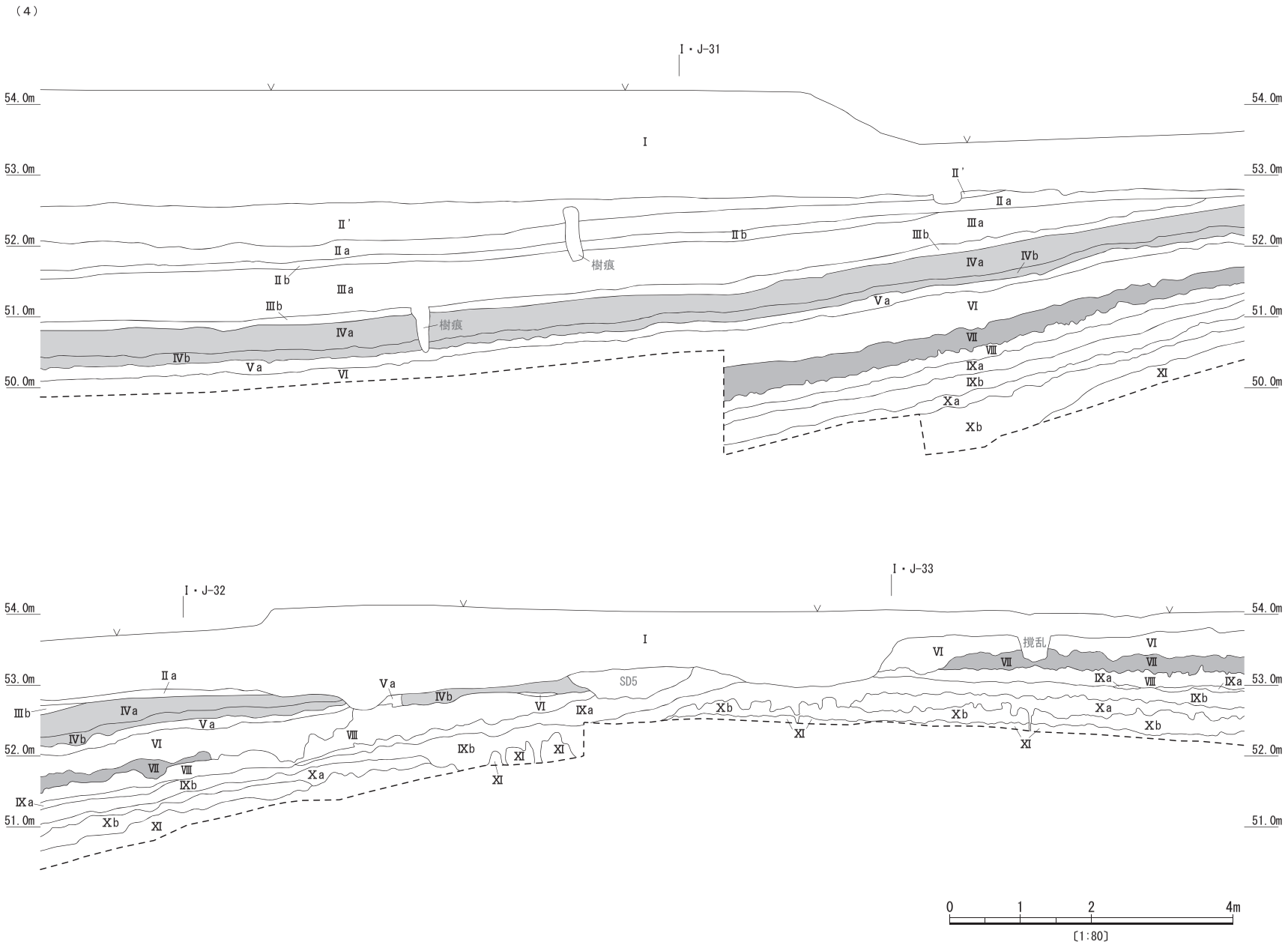
（２）




第９図　土層断面図（２）　Ⅰ・Ｊ－23～26区

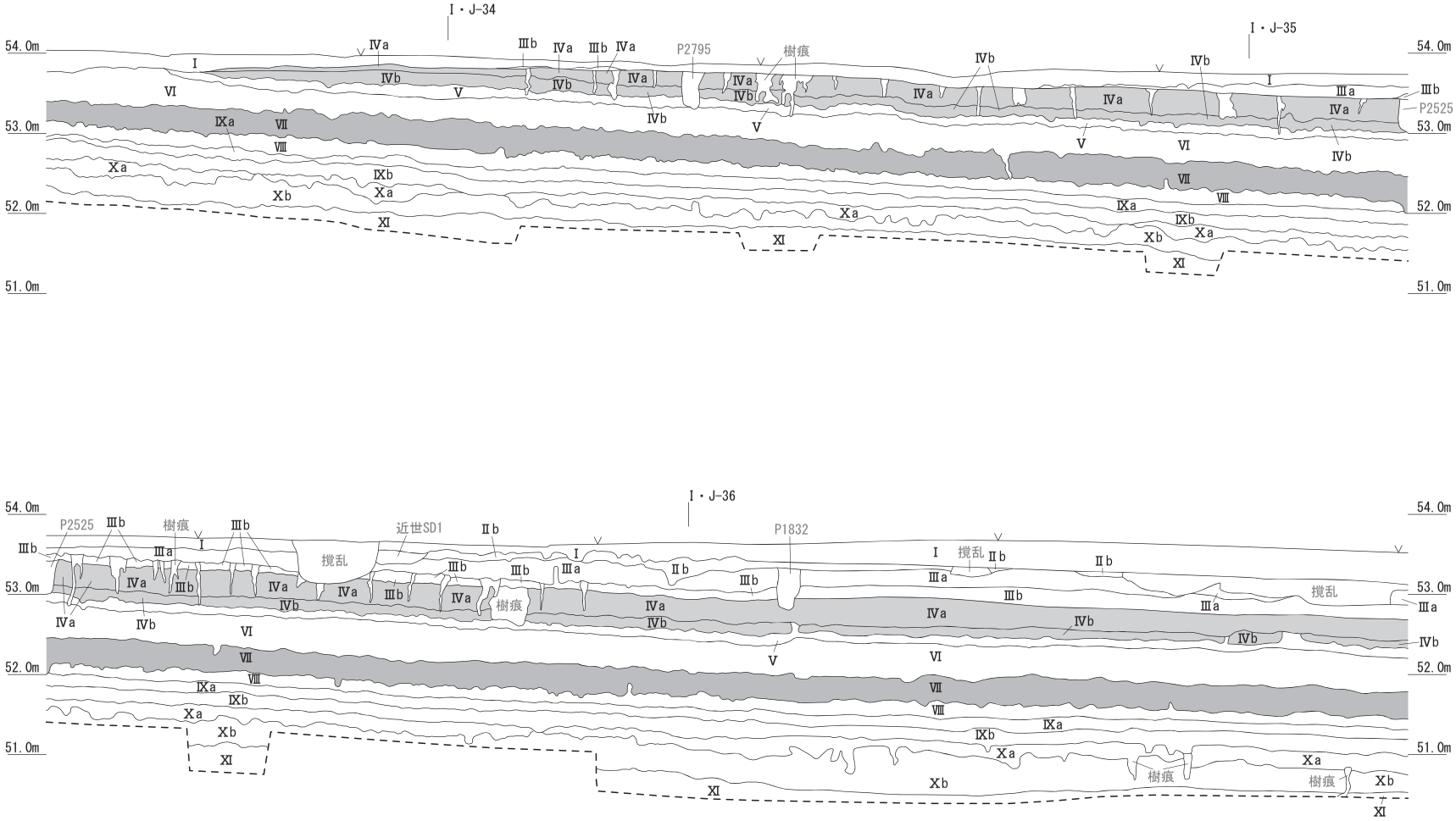



第10図　土層断面図（３）　Ⅰ・Ｊ－26～30区




第11図　土層断面図（4）　I・J－30～33区

（５）

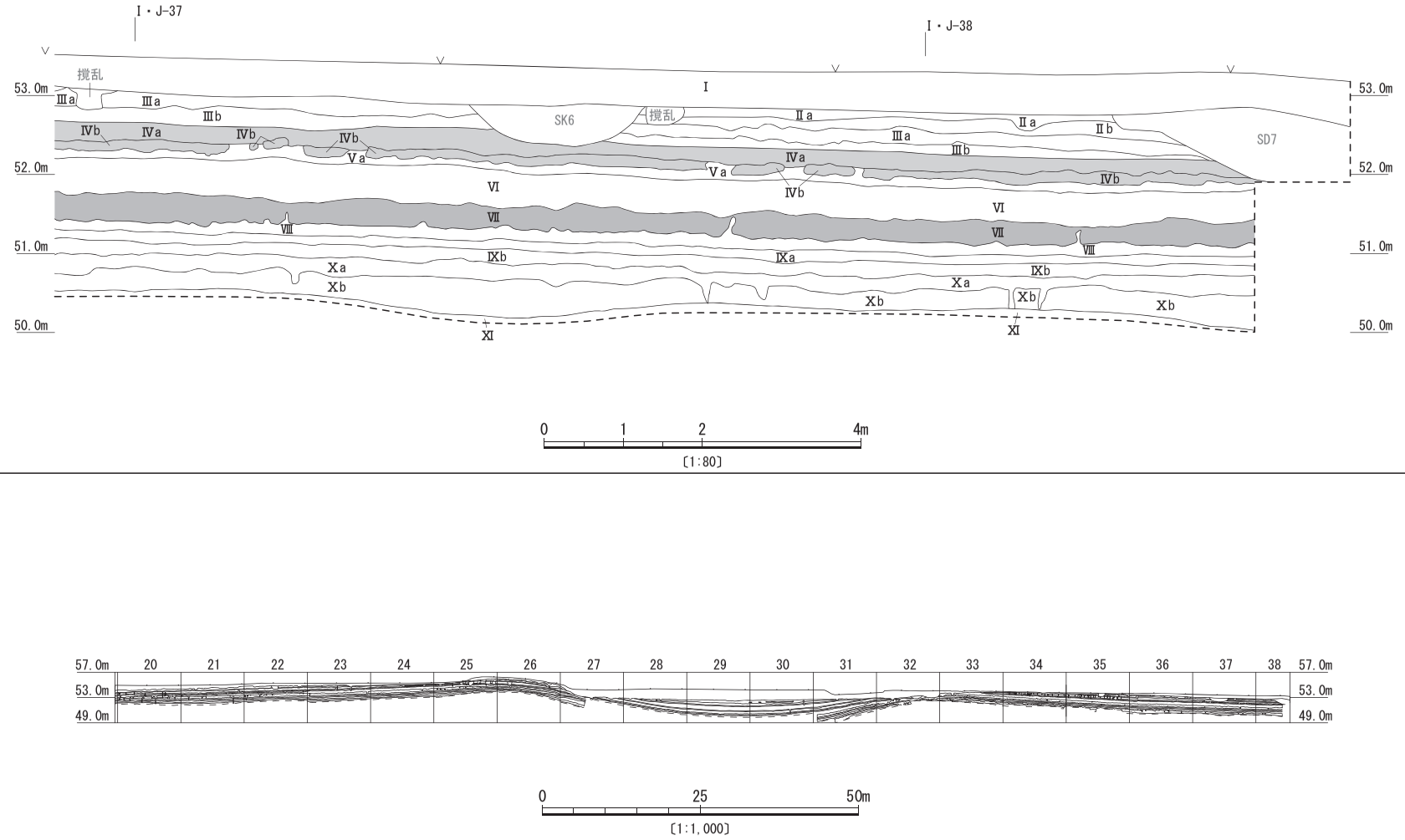



0　1　2　4m

〔1:80〕

第12図　土層断面図（５）　Ⅰ・Ｊ－33～36区

（６）




第13図　土層断面図（６）　Ⅰ・Ｊ－36～38区

# 第４章　調査の成果

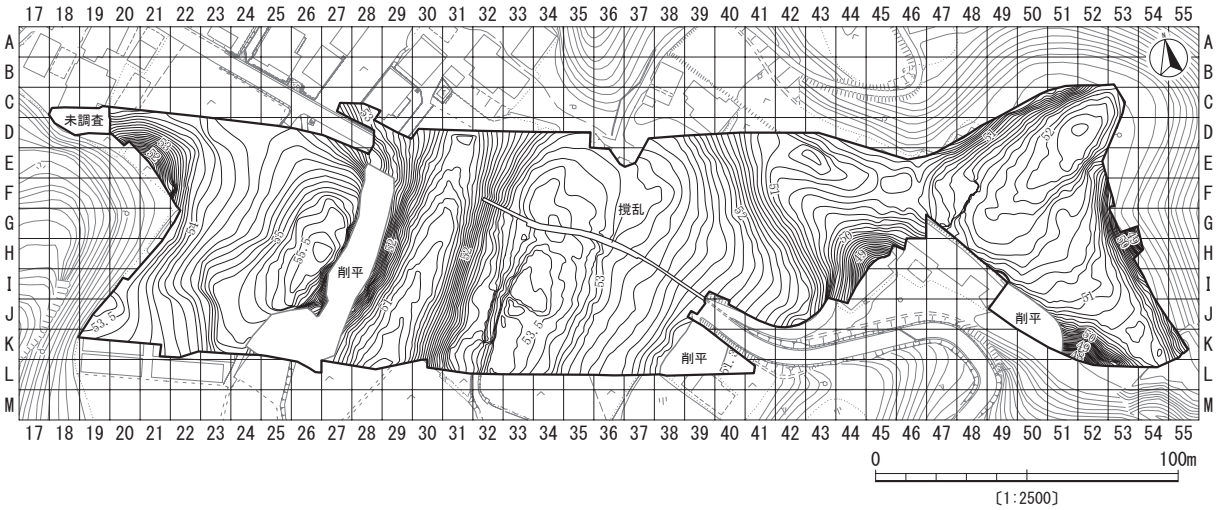
天神の台地は幅が 200 ｍほどの東西に伸びる舌状台地である。東九州自動車道は，台地の東端から中央部にかけて上端が約 80 ｍ幅でほぼ東西に抜けている。第２地点はこの東端から西側へ続き，西隣にある第３地点とは南西側から食い込んだ深い谷によって分断されている。

第２地点の調査区域は，現在では整地等によって削られたり盛土されたりしてほぼ平坦になっているがⅢｂ層・Ⅳ層上面での地形をみると，南側から入り込んだ２か所の深い谷によって３か所の小丘陵に分断されている。２か所の谷は 29～31 区付近の南から北へ伸びる谷と，44～53 区付近の南側にある谷である。これによって，23～27 区付近の丘と 32～40 区付近の平地，47～53 区付近の丘陵に分かれる。23～27 区付近の丘陵は，Ｇ～Ｋ－ 26～28 区付近の小高い丘頂を頂点とし，西から南へ向かって緩やかに下降しており，東へは急傾斜で谷に落ちている。32～40 区付近の丘陵は，34・35 区付近の南北に伸びる細長い頂部から西へは急傾斜で，東へは緩やかに下降している。47～53 区付近の丘陵は，Ｄ・Ｅ－ 51～53 区付近を頂点として北・西と東へは急傾斜で落ち，南西方向へは緩やかな傾斜で下降し，南東へは舌状に伸びるやせ尾根の形状となる。これらの丘陵には，長期にわたる自然作用あるいは宅地造成や耕地整備などによる人為的作用によって削平され，古代～中世の地層が失われている考えられるか所もある。25～28 区あたりの谷に沿った丘陵東斜面，38～40 区の南端近く，49・50 区付近の南端傾斜部である。また，29～32 区付近の谷部ではⅡ層が厚く堆積しており，中世以降に谷が深く埋まる堆積作用があったことを伺わせる。

古代～中世の遺構・遺物はほぼ西半部で発見されている。東半部は２基の遺構が検出されているだけで，遺物の出土もほとんどなく弥生時代の住居跡の残存度も良くないことから，人為的な削平を受けた可能性もあるが，東側の一段落ちた第１地点の調査では古代の村落があっただけで中世の遺物は１点しか出土していないことから，この付近では遺構・遺物とも希薄であったものと考えられる。西半部では，２か所の丘陵・平地だけでなくその間にある谷部でも遺物が出土し，傾斜面においても掘立柱建物や土坑などの遺構が検出された。

古代の遺物は出土量が少なく，第１地点にあった村落とのつながりはなかったようである。遺構の埋土は色調・土質など弥生時代から中世までほとんど区別が困難であったため，古代と判断できる柱穴の存在は確認できなかった。

建物として確認された 10 棟の掘立柱建物は遺物を伴わないものも多いことから，確定できないものの，遺物の出土量などからいずれも中世のものと考えられる。掘立柱建物のほかにも竪穴建物・土坑・土坑墓などが検出され，中世村落の構成を考えるうえで興味ある資料が得られた。竪穴建物跡は，他の遺構とは離れた位置で１棟だけ検出された。壁の横に穴を掘る，底に軽石を置く，廃棄する際に壁横のアカホヤブロックを中に放り込むなど従来の竪穴建物跡にはなかった状況がみられた。土坑の中には，地下式坑・火葬土坑など特殊な遺構も含まれている。また，７基の土坑墓の中には鏡や白磁など副葬品を伴うものもあり，当村落の位置づけを考えるうえで重要である。中世の遺物は，土師器・国内産陶器・輸入陶磁器・土製品・石製品と多様で，移入品と考えられる瓦器・瓦質土器なども注目される。出土遺物の年代は 12 世紀から 16 世紀まで長期にわたるが，層位的な出土状況は認められなかった。出土品の中には地元の土師器以




第 14 図　古代・中世の地形図

外のものが多く含まれている。この集落跡の性格を考える参考となろう。近世の墓地群は，J・K－26・27区を中心に検出され，周辺では18世紀前後の陶磁器が多く出土した。建物跡は検出されていないものの周辺を巡る道などもあることから，26・27区付近の丘陵上を中心としてこの時期の生活跡があったことが伺える。

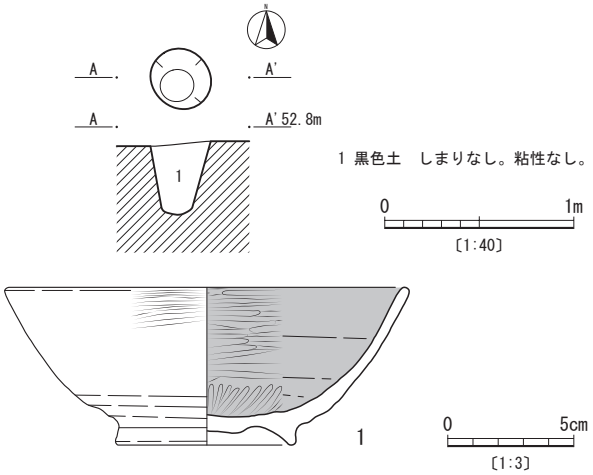
## 第1節　古代の調査

第1地点では，掘立柱建物群や多種多様の出土品からなる古代の集落跡が発見されたが，第2地点ではほとんど発見されなかった。当遺跡における遺構埋土は判別が極めて困難で，弥生時代～中世のものを区別することはほとんど不可能だった。従って，上記時期の遺構の特定は難しい。

### 1　遺構

多くの柱穴が検出されているが，埋土中に時期を示す遺物を含む柱穴は少なく，古代のものとみられる内黒土師器埦を含む柱穴が1基あるのみだった。この柱穴も，周辺の柱穴との配置等を詳細に検討したがまとまらず，単独での検出である。

柱穴は，F－32・33区の西向き傾斜面で検出された。直径31cmで円形を呈し，検出面からの深さは38cm，埋土はアカホヤ混じりの黒色土である。埋土内でほぼ完形の内黒土師器埦（第15図1）が出土した。口径15.9cm，高さ6.2cm，高台直径7.1cmである。丸みを帯びた器形をしており，高台は「ハ」の字状に広がっている。内・外面とも丁寧なヘラミガキで仕上げている。




第15図　古代の柱穴と出土遺物

### 2　遺物

土師器・内黒土師器・内赤土師器・須恵器が出土している。

#### (1) 土師器（第17図2～19）

破片が98点出土している。うち18点を図化した。器種は坏・埦・皿・甕・壺である。

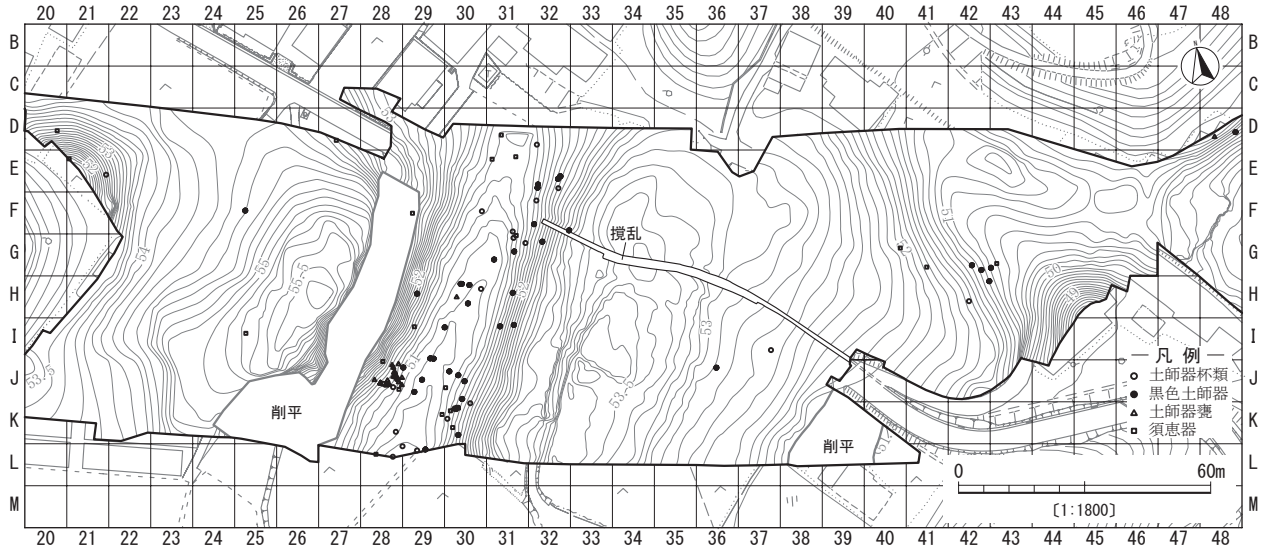
2・3は坏である。2は，直径が17cmある口縁部片で，やや内弯しながら外へ大きく広がる。3は，直径10.2cmの底部片で，端部に工具で抉った様な痕がある。均さずにそのままにしているが，板状圧痕を施し中央部を平らにしている。内面ナデの痕がよく残る。

4～8は，底部が厚く円盤状を呈する碗の充実高台である。底面はナデ調整を施し平らにしている。底部直径は6.1～6.9cmである。4・5は，高台が比較的薄く小さく，立ち上がりは緩やかに立ち上がる。

5は，内面にススが付着する。6は，4・5に比べると高台が大きくやや横に広がり，立ち上がりは急で直線的である。

7・8は，厚みがあり横に広がり，内面にロクロナデの痕がよく残っている。7は，見込みを平らにし外反する様に立ち上がる。全体的にススが付着している。

9～11は埦の高台である。9は，高台が低く踏んばる様な形状である。10・11は，9より高い高台を有し外に




第16図　古代の遺物分布図

向かって「ハ」の字状に広がる。11 は高台が高くしっかりナデ整形をしている。見込みに布目がある。

12 は，耳皿を模したやや大型の皿である。横ナデで整形した後，口縁部を内側から外側に押して注口状にして耳皿風にしている。底は板状圧痕で平らにしている。

13～18 は甕である。全体的に厚みがあり概してヘラケズリが丁寧である。14 は，口縁端部を丸く整形している。13・15～17 は，口縁端部を平らに整形し断面形態は矩形にみえる。13・16・17 は，大きく外反し頸部がくっきりとした段になる。胴部内面に横位方向のヘラケズリが施されている。18 は口縁部を欠損している。内面は斜位方向のヘラケズリ，外面はハケナデが施される。

19 は，形状から壺の口唇部であると考えられる。ナデ整形をしているが，不整形なため作りが雑にみえる。

**(2) 黒色土器（第 18 図 20～44）**

破片が 26 点出土している。両面とも黒色を呈するもの（黒色土器Ｂ類）が５点，内黒土師器（黒色土器Ａ類）が 21 点である。

黒色土器Ｂ類は，内外ともに丁寧なミガキ調整を行っている。皿が１点，坏が３点，器種不明が１点である。

20 は皿で，器高が低くやや内弯気味に立ち上がる。口縁は丸みをおびている。

21～23 は坏である。21 はやや内弯気味，22・23 は口縁端部がやや外反する。

24 は器種不明であるが，形状から底部中央の破片であると考えられる。

内黒土師器は，坏が１点と椀が 20 点ある。

25 は，底径 7.5㎝の坏である。内面はミガキ，外面は手持ちヘラケズリ整形で，立ち上がりは丸みを持つ。

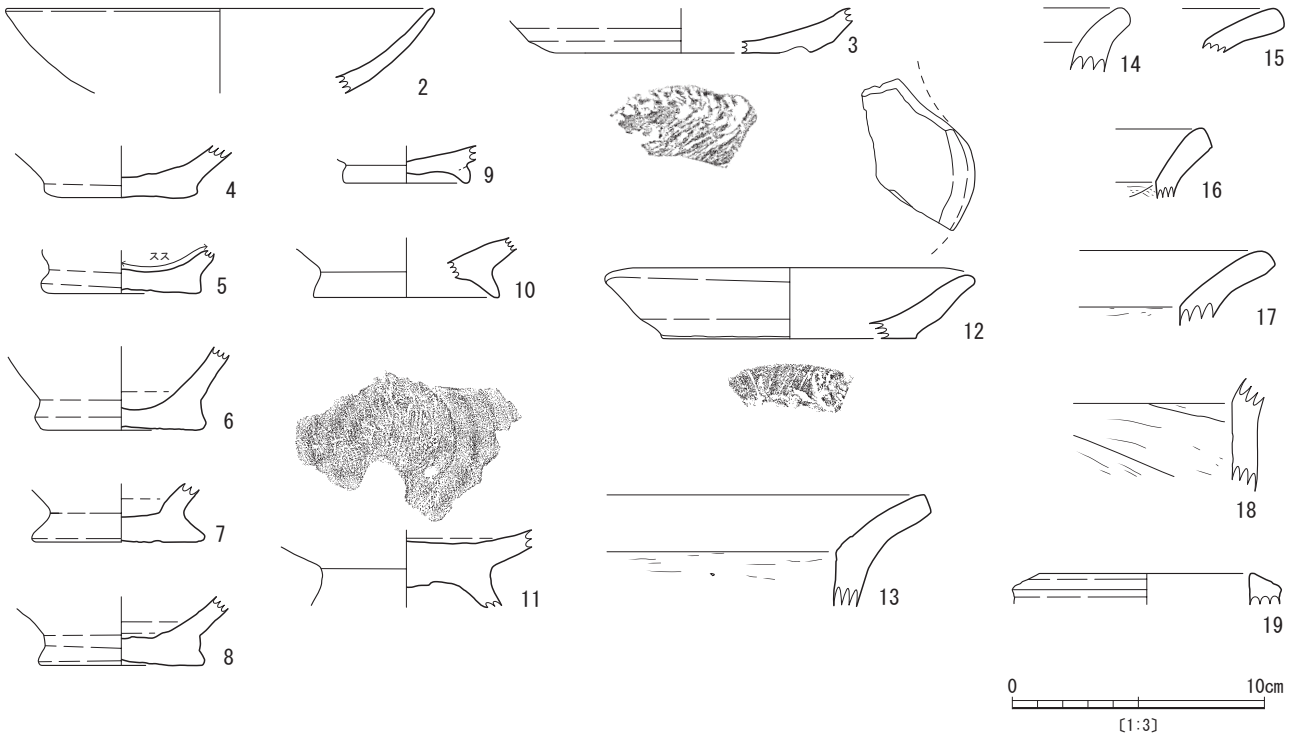
26～44 は椀である。

26～29 は，口縁部が直線的に立ち上がるものである。26～28 は外面の口縁部まで黒色を呈する。27～29 は，法量が口縁直径 15㎝と 16.5～17㎝になるものの大きく２種類ある。26 は端部近くがやや外反する。28 は口縁部付近で器壁がやや薄くなる。29 は内面に横位のヘラミガキが確認できる。整形，厚みともに 26～28 と類似するが，色調がにぶい黄橙色を呈することから赤色土器の可能性も考えられる。

30～34 はやや内弯しながら口縁部は立ち上がるものである。31～34 は内外面に横位方向の丁寧なヘラミガキが確認できる。30～33 は口径が 15～16㎝と 16.9～18㎝になるものの大きく２種類の法量がある。30 は外面口縁部まで黒色を呈する。ナデの痕がよく残り外面にでこぼこがみられる。31・32 は内面のみ黒色を呈する。外面はススが多く付着する。33 は赤褐色を呈しており，器壁が少し厚い。34 は内面から外面口縁部まで黒色を呈する。

35・36 は胴部片である。36 は，高台の接合痕が確認されることから腰部から高台付近の破片である。腰部には横位のヘラミガキ痕が確認できる。

37～44 は，高台を有する底部付近の破片である。37 は左右の立ち上がりが不均等である。内面ミガキが施されているが，方向は不明である。38 の見込みには，放射状ではなく一方向のミガキがしっかり施される。外面も




第 17 図　古代の土師器

ミガキが施される。37・38 ともに高台が三角形状にやや開いて立ち上がる。39～41 は高台が外に広がる。39 は高台が 1 ㎝程度あり比較的高く締まりがよい。40 は高台がやや厚い。

42・43 は，高台が低く「ハ」の字状に外へ広がる形状をしている。42 は内外ともに略横位のヘラミガキ調整で仕上げている。外面にススが付着する。底部直径が 6.5㎝と小さいが口縁部は外に大きく開く。43 は底部直径が 7.6㎝と大きさに差がある。44 は高台が低く断面三角形を呈しており内面にミガキが施される。色調は黒褐色～灰黄色で明るい。

**(3) 内赤土師器（第 18 図 45）**

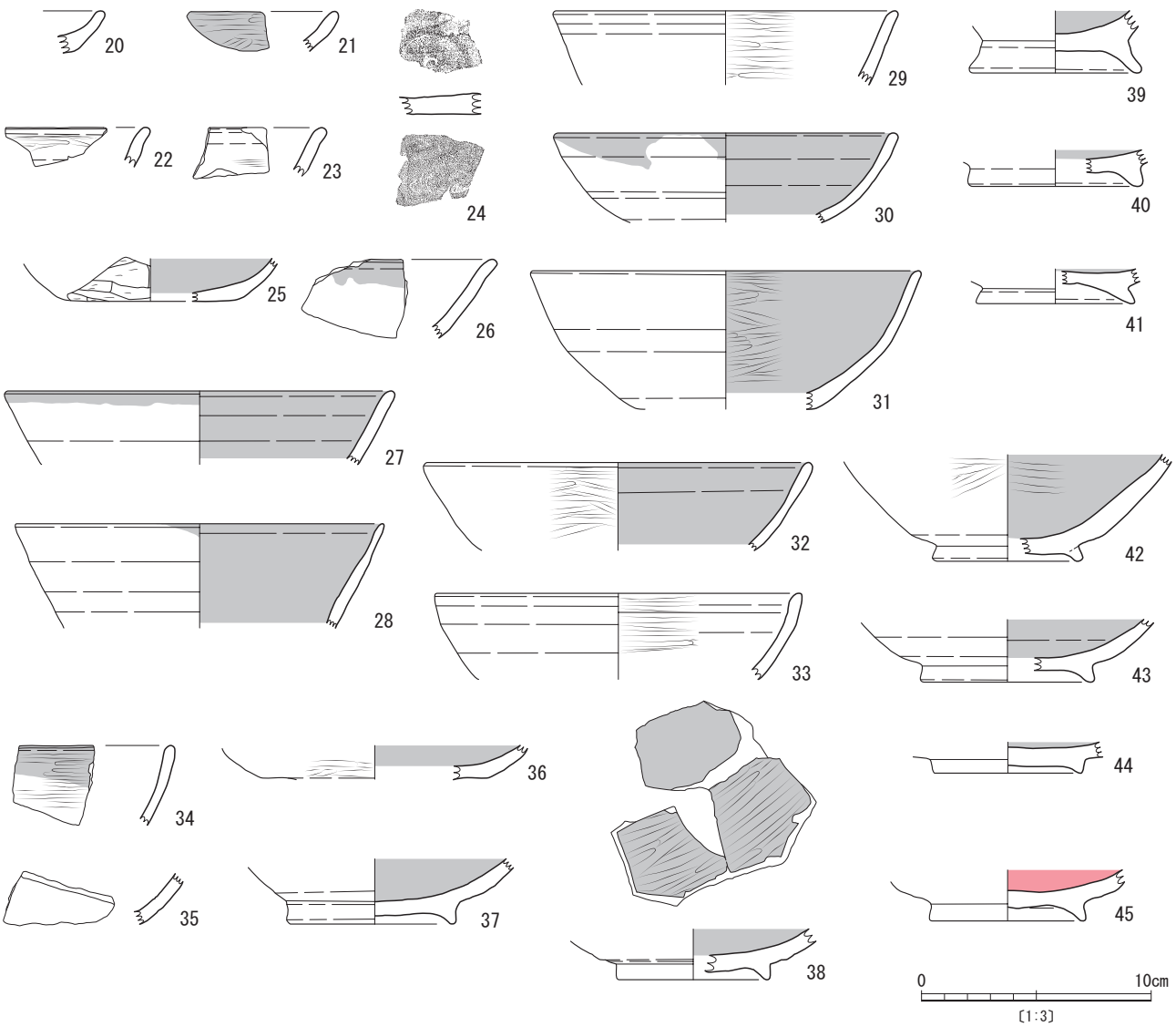
埦が 1 点出土している。内面ミガキが施され，外面の調整痕は確認できない。色調は橙色を呈する。高台は直径 6.7㎝で「ハ」の字状に外にやや広がる。

**(4) 須恵器（第 19 図 46～60）**

破片が 93 点出土している。器種別には坏 1 点・壺 4 点・甕 88 点である。

46 は坏の口縁部で，まっすぐ外へ開いており，外面はやや凹凸が目立つ。端部は丸みをもっており，焼成は良好だが外面はやや剥脱している。

47～50 は壺である。47 は，口縁下部から肩部の破片で頸部直径は 4 ㎝，口縁部はまっすぐ立ち上がっている。肩部は，外へ広がり分厚くなっている。外面は丁寧なヘラ横ナデで仕上げ，内面はヘラナデで仕上げている。頸部外面に自然灰釉が付着している。48 は，肩部から胴下半部の破片で肩部最大径が 20.6㎝，丸みをもっている。最大径部分には浅いくぼみが巡っている。内外とも横方向のヘラナデで仕上げ，肩部外面に黄白色の胡麻が付着している。鉄分を含んだ比較的粗い胎土を用い，内外面とも表面に石粒が露出している。49 は，胴部片で最大径は 23㎝，内外ともヘラ横ナデで仕上げている。胴上半に「×」形の印のような沈線があるが，作為的なものかはっきりしない。50 も胴上半部と考えられる分厚い破片で

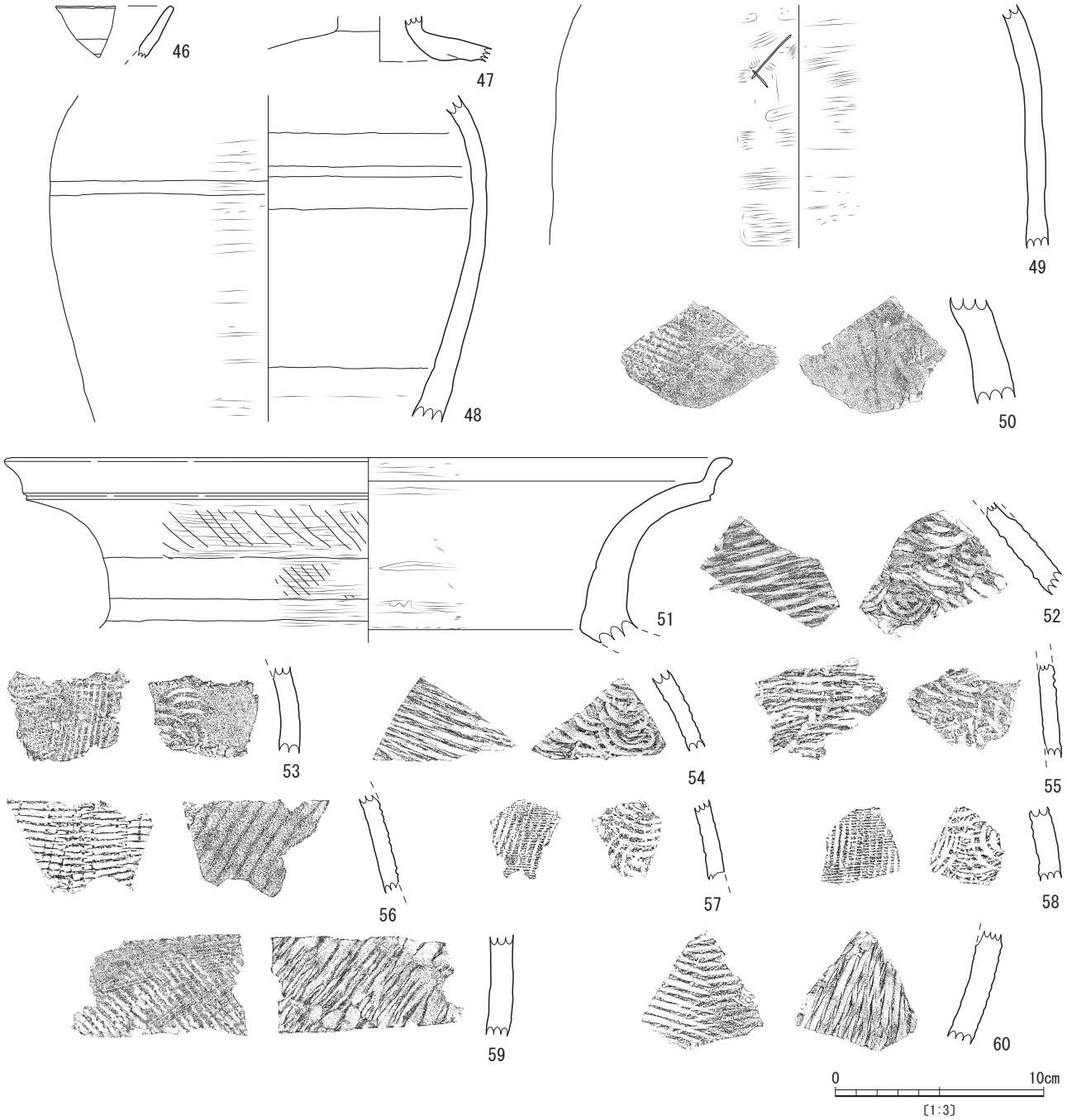



第 18 図　黒色土器・内黒土師器・内赤土師器

ある。外面に正格子のタタキ痕，内面に同心円の当て具痕がみられるが，ともにその痕をヘラでナデ消している。

51～60 は甕である。51 は，口径 34.8㎝の口縁部から頸部の破片で，頸部から外反しながら立ち上がり，端部近くでさらに外反する二重口縁風の器形である。端部近くに 1 条の幅広沈線がある。内外とも横ナデ調整である。暗赤褐色を呈しているが，内面には黄白色の胡麻が付着している。

52～60 は胴部である。52～54 は，外面に条痕タタキ痕，内面に同心円当て具痕がある。52 は内外ともタタキ調整のあとヘラでナデている。53 の外面は光沢のある暗灰色を呈している。56 は外面に横長の長格子タタキ痕，内面に幅広の条痕当て具痕がみられる。57・58 は外面のタタキ痕が小さな格子で，その後横方向にナデている。内面は同心円当て具痕がみられる。この 2 点は外面のタタキ痕が類似しており，同一個体とみられる。59 は外面に長格子タタキ痕，内面に細かい条痕当て具痕がみられるが，外面は一部をヘラでナデている。60 は外面に条痕タタキ痕，内面に条痕当て具痕がみられる。




第 19 図　須恵器

## 第２節　中世の調査

中世の地形は，東西 380 m弱の調査対象範囲の中に３つの小丘陵がある（第 14 図）。調査区北東端のＤ－ 51・52 区付近の標高 52.2 m，中央のＨ・Ｉ－ 33 区付近の標高 53.7 m，西側Ｈ－ 26・27 区付近の 55.6 mを頂点とする丘の間の 27～30 区に南側へ下る谷が，南東側では，档ヶ山古石塔群に下りていく谷が走る。

### １　遺構

11 世紀後半から 16 世紀まで連綿と検出されているが，11 世紀後半から 12 世紀頃と，14 世紀から 15 世紀頃にかけてのものが主体となる。

生活関連の遺構では，掘立柱建物跡 10 棟・竪穴建物跡１軒・土坑 24 基・鍛冶関連遺構６基・焼土６基・溝状遺構 16 条・柱穴多数などがある。掘立柱建物跡は，少なくとも３時期にわたって建築されているようだが，遺構内出土遺物がほとんどないため前後関係の詳細は不明である。竪穴建物跡は，掘立柱建物跡１号の近くにあり 14 世紀後半頃のものと考えられる。これまで検出された竪穴建物跡とは異なる様相もみえる。土坑は，形状・規模など多様であるが出土遺物が少なく，共存関係・前後関係などは不明である。谷部には鍛冶関連と考えられる遺構が集中して検出された区域があり，周辺では鉄滓などの出土品も多い。この一帯で小鍛冶関係の作業が行われた可能性もある。

祭祀関係と考えられる遺構は２基ある。この他，竪穴建物跡や土坑のなかにも祭祀的要素をもつと考えられるものがあり，当時の祭祀形態を探るうえでの参考例となる。

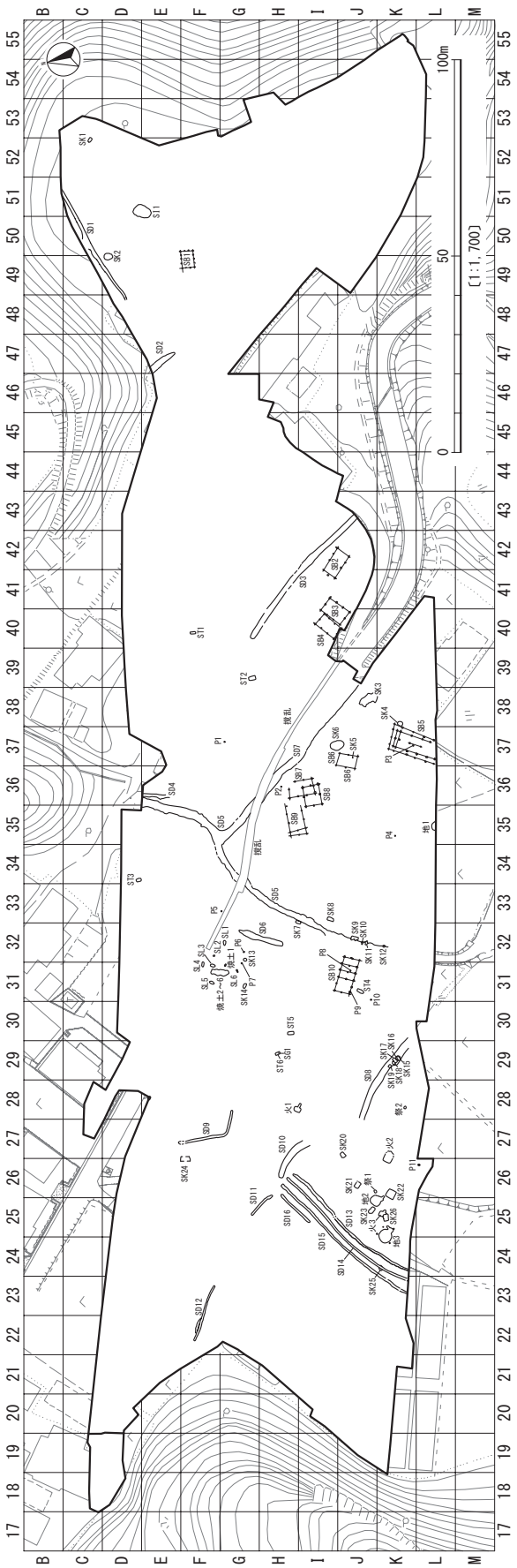
地下式坑３基・火葬土坑３基，土坑墓６基などの埋葬関連遺構が検出されている。土坑墓は３時期に分かれ，単独で存在するものと，やや近接しているものとがある。古い一群がやや近接し西側の谷近くにあるのに対して，新しい一群は散在して東側に存在する。火葬土坑や南九州では類例のない地下式坑は，谷西側斜面にある。

全体的に，遺構は中央の小丘陵一帯に多く分布しており，東側の丘陵では，わずかに掘立柱建物跡１棟，竪穴建物跡１軒，土坑２基，溝状遺構２条が頂部から北側斜面に存在しているのみである。

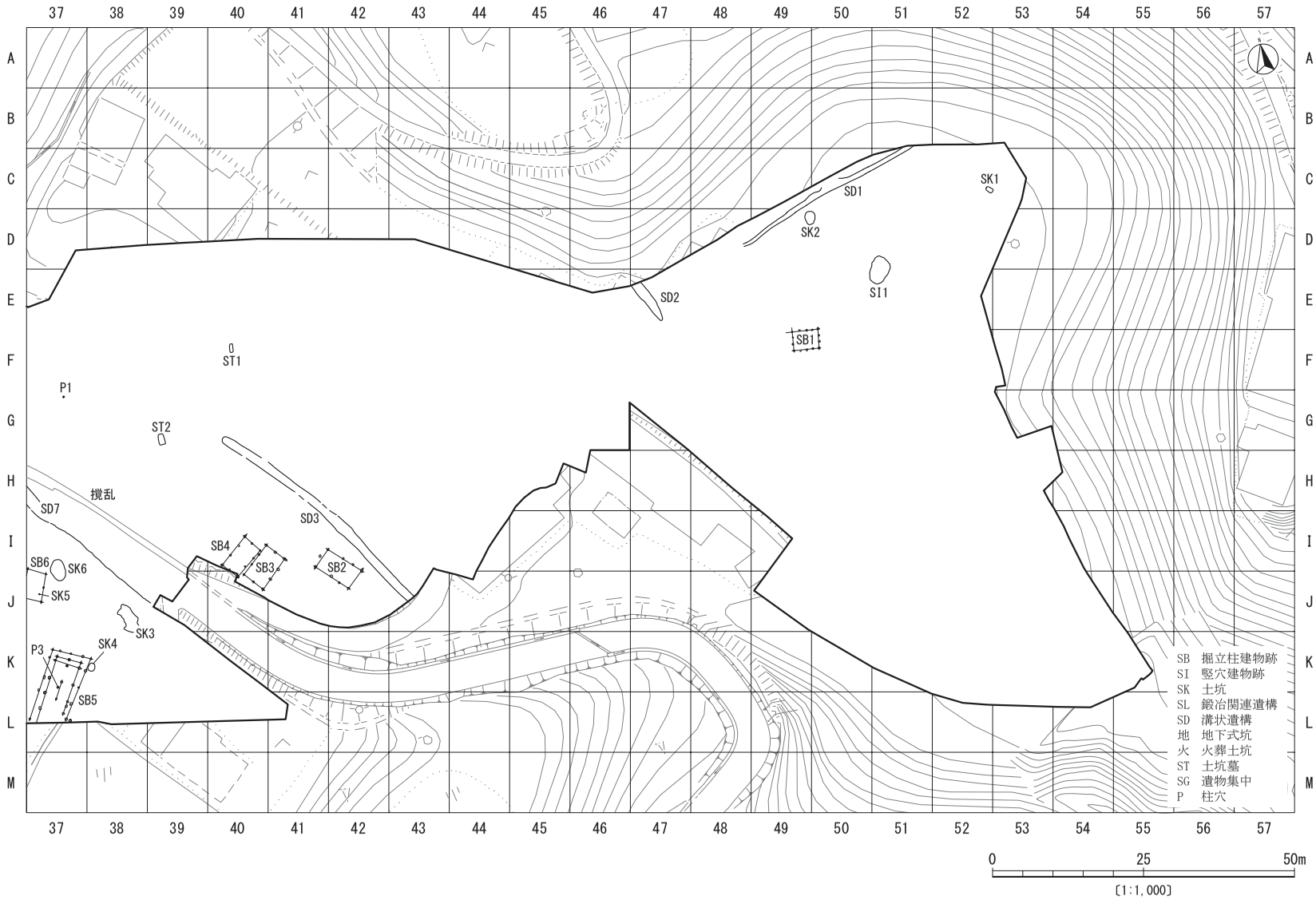
中央小丘陵では，特に頂部から東側斜面に掘立柱建物跡８棟や土坑３基，土坑墓２基，地下式坑１基などとともに，道跡と考えられる溝状遺構が検出されている。

この西側斜面から谷部にかけては，掘立柱建物跡１棟とともに多くの土坑が検出され，土坑墓も１基ある。谷頭付近には鍛冶炉や焼土も集中し，鉄滓が多く出土している。谷尻近くには祭祀遺構が１基ある。

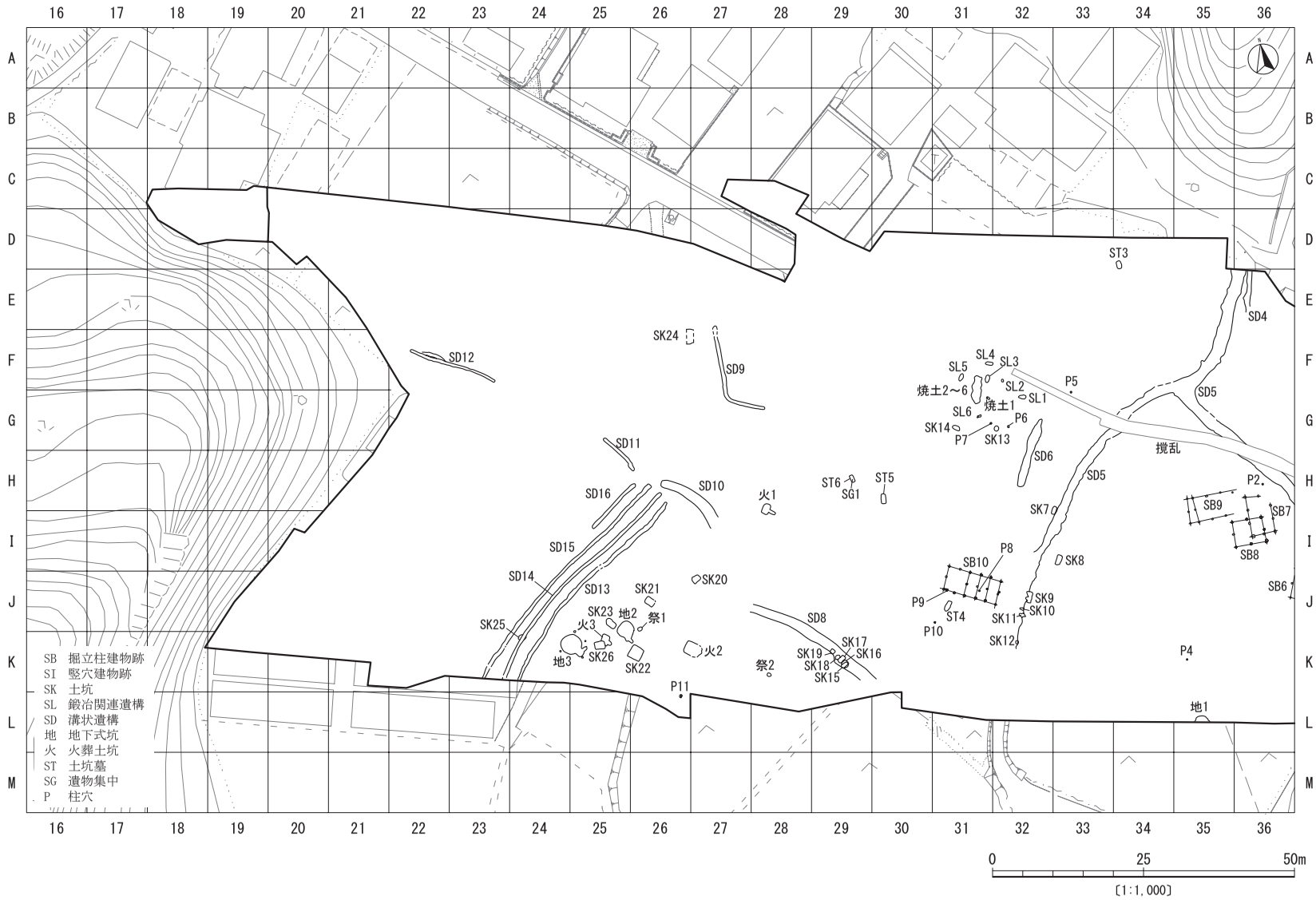
西側丘陵の東側斜面には，祭祀遺構１基や火葬土坑３基，地下式坑２基などが検出されたが，丘陵上には溝状遺構以外はほとんどなかった。




第 20 図　中世の遺構（１）




第21図　中世の遺構（2）東半部




第 22 図　中世の遺構（3）西半部

### (1) 掘立柱建物跡

E・F－49・50区付近に1棟，I・J－40～42区付近に3棟，H～L－35～37区付近に5棟，J－31区に1棟の計10棟が検出されている。1間×2間が1棟，2間×2間が2棟，2間×3間が5棟，2間×5間が1棟，3間×4間が1棟で，総柱建物・庇付建物などもある。建物の主軸方向は，東側に0～6度傾くもの4棟（1・7～9号），22～30度傾くもの3棟（5・6・10号），46～50度傾くもの3棟（2～4号）がある。

**掘立柱建物跡1号（第23図）**

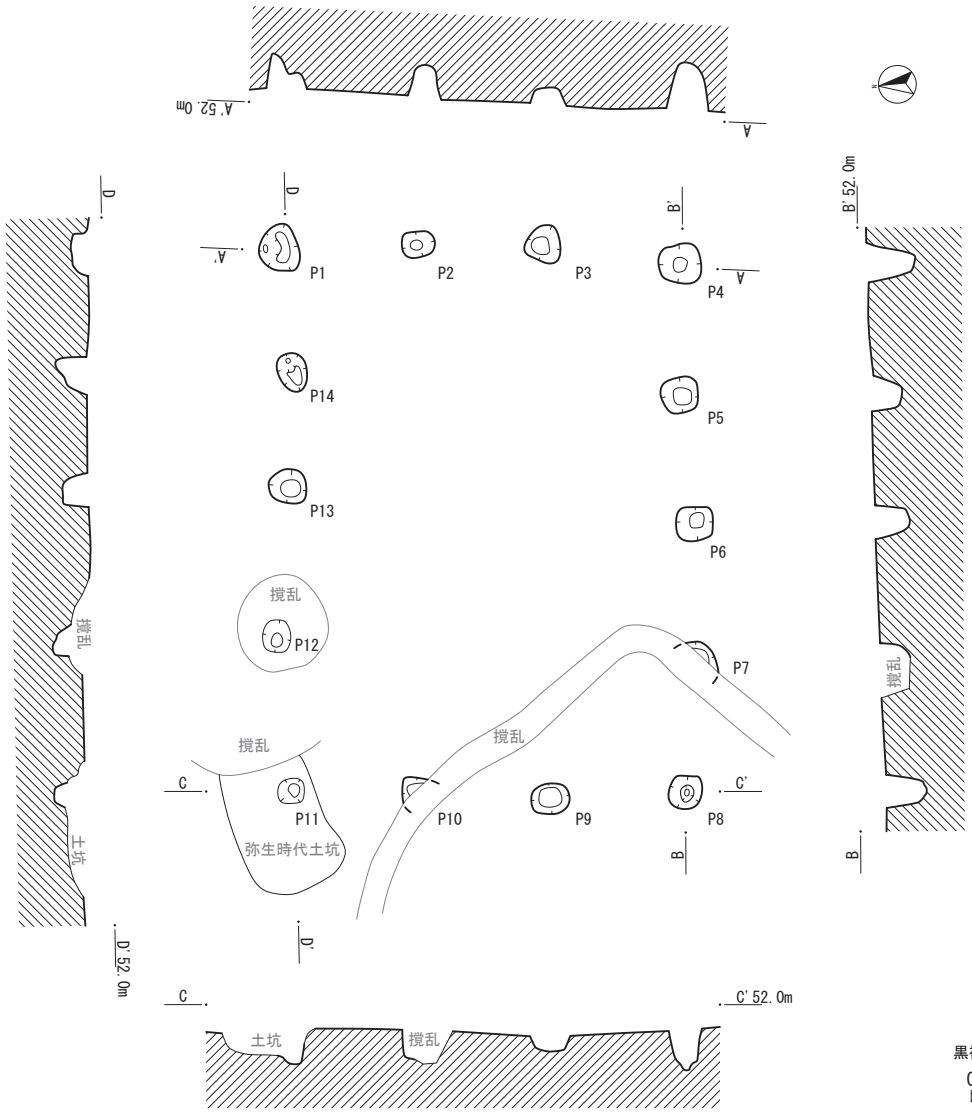
E・F－49，E－50区で検出された。東西（N 96度E）を主軸とする3間×4間の建物である。北西端の柱穴P 11は，弥生時代の土坑を切って掘られている。

柱間は，北側が西から1.22＋1.19＋0.92＋0.99 m，南側が西から1.10＋1.05＋1.02＋1.05 m，東側が北から1.10＋0.98＋1.10 m，西側が北から0.96＋1.08＋1.07 mである。柱穴の直径は21×20cm～39×31cmで，深さは9～38cmである。埋土は全て黒褐色砂質土である。

**掘立柱建物跡2号（第24図）**

I・J－41･42区で検出された。N 46度Wを主軸とする3間×2間の建物である。柱穴は対称に並んでいるが，形状や深さは一定でない。埋土は，いずれもしまりが弱く粒径の小さいアカホヤが少量混じる黒褐色土である。SX3及びSI 26を切ることから，中世の遺構と判断した。

溝状遺構3号に対して，掘立柱建物跡3号・4号の短軸が平行に位置しているのに対し，この2号は長軸が溝状遺構3号と平行に位置しており溝状遺構3号を意識した造作となっている点からも，掘立柱建物跡3号・4号と同時期の遺構と考える。




| 柱穴(cm) | | | |
|---|---|---|---|
| 番号 | 長径 | 短径 | 深さ |
| P1 | 37 | 31 | 28 |
| P2 | 27 | 20 | 26 |
| P3 | 30 | 28 | 14 |
| P4 | 34 | 31 | 37 |
| P5 | 29 | 28 | 23 |
| P6 | 29 | 27 | 27 |
| P7 | (35) | (9) | 24 |
| P8 | 26 | 26 | 32 |
| P9 | 31 | 24 | 12 |
| P10 | (21) | (20) | 27 |
| P11 | 21 | 20 | 10 |
| P12 | 26 | 22 | 13 |
| P13 | 30 | 27 | 20 |
| P14 | 31 | 23 | 25 |

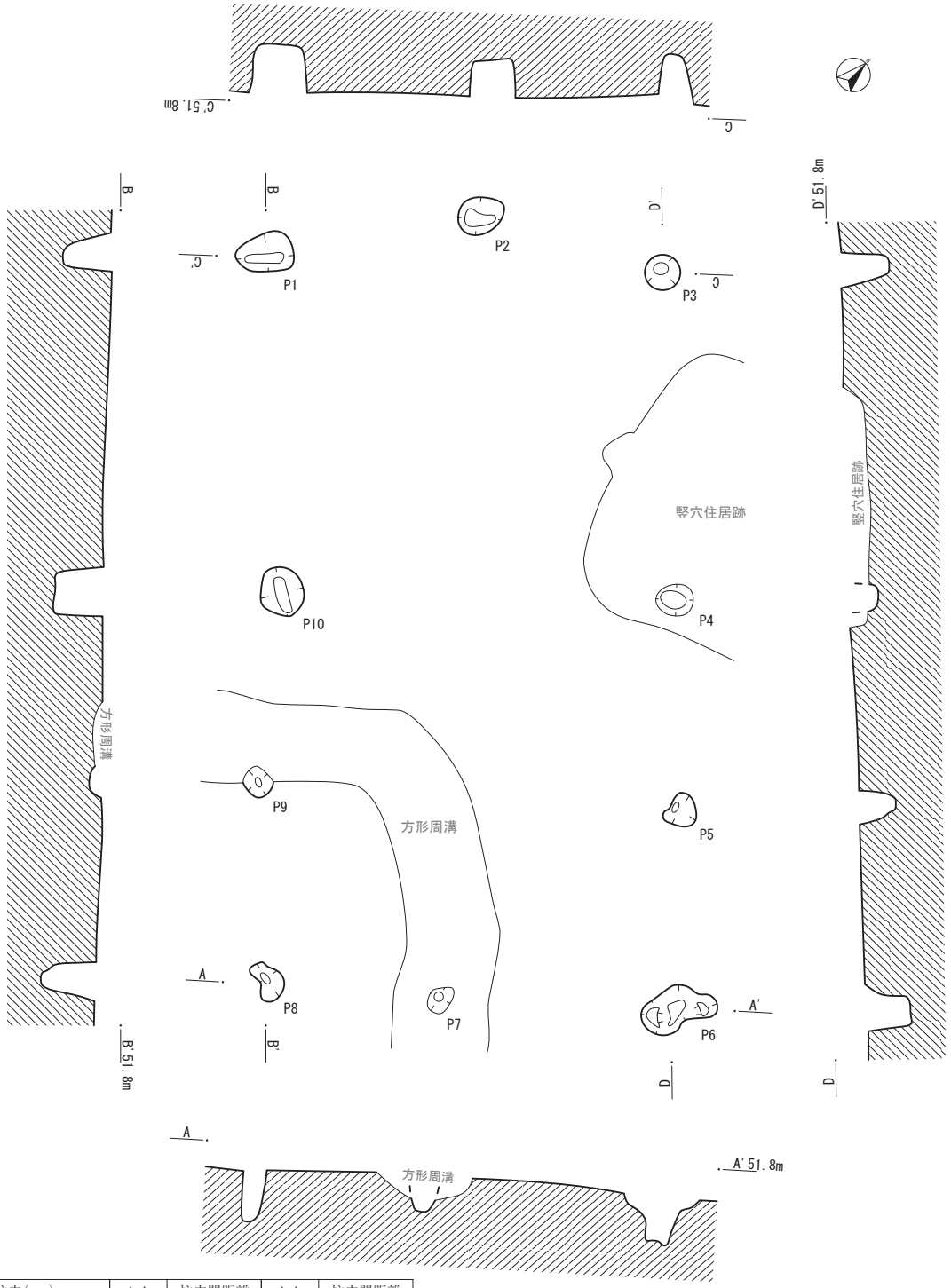
| 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|
| 桁行(cm) | P4-8 | 420 |
| | P4-5 | 105 |
| | P5-6 | 102 |
| | P6-7 | 105 |
| | P7-8 | 110 |
| | P11-1 | 430 |
| | P11-12 | 122 |
| | P12-13 | 119 |
| | P13-14 | 92 |
| | P14-1 | 99 |
| 梁行(cm) | P1-4 | 318 |
| | P1-2 | 110 |
| | P2-3 | 98 |
| | P3-4 | 110 |
| | P8-11 | 311 |
| | P8-9 | 107 |
| | P9-10 | 108 |
| | P10-11 | 96 |

黒褐色土　しまり弱い。粘性なし。

0　2m

〔1:60〕

第23図　掘立柱建物跡1号

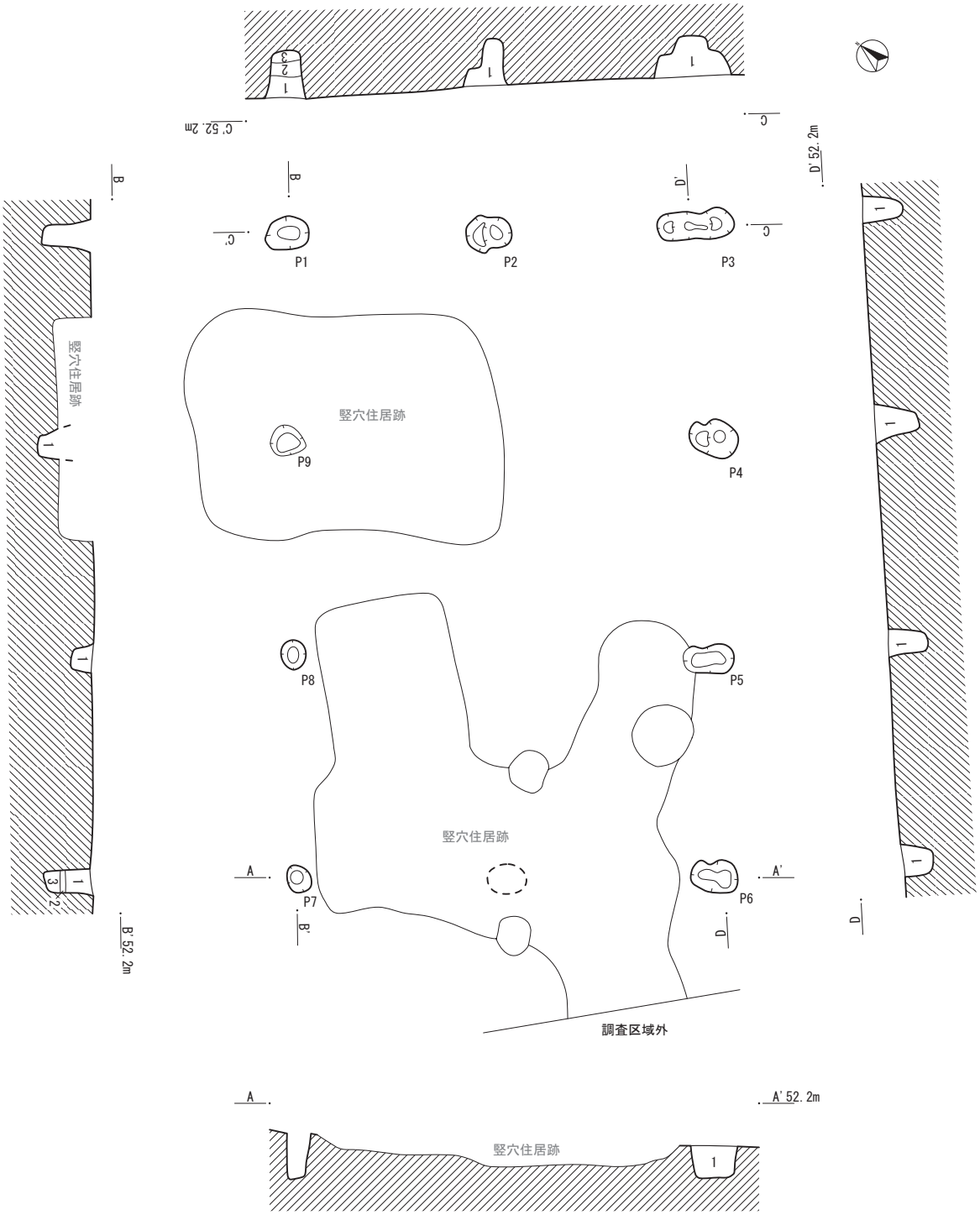



| 柱穴(cm) | | | | 方向 | 柱穴間距離 | | 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 番号 | 長径 | 短径 | 深さ | | | | | | |
| P1 | 51 | 32 | 43 | 桁行(cm) | P8-1 | 649 | 梁行(cm) | P1-3 | 356 |
| P2 | 43 | 33 | 34 | | P8-9 | 176 | | P1-2 | 197 |
| P3 | 31 | 31 | 42 | | P9-10 | 170 | | P2-3 | 169 |
| P4 | 33 | 28 | 8 | | P10-1 | 304 | | P6-8 | 365 |
| P5 | 29 | 24 | 32 | | P3-6 | 659 | | P6-7 | 211 |
| P6 | 68 | 38 | 43 | | P3-4 | 291 | | P7-8 | 153 |
| P7 | 24 | 19 | 11 | | P4-5 | 189 | | | |
| P8 | 35 | 19 | 48 | | P5-6 | 179 | | | |
| P9 | 26 | 22 | 8 | | | | | | |
| P10 | 45 | 39 | 44 | | | | | | |

黒褐色土　しまり弱い。粘性なし。

0　2m
〔1:60〕

第 24 図　掘立柱建物跡２号




| 柱穴(cm) | | | | 方向 | 柱穴間距離 | | 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 番号 | 長径 | 短径 | 深さ | | | | | | |
| P1 | 41 | 31 | 46 | | P7-1 | 609 | | P1-3 | 388 |
| P2 | 42 | 30 | 44 | | P7-8 | 212 | 梁行 | P1-2 | 189 |
| P3 | 72 | 23 | 38 | 桁行 | P8-9 | 201 | (cm) | P2-3 | 199 |
| P4 | 47 | 34 | 41 | (cm) | P9-1 | 195 | | P6-7 | 392 |
| P5 | 47 | 25 | 37 | | P3-6 | 217 | | | |
| P6 | 44 | 29 | 29 | | P3-4 | 201 | | | |
| P7 | 27 | 22 | 44 | | P4-5 | 208 | | | |
| P8 | 27 | 23 | 19 | | P5-6 | 208 | | | |
| P9 | 33 | 28 | 19 | | | | | | |

1　黒褐色土　しまり普通。粘性弱い。
2　褐灰色土　砂質土。
3　黒褐色土　しまり普通。粘性弱い。

0　2m
〔1:60〕

第 25 図　掘立柱建物跡３号

**掘立柱建物跡３号（第 25 図）**

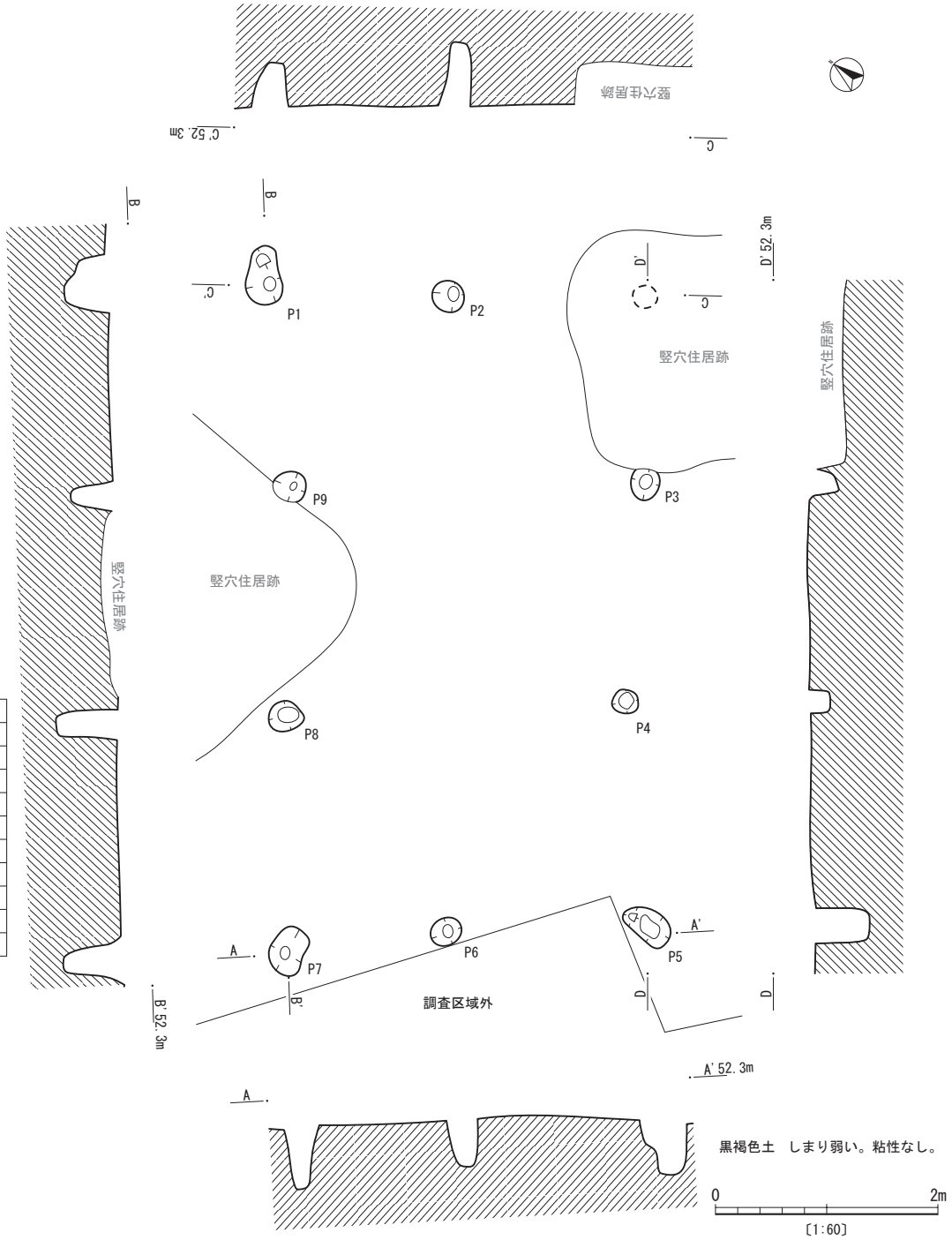
Ｉ・Ｊ－ 40･41 区のⅢｂ層で検出された。Ｎ 48 度Ｅを長軸とする３間×２間の建物である。南側中央の柱穴は，古墳時代の竪穴住居跡内にあるため，調査時に掘り上げてしまった。北西側の柱穴Ｐ９は，弥生時代の竪穴住居跡の床面で確認した。柱穴内埋土は，概ね粘性の弱い黒褐色土である。

この３号と４号は，重複しないが近接していることから中世の２時期に分かれると考えられるが，新旧関係については不明である。

**掘立柱建物跡４号（第 26 図）**

Ｉ・Ｊ－ 40 区のⅢｂ層で検出された。Ｎ 50 度Ｅを長軸とする３間×２間の建物である。北東端の柱穴の位置は，弥生時代の住居跡内に想定できるが検出できなかった。柱穴間隔は，桁行が 189～208cm，梁行が 150～180cm と若干のバラツキがあるものの，それぞれ 200cm，165cm を基本とした建物のようである。柱穴内埋土は，いずれもしまりが弱くアカホヤが少量混在する黒褐色土である。

南西端の柱穴Ｐ５で土師甕の小片が出土している。



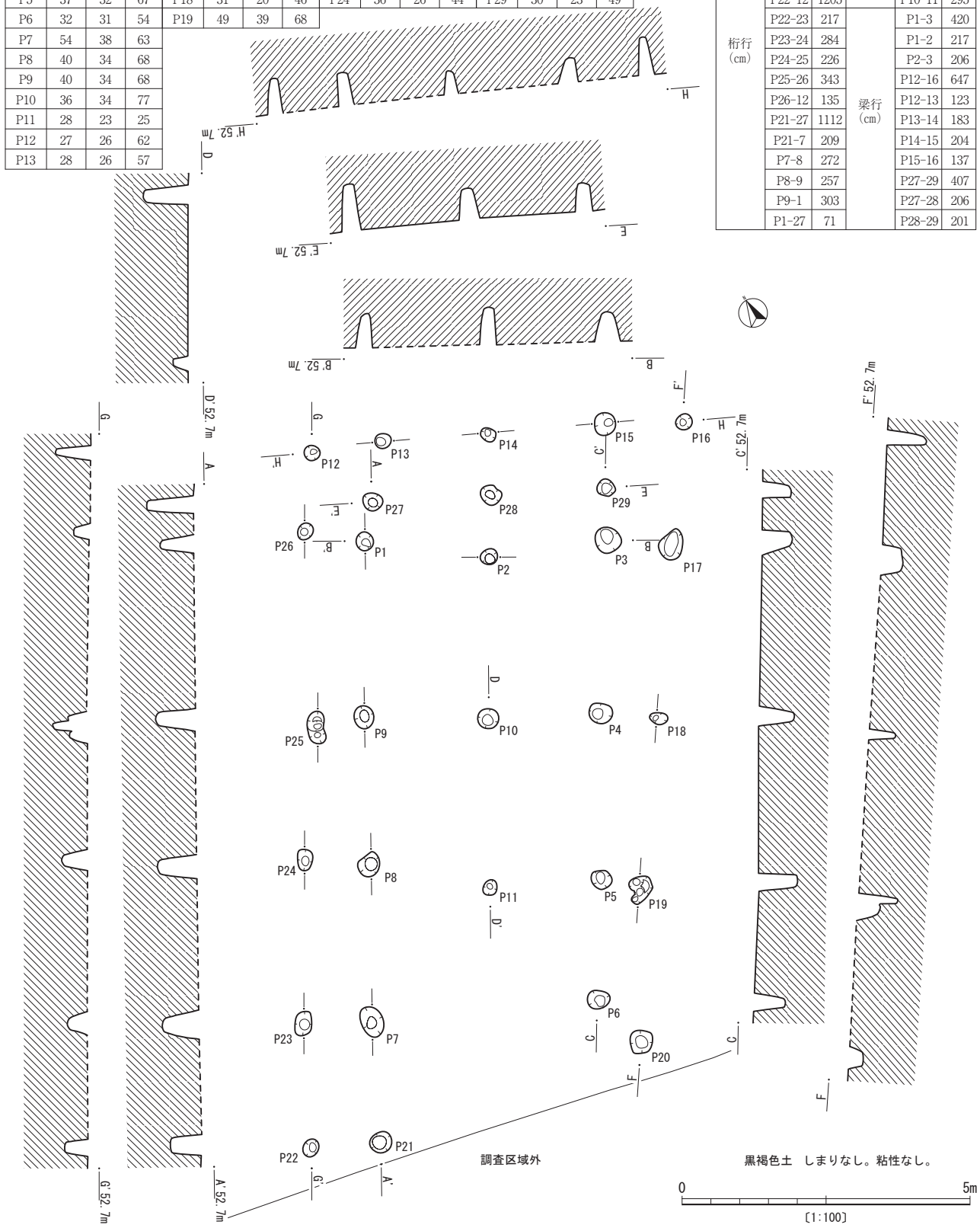

| 柱穴(cm) | | | |
|---|---|---|---|
| 番号 | 長径 | 短径 | 深さ |
| P1 | 52 | 29 | 39 |
| P2 | 29 | 27 | 57 |
| P3 | 28 | 25 | 23 |
| P4 | 23 | 21 | 18 |
| P5 | 45 | 26 | 48 |
| P6 | 28 | 24 | 42 |
| P7 | 42 | 29 | 55 |
| P8 | 31 | 27 | 55 |
| P9 | 29 | 26 | 37 |

| 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|
| 桁行(cm) | P3-5 | 396 |
| | P3-4 | 196 |
| | P4-5 | 201 |
| | P7-1 | 604 |
| | P7-8 | 208 |
| | P8-9 | 207 |
| | P9-1 | 189 |
| 梁行(cm) | P1-2 | 166 |
| | P5-7 | 323 |
| | P5-6 | 180 |
| | P6-7 | 143 |

第 26 図　掘立柱建物跡４号

| 柱穴(cm) | | | | 柱穴(cm) | | | | 柱穴(cm) | | | | 柱穴(cm) | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 番号 | 長径 | 短径 | 深さ | 番号 | 長径 | 短径 | 深さ | 番号 | 長径 | 短径 | 深さ | 番号 | 長径 | 短径 | 深さ |
| P1 | 32 | 30 | 59 | P14 | 27 | 21 | 40 | P20 | 39 | 38 | 24 | P25 | 55 | 26 | 59 |
| P2 | 30 | 26 | 65 | P15 | 38 | 36 | 43 | P21 | 38 | 35 | 54 | P26 | 30 | 25 | 27 |
| P3 | 45 | 43 | 51 | P16 | 28 | 26 | 68 | P22 | 32 | 26 | 40 | P27 | 33 | 31 | 81 |
| P4 | 40 | 34 | 61 | P17 | 55 | 39 | 37 | P23 | 41 | 28 | 34 | P28 | 36 | 30 | 53 |
| P5 | 37 | 32 | 67 | P18 | 31 | 20 | 46 | P24 | 36 | 26 | 44 | P29 | 30 | 23 | 49 |
| P6 | 32 | 31 | 54 | P19 | 49 | 39 | 68 | | | | | | | | |
| P7 | 54 | 38 | 63 | | | | | | | | | | | | |
| P8 | 40 | 34 | 68 | | | | | | | | | | | | |
| P9 | 40 | 34 | 68 | | | | | | | | | | | | |
| P10 | 36 | 34 | 77 | | | | | | | | | | | | |
| P11 | 28 | 23 | 25 | | | | | | | | | | | | |
| P12 | 27 | 26 | 62 | | | | | | | | | | | | |
| P13 | 28 | 26 | 57 | | | | | | | | | | | | |

| 方向 | 柱穴間距離 | | 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 桁行(cm) | P16-20 | 1077 | 桁行(cm) | P6-29 | 886 |
| | P16-17 | 213 | | P6-5 | 208 |
| | P17-18 | 302 | | P5-4 | 287 |
| | P18-19 | 298 | | P4-3 | 298 |
| | P19-20 | 263 | | P3-29 | 92 |
| | P22-12 | 1205 | | P10-11 | 295 |
| | P22-23 | 217 | 梁行(cm) | P1-3 | 420 |
| | P23-24 | 284 | | P1-2 | 217 |
| | P24-25 | 226 | | P2-3 | 206 |
| | P25-26 | 343 | | P12-16 | 647 |
| | P26-12 | 135 | | P12-13 | 123 |
| | P21-27 | 1112 | | P13-14 | 183 |
| | P21-7 | 209 | | P14-15 | 204 |
| | P7-8 | 272 | | P15-16 | 137 |
| | P8-9 | 257 | | P27-29 | 407 |
| | P9-1 | 303 | | P27-28 | 206 |
| | P1-27 | 71 | | P28-29 | 201 |




第 27 図　掘立柱建物跡５号

**掘立柱建物跡５号（第 27 図）**

Ｋ・Ｌ－ 37 区のⅢｂ層で検出された。検出範囲で２×４間，加えて３面庇の建物である。Ｎ 30 度Ｅを主軸とするが，南側は調査区外に出るため全容は不明であるものの，４面庇となる可能性もある。北側に１尺間が設けられ，北側２間は倉の特徴を持つ総柱建物跡である。身舎の北側にある庇部分には柱列が２列並行することから，建て替えあるいは支え柱の可能性も考えられる。

柱穴間隔は整然としておらず，桁行が 208～303cm，梁行が 2.17 ｍと 2.06 ｍである。庇との間は約 1.0 ｍである。

柱穴埋土は，しまりがない黒褐色土で粒径が小さい少量のアカホヤを層中に含む。庇と想定される部分を除く柱穴底面の深さは概ね同レベルにある。柱穴内から青磁片が出土した。

**掘立柱建物跡６号（第 28 図）**

Ｉ・Ｊ－ 36･37 区のⅢｂ層で検出された。Ｎ 22 度Ｅを軸とする１間×２間の建物である。桁行は 2.3～2.5 ｍ程だが，梁間は 3.1 ｍ以上と広い。

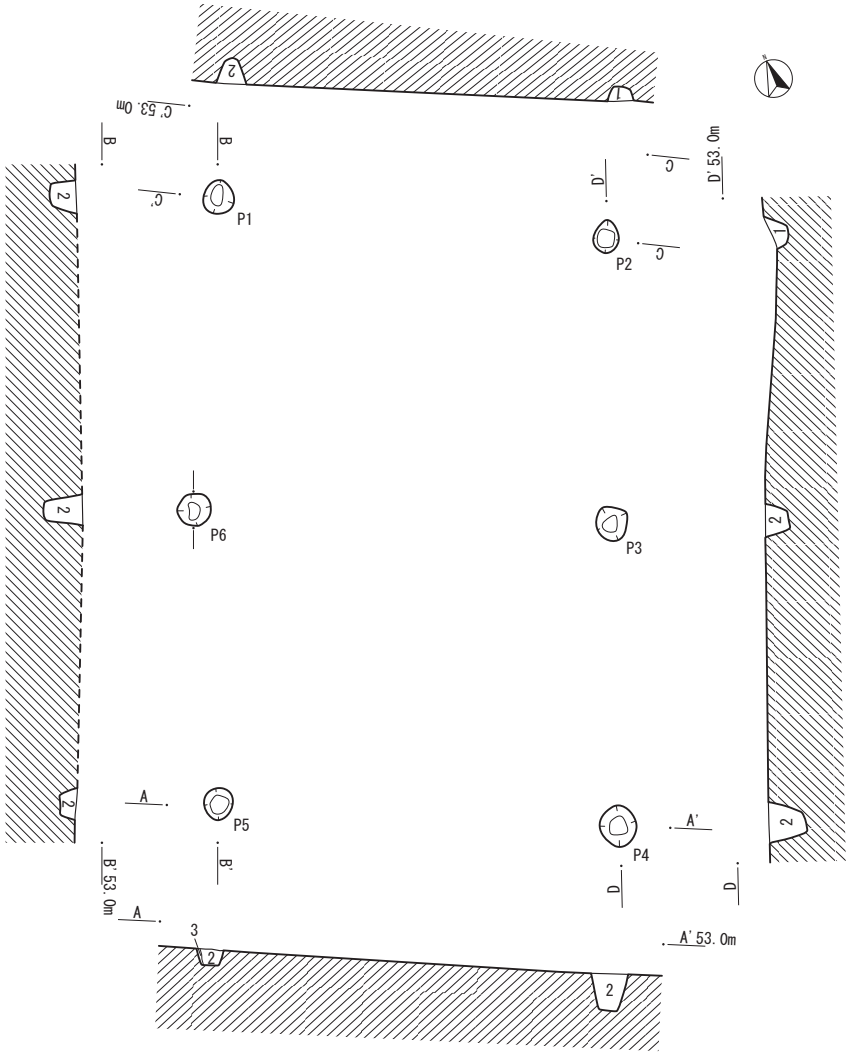
柱穴埋土は，しまりが弱い黒色土を主体として層中に粒径の小さいアカホヤが少量混じる。

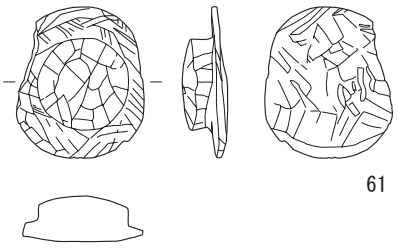
Ｐ２からバレン形の滑石製品が出土している（61）。3.4cm×4.1cmの楕円形，円盤状部分の厚さは４㎜足らずと薄く断面凸レンズ状を呈し，つまみ部分は直径 2.5cm 弱で高さが８㎜ほどである。

**掘立柱建物跡７号（第 29 図）**

Ｈ・Ｉ－ 36 区のⅢｂ層で検出された。Ｎ１度Ｅを軸とする２間×３間の建物である。北東端の柱穴が用地外に出るため確実ではないが，北西端の柱穴に対して桁行北端の柱穴が南側に寄っており，ややいびつな形態となる。

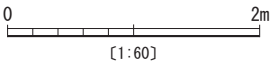
南辺の柱穴は底面がほぼ同じ深さであるが，北辺の柱穴は，北西側柱穴が南側に比べて若干高い面にあり，桁行北端の柱穴は底面が他の柱穴に比して 50～60cm低い。南東隅の柱穴でＰ６をとるとＰ４とＰ６間は 2.3 ｍある。




| 柱穴(cm) | | | | 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 番号 | 長径 | 短径 | 深さ | | | |
| P1 | 26 | 24 | 21 | 桁行(cm) | P2-4 | 467 |
| P2 | 26 | 20 | 11 | | P2-3 | 227 |
| P3 | 28 | 26 | 19 | | P3-4 | 240 |
| P4 | 32 | 29 | 30 | | P5-1 | 480 |
| P5 | 25 | 22 | 13 | | P5-6 | 234 |
| P6 | 26 | 25 | 31 | | P6-1 | 248 |
| | | | | 梁行(cm) | P1-2 | 310 |
| | | | | | P4-5 | 316 |

1　黒褐色土　しまり弱い。粘性弱い。
2　黒色土　しまり弱い。粘性弱い。
3　褐色土　しまり弱い。粘性弱い。




第 28 図　掘立柱建物跡６号と出土遺物

埋土は，概ね黒色を呈し，しまりが弱く粒径の小さい少量のアカホヤと池田降下軽石を含んでいる。

**掘立柱建物跡８号（第 30 図）**

Ｉ－ 35・36 区のⅢｂ層で検出された。Ｎ１度Ｅを主軸とする２間×２間の建物である。柱穴間隔は，南北軸 181～211cmに対して東西軸 240～256cmと，若干長くなっている。

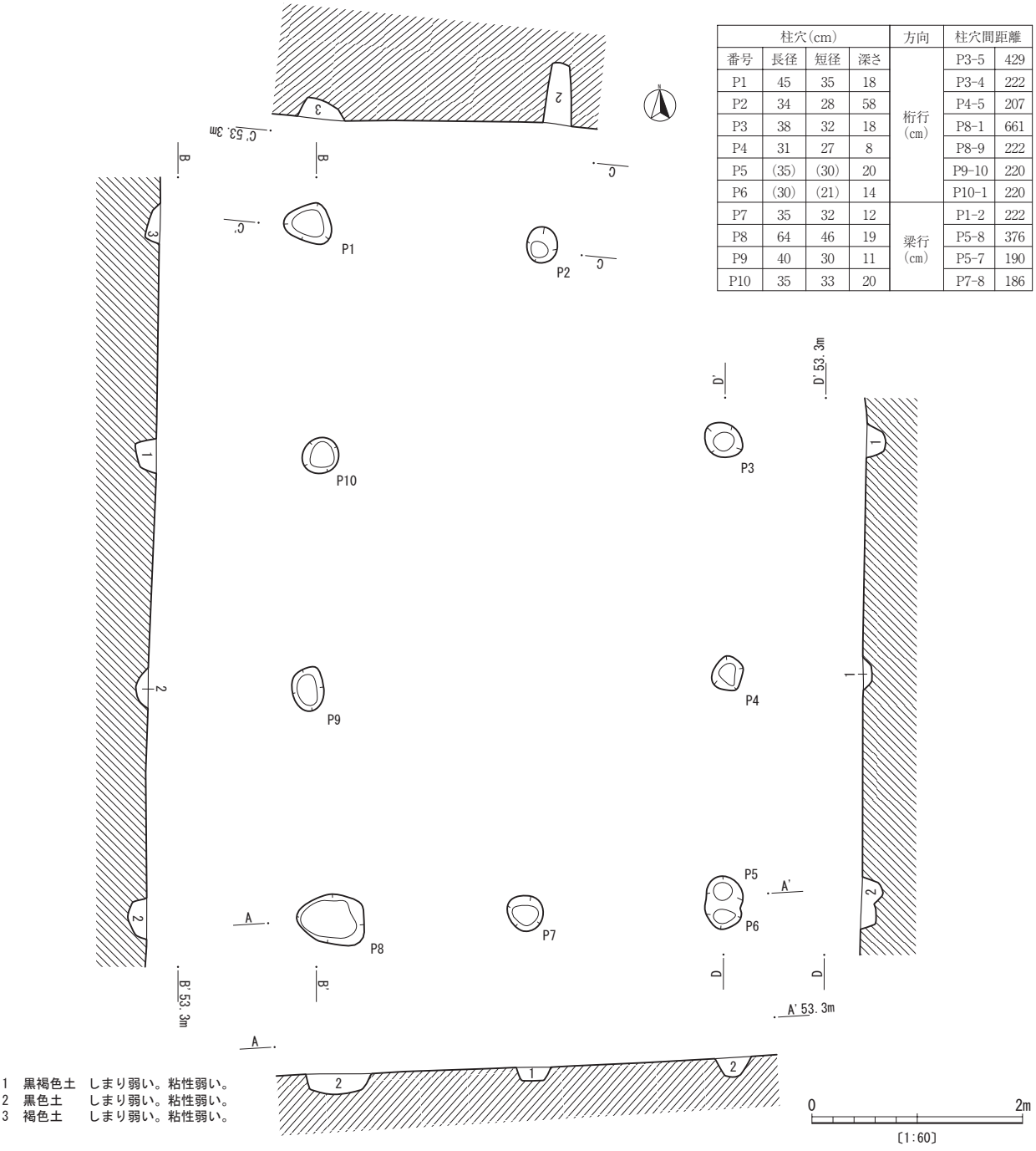
埋土は，しまりの弱い黒褐色土を主体として，層中にそれぞれ粒径の細かいアカホヤ及び池田降下軽石が少量混入している。

**掘立柱建物跡９号（第 31 図）**

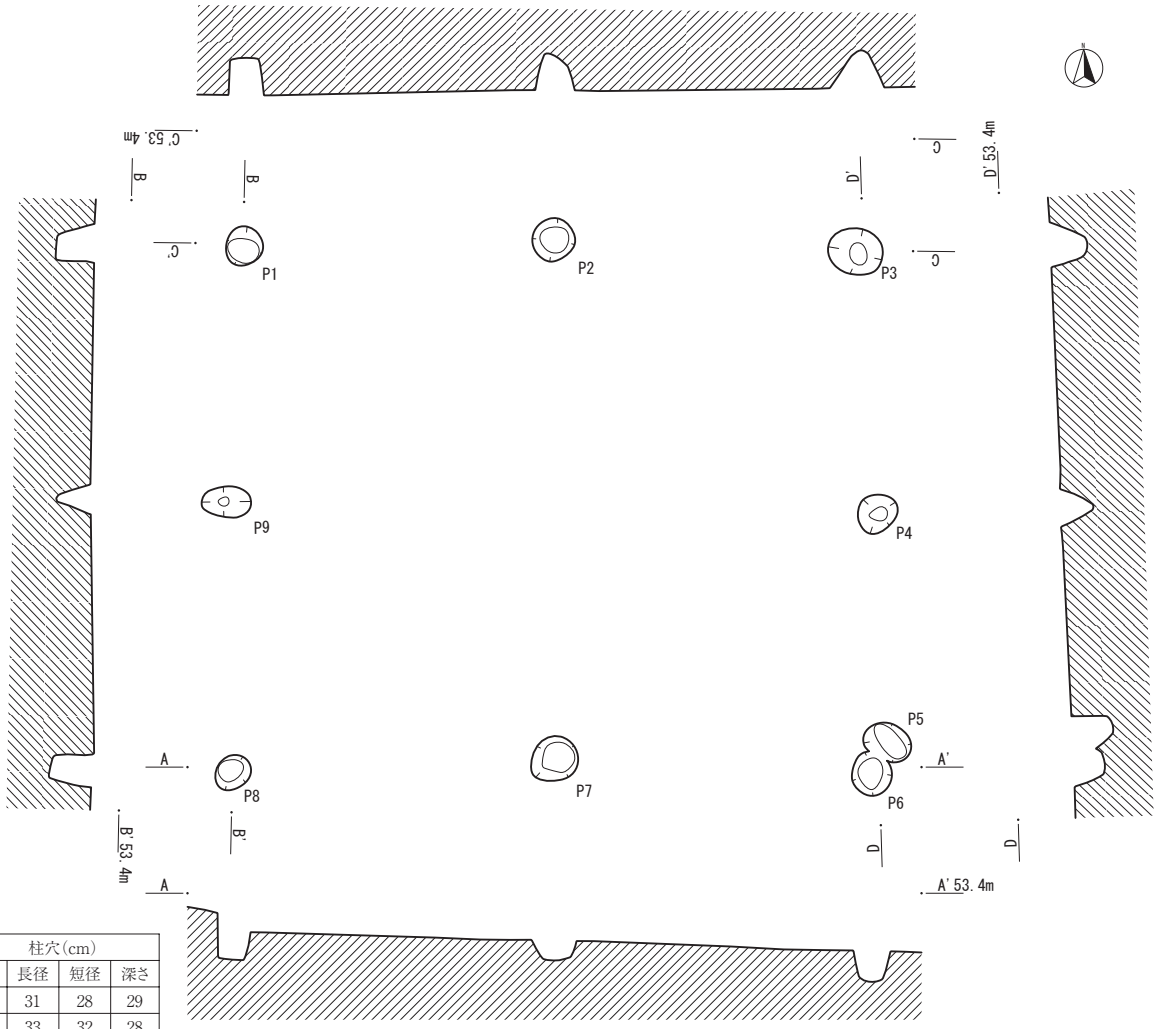
Ｈ・Ｉ－ 35 区のⅢｂ層で検出された。Ｎ 90 度Ｅを軸とする，検出範囲では西側に庇を持つ２間×３間の建物である。柱間は，桁行 202～229cm，梁行 195～214cm。地形が東に傾斜しているのに対して身舎の柱穴の底面はほぼ水平であるため，東側の柱ほど検出が困難となり南東隅柱穴などが検出できなかった。庇は 95～140cmと南側に開いている。

埋土は，しまりの弱い黒色土が主体でアカホヤが混じる。埋土内に痕跡が見える柱穴もある。

| 柱穴(cm) | | | | 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 番号 | 長径 | 短径 | 深さ | | | |
| P1 | 45 | 35 | 18 | 桁行(cm) | P3-5 | 429 |
| P2 | 34 | 28 | 58 | | P3-4 | 222 |
| P3 | 38 | 32 | 18 | | P4-5 | 207 |
| P4 | 31 | 27 | 8 | | P8-1 | 661 |
| P5 | (35) | (30) | 20 | | P8-9 | 222 |
| P6 | (30) | (21) | 14 | | P9-10 | 220 |
| P7 | 35 | 32 | 12 | 梁行(cm) | P10-1 | 220 |
| P8 | 64 | 46 | 19 | | P1-2 | 222 |
| P9 | 40 | 30 | 11 | | P5-8 | 376 |
| P10 | 35 | 33 | 20 | | P5-7 | 190 |
| | | | | | P7-8 | 186 |




第 29 図　掘立柱建物跡７号




| 柱穴(cm) | | | |
|---|---|---|---|
| 番号 | 長径 | 短径 | 深さ |
| P1 | 31 | 28 | 29 |
| P2 | 33 | 32 | 28 |
| P3 | 43 | 36 | 29 |
| P4 | 32 | 29 | 26 |
| P5 | (38) | (27) | 32 |
| P6 | (35) | (32) | 24 |
| P7 | 39 | 35 | 15 |
| P8 | 30 | 25 | 29 |
| P9 | 39 | 24 | 27 |

| 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|
| 桁行(cm) | P1-3 | 484 |
| | P1-2 | 245 |
| | P2-3 | 240 |
| | P6-8 | 506 |
| | P6-7 | 250 |
| | P7-8 | 256 |

| 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|
| 梁行(cm) | P3-6 | 414 |
| | P3-4 | 208 |
| | P4-5 | 181 |
| | P4-6 | 201 |

| 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|
| 梁行(cm) | P8-1 | 416 |
| | P8-9 | 211 |
| | P9-1 | 205 |

第 30 図　掘立柱建物跡８号

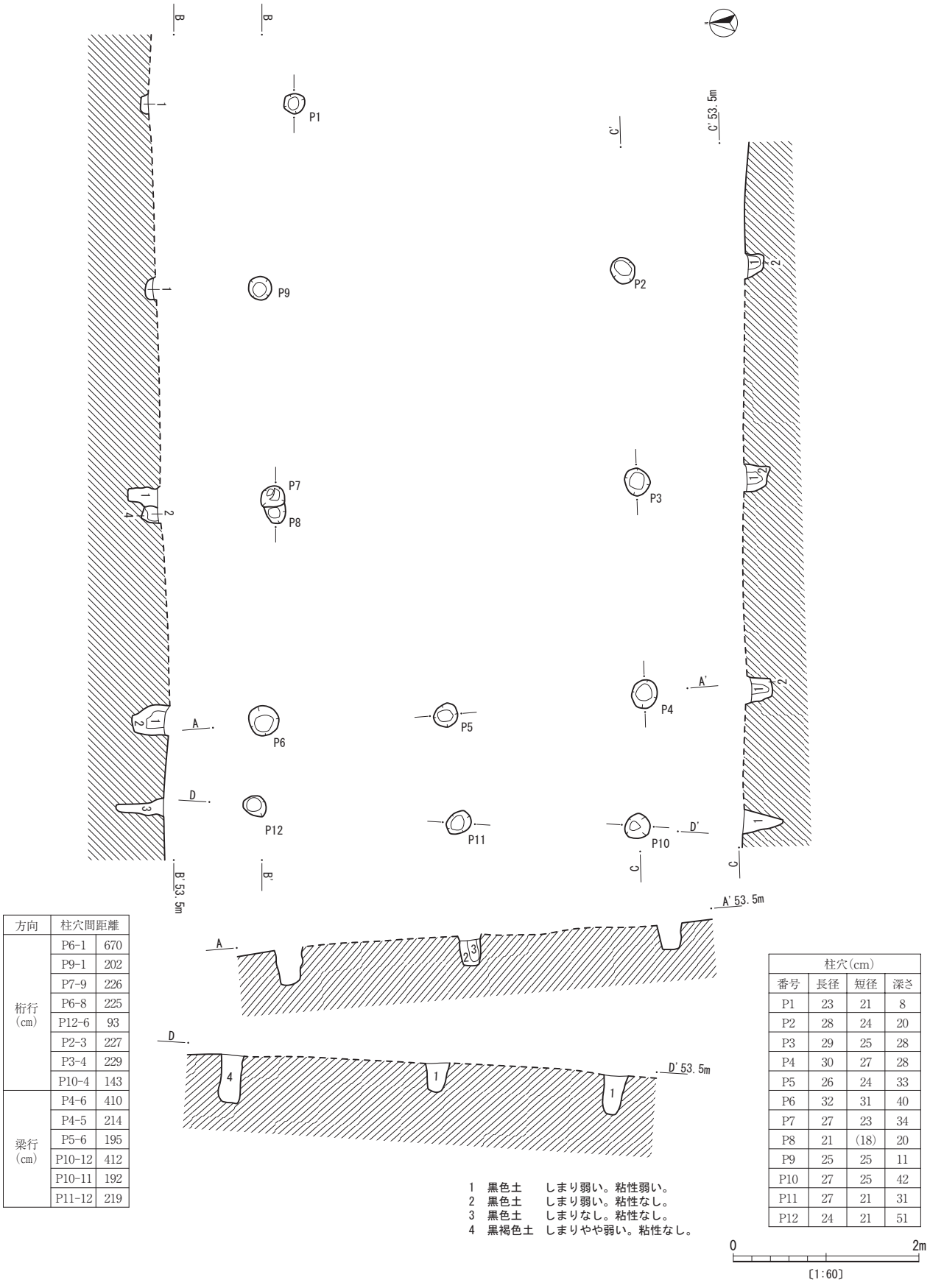
**掘立柱建物跡 10 号（第 32 図）**

Ⅰ・Ｊ－ 31 区，Ｊ－ 32 区のⅡｂ層上面で検出された。Ｎ 62 度Ｗを軸とする２間×５間，梁行約 390cm，桁行約 890cm，床面積約 35.1㎡の建物である。柱穴 18 本からなっており，南東側は総柱になっている。建物のプランは２間×３間と考えられ，残り２間×２間は側柱のみである。柱間は，梁行 178～220cm，桁行 165～190cmである。柱穴は，円形で径が 28～42cm，検出面からの深さが 27～100cmである。地形が東から西へ下がっており，西側は若干浅くなる。

土師器坏の破片が２点出土している。いずれも，胎土に茶石・白石・輝石を含み，浅黄橙色を呈し表面の摩耗が目立つ。62 は，口径 13cm，器高３cm，底径 9.0cmの口縁部片で，横方向にナデ調整されている。63 は，底径７cmの糸切り底の底部から胴部で，ヘラナデ調整されている。この他，西側中央のＰ２から糸切り底の土師器が，総柱のＰ 18 から白磁が出土しているが小片のため図化できなかった。

埋土は，黒褐色土が中心でしまりが弱く，層中に若干のアカホヤを含む。

柱穴規模，埋土状況と遺跡内の位置関係から，中世の倉庫的な施設と考えられる。



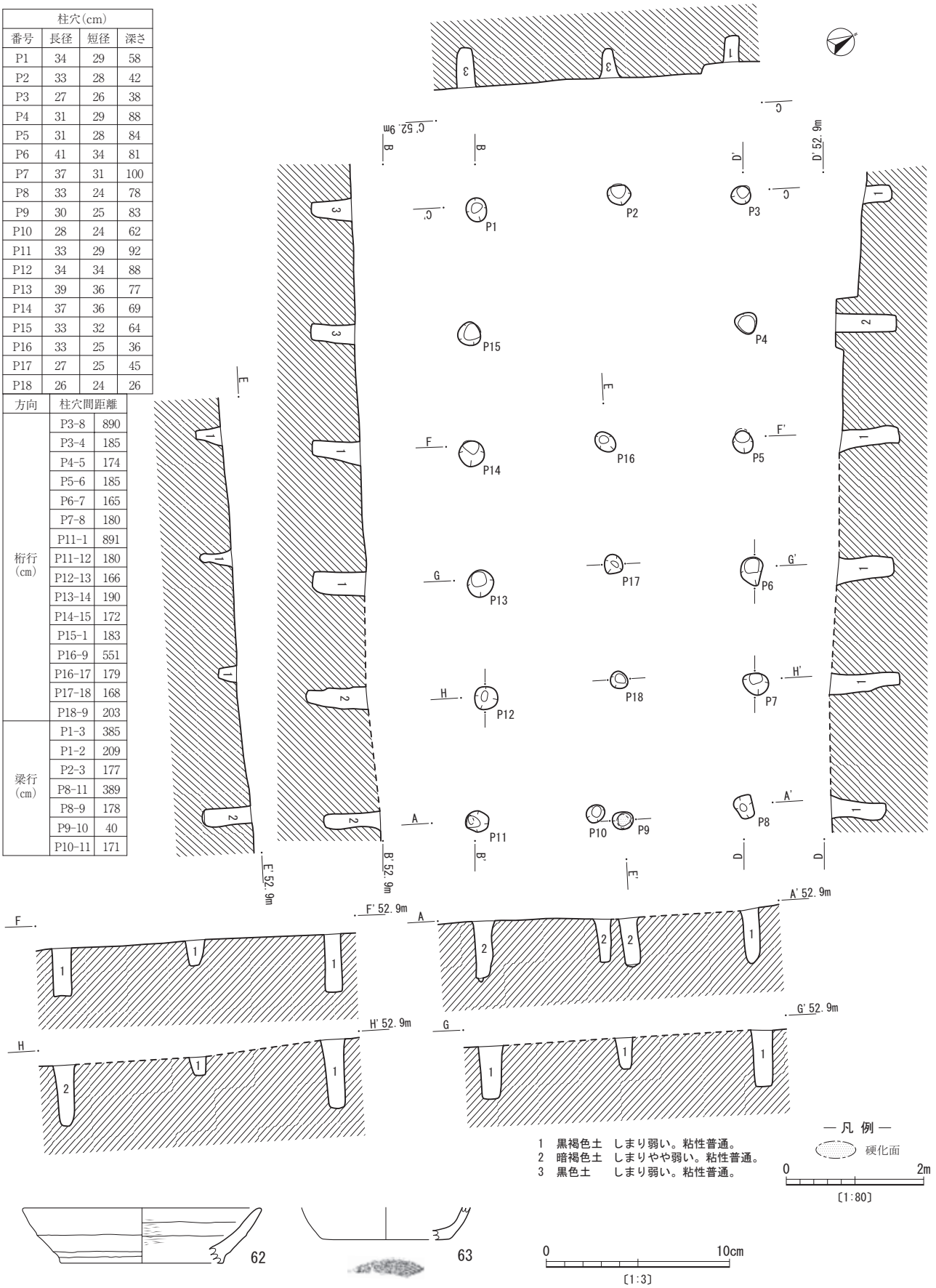

| 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|
| 桁行（cm） | P6-1 | 670 |
| | P9-1 | 202 |
| | P7-9 | 226 |
| | P6-8 | 225 |
| | P12-6 | 93 |
| | P2-3 | 227 |
| | P3-4 | 229 |
| | P10-4 | 143 |
| 梁行（cm） | P4-6 | 410 |
| | P4-5 | 214 |
| | P5-6 | 195 |
| | P10-12 | 412 |
| | P10-11 | 192 |
| | P11-12 | 219 |

| 柱穴（cm） | | | |
|---|---|---|---|
| 番号 | 長径 | 短径 | 深さ |
| P1 | 23 | 21 | 8 |
| P2 | 28 | 24 | 20 |
| P3 | 29 | 25 | 28 |
| P4 | 30 | 27 | 28 |
| P5 | 26 | 24 | 33 |
| P6 | 32 | 31 | 40 |
| P7 | 27 | 23 | 34 |
| P8 | 21 | (18) | 20 |
| P9 | 25 | 25 | 11 |
| P10 | 27 | 25 | 42 |
| P11 | 27 | 21 | 31 |
| P12 | 24 | 21 | 51 |

第 31 図　掘立柱建物跡９号

| 柱穴(cm) | | | |
|---|---|---|---|
| 番号 | 長径 | 短径 | 深さ |
| P1 | 34 | 29 | 58 |
| P2 | 33 | 28 | 42 |
| P3 | 27 | 26 | 38 |
| P4 | 31 | 29 | 88 |
| P5 | 31 | 28 | 84 |
| P6 | 41 | 34 | 81 |
| P7 | 37 | 31 | 100 |
| P8 | 33 | 24 | 78 |
| P9 | 30 | 25 | 83 |
| P10 | 28 | 24 | 62 |
| P11 | 33 | 29 | 92 |
| P12 | 34 | 34 | 88 |
| P13 | 39 | 36 | 77 |
| P14 | 37 | 36 | 69 |
| P15 | 33 | 32 | 64 |
| P16 | 33 | 25 | 36 |
| P17 | 27 | 25 | 45 |
| P18 | 26 | 24 | 26 |

| 方向 | 柱穴間距離 | |
|---|---|---|
| 桁行(cm) | P3-8 | 890 |
| | P3-4 | 185 |
| | P4-5 | 174 |
| | P5-6 | 185 |
| | P6-7 | 165 |
| | P7-8 | 180 |
| | P11-1 | 891 |
| | P11-12 | 180 |
| | P12-13 | 166 |
| | P13-14 | 190 |
| | P14-15 | 172 |
| | P15-1 | 183 |
| | P16-9 | 551 |
| | P16-17 | 179 |
| | P17-18 | 168 |
| | P18-9 | 203 |
| 梁行(cm) | P1-3 | 385 |
| | P1-2 | 209 |
| | P2-3 | 177 |
| | P8-11 | 389 |
| | P8-9 | 178 |
| | P9-10 | 40 |
| | P10-11 | 171 |




第 32 図　掘立柱建物跡 10 号と出土遺物

### (2) 竪穴建物跡（第 33・34 図）

丘陵部東端近くのD・E－50・51 区のⅢ層で検出された。北東から南西を長軸とするＮ 37 度Ｅに主軸をもつ。長辺 4.3ｍ，短辺 2.9ｍ，検出面からの深さ 0.6ｍの長方形をした竪穴建物跡である。肩部が後世に崩されているが，本来は４ｍ× 2.5ｍほどの規模だったと考えられ，長軸の南端側にある径 35 × 32㎝，検出面からの深さが 85㎝の柱穴と，長軸のやや北側にある径 65 × 45㎝検出面からの深さ 35㎝の柱穴の２本柱からなる建物である。

埋土は，褐色の砂質土が主体で遺構内下層にアカホヤブロックが多量に混入し，上・中層には池田降下軽石混じりの暗黒色ブロックが含まれていること，さらには建物周囲の肩部が人為的に破壊されていることから，自然堆積ではなく人為的に埋められた様子が伺える。Ｐ１・２の埋土も砂質土で，ともに柱痕跡の埋土が脆く，抜き取られた可能性がある。南側隅に横穴がある。軽石と鉄製品が床面直上で発見されたほか，埋土中から青磁・白磁などが出土している。

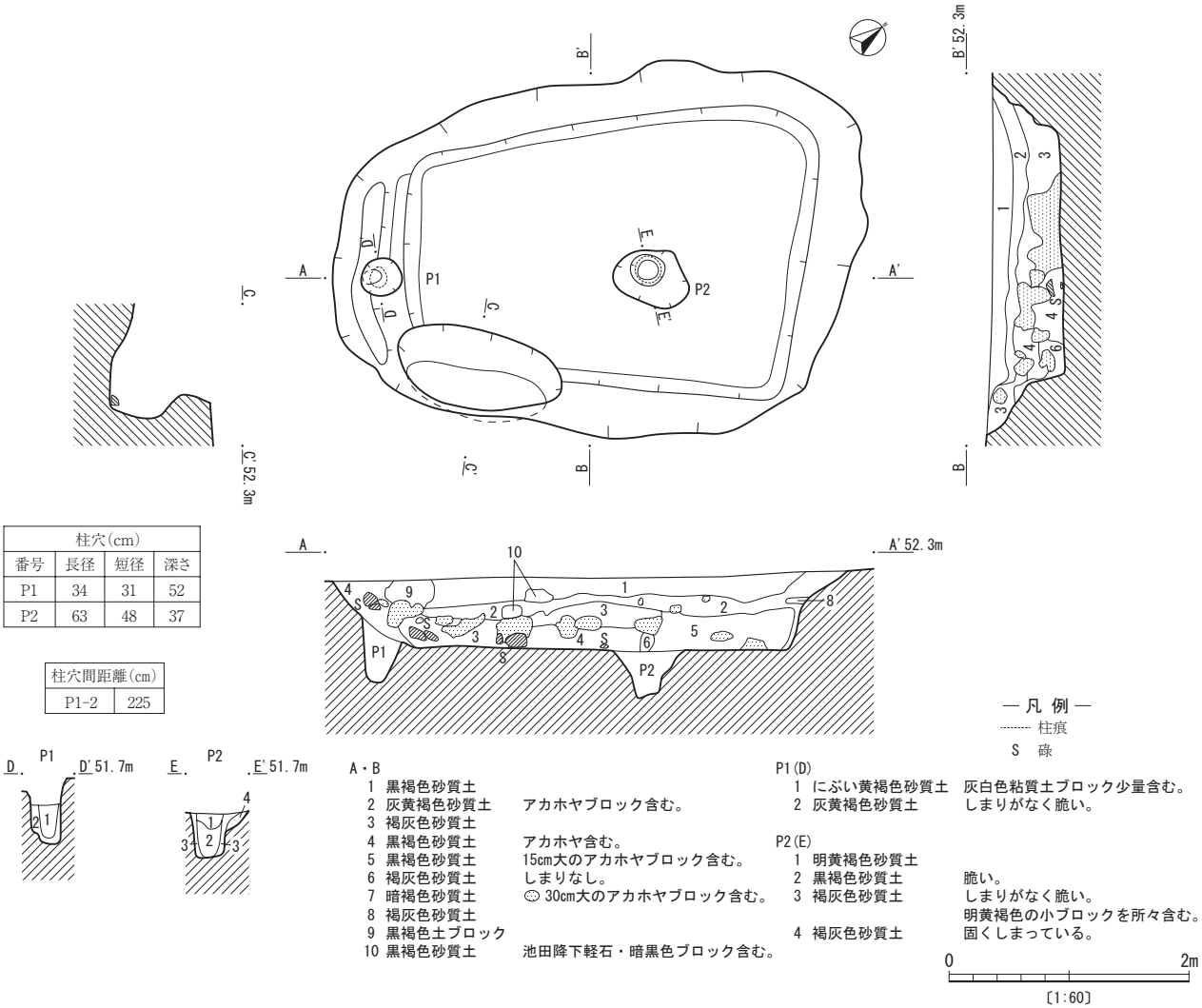
64 は白磁皿で，口径 10㎝，口縁から胴部の破片である。胴部下方は露胎で，内面は施釉され灰白色を呈するが，一部に釉切れがある。

65・66 は，青磁碗の破片である。65 は口縁部片で，口径 18㎝で淡緑色を呈する。66 は，底径 5.4㎝の高台片である。淡緑色を呈し，高台内は露胎でにぶい黄橙色から赤色，他は淡緑色を呈する。

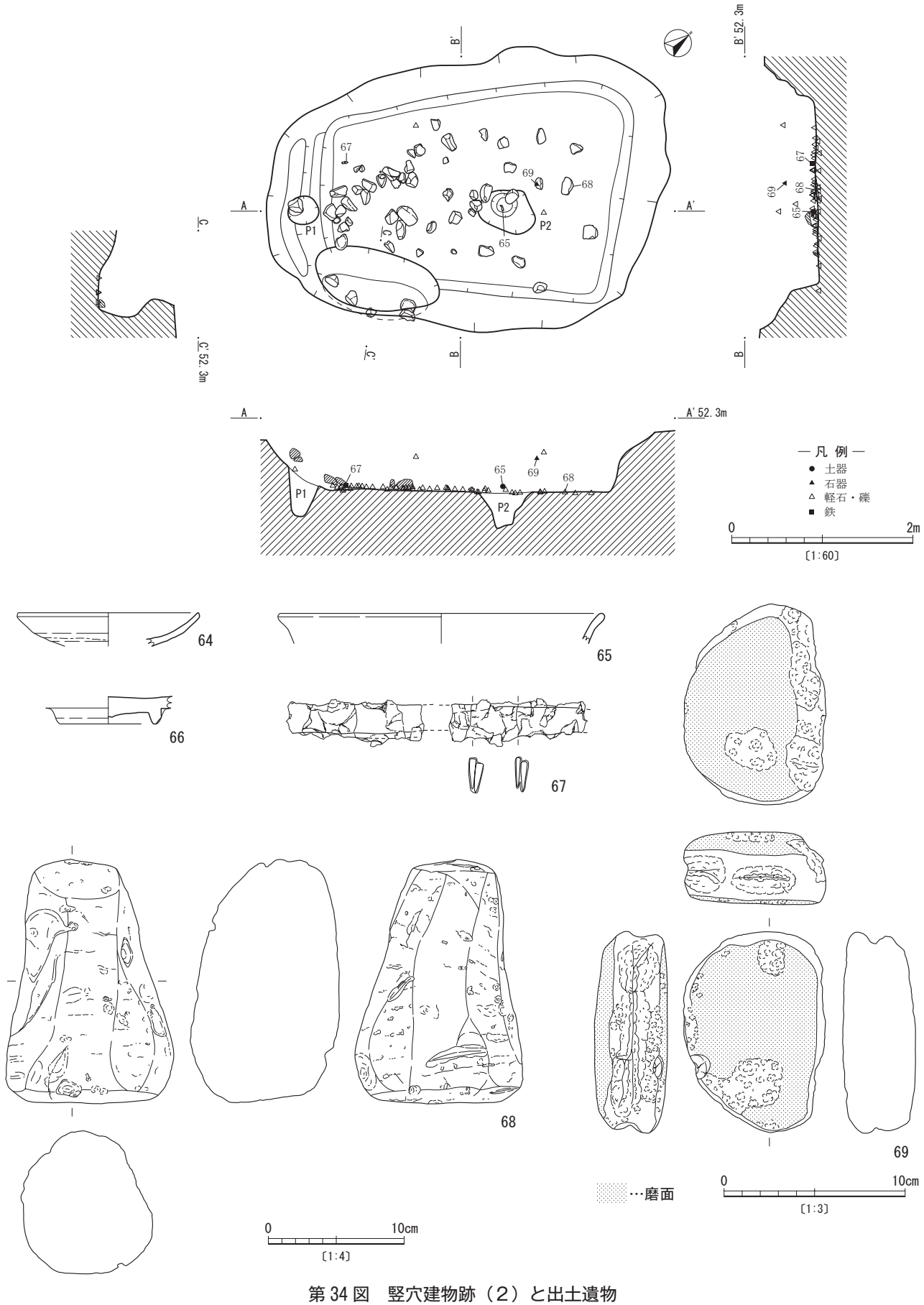
67 は，刃部のみが残った鉄製刀子２本が癒着したものである。２本が重なって２つの破片に分かれている。残存部分の長さは，図中左側が 7.4㎝，右側が 7.3㎝で，左右ともに幅 1.6㎝厚さ３㎜であるが，どちらも延長部分があったと考えられる。

68・69 は石製品である。68 は軽石製品で，多面の加工により一端が窄まった円柱形を呈する。69 は，磨石であるが，上下端からの片側面が不整帯状に窪んだ特異な形状を呈する。安山岩製である。

これらは 14 世紀後半のものである。




第 33 図　竪穴建物跡（１）




第 34 図　竪穴建物跡（2）と出土遺物

### (3) 土坑

多様な土坑が25基ある。東側丘陵では，東端近くの頂部に1基，北側斜面に1基のあわせて2基がある。中央丘陵では，東下がり斜面の建物群周辺に4基，頂部南側に6基ある。谷部では，谷頭の鍛冶関連遺構が集中している一帯に2基，谷尻付近に5基ある。西側丘陵では，北下がり斜面に1基，南側の東下がり斜面に4基，頂部に1基ある。

形状・規模など様々で，ほとんどは用途不明である。

**土坑1号（第35図）**

台地東端近くのC－52・53区のⅢ層で検出された。N 52度Wに軸をもつ隅丸方形の形状をしており，長軸122cm，短軸72cm，検出面からの深さ約50cmである。

土坑がほとんど埋まりかけた上面中央に軽石が4点組まれて置かれていたが，その中に軽石製品が1点含まれている。

70は，五輪塔の空輪・風輪を模した軽石製品である。横位の括れはなく，先端側を窄めてやや丸みを帯びた角柱形を呈し，下端に粗く整形された短いホゾ部を有する。

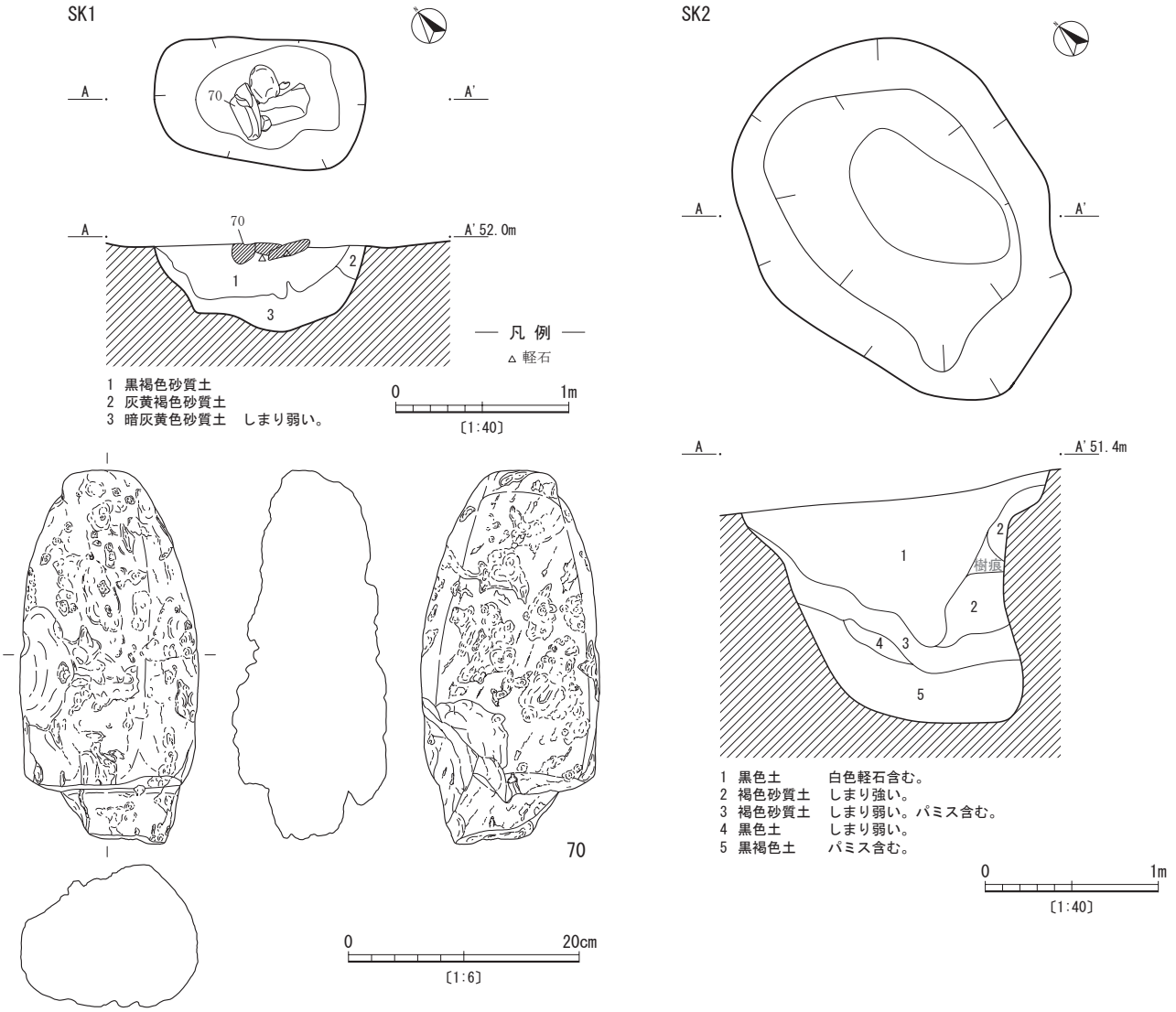
**土坑2号（第35図）**

D－49・50区のⅢ層で検出された。南北に軸を持ち，長軸220cm，短軸172cmの不整楕円形を呈し，北東側がやや深く，検出面からの深さは140cmに達する。

埋土は，底面近くがやわらかい黒色系，埋土②～④は褐色砂質土，上層は白色軽石が混在する黒色土で，埋土①～③は硬い。遺物はみられず，時期・性格は不明である。

**土坑3号（第36図）**

J・K－38区のⅢb層上面で検出された。北東部は弥生時代の住居跡を切り，南端部は農道で削平されている。N 16度Wを軸とする長軸482cm，短軸224cm，検出面からの深さ60cmの不定形土坑である。造成時は楕円形であったものが，樹痕等の影響で不定形をなしたと推定される。遺構内には3か所の中段があり，中心部を一段掘り下げてある。埋土は，黒色土や黒褐色土が主体でブロック状堆積をなし，全てにアカホヤの混じりが確認




第35図　土坑1号と出土遺物・土坑2号

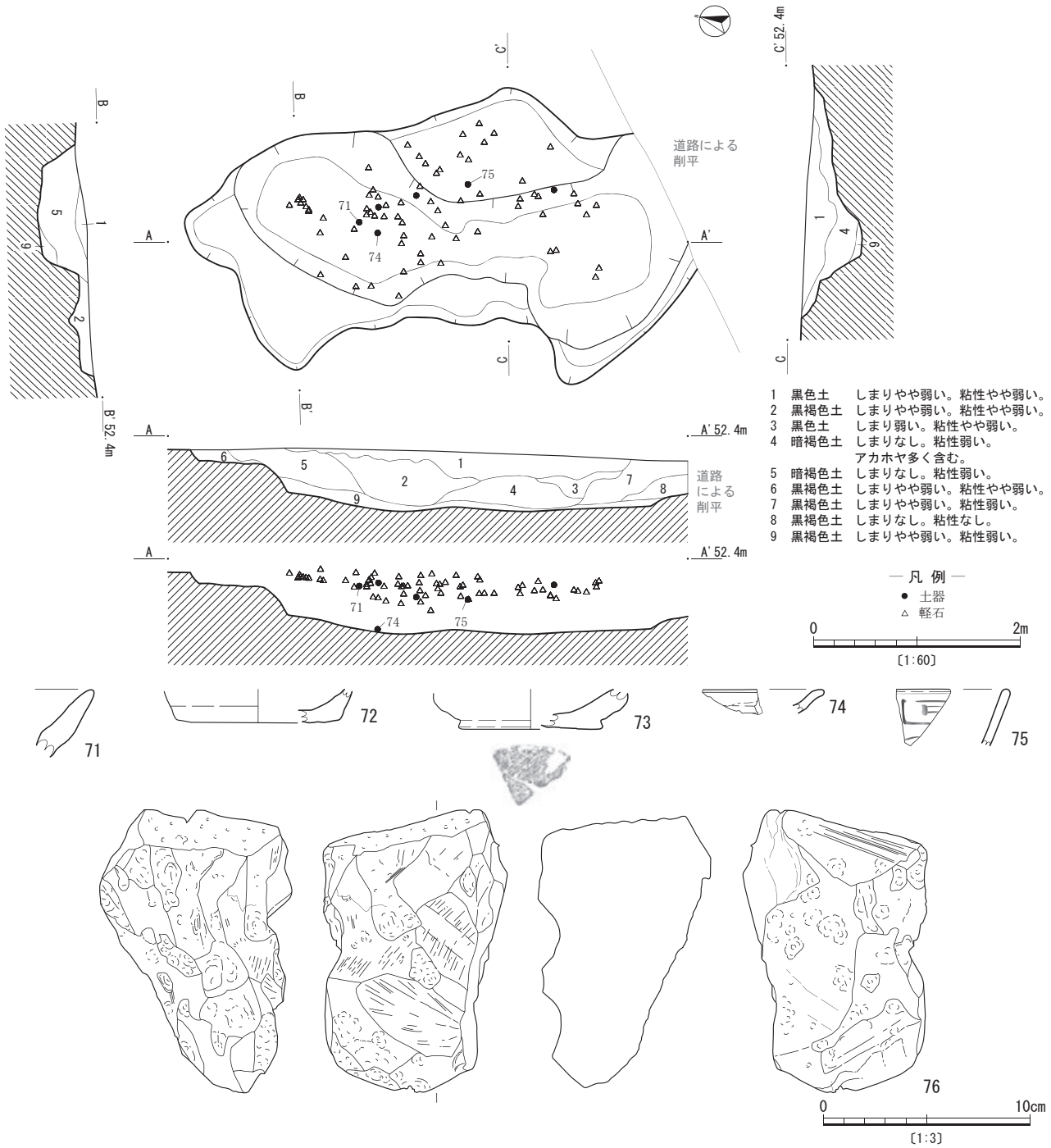
された。

遺物は，青磁片・白磁片・土師器片が中心であり，弥生土器や打製石斧なども混入している。また，熱を受けた軽石が複数出土している。ほとんどの遺物は投げ込まれたものと判断される。71～73は，土師器片である。71・73は摩滅が激しく調整等は不明瞭である。71は，坏とみられる口縁部片で浅黄橙色を呈する。72・73とも底部で８分の１程度が残存しており，にぶい橙色を呈する。器種の詳細は不明である。72は，底径8.0cm，ロクロ整形で横方向にナデ調整もしている。73は，底径7.0cmの糸切り底である。74・75は，施釉部が明オリーブ灰色を呈する青磁片である。74は皿の口縁部片で，外面から内面は施釉される。75は，外面に雷文が施された碗の口縁部片で，素地は灰白色を呈する。

76は，大きく欠損した軽石製品であり，上面に稜線をもつ平坦な加工面がみられる。被熱赤化している。

**土坑４号（第37図）**

Ｋ－38区のⅢｂ層上面で検出された。長径132cm，短




第36図　土坑３号と出土遺物

径 108cmの楕円形をした土坑で，検出面からの深さは 54cmである。埋土の上層は黒色土で，しまりが弱く，層中に粒径の細かいアカホヤが微量に混じっている。下層は黒褐色土で，しまりがなく，粒径の小さいアカホヤが少量混じっている。

遺物はみられず，時期・性格などは不明である。

**土坑５号（第 37 図）**

Ｊ－ 37 区のⅢａ層で検出された，径 20cmの円形をした柱穴状の穴で，検出面からの深さは 17cmである。埋土はしまりの弱い黒色土である。穴のほぼ中央部に若干斜め気味に鉄製品が検出された。遺構南東部に土を入れた後，鉄製品を埋設したものと考えられる。

77 は刃先が欠損した小刀である。残存の長さ 22.5cm，幅 2.6cm，背の厚さ 0.7cmで，柄部分の幅は 1.5～2.0cm，目釘孔の径３㎜，重量 105.3 ｇである。刃部と柄部の間に段はない。

**土坑６号（第 38 図）**

Ｉ・Ｊ－ 37 区のⅢｂ層上面で検出された。おおむね南北を軸とする長径 352cm，短径 240cmの楕円形を呈し，検出面からの深さは 36cmである。埋土は２層に分かれ，上層はしまりが弱い黒色土で，粒径の小さいアカホヤが少量混じる。下層は，アカホヤ主体の黄褐色土でしまりが無く，上層の土が若干混じっている。

埋土から白磁片，土師器片，弥生土器小片が出土している。78 は白磁の多角坏の口縁部から胴部の破片で，施釉されて灰白色を呈する。下部は無釉で，外面はケズリで段になっている。白磁９類である。79 は不整な直方体に整形された軽石製品である。右側面を大きく欠損している。

これらは 15 世紀前半頃のものである。

**土坑７号（第 39 図）**

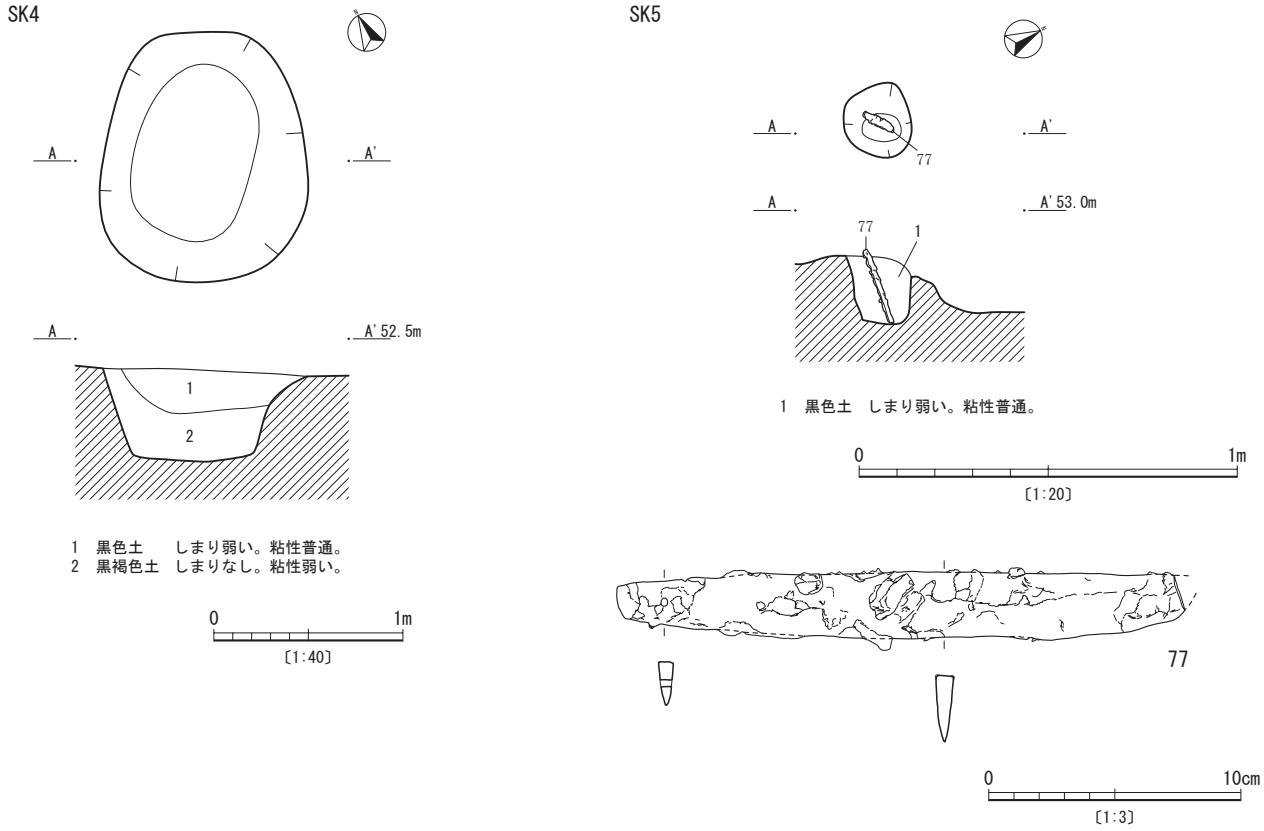
Ｈ・Ｉ－ 32・33 区のⅦ層で検出された。Ｎ 30 度Ｅを軸とする隅丸方形をした土坑で，長軸が 132cm，短軸が 69cm，検出面からの深さが 18cmである。

埋土はしまりが弱い黒褐色土を主体にした土で，粒径の大きい黄褐色軽石や，粒径の細かい黄褐色粒子が少量混じる。遺物は出土していない。

**土坑８号（第 39 図）**

Ｉ－ 33 区のⅦ層で検出された。Ｎ 27 度Ｅを長軸とした長軸 170cm，短軸 83cmの隅丸方形土坑で，検出面からの深さは 18cmである。

埋土は，しまりがやや弱い黒褐色土に，Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ層由来の土が混じっている。遺物は出土していない。



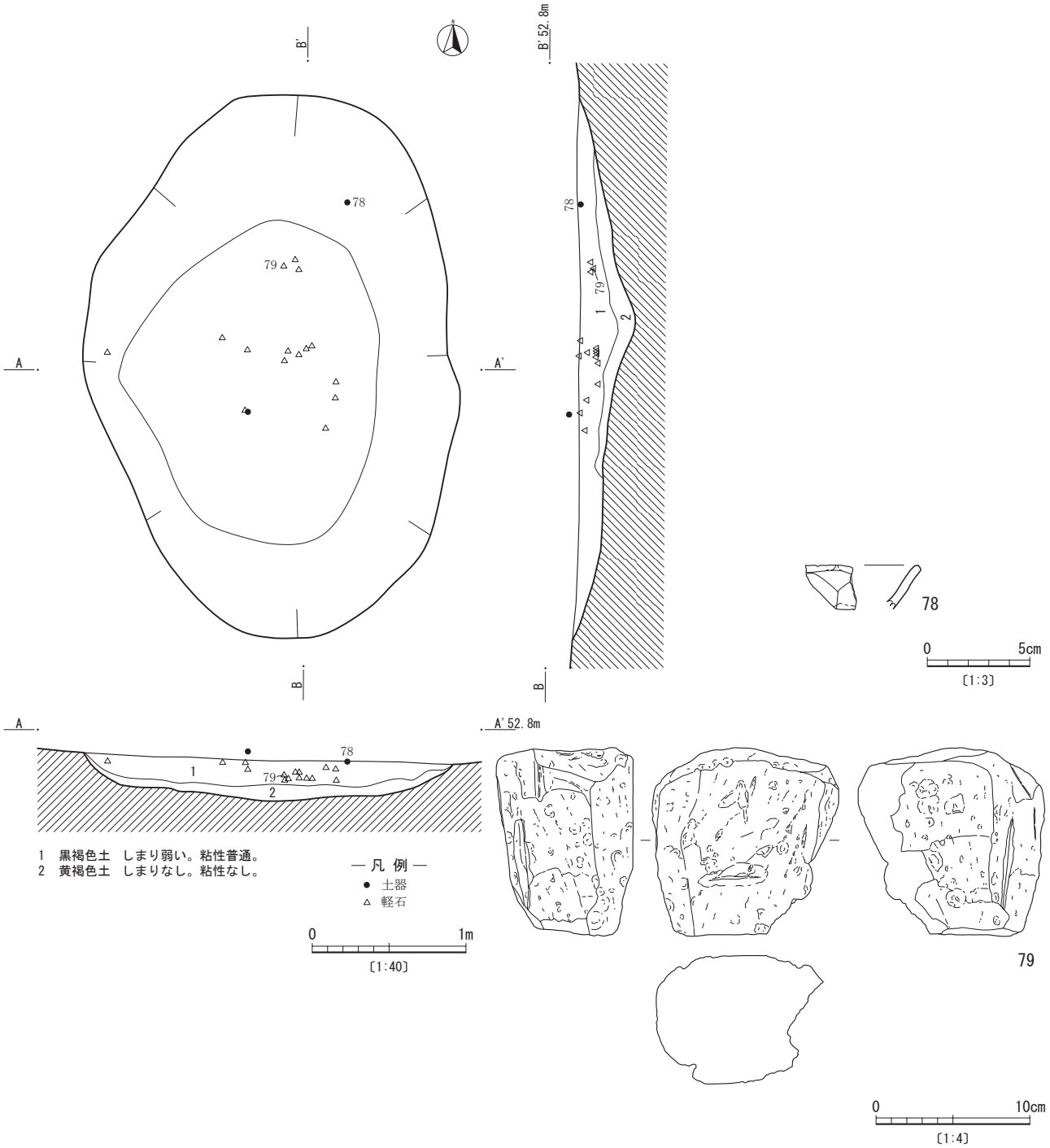

第 37 図　土坑４号・土坑５号と出土遺物

**土坑９号（第 39 図）**

Ｊ－ 32 区の表土直下で検出された。Ⅱ～Ⅵ層は残存せず，Ⅶ層での検出である。平面形はＮ 21 度Ｅを軸とする隅丸方形で，長辺 185cm，短辺 58cm，検出面からの深さ 100cmである。床面は，不定形で凹凸がありシラスに達している。埋土断面をみると，この土坑は南北２つの土坑が切り合っている状況が伺える。土坑内北側が先に構築され，埋土⑤⑥が堆積した後，南側に新たな土坑が掘り込まれ，埋土②③④が堆積している。その後，南北の土坑を覆って埋土①が堆積しており，南北２つの土坑の時期差は小さいと考えられる。

北側の古い土坑は長径 120cm，短径 60cmほどの略楕円形をしており，深さは 80cmである。東側の新しいほうは 100cm四方のゆがんだ方形状を呈し，東側は袋状となっている。深さは 100cmである。

埋土はしまりが弱く，上層はアカホヤ混じり，下層はⅤ・Ⅵ層のブロック及びⅨ・Ｘ層由来の埋土である。遺物は出土していない。




第 38 図　土坑６号と出土遺物

**土坑 10 号（第 39 図）**

Ｊ－ 32 区の表土直下で検出された。Ⅱ～Ⅵ層は残存せず，Ⅶ層での検出である。西側の上面を溝状遺構５号で削平されている。Ｎ 64 度Ｗを軸とする長径 82cm，短径 28cmの楕円形をしているが，検出面からの深さは 25cmあり，土坑というよりも柱穴に近い。

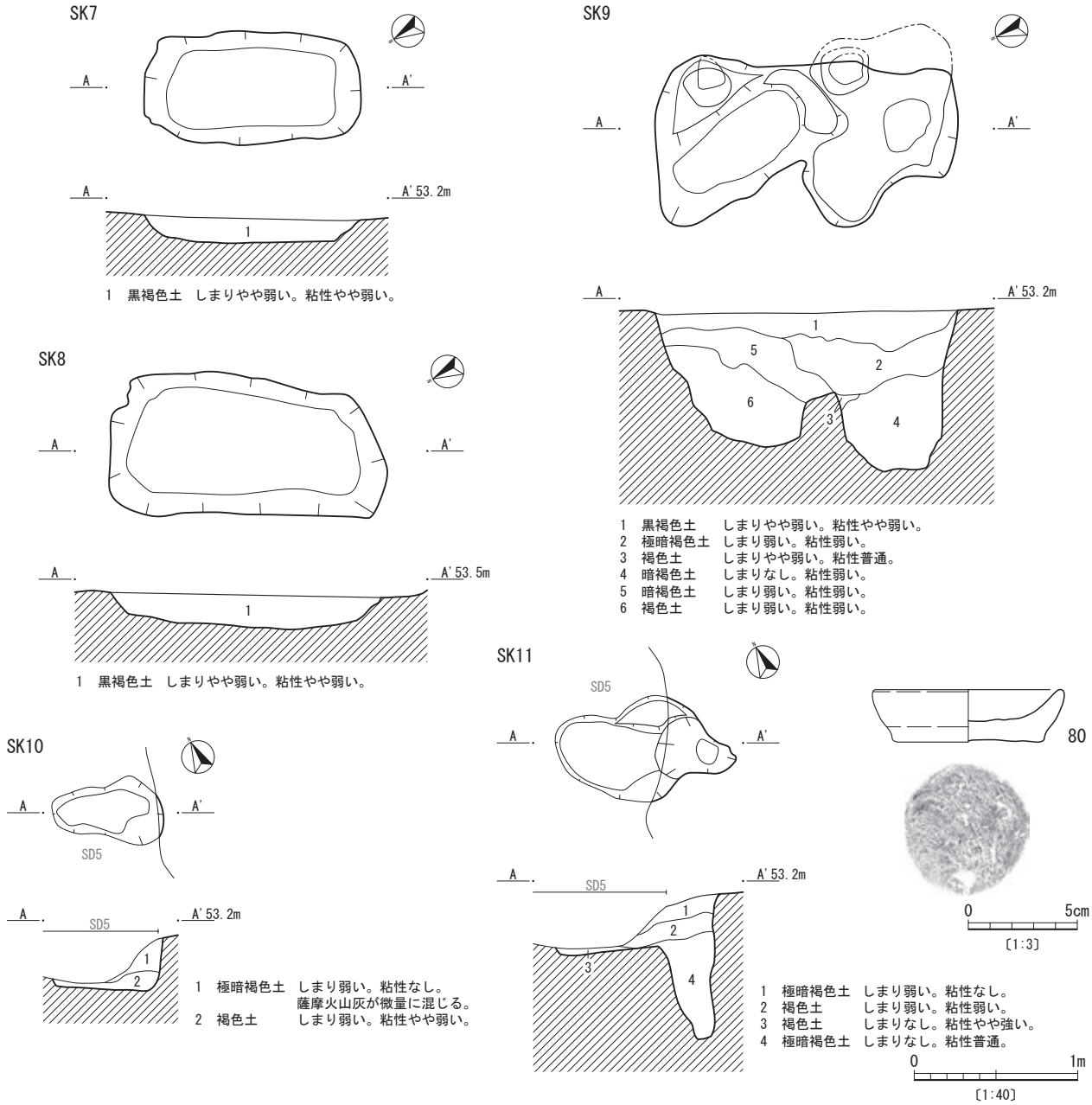
埋土はしまりが弱く，上層には壁面から崩れたと考えられる薩摩火山灰土がわずかに混じり，下層はⅧ層由来の土が混じったせいか若干の粘性がある。遺物は出土していない。

**土坑 11 号（第 39 図）**

Ｊ－ 32 区の表土直下で検出された。Ⅱ～Ⅵ層は残存せず，Ⅶ層での検出である。西側は上面を溝状遺構５号で削平されている。土坑 10 号とほぼ並行する長径 110cm，短径 64cmの楕円形土坑で，検出面からの深さは 25cmだが，東側はやや斜方向に深くなっており，床面からの深さが 55cmほどある。

埋土はしまりが弱く，上層には壁面から崩れたと考えられる薩摩火山灰土がわずかに混じり，下層はⅧ～Ⅸ層由来の土が混じったせいか若干の粘性がある。

埋土から土師器皿が出土している。80 は完形の分厚い皿で，口径 8.7cm，器高 2.4cm，底径 7.0cmあり，にぶい黄橙色を呈する。ロクロ整形し，内外ともに横方向にナデ調整し，糸切り底である。胎土は細かい茶石や石英・灰白色土を多く含んだ粘土を用いている。摩滅が激しい。




第 39 図　土坑７号～土坑 11 号と出土遺物

**土坑 12 号（第 40 図）**

Ｊ－ 32 区の表土直下で検出された。Ⅱ～Ⅵ層は残存せず，Ⅶ層での検出である。平面形は長径 55cm，短径 41cmの楕円形で，検出面からの深さは 50cmあり，土坑というよりも柱穴に近い。

埋土は，しまりは弱いが粘性があり，Ⅷ・Ⅸ層近似の土が混じっており，上層は薩摩火山灰土がわずかに混じる。

遺構検出面に近い所で青磁片が出土している。81 は龍泉窯系青磁碗の底部から高台部分で，底径 6.0cmである。畳付の一部から底部は露胎で，露胎部分とオリーブ灰色の施釉部分の境は褐色がかっている。見込みには圏線に囲まれたきのこ状の文様が片彫りされ，見込みの立ち上がり部分は釉が厚くかかっている。青磁碗２類で 12 世紀中葉から後葉のものである。

**土坑 13 号（第 40 図）**

Ｇ－ 32 区のⅡａ層上面で検出された。長径 86cm，短径 74cmの円形に近い楕円形を呈し，検出面からの深さは 33cmである。

埋土は，レンズ状堆積を呈している。上層は，ややしまりがある暗褐色土に，粒径の小さい中量のアカホヤと粒径中のⅡａ層該当と考えられる黒色土が中量混じり，粒径の細かい池田降下軽石が微量に混じる。下層は，しまりと粘性がやや強い黒色土である。遺物は出土していない。

**土坑 14 号（第 40 図）**

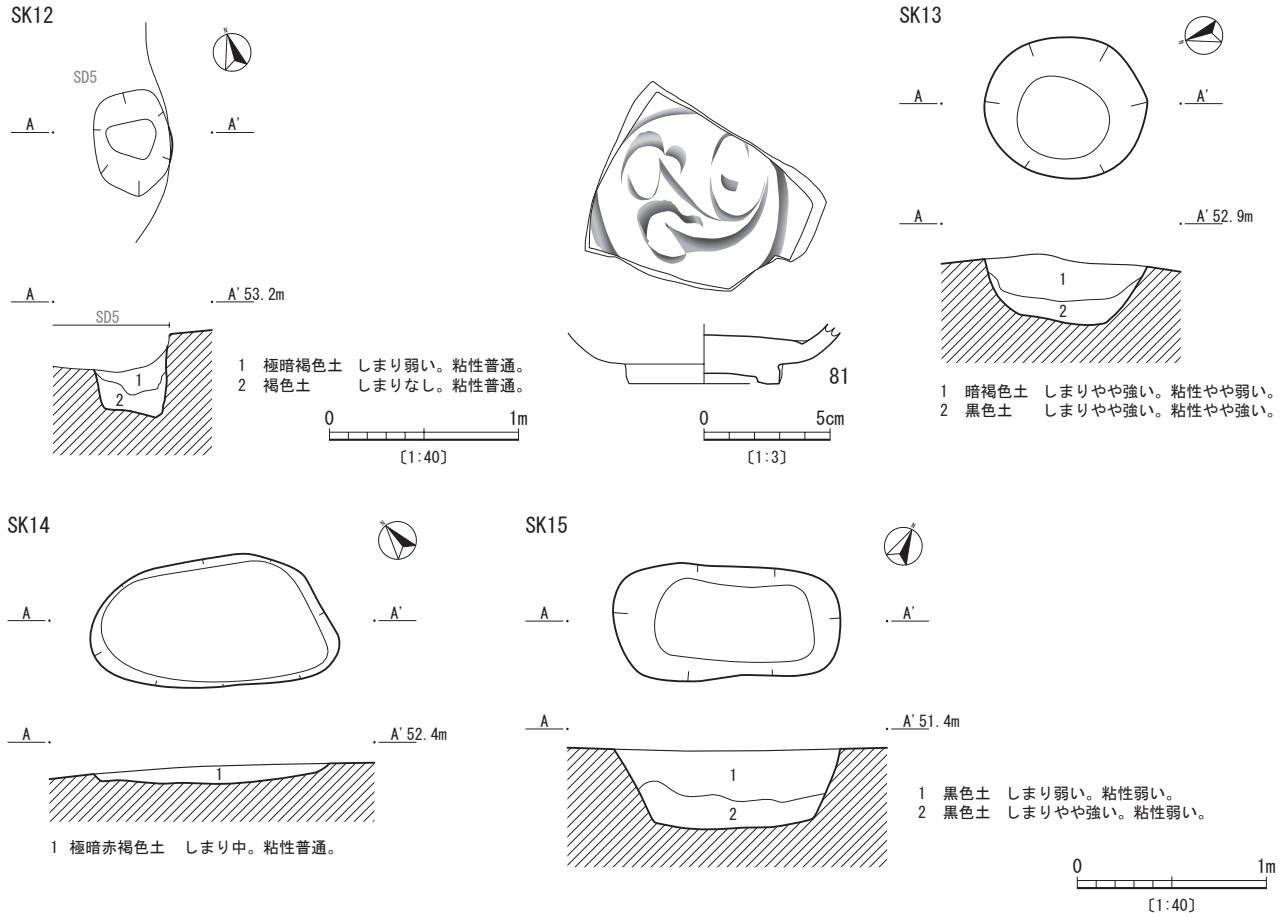
Ｇ－ 31 区のⅡｂ層で検出された。Ｎ 51 度Ｗを長軸とする長径 124cm，短径 69cmの楕円形をした平面形をした土坑で，検出面からの深さは 10cmである。

埋土は，しまりが弱い極暗赤褐色土で，層中に粒径の細かいアカホヤ，池田降下軽石，灰褐色粒子が微量に混じり，明褐色のパミスや微細な炭化物も含んでいる。遺物は出土していない。

**土坑 15 号（第 40 図）**

Ｋ－ 29 区のⅢａ層で検出された。溝状遺構８号の３枚目の硬化面を剥いで周辺を掘り下げた際に，土坑 16 号を切った状態で検出された。Ｎ 63 度Ｅを軸とした長辺 120cm，短辺 63cmの隅丸方形をした平面形で，逆台形の断面をしている。検出面からの深さは 42cmである。

埋土は，Ⅱａ層主体の黒色土で上層は粒径の細かいアカホヤ混じりの褐色硬化土を含みしまりが弱い。下層はしまりがやや強い。遺物は出土していない。




第 40 図　土坑 12 号～土坑 15 号と出土遺物

**土坑 16 号（第 41 図）**

K－29 区のⅢａ層で検出された。溝状遺構８号の３枚目の硬化面を剥いで周辺を掘り下げた際に，土坑 15 号に切られた状態で検出された。径 112cmの略円形の平面形で，検出面からの深さは 30cmである。

埋土は，Ⅱａ層の土を主体とし上層は暗褐色土でしまりが強く，粒径の細かい微量のアカホヤや池田降下軽石と少量の斜長石が混じっており，下層は黒褐色土である。遺物は出土していない。

**土坑 17 号（第 41 図）**

K－29 区のⅢａ層で検出された。溝状遺構８号の３枚目の硬化面を剥いで周辺を掘り下げた際に検出された。N 55 度 E を長軸とした長辺 128cm，短辺 72cmの隅丸長方形をした土坑である。断面形は逆台形をしており，検出面からの深さは 46cmである。

埋土は，上層がアカホヤ・褐色硬化土が少量混ざった黒褐色土で，下層はしまりがなく中央部にアカホヤが微量に入る粒径の細かい褐灰色土である。

出土遺物はなく，土坑 18 号より新しい。

**土坑 18 号（第 41 図）**

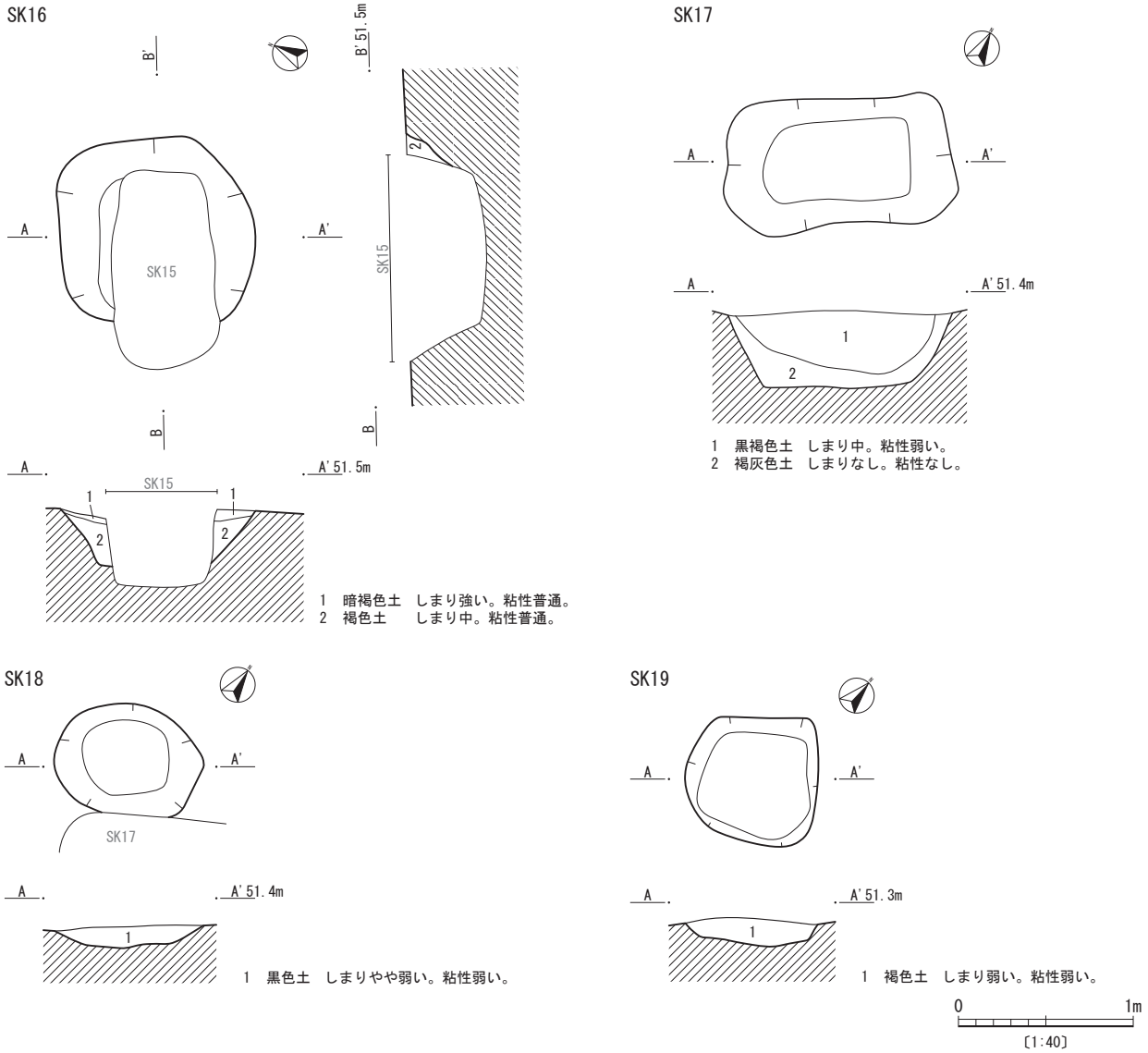
K－29 区のⅢａ層で検出された。溝状遺構８号の３枚目の硬化面を剥いで周辺を掘り下げた際に検出された。長径 86cm，短径 64cmの円形に近い楕円形を呈し，擂鉢状の掘り方で，検出面からの深さは 12cmである。

埋土は黒色土の単層で，しまりは弱く，明黄褐色の４cm大のブロック１点が混じる。出土遺物はない。

**土坑 19 号（第 41 図）**

K－29 区のⅢａ層で検出された。溝状遺構８号の硬化面を剥いで掘り下げた際に検出された。一辺 76cmの略方形をした土坑で，擂鉢状の掘り方をしており，検出面からの深さは 15cmである。

埋土は，褐色土の単一層でしまりは弱く粒径の大きな軽石を多量に含み，粒径が中程度の凝灰岩も少量含む。出土遺物はない。




第 41 図　土坑 16 号～土坑 19 号

**土坑 20 号（第 42 図）**

Ｊ－ 27 区のⅢｂ層で検出された。北西端と南東部が撹乱されているため，全形は不明だが，残存部分はＮ 61 度Ｅを軸として，長軸 139cm，短軸 102cmの略方形をした平面形で，擂鉢状の掘り込みをしており，検出面からの深さは 60cmである。

埋土は５層の堆積をなし，弥生・古墳時代の土層よりも黒色が強い黒褐色土で，アカホヤが極端に少ない。出土遺物はない。

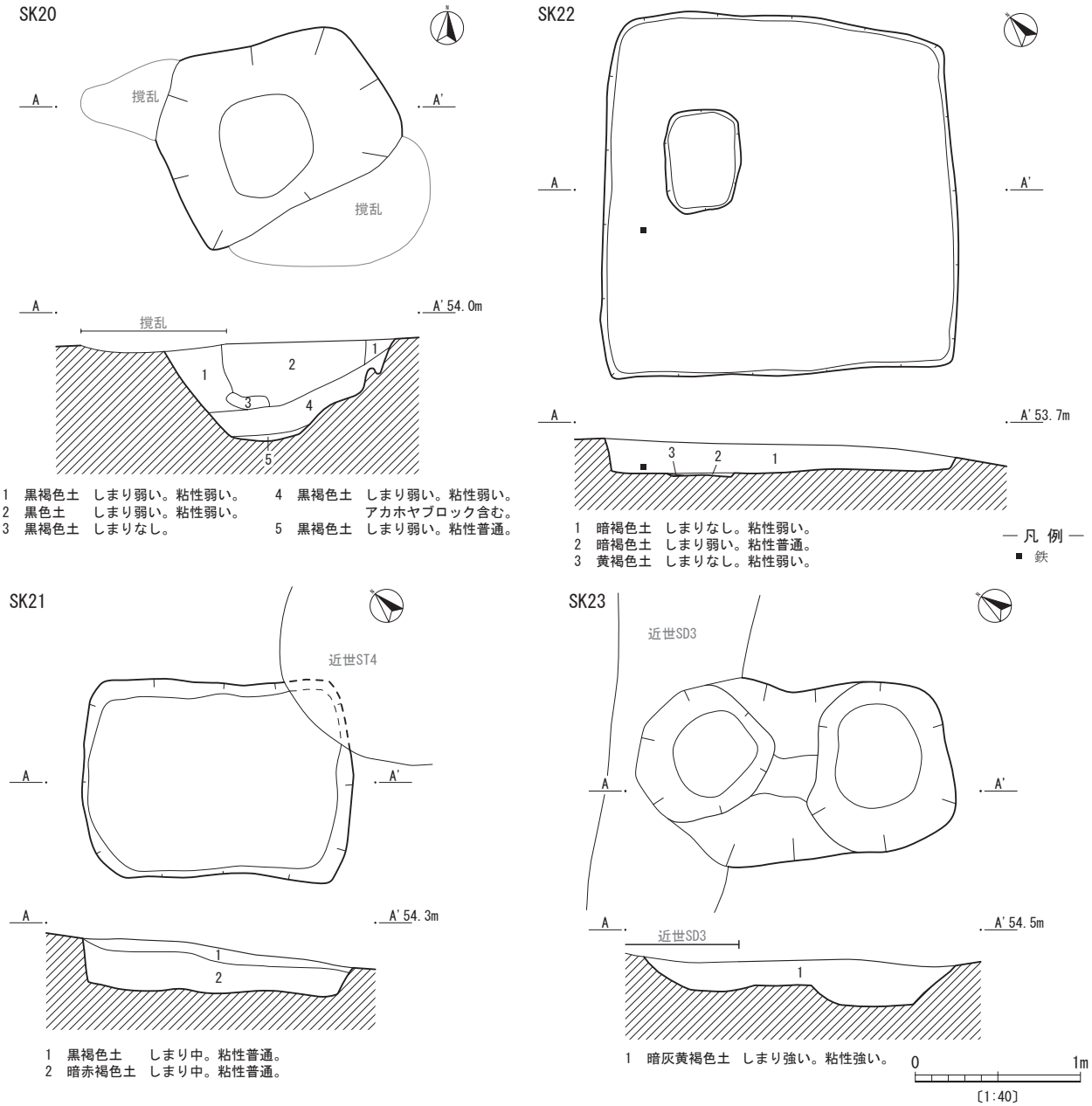
**土坑 21 号（第 42 図）**

Ｊ－ 26 区のⅧ層で検出され，近世墓に東端隅を切られている。表土・腐植土下のⅡ～Ⅶ層は削平を受けている。Ｎ 46 度Ｗを軸とする長方形をし，長辺 164cm，短辺 116cm，検出面からの深さ 28cmである。

埋土は，上層が黒褐色土，下層が暗赤褐色土で，ともにしまりがありⅨ層・Ⅹ層相当土が混ざっていることから粘性がある。出土遺物はない。

**土坑 22 号（第 42 図）**

Ｋ－ 25・26 区のⅨ層で検出された。Ⅷ層まで削平を受けている。218 × 212cmの正方形を呈している。検出面からの深さは 10～20cmであるが，遺構の東側ほど，近・現代の造成の影響を受けているために検出面が低くなっている。西側床面に，長辺 61cm，短辺 46cmの長方形をした深さ３～５cmの掘り込みがある。




第 42 図　土坑 20 号～土坑 23 号

埋土は，遺構・掘り込み部分とも暗褐色土であるが，掘り込み部分は少ししまりがあり，床面近くが黄色がかっている。

遺物は，鉄製品１点が出土しているが錆化によって劣化しており詳細不明である。図化も断念した。

**土坑 23 号（第 42 図）**

Ｊ－ 25 区のⅧ層で検出された。表土層以下のⅡ～Ⅶ層は削平を受け，近世古道と考えられる溝状遺構３号の下で検出された。当初（旧）ＳＫ 180 と２基検出されたが，埋土状況と，上端・下端ラインが同一のことから，同一遺構として（旧）ＳＫ 180 を欠番とした。Ｎ 34 度Ｗを軸とした長径 189cm，短径 102cmの略楕円形の平面形で，検出面からの深さは 28cmある。

切り合う別々の円形土坑とすれば，北側の土坑が径 80 × 85cmの円形を呈し，深さが 17cmである。南側の土坑も径 90 × 100cmの円形を呈し，深さが 28cmである。その間を深さ 14cmほどの浅い穴がつないでいる。北側は擂鉢状にくぼみ，南側は直線的に掘り込んでいる。

埋土は，暗灰黄褐色土の単層でしまりが強く，Ｘ層と考えられるブロックが入り粘性が強い。出土遺物はない。

**土坑 24 号（第 43 図）**

Ｆ－ 26・27 区境の土層観察用ベルトに，立ち上がりと硬化面が検出された。そのため，遺構の東側と西側の延長部は検出されていない。Ⅱｂ層上面が遺構検出面である。検出できた範囲は，長軸 206cm，短軸 115cmの不定形で，深さ 20cmである。

埋土は，黒色土層２枚の下にⅢａ層の土に近似した黒褐色土の硬化面が見られる。北側の上部は樹痕による撹乱を受けていて，プランが明瞭でない部分がある。

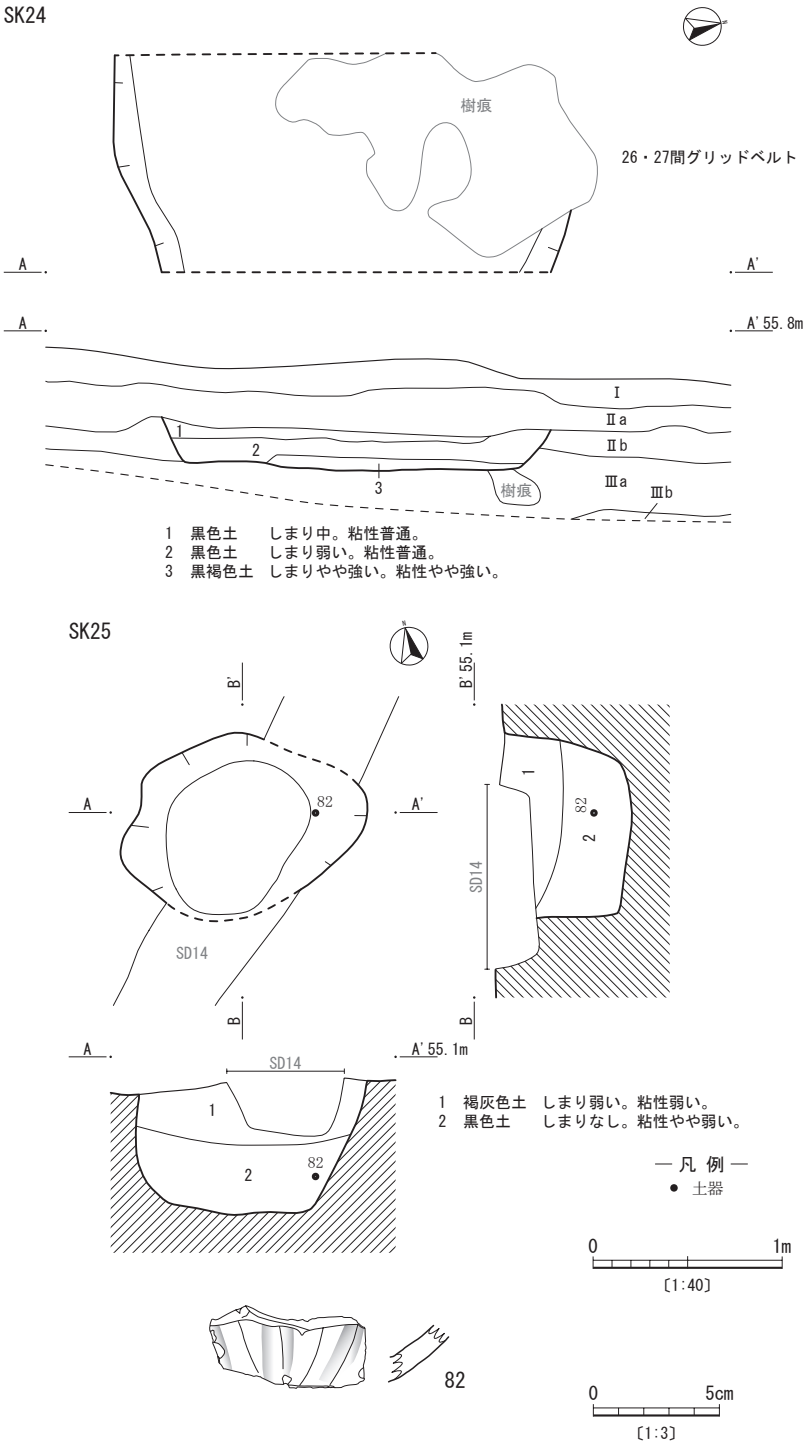
延長部が確認されていないためはっきりしないが，硬化面があることから幅２ｍ強の道跡の可能性もある。

**土坑 25 号（第 43 図）**

Ｋ－ 24 区のⅢｂ層上面で検出された。溝状遺構 14 号に切られ，弥生時代の横口式土坑（旧）ＳＫ 147 を切っていた。当初，ＳＫ 147 と同一遺構とみていたが，半裁を行った結果，別の遺構と判断した。おおむね東西を軸とし，長径 121cm，短径 95cmの楕円形に近い不定形の形状をしており，検出面からの深さは 70cmである。

埋土は，上層に褐灰色土，下層に黒色土があり，おおむねレンズ状堆積をしている。下層から青磁碗の破片が出土している。

82 は，鎬蓮弁文のある碗である。蓮弁はやや幅が狭く，内面の体部と見込み境には段を有する。龍泉窯系青磁碗３類で，13～14 世紀頃の土坑と考えられる。

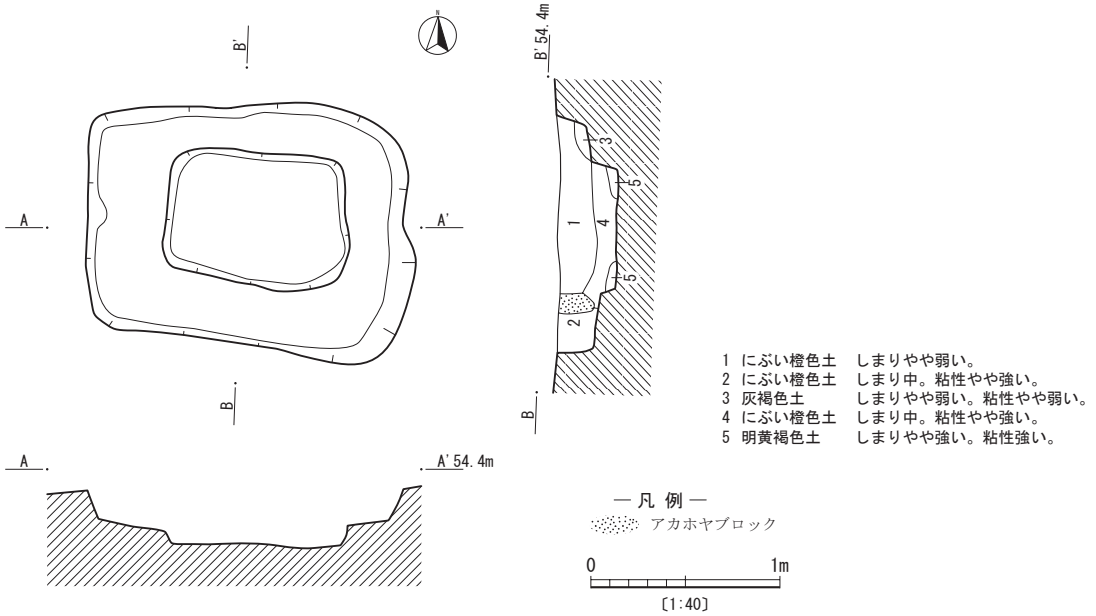



第 43 図　土坑 24 号・土坑 25 号と出土遺物

**土坑 26 号（第 44 図）**

K － 25 区のⅨ層で検出された。Ⅷ層までは削平を受けている。東西方向を長軸とし，長辺 167cm，短辺 126cm の長方形をし，検出面からの深さが 24cmである。中央付近が長辺 96cm，短辺 70cmの長方形に 10cmほど掘り下げてある。

埋土はにぶい褐色土を中心に５枚に分層でき，アカホヤブロックも含まれている。遺物の出土はなかった。




第 44 図　土坑 26 号

**(4) 鍛冶関連遺構**

南から入り込んだ谷の頭部にあたるＦ・Ｇ － 31・32 区の東斜面付近では多量の鉄滓が出土しているが，ここで焼土等の入った土坑が６基検出された。楕円形の形状をしたものが多く，床面は凹凸が目立つものもある。６号は床面が硬化しているが，他はそれほど焼けていない。隣接したＧ 31 区には６基の焼土も検出されている。また，近くからふいごの羽口も出土しており，鍛冶関係の遺構と考えられる。

**鍛冶関連遺構１号（第 45 図）**

Ｇ － 32 区のⅡｂ層で検出された。東西を軸として長軸 120cm，短軸 63cmの形の崩れた楕円形を呈し，西側は深さ４cmと浅いが，東側は一段深くなっており，検出面からの深さは 17cmである。

埋土は，黒色土の中にＡＴ由来と考えられる明褐色の砂質土が混じっており，東側に集中している。同様に，焼土と考えられる粒径の細かい黄褐色土が，東側に集中して含まれる。出土遺物はみられない。

**鍛冶関連遺構２号（第 45 図）**

Ｆ － 32 区のⅡｂ層で検出された。南北を軸とする長径 46cm，短径 33cmの形の崩れた楕円形を呈し，北から南へ向かって下降しており，検出面からの深さは南側が深く，20cmである。

埋土は，黒色土の中に，ＡＴ由来と考えられる明褐色の砂質土，焼成が強い橙色の焼土が混じっている。検出面に近いところで土師器坏片が出土している。

83 は胴部から口縁部の破片である。口径 12.1cmで，ロクロ整形され，内外ともに横方向にナデ調整されている。浅黄色を呈し，一部は橙色である。胎土に茶石・灰石・石英などの細石が含まれている。

**鍛冶関連遺構３号（第 45 図）**

Ｆ － 31 区のⅡｂ層で検出された。Ｎ 20 度Ｅを軸とした長径 122cm，短径 67cmの形の崩れた楕円形を呈し，底はやや凹凸が目立つが，深さは検出面から 22cmである。

埋土は，黒褐色中にＡＴ由来と考えられる明褐色の砂質土が混じっており，北側には特に集中している。出土遺物はみられない。

**鍛冶関連遺構４号（第 45 図）**

Ｆ－ 31 区のⅡｂ層で検出された。Ｎ 74 度Ｗを軸とした長径 124cm，短径 51cmの形の崩れた楕円形を呈し，検出面からの深さは約 14cmである。床面は起伏があり，平坦ではない。

埋土は黒色土を主体とするが，ＡＴ由来と考えられるにぶい黄橙色の砂質土が含まれ，特に上部に集中している。土師器破片が１点出土している。

84 は，底径 7.0cmの土師器底部で，器種は不明である。ロクロ整形と考えられ，底部は糸切りである。

**鍛冶関連遺構５号（第 45 図）**

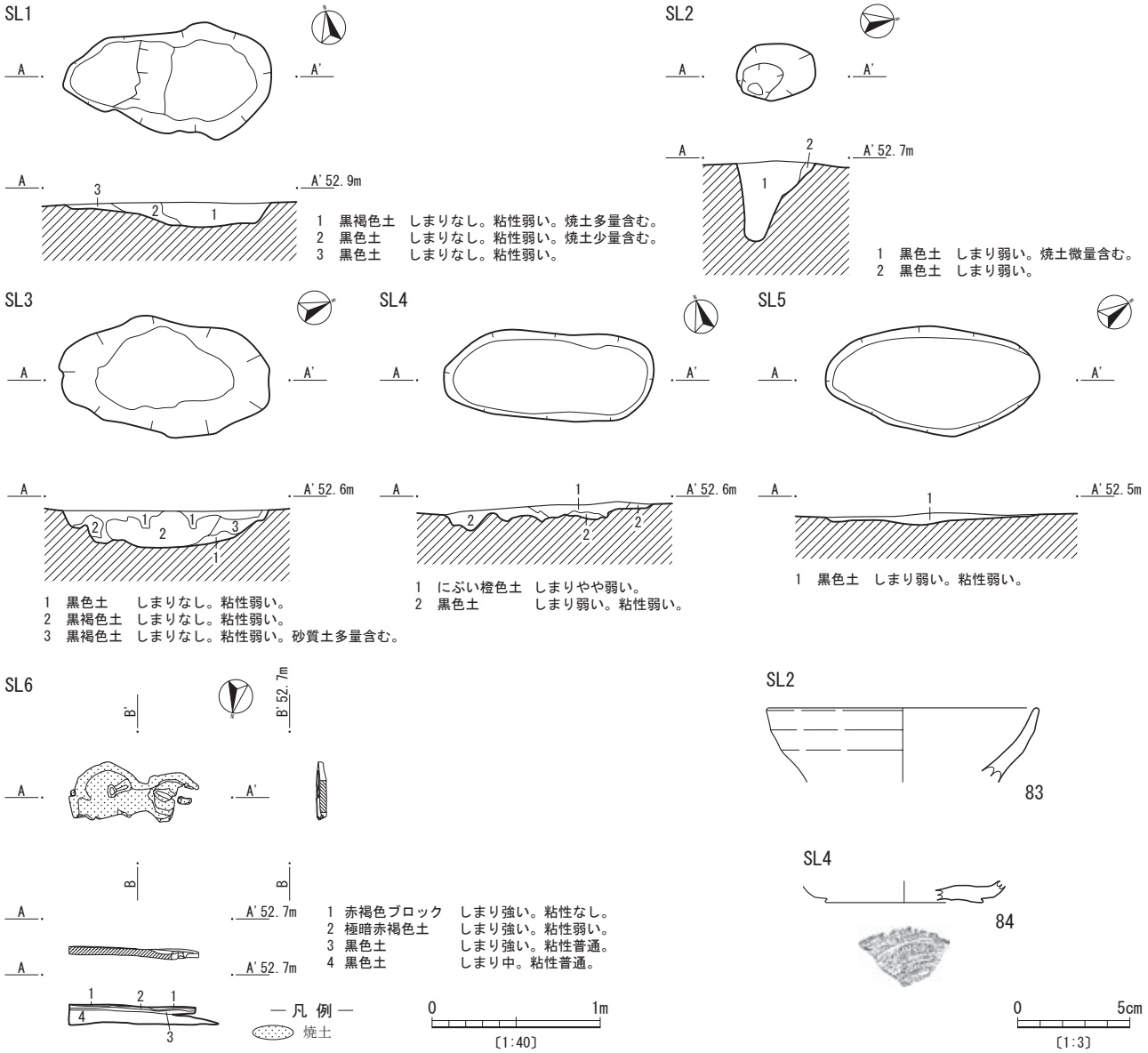
Ｆ－ 31 区のⅡｂ層で検出された。Ｎ 33 度Ｅを軸とする形の崩れた楕円形を呈し，長径 127cm，短径 63cm，検出面からの深さ５cmである。

埋土は，黒色土の中にＡＴ由来と考えられる明褐色の砂質土や，焼成が強い橙色の焼土が混じる。中から，弥生土器片が出土しているが，混入したものと考えられる。

**鍛冶関連遺構６号（第 45 図）**

Ｇ－ 31 区のⅡ'層で検出された。Ｎ 38 度Ｅを軸とした長さ 77.9cm，幅 32.6cmの不整形な瓢箪形状を呈する。東側から南側の縁辺に幅 10cm程度の壁状の高まりがある。埋土①～③はしまりが強く，①は被熱による赤色化・硬化しており，②③は地山が被熱により赤色化，硬化したと考えられる。③④はⅡａ層相当と考えられる。

遺構内及び周辺を磁石で精査したが，鍛造剥片等は検出できなかった。しかし，床面が強い熱を受けて硬化していることから炉状遺構と考えられる。



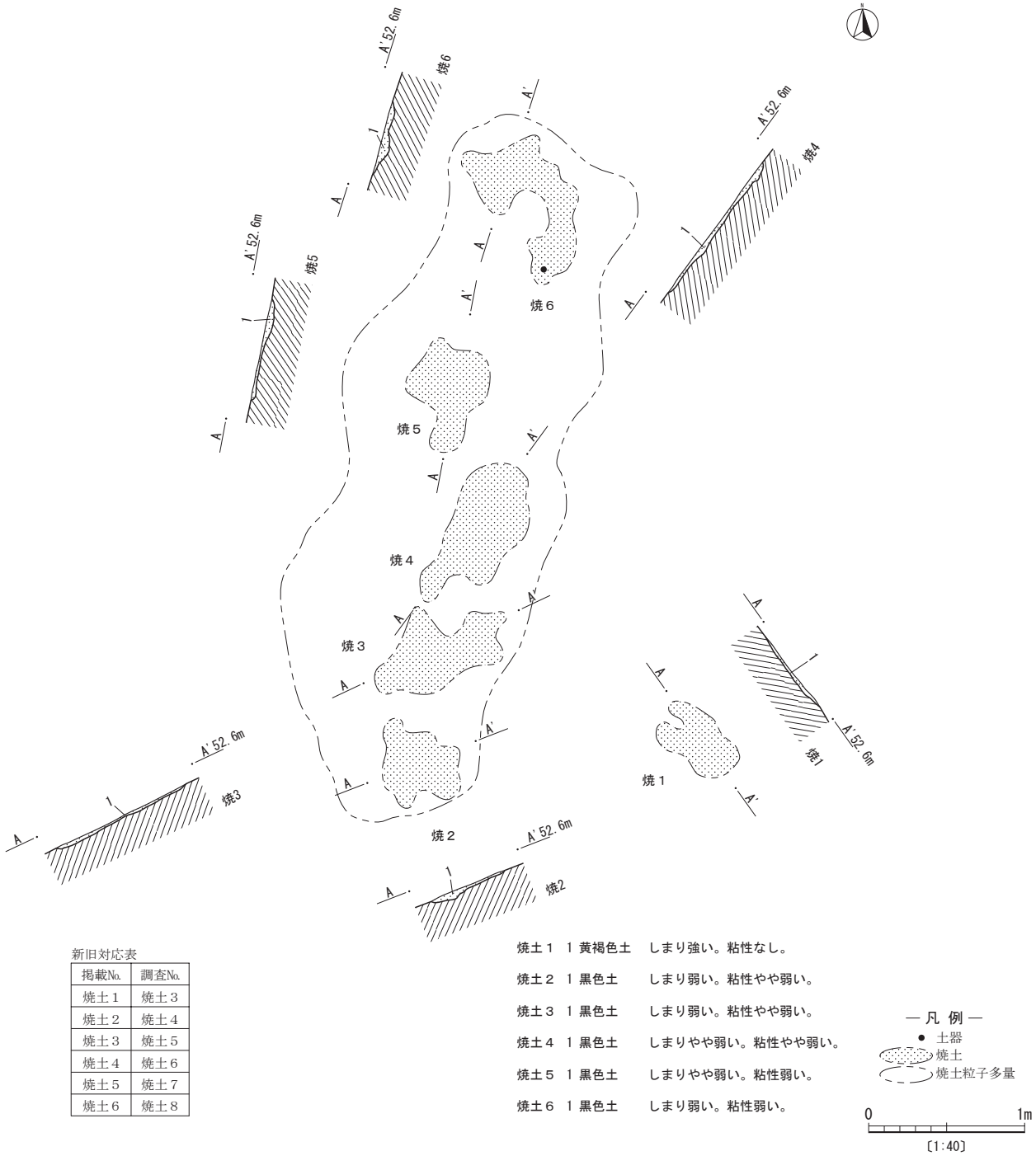

第 45 図　鍛冶関連遺構と出土遺物

### (5) 焼土（第 46 図）

南西方向へ開く谷頭にあたるＧ－ 31 区のⅡｂ層で群れとなった６基の焼土が検出された。

焼土１は瓢箪形，他は不定形で，長軸の大きい順に，焼土４が 103 × 43cm，焼土３が 94 × 51cm，焼土６が 88 × 52cm，焼土５が 66 × 55cm，焼土２が 63 × 43cm，焼土１が 58 × 30cmである。焼土はいずれも２～３cm程度の単層で，焼土１のしまりが強く，硬化した粘土が薄く残存しているが，焼土２～６のしまりは弱く，粘性も低い。

遺物はないが，周辺埋土からは鉄滓が多数出土しており，鍛冶に伴う遺構の破壊の際に，遺構を構成した粘土塊や土が周辺に散乱したものと考えられる。周辺には鍛冶関連遺構もあり，鍛冶関連遺構６号の下部とも様相がよく似ている。これらの上部には鍛冶関連遺構があった可能性も考えられる。




新旧対応表

| 掲載No. | 調査No. |
|---|---|
| 焼土１ | 焼土３ |
| 焼土２ | 焼土４ |
| 焼土３ | 焼土５ |
| 焼土４ | 焼土６ |
| 焼土５ | 焼土７ |
| 焼土６ | 焼土８ |

焼土１　１黄褐色土　しまり強い。粘性なし。
焼土２　１黒色土　しまり弱い。粘性やや弱い。
焼土３　１黒色土　しまり弱い。粘性やや弱い。
焼土４　１黒色土　しまりやや弱い。粘性やや弱い。
焼土５　１黒色土　しまりやや弱い。粘性弱い。
焼土６　１黒色土　しまり弱い。粘性弱い。

― 凡 例 ―
● 土器
焼土
焼土粒子多量

0　1m
〔1:40〕

第 46 図　焼土１～６

### (6) 祭祀遺構

土坑のなかで，遺物の出土状況や種類など検討して祭祀的用途の考えられるものが２基ある。西側の丘陵傾斜面とその南東下の谷部にある。

**祭祀遺構１号（第 47 図）**

Ｊ－ 25 区のⅨ層で検出された。周辺は中世以降に造成等を受け，本遺構のみの検出である。長径 77cm，短径 60cmの楕円形をしており，検出面からの深さは 10cmである。

埋土は灰黄褐色土の単層で，Ⅷ・Ⅸ層由来のブロックが不均等に混じるため，若干粘性がある。遺構のほぼ中央に完形の土師器小皿１点が底を上にして出土している。他に，中国陶器風の小片，白磁片１点，加工痕のない軽石が出土している。

85 は口径 8.2cm，器高 2.1cm，底径 5.3cmの完形の土師器小皿で，内外ともに横方向にナデ調整され，分厚い作りである。糸切り底で，底が上に持ち上がっている。胎土は黒色・石英・褐色・灰色の粒子と雲母を含み，色調はにぶい橙色を呈する。

86 は外反する口径 11cmの白磁皿の口縁部片である。外面の胴部下付近は釉をかき取っている。内面の下半には砂粒が付着して，灰白色を呈している。

遺物から 15 世紀頃の土坑と考えられ，土師器小皿の出土状況と，周辺に中世の方形土坑があることから，祭祀等に関わる遺構と考えられる。

**祭祀遺構２号（第 48・49 図）**

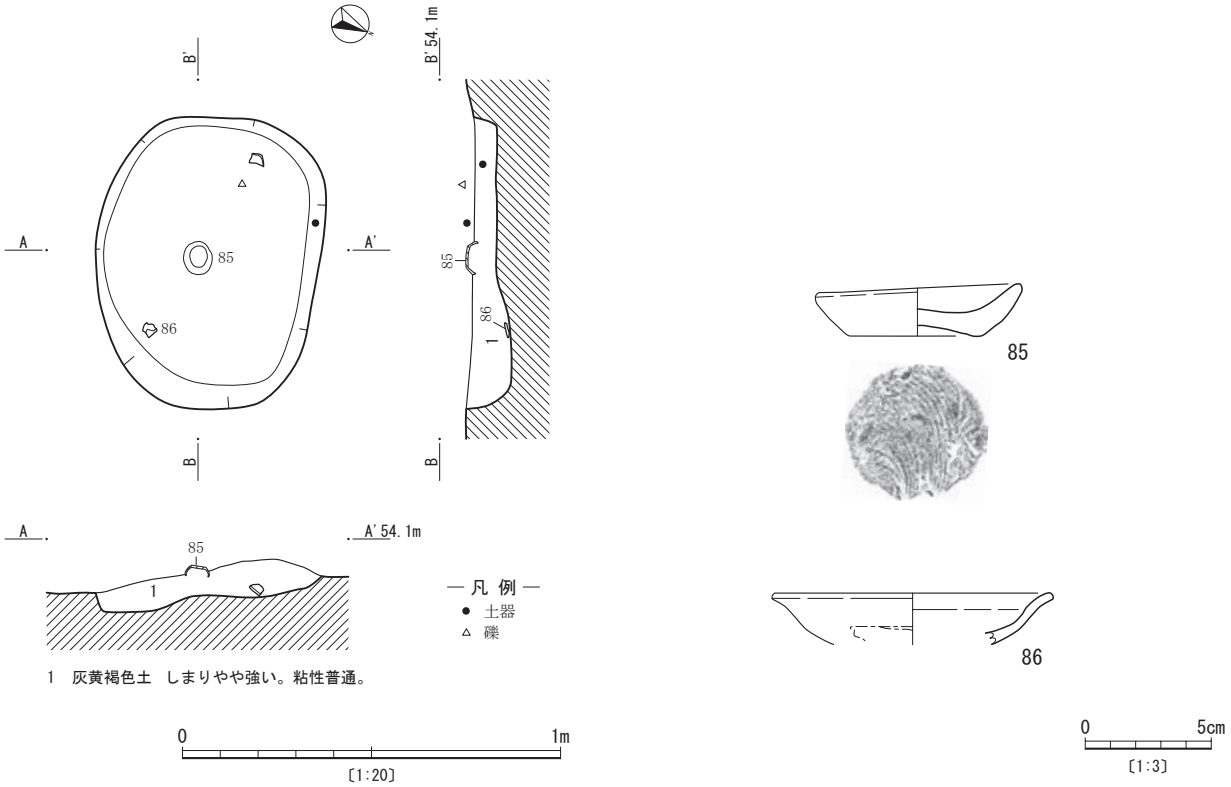
Ｋ－ 28 区のⅡｂ層上面で検出された。おおよそ南北を向く長径 64cm，短径 60cmの略円形を呈し，底までは擂鉢の上部から 25cm，検出面から 15cmである。

埋土は黒色土だが，しまりが弱く，粒径の細かいアカホヤ火山灰が微量に混じる。遺物は，遺構の南西寄りに備前焼擂鉢の完形品が１点，遺構の北側傾斜面に沿って，13 枚の古銭が出土した。10 枚は３枚と７枚に分かれて癒着しており，残りの３枚も近くにあった。布の付着したものもあることから 13 枚いっしょに袋に入れて置かれたものと考えられる。

87～99 は，古銭である。87～89 の３枚，90～96 の７枚は癒着して出土した。埋文センターで蛍光Ｘ線分析を行った後，癒着した古銭は慎重に分離させて，拓本を採取し，銭種を特定したが，95 は不明である。92・93 のみ篆書体で，他は真書体で記されている。

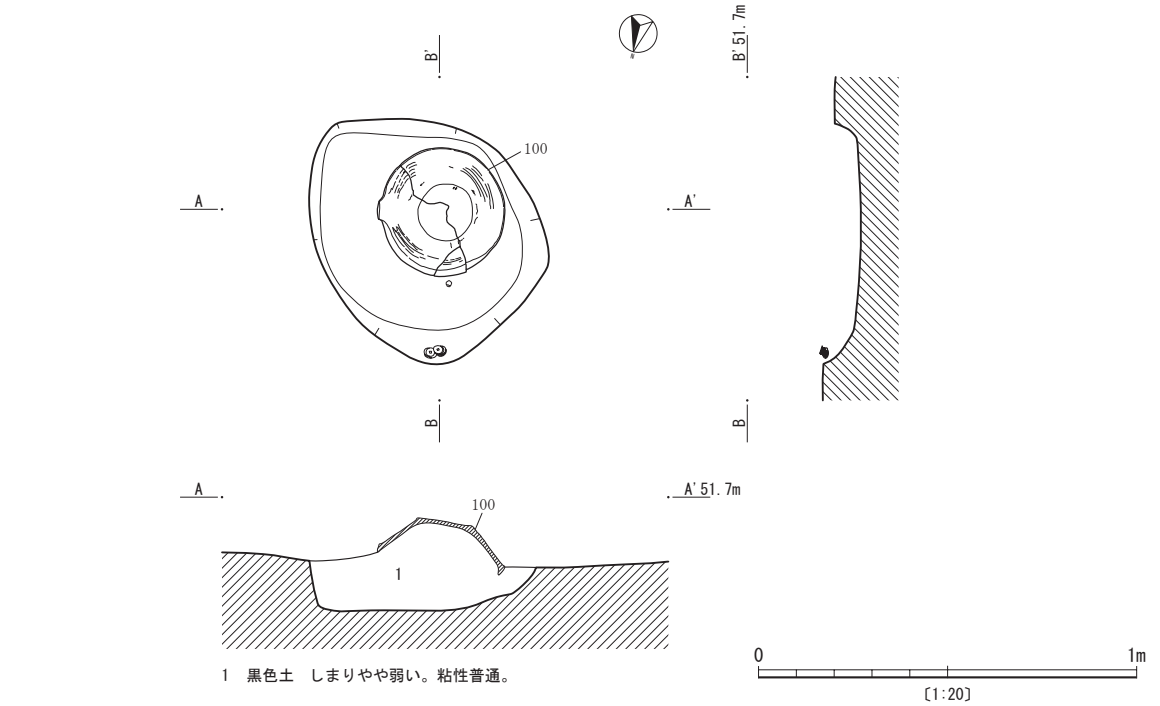
87・90 は，唐代の開元通寶で，背面上部に月が記される。94 も開元通寶だが，背面上部の文様は不明である。88・89 は治平元寶，91 は咸平元寶，92 は天聖元寶で，97 も天聖元寶と思われ，93 は皇宋通寶である。いずれも北宋代の貨幣である。96 は五大十国時代の前蜀の乾徳元寶で，劣化が激しくもろい。98 は明の洪武通寶である。99 は，咸元通寶でまわりに繊維痕が付着している。初鋳年がもっとも新しいのは 1368 年の洪武通寶である。

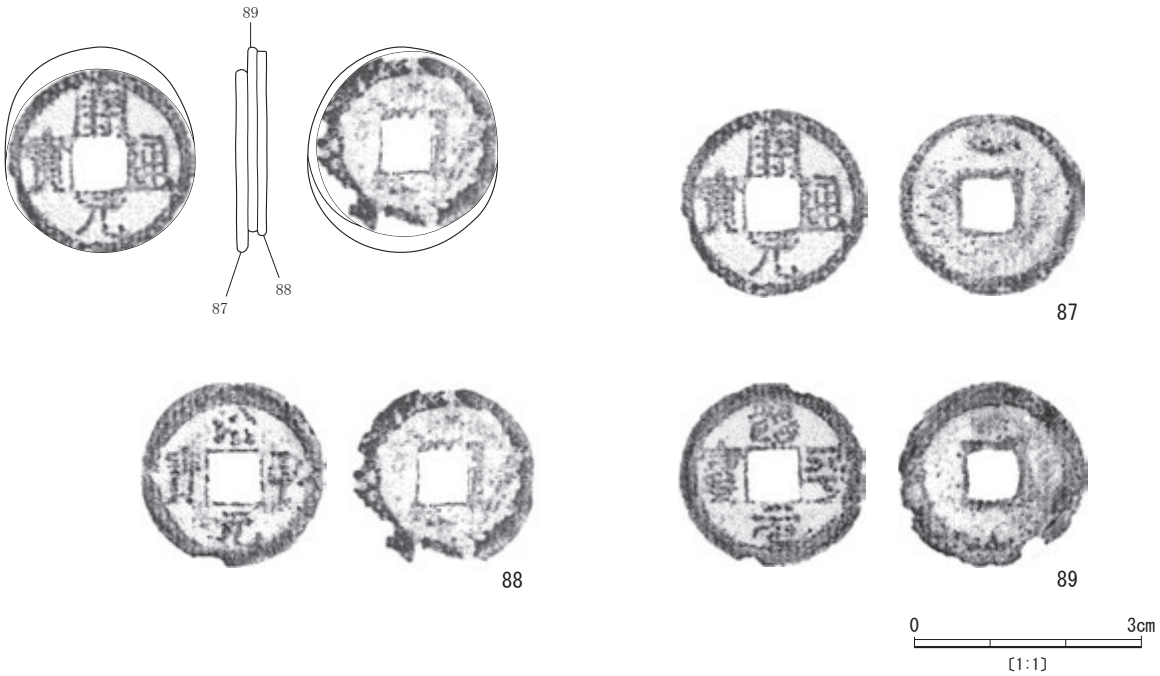
100 は備前焼擂鉢で，口径 31.4cm，器高 12.1cm，底径



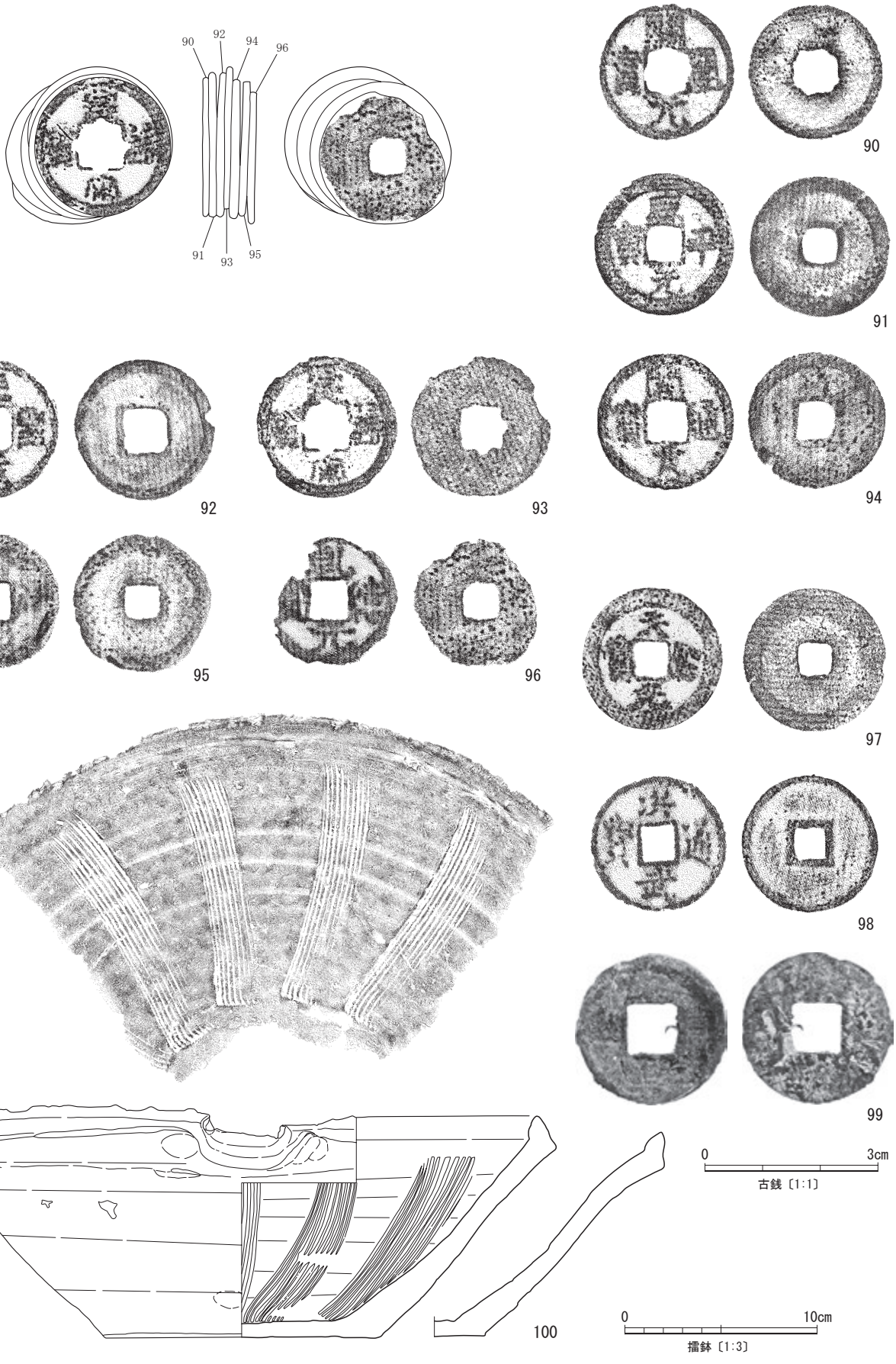

第 47 図　祭祀遺構１号と出土遺物

14.4cmの完形品である。ロクロ目が良く残り，内外ともに横方向にナデ調整され，口縁部は外に折曲したあと内側に引き上げられて逆「く」の字状を呈する。注ぎ口は，整形後に外に引き出すように作られている。内面には10条を一単位とする掻き目が12組施される。白色，明褐色の小礫を含む胎土で，色調は内面が極暗赤褐色，底部から胴部の一部にかけて素地の赤色，口縁部は灰赤色，全体は暗赤褐色を呈する。14世紀後半頃のものである。




第48図　祭祀遺構２号と出土遺物（１）




第 49 図　祭祀遺構２号の出土遺物（２）

### (7) 溝状遺構

調査区内に16条の溝状遺構が検出されている。その多くは底面が硬化しており，道跡と考えられるが，底面が細いものや，並行して端が止まったもの，直に曲がったものなど別な用途をもった可能性があるものもある。また，同じものが分岐しているもの，途中が削平により途切れているが，本来は同一のものと考えられるものもあり，数は減る可能性がある。遺構内出土の遺物も多様で，長期にわたっていることから使用された時期も定かではない。

**溝状遺構1号（第50図）**

C－49～51区，D－48・49区において，Ⅲ層上面で検出された断面が逆台形の溝状遺構である。北側の斜面に並行して，東北東～西南西に約30ｍ走っており，幅は50～90㎝，検出面からの深さは15～30㎝である。西側から東側へ下降し，比高差が約50㎝ある。埋土は黒色砂質土で，底面は平坦に近く，明確な硬化面はない。遺構内出土の遺物はない。

**溝状遺構2号（第50図）**

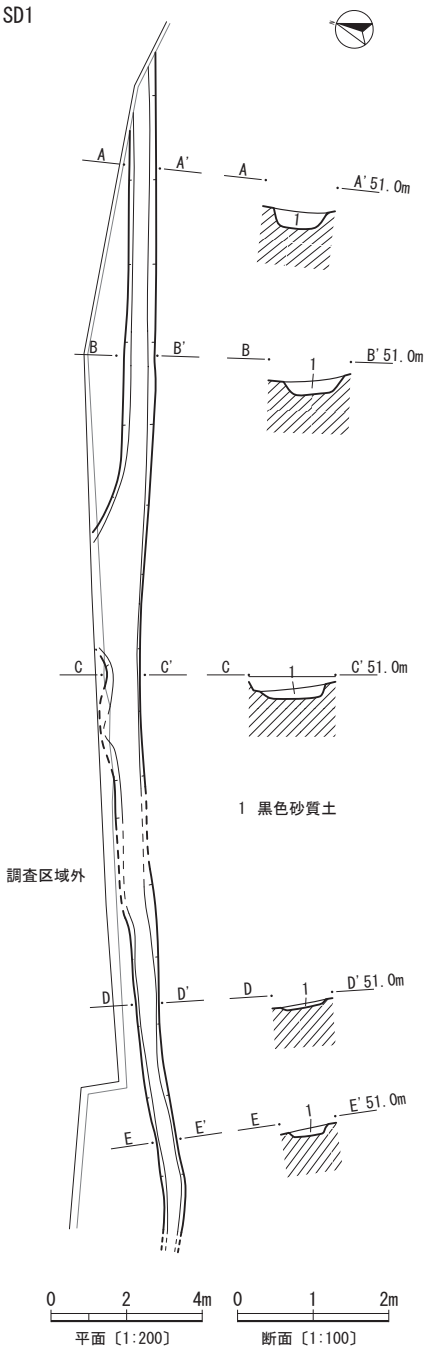
E－47区のⅢ層上面で検出された。北側の調査区外の谷へ向かって延びており，谷側は急傾斜で深くなり，2段掘りとなるが，台地側は浅くなり，上端と下端が不明瞭となる。検出範囲で，長さ約14ｍ，最大幅約1.8ｍ，検出面からの深さは10～70㎝である。埋土は，しまりのない黒色土で自然堆積状態にある。遺物は出土していない。

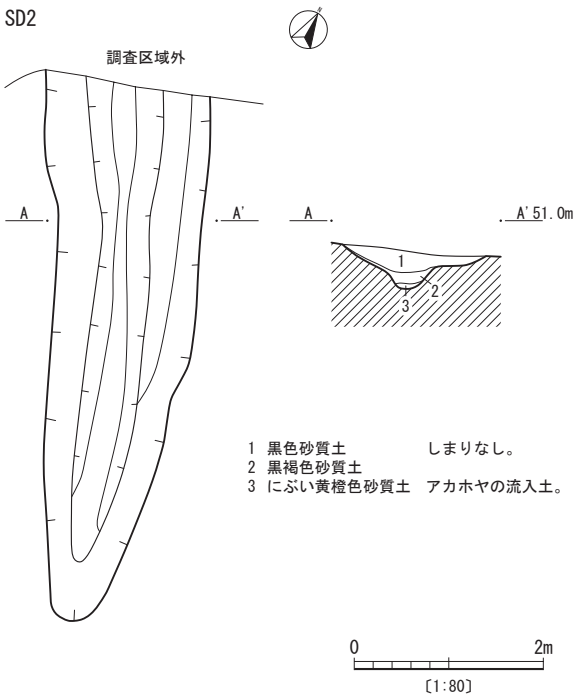
谷へ下りる溝あるいは道跡と考えられる。

**溝状遺構3号（第51図）**

G～J－40～43区，J－42・43区のⅣa層で検出された。検出距離39ｍ，幅1.2～2.0ｍの溝状遺構である。断面は逆台形あるいはゆるやかなU字形となっており，深さは10～40㎝ある。南側へ下がっており，底面の比高差が1.35ｍある。遺構底面は硬化面となっているため道跡と考えられる。近代まで機能していたらしく，土地所有者は，家と畑の境界として溝沿いに盛土が築かれていたという。南側低地に通じる古道の可能性がある。

遺物は，101が玉縁白磁碗の口縁部片で，灰色を呈する。102は鎬蓮弁の青磁碗の口縁部で，灰オリーブ色を

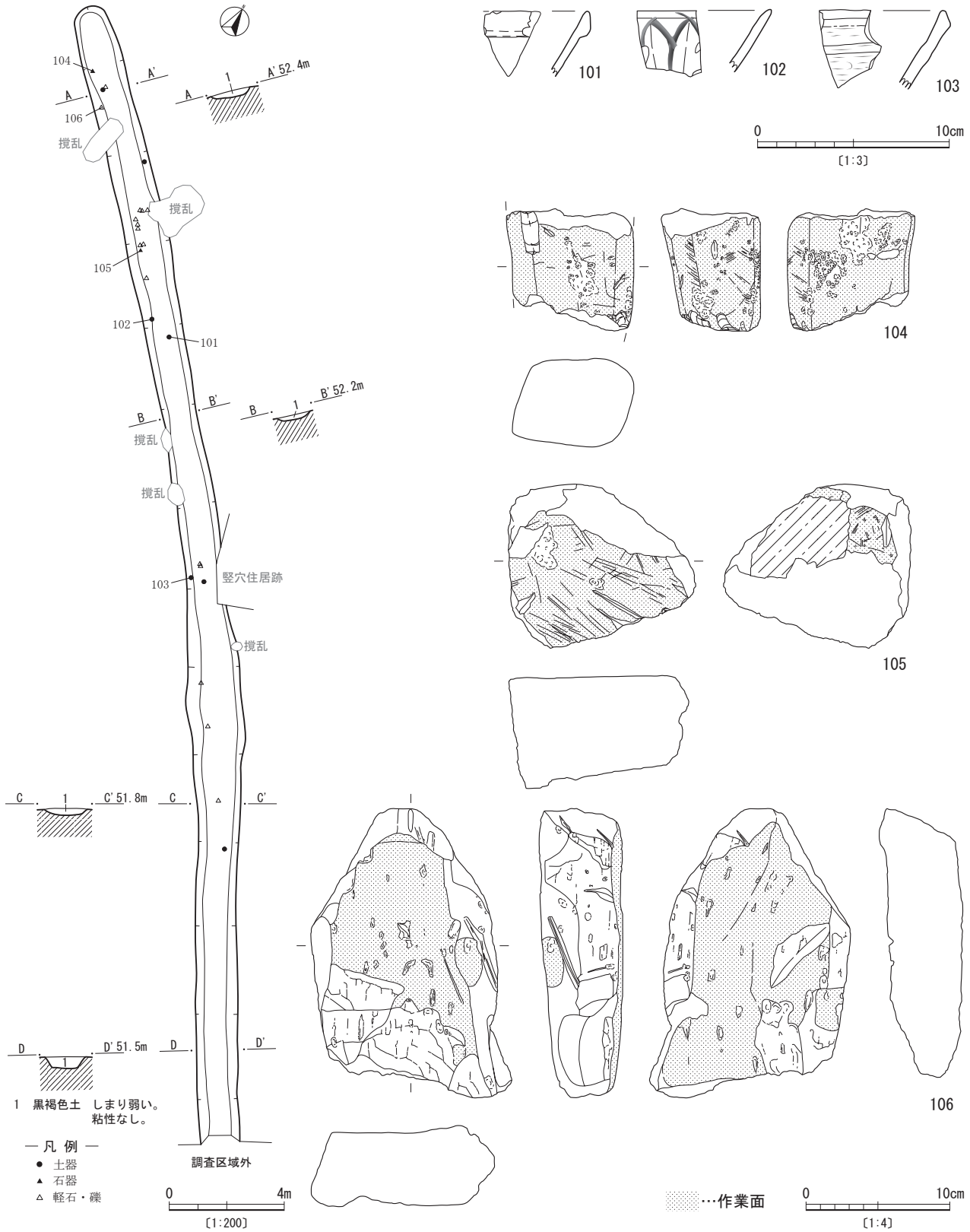



第50図　溝状遺構1号・2号

呈する。103 は東播系須恵器鉢の口縁部で，内外ともに横方向のナデ調整で，でこぼこがある。全体は灰色，外面口縁端はやや光沢のある黒色を呈する。

104・105 は砂岩製砥石の欠損品で，ともに被熱赤化している。作業面は 104 が 4 面，105 が表裏面である。106 は一端を切り妻形として，板状に整形された軽石製品である。



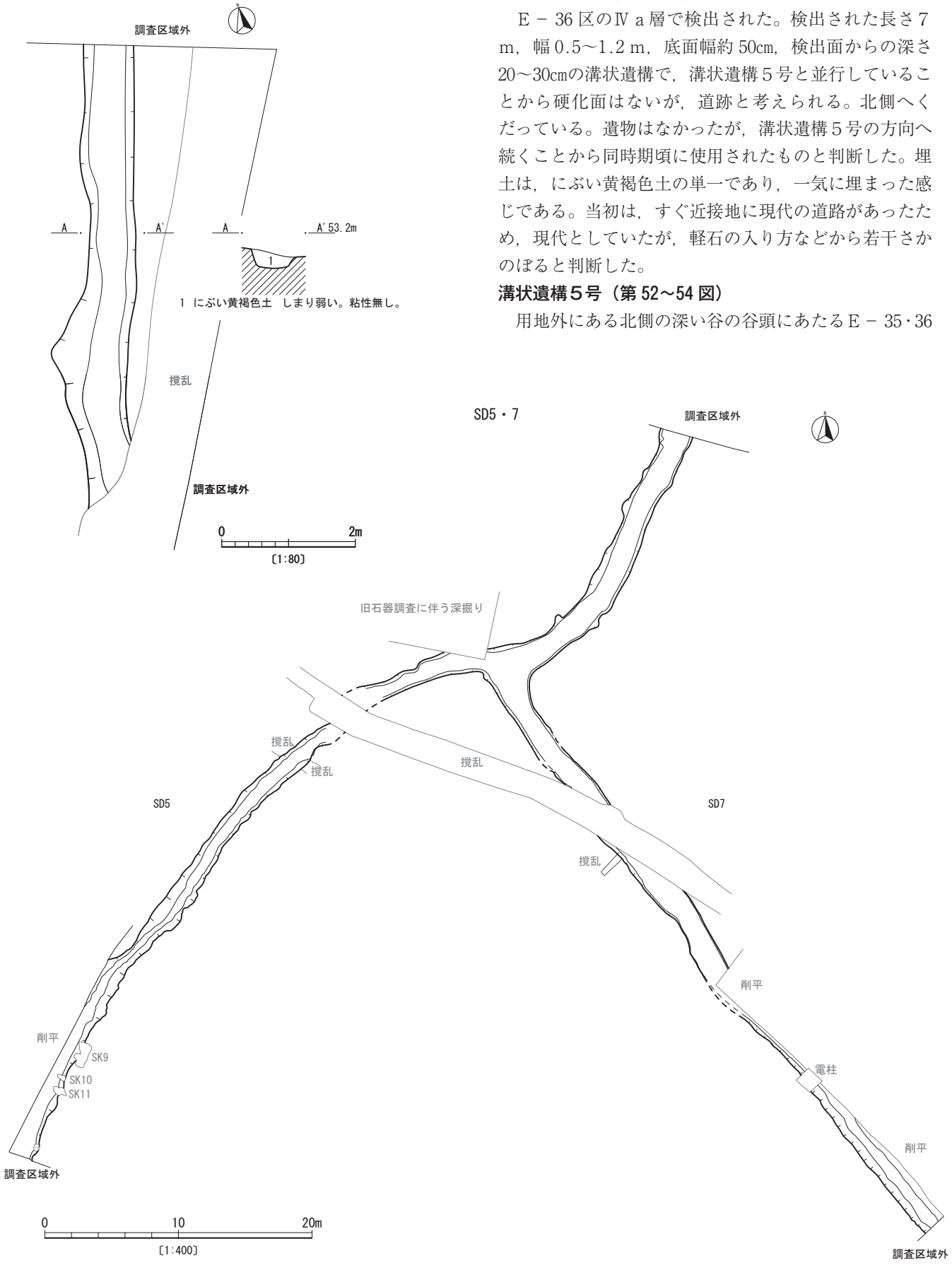

第 51 図　溝状遺構３号と出土遺物

**溝状遺構４号（第 52 図）**

Ｅ－ 36 区のⅣａ層で検出された。検出された長さ７ｍ，幅 0.5～1.2 ｍ，底面幅約 50㎝，検出面からの深さ 20～30㎝の溝状遺構で，溝状遺構５号と並行していることから硬化面はないが，道跡と考えられる。北側へくだっている。遺物はなかったが，溝状遺構５号の方向へ続くことから同時期頃に使用されたものと判断した。埋土は，にぶい黄褐色土の単一であり，一気に埋まった感じである。当初は，すぐ近接地に現代の道路があったため，現代としていたが，軽石の入り方などから若干さかのぼると判断した。

**溝状遺構５号（第 52～54 図）**

用地外にある北側の深い谷の谷頭にあたるＥ－ 35・36




第 52 図　溝状遺構４号・５号・７号

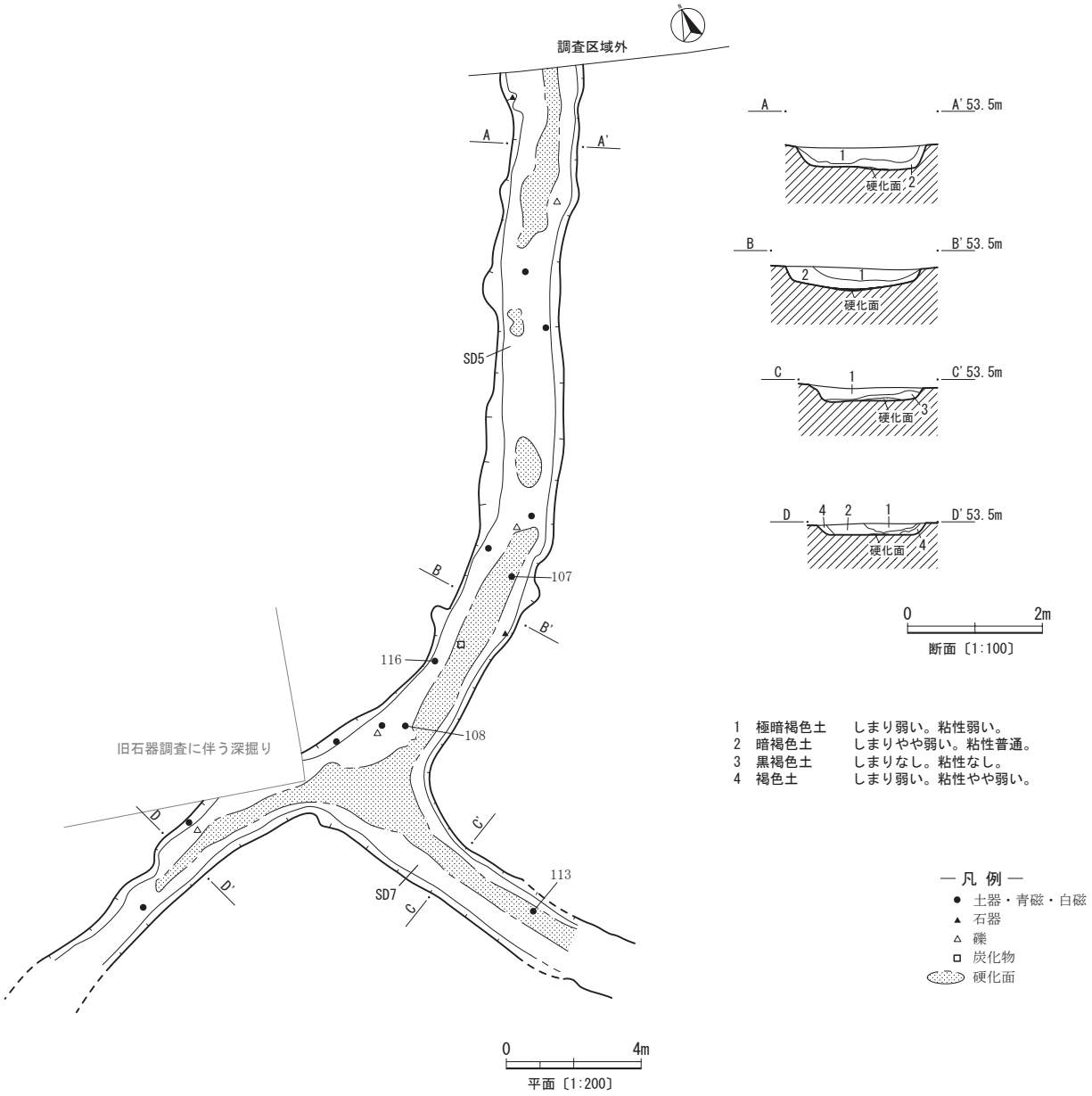
区の表土下（Ⅳａ層）で検出された溝状遺構で，ここからＦ・Ｇ－34・35区，Ｇ・Ｈ－33区，Ｉ－32・33区，Ｊ・Ｋ－32区と南下し，南側の谷へと向かう。検出した長さは約76.5ｍである。最頂部であるＦ・Ｇ－35区で，南南東へ分岐しており，これは溝状遺構７号と呼んでいるが，本来は同一の遺構である。幅は1.3～2.6ｍあるが底のほうがやや狭くなっており，硬化している底面は0.6～1.9ｍある。南側では西端がとらえにくい。深さは30～40cmあり，Ｆ－35区あたりがもっとも高く，北側と南側へゆるやかに下降している。丘陵を横断し，尾根上で東側へ分岐している道跡である。埋土は黒褐色土をしているが，底面近くはやや褐色が強くなる。

埋土内から多くの遺物が出土しており，時期的にも縄文時代以降多種である。

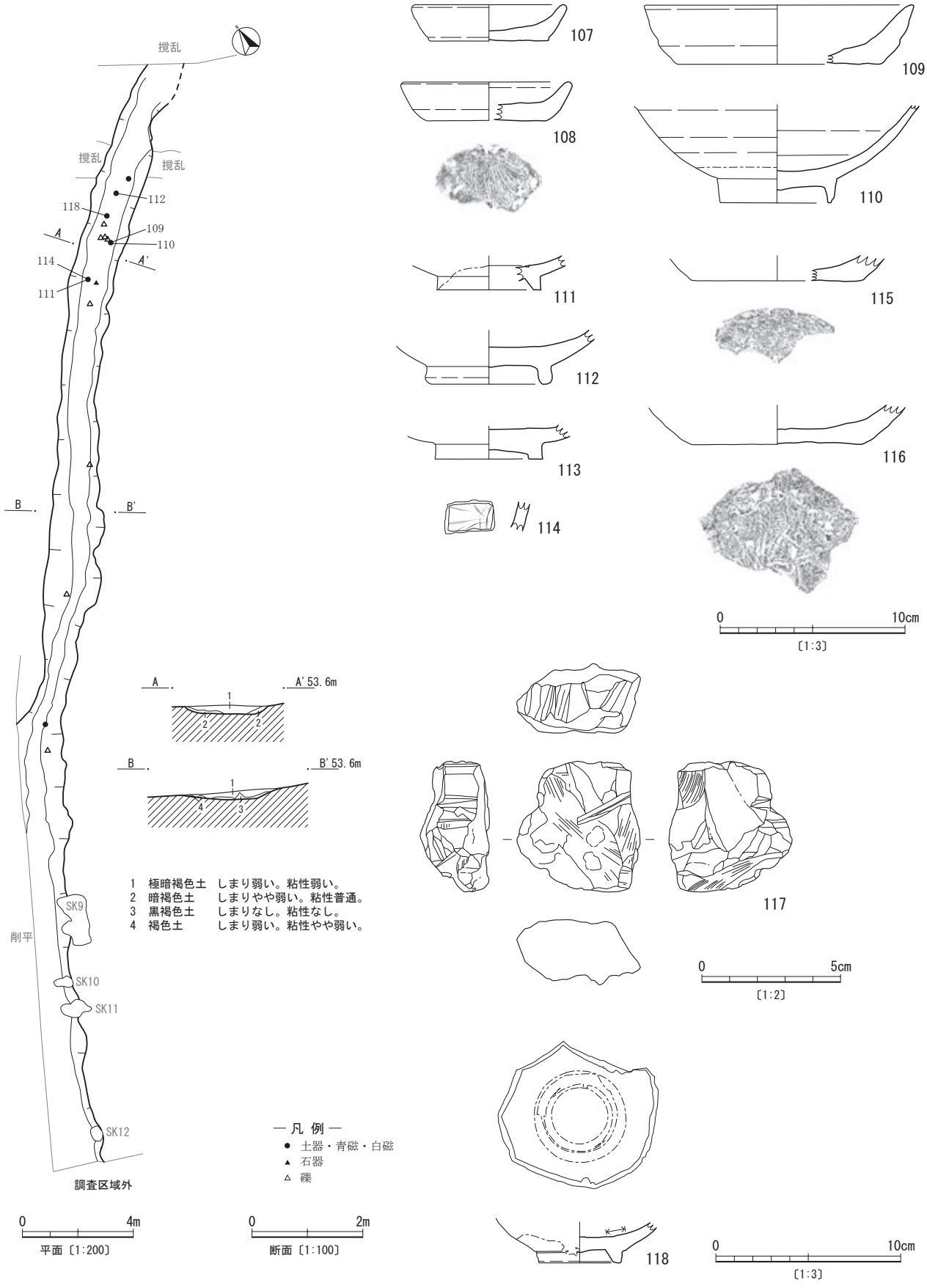
107～109は土師器の底部から口縁部の破片で，いずれもロクロ整形で，摩滅が激しい。107・108は小皿である。107は口径8.4cm，器高1.9cm，底径6.4cmで，ヘラ切り底である。108は口径9.0cm，器高2.1cm，底径6.2cmで，糸切り底である。109は坏で，口径14.8cm，器高3.2cm，底径11.1cmで，外面は段を有する。

110・111は白磁碗である。110は２類の胴部から底部である。底径6.1cmで，素地・施釉部分ともに灰白色，露胎は淡黄色を呈する。111は４類の底部で，高台径5.6cmである。見込みに１条の界線がみられる。底部から高台は無釉で，施釉部分は，灰白色の地に青みがかった灰白色の釉と透明釉が施されている。外面はにぶい黄橙色を呈する。

112・113は，灰オリーブ色を呈する青磁碗である。




第53図　溝状遺構５号・７号




第 54 図　溝状遺構５号南西側と出土遺物

112 は高台径 6.4cmの高台から胴部で，高台は不整形である。貫入がみられ，高台内は無釉で焼成不良である。113 は底部から高台部分で，高台径は 5.8cmで，底部に焼台に用いられた粘土が付着している。

114 は内面に花文を施された青白磁碗の胴部片で，オリーブ灰色を呈する。

115・116 は東播系須恵器の鉢の底部で，ヘラでナデ調整され，底部は糸切り離しである。115 は底径 9.0cmで，灰色を呈する。内面は長期の使用によってツルツルしている。116 は胴下部まで伸びた底径 9.2cmの破片で，褐灰色を呈する。

117 は滑石製の不整形な素材片とみられ，多方向の削り面と線状痕をもつ。長さが 4.7cmある。

118 は高台径 4.4cmの龍門司焼埦の底部である。高台はケズリ出しと考えられる。素地は灰褐色で，鉄釉が施される。重ね痕があり，見込みには蛇の目釉剥ぎを施している。

近世の破片も含まれているが，中世のものが殆んどで，中世前半から長期にわたって使われたものと考えられる。

**溝状遺構６号（第 55 図）**

G・H－32 区のⅢｂ層で検出された。長さ 7.8 m，幅 1.37 m，検出面からの深さ 10～20cmで，軸はおおよそ南北を向いている。南西側がもっとも高いが，ほぼ平坦である。埋土は暗褐色土で，上層は若干の軽石を含んでいた。白磁が出土しており，埋土の状況から，中世の古道・区画溝の可能性が高い。

119・120 は灰白色を呈する白磁碗の口縁部である。119 は口径 14.3cmで，口縁部を外に引くように整形している。120 は端反り碗の体部まで残る口径 18.0cmの破片で，透明釉がかかっている。

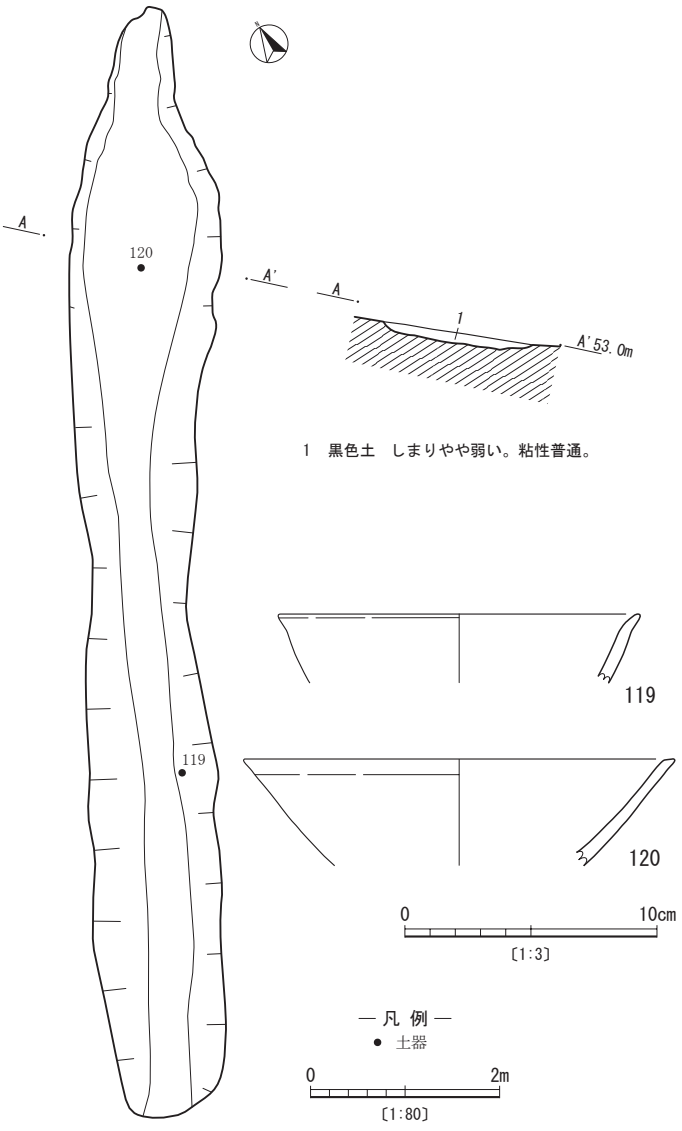
**溝状遺構７号（第 52・53・56～59 図）**

Ⅰ・Ｊ－37～39 区のⅢｂ層上面で検出された。北西から南東へ延び，長さ 21.1 m，幅 1.8 m，硬化面幅 0.6～1.0 m，検出面からの深さ 18～47cmである。底幅は 0.6～１mで，底の高さは南東隅では北側の分岐点から 1.6 mほど下がっている。北東側は町道に削平されているため，実際の幅は不明である。埋土は，上層に黒色土，中層から下層に黒褐色土が堆積している。②・③層の上部に集中して遺物が出土した。⑥層は遺構の側面が崩れて入り込んでいる。堆積はレンズ状を呈し，自然流入を示している。遺物は，磁器，土師器，弥生土器，東播系須恵器，備前焼，砥石などがあった。また被熱した軽石や加工痕が見られるものが多く見受けられた。

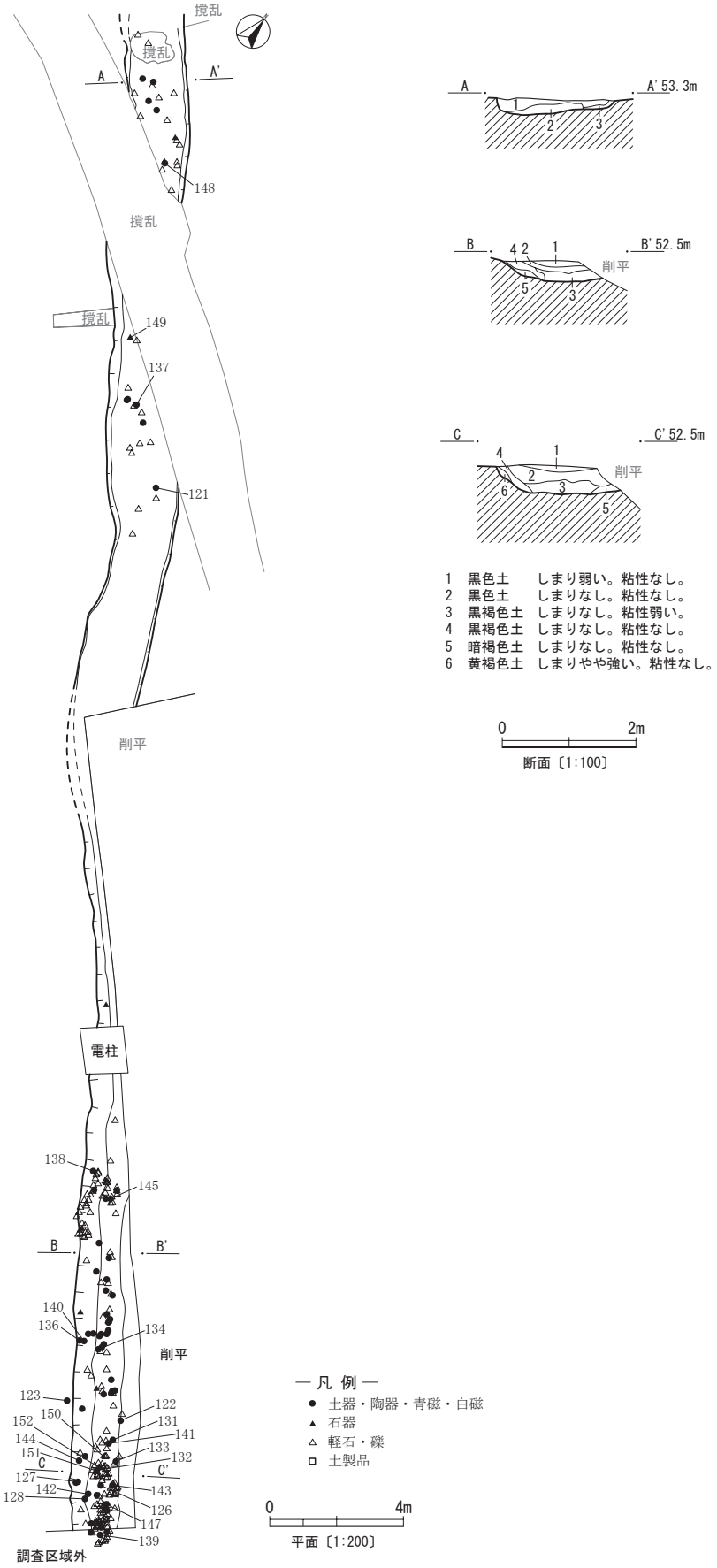
121～123 は土師器である。121・122 は坏で，ナデ調整され，浅黄橙色から橙色を呈する。121 は口径 12.4cm，器高 3.5cm，底径 9.0cm，122 は口径 10.8cm，器高 3.2cm，底径 6.3cmで，底部は糸切り離しである。123 は皿と考えられる底部片で，復元底径 6.3cmである。見込み・立ち上がり部はナデ調整し，底部は糸切り離しである。周辺を打ち欠いている可能性があり，摩滅が激しい。浅黄橙色を呈する。

124・125 は白磁皿の底部である。124 は高台径 3.9cmである。素地は浅黄色，施釉部は灰白色を呈し，ススがかかる。露胎の高台はケズリ出しと思われ，内面は細かい貫入がみられる。125 は高台径 3.6cmである。明緑灰色を呈し，高台から底部と，体部下半の一部は露胎である。ナデで調整され，貫入がみられる。白磁皿９類で 15 世紀前半のものと考えられる。

126～132 は青磁である。126～131 は龍泉窯系青磁碗５類の碗である。127～129 は高台中央部が突出する。126・127 の高台内はナデ調整される。126 は高台径 6.6cmで，高台内は無釉で灰褐色を呈する。体部内面に陽刻の印花文が施され，重ね焼きにされ，見込みには釉の掻き取りがある。色はにぶい赤褐色を呈する。127 は




第 55 図　溝状遺構６号と出土遺物


撹乱
撹乱
A
A'
148
撹乱
撹乱
149
137
121
削平
電柱
138
145
B
B'
140
136
134
削平
123
122
150
152
131
141
144
133
151
132
C
C'
127
142
143
128
126
147
139
調査区域外
A
A'
53.3m
1
2
3
B
B'
52.5m
4
2
1
削平
5
3
C
C'
52.5m
4
1
削平
2
6
3
5
1 黒色土 しまり弱い。粘性なし。
2 黒色土 しまりなし。粘性なし。
3 黒褐色土 しまりなし。粘性弱い。
4 黒褐色土 しまりなし。粘性なし。
5 暗褐色土 しまりなし。粘性なし。
6 黄褐色土 しまりやや強い。粘性なし。
0
2m
断面〔1:100〕
— 凡 例 —
● 土器・陶器・青磁・白磁
▲ 石器
△ 軽石・礫
□ 土製品
0
4m
平面〔1:200〕

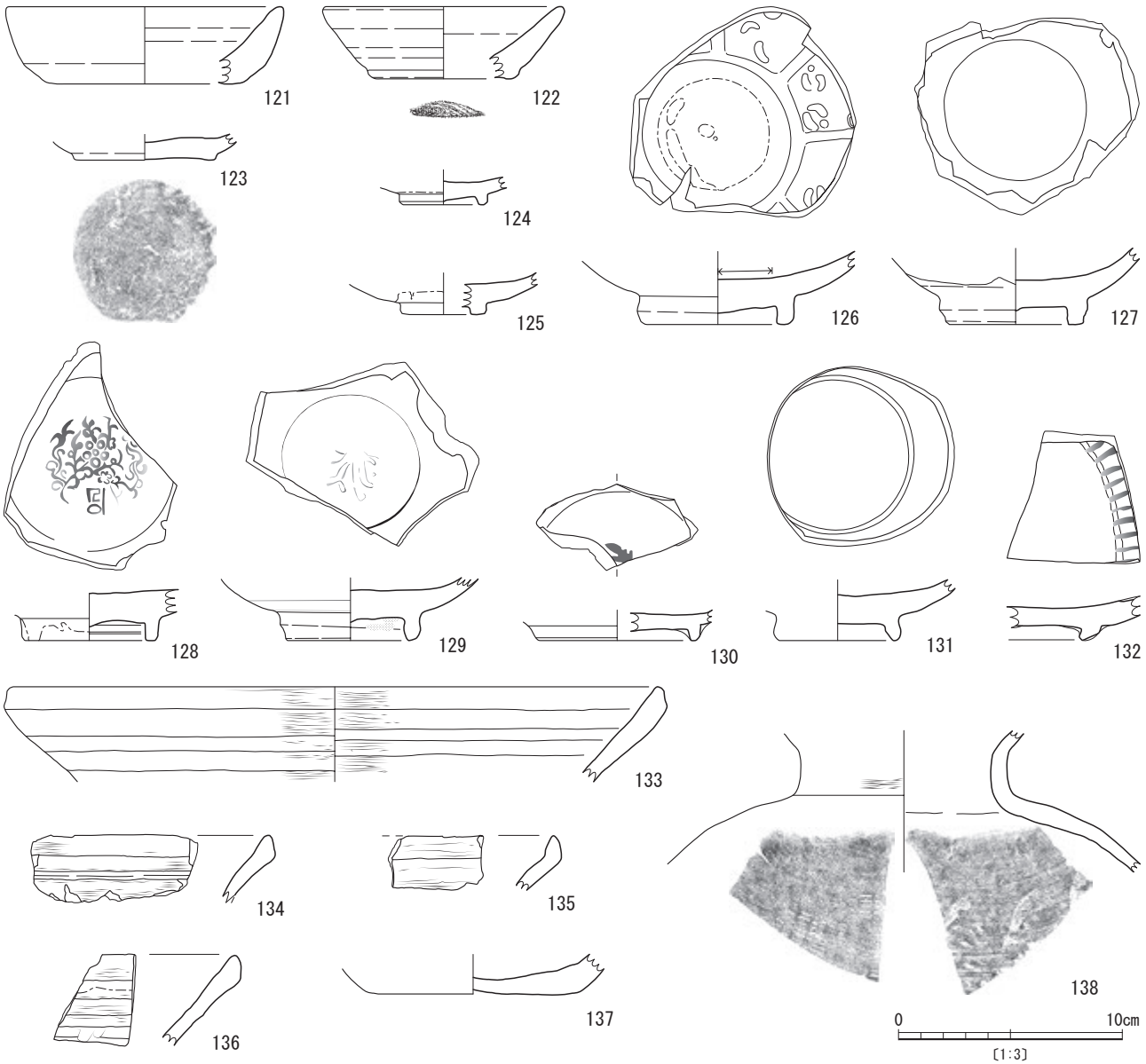
第 56 図　溝状遺構 7 号

高台径 6.1cmで，見込み部に渦巻状の整形がみられる。内面は，圏線内に草花文が押され，外面に雷門帯が表される。焼成に斑がある。素地は黄灰色から浅黄色を呈する。128 は高台径 6.0cmで，灰色の素地に，高台内はケズリ，無釉である。見込みには，草花文と考えられる印刻文を施す。129 は底径 5.8cmで，灰色の素地に高台は段を持つように強くナデられる。また，高台内には重ね焼きの痕と考えられる粘土の付着がみられる。見込みは圏線内に草花文が，外面は二重圏線が施され，貫入がみられる。130 は底径 7.2cmの低い底部片である。灰白色の素地に施釉され緑灰色を呈する。高台部周辺の施釉は若干厚めだが，高台内は無釉である。見込み中央にスタンプ文様の一部が残っている。131 は底径 5.2cmで，灰色の素地に，高台内は無釉である。割れ口内面に打ち欠き痕がみられる。また高台内にススが付着している。釉は厚めで，貫入がある。132 は盤の底部片で，内面に放射状の櫛目が施され，貫入がみられる。オリーブ色の釉がかかり，底面は露胎である。元・明代のものと考えられる。

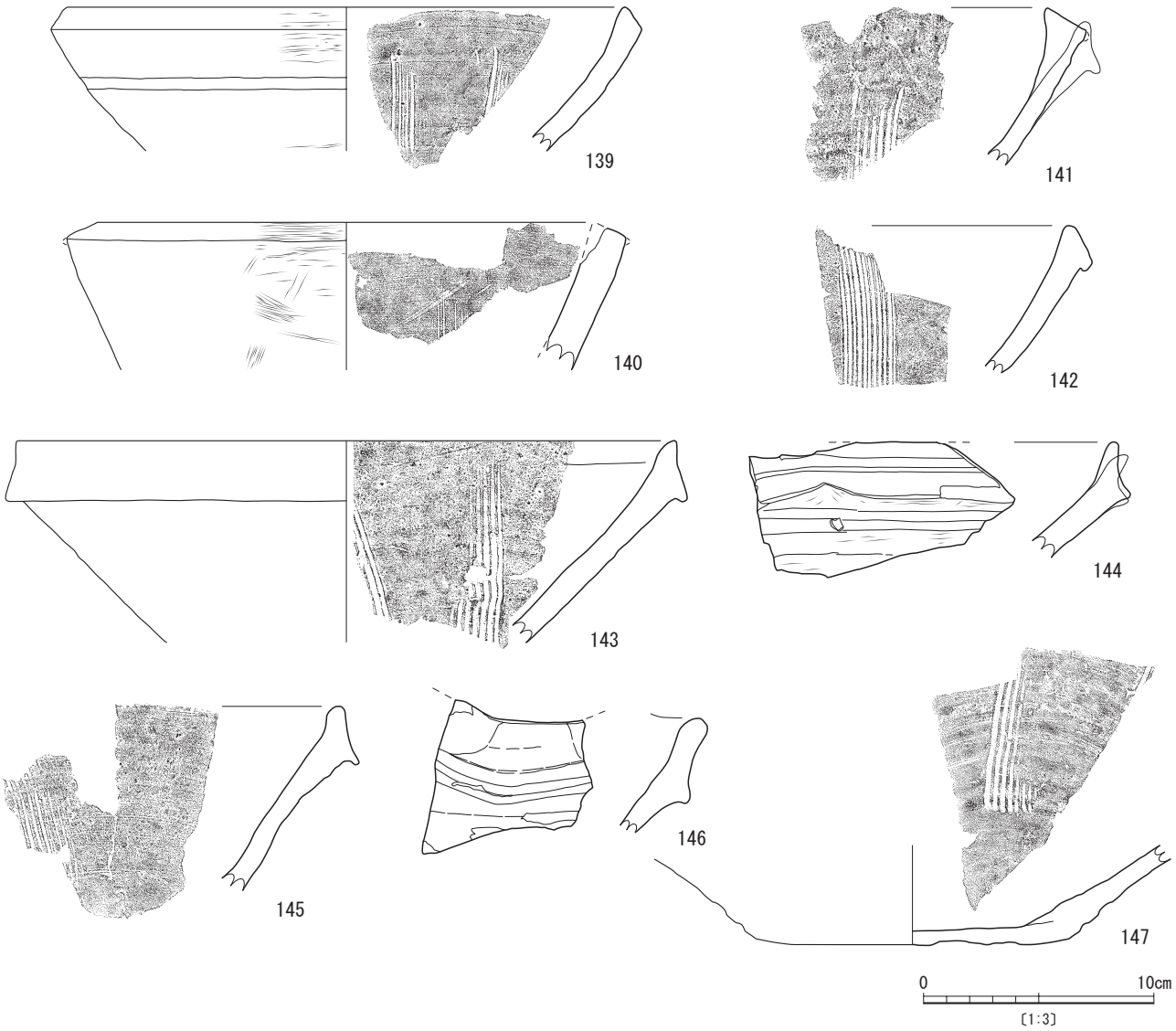
133～137 は東播系須恵器の鉢である。133～136 は口縁部で，内面は多くがまっすぐ伸びているが，135 は屈曲している。口縁端は割合に細く，内外とも横方向にナデ調整されている。133・134・136 は灰色を，135・137 は黄灰色を呈する。133 は口径 29.6cmである。135 の口縁と内面は黒色，136 の口縁は暗青灰色を呈する。137 は底部片で，底径 9.6cmである。

138 はカムィヤキ広口壺の頸部から胴部の破片である。外面は長格子タタキのあと横方向にナデ，内面は格子当て具のあとを横ナデ調整している。

139～147 は擂鉢で，いずれも横方向にナデ調整されて




第 57 図　溝状遺構 7 号の出土遺物（1）




**第 58 図　溝状遺構７号の出土遺物（２）**

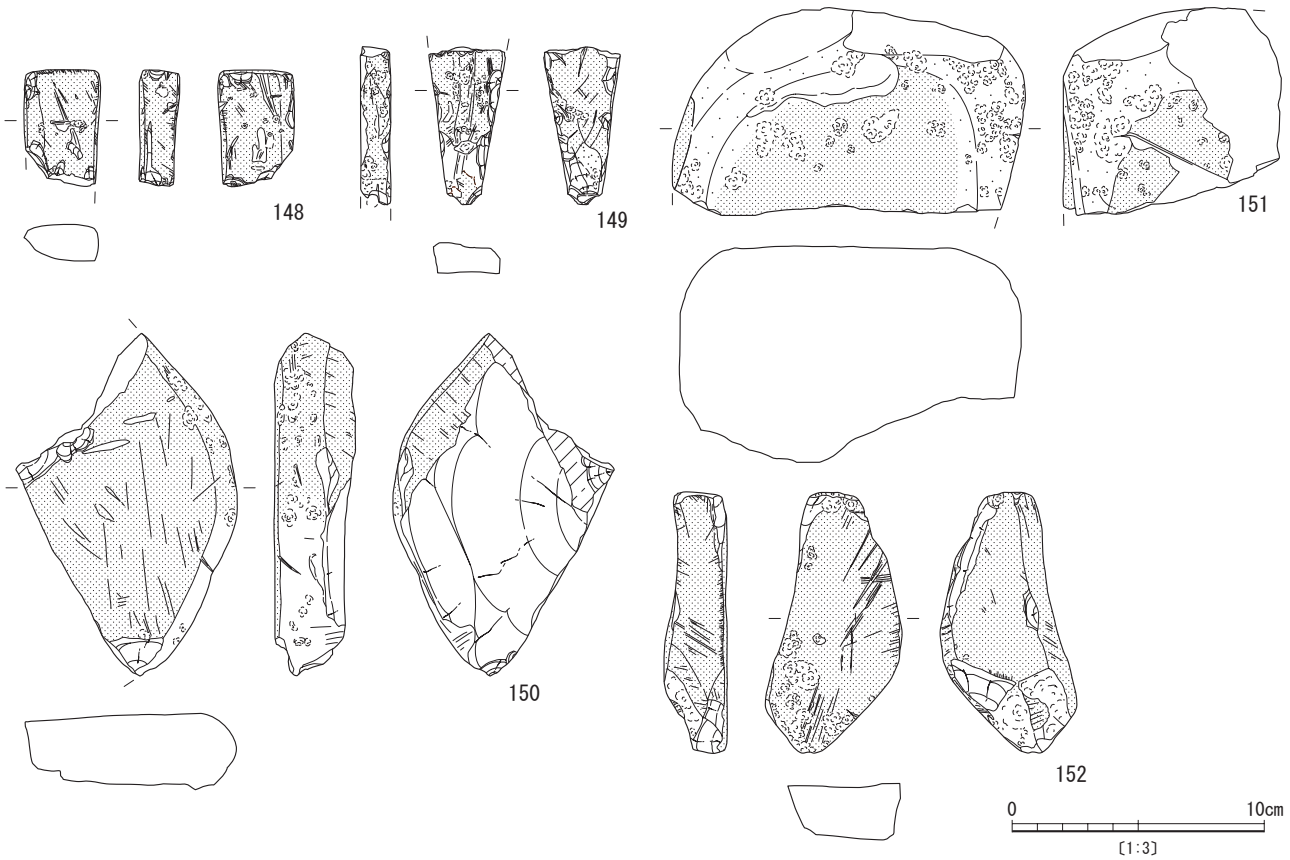
いる。139～146 は口縁から底部の破片で，口径は 139 が 25.6cm，140 が 24.2cm，143 が 28.4cmである。

139・141～146 は備前焼である。139 は内面に６条の掻き目が施されている。丸みをおびた器形で，口縁端はまっすぐ伸びている。全体はにぶい赤褐色であるが，口縁の一部は黒褐色を呈する。141・144・146 は注ぎ口を含む破片である。141 は内面に胡麻が付着し，暗赤褐色を呈する。142 の内面は 11 条の掻き目が施され，暗青灰色を呈する。143 は内面に胡麻が付着している。全体は黒褐色，口縁及び内面は暗赤褐色を呈し，内面にオリーブ黄色の胡麻がみえる。141 と類似している。144 は全体が橙色，口縁はにぶい赤褐色を呈する。145 の内面は青灰色，外面は青褐色を呈する。内面は８条の掻き目が施され，使用痕がある。146 の外面は灰赤色のなかに一部黄色胡麻がみえ，内面は胡麻を含む黄灰色を呈する。

140 は灰白色を呈する。須恵質土器の擂鉢片で，口縁端が短形を呈している。ハケで調整され，内面は使用痕が目立つ。

147 は擂鉢の底部から胴部の破片で，底径が 14.0cmあり，黄灰色から灰黄色を呈する。内外面に加え，底部もナデ調整され，内面に下から上へ８条の掻き目が施されている。内面は使用のためか摩耗しており，ツルツルし掻き目の一部は消えている。

148～152 は砥石である。148・149 は砂岩製の提砥で，148 は直方体に整えられ，四面を使用している。149 は逆台形をしているが，雑な作りで，短辺側に穿孔がある。150・151 も砂岩製である。150 は略円形をした扁平なもので，全面使用しているが，上面は良く使い込んでいる。151 は直方体をした置き砥石で，上面・下面を使用している。152 は流紋岩製で，四面を使い込んで，相当にすり減っている。




第 59 図　溝状遺構７号の出土遺物（３）

**溝状遺構８号（第 60・61 図）**

Ｊ－ 27・28 区，Ｋ－ 28・29 区のⅡａ層で，幅 1.5～2.3 m，硬化面幅 0.5～1.0 m，検出面からの深さ 20～40cm の溝状遺構が，長さ 28 m検出された。南西側へ下降しており，比高差 62cmである。１枚目の硬化面を検出して，そこを上端ラインとして記録した。また，２枚目・３枚目の硬化面を検出して，その硬化面が広がる範囲を実測している。硬化面のみで掘り込みは確認できなかった。４枚目硬化面は，３枚目硬化面とのつながりが確認できなかったので別の硬化面としたが，新旧等は不明である。埋土は，①層の褐色土が１枚目硬化面，③層の暗褐色土が２枚目硬化面，⑤層の灰黄褐色土が３枚目硬化面である。②層の暗褐色土は２枚目硬化面使用時以降の埋土，④層は３枚目硬化面に伴う埋土と考えられる。遺物は，青磁片，弥生土器，打製石斧など様々な時代の遺物が混在していた。状況から，中世の溝状遺構 10～12 号と繋がると判断される。

153・154 は土師器である。153 は口径 8.2cm，器高 2.3cm，底径 6.6cmの分厚い作りの小皿である。口縁端部に２本の沈線状の調整がみられる。にぶい赤褐色土，橙色を呈する。154 も分厚い作りの坏で，口径 10.0cm，器高 3.4cm，底径 7.0cmで，にぶい黄橙色を呈する。内外ともに横ナデで，底部は糸切りである。土中で鉄分が付着した円筒状の植物質の素材が混入しており，外面に錆色状の異物がみられる。

155～157 は玉縁状口縁の白磁碗である。155 は口径 16.0cmで，玉縁部がゆがんでおり，灰オリーブ色を呈する。156 は玉縁のみが残る口縁部小片である。灰黄色を呈し細かい貫入状の亀裂があり，全体的には白くみえる。157 は低い高台から体部の破片で，高台径が 7.0cm，灰白色を呈する。高台内はケズリで段を有し，外面はケズリ調整とみられる。見込みに１条の圏線がみられ，砂粒が混入している。

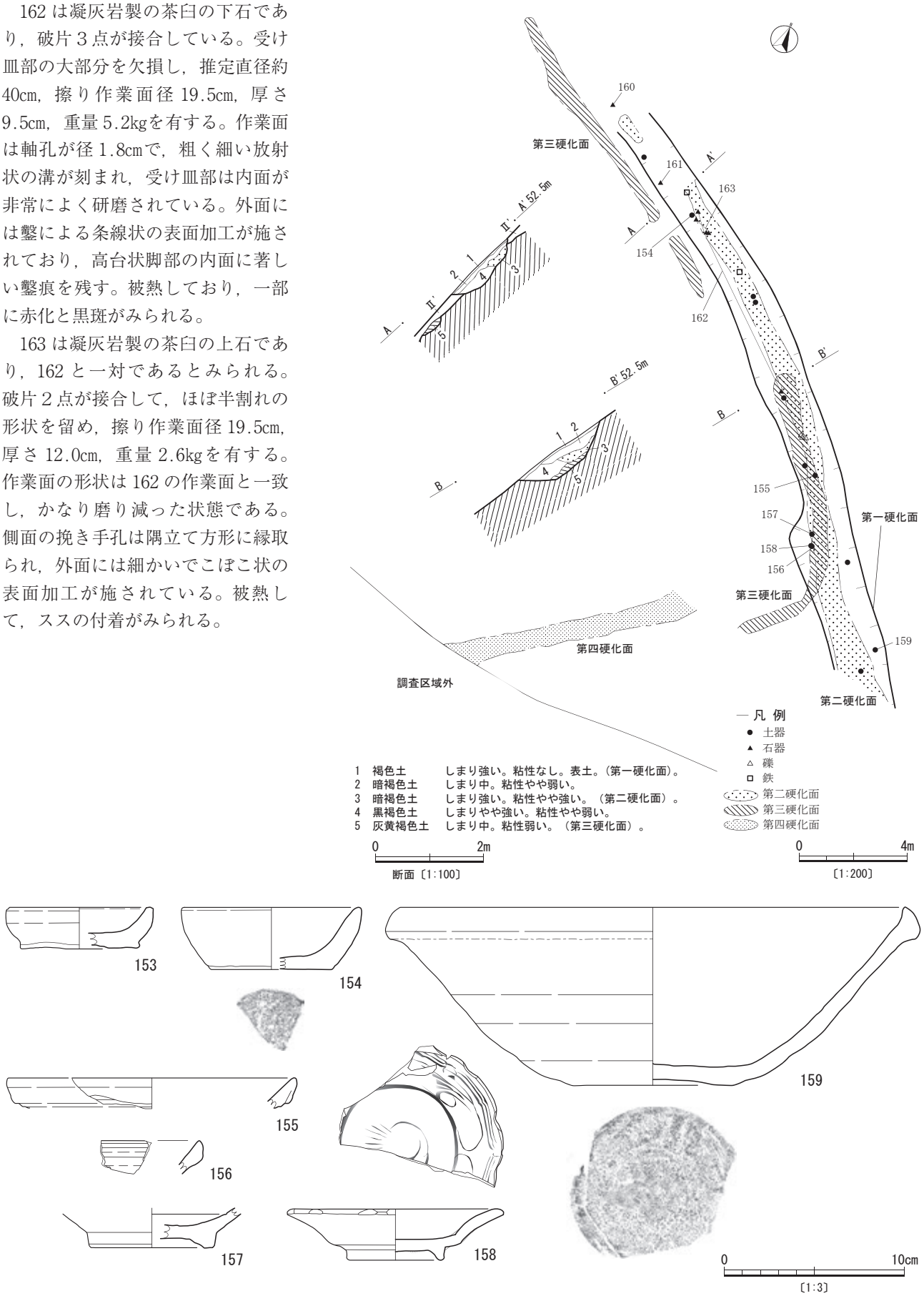
158 は青磁稜花皿の完形品である。口径 12.0cm，器高 2.9cm，底径 5.4cmで，オリーブ灰色に施釉される。内面に３条の櫛描き平行線と蓮花文がある。高台は無釉で，底面に砂粒が付着している。

159 は東播系須恵器の捏鉢の３分の１ほどの破片である。口径 29.5cm，器高 9.9cm，底径 9.0cmで，口縁端が上下に張り出している。灰色を呈するが，口縁端外面は光沢のある黒色を呈している。ロクロ整形で，外面は横方向にナデ，内面はヘラナデ，口縁は横方向にナデ調整され，底部は回転糸切りで切り離している。内面は使用により滑らかとなり，底部には砂目痕がある。

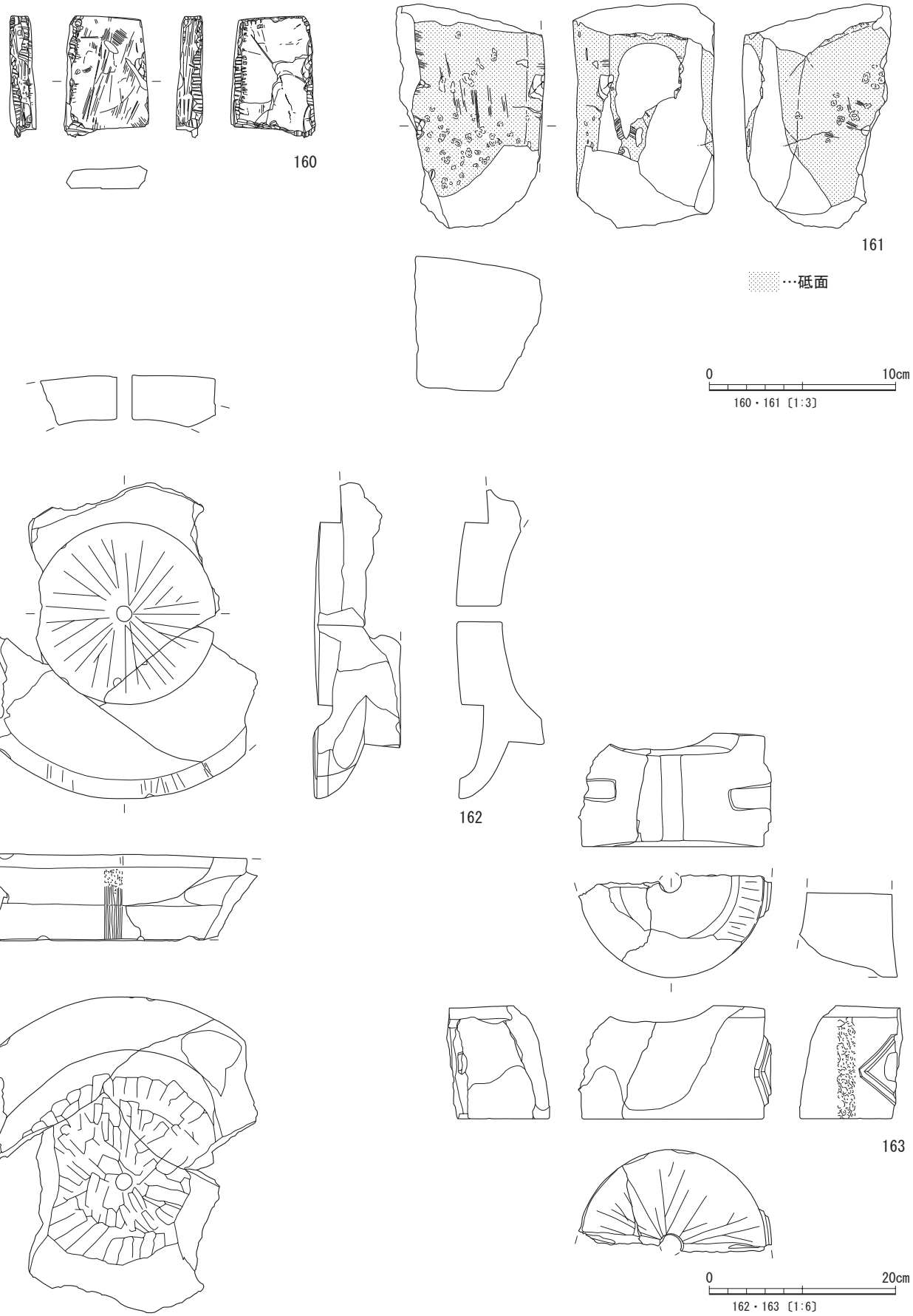
160・161 は砥石である。160 は粘板岩製の板状のもので，下端を欠いている。主に表裏を作業面としており，縁辺に齧歯類の噛み痕をもつ。161 は砂岩製の置き砥の破片である。３面の使用がみられ，被熱赤化している。

162 は凝灰岩製の茶臼の下石であり，破片３点が接合している。受け皿部の大部分を欠損し，推定直径約 40cm，擦り作業面径 19.5cm，厚さ 9.5cm，重量 5.2kgを有する。作業面は軸孔が径 1.8cmで，粗く細い放射状の溝が刻まれ，受け皿部は内面が非常によく研磨されている。外面には鑿による条線状の表面加工が施されており，高台状脚部の内面に著しい鑿痕を残す。被熱しており，一部に赤化と黒斑がみられる。

163 は凝灰岩製の茶臼の上石であり，162 と一対であるとみられる。破片２点が接合して，ほぼ半割れの形状を留め，擦り作業面径 19.5cm，厚さ 12.0cm，重量 2.6kgを有する。作業面の形状は 162 の作業面と一致し，かなり磨り減った状態である。側面の挽き手孔は隅立て方形に縁取られ，外面には細かいでこぼこ状の表面加工が施されている。被熱して，ススの付着がみられる。




第 60 図　溝状遺構８号と出土遺物（１）




第 61 図　溝状遺構８号の出土遺物（２）

**溝状遺構９号（第 62 図）**

Ｅ～Ｇ－ 27・28 区のⅢｂ層上面で検出された。長さ 19 ｍ，上幅 50～70㎝，底幅 30～55㎝である。Ｇ－ 27 区付近で直に近くカーブしており，ここを最頂とし北と東へ下降している。Ｇ区では東西を軸に，Ｅ・Ｆ区では南北を軸にし，底面の比高差が 50～60㎝ある。Ｅ－ 27 区，Ｇ－ 28 区以東で消失しているが，このあたりはかなり削平を受けているためと判断される。埋土はⅡａ層に近くしまりがない黒褐色土の単層で，一気に流入している。遺物は埋土中から，外反する白磁の口縁部が出土している。また，軽石製品が６点ほど出土している。埋土の状況，白磁の出土から，15～16 世紀頃の古道跡と考えられる。

**溝状遺構 10 号（第 63 図）**

Ｈ・Ｉ－ 26・27 区のⅢｂ層で検出された。北西から南東へ下降し，比高差 105㎝である。長さ 11.5 ｍ，幅 1.4～2.0 ｍ，検出面からの深さ 22～42㎝で，Ｈ－ 26 区付近とＩ－ 27 区付近で自然と消失する。Ｈ－ 26・27 区境で若干であるがカーブを呈する。軸の方向から，西側は溝状遺構 11 号に，南東側は溝状遺構８号へ続くものと考えられる。埋土は暗褐色からにぶい黄褐色土である。硬化面は検出できなかった。

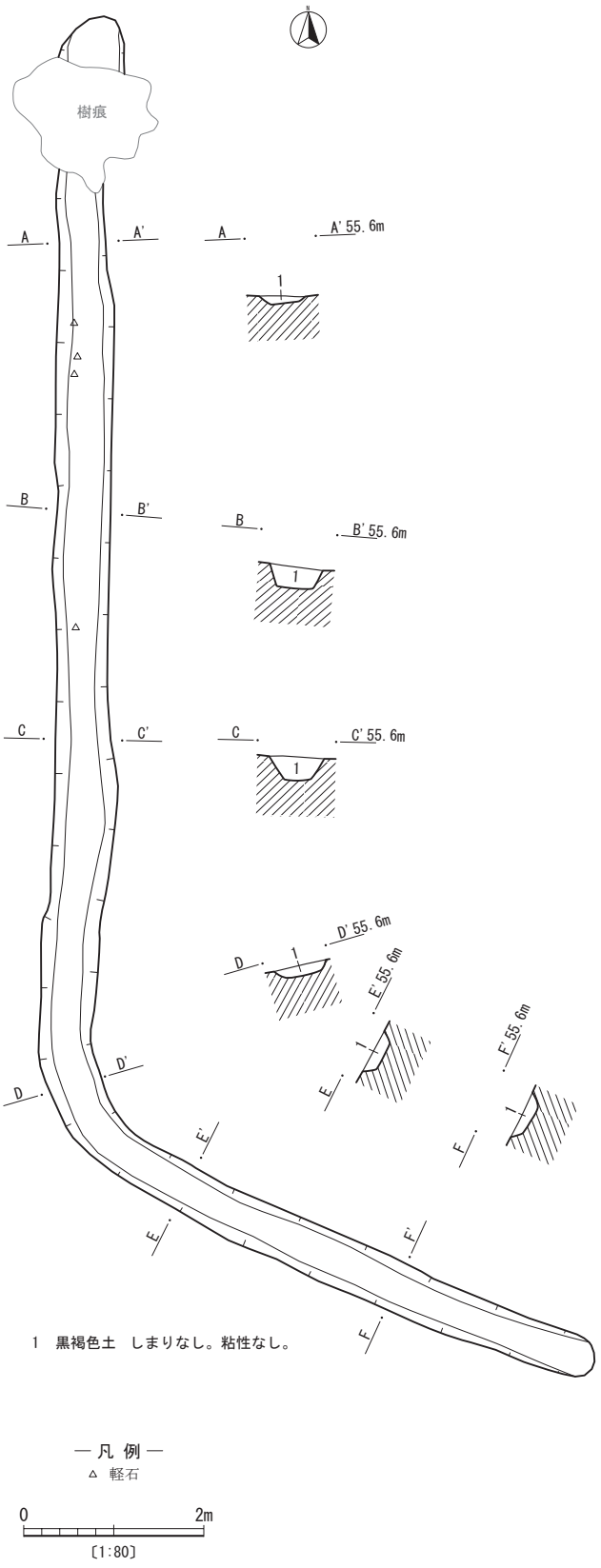
**溝状遺構 11 号（第 64 図）**

Ｇ・Ｈ－ 25・26 区のⅢｂ層で検出された。検出の長さ 7.2 ｍ，幅 50～70㎝，検出面からの深さ 18㎝である。軸は北西から南東を向き，Ｇ－ 25 区付近とＨ－ 26 区付近で自然と消失する。南から北へ下降し，比高差 30㎝である。軸の方向から，北西側は溝状遺構 12 号へ続くと考えられ，南東側は，溝状遺構 10 号へ続く溝状遺構と考えられる。また，溝状遺構 13～16 号に直交するような配置が見られる。埋土は，黒色土の単一であり，中世遺構の埋土に近い。剥片と軽石，型式不明の土器小片が出土している。硬化面は検出できなかった。

**溝状遺構 12 号（第 64 図）**

Ｆ－ 22・23 区のⅢｂ層で，近世のものと考えられる溝状遺構 20・21 号とほぼ同位置・同層中で，その底面から溝状遺構 12 号を検出した。軸は北西から南東を向いており，Ｆ－ 22 区付近とＦ－ 23 区付近で自然と消失する。Ｇ－ 24・25 区で検出できなかったのは，削平を受けた可能性が高い。東から西へ下降し，比高差 80㎝である。西側は崖下集落及び耕作地へ，東側は微高地へと続く道と判断される。溝状遺構 11 号と軸がほぼ一緒のため，同一になる可能性が高い。埋土は黒色土の単一であり，中世遺構の埋土に近い。遺物は東播系須恵器４点，軽石４点が出土している。

164 は東播系須恵器の捏鉢の口縁から胴部上半の破片で，外面口縁は暗灰色，他は灰色を呈する。内外ともヘラで横方向にナデ調整されている。




第 62 図　溝状遺構９号

**溝状遺構 13 号（第 65 図）**

H－26 区，I－25・26 区，J－24・25 区，K－24 区のⅢｂ層上面で検出された。痩せ尾根の最高部に沿って，溝状遺構 13～16 号がほぼ並行して，北東から南西方向へ延びている。北東端は 35cmほどの段差があり，ここで止まっているものと考えられる。南西端は調査区外へ延びている。全長 38.8 m，上端幅 33～100cm，下端幅 18～58cmのU字形をした溝状遺構で，検出面からの深さは 11～35cmである。床面は南へ向かって下がっており，約 60cmの比高差がある。硬化面は検出できなかった。

埋土は，４層に分層できるが，基本的には黒褐色土でアカホヤを少量含んでいる。①層は，しまりが弱くアカホヤ量が下層に比べ多い。③層は，両側面のアカホヤの崩れが混じっている。若干①層より，黒色を呈している。最下層は，他の埋土より褐色が強い。

遺物は，青磁・打製石斧・弥生土器が出土しているが，そのほとんどが①層での出土で，流れ込みと考えられる。用途は不明であるが，区画溝等であれば，中世末の遺構となる可能性がある。

165 は土師器の坏で，底径 8.6cm，浅黄橙色を呈する。摩滅が激しく調整技法は不明瞭である。

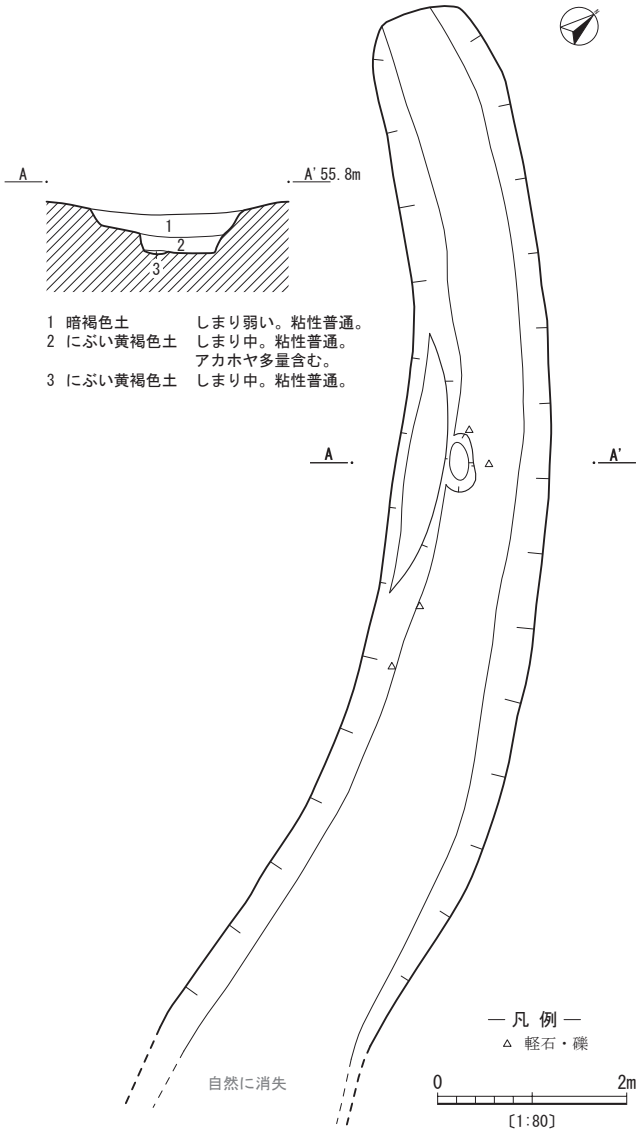
166 は龍泉窯系の青磁碗で，蓮弁文が描かれ，灰オリーブ色を呈する。

**溝状遺構 14 号（第 65 図）**

H－26 区，I－25･26 区，J－24･25 区，K－24 区のⅢｂ層上面で検出された。長さは 40.8 m，上端幅 43～63cm，下端幅 15～44cmで，検出面からの深さは 18～44cmである。床面は南へ向かってゆるやかに下降し，比高差約 60cmである。埋土は，北側は３層に分層できるが，基本的には黒褐色土でアカホヤを少量含んでいる。上層はしまりが無く，２～５cmのアカホヤブロックが混入している。中層は黒色土で，上層よりやや黒みが強く，アカホヤ粒子が微量に含まれている。最下層は他の埋土より褐色が強い。人為的な埋め戻しとは判断できなかった。南側は黒褐色の単一層でアカホヤ及び池田降下軽石の微細な粒を少量含んでおり，一気に入り込んだ埋土と考えられる。遺物は，打製石斧・青磁小片・白磁・丹塗土器・備前焼擂鉢・土師器小皿などが出土しているが，そのほとんどが流れ込みと考えられる。他の中世遺構埋土が黒色土を呈しているのに対して，この溝状遺構は若干褐色がかる。

167 は土師器小皿の糸切り底で，底径 5.6cm，浅黄橙色を呈する。

168･169 は青磁碗である。168 は口径 15.8cmの龍泉窯系碗５類の口縁部である。オリーブ灰色を呈し，貫入がみられる。169 は高台から胴部の下半部で，高台径 6.0cm，灰色を呈する。高台から腰部は露胎で，見込みは圏状に釉がかき取られている。




**第 63 図　溝状遺構 10 号**

170 は備前焼擂鉢の口縁から胴部上半部で，外面は褐灰色，口縁は灰白色，内面は灰黄褐色を呈する。内外ともに横方向にナデ，内面に４条の掻き目がみられる。

**溝状遺構 15 号（第 65 図）**

H－25・26 区，I－24・25 区，J－24 区，K－23・24 区のⅢｂ層上面で検出された。北東端は 28cmの段差があって止まっており，南西端は調査区外へ伸びている。全長 42.4 m，上端幅 40～77cm，下端幅は 15～45cmで，検出面からの深さは 30～45cmである。床面は南へ下っており，比高差が 67cmである。埋土は，北側は３層に分層できるが，基本的には黒褐色が強い暗褐色土で，アカホヤブロックが多く含まれている。最下層は黒褐色土で，アカホヤの粒子を微量に含む。３層ともほぼ水平堆積をしており，人為的な埋め戻しとは判断できなかった。南側は黒褐色土の単一層で，アカホヤ及び池田の微細な粒を少量含んでいる。遺構内に同一の埋土が一気に入り込んだと判断する。遺物は，青磁碗・白磁小片・弥生土

器・成川式土器・打製石斧などが出土しており，流れ込みと判断する。用途は不明である。

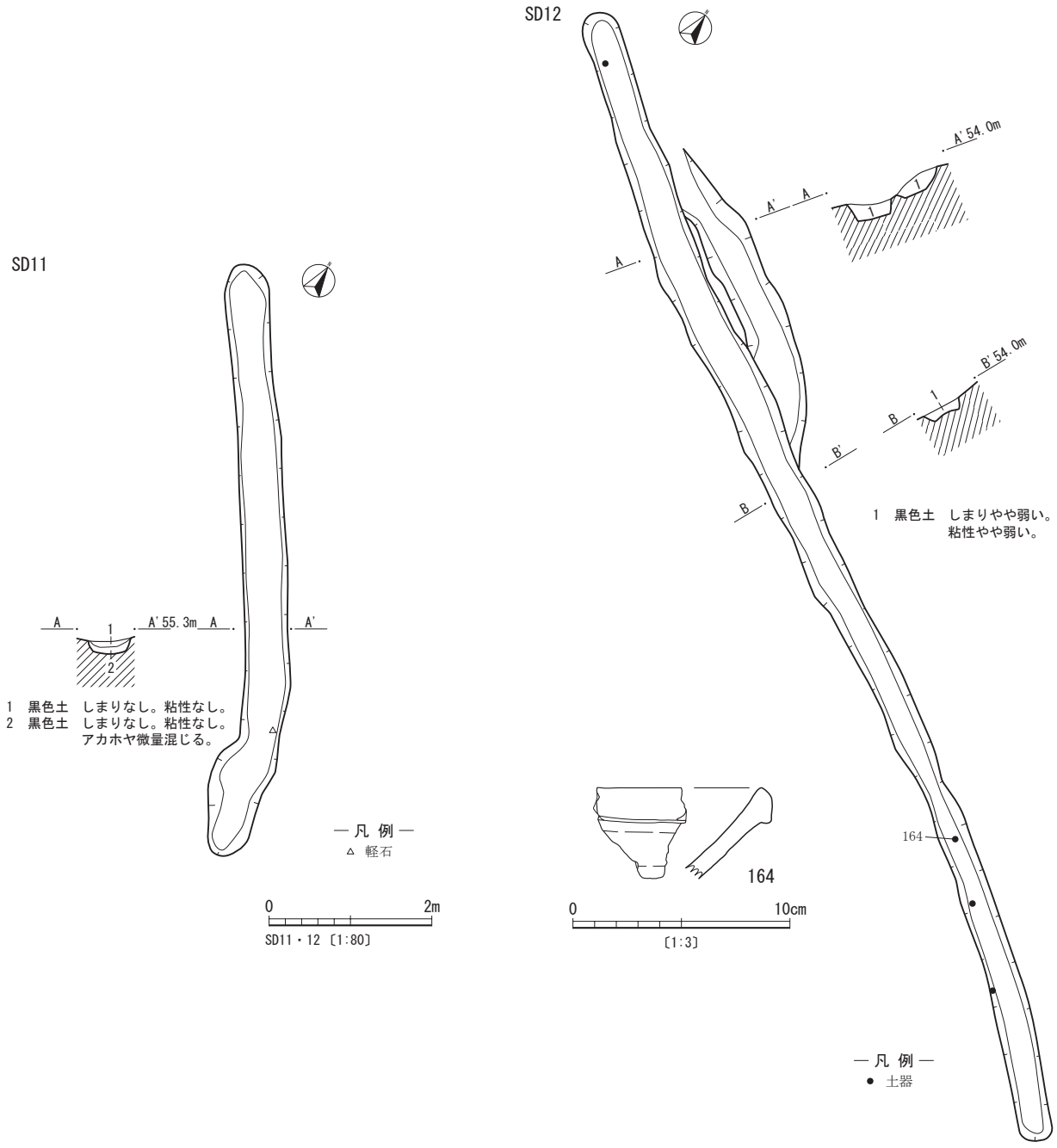
171 は土師器坏の底部から胴部片で，底径 8.0cm，浅黄橙色を呈する。底部の切り離しは不明である。

172 は白磁碗の高台から胴部の破片で，高台径 7.0cm，灰白色の素地に施釉され灰オリーブ色を呈する。高台はケズリ出しである。見込みに沈線が施されている。

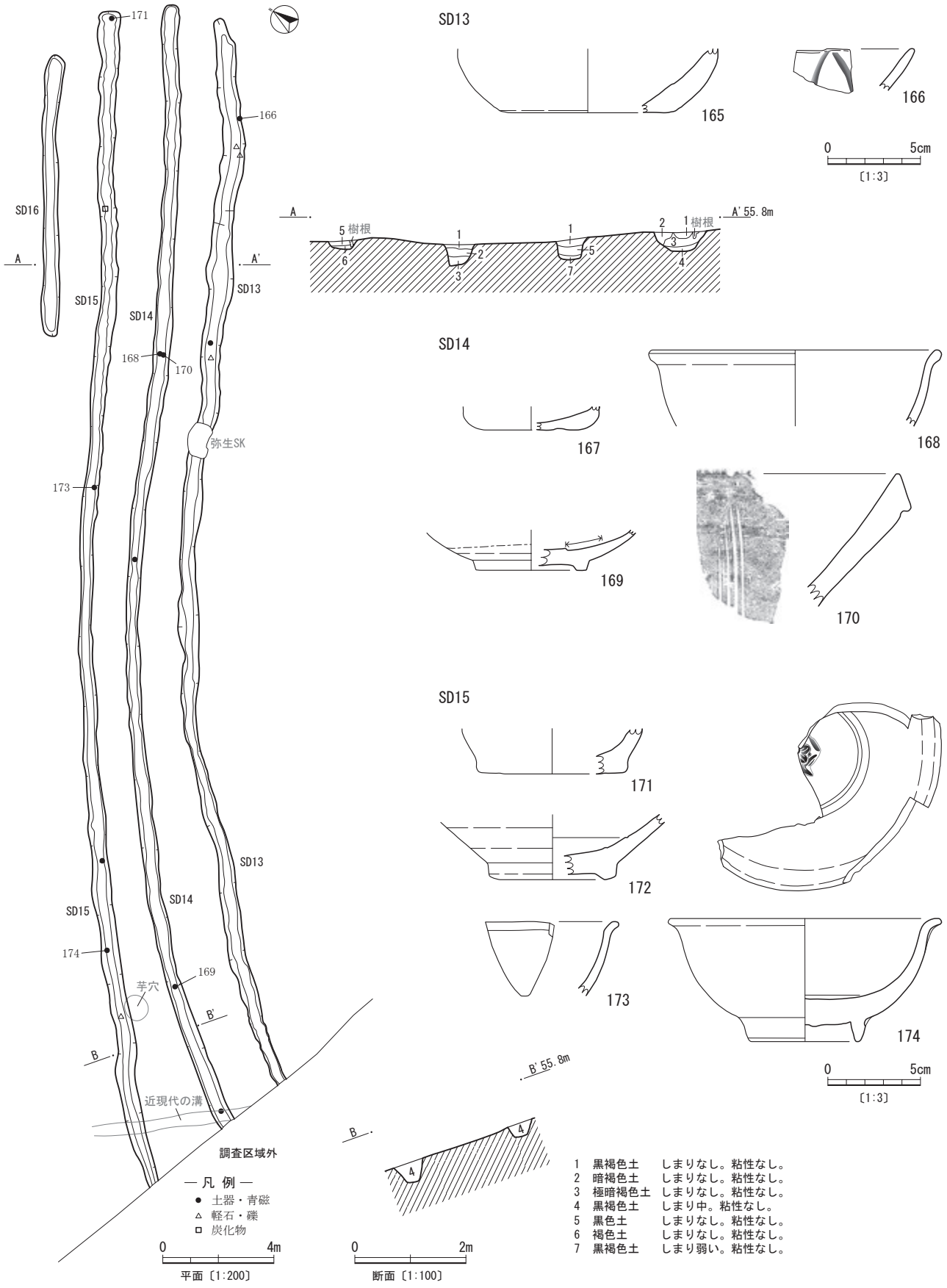
173・174 は青磁碗で，灰オリーブ色を呈する。173 は外反する口縁部である。174 は口径 14.7cm，器高 6.6cm，高台径 6.0cmである。見込みに界線に囲まれた蓮花文と思われる文様がある。高台内は無釉で橙色を呈する。同一個体と考えられる接合できない破片が別にある。

**溝状遺構 16 号（第 65 図）**

Ｈ・Ｉ－ 25・26 区のⅢｂ層上面で検出された。長さ 10.1 ｍ，上端幅 46～67cm，下端幅 24～48cmで，検出面からの深さは 10～18cmである。北東端は 14cmの段となって終わっており，南西端は自然に消失している。床面は南へやや下がっているが，比高差は５cmほどしかない。埋土は２層に分かれ，上層が黒色土，下層が褐色土で，ともにしまり・粘質はない。上層にはアカホヤが少量，下層には多く混ざっている。硬化面・出土品ともない。




第 64 図　溝状遺構 11 号・12 号と出土遺物




第 65 図　溝状遺構 13 号～16 号と出土遺物

### (8) 地下式坑

第２地点と第３地点で，南九州での初例と認識される地下式坑が複数検出されている。このうち，第２地点では中央丘陵で１基，西側丘陵の東側斜面で２基検出された。

**地下式坑１号（第 66 図）**

Ｌ－ 35 区のⅡｂ層から掘り込んだ大型の土坑である。南半は調査区外へ延びているため，北半分のみの検出である。検出範囲内の長軸は 257cm，短軸は 100cmで，深さは 255cmである。埋土は，19 層に分かれ，上部は黒褐色土，下層は黒褐色土とアカホヤが混じる土が互層状に堆積する状況であり，上下で堆積過程が異なる様相を示している。しまりは弱く，粘性もほとんどない。穴の上部がややくびれ，フラスコ状を呈している。遺構内出土の遺物には，縄文時代晩期の土器片から，中世の土師器など長期・多岐にわたっており，直接遺構の時期を確定するものはない。また用途も判然としない。

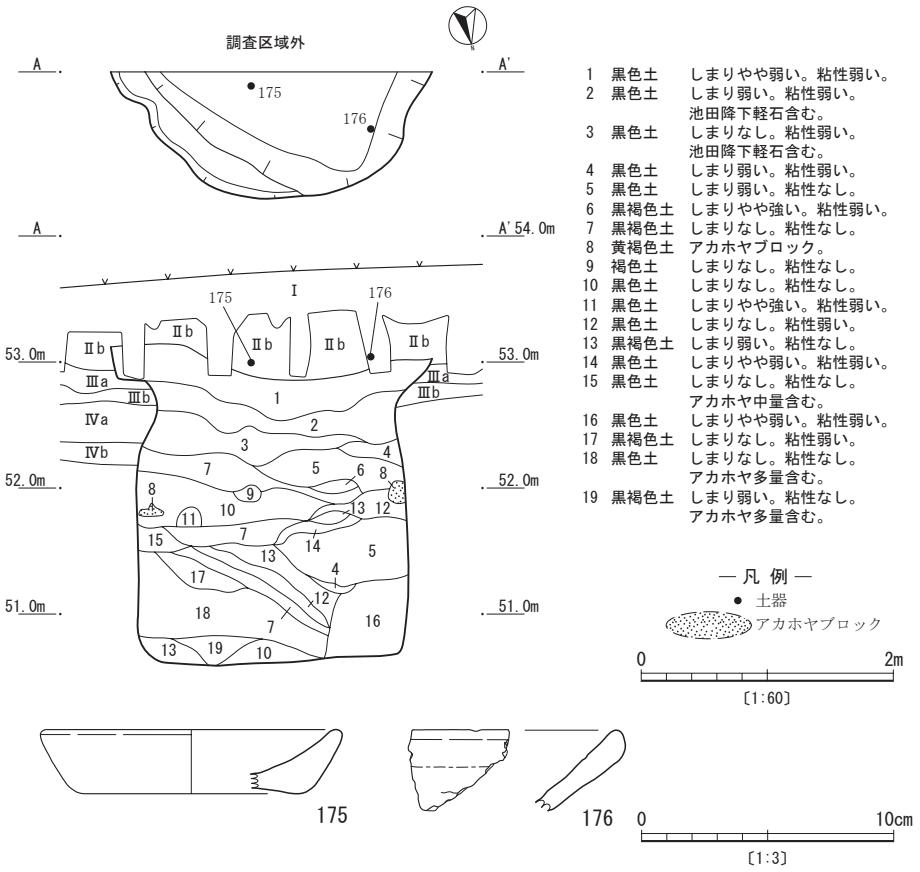
175 は分厚い作りの土師器小皿で，口径 12.0cm，器高 2.5cm，底径 9.0cmである。灰白色から橙色にマーブル状の色調を呈し，摩滅のため全体的な調整技法は不明瞭である。

176 は東播系須恵器の鉢の口縁部である。内面の口縁端はまっすぐ伸びており，外面はふくらんでいる。黄灰色を呈しているが，外面の口縁部は黒色に施釉されている。

**地下式坑２号（第 67・68 図）**

Ｊ－ 25 区のⅨ層で検出された。この周辺は，近世から現代にかけて３段に地形改変された形跡があり，見かけ上の検出面はⅨ層となっている。平面形はいびつな隅丸方形をしており，長軸 270cm，短軸 264cm，検出面からの深さ 100cm，軸はおおよそ北東～南西を向いている。北西側から北東側の壁は，10～20cm程度オーバーハングしている。埋土状況から，壁面の自然崩壊ではなく意図的に袋状に掘り込んだものと考えられる。また，遺構南側には，昇降施設と考えられる階段状の掘り込みが確認された。壁面には，斜めに掘り込まれた柱穴が５か所あり，屋根をかけるための柱穴と想定した。床面には，長辺 85cm，短辺 54cm，床面からの深さ７cmの浅い隅丸方形状のくぼみがある。

埋土は，ブロック堆積をしており，遺構廃絶後，人為的に埋め戻されたものと考えられる。最下層ににぶい黄褐色土が水平に堆積し，そのあと暗褐色土や褐色土などの土が埋まっている。さらに北側には 10～20cm大のアカホヤブロックやシラスが多く入っている。その上には黒褐色土・黄褐色土・褐色土などが入っている。これらは人為的とも考えられるが，ブロックが大きいことから，天井にあった自然堆積層を人為的に落としたことも考えられる。

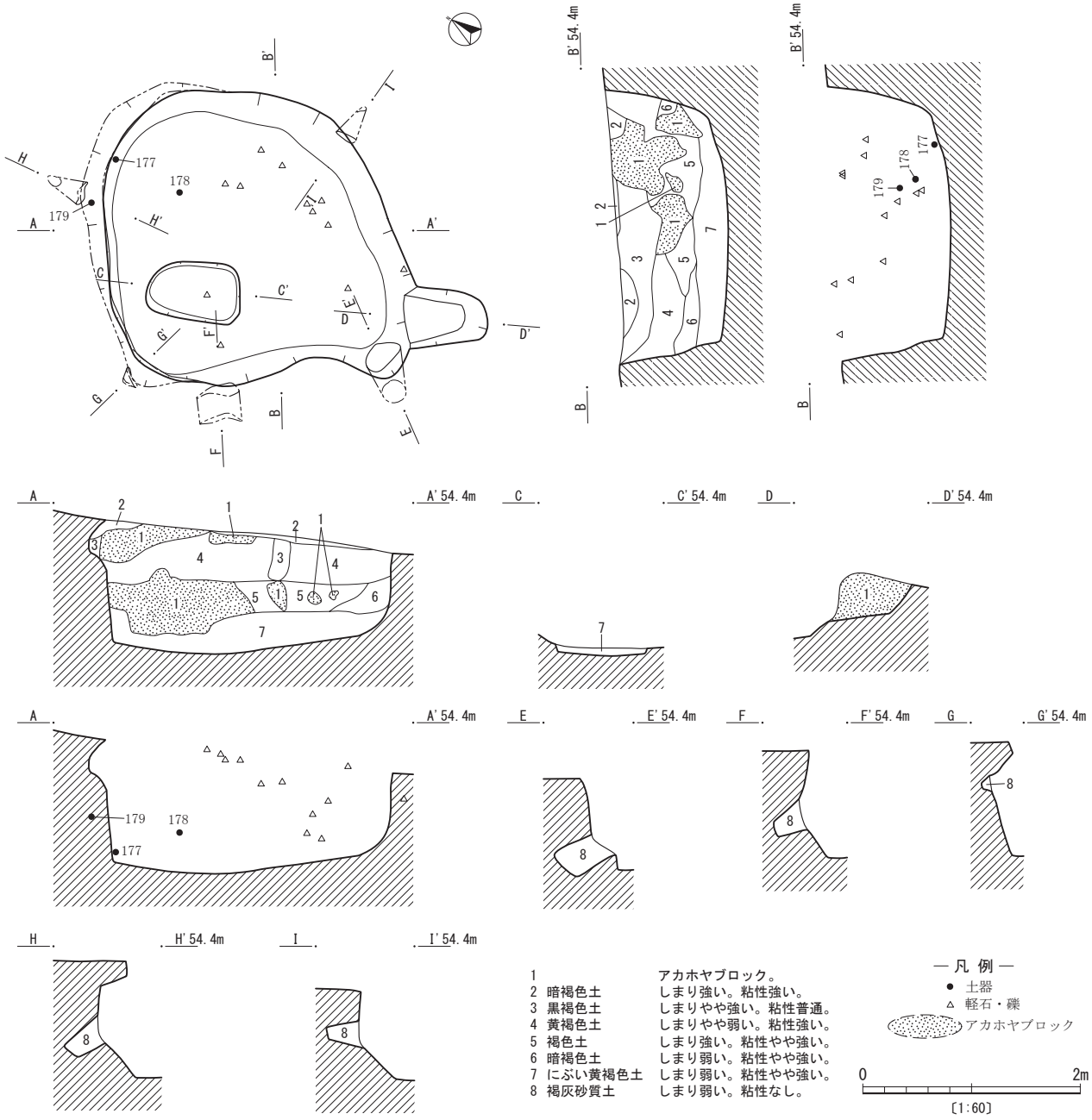



第 66 図　地下式坑１号と出土遺物

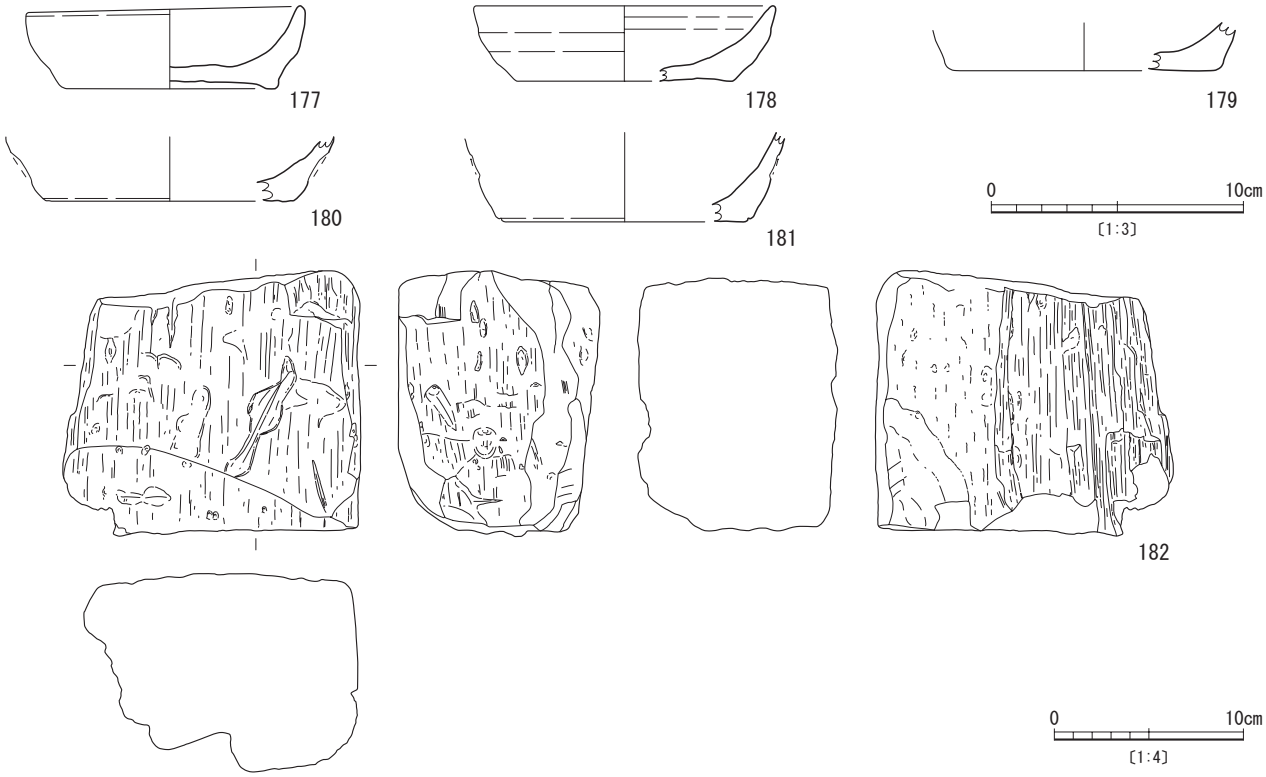
遺物は，ほとんどが遺構上部の出土であり，流れ込み，あるいは埋め戻し時のまぎれ込みの可能性が高いが，床面に近い⑦層から焼成の悪い糸切り底の土師器坏が出土している。上層の遺物も，同様と考えられるが，土師器・軽石・被熱破砕礫であり，中世以外を示す遺物は出土していない。

177～181 は土師器である。177・178・180・181 は体部に横方向のナデ調整を施している。177・178 は浅黄橙色を呈する坏である。177 は口径 11.0cm，器高 3.3cm，底径 8.6cmの手作り風の雑な作りである。しかし，内面底部をみると，まわりにくぼみがあり小皿で，回転台を用いたと考えられる。底部は平らにナデ調整している。外面の半分ほどにススが付着している。178～180 は摩滅が激しい。178 は口径 12.0cm，器高 3.0cm，底径 8.5cmで，底部は糸切り離しと考えられる。179 は底径 11.0cmの底部から体部の破片で，浅黄色を呈する。底部の切り離し技法は不明で，調整状況は不明瞭である。180 は径 10.0cmの底部片で，にぶい橙色を呈するが，内面は後世の影響によるものかスス付着状に黒色化している。181 は底径 9.5cmの坏の破片で，底部の切り離し技法は不明である。淡赤橙色を呈し，全体的に赤く焼けており，見込みにススが付着している。

182 は直方体に整形された大形の軽石製品で，左側面が剥がれた形状にある。




第 67 図　地下式坑２号




第 68 図　地下式坑２号の出土遺物

**地下式坑３号（第 69 図）**

K－24・25 区のⅥ層で検出された。遺構上面は，近世の造成によって，Ⅵ層での検出となっている。径 320cm ほどの円形をしており，検出面からの深さは 220cmで，遺構南東部に階段状の降り口がある。周辺で４つの柱穴を検出したが，樹痕の可能性もあり，地下式坑３号に伴う遺構とは断定できない。

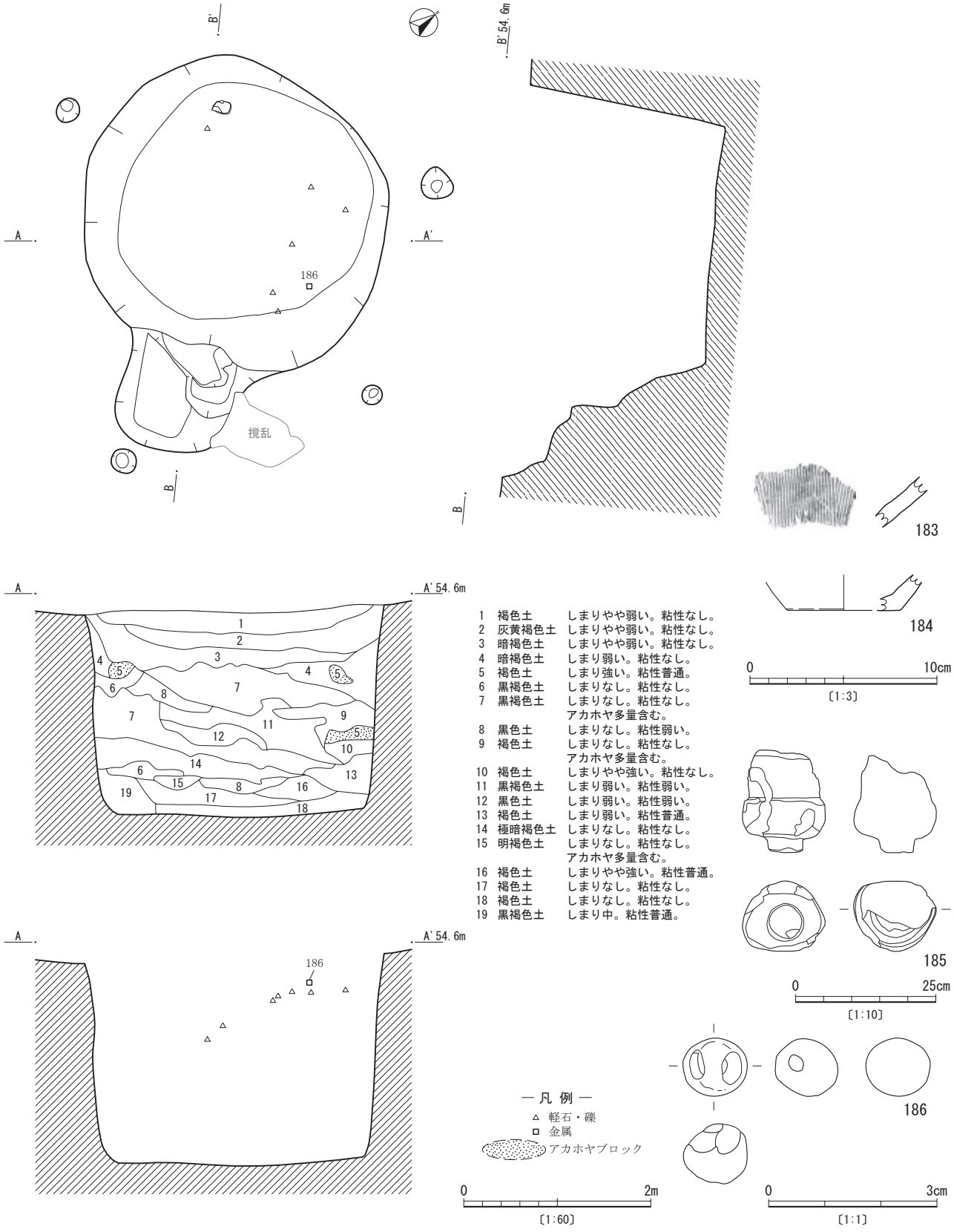
シラスを遺構床面として，埋土はブロック状に堆積している。上層には砂質の埋土がある。中層には，人頭大のアカホヤブロックを含む層や，Ⅴ層，褐色土，明黄褐色や黄色のパミスを含む層があり，全体的にしまりが弱い傾向がある。下層は，やはりしまりが弱く，Ⅱ層又はⅤ層該当層と考えられる埋土がある。階段状の遺構は，上層が暗く，下層が明るい褐色土で，全体的にしまりがない。アカホヤブロックの堆積や，Ⅱ・Ⅴ層等の包含層が不均等に堆積しており，ブロック状の堆積状況から見て，自然堆積ではなく，人為的に埋め戻したものと考えられる。ただ，上層はレンズ状堆積をしており，自然堆積の可能性が高い。下層を埋め戻した後，若干のくぼみ部分に長期にわたって自然に流れ込んだものと推定される。

遺物は，検出当初に想定した範囲内から五輪塔の空輪と考えられる凝灰岩石製品，①層の上部から鉛玉が出土しているが，流れ込みの可能性が高い。また，磨石，頁岩製石製品，被熱破砕礫も埋土上層で出土しているが，これも流れ込みと判断する。遺構下層から遺物の出土はなく，遺物から遺構の時期判断はできない。しかし，埋土上層から空輪，鉛玉が出土していることから，それ以前の時期に掘られた遺構と考えられる。遺構周辺の包含層から，弥生時代や中世の遺物は見られるが，近世・近現代の遺物は見られず，遺構内からも近世・近現代の遺物は見られない。

183 は陶器製擂鉢の体部片である。内面は密に櫛目が施され，外面は茶褐色を呈し，横方向に４条の浅い沈線文様がみえる。現代のものと考えられる。184 は土師器坏の底部片で，浅黄橙色を呈し，底径 6.0cmである。

185 は頂部から裏面を欠損するが，短径 12.5cm，長径 14.7cm，高さ 13.3cm，重量 2.3kgの凝灰岩製石塔である。正面の中位にくびれ状の凹線が巡っており，風輪を兼ねた空・風輪とみられる。上面の半ばは剥離・破壊面に覆われ，頂部の形状は不明である。下位の短いホゾ部は，下位の火輪に差し込まれると考えられるが，現存する空輪の径の中心からややずれている。

186 は径が 1.0～1.1cmほどの球状をした鉛玉で，上部に２か所の穴を結んだ孔がある。これと類似した民具に「鯛カブラ」と呼ばれる真鯛などを釣る漁具がある。鉛玉（ヘッド）にハリスを付けて，それに釣針をつけるものである。おもりの役目をしている。



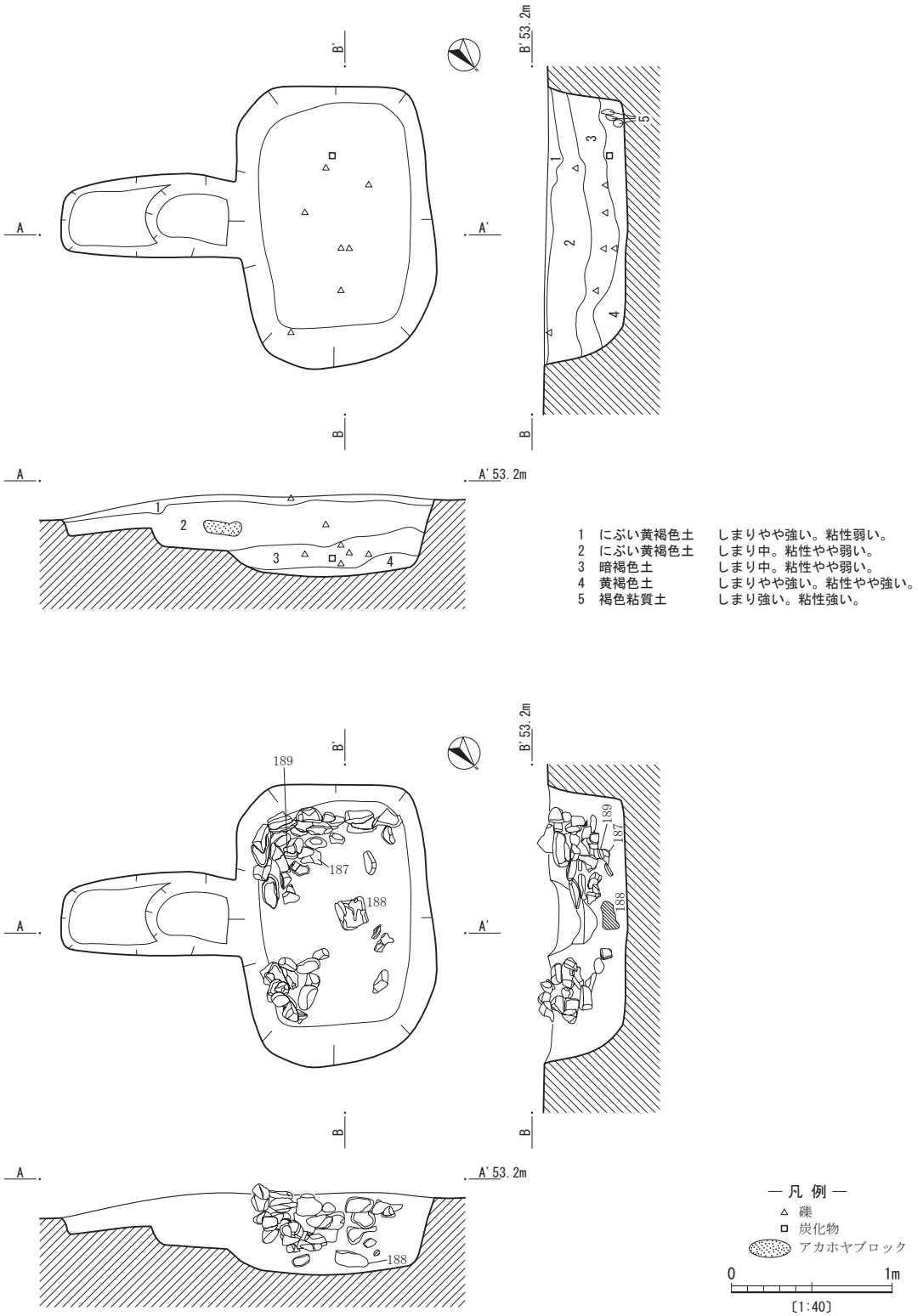

第 69 図　地下式坑３号と出土遺物

### (9) 火葬土坑

西側丘陵の東向き斜面下で，火葬に関連すると考えられる土坑が３基検出されている。

**火葬土坑１号（第 70・71 図）**

Ｋ－ 25 区のⅥ層上面で，石組を構成する礫が検出された。主体部は，長辺 174cm，短辺 121cm，検出面からの深さ 50cmの隅丸方形をしており，軸はＮ 40 度Ｅである。遺構南東部には 111 × 51cmの張出部があり，深さは東側が浅く 15cmで，主体部に向かってスロープ状に深くなり 35cmに至る。埋土は，①②層がにぶい黄褐色土でしまりがある。③層は暗褐色土でしまりがあり，棺台と考えられる付近の③層の下部には炭化物が若干見られた。④層




1　にぶい黄褐色土　しまりやや強い。粘性弱い。
2　にぶい黄褐色土　しまり中。粘性やや弱い。
3　暗褐色土　しまり中。粘性やや弱い。
4　黄褐色土　しまりやや強い。粘性やや強い。
5　褐色粘質土　しまり強い。粘性強い。

第 70 図　火葬土坑１号

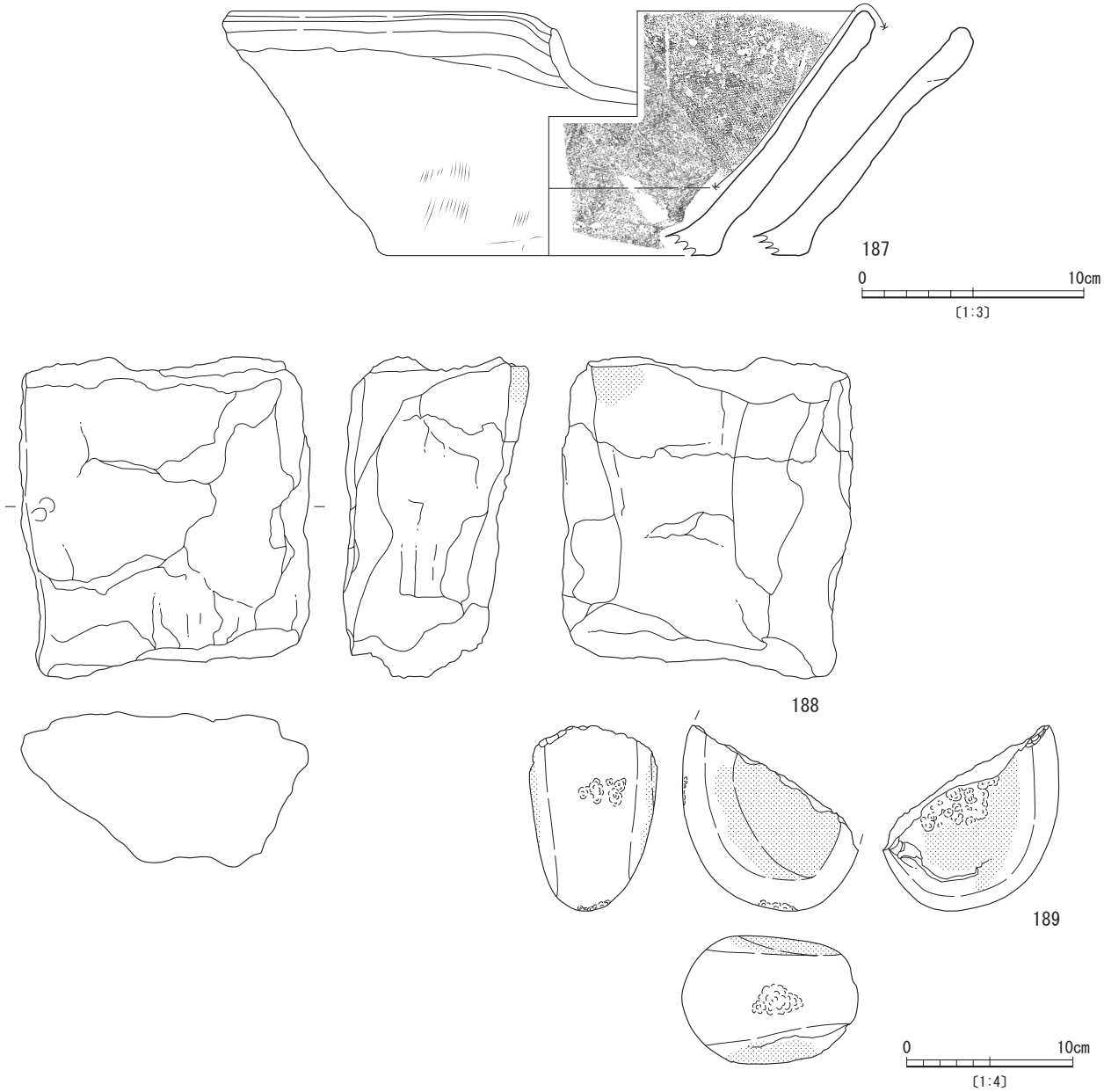
は，遺構下部の埋土で，黄褐色土でアカホヤが不均等に混じり，粘質を帯びている。④層中には，⑤層に分層した褐色粘質土が不均等に混じっている状況が見られた。

石組を構成する礫が 60 個あり，遺構側面に④層の粘性のある埋土を利用して貼り付けており，遺構中心に近い礫には被熱による赤色化が見られる。特に，遺構下部の礫に熱を受けた痕跡が多く見られた。平面上にある礫の下からは５個程度しか礫は出土していない。棺台と考えられる中心にある礫（凝灰岩）は，18cm四方で厚さ８cmの方形を呈しており，かなり熱を受け赤色化している。この棺台と考えられる礫を中心に③層下部と④層の上からは，炭化物が若干であるが出土している。

遺構南側礫の下から，東播系須恵器が出土しており，14 世紀頃の土坑と考えられる。利用回数は，被熱の状況や先行研究から１回程度と考えられ，遺構使用後すぐに埋め戻されたと判断する。火葬を行い拾骨したか，そのまま墓として利用したかは不明である。

187 は東播系須恵器の鉢で，器高 11.0cm，口径 29.3cm，底径 15.0cmである。灰白色の素地に，口縁部外面から内面にかけて灰色の釉がかかる。外面は摩滅が激しいが，内外ともにケズリ調整痕がみえる。口縁部外面には輪積み痕がみえる。

188 は粗粒凝灰岩の方形を呈する角礫であり，図上，上下に大きく割れ面をもつ。逆台形の向きに設置されて，その上面に著しい被熱赤化がみられ，焼けて非常に脆い状態にある。




第 71 図　火葬土坑１号の出土遺物

189 は磨石の破片であり，磨り痕と敲打痕が顕著である。おそらく弥生時代以前の石器とみられ，構成礫として用いられている。ススの付着がある。

**火葬土坑２号（第 72・73 図）**

K － 26・27 区のⅥ層で検出された。検出面の上層は，現代の撹乱でⅡ～Ⅴ層の残存が少なく，周辺は中世の造成により３段に削平されているため，見かけ上Ⅵ層で検出された。火葬土坑２号は，中世の造成面で遺構が構築され，近世の溝状遺構２号に切られ，遺構の南東部は溝状遺構２号の床面で検出された。南東から北西を軸として，長辺 291cm・短辺 216cmの隅丸長方形で，検出面からの深さは 59cmである。また，南東部に段状の舌状張り出しを設けている。

埋土は黒褐色土と暗褐色土である。床面には，楕円形の掘り込みが見られ，南東側は，長径 100cm，短径 52cm，床面からの深さ４cm，北西側は，長径 103cm，短径 75cm，床面からの深さ７cmで，炭化物が集中して検出された。床面から，青磁の稜花皿と，長さ 30cm程の平石が出土した。また，埋土上部から床面にかけて，被熱したとみられる軽石が多数出土している。

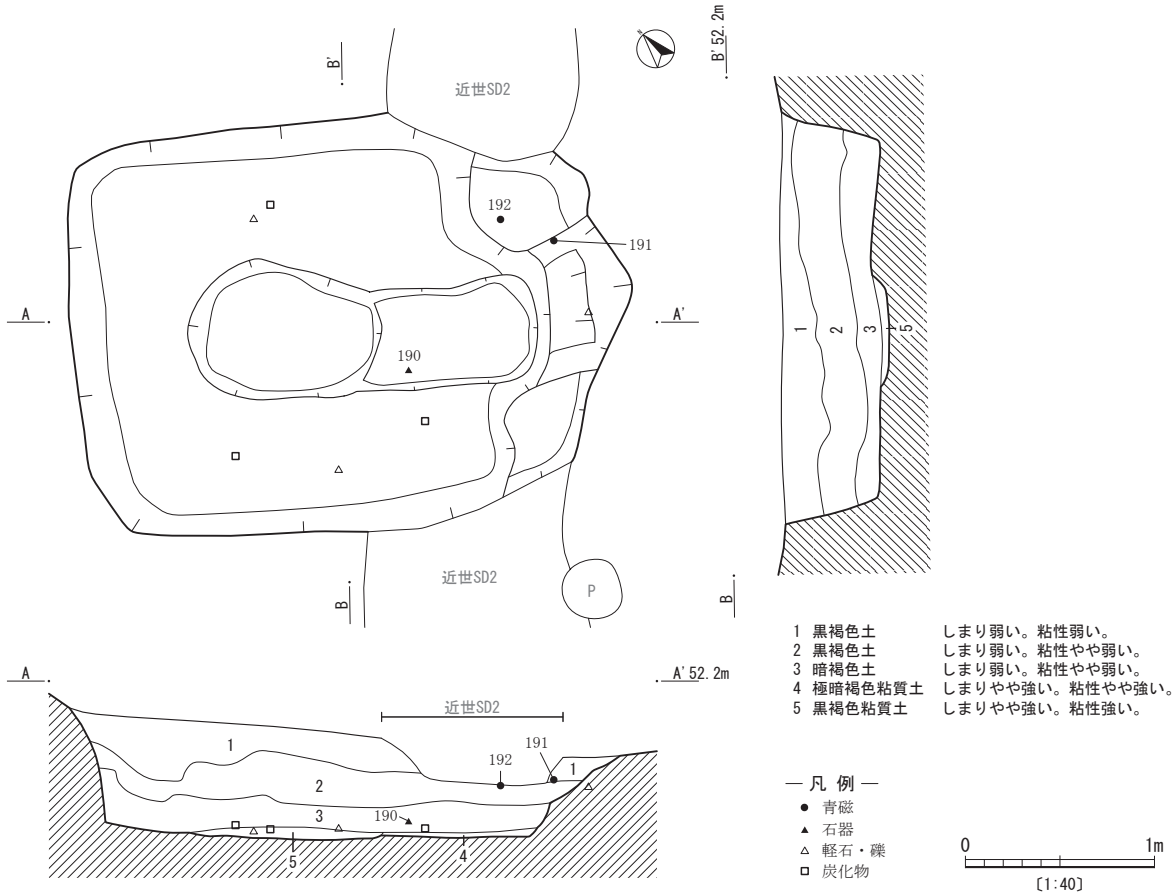
190 は被熱赤化が著しい砂岩製の石皿である。長さ 29.0cm，幅 25.6cm，厚さ 8.7cm，重量 8.7kgで，表裏面に広く磨り痕と敲打痕をもち，一部周縁部に集中したやや深い線状痕が見受けられる。

191・192 は青磁である。191 はほぼ完形の稜花皿である。口径 11.1cm，器高 3.2cm，底径 5.2cmである。口縁に２条の線が巡り，ケズリ出し高台と考えられる。外底面は無釉で，黄灰色の素地に，施釉部分は暗オリーブ色を呈する。192 は，口径 10.0cmの碗と思われ，素地は灰黄色で，施釉部はオリーブ灰色を呈する。

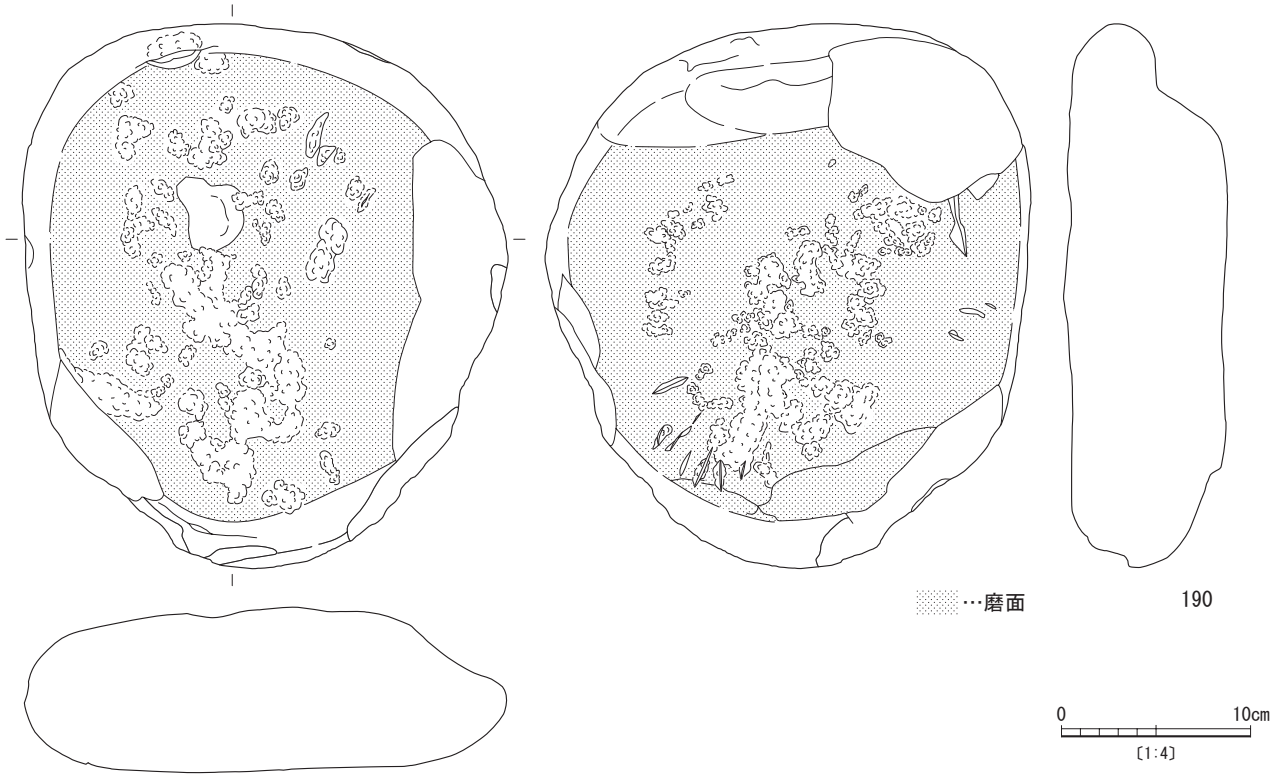
**火葬土坑３号（第 73 図）**

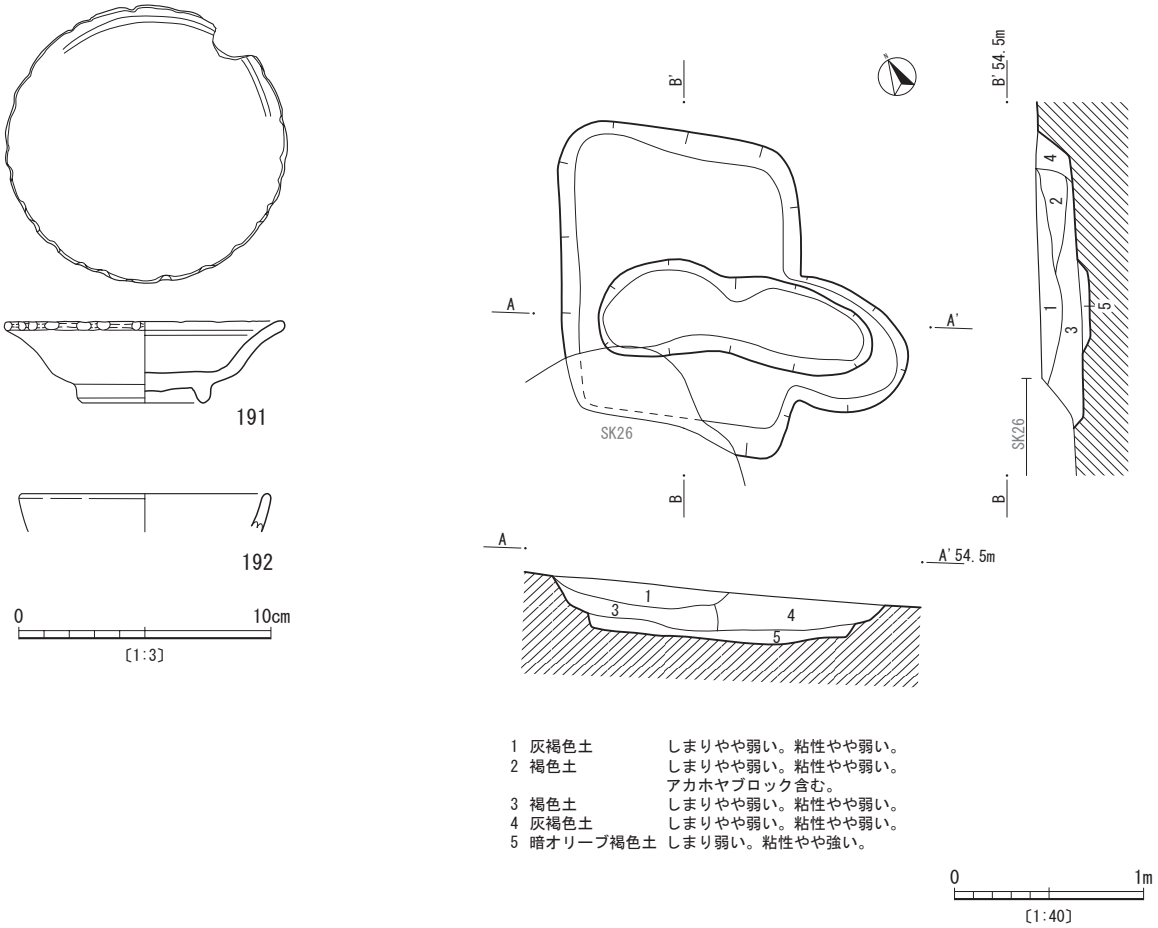
K － 25 区のⅨ層で検出された。南西部は土坑 26 号に切られている。北東と南西を長軸とする隅丸長方形のプランで，長辺 167cm，短辺 127cm，検出面からの深さ 22cm，１段掘り下げた部分の検出面からの深さは 26cmである。南東方向に，60 × 50cmの半楕円形状の飛び出し部分がある。埋土・下端・１段掘り下げた部分等から考え，主体部と同一の遺構と判断される。埋土は，褐色土を中心に５枚に分層でき，ブロック堆積と考える。１段掘り下げた部分は，やや粘性が強い。

遺物は，青磁碗の口縁部が出土している。やや外反気味で，体部外面に鎬蓮弁を有しており，龍泉窯系青磁碗３類と推定される。周辺の近世遺構・中世遺構の検出傾向及び出土遺物から，火葬土坑３号は 13～14 世紀の中世遺構と考えられる。




第 72 図　火葬土坑２号




第 73 図　火葬土坑２号の出土遺物・火葬土坑３号

### (10) 土坑墓

中央丘陵のゆるやかな東下り斜面に１・２号が，中央丘陵の西下り口に３・４号，谷部の 30・31 区付近に５・６号，西端丘陵の東斜面に７号が立地している。これらは１・２号と，５・６号はやや近接して位置しているが，他の３・４・７号は独立して存在している。副葬品からみると，２号が白磁碗・湖州鏡・ミニチュア釜など豊富なものを持っているが，７号は副葬品をもたない。他の５基は土師器皿・坏を副葬している。４・５・６号はヘラ切底，１・３号は糸切底を副葬品としてもつ。

**土坑墓１号（第 74 図）**

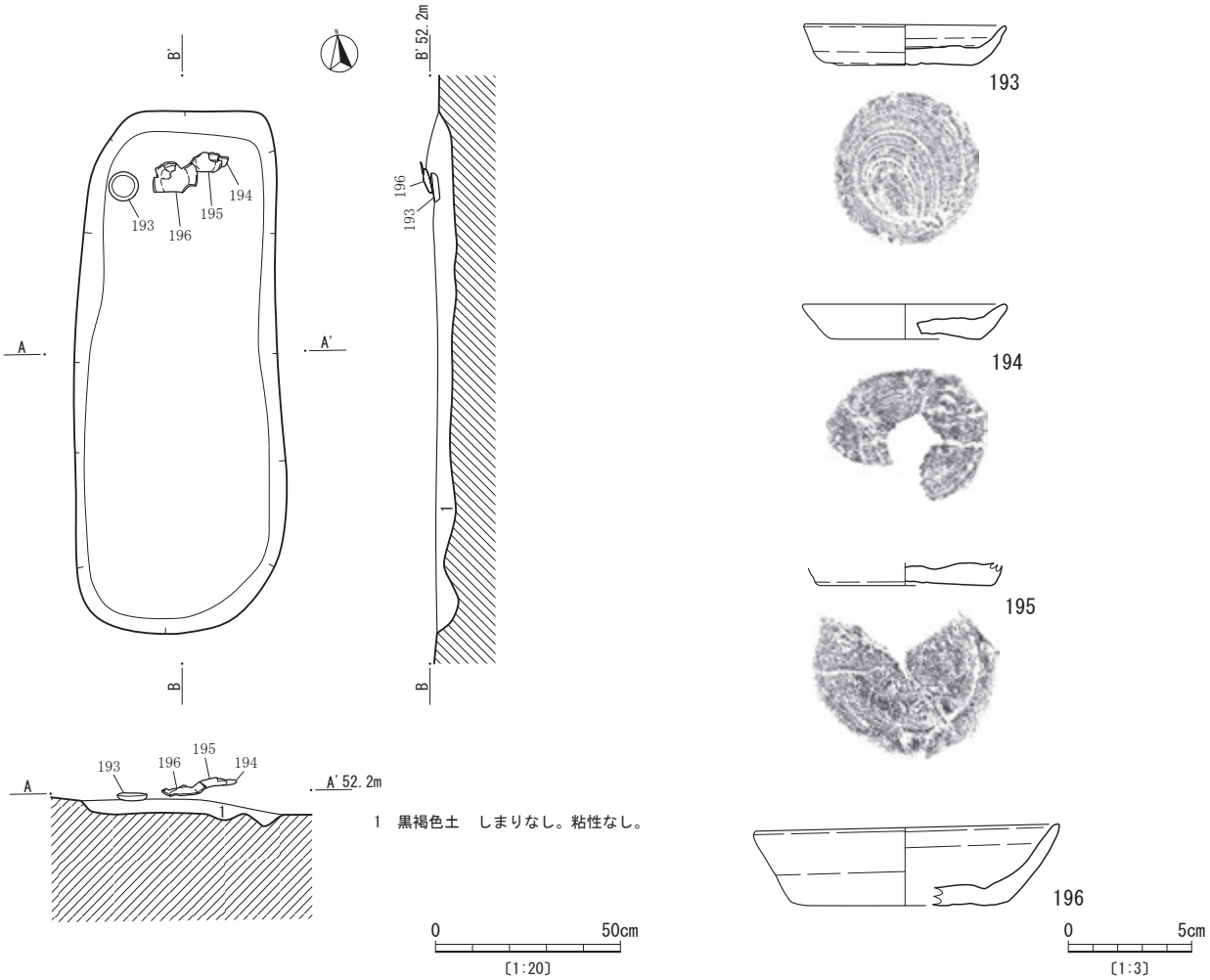
Ｇ－ 49 区のⅢｂ層で検出された。Ｎ４度Ｅを主軸とした，長辺 140cm・短辺 55cmの隅丸長方形土坑墓である。上面が削平されており，深い部分でも６cm程度しかない。北隅近くに土師器の皿３点と坏１点が副葬されている。土師器皿は全て表を向けて並んで出土しており，遺体の頭側に直接置かれたものと考えられる。埋土は黒褐色土の単層で，層中に粒径の小さいアカホヤが少量，池田降下軽石が少量混じる。墓掘削時に黒色土とアカホヤを掘り上げ，すぐに埋め戻したと推測される。

副葬品は表土直下で検出されたため，残存度が悪く 193 以外は破損・摩滅が目立つ。

皿は糸切り底から丸みをもって外傾しながらまっすぐ立ち上がっている。193 は口径 8.2cm，高さ 1.6cm，底径 5.5cmの完全品である。にぶい黄橙色を呈しているが，外底部から胴部下半にかけて一部赤色化している。焼成は良い。194・195 は浅黄橙色を呈しているが，194 は，底が一部赤色化している。焼成は普通で，立ち上がり部分が広く欠損し，口縁部は少ししか残っていない。194 の底は，内側から打ち欠いており，略円形の孔がうがたれている。194 の口径は約 8.3cm，高さ 1.4cm，底径 6.1cm である。195 の底径は７cm前後とやや大きい。

坏（196）は浅黄色をした軟質のもので，安定した底から外へ開きながら口縁へ達している。口径 12.35cm，高さ 3.3cm，底径 8.4cmである。内外とも摩滅が激しく，欠損部も広い。底の切離しもはっきりしない。細かい土だが，黒色・白色・褐色の粒子や雲母・石英などの細石を多く含んでいる。

土師器は 13 世紀後半から 14 世紀前葉頃のものである。




第 74 図　土坑墓１号と出土遺物

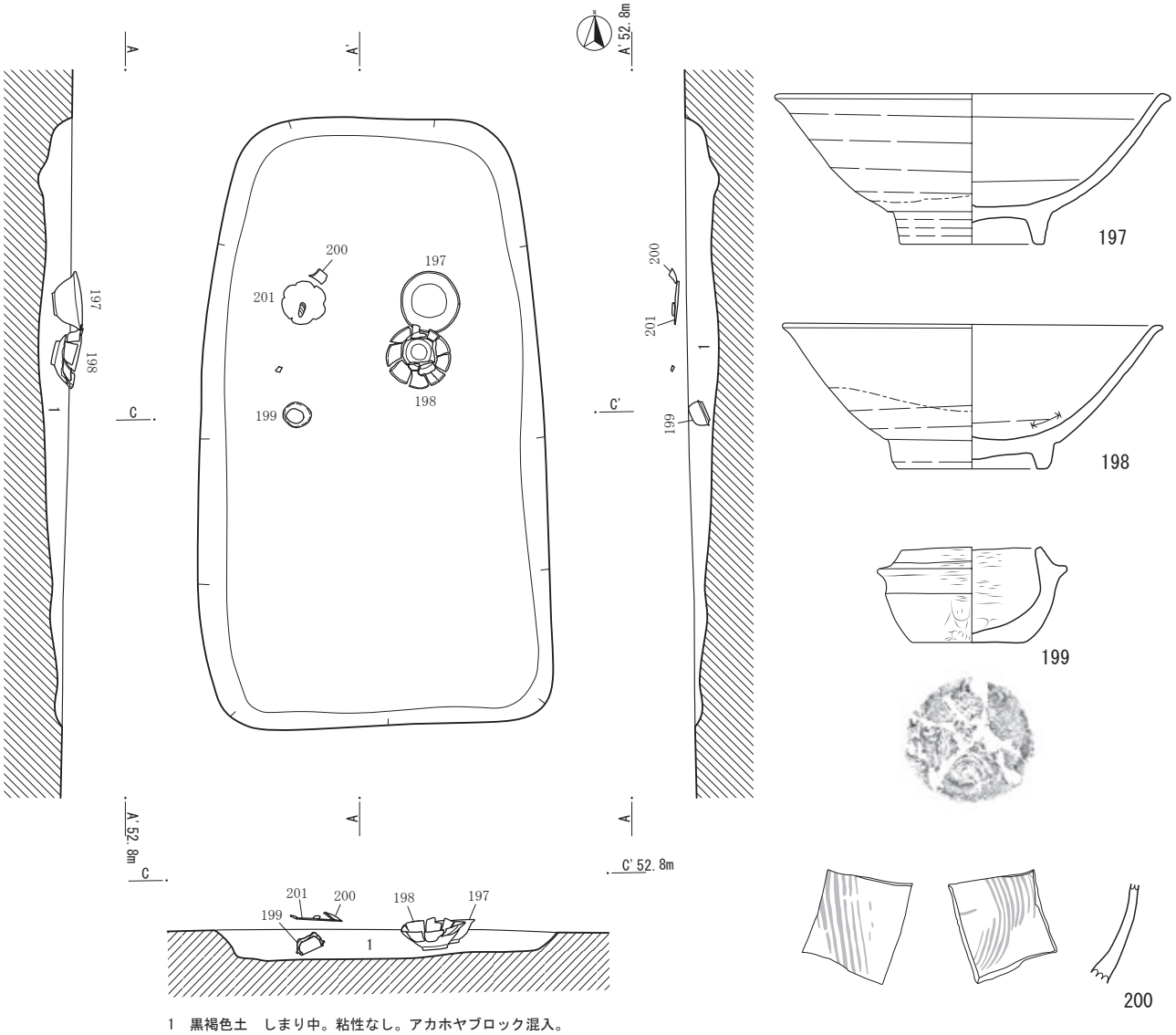
**土坑墓２号（第 75・76 図）**

Ｇ－ 39 区のⅢｂ層上面で検出された。ＮＯ度Ｅを主軸とする隅丸長方形の土坑墓で，長辺 178cm・短辺 99cm，検出面からの深さ２～12cmである。土坑北寄りに白磁碗２点，湖州鏡１点，ミニチュア土器１点が出土している。検出か所付近は耕作による包含層削平が著しく，本来検出されるべきⅡ層が失われ，遺構の上部は破壊されている。埋土は黒褐色土の単層で，層中に粒径の小さいアカホヤが少量混じっている。埋土中から木棺，人骨などは得られなかったが，出土遺物は全て北側に集中して副葬された状況であり，おそらく北方向に頭部を向けて埋葬されたと考えられる。

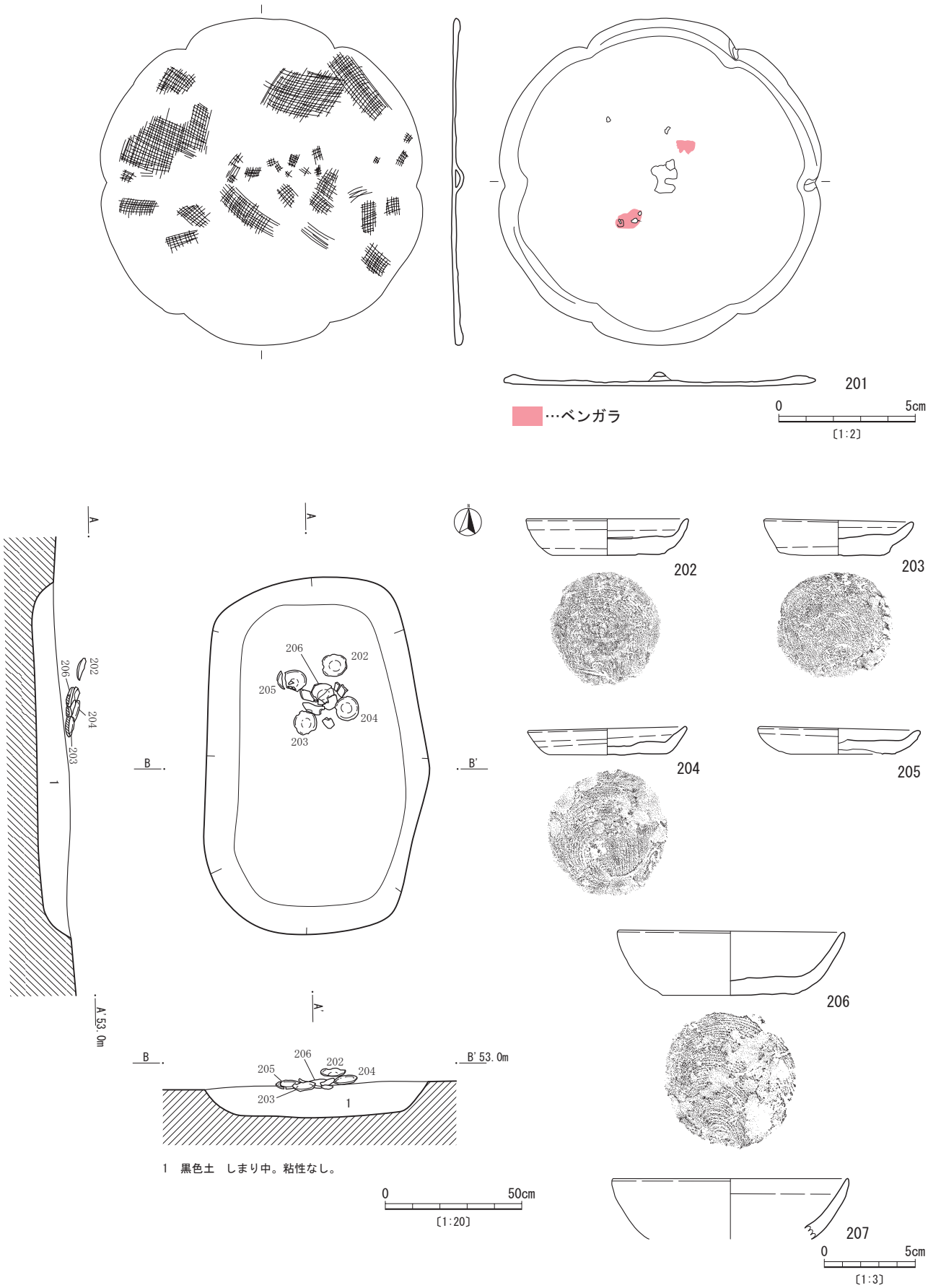
197 は口径 17cm，高台径 6.3cm，器高 6.5cmの白磁端反り碗である。胎土は，微量の小礫を含む白色粒子である。底部を回転するように整形してあり，渦巻き状にケズリと考えられる調整が見える。高台は強く引いており，調整がよく分かる。焼成は良好で，灰白色の地で，高台内から外面体部下半まで無釉で，内外面に施釉され灰オリーブ色を呈する。見込みには砂粒が付着しており，界線が引かれる。外面の釉切れが目立つ。

198 も完全品で，口径 16.5cm，高台径 6.6cm，器高 6.3cm の白磁端反り碗である。胎土は白色粒子を含み，焼成は良好である。体部及び高台はケズリで整形しているとみられ，高台端部は面取りをしている。浅黄橙色の地で，外面体部下半部から高台内までは無釉である。体部内外は灰黄色を呈し，見込みは釉を掻き取りしている。釉切れが目立ち口縁外面には釉垂れも多い。

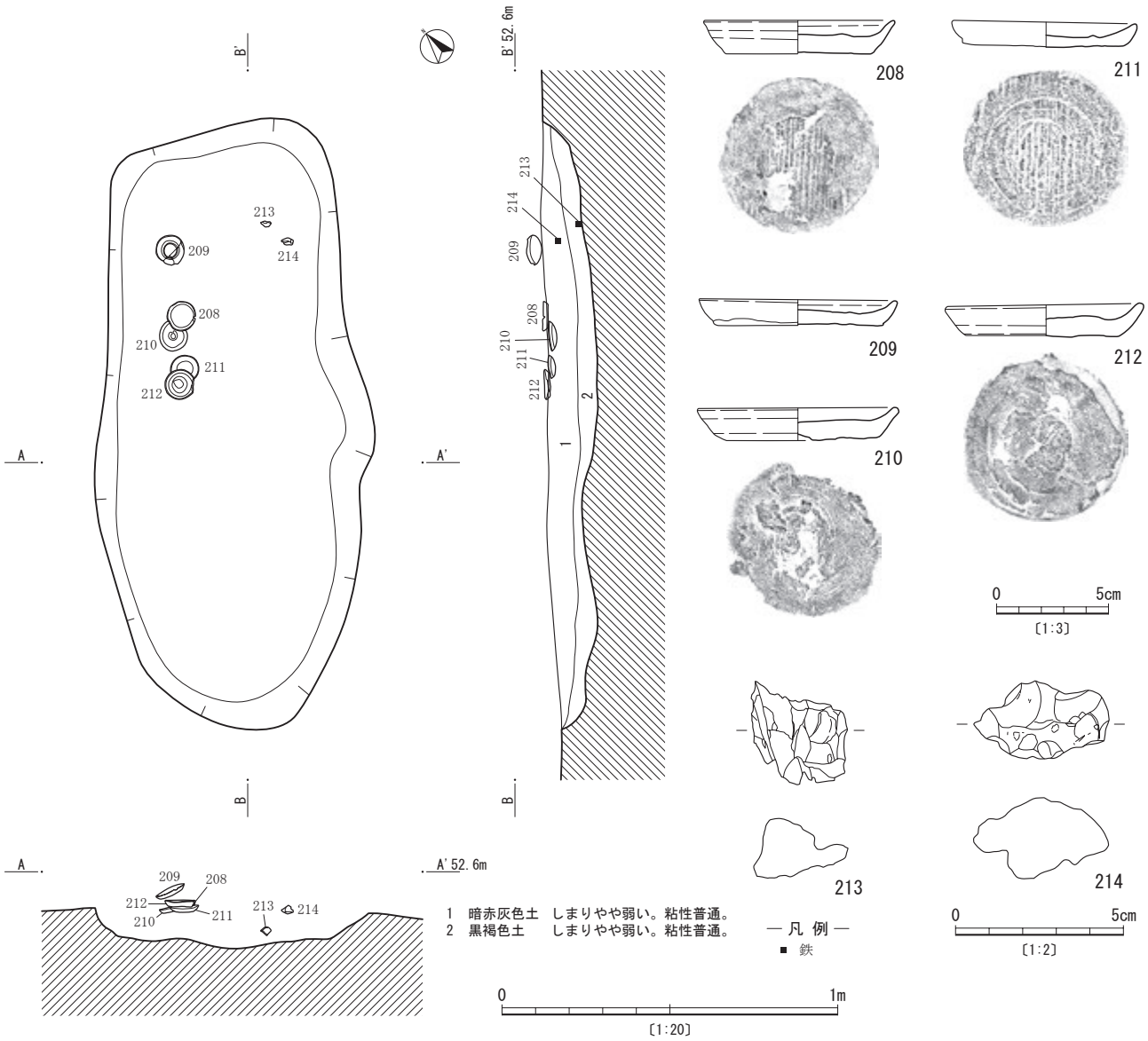
199 は土師器ミニチュア土器で，つばと口縁部に欠損




第 75 図　土坑墓２号と出土遺物




第 76 図　土坑墓２号の出土遺物・土坑墓３号と出土遺物




**第 77 図　土坑墓４号と出土遺物**

が目立つが，完形の羽釜で，口径６cm，底径５cm，器高が４cmである。胎土は茶色石・雲母などを含み，ヘラナデで調整され，焼成は普通，色調は灰白で外面にススが付着している。底は糸切り離しである。

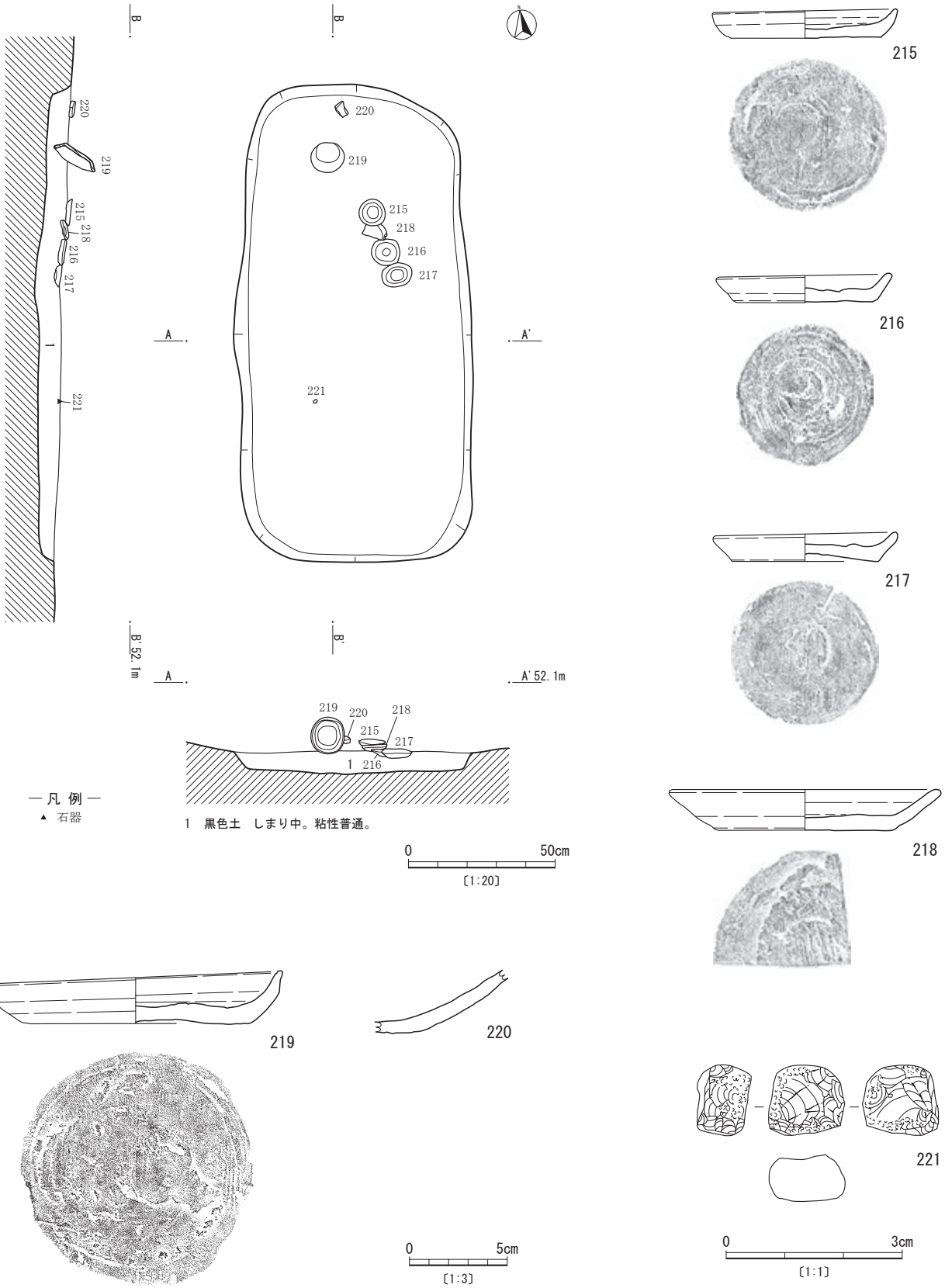
200 は同安窯糸青磁碗の破片である。内外に幅広櫛歯文がみられる。外面は縦方向，内面は弧状に描かれている。外面には釉切れ，内面には細かい貫入がみられる。赤茶色砂粒を含むにぶい黄橙色土を用い，黄褐色の釉がかかっている。混入品と考えられるが，墓と同時期の 12 世紀中葉のものである。

201 は６か所のくり込みのある無銘湖州鏡である。直径が 12cmで，周縁は丸みをおびた三角形状に突出している。中央にある紐はややつぶれている。くり込みのうちの１か所も使用されたためか，いくらか擦れている。表には布痕が広く貼りついており，布袋に入れて副葬されたものと考えられる。布は５㎜四方に 10 × 10 本の糸がみられる。裏面の紐の近くにベンガラが付着している。

**土坑墓３号（第 76 図）**

Ｄ－ 34 区のⅡｂ層上面で検出された。Ｎ４度Ｗに主軸をもつ隅丸長方形の土坑墓で，長辺 181cm，短辺 82cm，検出面からの深さ約 10cmである。埋土は，黒色土の単層である。土坑北側の底面から約 10cm程度浮いた土坑検出面で土師器の皿４点，坏１点が集中して出土している。

皿は一部欠損したものもあるが，４点ともほぼ完全なものである。灰白色・淡黄橙色を呈し，底部切り離しは糸切りである。いずれも粗い作りであるが，口径は 8.2～8.9cm，高さは 1.5～２cm，底径は 5.8～6.25cmとほぼ似ている。202・203 は底が分厚く，口縁部が細くなっている。203 は充実高台風になっている。204・205 は同じ厚さで，底から丸みをおびて口縁へ立ち上がる。底部には剥離した痕跡が広くみられ，205 は内面にも剥離痕がある。205 は内外ともこげた痕跡もみられる。




第 78 図　土坑墓５号と出土遺物

坏も灰白色を呈し，底は糸切り離しである。口径12.5cm，高さ3.5cm，底径7.4cmである。外面にススが付着しており，剥離痕がみられる。

他に底の欠けた坏の破片（207）も出土している。

これらの土師器は色調・法量等からして13世紀後半から14世紀前葉頃のものである。

**土坑墓４号（第77図）**

Ｊ－31区のⅡａ層で検出された。Ｎ40度Ｅに主軸をもつ長辺181cm，短辺82cmの隅丸長方形の土坑墓で，検出面からの深さは15cmである。埋土は２層に分かれ，下層はややしまりの弱い黒褐色土，上層はややしまりの弱い暗赤灰色土である。土坑の北側に長軸と並行して土師器の小皿５点が出土している。その近くには２点の鉄滓も出土している。

小皿（208～212）はいずれもほぼ完形で，底はヘラ切り離しのものである。口径は8.25～9cm，高さ1.1～1.5cm，底径6.6～7.5cmと似た法量をしている。底は平底であるが，やや丸みをおびたものもある。ヘラ切り離しのあと，ナデたり，木状圧痕のついたものもある。

鉄滓はともに小さいもので，213が６cm四方で厚さ3.5cm，12.4ｇ，214が８×4.5cmで厚さ4.5cm，23.7ｇである。

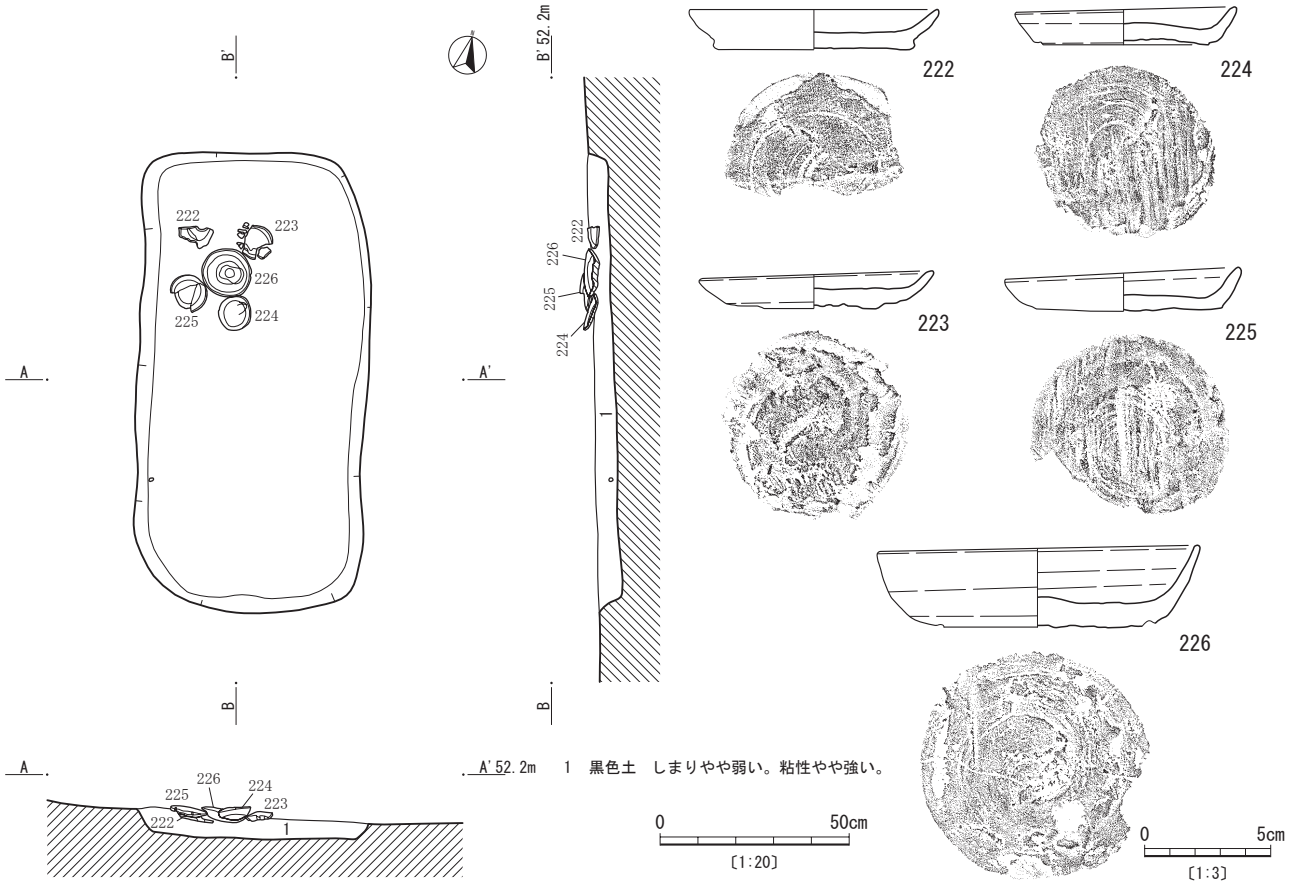
これらは11世紀後半～12世紀初頭の土師器である。

**土坑墓５号（第78図）**

Ｈ－30区のⅡｂ層掘り下げ中，土師器の坏上部が出土し，遺構が検出された。Ｎ７度Ｅを主軸とする長辺163cm，短辺81cmの隅丸長方形の土坑墓で，検出面からの深さは９cmである。埋土は黒色土で，パミス等の混じりはみられない。土坑の北側には，土師器の坏があり，その南東側へ縦列して坏１点，小皿３点がみられる。北隅近くに東播系捏ね鉢の破片が，やや南側に水晶がある。

土師器は小皿と，坏とがある。小皿（215～217）は口径９～9.5cm，高さ1.5cm，底径７～7.7cmで，底から外傾しながら丸みをおびた口縁へ立ち上がる。底はヘラ切り離しで，そのあと板状のていねいなナデ跡がみられる。217はだ円形ぎみにゆがんでおり，底中央はあげ底のように持ち上がっている。215は明褐色，216・217は橙色を呈している。

218は４分の１ほどの破片で，口径13.8cm，高さ2.1cm，底径9.0cmの坏である。内面整形はていねいであるが，底部はヘラ切り離しのあと雑にナデており，板状圧痕が残っている。橙色を呈している。219は口径15.5cm，高さ2.2cm，底径11.5cmのヘラ切り底坏である。外面は明褐色，内面はにぶい黄橙色を呈している。内外とも雑な作りで，内底部にはヘラ引き痕がみられる。底部には木目圧痕もあり，板状のものでナデている。




第79図　土坑墓６号と出土遺物

220は薄い作りの東播系須恵器鉢の小破片である。なお，この破片は隣のⅠ－30区から出土した２片の胴部と接合しており，土坑埋設時に混入した可能性がある。

221は水晶製玉である。周辺を打ち欠いて1.1×1.25cm，厚さ0.85cmのサイコロ状に仕上げている。

土師器の年代は11世紀後半～12世紀初頭である。

**土坑墓６号（第79図）**

Ｈ－29区のⅡｂ層上面で検出された。Ｎ12度Ｗを主軸とする長辺121cm，短辺61cmの隅丸長方形をした土坑墓で，検出面からの深さは６cmである。埋土は黒色土で，ややしまりが弱く，層中に粒径の細かい黄褐色粒子が微量に混じる。副葬品は，いずれもヘラ切りの土師器で，土坑内北側に，坏１点を囲むように小皿４点が配置されている。

小皿は平底から外傾して，丸みをおびた口縁に至るが，224・225がほぼまっすぐ立ち上がっているのに対して，222・223は立ち上がり部分に段をもっている。口径は8.8～10cm，高さ1.5～1.7cm，底径6.5～８cmである。222は切り離しのあと，中央付近までヘラ状のものでナデており，224・225はヘラでナデて板状痕が残る。222・223が暗灰黄色，にぶい黄色を呈するのに対し，224・225はにぶい黄橙色を呈している。

坏（226）は口径12.8cm，高さ3.2cm，底径7.8cmで，底から丸みをおびて口縁へ至る。分厚い作りである。

これらは11世紀後半から12世紀初頭のものである。

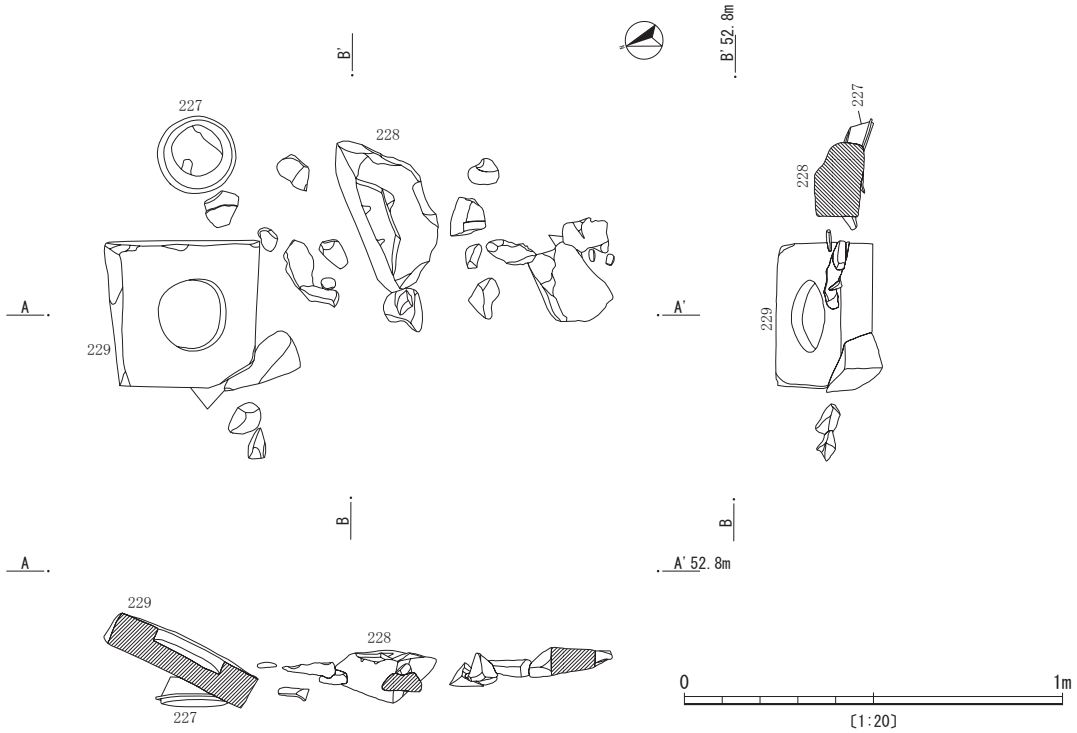
**（11）遺物集中（第80図）**

Ｈ－29区のⅡｂ層で石鍋・石塔などが1.4×0.9ｍの範囲に集中して出土した。北東隅近くで完形の石鍋が逆さになり，その西側には石塔の火輪と地輪が斜方向に傾いて出土している。まわりには小さなものから20×10cmほどの大きなものまで18個の礫が散在しており，主体となるのは石塔の石材と同じ凝灰岩である。

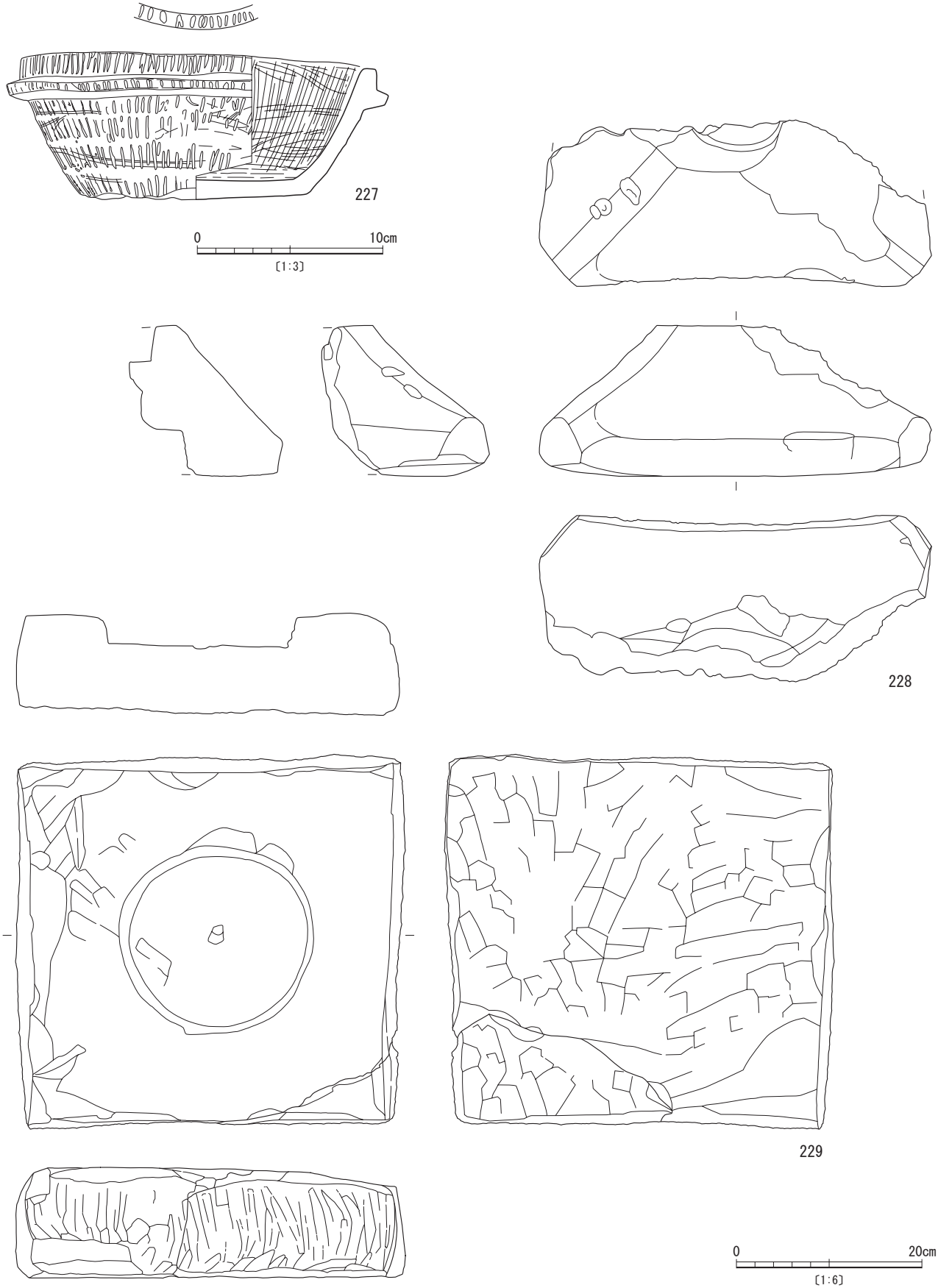
227は口径19cm，高さ7.8cm，底径12.2cmの石鍋完形品で，口縁端近くを断面が不等辺台形状をした鍔が巡っている。口縁端は矩形を呈している。底は一部を磨いているが，打ち欠いたままの部分が広い。内面は幅狭のノミ状のもので削ったあと，幅広のノミで横方向にナデており，外面と口縁部は縦方向に幅狭のノミで仕上げ，胴部はさらに横方向にナデている。外面の鍔より下にはススが付着している。銀桃色の石材を用いている。

228は凝灰岩製の火輪である。大きく欠損しているが，幅42cm，高さ16cmである。頂部には空・風輪を設置するホゾ穴，下面にも水輪を受ける穴が穿たれている。本体側面及び下面には擦り痕が目立ち，丁寧な研磨整形が施されている。

229は凝灰岩製の地輪である。幅41×42cm，厚さ12cm，重量23kgを有する。上面は良く研磨されており，水輪を設置する円形の凹みは径20cmである。側面及び下面には鑿による工具痕が著しく，側面は細長く縦方向に，下面には縦・横方向を交えた調整が施されている。




第80図　遺物集中




第 81 図　遺物集中の出土遺物

### (12) 柱穴（P：第 83・84 図）

第２地点では，3000 基近くの柱穴が検出されているが，その多くは遺物が出土しておらず，建物としてまとまらないために時期がはっきりしない。また，埋土が黒褐色土や黒色土・暗褐色土などほとんどの柱穴が時期を違えても同じであることも時期の判別を困難としている。ここではこれらのうち埋土に中世の遺物を含んでいる 11 基の柱穴について紹介する。いずれの柱穴も埋土のしまり・粘性ともない軟質土である。色調は黒褐色土・暗褐色土をしたものが多い。

**柱穴１号**はＧ 37 区で検出された 28 × 26cmの円形柱穴で，深さ 10cmと浅い。中から中国製陶器甕（230）が出土している。外面に格子タタキ，内面に同心円当て具痕がみられるが，外面はあとをヘラで横方向にナデているため痕跡がよく見えない。

**柱穴２号**はＨ 36 区で検出された 27 × 23cmの不整円形柱穴で，深さは 25cmある。中から政和通寶（231：初鋳年 1111 年）が出土している。

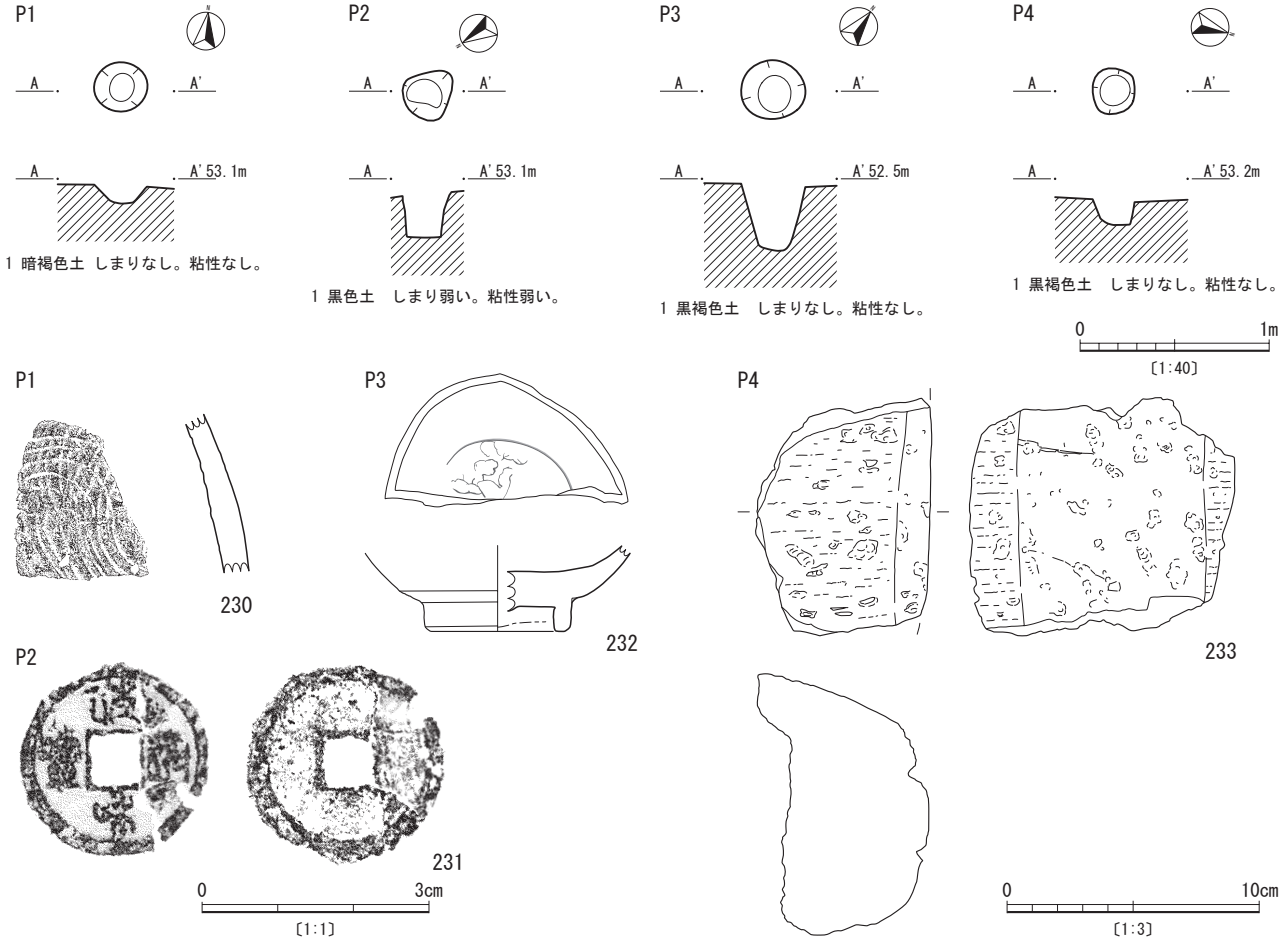
**柱穴３号**はＫ 37 区で検出され，掘立柱建物跡５号の中央付近に位置している 34 × 31cmの円形柱穴で，深さが 35cmある。中から青磁碗の底部から高台にかけての破片（232）が出土している。外面に１条の界線が巡り，内底には界線に囲まれた草花文が描かれている。外底の無釉部分はにぶい赤褐色を呈し，オリーブ灰色の釉である。

**柱穴４号**はＫ 35 区で検出された 24 × 22cmの円形柱穴で，深さが 14cmしか残っていない。中から断面がかまぼこ形をした軽石製品の破片（233）が出土している。幅が 14cmほどで，両端は欠けて残存長 12.5cmである。厚さも９cm以上ある。周辺をのみの様なもので丁寧に削っている。

**柱穴５号**はＧ 33 区で検出された 27 × 25cmの円形柱穴で，深さは 30cmある。中から口縁直径 11.8cmの口はげ口縁白磁（234）が出土しているが，この破片はＦ 31 区出土の破片と接合している。

**柱穴６号**はＧ 32 区で検出された 30 × 20cmのだ円形柱穴で，北側へ傾いている。深さ 66cmと深い。柱穴７号とともに焼土の集中域内に存在している。中からバレン形の滑石製品（235）が出土している。下辺が 4.7 × 3.3cm，つまみ部分が 3.6 × 1.8cmのだ円形を呈し，高さ１cmである。全面を丁寧に磨き，下面はゆるやかな弧状を呈している。

**柱穴７号**はＧ 31 区で検出された 29 × 28cmの円形柱穴で，深さは 39cmである。中から直径が８cmある糸切り底の土師器坏（236）が出土している。底近くで屈曲し，




第 82 図　柱穴と出土遺物（１）

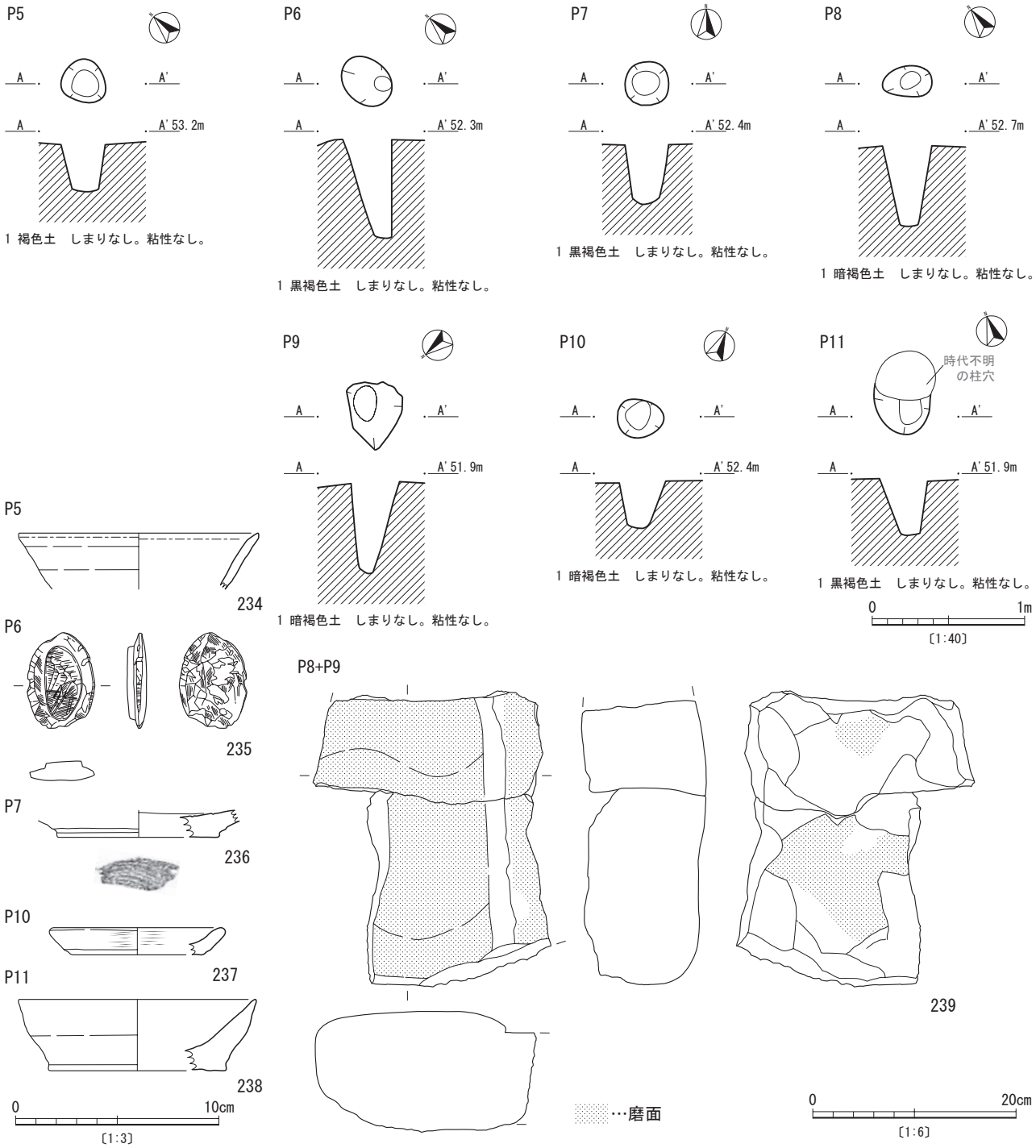
内底部には２条の沈線様へこみがある。

**柱穴８号**はＪ 31 区で検出された 32 × 20cmの惰円形柱穴で，深さが 51cmある。中から両面に磨った痕跡のある花崗岩製の台石（239）が出土しているが，これは近くにある柱穴９号から出土したものと接合している。

**柱穴９号**もＪ 31 区で検出され，柱穴８号とともに掘立柱建物跡 10 号の中に入っている。43 × 32cmの不整円形を呈し，深さは 56cmある。中から出土した台石（239）は柱穴８号出土の破片と接合している。

**柱穴 10 号**はＪ 31 区で検出された 30 × 25cmの円形柱穴で，深さは 30cmある。中から口径 8.5cm，高さ 1.3cm，底径 6.5cmの土師器小皿（237）が出土している。淡赤橙色を呈し，糸切り底である。

**柱穴 11 号**はＬ 26 区で検出された 31 × 22cmの楕円形をした柱穴で，深さは 37cmある。北側を本柱穴より浅い柱穴（旧Ｐ 2277）に切られている。中から口径 11.6cm，高さ 3.5cm，底径 8.6cmの口縁端が尖がり，底付近の分厚い土師器坏（238）が出土している。




第 83 図　柱穴と出土遺物（２）

## 2　遺物

包含層の遺物には，土師器，畿内からの持ち込みと考えられる鍋や羽釜などの瓦器・瓦質土器，須恵質土器・土師質土器がある。陶器には，国内産陶器と舶来品陶器があり，国内産陶器は東播系須恵器やカムィヤキ・備前焼などの須恵器系のものと，常滑焼や瀬戸などの瓷器系のものとがある。舶来品陶磁器には中国産や朝鮮産があり，磁器は，中国大陸産のもので青磁・白磁・青白磁・染付がある。土錘・円盤状土製品・羽口などの土製品，石鍋などの石製品，刀子や鏃・環などの鉄製品，碗型鉄滓，古銭なども出土している。

### (1) 土師器

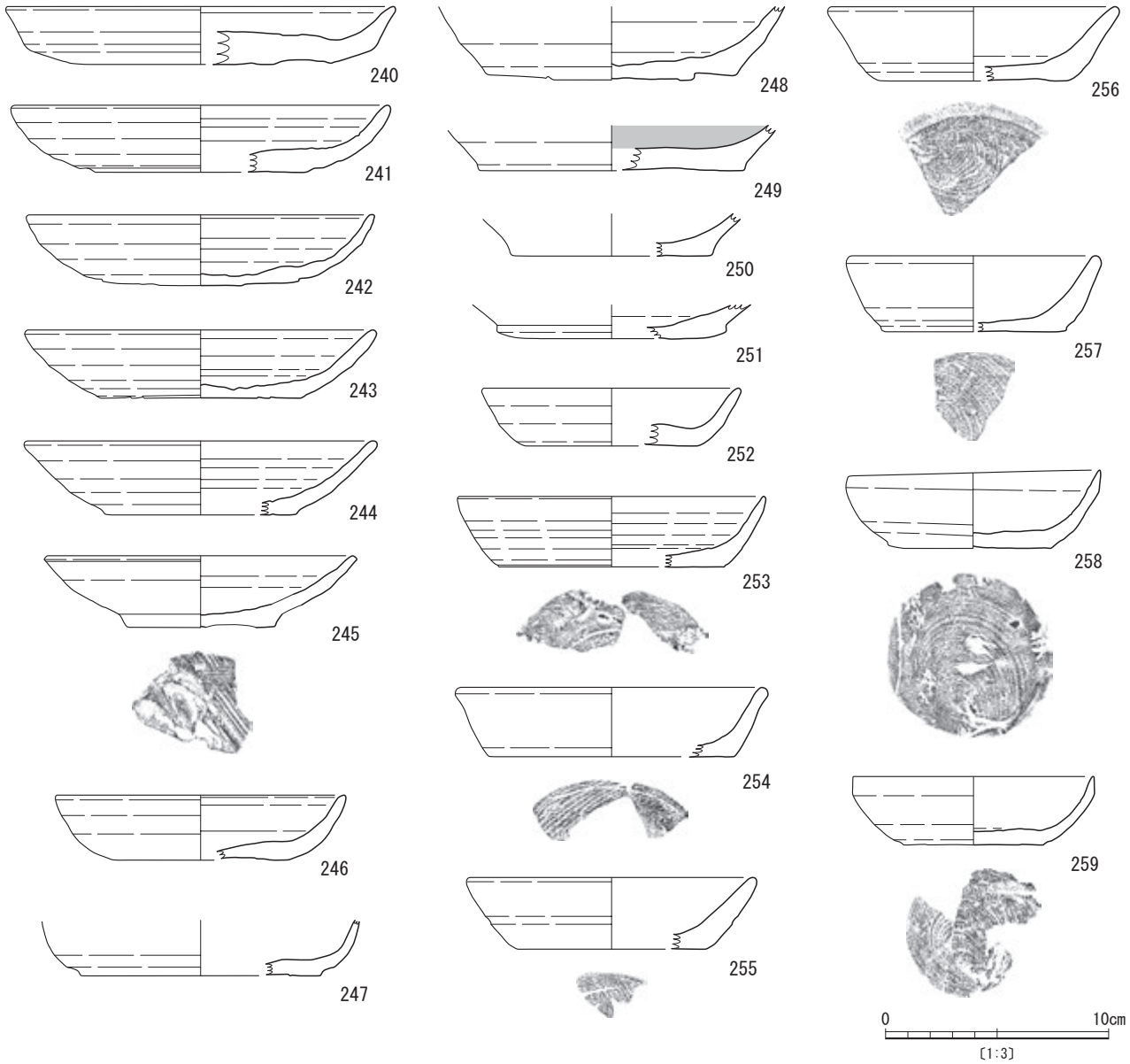
破片が5446点出土している。うち141点を図化した。器種は坏と小皿がある。口径が10.5cm以上のものを坏，以下のものを小皿とした。

#### 坏（第84図240～第86図259）

底部の切り離しがヘラ切りと糸切りのものがある。腰部が角張るもの，丸くなるものがあり，立ち上がりはまっすぐ外傾するもの，外反するもの，内弯するものがある。口縁端部は丸くするものや先細りするものがある。

240～250はヘラ切り底である。法量は口径10.6～17.4cm，底径6.6～12.0cm，器高2.5～3.3cmである。

240は口径17.4cmの大型品で，腰部はやや角張り外傾しながら立ち上がり，口縁部は先細っている。底部調整は雑である。241・242は，丁寧な作りで器形や色調が類似する。丸く内弯しながら立ち上がり，口唇部を丸く収める。ロクロナデの痕を強く残す。241は，器壁が242よりやや厚く少し大きい。243・244はほぼ直線的に立ち上がる。ロクロナデの痕を強く残すが，作りは丁寧である。器形はよく似るが，色調は243が橙色で244は浅黄



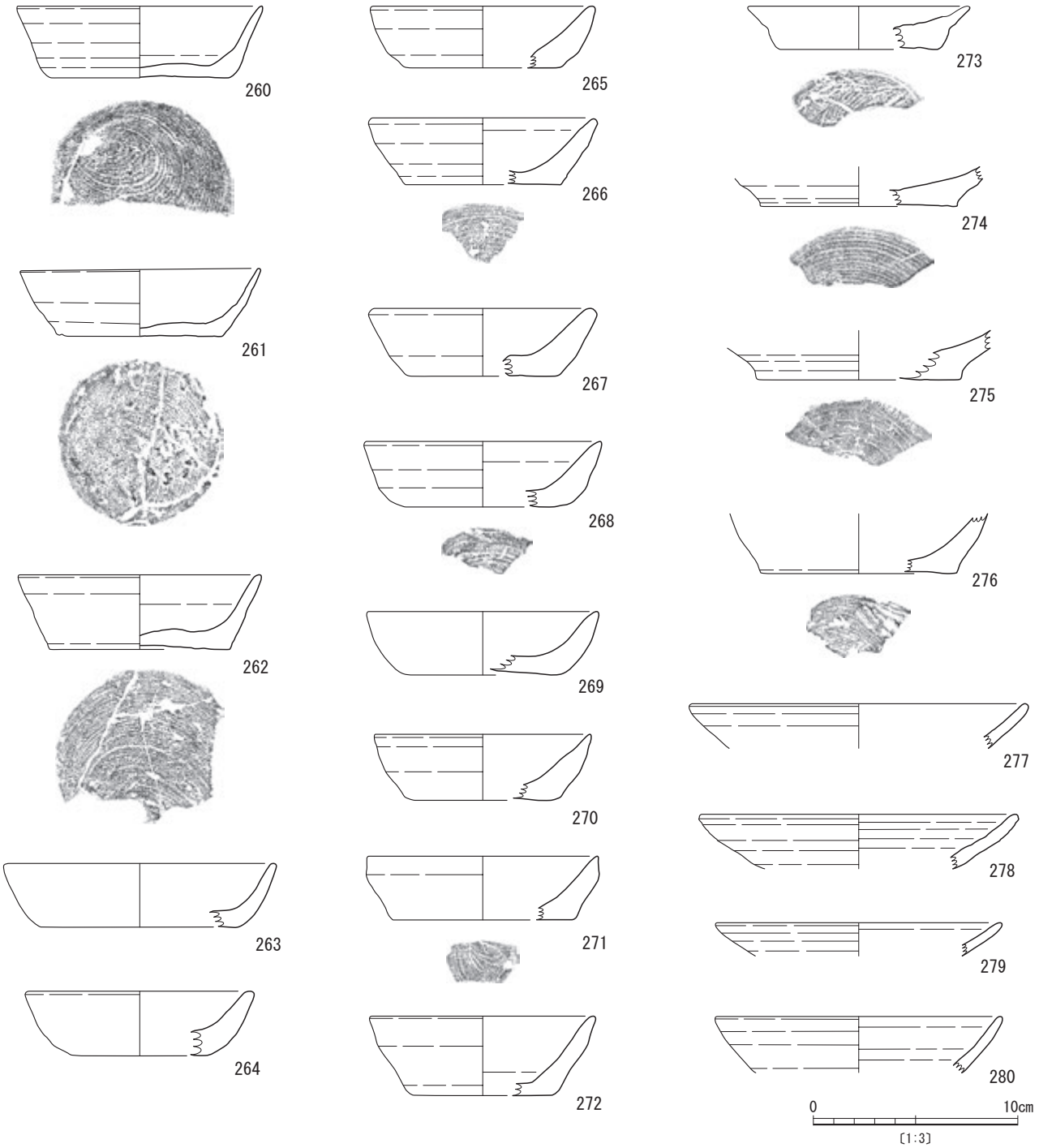

第84図　中世の土師器（1）

橙色を呈する。244 は外面にススが付着している。245 は板状圧痕がみられる薄い円盤状の底部からやや内弯気味に立ち上がり大きく開く。口唇部は丸めている。焼成は非常に硬質である。口径が 14.0cm，底径が 6.6cmである。246 は内弯しながら立ち上り，中から押し出した様に丸い腰を持っている。口唇部には面取り状の平坦面が斜位に形成される。247 は腰部が丸く内弯しながら立ち上がる。全体的に摩滅している。

248～250 は底部と胴部の境が明瞭で腰部を一周強くナデて凹ませる。立ち上がりは，ややくぼんですぐに外に開く。248 の底部には，粘土が捲れた段がある。小礫が多く含まれ締りがやや弱い。249 は内面黒色を呈する。249・250 とも 248 より土が緻密である。251 は底面がややレンズ状に膨らむ丸い円盤状の底部を持つ。土は小礫が多く含まれ締りがやや弱い。内面は橙色を呈す。

252～267 は糸切り底である。法量は口径 10.6～14.0cm，底径 6.2～11.0cm，器高 2.0～3.9cmである。

252 は底部が緩やかに屈曲し，やや外反気味に立ち上




第 85 図　中世の土師器（2）

がる。胴部にナデ調整を施しており，丁寧な作りをしている。底部は切り離しの痕をナデで均している。253は口縁部が先細る。外面黒褐色を呈する。底部は切り離しのあと，ナデで均している。254は底部からほぼまっすぐに立ち上がり，口縁部はやや外反し口唇部を丸く整形している。硬質で，丁寧な作りをしている。255～257は全体的に器壁がやや厚く硬質，色調はにぶい橙色である。口径は255・256が13.0cm，257はやや小さく11.5cmである。256は腰を丸くしている。258・259はやや内弯気味に立ち上がり，口縁部が細く尖る形状である。大きさに違いがある。259は内面に渦巻状の調整痕を残し，外面はほぼ全面にススが付着する。小礫がやや多く含まれ締りがやや弱い。260～262は腰が角張り直線的に立ち上がる箱形を呈し，胴部の器壁が薄い。見込みは凹凸がある。260・261は小礫が多く締りがやや弱い。摩滅が著しい。また，260は内外，261は外面に鉄分が多く付着する。262は内面にススが付着する。260・262は口径12.0cm，261は口径11.7cmである。263～265は丸みを持ちながらやや内弯気味に立ち上がるものである。263は内外にススが付着する。口径13.4cm，底径9.6cm，器高3.1cmである。264・265は器壁がやや厚く，口唇部をやや丸く整形している。266・267は器壁が厚く腰が角張るものである。267は腰部の脇を強くナデているため緩やかに立ち上がる。

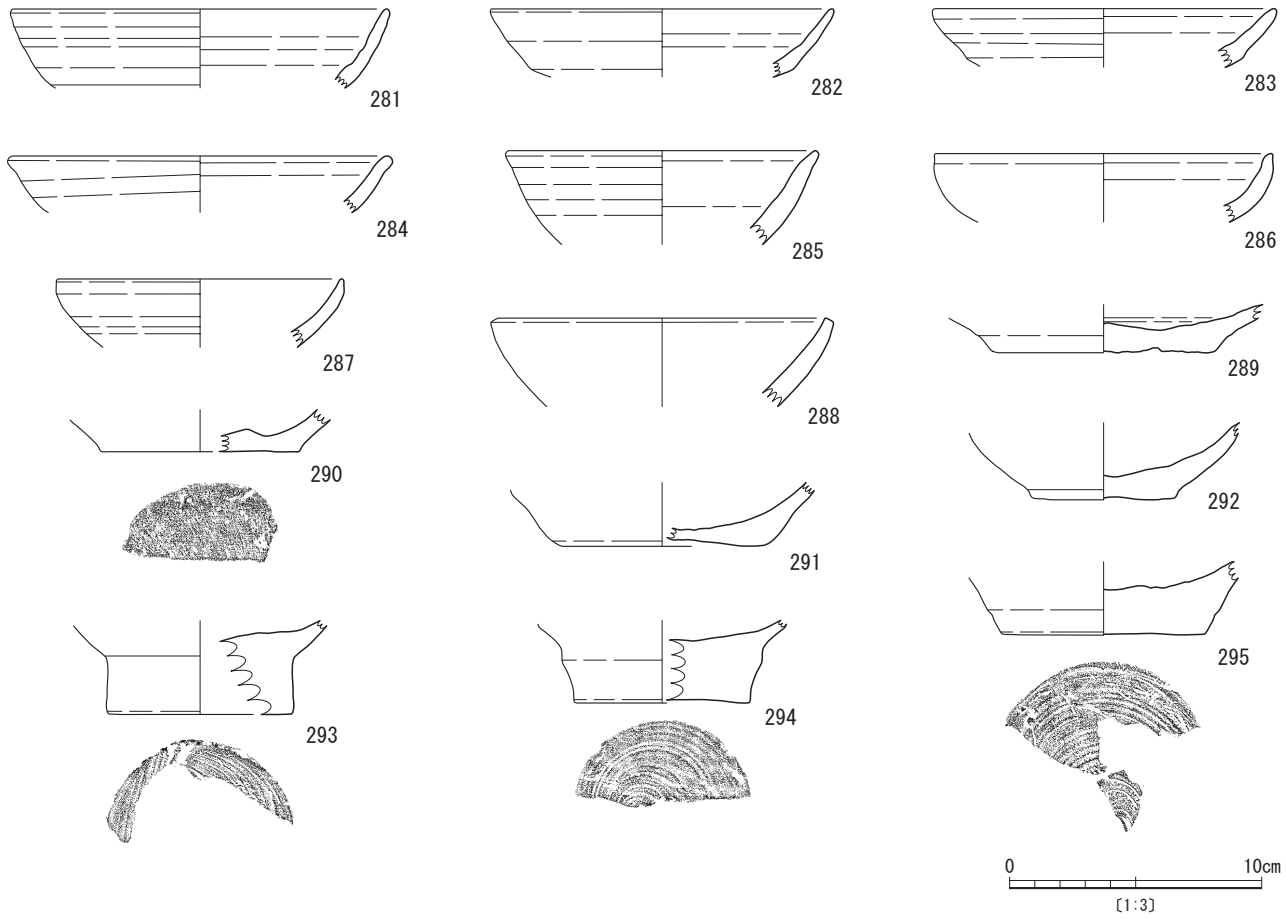
268～272は器壁がやや厚く口縁部は先細りするものである。268・269は腰部が丸くなる。270～272は体部内面が直線的に立ち上がるものである。272は器高が3.9cmと比較的高い。

273は底部が分厚く胴部が短い。内面剥離と摩滅がみられる。

274～276は底部近くの破片で，腰が角張り腰部を一周ナデて凹ませるものである。274・275は外へ開くように立ち上がる。276はやや直線気味に立ち上がり，硬質である。

277～288は口縁部片である。277～280は立ち上がりが直線的で大きく開く。277は口径が16.5cmと比較的大きい。281～283は腰部から屈曲し内弯気味に立ち上がる。284・285は端部で屈曲し外に開くもので，端部形状は284が丸く，285が先細りする。286・287は丸みを帯びながら内弯する。286は口縁部を一周強くナデる。287は口径11.4cmと小さい。288は外面にススが付着する。面取りをして口唇部を平らに調整している。小礫が多く含まれ締りが弱い。

289～292は底部片である。289は内面に渦巻状の調整を残す。腰部を一周強くナデている。底径が8.8cmであ




第86図　中世の土師器（3）

る。290 は内面に凹凸がみられる。内外ススが付着している。底部はナデの後板状圧痕がみられる。291 は腰部をナデて丸くしている。また，厚みが 1.0cmと部分的に厚く，内外面とも一部にススが付着している。292 は 269 と非常に類似するが，焼成がややあまい。

293～295 は充実高台である。293・294 は高台を柱状に高く残す。295 は，柱状ではないが厚い底部（2.0cm）を持ち，内面には凹凸がある。底径 8.0cm。

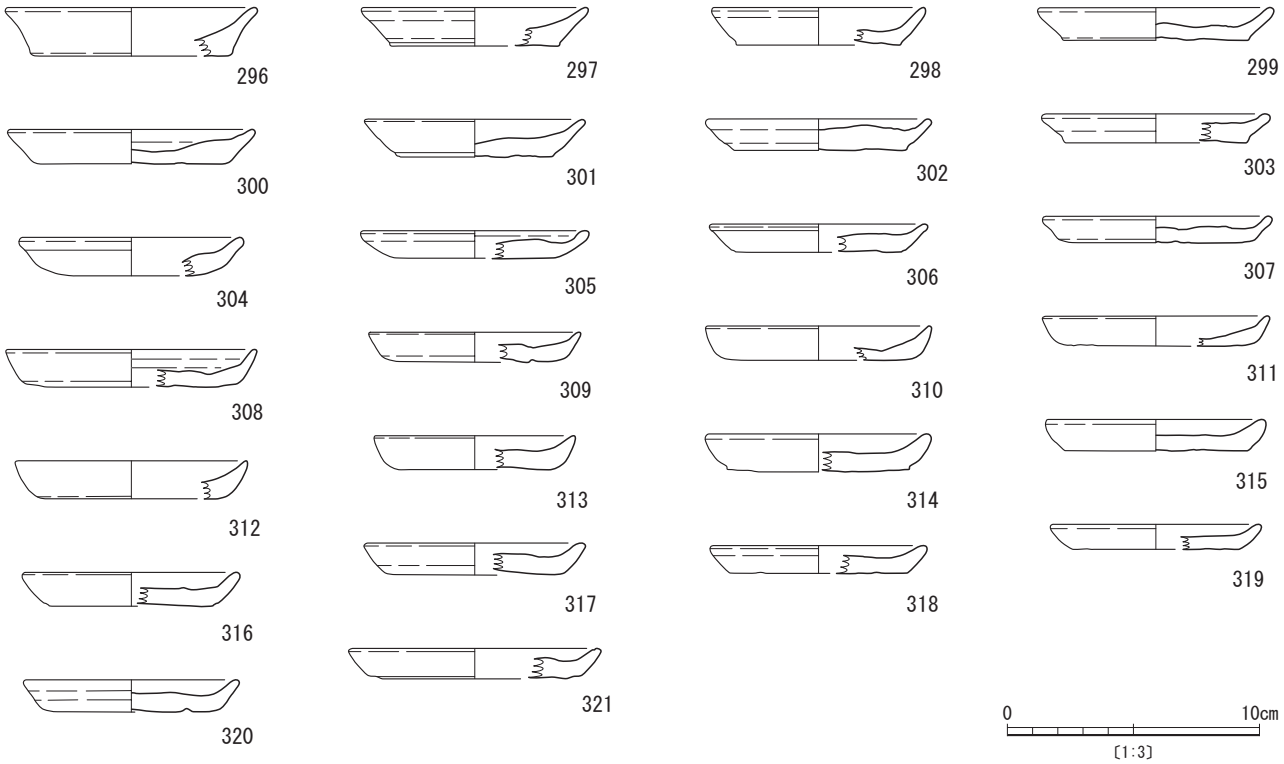
**小皿（第 87 図 296～第 89 図 376）**

底部の切り離しがヘラ切りと糸切りのものがある。腰部はやや立ち上がり，口縁端部形態は坏とほぼ同様である。

296～336 はヘラ切り底である。法量は口径 7.9～10.0cm，底径 6.0～8.8cm，器高 0.85～1.9cm である。296・297 は腰部が鋭角的に屈曲し，大きく開く。口縁部が先細りする。296 はやや外反気味に立ち上がり，口径は 10.0cm。297 はほぼ直線的に立ち上がり，口径は 9.0cm。298・299 は鋭角的な腰部から直線的に立ち上がる。底部は薄く平らに均している。300～303 は直線的に立ち上がる。300～302 は見込みの凹凸が目立つ。303 は見込みを平らに均して，口唇部を丸くしている。304～307 は腰がやや不明瞭でナデている。口縁部は先を丸める。308～313 は腰がやや丸く，口縁部端部は先細りである。308・309 はやや外傾気味に，310・311 はやや内弯気味に立ち上がる。312・313 の立ち上がりは短い。314・315 は底部と胴部が比較的明瞭で，厚みを持って立ち上がる。底部は切り離しの後ナデている。316～321 はやや丸く，直線的に立ち上がる。底部は切り離しの後ナデている。

322～324 はやや丸く，緩やかに内弯しながら立ち上がる。底部は切り離し後多少ナデているが，やや雑である。322 は底部が黒色を呈する。325 は腰がやや丸みを持ちながら直線的に立ちあがる。全体的な厚みをほぼ均一に整形している。口縁部は丸めている。326～329 は器高が低く胴部が短い。326・327 は直線的に立ち上がり，328・329 は丸みを持ちながら緩やかに立ち上がる。330 は腰部が角張りながら直線的に立ち上がり，腰部には捲れた粘土が残る。331～333 は体部の立ち上がりがほとんどない。331 の見込は，やや凹む整形である。332・333 は底部が中心に向かって薄くなる。334～336 は腰部が角張る。334・335 は底部のヘラ切り痕が非常によく残る。336 は箱形を呈する。底部はレンズ状にわずかな丸みを持ち，見込みは屈曲せず緩やかに立ち上がる。口径 8.3cm，底径 7.4cm。

337～368 は糸切り底である。法量は口径 7.6～10.0cm，底径 5.5～8.4cm，器高 0.95～3.2cmである。337～343 はやや外反しながら立ち上がる。338 は口径 9.0cm，337・339 は口径 10.0cm。337 は底部がやや厚みを持ち口縁部は先細る。338・339 は底部から胴部までほぼ均一の厚さに整形される。340～343 は器高が 1.2～1.4cmである。340・343 は全体的にほぼ均一の厚さに整形される。341・342 は口縁部が先細る。344～346 は体部が短く，やや内弯しながら立ち上がる。347 は底部から直線的に立ち上




第 87 図　中世の土師器（4）

がる。見込みは凹凸が目立つ。348～350 は腰部が屈曲するが，内面は屈曲せず緩やかに立ち上がる。端部は先細る。351・352 は外傾しながら立ち上がる。口縁部は大きく開く。353 は底部がレンズ状に膨らむ。内面は屈曲せず緩やかに立ち上がる。354・355 は底部からやや内弯しながら立ち上がる。全体的にほぼ均一でやや厚い。356～359 も厚みがある。356・358 は口縁端部が丸い。357 は口径 10.0cmで器高がやや高く（3.2cm），口縁端部が先細る。359 は内弯しながら立ち上がる。口径は，356 が 8.6cm，358 が 8.4cm，359 が 8.0cm。357～359 は硬質である。

360～368 は底部である。360～365 は底部と体部の境が比較的明瞭である。360・361 は体部が大きく開く形状をしている。363 は切り離し後の板状圧痕が確認できる。底径 8.4cm。366～368 は底部と体部の境がやや不明瞭で丸みを持ちながら立ち上がる。見込みに渦巻状の調整痕を残す。

369～376 は底部が欠損・摩滅のため切り離しが不明のものである。369 は底部からやや内弯しながら立ち上がる。370 は腰部が屈曲するが，内面は外形に沿わず緩やかに立ち上がる。端部は先細る。371～373 は器高が低いものである。371・372 は短い胴部がみられるが，373 は胴部がほとんど見られない。374 は底部と胴部の境が不明瞭である。口縁端部が先細る。375・376 は内弯しながら広がり口縁端部が外に屈曲するものである。

**不明（第 89 図 377～380）**

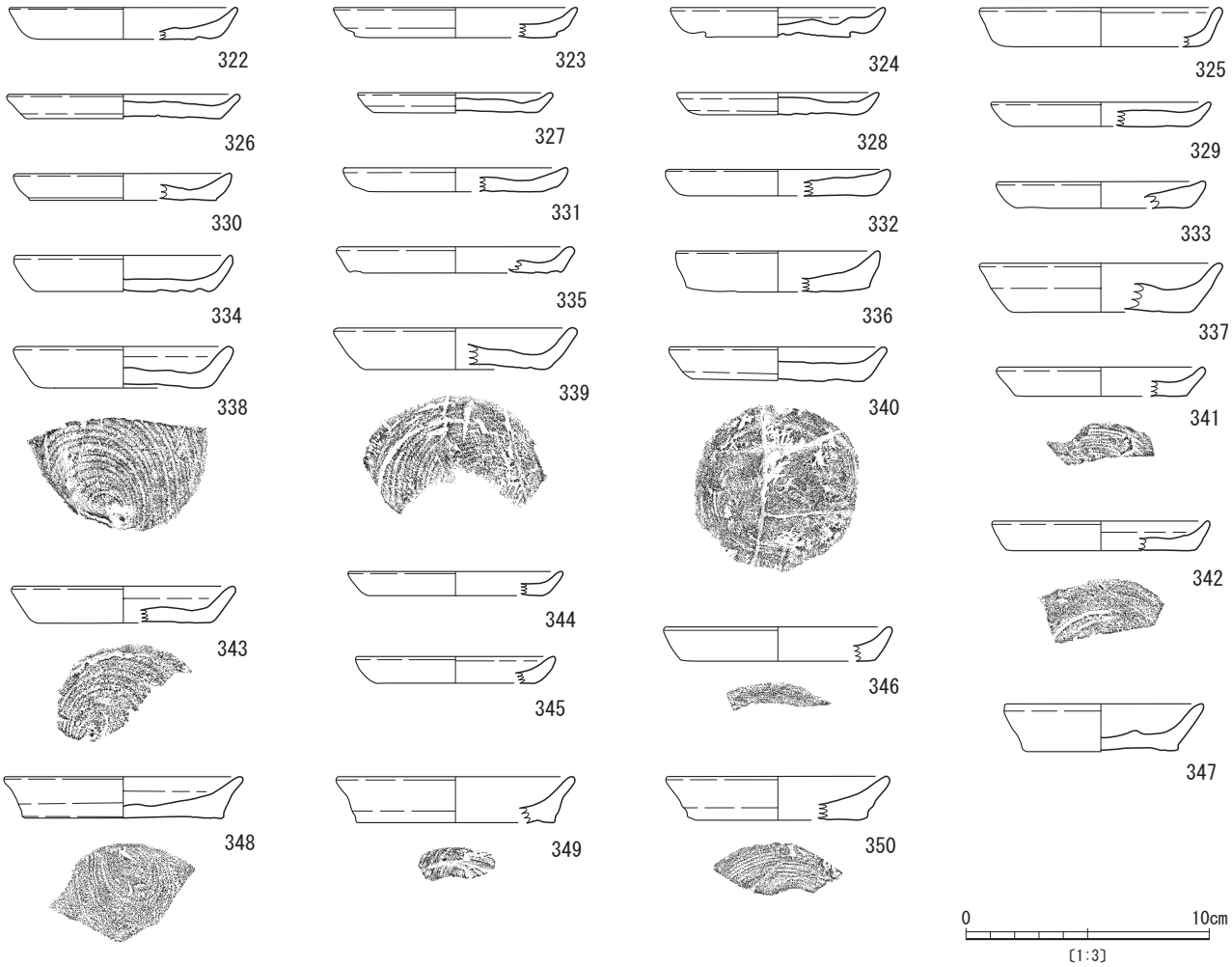
底部のみのため，坏・小皿の区別が出来ないものである。377 は底部と胴部の境が明瞭で，378 は不明瞭である。379 は板状圧痕が確認できる。

**(2) 黒色土師器（第 89 図 381）**

底部は，糸切り離しの後ナデている。腰部もナデており，やや内弯しながら立ち上る。全体的に丁寧にミガキが施され光沢がある。法量は，口径 10.8cm，底径 5.5cm，器高 2.2cmである。

**土師器の分布状況（第 90 図）**

ほとんどがK－28・29 区からD－31・32 区へ伸びる谷部で出土し，特にF～H－30～32 区が集中している。他に，43 区周辺の東向き斜面，36～38 区周辺の南東向き斜面，D～G－25・26 区周辺の西向き斜面，D・E－21・22 区の谷頭周辺などで出土している。ヘラ切り底・




第 88 図　中世の土師器（５）

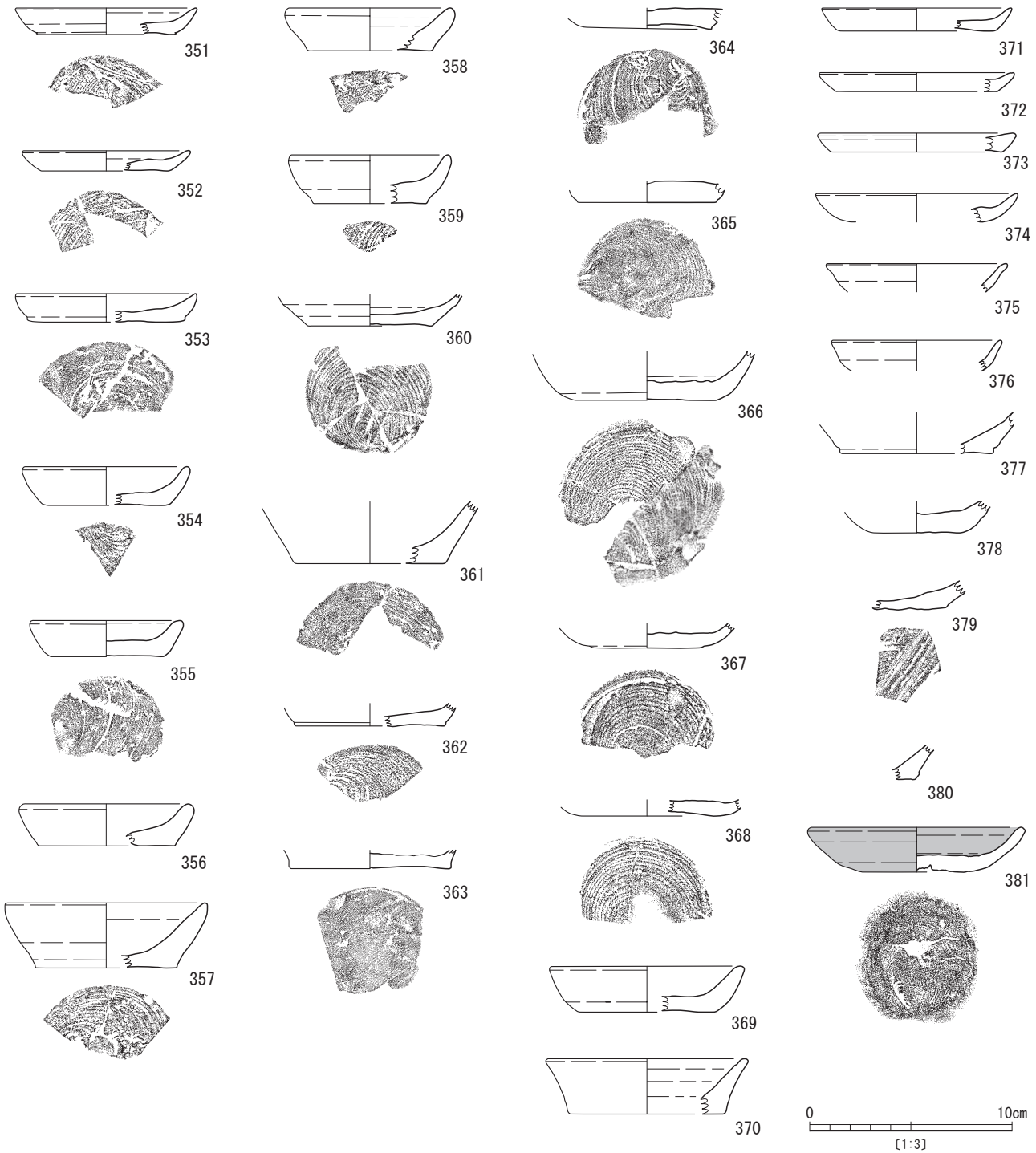
糸切り底とも分布の偏在はないが，ヘラ切り底については 36～38 区の南東向き斜面とＤ・Ｅ－ 21・22 区の谷頭周辺では見られない。この出土状況によれば，中世前半はＤ～Ｊ－ 30～32 区の谷部を主な生活圏としていたが，中世後半は生活圏を広げたことがうかがえる。

**(3) 瓦器・瓦質土器・土師質土器**

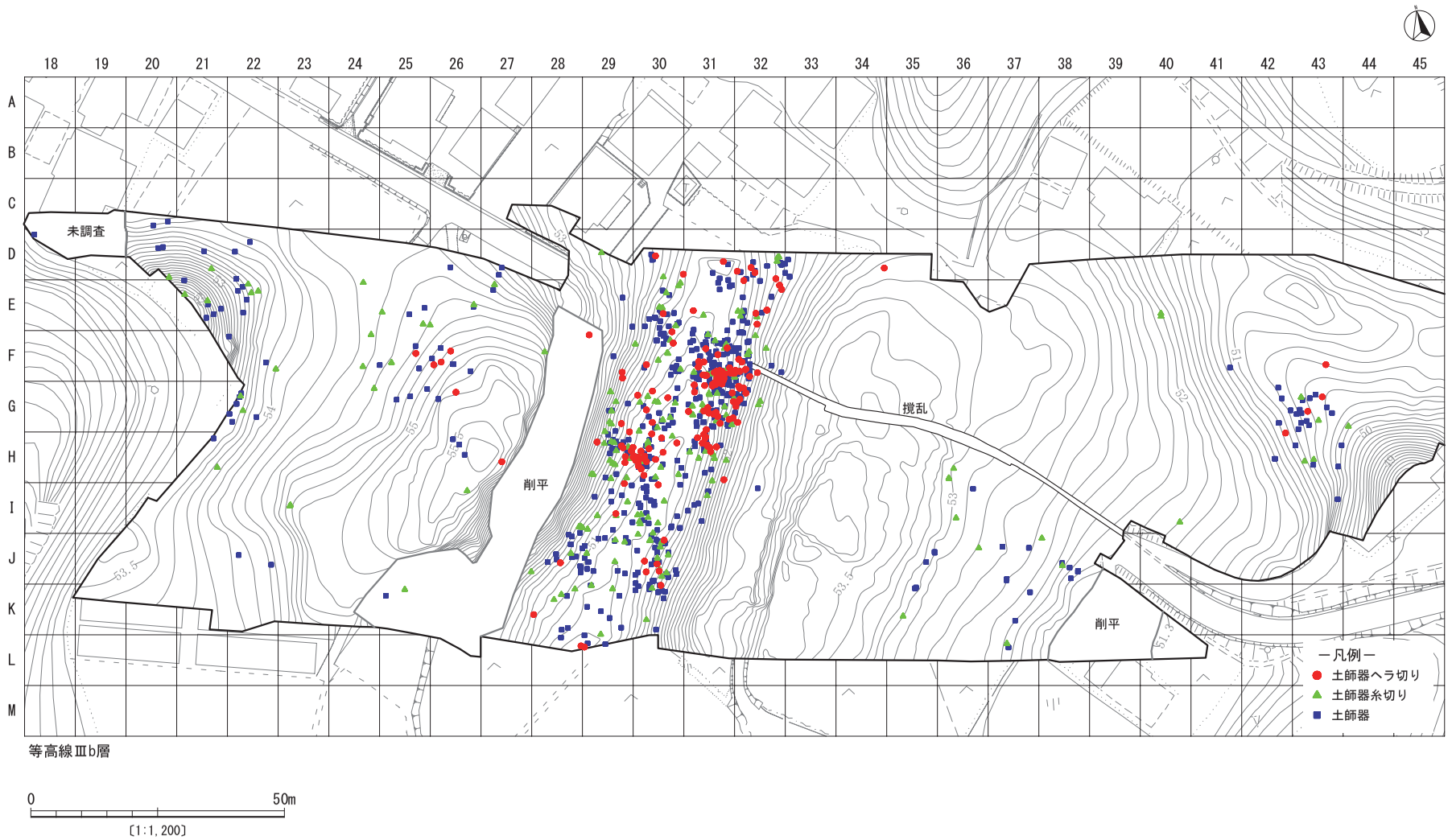
在地産でなく，他所から持ち込まれた食器や土製煮炊具の類が数種出土している。破片数は皿 1 点・坏 1 点・埦 4 点・鍋 15 点・羽釜 27 点・甕 10 点・鉢 1 点であるが，同一個体のものが多く，本来の個体数はそれほど多くないと想定される。

**瓦器（第 91 図 382～384）**

皿と坏・碗がある。382 は皿である。器高 1.7cmほどの薄い作りの小皿で，緻密な土を用いている。内外とも




第 89 図　中世の土師器（６）


18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45
A B C D E F G H I J K L M
未調査
削平
撹乱
削平
－凡例－
土師器ヘラ切り
土師器糸切り
土師器
等高線Ⅲb層
0
50m
〔1:1,200〕

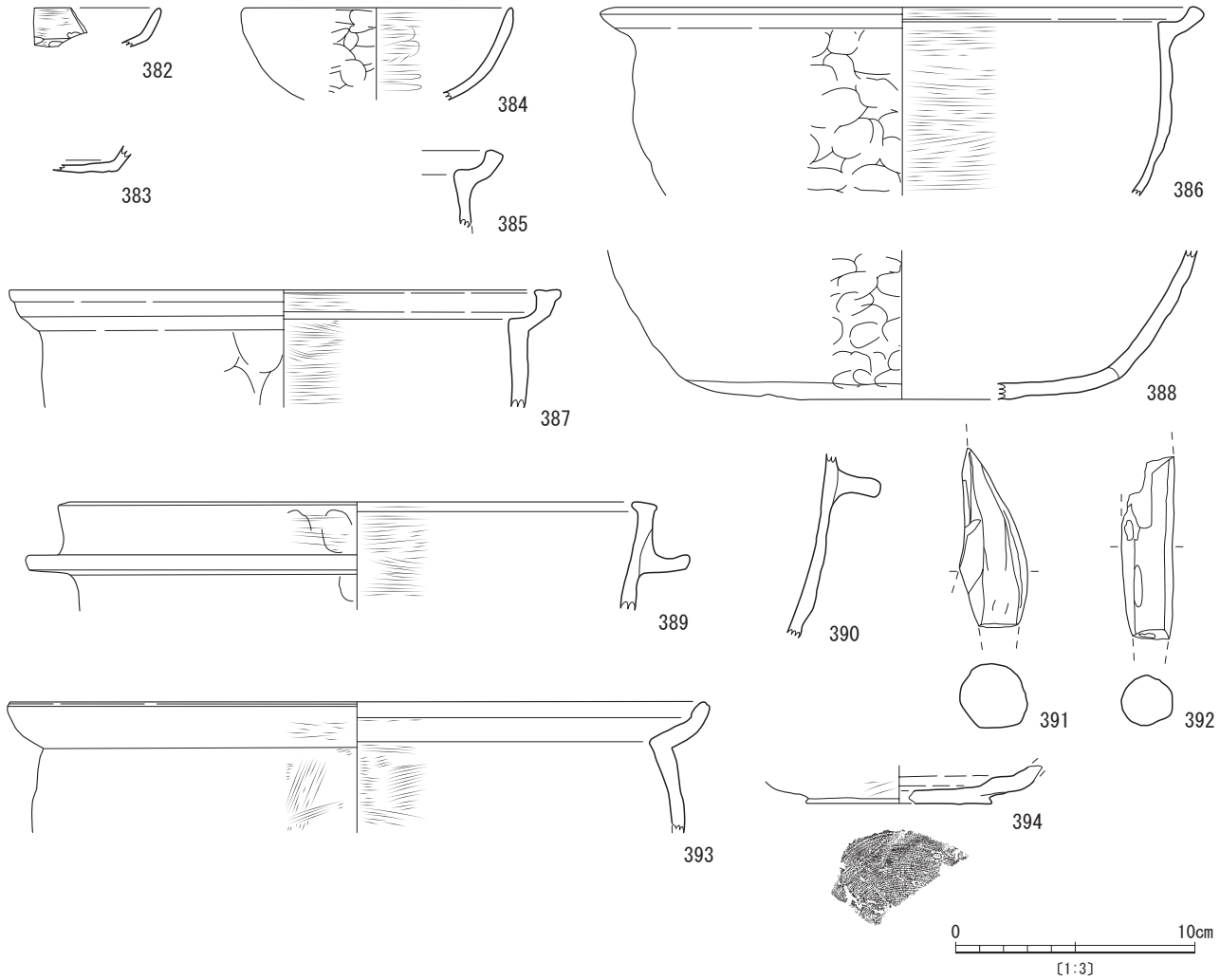
第 90 図　土師器分布図

横ナデ仕上げである。383は坏の底部である。これも薄く硬質である。平底で灰白色を呈している。384は口径11.4cmの埦である。外面は指押さえ，内面はヘラミガキで仕上げている。灰色を呈しているが，外面の一部は白っぽくなっている。

**瓦質土器・土師質土器（第91図385～392）**

385～388は鍋である。385は土師質，386は瓦質であるが，どちらも外面は指押さえ，内面は丁寧な細かいハケ横ナデで仕上げている等，器形や調整などが類似しており，同一個体の可能性もある。輝石や茶色石を多く含む細かい胎土で軟質である点も共通する。385は灰白色を呈している。386は口径25.2cmで，丸みをもった胴部と受け皿状の口縁部からなる。胴外面は指押さえ仕上げのため凹凸が目立つが，内面は丁寧にナデている。内面は灰白色，外面は熱の影響か暗灰黄色を呈しているが，口縁部は内外面ともやや濃い灰色を呈している。387も385・386と同じように受け皿状の口縁部を呈しているが，端部が内外にやや張り出した「T」字状を呈している。調整・胎土等も似ているが，器厚がやや分厚く，胴部が張らずに底部へと向かっている。口径23cm，瓦質である。内面は灰白色，外面と内面口縁部は灰色を呈する。388は瓦質の不安定な平底で，径は約18.0cmである。外面は指押さえ，内面は丁寧なナデで仕上げるが底近くに輪積みの痕跡を残す。色調は灰色を呈しているが部分的に異なるか所もあり，こうした色調変化は384の瓦器埦と類似する。他の鍋に比べて焼成は良い。色調・調整・胎土などから385～387と同一個体の可能性もある。

389～392は瓦質土器の羽釜である。389は口径が25cmで，口唇部は内外に張り出し「T」字状を呈している。鍔は口縁下の外面にやや上向きに貼り付けられる。外面は指押さえのあとヘラ横ナデ，内面は横方向のハケナデで仕上げている。灰白色を呈しているが，部分的に灰色の所もある。390は鍔から胴下半部である。389に比べて，390の鍔はやや下向きとなっている。胴部は丸みをおびて薄い作りである。灰白色を呈しているが，一部は淡橙色である。胎土・焼成とも389と酷似する。391と392は羽釜の脚部と考えられる。391は部分的に灰色を含む灰白色を呈する。一端に剥離部分がみられる




**第91図　瓦器・瓦質土器・土師質土器**

ことから釜部との接合部分と想定される。焼きが甘く，周辺に剥脱や欠損部がみられる。直径 2.7cmほどの略円形を呈している。392 は，391 に比べてやや硬質に焼けている。同じく略円形で直径２～3.2cmと下のほうが細くなっている。

393 は土師質土器で，口径 29cmの釜である。口縁部が受け皿状になっているが，内面の口縁端近くがやや膨らんでいる。頸部は強く屈曲し，内面の稜は鋭い。胴部は丸みをおびる。口縁部は内外とも丁寧なヘラ横ナデ，胴部は内外ともハケナデだが，内面は横方向，外面は縦横に施している。浅黄橙色を呈しているが，外面にはススが付着している。胎土には灰色石・茶色石・輝石などの小石が含まれ，表面は凹凸が目立つ。焼成は良好である。これらの特徴から，紀伊産の釜と考えられる。

394 は土師質土器の鉢の底部である。平底で底径 7.8cm，糸切底である。底は粘土貼り付けによって段ができるほど厚くこしらえており，そのどっしりとした底から広く開きながら口縁へ立ち上がる。内面は凹凸が目立つ。灰白色を呈し，一部にコゲの痕跡がある。灰色・雲母などの微粒を含む細かい土を用いており，焼成は良く硬質である。

**(4) 須恵質土器・土師質土器**

**須恵質土器（第 92 図 395～398）**

鉢２点と擂鉢４点の６点が出土している。

395 と 396 は鉢の底部である。395 は底径 15.2cmのこね鉢で，糸切り離しである。底に粘土を貼り足して分厚くしている。色調が灰白色であるが，東播系須恵器の可能性もある。396 は底径 11.5cmの安定した平底で，内部が膨らんでいる。内外ともヘラによるナデ整形である。

397 と 398 は擂鉢である。397 は注口部分である。体部から口縁部へ開きながらまっすぐ伸びており，端部をくぼませる。底から口縁部へ向かって６条以上のかき目がみられる。398 は体部の破片で内面に５条以上のかき目がみられる。

**土師質土器（第 92 図 399～401）**

ほうろくの把手３点，擂鉢２点など 10 点が出土している。

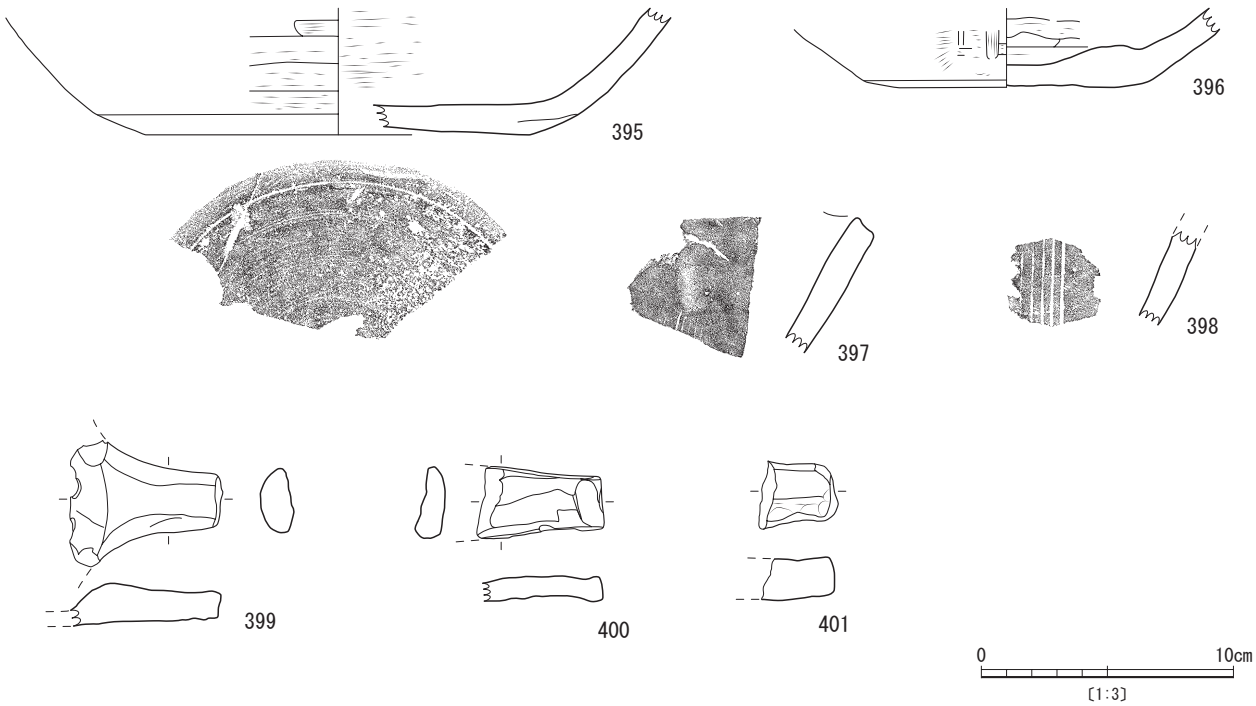
399～401 はほうろくの把手である。399 は長さ 3.5cm，幅２～３cm，厚さ 1.2cm，400 は長さ 5.0cm，幅２～３cm，厚さ 1.0cmである。401 は把手の端部で，幅 2.2～2.7cm，厚さ 1.6cmである。いずれも浅黄橙色を呈し，硬質である。

**(5) 国内産陶器**

中世の陶器には中国製のものと，国内産のものとがある。国内産のものには東播系須恵器やカムィヤキ・備前焼などの須恵器系のものと，常滑焼・瀬戸などの瓷器系のものとがある。器種には甕・壺・鉢・卸皿・擂鉢などがある。

**東播系須恵器（第 93 図 402～第 98 図 475）**

東播磨地域にある神出・魚住などの窯で焼かれた須恵器が多く出土している。その大半はこね鉢と呼ばれる片口鉢で破片数にして 435 点ある（接合できたものは１点として計上）。他に甕が４点出土している。溝状遺構８号（第 60 図 159）や火葬土坑１号（第 71 図 187）では大きな破片も出土した。



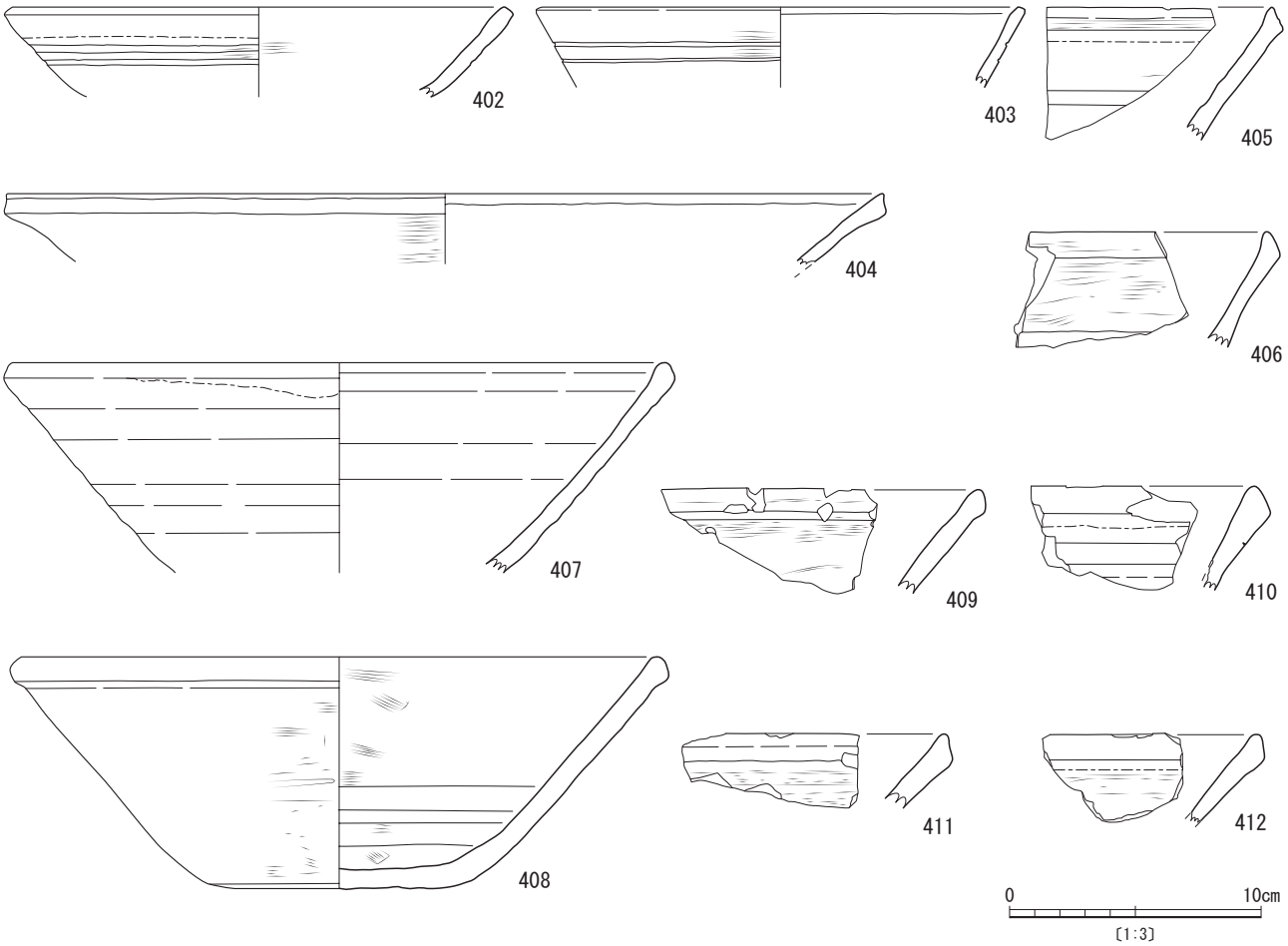

第 92 図　須恵質土器・土師質土器

片口鉢（402～472）：口縁部は三角形となるもの，玉縁状となるものなど多様である。胴部はやや丸みを呈するものと，直になるものとがあり，底部も屈曲気味に立ち上がるもの，丸みをもって立ち上がるもの，底を分厚くして段をもつものなどがある。ここでは主として口縁形態により分類した。

402～404 は小型のものである。402・403 は口縁端部が矩形となるもので，口径は 402 が 20.2cm，403 が 19.4cmである。402 は胴部上半の凹凸が顕著で，全体的な色調は灰色を呈しているが，口縁部は暗青灰色で一部は光沢がある。403 は上半に２条の浅いくぼみがある。灰色を呈しており，口縁部近くは暗く，口唇部には自然釉がかかっている。404 は，口径 35cmと大きいが外へ強く開くもので，体部は薄い作りとなっている。口唇部はややくぼんでいる。403 がやや軟質だが，他は硬質である。

405～423 は内面が口縁部へ向かってまっすぐ伸びるか，端部がややくぼむものである。硬質に焼けているものが多い。405 は薄い作りで端部を三角形に切り取っている。内面・外面とも浅いくぼみがみられる。406 も同様の作りだが，外面はやや丸みを呈している。407 は口径 26.6cmで，口縁端は内面が内反気味のやや丸みをおびた三角形を呈している。内外とも調整は丁寧で，凹凸は少ない。褐灰色を呈しているが，口縁部外面は光沢のある黄味をおびた釉がかかっている。白色石・石英・鉄分を多く含み黒粒も含まれている。408 は復元口径 26.2cm，底径 10.4cm，高さ 9.2cmの鉢である。丸みをもった平底からまっすぐ開きながら立ち上がり，口縁端部はやや外へ張り出す。口唇部は丸みをもつ。内外ともハケ状工具による横ナデで仕上げる。内面の底近くには使用痕がみられる。409～412 も断面が三角形となる破片である。409 は外面に段があるものの，内外面ともほぼまっすぐ伸びている。410 は端部が分厚くなっており，外面に沈線がみられる。口縁上面は使用痕が顕著である。411 は口唇部に浅いくぼみがみられ，胎土には５㎜大の礫もある。412 は灰色を呈しているが，口縁部は光沢ある暗灰色を呈している。

413 は口径が 28.8cmの破片で，口縁端が外へ張り出しており，口唇部には浅いくぼみがある。胎土には鉄分も含み，色調は灰色だが口縁部はやや暗い。414 は口径が 31cmで，口唇部は三角形に切り取っている。内外とも浅い凹凸があるが，内面がやや目立つ。胎土内の小礫は６～８㎜大のものもある。415・416 は端部がやや丸みを

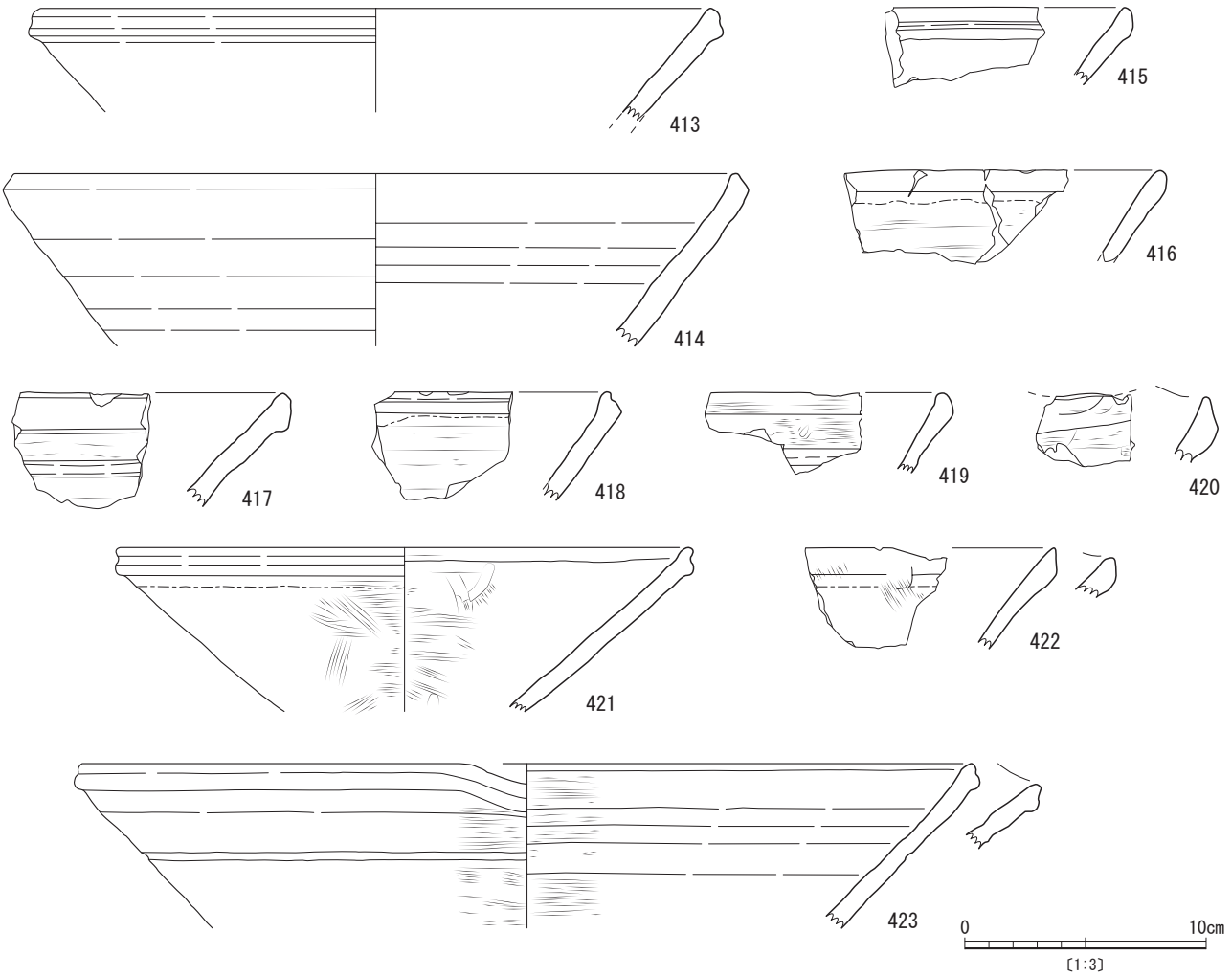



第 93 図　東播系須恵器（１）

もっている。415は端部がやや下へ広がっているが，その下には浅いくぼみがみられる。417～419の内面もほぼまっすぐ伸びている。417は外面がやや下がっており，口唇部上面は使用による摩耗が目立つ。灰色を呈しているが，口縁部は光沢のある暗オリーブ灰色を呈している。418は内面端部近くがややくぼんでいる。三角形に切り取られた口唇部上半には浅いくぼみもみられる。419も内面がややくぼんだ口縁部で，外面は丸みをおびている。420・422は注口部分で，ともに内面がやや直行気味で口唇部も三角形に切り落している。420の口縁部外面は光沢のある青黒色を呈している。421・423は口唇部に凹線状のややくぼんだ部分がある。421は復元口径24cmとやや小型で，内面に縦・横あるいは斜方向のハケ目がみられる。423は口径37.6cmで，注口がみられる。口縁端は内外に張り出している。胎土に含まれる石は細かいが，５㎜大のものもある。

424～431は内側がやや凹むタイプである。424は口径26.2cm，底径11.6cm，高さ8.2cmで，丸みをおびた底部を呈している。口縁内面はくぼんでおり，外面は三角形に切り落とし，やや幅広となっている。底は糸切り離しのあとナデており，貼り付け痕もみられる。内外ともハケ目，ヘラナデで仕上げており，外面に１条の凹線がみえる。内面の下半部は磨り減っており使用痕が顕著に観察される。白色石・黒色石・石英・灰色石・茶色石などの細石が含まれるが，６㎜大の小石もみられる。425は口径が35.4cmあり，内外とも凹凸が目立つ作りである。口縁端はやや膨らんで口唇部には浅いくぼみがみられる。内面の胴下半部には使用痕がみられる。426は，口径33.6cmで口縁端が内外にやや膨らむ。胎土には５㎜大の小石も含まれている。427はやや立ち気味の器形をしており，口縁外面は光沢のある暗灰色を呈している。429・430は口縁端がやや水平気味となる器形を呈し，内外面とも凹凸が目立つ。431は注口があるもので，口唇部には凹線が巡る。

432～442は内面に幅広いくぼみがみられ，外面も上下に張り出して，幅広い直線あるいは玉縁状となるものである。432は，口径25cm，底径9.6cm，高さ8.6cmで注口がある。器形はやや丸みをおびて，口縁端内面に段を有



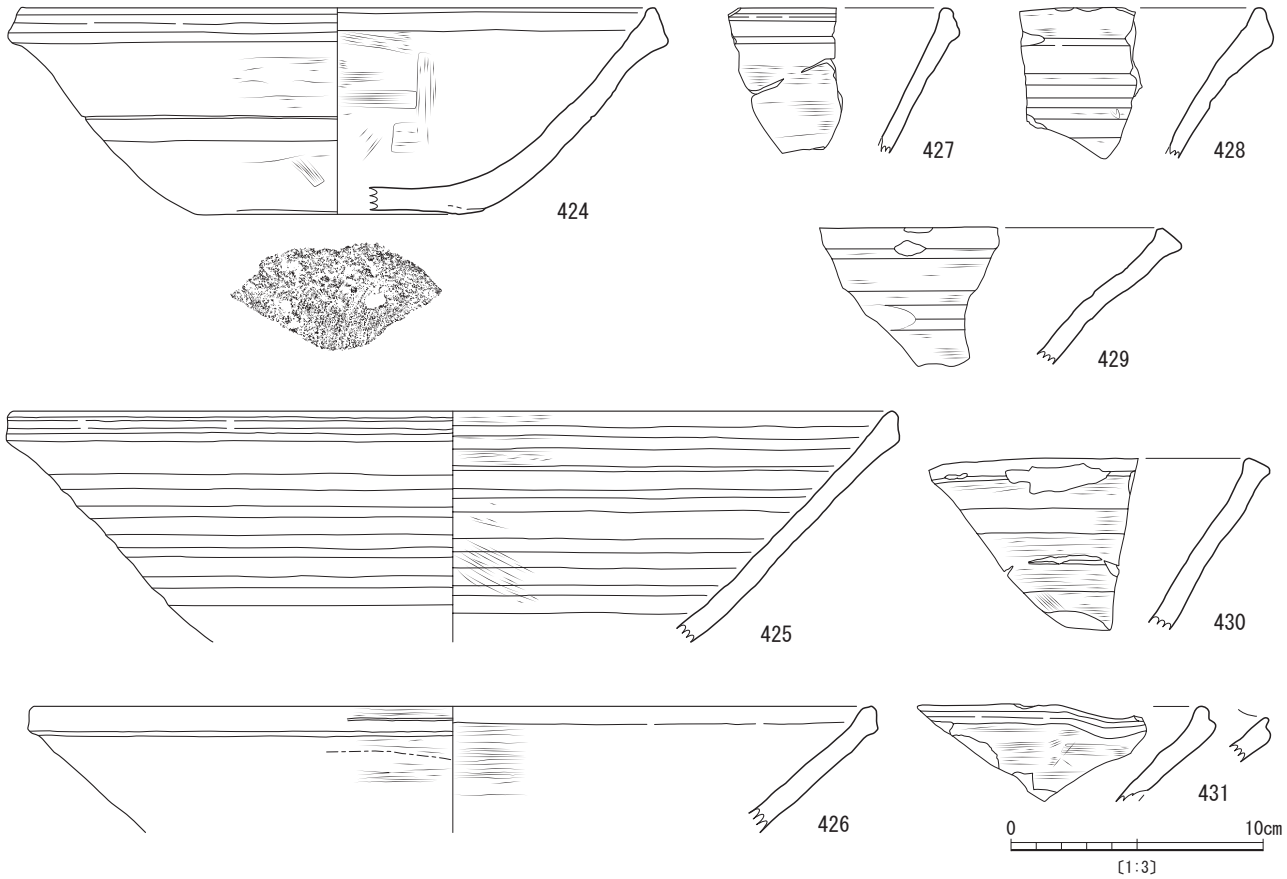

第94図　東播系須恵器（２）

し，外面は玉縁状を呈している。底から比較的まっすぐに開いて立ち上がる。内外ともヘラナデで仕上げているが，外面の上半部は輪積み痕が４段ほど残っている。下半部から底にかけては丁寧なナデ調整がされる。内面には使用痕が目立ち，滑らかである。他の破片と異なり浅黄橙色を呈しており，軟質である。433～436 は，内面がくぼむ玉縁状の口縁である。433 の上面は摩耗しており，口縁外面の釉が銀色状の光沢を呈する。胎土に６㎜大の小石がある。434・435 は，口縁端がやや膨らみ口縁上面がやや水平となる酷似する器形をしている。434 はやや焼きが悪く灰黄色を呈しているが，口縁部は黄灰色となる。435 は口唇部に浅いくぼみがみられる。436 は上面が欠けており，灰色を呈しているが，口縁部外面は光沢のあるオリーブ黒となる。薄い作りである。437 は口径 22.6㎝で，口縁上面が擦り切れている。438・439 はともに口縁内面端の欠損が目立つ。440 は重ね焼きの痕跡が口縁外面下部に顕著に残っており，もっとも上に置かれていたものと考えられる。441 は上面が使用によって非常に摩耗している。442 は，上面の欠損が目立ち灰色を呈しているが，口縁部は光沢のある黒褐色で淡黄色の胡麻が付着している。

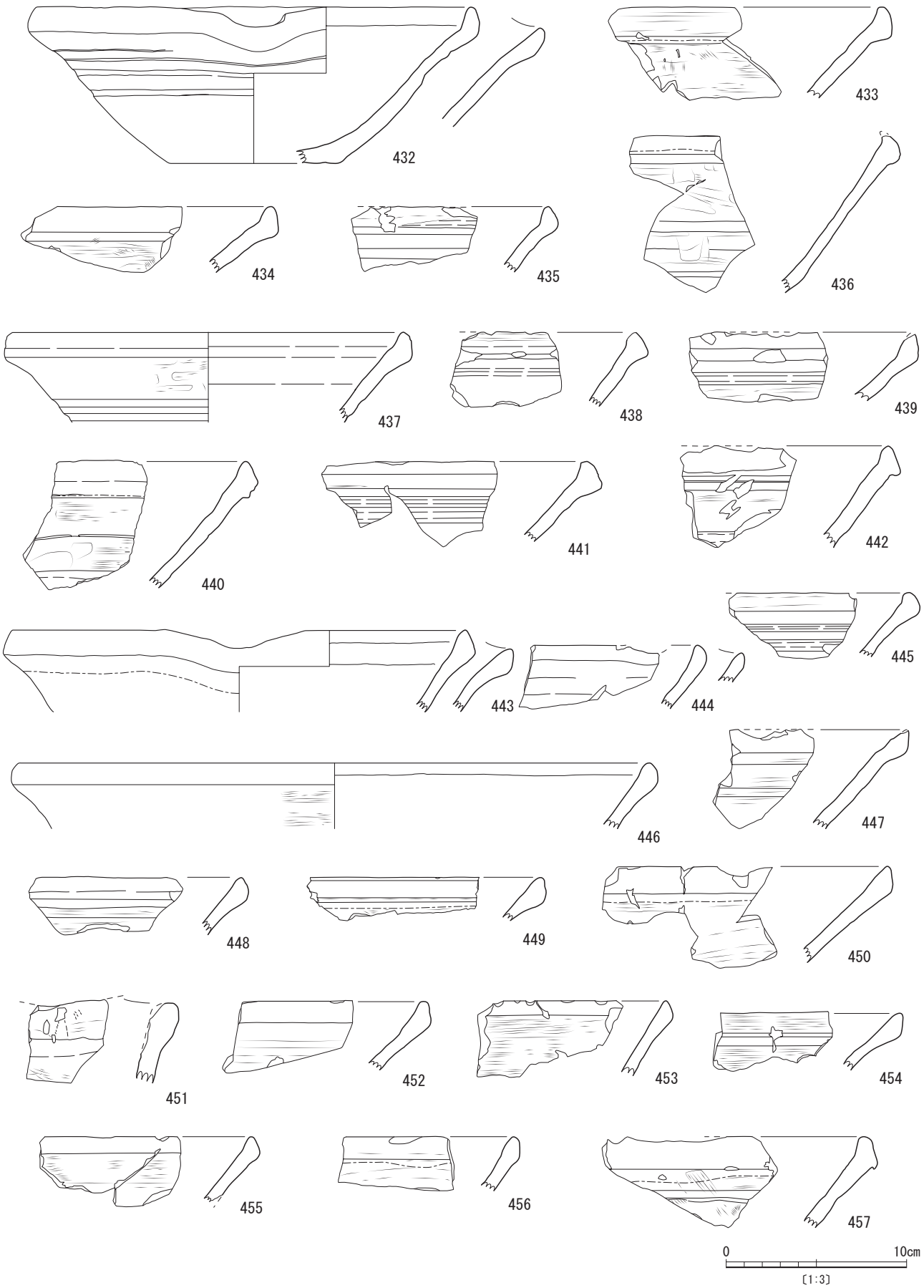
443～457 は，口縁端部が丸みを帯びやや軟質に焼けているものである。443 は口径 25㎝で，注口がある。外面は直線的に開くが，口縁部で外へ膨らみ分厚い。444 は薄い作りで，口縁部があまり膨らまず注口をつくる。内面にコゲ痕らしきものがある。445 はやや玉縁状となる。446 も玉縁状口縁となるもので，口径 36㎝である。胎土に 6.5㎜大の小礫がある。447 は上面が薄く欠損が目立つ。内面にスス状のものが付着している。448～450 は内面のくぼみが浅い。449 の口縁外面は光沢ある青黒色を呈し，胎土には４～５㎜大の礫を含む。450 も口縁外面がくすんだ青黒色をし，上面は使用により摩滅している。451 は瓦質を呈した注口部分で，内外とも欠損が多く，特に内側は目立つ。452～456 も内面のくぼみは浅く，外面は丸みをおびている。453・455 の口縁上面は欠損や摩滅が目立つ。456 は口縁部の外への膨らみが目立たない。457 は口縁上面の欠損が目立ち，下面は小さく突出している。胎土に 6㎜大の小礫を含んでいる。

458～472 は底部である。糸切り離しで，器形は底からまっすぐ外へ開いて伸びるものと，丸みをもって伸びるもの，底に粘土を貼りつけて分厚くしているものとがある。

458～460 は安定した平底から直線的に外へ開く。底径は 458 が 10㎝，459 が 9.3㎝，460 は 12.6㎝である。458 は，焼成は良好だが内面と底部の広い範囲に剥脱がみられる。胎土に黒っぽい粘土が含まれている。459・




第 95 図　東播系須恵器（３）



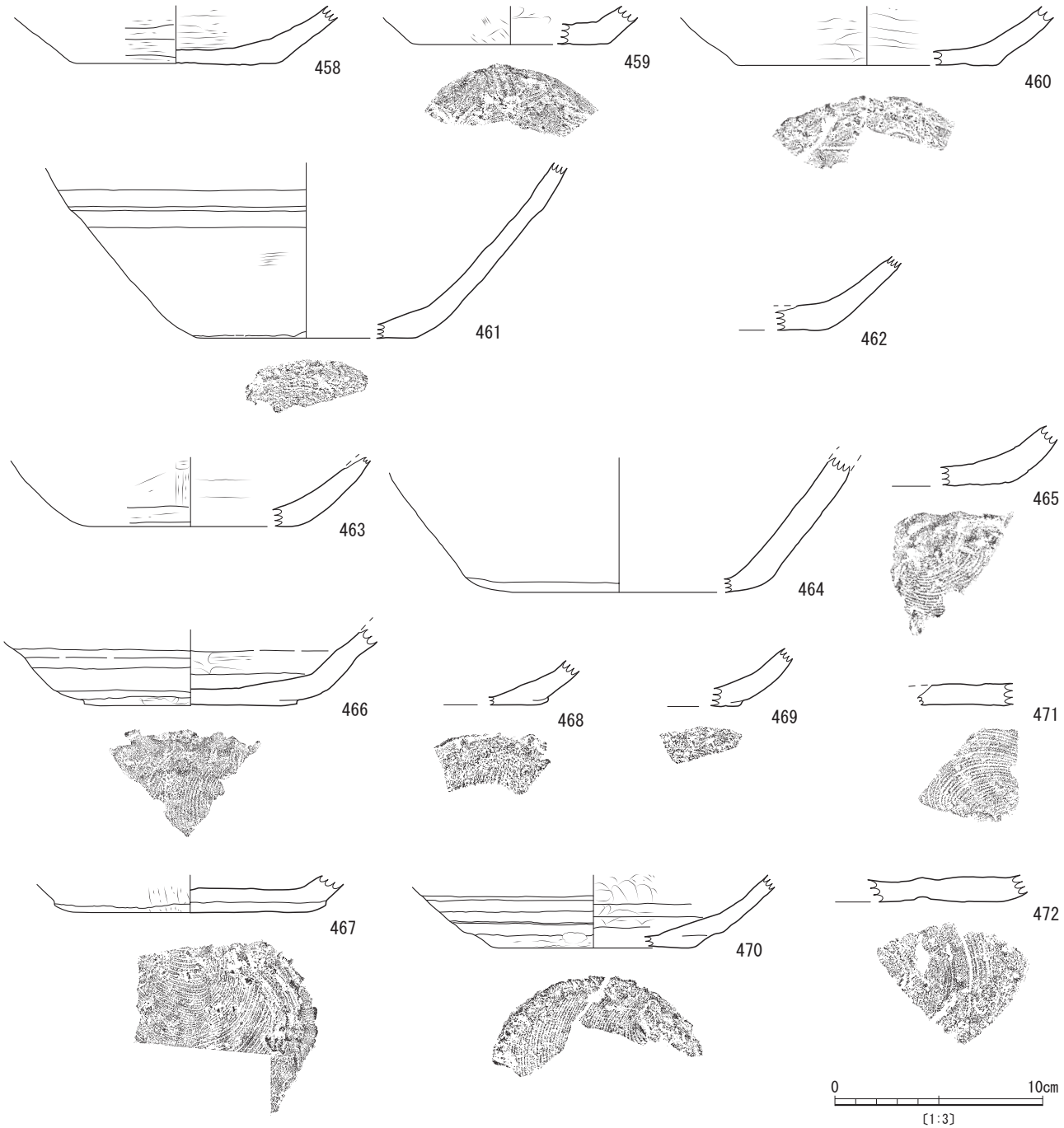

第 96 図　東播系須恵器（４）

460 とも糸切り離しのあと，ヘラでナデている。

461～465 は丸みをおびた底部である。461 は底径 10.6cmで，底は繊維状工具でナデている。463 は底径 10.2cmで，内面には使用痕がみられる。464 は立ち上がりが不明なため底径がはっきりしないが，14cmほどと考えられる。内面・底とも使用による摩耗がみられ，軟質のためか外面も摩耗している。465 も軟質で内面は使用痕が目立つが，糸切り離し痕は良く残っている。

466～470 は，底に粘土を貼り付けて分厚くしているもので，底からの立ち上がり部分は丸みをおびて段がみられる。466 は底径 10.2cmで，内面と内底面は使用による摩耗が著しい。467 は底径 13.0cm，厚さ 1.2cmである。468・469 は外面の貼付部がくぼんでおり，468 の内面は使用による摩耗痕がみられ，底には砂目跡がある。470 は小形で底径が 9.8cmしかなく，底の端部が摩耗している。底近くの外面には浅い凹線がみられ，胎土は白色石・灰色石・輝石などで構成され，8㎜大の礫も混じる。

471・472 は底面で，472 の内面は使用痕がみられ，外底には切り離し後に付いたと考えられる棒状圧痕がみられる。




第 97 図　東播系須恵器（５）

甕（473～475）：473 は口径 21.6㎝の口縁部片である。頸部から外反して口縁部へ至り，端部は矩形を呈している。内面の端近くの上面は浅くくぼんでいる。外面には凹線もある。瓦質に焼けており内面は剥脱が目立つ。青黒色を呈しているが，内面の一部は灰白色である。474 は頸部から肩部へかけての，475 は肩部の破片である。外面には横あるいは斜めの繊細な条痕タタキが施され，内面の当て具痕は同心円で，そのあと横方向ハケ目でナデ消されている。頸部外面はヘラナデで調整されている。焼成は良いが内面に剥脱が目立つ。

**カムィヤキ（第 98 図 476～480）**

８片出土している。いずれも壺の破片で，外面は長方形タタキ，内面は正格子当て具痕があり，そのあとヘラで丁寧にナデている。特に内面の当て具痕は残りが悪い。底は上げ底となる安定した平底で，直径が 13㎝ほどである。底は丁寧にナデている。色調は灰色で，内面は暗赤褐色を呈している。白石・輝石・茶石などの細かい礫を含んだ胎土で，焼成は良い。

**国内産陶器の分布状況（第 99 図）**

東播系須恵器はＦ～Ｇ－ 41～43 区の東向き斜面，Ｉ～Ｋ－ 36～38 区の東南向き斜面，Ｄ～Ｋ－ 29～32 区周辺の谷部，Ｅ・Ｆ－ 26・27 区の北西向き斜面，Ｄ～Ｈ－ 20～22 区周辺の谷部あたりで出土しているが，Ｄ～Ｋ－ 29～32 区周辺で特に多数出土している。

備前焼は広い範囲で出土しており，集中場所はない。

常滑焼も広い範囲で出土しているが，29 区以西で多く出土しており，30 区以東では少ない。

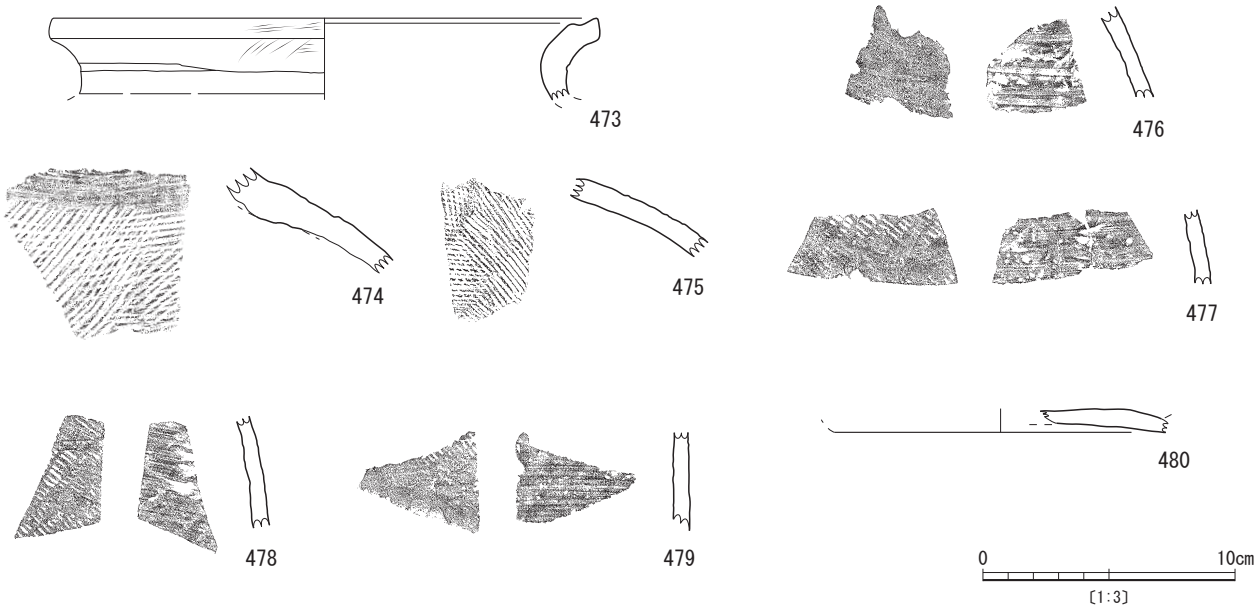
**備前焼（第 100 図 481～498）**

破片が 59 点出土しており，器種には擂鉢・壺・甕がある。多くは擂鉢で 51 点，他に壺４点，甕４点がある。祭祀遺構２号で出土した完形品（第 49 図 100）もあり，溝状遺構７号でも多くの破片が出土している（第 58 図 139・141～146）。

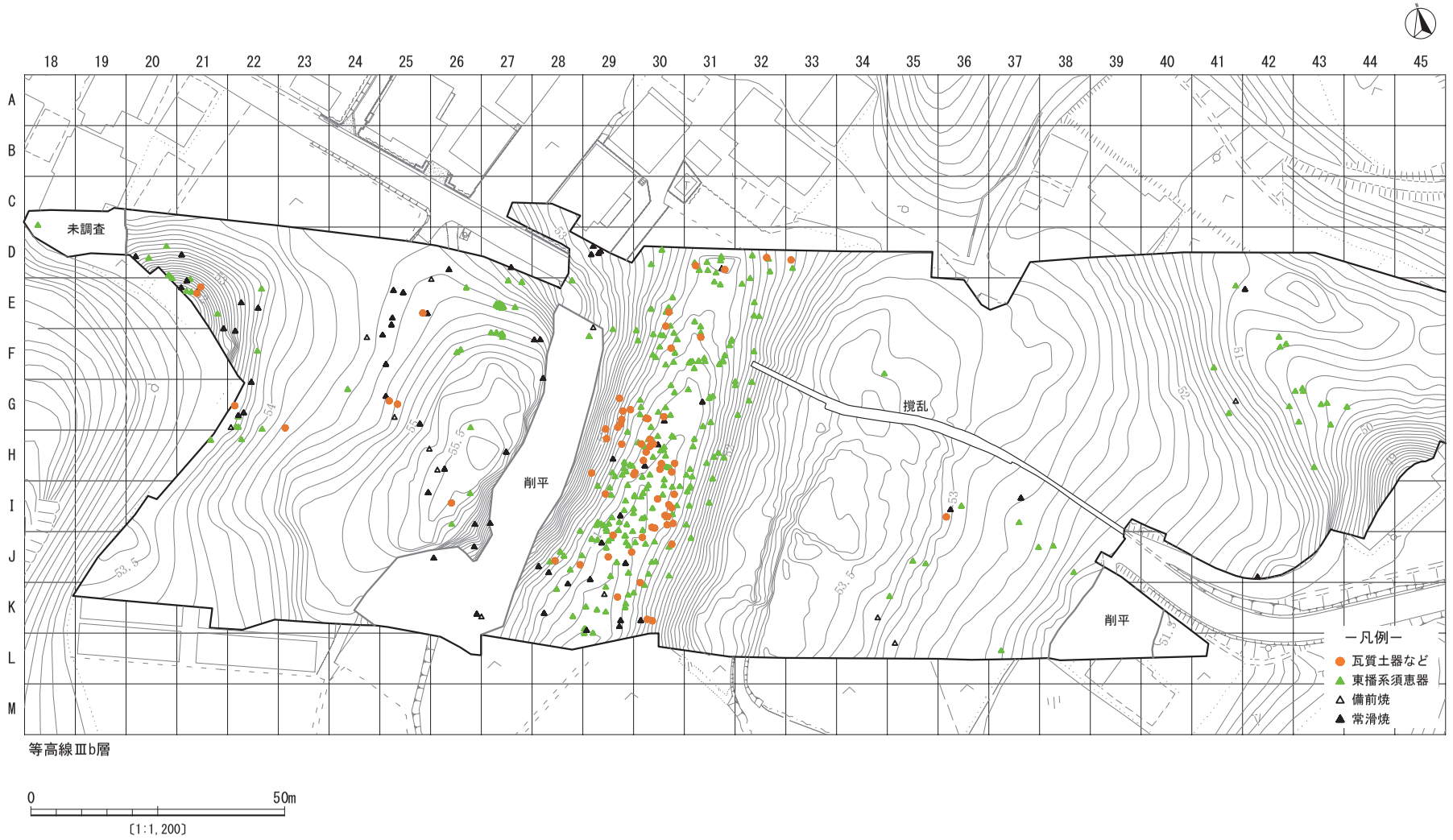
擂鉢（481～493）は口縁形態から１類～５類に分けることができる。

**１類**（481・482）：胴部から口縁部へまっすぐ伸び，口縁端が下部へわずかに伸びる。481 は内面に５条単位のかき目があり，内外ともヘラ横ナデ調整である。外面が赤褐色，内面が赤灰色を呈し，内面には胡麻が付着している。482 は端部まで伸びる８条単位のかき目があり，外面に浅いくぼみがある。胎土は鉄分を有し白色石や茶色石などの細かい石を含む土で，暗青灰色を呈し，内外に胡麻が付着している。

**２類**（483～486）：１類に比べやや外へ広がり，内側がやや内反する。483 は８条以上の単位の細いかき目がある。褐灰色を呈しているが，口縁部はやや黒みが増す。484 は赤褐色を呈しており，胎土には白色石・黄白色石・石英など細かい石を含んでいる。485 は注口部分で，６条単位のかき目がある。灰赤色を呈し，口縁部に淡黄色の胡麻が付着している。胎土は白色石や茶色石などの細かい石を含んでいるが，１㎝大のものも入っている。486 は口縁部近くの破片で，９条以上ある細いかき目は 483 とよく似ている。




第 98 図　東播系須恵器（６）・カムィヤキ



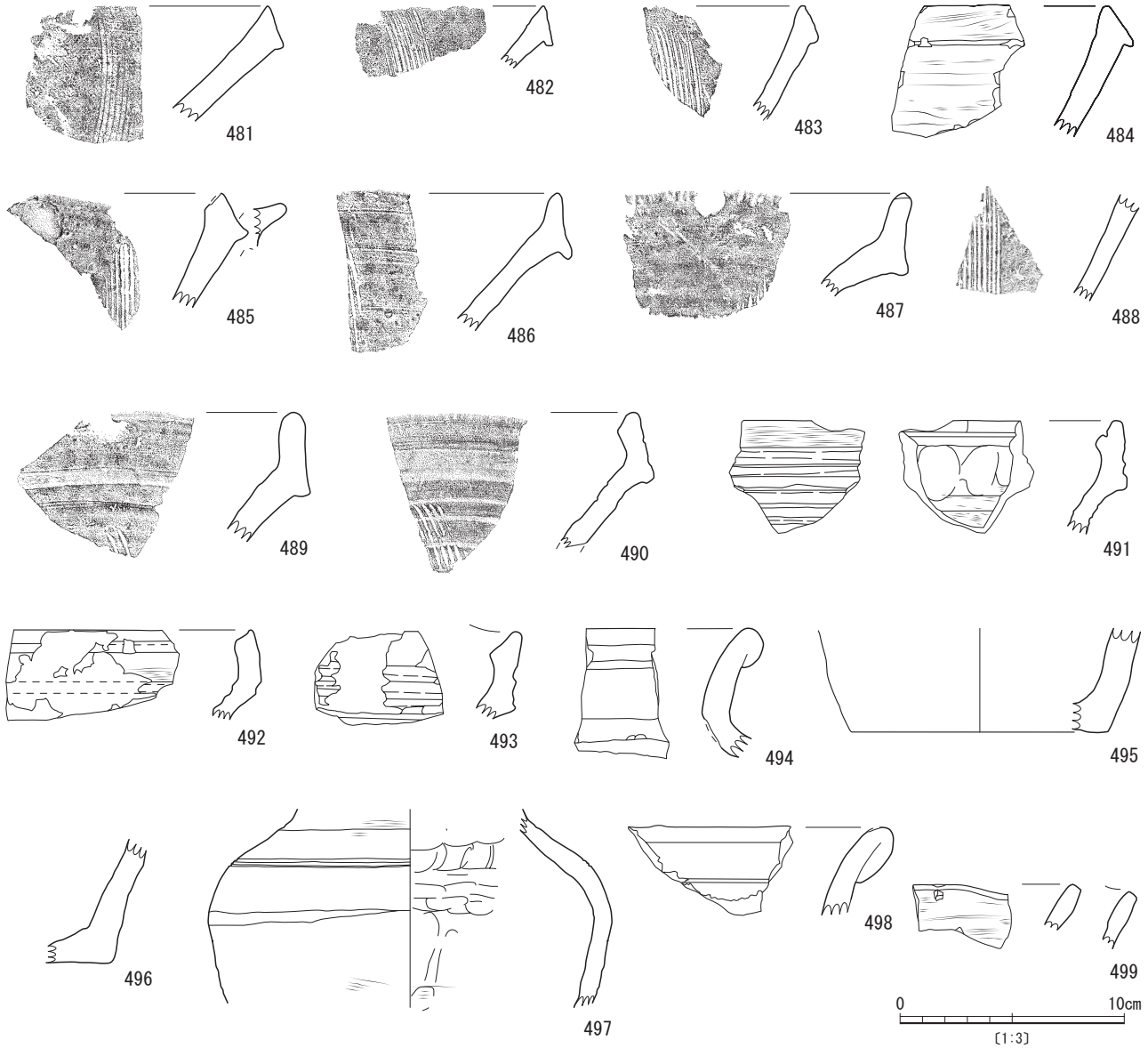

第 99 図　国内産陶器分布図

**3類**（487～489）：口縁外面がややくぼんでおり，端部は上下に広がっている。頂部は丸みをおびている。487 はなかでも下への広がりが大きい。また，頂部に浅いヘラ刻みが施される。胎土中には 1.4cmもある大きな礫が含まれている。489 の内面は横方向に凸凹がある。橙色を呈しているが，外面の口縁は灰赤色を呈し，胡麻が付着している。

**4類**（490・491）：口縁端部が上下に広がっているが，外面にはくぼみがある。490 は口縁頂部が内側へ傾いており，口縁外面には２条の浅いくぼみがある。胴部内面には凹線状のへこみがあり，かき目は６条ある。使用痕跡がみられ，滑らかである。外面にはくぼみがみられる。灰赤色を呈しているが，口縁部外面は褐灰色を呈し，胡麻が付着している。491 は，口縁頂部に１条の沈線，口縁外面に２条の凹線がある。また胴部外面に２条の沈線，内面にはくぼみがある。

**5類**（492・493）：口縁部が逆Ｌ字状に屈曲し，外面には凹線がある。頂部は内傾する。ともに外面の欠損が顕著で，492 は内面の欠損も目立つ。492 は内面に２条，外面に１条の凹線があり，外面には浅いくぼみも２条ある。493 は注口部分で，外側に３条の凹線があり，内側には胡麻が付着している。

壺（494～497）は玉縁口縁で平底となる。494 は口縁部から肩部の破片で，口縁部は外へ折り曲げて断面が正円形に近い形状となる。頸部は外傾し，肩は外へ膨らんでおり，胡麻が付着している。497 は肩部から胴部の破片で，肩部に３条の浅い沈線がある。破片上端には浅い段もある。最大径 18.0cm。内外とも横方向のヘラナデで仕上げ，外面は暗灰色・灰褐色，内面は褐灰色を呈し，上部には浅黄色の胡麻が付着している。495・496 は安定




第 100 図　備前焼

した平底である。495 は底径 11.5cm，白色石・灰色石・石英など細石を含む胎土だが５㎜大の石粒も含まれている。496 は，外面は縦方向，内面は横方向のヘラナデである。外面と底には胡麻が付着している。

甕（498）は口縁部片で，外へ折り曲げて幅の広い玉縁状を呈している。内面はにぶい橙色・赤灰色を，外面は暗赤褐色を呈しているが，口縁部外面には緑がかった自然灰釉がかかっている。

**産地不明の陶器（第 100 図 499）**

499 は端部が矩形となる鉢の口縁部破片で，注ぎ口がある。灰色を呈し，口唇部には灰釉がかかっている。

東播系須恵器と類似しているが，検討の余地を含むため産地不明とした。

**常滑焼（第 101 図 500～510）**

112 点出土している。器種は壺と甕で，それぞれ３点と 109 点である。

壺（500～502）は肩が張り，安定した平底である。500・501 は同一個体と考えられる。横方向のヘラナデで仕上げているが，内面には布目のある当て具痕が残っている。外面には７条の櫛描き波状文と６条から７条の櫛描き横線文がみられる。にぶい赤褐色を呈し，外には胡麻が付着している。502 は直径 7.6cmの平底で，底はやや凹凸が目立つ。内外とも横方向のヘラナデで仕上げ，内面には浅いくぼみがある。灰色を呈しているが，内面には淡黄色の自然灰釉が付着している。

甕（503～509）は口縁がわずかに上下に張り出し，底径はやや小さい。503 は肩から内傾して立ちあがり，端部は丸みをおび，わずかに上へ伸びる。にぶい褐色，あるいは暗赤褐色を呈しているが，内外とも灰オリーブ色の自然灰釉が厚く付着している。器面の空気が膨張し，気泡がみられる。504 の口縁端は下部へわずかに伸びている。灰色を呈しているが，内外とも灰オリーブ色の自然灰釉が付着している。505 は焼きぶくれのみられる肩部で，褐灰色・赤褐色を呈しているが，外面上半は暗オリーブ色，下半は赤色の厚い自然灰釉が付着している。胎土には鉄分が含まれている。506 は胴の上半から下半への屈曲部で，やや薄手の作りである。内面は褐灰色，外面は暗赤色を呈し，にぶい黄色の自然釉がかかっている。

507～510 は底部である。507 は底径 23.0cmで，他に比べて垂直に近い立ち上がりとなっている。胎土には白色石・灰色石・茶色石などを含み，７㎜大の石もある。内底には灰白色の胡麻が付着している。508 は底に繊維状の圧痕があるもので，灰黄褐色を呈しているが，内面には明オリーブ灰色の自然灰釉がかかっている。胎土に白色石・灰色石・石英などを含んでいるが，1.3cm大の小石もある。509・510 は安定した平底から外へ広がる器形である。底径は 509 が 16.0cm，510 が 16.0cmである。510 はやや上げ底となっており，繊維痕もみられる。底が外へ張り出した部分もある。器形は，509 はまっすぐ外へ伸びるが，510 はやや丸みをおびる。なお，510 の破片の一部は遺物集中１号から出土している。周辺からの流れ込みの可能性が強い。

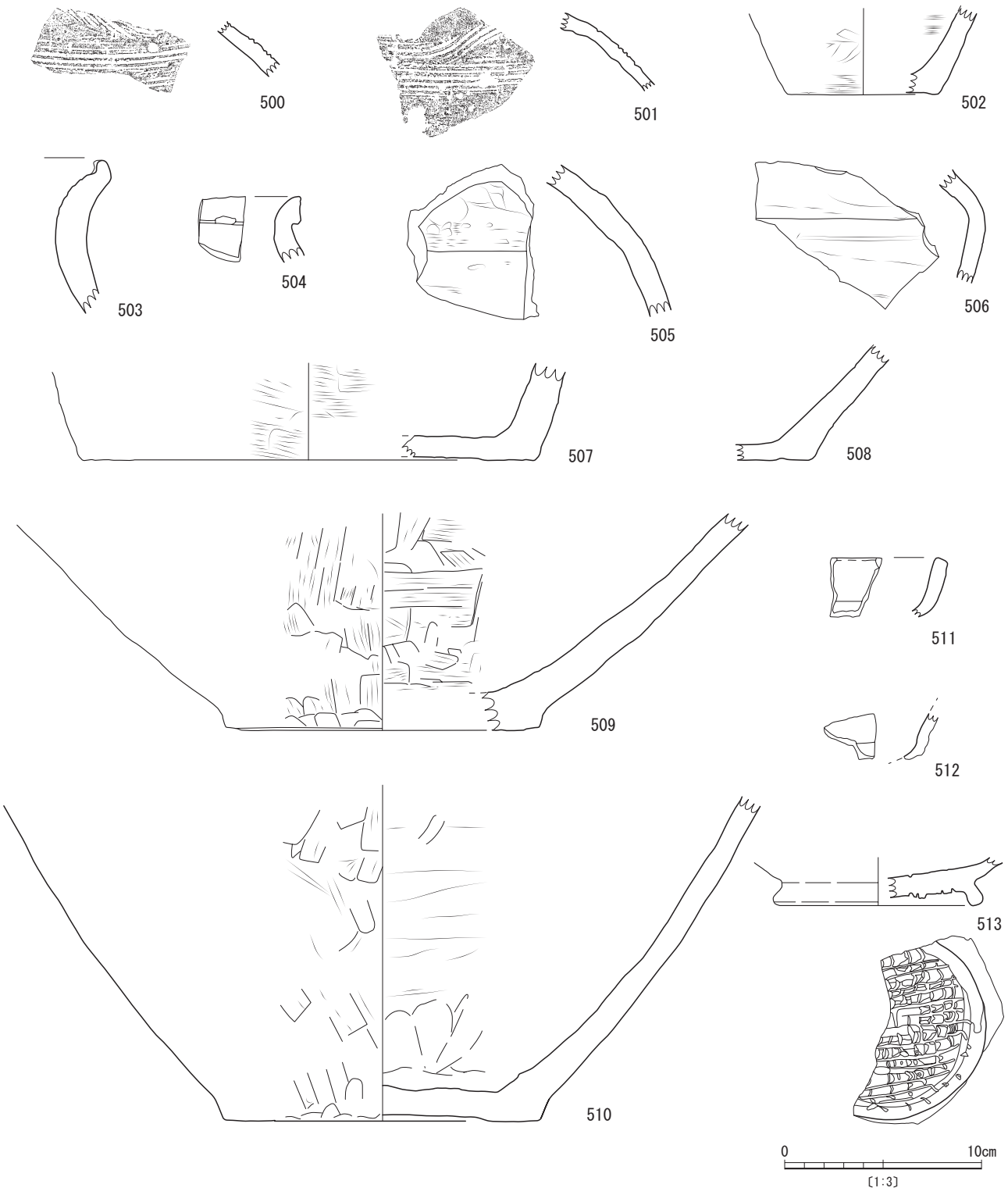
**灰釉陶器（第 101 図 511～513）**

破片が３点出土している。

511 と 512 は卸皿の破片である。511 は口縁端部が丸みをおび，内弯する破片である。底部から丸みをもって，やや外へ開きながら立ち上がる。厚さ８㎜ほどと分厚く，底が欠けて卸目など確認できないが，高さは３cmを超える。ヘラで横方向にナデている。内外とも薄く釉がかかり灰白色を呈している。白色石などの細かい石を含んだ細砂質土を用いて，焼成は良い。512 も同様の器形だが外面が欠損している。オリーブ灰色を呈している。この２点はだいぶ離れた地点で出土しているが，形状・胎土等から同一個体の可能性もある。

513 は高台直径が 10.6cmある大型の台付皿で，外底部に卸目のある底卸目皿である。口縁部が欠けているが，高台はやや外へ踏んばっており，端部が丸みをおびている。内外とも丁寧なヘラナデで，内底中央部に丸く３条ほどの細沈線がみられる。地色は褐灰色を呈し，その上に光沢のあるオリーブ灰色の釉がかかっている。内底には４か所に目跡がみられる。外底は深いヘラ描きの卸目が正格子状に刻まれ，露胎となる。線は高台近くまでいっぱい引かれているが，使用した形跡は余りみられない。細かい白色石などを含んだ良質土を用いているが，中には７～９㎜大の白色小石もある。焼成は良好である。

これらはいずれも古瀬戸で，511・512 が 13 世紀後半，513 が 14 世紀初頭頃のものと考えられる。




第 101 図　常滑焼・灰釉陶器

### (6) 磁器

磁器はいずれも中国大陸産のもので，青磁・白磁・青白磁・染付の４種がある。青磁は生産地によって同安窯系・龍泉窯系・磁竈窯系に分かれるが，もっとも多いのは龍泉窯系で，磁竈窯系のものは１点しかない。器種には碗・皿・大皿・壺・盤がある。12 世紀頃から 16 世紀のものである。

白磁は口縁部の形状によって，玉縁状・端反り・外反などに分かれる。染付には碗と皿があり，口縁部や底部の形状によって分類ができる。

**同安窯系青磁**

釉色がやや黄色味の強い福建省同安窯系青磁の器種は碗と皿・大皿がある。ともに外面体部下半には施釉していない。碗が 30 点・皿が 26 点・大皿が１点出土している。

**①碗（第 102 図 514～527）**

口縁への立ち上がりが内弯気味になるもの（１類）と，わずかに外反させるもの（２類）とに大別できるが，これらは外面・内面が無文のものと有文のものとにより，小分類できる。

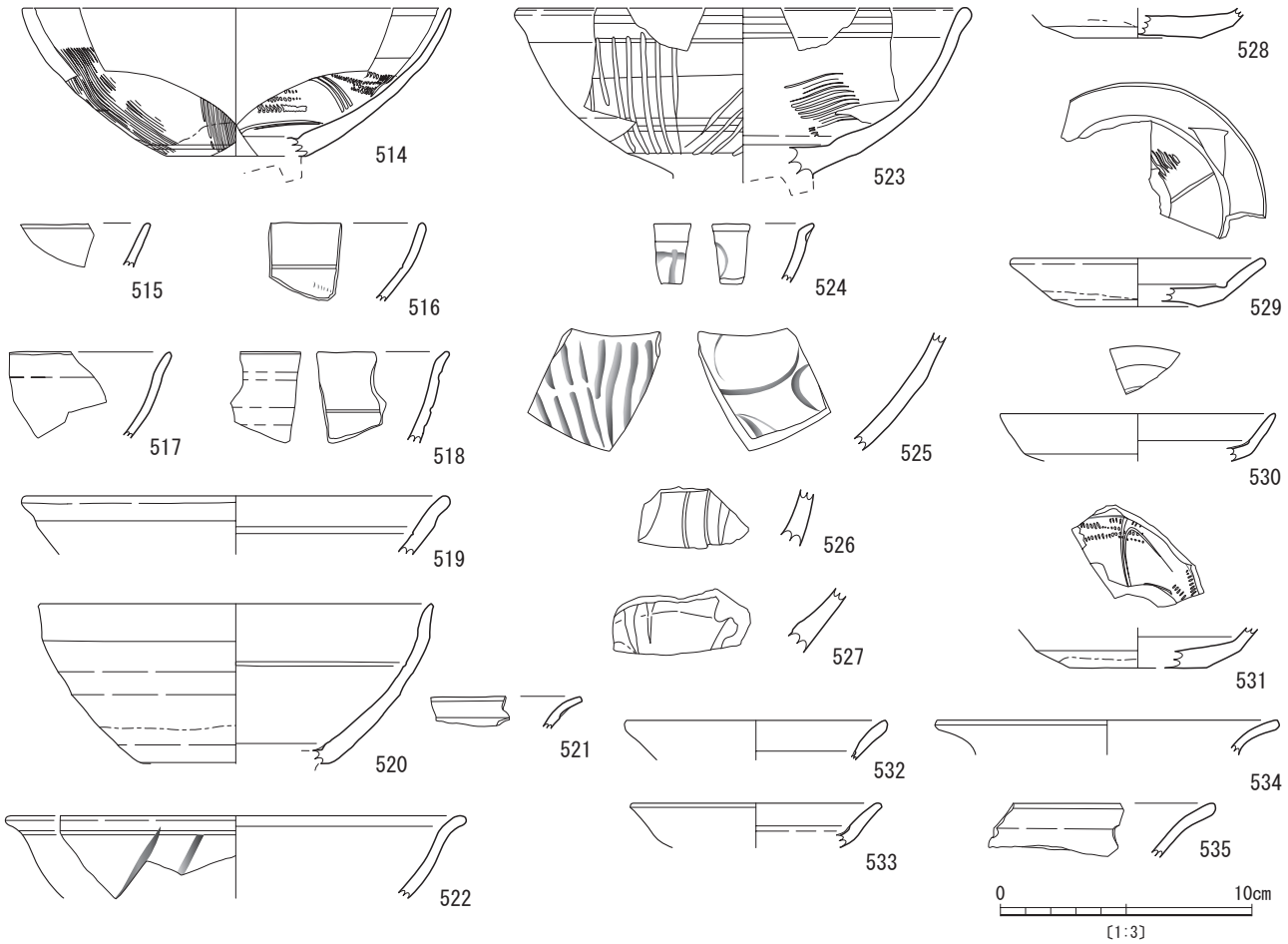
**１類（514～516）**

口縁部がやや内弯するものである。514 は高台を欠いているが，６分の１ほどの破片である。口径 17cm，底径 5.5cmほどで，丸みをもった器形をしている。口縁に比べて底部近くは太くなり，内底見込みと体部との境には段を有している。内外面とも細かい櫛目を有するもので，外面は縦方向の，内面は弧状の線描きと横向きの押圧文を施している。515 は内外面とも無文で，直に近く外傾している。516 は内面に横方向の細沈線と櫛描き文とがある。

**２類（517～525）**

口縁部がわずかに外反するものである。内外とも無文のもの（517・518），内面のみ有文のもの（519・520），外面のみ有文のもの（521・522），内外とも有文のもの（523～525）とがある。

519・520 は内面に浅い沈線のあるもので，519 は２条，520 は１条である。520 は口径が 15.6cmあり，内底見込みと体部との境には段がある。519・520 とも釉切れや貫入がある。521・522 は外反度がやや強く，521 は横方向，522 は斜方向の浅い沈線がみられる。523 は口径 18.1cm，底径 5.0cmで，内弯しながら，口縁端近くでわずかに外反する器形である。口縁付近に比べ，底部付近は分厚くなり，内底見込みと体部の境には段がある。外面には縦あるいは斜方向の粗い櫛描文が，内面には波状の櫛描文がある。524・525 は接合できないが，同一個体と




第 102 図　青磁（１）

考えられるものである。口縁端付近で強く外反している。外面は縦方向の幅広櫛描文，内面はヘラ状の施文具により花文が描かれている。

526・527は1類か2類か不明だが，底部近くの破片である。526は外面に幅広の櫛描文がある。527は内底見込みと体部との境に段のある破片で，外面に片彫りの縦方向平行線がある。

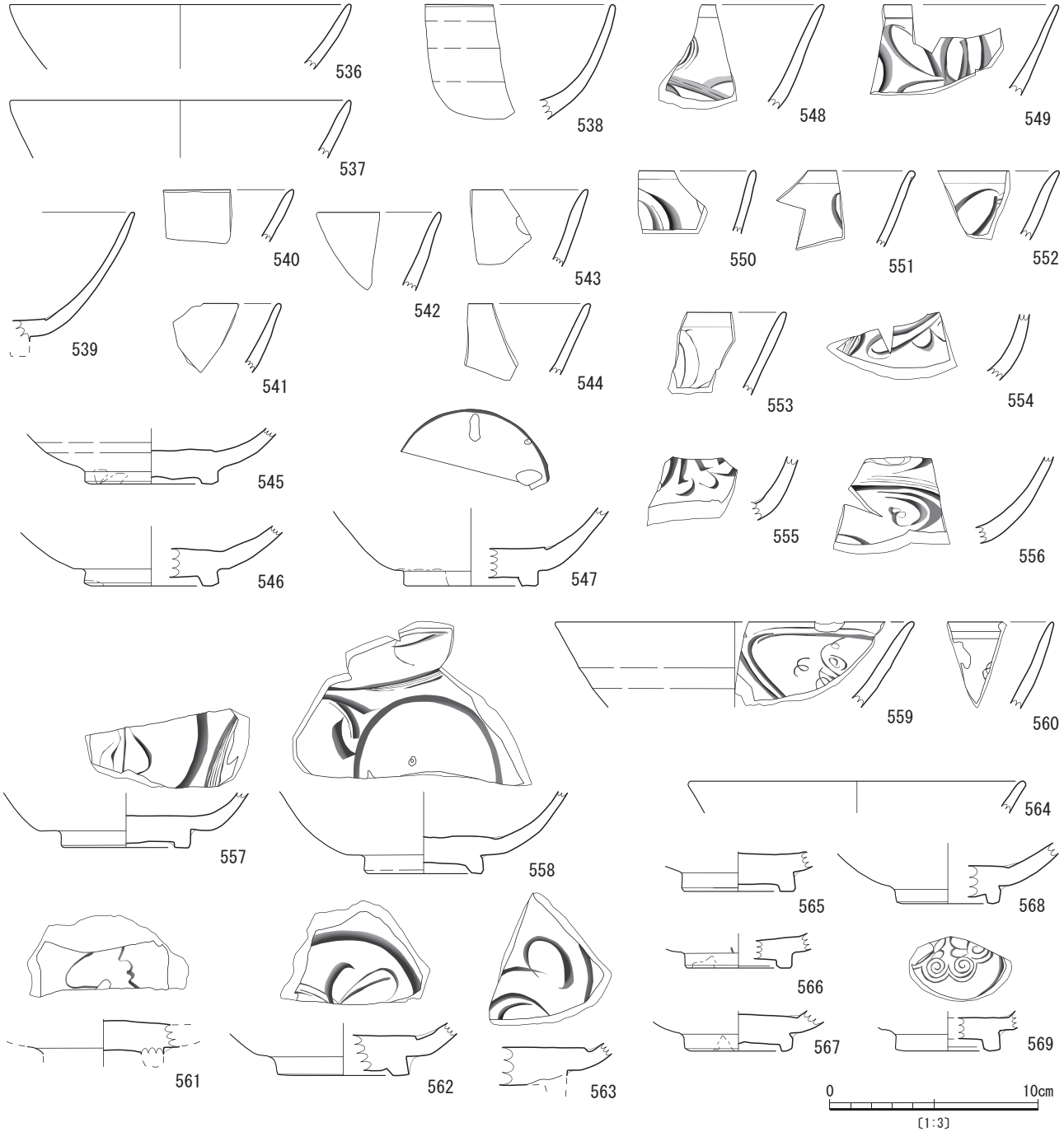
**②皿（第102図528～534）**

いずれも平底で，体部と見込みの境に段を有し，体部中位で屈曲し，外反気味に口縁へ至る器形をしている。内外とも無文のものと，内面に文様を有するものがある。

528は内外とも無文である。ややあげ底になっており，底径5.0cmである。

529～531は内底部に文様を有するものである。529は口径10.2cm，高さ1.9cm，底径4.8cmで，内底に櫛によるジグザグ文と，ヘラによる片彫りがみられる。530は片彫り文がみられる。531は底径5.4cmで，内底部にヘラによる片彫り文と，櫛によるジグザグ文がみられる。

532～534は無文か有文か不明である。532は口径10.4cmで，体部上半がやや分厚くなっている。533は口径10.0cmである。534は外反度の強いもので，口径が13.6cmある。




第103図　青磁（2）

**③大皿（第 102 図 535）**

535 は体部中央から強く外反する特殊な皿である。

**龍泉窯系青磁**

龍泉窯系青磁は形状, 文様の有無, 文様の種類等によって分類されるが，当遺跡では大きく碗を７種類，皿を２種類に分け，他に坏・小碗・盤などがある。碗が 418 点，皿が 48 点，坏が１点，小碗３点，盤１点がある。

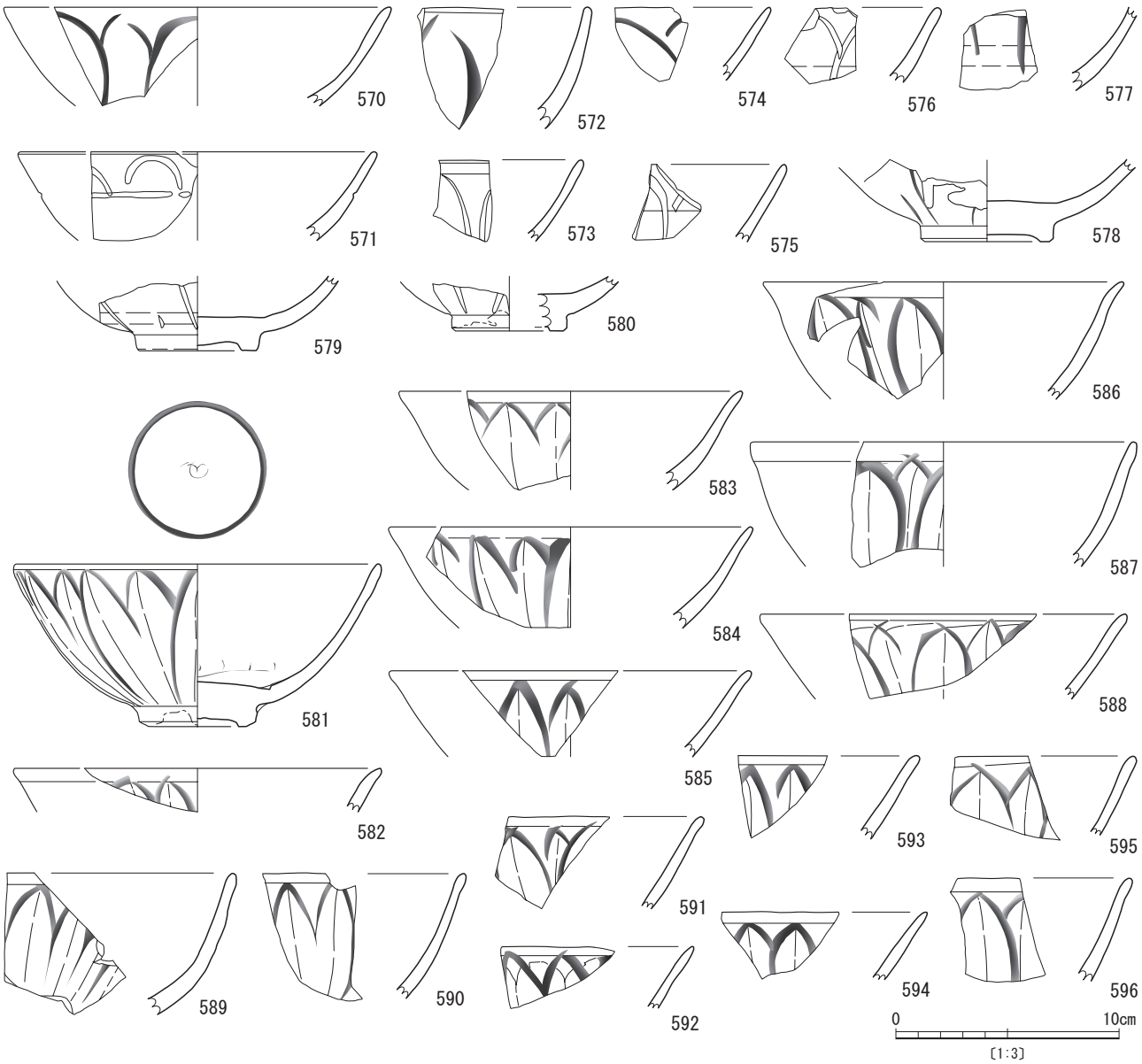
**①碗**

**１類（第 103 図 536～547）**

底から丸みをもって立ち上がり，まっすぐ伸びる器形をし，内外面とも無文のものである。高台は断面が矩形で，畳付部およびその内部は露胎となる。底部の器肉は厚い。34 点出土している。

536・537 はともにまっすぐ伸び，口縁端が細くなっており，明緑灰色を呈しているが，536 の外面口縁部近くはやや青っぽい。口径は 16.2～16.4㎝である。538・539 は丸みをおびた器形をし，538 は釉がやや厚く，外面には削りのため浅いでこぼこがみられる。539 はオリーブ黄色を呈しているが，外面の口縁近くは筋状にオリーブ灰色を呈している。540～544 は外へまっすぐ開いて伸びる口縁部で，厚さが同じものと，541・542 のように端近くがやや細くなるものとがある。灰オリーブ色・黄褐色・緑灰色などの色調を呈しているが，542・544 は外面口縁端近くが青っぽくしている。

545～547 は胴下半から高台部の破片である。体部は丸みをもって立ち上がり，高台は幅広の矩形を呈している。高台径は 6.5㎝ほどである。底から高台部は抉りをもって変化しており，見込みからの立ち上がりも段をもっている。畳付部から底部にかけては釉をかき取っており，545・546 は釉切れが多い。547 は見込みと畳付部




第 104 図　青磁（３）

に目跡がみられ，内外に貫入もある。

**２類（第 103 図 548～569）**

器形等は１類と同じだが，内面に草花文を有するものである。66 点出土している。

548～553 は底からまっすぐ口縁部へ伸びるものである。551 は口縁近くの外面を削っており，552 はゆったりした外反状となる。548 はヘラおよび櫛状のもので花文を描いている。549～553 はヘラの片彫りでハスの花文を描いている。550・552・553 は内外に貫入が目立つ。

554～556 は灰オリーブ色をした体部下半である。554 はヘラの片彫りと櫛描きで蓮花の葉を，555 はヘラの片彫りでキノコ状の文様を描いている。556 もヘラの片彫りと櫛描きで蓮華文を描いている。555・556 は内外に貫入がみられる。

557・558 は体部下半から底部の部分で，高台径は 557 が 6.2cm，558 が 5.8cmである。557 は外底部，558 は高台外面から畳付の一部と外底部が露胎である。557 は内底にかけてヘラの片彫りと櫛状のもので蓮花文が，558 は内底に浅い圏線が引かれ，その外にヘラによる片彫りで蓮花文が描かれる。558 は外面に横方向の棒状釉切れがあり，外底に砂目がある。

559 は口径 17.2cmあるが，２本の沈線によって体部内面を分割し，その中に飛雲文を片彫りしたものである。560 も内面に文様があり，オリーブ灰色を呈しているが，口縁部近くは内外とも明青灰色を呈している。

561～563 は，分厚い底部にどっしりとした矩形の高台の付く破片で内底部と体部下半との境にある圏線，底部と体部境の外面には厚く釉が溜まっている。内底部には蓮花文やキノコ状の文様が片彫りされている。外底のまわりの釉はかき取られている。561・563 は底近くの胎色が青っぽく変色している。

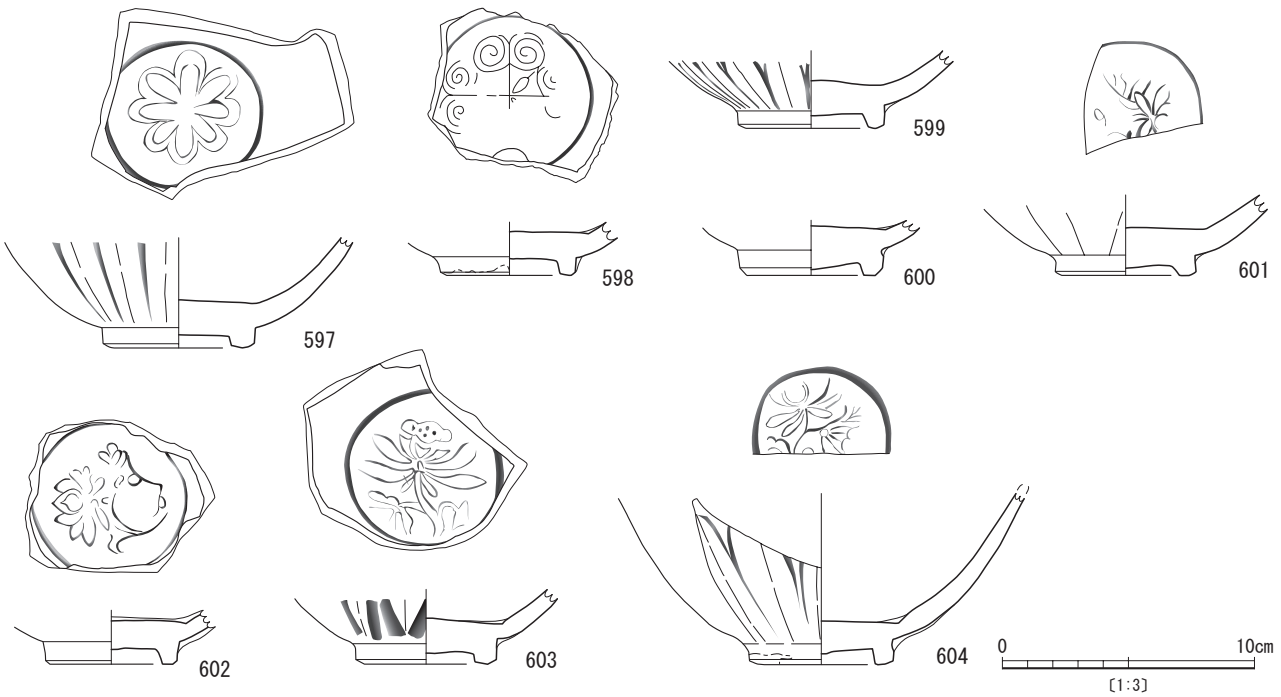
564～569 は１・２類か３類の区別がつきかねるものである。564 は口径が 16.2cmである。565～568 は分厚い底で，低い方形の高台が付いている。畳付から底部にかけては釉がかかっていないが，一部に釉がある。566 の畳付には砂目がみられる。567・568 の見込みには圏線風のくぼみがある。外面と底と高台境にはいずれも厚い釉だまりができている。高台径は 565 が 5.4cm，566～568 が 5.2cmである。568 は小碗の可能性もある。569 は見込みに渦状をした幾何学文のある底部で，高台径が 4.8cmある。畳付から底部にかけては無釉である。

**３類（第 104・105 図 570～604）**

分厚い底部から丸みをおびた体部となり，外へ開いてまっすぐ口縁部へ伸びる碗である。高台は断面方形をし，低いものである。内面は無文だが，外面は蓮弁文を有する。蓮弁文には鎬を有さないものと，有するものとがある。155 点出土しており，前者が 43 点，後者が 112 点である。

570～580 は片彫り蓮弁の文様を描き，弁の中央に鎬を有さないものである。

570～576 は口縁部から胴部であるが，ほぼ直線的に口縁端へ伸びている。口径は 570 が 17.2cm，571 が 16.0cmである。571 は蓮弁・横線の彫りとも浅く，下への伸びも短い。




第 105 図　青磁（４）

577 は胴下部の破片だが，釉切れがみられる。

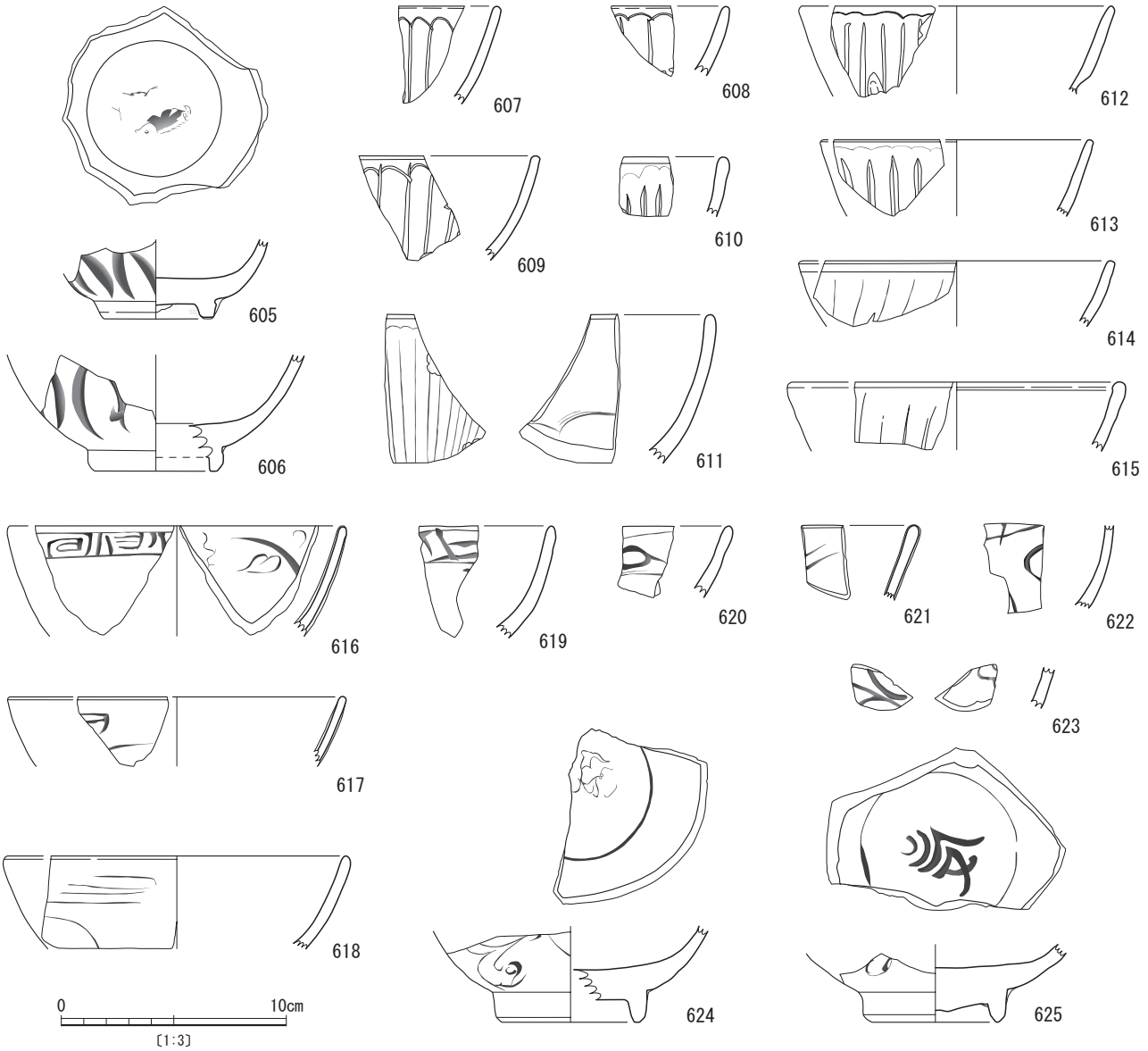
578～580 は胴部下半から高台部分である。高台径は 5.1～5.8㎝で，高台の高さは低い。底部は分厚い。一部に釉はかかっているが，畳付部から外底部にかけては無釉である。579 の外底には砂目跡がある。

581～596 は鎬蓮弁である。581 は口径 16.0㎝，器高 7.3㎝，高台直径 5.0㎝である。分厚い底で，屈曲して丸みをもって口縁部へ立ち上がる。全体的に厚く釉がかかり，畳付部から底にかけてはほとんど露胎である。見込みの圏線内にヘラ描きの幾何学文がある。体部下半の内面に爪形のような文様がある。582～588 の口径は 16～17.2㎝あり，ほぼ似通っている。589～596 も同じような形状・文様をした口縁部である。釉色はオリーブ灰色を主とし，明オリーブ灰・灰オリーブ・暗オリーブなど似ている。

597～604 は３類の体部から高台までの破片で，高台は低い矩形をし，高台端を面取りしている。畳付から底部は無釉であるが，一部に釉が垂れているものもある。

597～600 は見込みに幾何学文のあるものと無文のもので，高台径は 597・599 が６㎝，5.8㎝あるのに対して，598・600 は 5.4㎝，5.7㎝と小さい。597・598 は見込みに圏線に囲まれたスタンプ文があり，597 は八弁の花文が，598 は十字に分けた渦巻文，あるいは反渦巻文がみられる。597 の体部と高台の境には釉切れがあり，598 の畳付には砂目が付着している。597・598 とも貫入がみられる。599・600 の見込みは無文である。599 は釉切れがある。

601～604 は見込みに圏線に囲まれた細い草花文が印刻されたものである。概して釉は厚く，特に 602 は厚い。602 と 603 は底に砂目跡が残っている。



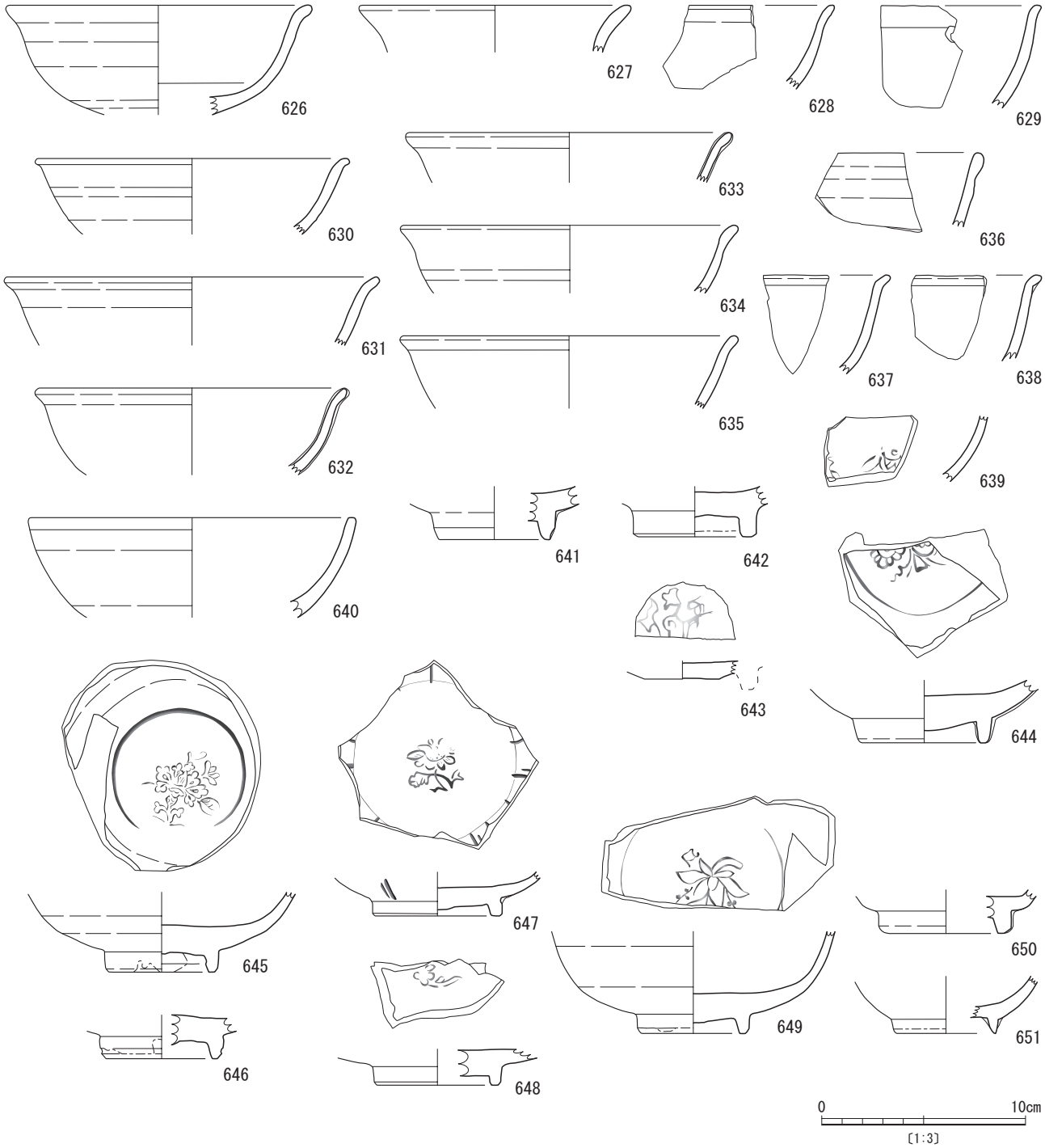

第 106 図　青磁（５）

**４類（第 106 図 605～615）**

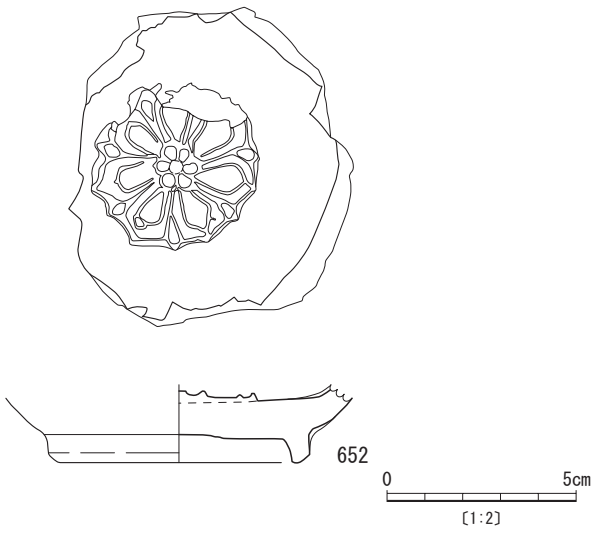
605～615 は内弯気味の器形をしており，線描きの蓮弁文をもつものである。22 点出土している。605・606 は片切彫によって幅の広い蓮弁文を表現するもので，先端部までが短く，体部中央でおわる。605 は高台直径が 4.8cmあり，高台は幅広の逆台形を呈している。高台内の釉はかき取っており，高台と体部外面のつぎ目は厚く釉がかかっている。見込みには魚などの印文がある。606 の高台直径は 5.4cmで，見込みに圏線が巡っている。

607～609 は丸彫りによって蓮弁を表現しているが，607 が細線と剣頭を意識して整然と描いているのに対して，608・609 はいくらかずれている。

610～613 は丸彫り，あるいはヘラ先によって細線と剣頭を描いているが，縦線と波状文を別々に描いている。611 は内面に弧状の櫛描文がある。口径は 612 が 14cm，613 が 12cmほどである。614・615 は縦線だけで蓮弁を表現している。口径は 614 が 14cm，615 が 15cmである。615 は口縁部に釉が厚くかかっている。




第 107 図　青磁（６）




第 108 図　青磁（７）

**５類（第 106 図 616～625）**

616～625 は内弯気味の器形をして外面口縁部付近に雷文帯を巡らすものである。11 点出土している。

616 は口径 15.0㎝で，厚く緑灰色の釉がかかっている。帯は縦横に直線的な線を施す雷文で，内面にも雲文らしき文様などがみられる。617 は口径 15.0㎝である。厚釉で，雷文帯は直線的な縦横である。器形はやや直線的である。618 は口径 15.4㎝である。省略化した雷文帯で，ラマ式蓮弁をもつ。619 は直線的な雷文帯で，丸みをおびた器形をしている。620・621 は直線的な器形をしており，621 は釉が厚くかかっている。内面に深い沈線文がみられる。622 は厚釉の腰部近くの破片で，外部に片彫りのラマ式蓮弁と雷文帯がみられる。623 も内外にヘラの片彫り文がみられ，外面はラマ式蓮弁の可能性がある。624 は高台径 6.1㎝で，高台外面は面取りしている。釉は畳付部を越えて，高台内面まで達しているが，外底部は無文である。地は灰白色を呈しているが，高台内面はにぶい黄橙色を呈している。外面は草花文風の文様が施され，内底部は圏線に囲まれた草花文のスタンプが押されている。625 は高台直径が 5.8㎝で，高台端は三角形状に削りとっている。高台内は一部釉をかき取り，砂目跡もある。高台内は分厚くしており，内底付近が灰白色を呈するのに対し，外底部はにぶい橙色を呈している。外面には片彫りの草花文，内面には圏線とスタンプ文がみられる。

**６類（第 107 図 626～651）**

626～651 は無文の碗である。129 点出土している。

626～639 は丸みをおびた器形であるが，口縁端近くで外反する。626 は口径 15.0㎝で見込み近くに圏線がある。627 はゆるやかに外反する器形で，口径が 13.4㎝である。628・629 は内面・外面に貫入があり，628 の内面には釉切れがみられる。630 は口径 15.4㎝で，口縁端近くで強く外反している。外面には１条の凹線風くぼみがあり，下半では軽い屈曲もある。631 は口径 18.4㎝と大振りで，体部上半に浅い凹線状の段をもつ。632・633 は厚く釉がかかっており，口径は 632 が 15.4㎝，633 が 16.0㎝である。633 は内外に貫入があり，外面には釉切れもある。634・635 も内外に貫入があり，口径はともに 16.6㎝である。634 は外面の２か所に凹線状くぼみがあり，釉切れもみられる。636 は口縁下を強く削り，肥厚口縁風にみえる。637・638 は口縁端近くで強くくびれており，638 のくびれ部は厚く釉がかかっている。639 は体部下半で，内面に印文らしき花文がある。

640 は口縁端まで丸みをおびた器形を呈し，全体的に貫入がみられる。口径は 16.0㎝である。

641～651 は高台付近にあるいは体部下半から高台の破片である。641 は高台端の外面先端を，三角形状に近く削っている。底は露胎だが，それ以外の釉は厚い。高台直径は 5.4㎝である。642 は高台径 6.0㎝で，高台内は釉をかき取り，中央はへそ状に突出している。643 は高台が欠けた底部で，高台内は釉をかき取り，端はするどく削っている。内面には草花文のスタンプがある。644 は高台径 6.2㎝で，厚く釉がかかっている。高台内は蛇の目状に釉をかき取っており，見込みには草花文のスタンプがある。645 は高台径 5.5㎝，高台の高さ 1.0㎝で，畳付部から高台内にかけては施釉していない。見込みには圏線に囲まれた草花文のスタンプがみられる。646 も畳付部から高台内にかけて施釉されていない。高台内は中央を削り残し，凸状になっている。647 は矩形状の高台をもち，高台内は蛇の目状に釉をかき取っている。内面には放射状に１本あるいは２本の沈線が引かれ，外面にも２本１組の縦方向沈線が引かれている。見込みには草花文のスタンプが押されている。648 は高台外面を削って，逆台形状とし，畳付部から高台内には施釉していない。分厚い底部で，見込みに草花文のスタンプがある。649 は丸みをもった器形で，高台外面は削って逆台形としている。畳付部から高台内は釉をかき取っているが，高台中央あたりは書き残して突起がみられる。見込みに草花文のスタンプがある。650 は分厚い底で，高台外面を削って逆台形状としている。651 は薄胎厚釉で，畳付部は細く釉をかき取っている。

**７類（第 108 図 652）**

652 は見込みに蓮花文が浮文として貼付けられたものである。高台径が 9.4㎝で，釉を接着材として使い，蓮花文には釉がかかっていない。蓮花文は中央に１＋６の蓮子があり，そのまわりに７枚の花弁と間弁が表現されている。高台内はヘラで削りとっている。畳付部から底部にかけて無釉である。

**②皿**

皿の器形は口縁が外反するもの（１類）と，内弯する

もの（２類）の２種に大別できる。１類には内外とも無文のものと有文のものとがある。底部には高台が付き，高台は矩形のもの，逆台形のもの，逆三角形のものがある。あわせて 48 点出土しており，１類が 18 点，２類が４点である。

**１類（第 109 図 653～670）**

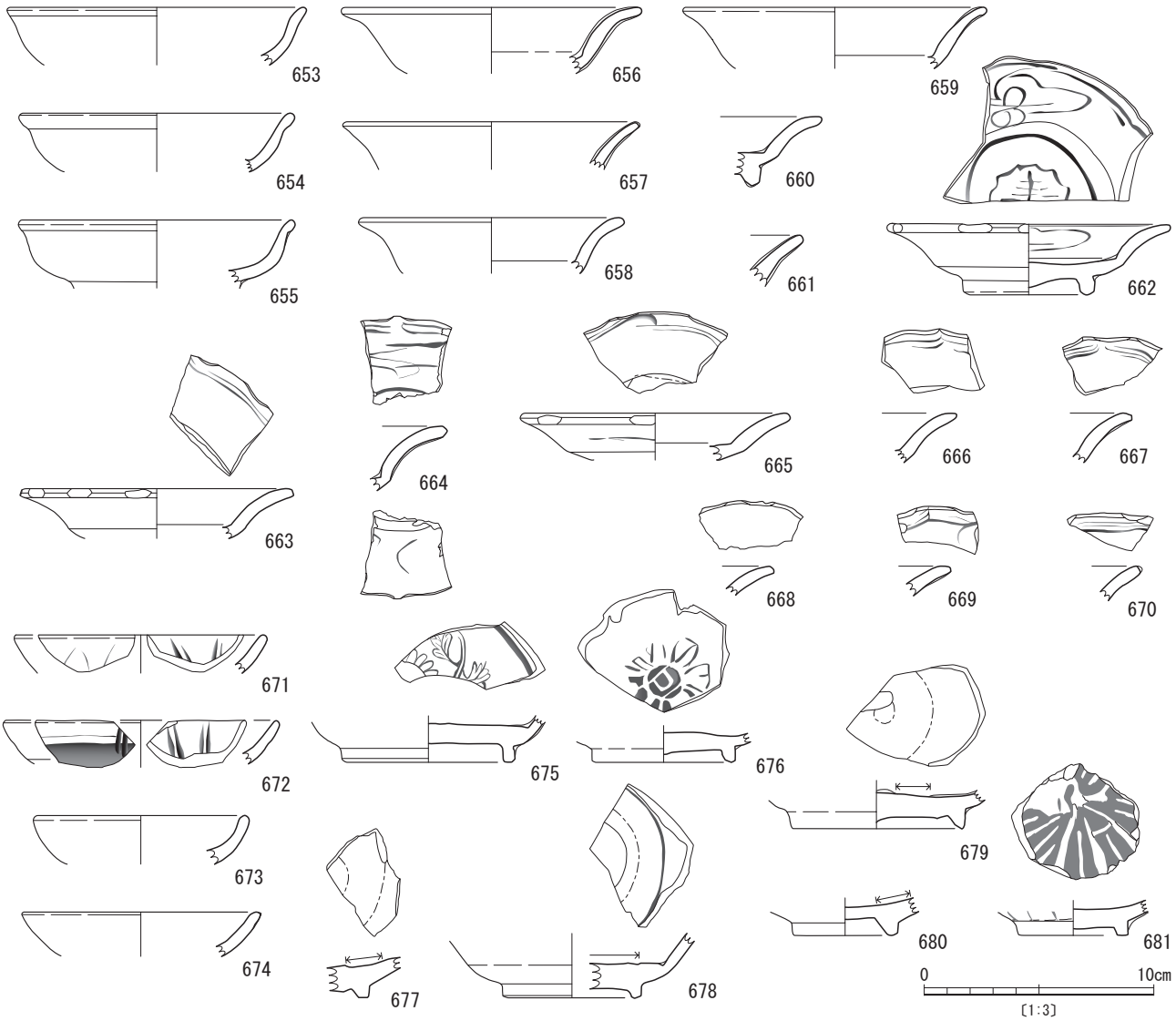
口縁が外反するもので，内外とも無文のもの（653～661）と，内面に文様のあるもの（662～670）とがある。

653～661 は内外とも無文のものである。やや丸みをもった体部から，ゆるやかに外反するもの（653～655）と，体部から舌状に口縁へ向かって外反するもの（656～661）とがある。口径は 11.6～13.2㎝といずれも似ている。655 は口縁端近くの外面に削り込みがあり，薄くなっている。656・657・661 は分厚い釉がかかっている。656・658 は釉切れが１か所あり，659・660 には貫入が入っている。660 は低い高台で，口縁から底部まで同じ幅である。661 はやや分厚い。

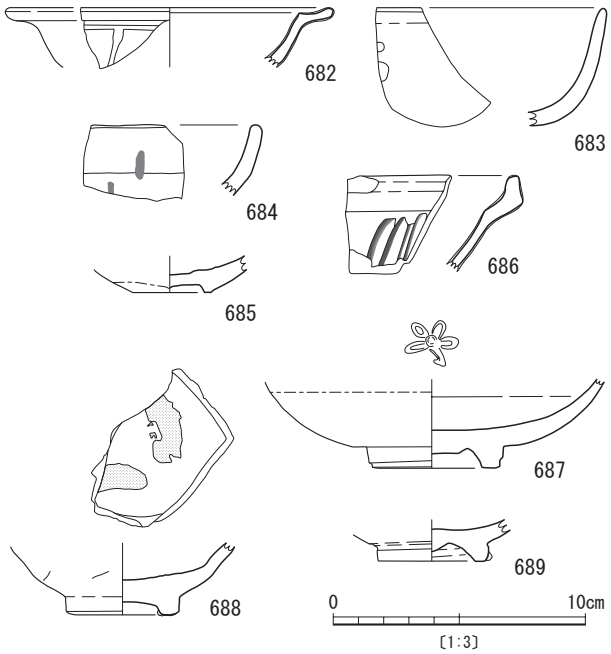
662～681 は内面や見込みに文様のあるものである。口縁端はくぼみがあり，稜花皿となる。662 は口径 12.3㎝，高さ 3.1㎝，高台径 5.7㎝である。底部中央は分厚く，ほぼ平らな底部から強く屈曲外反して口縁へ至る。高台端は面取りしている。内面には圏線と蓮花文が，見込みには圏線に囲まれて周辺に桜花文のある「寿」字文がある。高台内は露胎である。663 は口径 11.8㎝で，内面の口縁近くに２条の沈線がある。664 は内外に片彫り文様が描かれる。外面には幾何学文，内面には２条の圏線と草花文である。665 は口径が 11.8㎝で，内面の口縁端近くにすれ違う２条沈線がある。内外に貫入，内面に砂目跡がみられる。666・667・669・670 とも内面の口縁近くに１～３条の沈線がある。668 は口縁に砂粒が付着しており，貫入がみられる。

**２類（第 109 図 671～674）**

丸みをおびた器形で，そのまま口縁へ向かうものである。内外に文様のあるもの（671・672）と，内外とも無




第 109 図　青磁（８）




第 110 図　青磁（９）

文のもの（673・674）がある。671 は口径が 11.0cmで，外面に線描き蓮弁文，内面に片彫り文を描いている。672 は口径が 12.0cmで，671 と同じような文様である。673 の口径は 9.4cmと小さく，674 は口径が 10.4cmである。673 がオリーブ灰色，674 が明オリーブ灰色を呈している。

**③底部（第 109 図 675～681）**

底部はいずれも高台が付いており，外面の畳付部から底は無釉であるが，見込みも釉をかき取ったものがある。高台は矩形のもの，逆台形状のもの，逆三角形のものがある。

675 は高台径が 7.5cmで，高台端は面取りし丸みをおびている。高台内は広い範囲が露胎となっている。見込みは草花文が線描きされ，圏線がまわっている。676 は薄い作りで，高台端は内側を逆台形様に面取りしている。高台径が 6.2cmで，畳付部から内側へは釉をかき取っている。見込みに花文のスタンプが押されている。底はにぶい黄橙色を呈しているが，部分的に赤褐色を呈している。677 は外面の腰部あたりから底にかけて露胎で，見込みのまわりも輪状に釉をかき取っている。678 は分厚い底で高台径 6.0cmである。幅の狭い矩形高台を貼り付けているが，高台の作りは雑で，整然としていない所もある。畳付部から高台内と，見込みの内部は釉がかき取られ，見込み中央部には赤っぽい筋がある。679 は高台径 7.6cmで，高台内面を面取りし，三角形状を呈している。高台内は無釉となり，見込みは輪状に釉をかき取っている。底は灰白色だが，一部は灰赤色を呈する。680 は高台径 4.6cmで，面取りし不定台形を呈し，底は丸みをおびている。畳付部から内側は露胎で，見込みは輪状に釉をかき取っている。681 の高台径は 4.8cmで，高台は矩形を呈している。畳付部から内側は釉をかき取っているが，一部に残っている。外面に筋状の縦線と，見込みに菊文がある。

**④坏（第 110 図 682）**

682 は口径 13.0cmで，丸みをおびた体部から，口縁部で強く外反し，口縁内側は受け皿風となる。内側の口縁部と体部境は稜をなす。外面は片彫りの蓮弁文である。厚い釉がかかっている。

**⑤小碗（第 110 図 683～685）**

683 は内弯気味の器形をし，オリーブ灰色の釉色だが，口縁付近はやや青っぽい色を呈している。外面に釉切れがみられる。

684 は内弯する器形で，端部が丸みをもつ。外面に縦方向の短絡線が引かれる。

685 は底径 3.0cmの碁笥底の底部で，内底部が凹凸が目立つことから小壺の可能性もある。外面の底近くの胴下部から底にかけては露胎となっており，底中央部はやや膨らんでいる。

**⑥盤（第 110 図 686）**

外面は外へ開きながら伸び，口縁近くで直に立ち上がる。内面は体部との境で段をもつ。内面には筋状の蓮弁文がみられる。釉は厚くかかり，内外とも貫入がみられる。

**磁竈窯系（第 110 図 687）**

福建省磁竈窯周辺で焼かれたと考えられる青磁碗が１点だけ出土している。胴下半から高台の破片で，高台幅が 0.5～1.0cmと内外とも雑に作られている。高台内は深くくり抜いている。外面の体部下半から底は無釉である。見込みには浅い花弁のスタンプ文がある。

高台付近は暗赤褐色，その上は褐灰色を呈し，黒斑・褐斑がみられる。釉色はオリーブ灰色を呈する。

**朝鮮産陶磁器（第 110 図 688・689）**

灰青釉のかかった朝鮮産陶磁器碗が２点ある。高台径はともに 4.4cmで，ともに畳付部に砂目跡があり，688 の内面には砂目が付着し，重ね痕がみられる。胎土に黒色・白色の粒子を含んでいる。

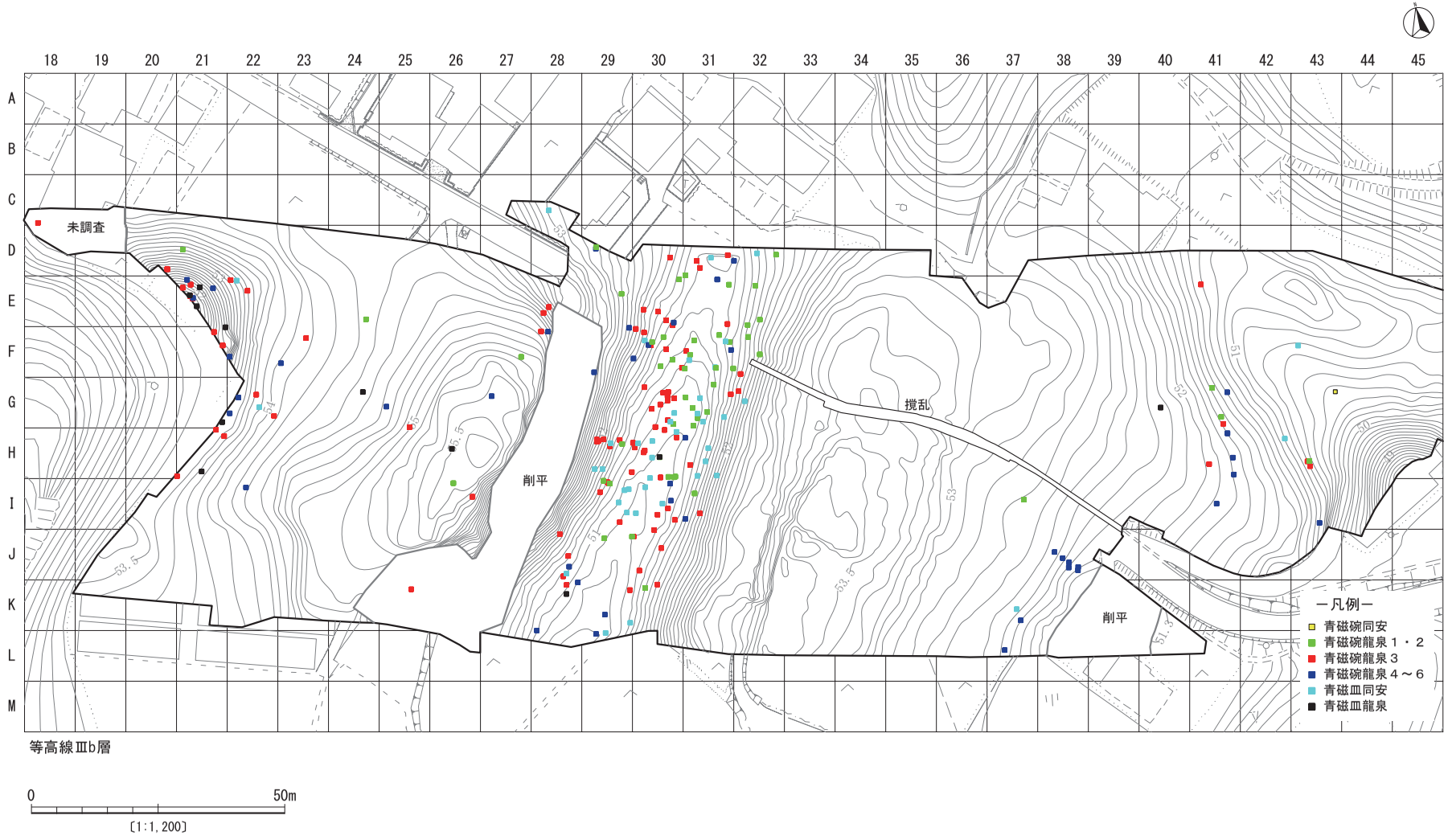
**青磁の分布状況（第 111 図）**

谷や傾斜面に広く散布しているが，Ｄ～Ｋ－ 29～32 区付近の谷部で多く出土している。同安窯系産の物はほとんどがＤ～Ｋ－ 29～32 区付近の谷部で出土しており，特にＦ～Ｉ－ 29～31 区周辺に集中している。

龍泉窯系碗１・２類はＥ～Ｇ－ 30～32 区周辺に集中しており，他の谷や傾斜面には，ほとんどみられない。

龍泉窯系碗３類はＤ～Ｊ－ 29～31 区付近の谷部に広がっているが，Ｅ～Ｈ－ 21～23 区の谷周辺にも広がりがみえる。

龍泉窯系碗４～６類は広い範囲に分布がみられ，１～３類に比べ，中央の深い谷に集中している様相はみえない。


18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45
A B C D E F G H I J K L M
未調査
削平
撹乱
削平
－凡例－
青磁碗同安
青磁碗龍泉１・２
青磁碗龍泉３
青磁碗龍泉４～６
青磁皿同安
青磁皿龍泉
等高線Ⅲb層
0
50m
〔1:1,200〕

第 111 図　青磁分布図

**白磁**

器種は碗・皿・鉢・坏・壺がある。

**①碗（第 112～116 図）**

器形，口縁端の形，高台の形状，釉剥ぎの方法等によって大きく４類に分けた。

**１類（第 112・113 図 690～736）**

丸みをもった器形を呈し，口縁端が玉縁状となる。高台は安定した方形のもので，低い。玉縁の部分が薄くて小さいものと，分厚くて幅広のものとがある。外面の体部下半から底まで無釉である。内面の下部には沈線様の段のあるものがある。88 点出土している。

690 は口径 16cm，高さ 6.5cm，高台径 6.8cmで，玉縁は分厚い。内面の体部下半と見込みの境に段がある。高台は逆台形状を呈し，低い。691 も同じような器形をしており，口径 16.8cm，高さ 6.5cm，高台径 7.2cmである。底部の厚さが 692 に比べて薄い。692 は口縁の玉縁が折り曲げ状となっているもので，口径 17.5cm，高さ 6.6cm，高台径７cmである。

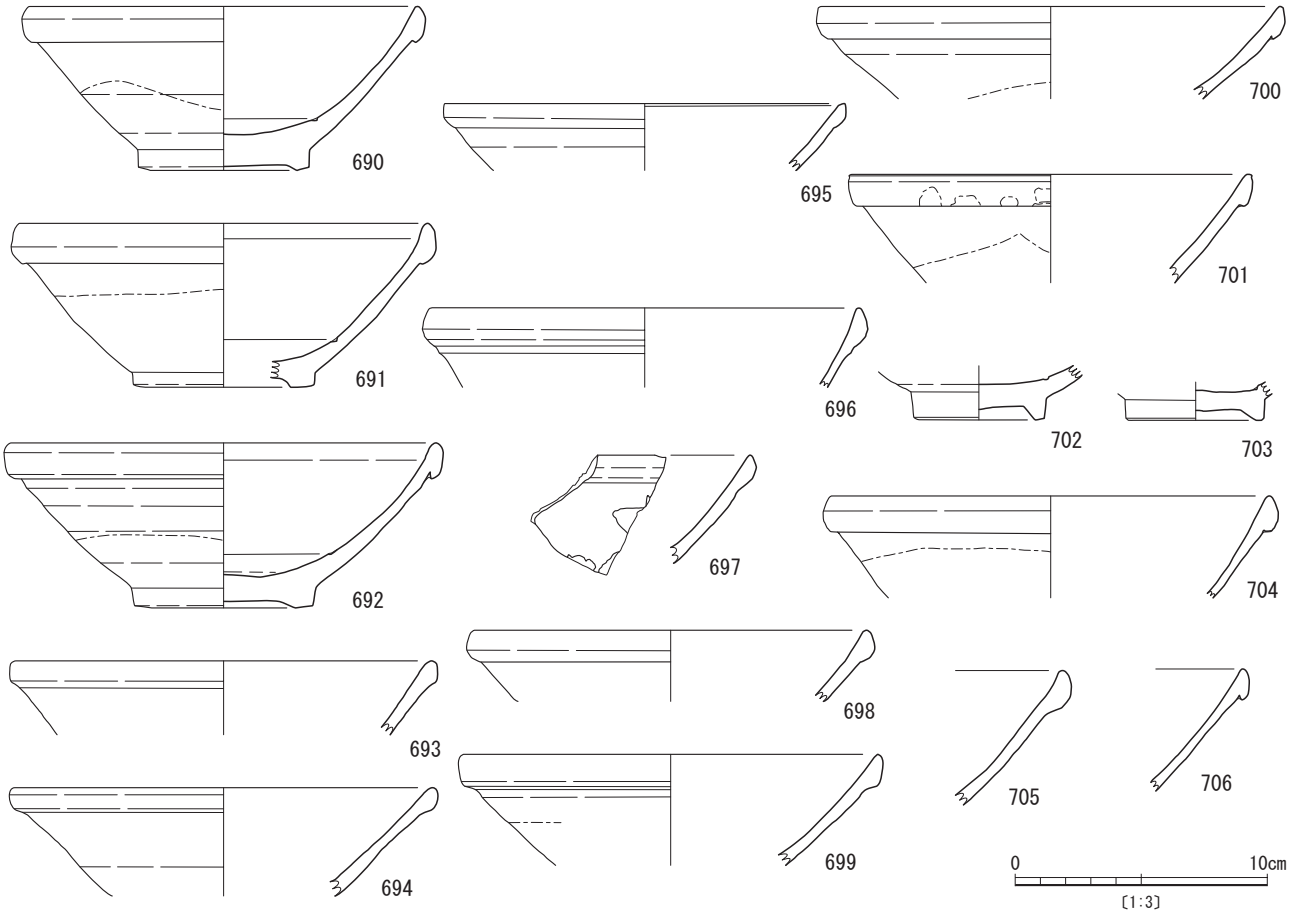
693～698 は玉縁部分が小さいもので，特に 695・697 は細く，体部厚がやや膨らんでいる程度である。口径は 16.0～17.6cmである。696 は口縁へ移る部分が段となる。

699～701，704～706 は前者に比べると，やや分厚くなっているが，まだそれほど厚くない。口径は 16.0～18.4cmである。704 は厚い釉垂れがみられる。

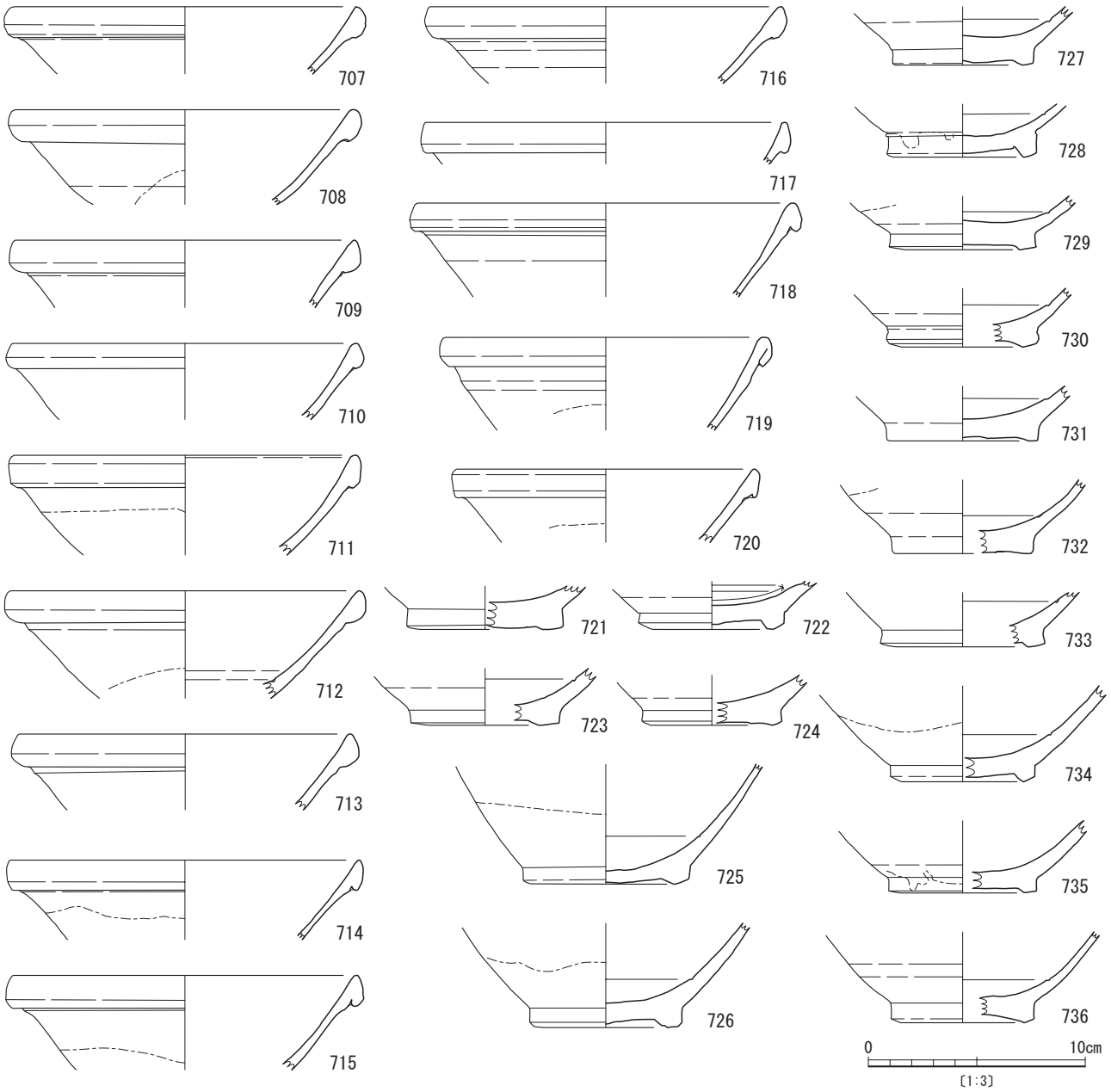
702・703 は逆台形の高台があり，内面の胴下半と見込みの間には段がある。外面の高台と体部境も明瞭に切られている。702 の内面には重ね痕・目跡がみられる。

707～720 は玉縁の分厚い類で，折り曲げた部分をそのままにしているため，段が残っているものもある。口径は 14.2～18.1cmと大きさが異なる。これらの類のなかにも 708 や 714 のように器厚が薄いものがある。

721～736 は低い高台のある底部である。高台は断面が逆台形・不等辺逆台形・矩形を呈し，安定している。高台直径は 6.4～7.6cmである。721 の高台は外面を直に，内面を斜めに削っている。722 の高台は外面を直に削ったあと，畳付部を斜めに削っている。内底部は広く釉をかき取っている。723・724 の高台は低く，723 の内面下部には沈線がある。725 の高台は畳付部を外面から斜めに削って，逆台形様に仕上げている。内面下部には沈線がある。726 は畳付部の内外面を小さく斜めに削っている。727 の高台は内外とも削りが弱く，ゆるやかになっている。728 は高台の内外を強く削って線状のくぼみとなっており，器厚は薄い。729～733 は高台の削りが




第 112 図　白磁（１）




第 113 図　白磁（２）

弱く，ゆるやかに体部へ移る。730～732 の内面下部は段状となっている。734～736 の高台は外面を直に，内面を斜めに削ったあと，畳付部を外から削っている。

**２類（第 114・115 図 737～782）**

細く高く直立する高台で，口縁端が屈折し，上部が水平となる端反り（嘴状）口縁のものである。体部は丸みをおびている。多くが内外面とも無文だが，内面に櫛目の花文のあるものもある。内面下部に段や沈線がある。外面の下部から高台にかけては施釉されない。口径は 16.0～18.6cmである。134 点出土している。

737 は口径 16.4cm，高さ 6.5cm，高台直径 6.0cmの完形品である。738 は口径 17.6cm，高さ 7.4cm，高台直径 6.0cmで，外面の高台と体部境にくぼみがある。口縁端の１か所に輪花状くぼみがあるが，口縁内面までにくぼみが達していない。見込みの３分の１ほどが釉はぎされている。口縁部の内外面に釉垂れの跡がみられる。740～744 は底部が欠損した破片で，口径は 16.0～17.2cmである。744 はするどい稜となるが，その部分に厚く釉がかかっている。745 は高台直径 6.0cmで，口縁部を欠いているが，744 と色調・胎土・焼成など類似している。見込み近くに沈線が巡り，見込みの一部には無釉の部分がある。746･747 も高台を欠く破片だが，口径が 17.4cm，18.6cmとともに大きい。見込みに沈線がある。748・749 は内面に文様のある破片である。748 は口径 17.1cmで，内面に櫛描文がみえる。749 は欠損部が大きいが，内面に櫛描文がみられる。750 は丸みをもった器形を呈して

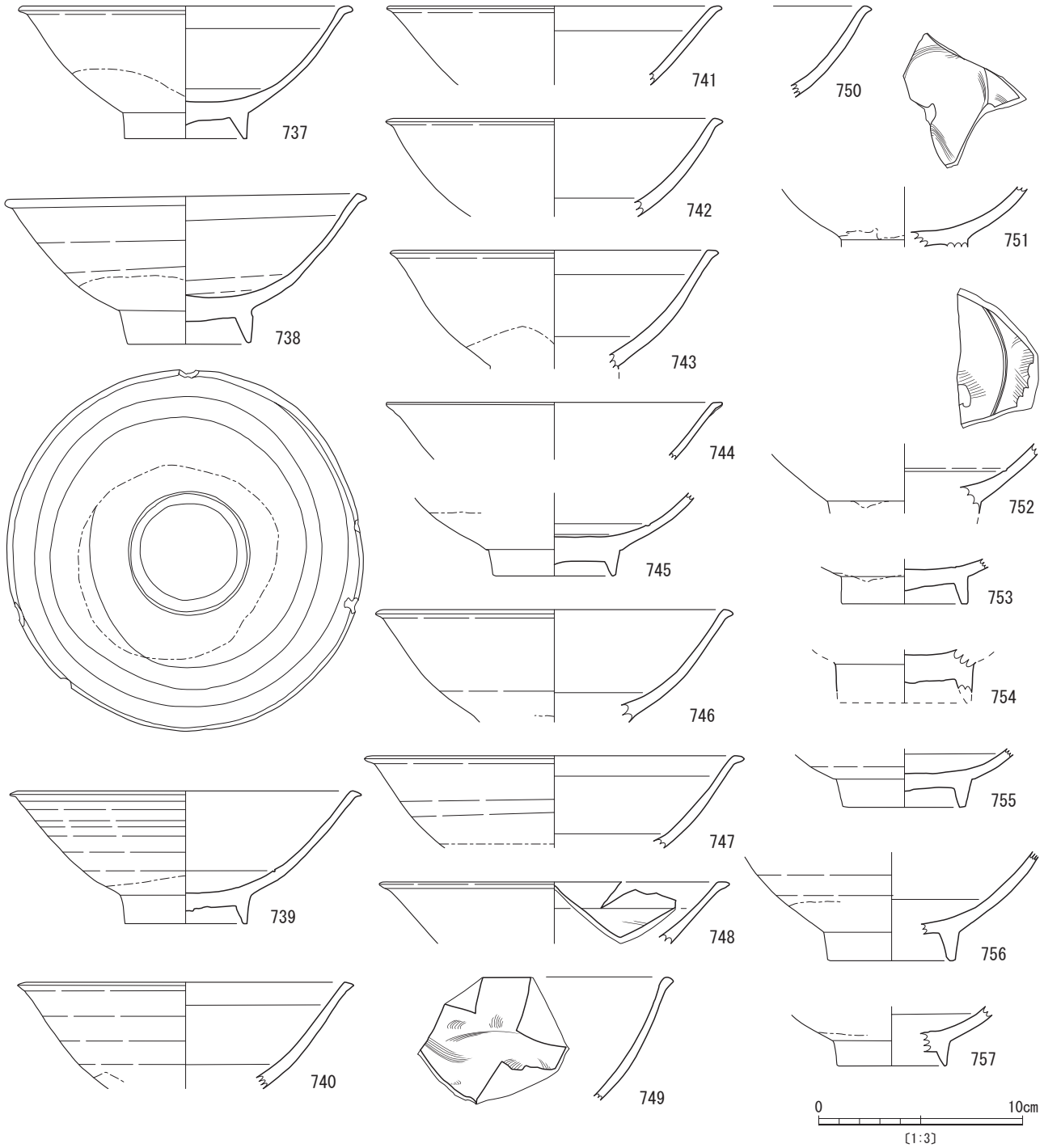
いる。751・752 は内面に櫛描文と沈線がみられる。753～757 はいずれも高い高台をもっており，高台直径は 5.5～6.3㎝である。753・754 は外面を直に，内面を斜めに削っている。755～757 は内外とも斜めに削っており，756 は畳付部近く内面をさらに削っている。757 の畳付部は狭くなっている。底部は薄いものと，754・757 のように分厚いものとがある。

758～781 もやや丸みをもって立ち上がる器形で，口縁端部上面は水平となる。口径は 15.2～18.8㎝と大小あるが，17㎝前後のものが多い。767・772・774・779 の外面は気泡が多い。768 の外面口縁直下には稜があり，釉が垂れている。773・775・778 にも同じように稜がある。775・778 の稜はするどいが，釉が厚いため丸みをおびている。781 は口縁部が分厚くなっているため，屈曲部がゆるやかになり，上面も丸みを帯びている。

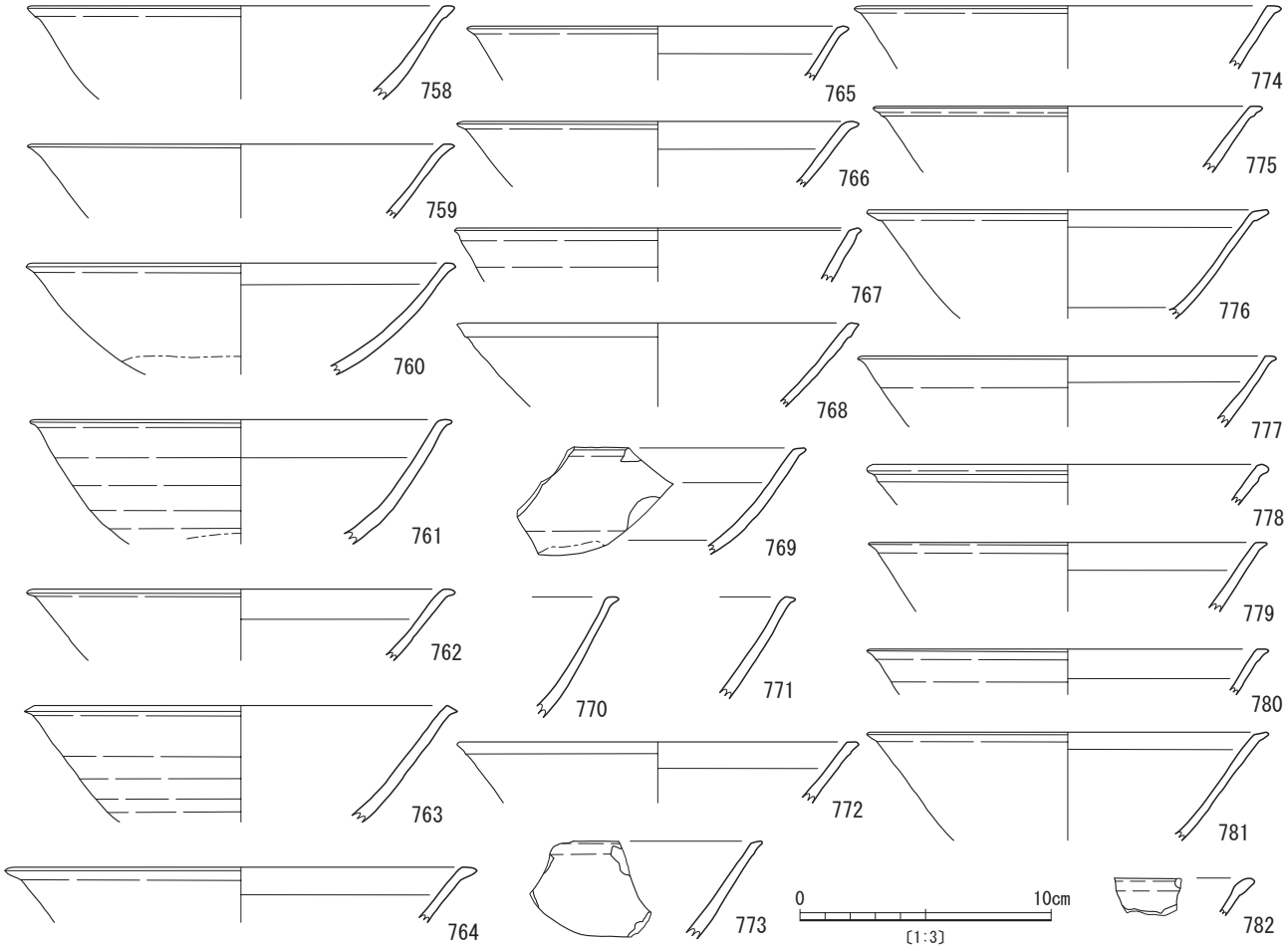
782 は端部上面がゆるやかに屈曲している。

**3類（第 116 図 783～799）**

鈍重な高台で，体部はほぼまっすぐ伸びて外方へ開く




第 114 図　白磁（3）




第 115 図　白磁（４）

器形である。口縁部が広く開いてゆるやかな外反状となるものもある。内面下部に段をもつものがあり，内面に文様の描かれるものもある。外面下半から高台内にかけて無釉である。42 点出土している。

783～787 は外へほぼまっすぐ伸びていく器形で，口径は 14.4～17.6㎝である。783 はまっすぐ伸びているが，口縁内面がやや外反している。784 は口縁近くの内面がやや薄くなり，先端は尖がる。体部内面に段がある。器形・色調・胎土などから，接合できないが，786 と同一個体と考えられる。785 は口縁端に釉が厚くかかっている。787 は口縁部が如意状に曲がっており，外面に気泡が目立つ。内面屈曲部に目跡がある。

788～790 は内・外面に文様がある。788 は口径 17.4㎝の稜花碗である。外面口縁近くには２条の沈線が，内面にはヘラ描き草花文が描かれる。789 は口縁部が外へ開いている器形で，内面には細いヘラ様のもので草花文を描いている。790 は器形・文様・色調などから同一個体と考えられる。

791 は高台外面を直に，内面を斜めに削った幅広の低い高台である。見込みも削りによって平らにしている。分厚い底である。

792～796 はやや内弯気味だが，ほぼまっすぐ伸びる口縁部で，端部は丸く収まっている。口径は 15～16㎝である。793・794 の見込みは釉をかき取って，段となる。

797 は矩形の高台で，丸みをおびた器形をしている。

798・799 は逆台形の高台だが，外面は直に削っている。見込みのまわりの釉をかきとっており，砂目の跡が残っている。798 は調整が雑である。

**４類（第 116 図 800～804）**

施釉後，口縁部周辺の釉をかき取った口禿げ碗である。10 点出土している。

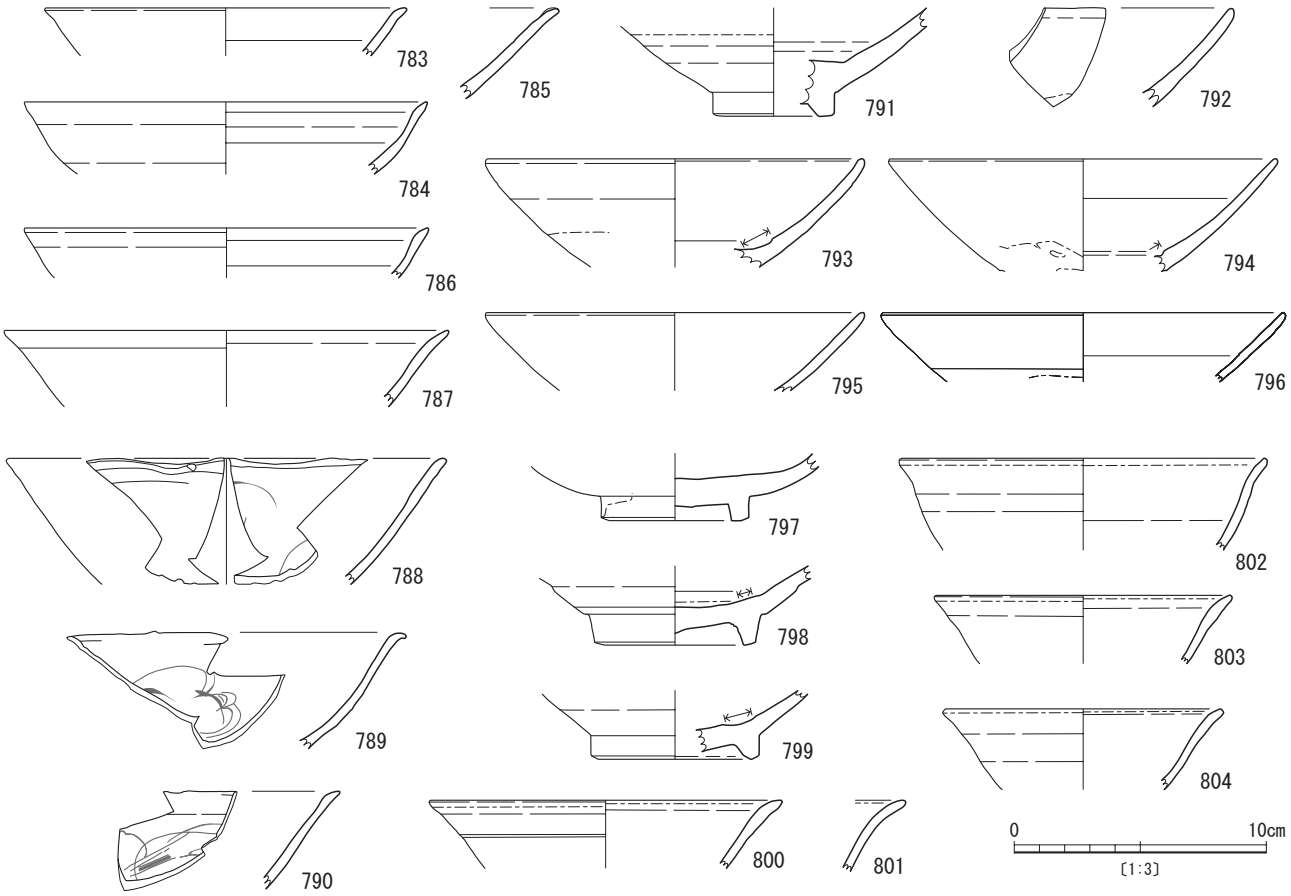
やや外反気味に立ち上がる口縁で，口径 11.2～14.6㎝である。803・804 は口縁部の釉剥ぎ部にススが付着している。

**②皿（第 117・118 図）**

器形・釉剥ぎ状況・胎土等によって９種に分かれる。高台の付くものと平底のもの，口縁部がまっすぐ伸びるものと外反するもの，内弯するもの，口縁部や見込みの釉を剥ぐものなどがある。10 種類に分けている。

**１類（第 117 図 805・806）**

底部を欠いているが，丸みをおびた器形をして，体部の中頃で内側へ立ち上がっている。口縁端部は丸く収め




第 116 図　白磁（５）

ている。外面下半は無釉である。口径は 805 が 10.4cm，806 が 11.6cmである。805 はオリーブ黄色，806 は灰白色を呈している。

**２類（第 117 図 807～810）**

碁笥底風の底部で，口縁部は外反する器形である。807 は口径 11.6cmで，外面は底から丸みをもって立ち上がり，体部なかほどで外反する。内面も途中で段をもつ。外面下半は無釉となる。808 と同じように口縁端部は丸みをもって収める。808・809 は口縁部が外反するが，屈曲部から細くなっている。809 は口縁部のみ釉がかかり，下半部は無釉である。底は碁笥底風となっているが，底近くの外面は稜がある。釉は明緑灰色を呈している。810 は底径が 8.4cmと大きく，底を削って低い碁笥底風となる。内面の上部のみに釉がかかっている。809・810 は全体的にススが付着している。

**３類（第 117 図 811～813）**

丸みをおびた器形をし，端部が丸く収まるもので，口径は 9.6～11.4cmである。釉色は灰白色である。811 は端部近くがやや分厚い。812・813 は内弯気味となり，813 の釉は貫入がみえる。

**４類（第 117 図 814～828）**

高台は幅広で浅く，ほぼまっすぐ開いて口縁部へ立ち上がる。口縁端は丸く収まるものと，とがるものとがある。口径は 9.4～12cm，底径は 4.6～5.4cmである。内外とも見込み，外面下部は釉を剥いでいる。27 点出土している。

814 と 815 はまっすぐ口縁へ向かうが，端部近くでやや外反している。815 は体部途中で屈曲し，内面には沈線もみられる。816 は高台の内外を斜めに削って逆台形としており，見込みは輪状に釉をかき取っている。見込み部には目跡がみられる。817 は口径 10.4cm，高さ 2.15cm，高台径 5.4cmである。内面には胡麻が付着しているが，釉剥ぎはしていない。818 も内面に胡麻が付着し，内面に圏線が巡る。819 は口縁端がとがっている。820 は端部近くがやや分厚くなり，内面に圏線が巡る。釉色は明オリーブ灰色を呈する。821・822 は見込みの釉をかき取っており，外面の下半部も無釉となる。823・824 は外反気味の口縁部で，823 は釉が厚くかかっている。825 の高台は外面が直，内面が斜めに削っている。見込みは輪状に釉を剥ぎ，目跡がみられる。826・827 は外反気味に伸びており，826 の内面には沈線があり，外面は釉切れが目立つ。828 は高台をやや狭く削っており，口縁は外反する。見込みは輪状に釉を剥いで，砂目跡が残っている。

**５類（第 117 図 829～833）**

底は外から内へ向かって上がっていき，高台はつかな

い。体部上位で内弯し屈曲部内面には沈線状の段を有する。外面の腰部から底部にかけては無釉である。釉色はオリーブ黄色あるいはオリーブ色を呈する。16 点出土している。

829 は口径 10.3cm，高さ 2.55cm，底径 2.6cmあり，底部から外へ開きながら丸みをおびて立ち上がり，体部上位でやや内向きに屈曲している。胎土中に白色や黒色・褐色を呈した粒子を含み，灰黄色を呈している。830 は内外とも貫入があり，屈曲が鋭い。831～833 は底径が 3.2～４cmで，底は水平ないしややあげ底気味となる。

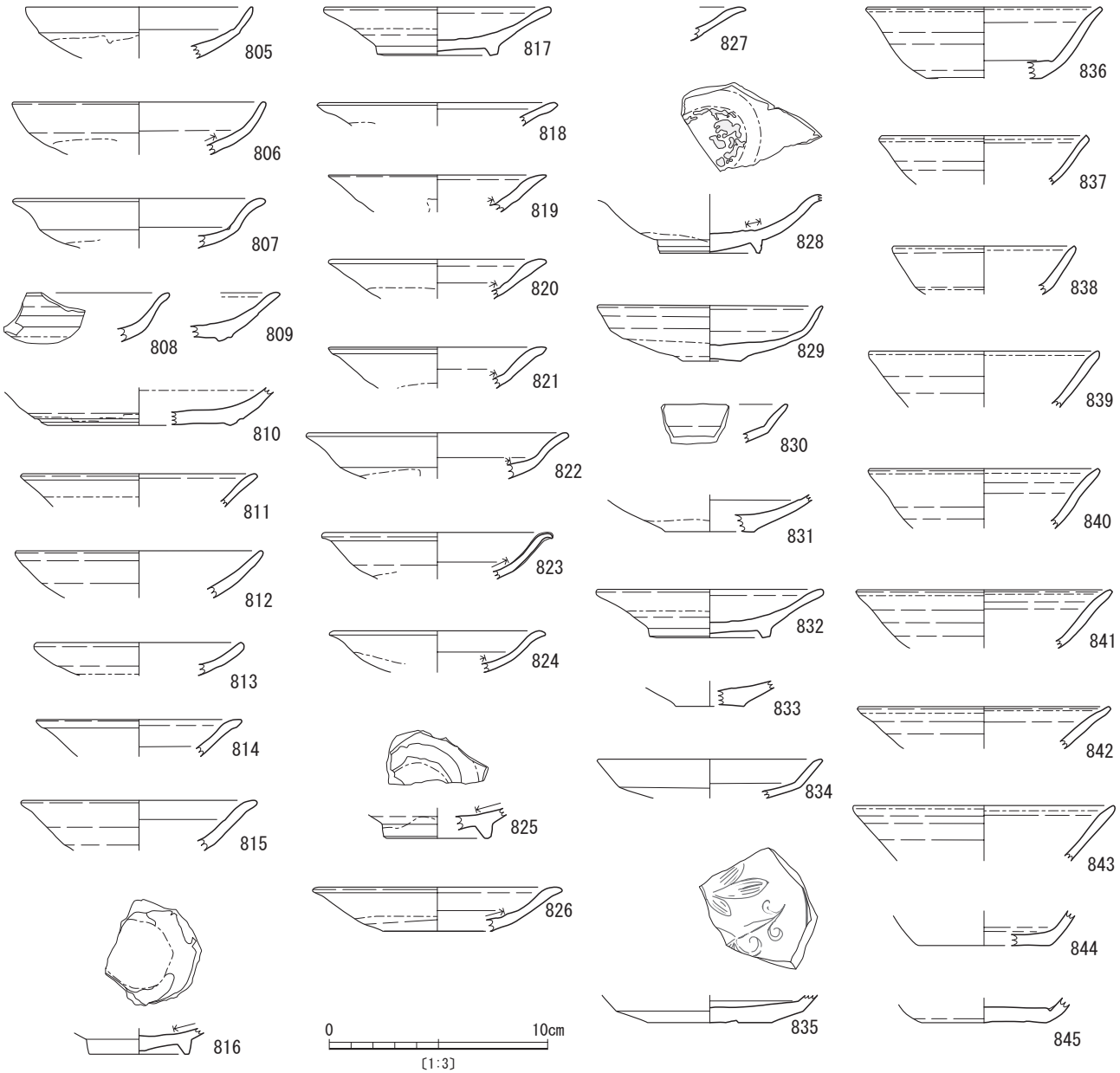
**６類（第 117 図 834・835）**

体部上位で内弯し，屈曲部内面に段を有する。底部は安定した平底で，無釉である。834 は口径 10.3cmで，薄い釉がかかり，釉色はオリーブ黄色を呈する。835 は底径 5.4cmだが，内側の直径 2.5cmは削り込んで碁笥底状を呈している。見込みには細いヘラ描きの草花文がある。底外面は淡黄色を呈し，釉色は灰オリーブ色である。

**７類（第 117 図 836～845）**

口縁端部の釉をかき取った口禿げ皿である。深いものと浅いものがある。口径は 8.4～12.0cmである。25 点出土している。

836 は口径 10.8cm，器高 3.3cmと深いもので，底部は分厚くなっている。見込み部と立ち上がりの境は段となっている。837～843 は底からまっすぐ口縁部へ広がるもので，口径は 8.4～12.0cmである。844・845 は底径 5.6～6.0cmの平底である。845 は見込みから立ち上がりの境が強く屈曲し，段となる。底は釉を剥ぎ取っており，目跡が残っている。




第 117 図　白磁（６）

**8類（第118図846）**

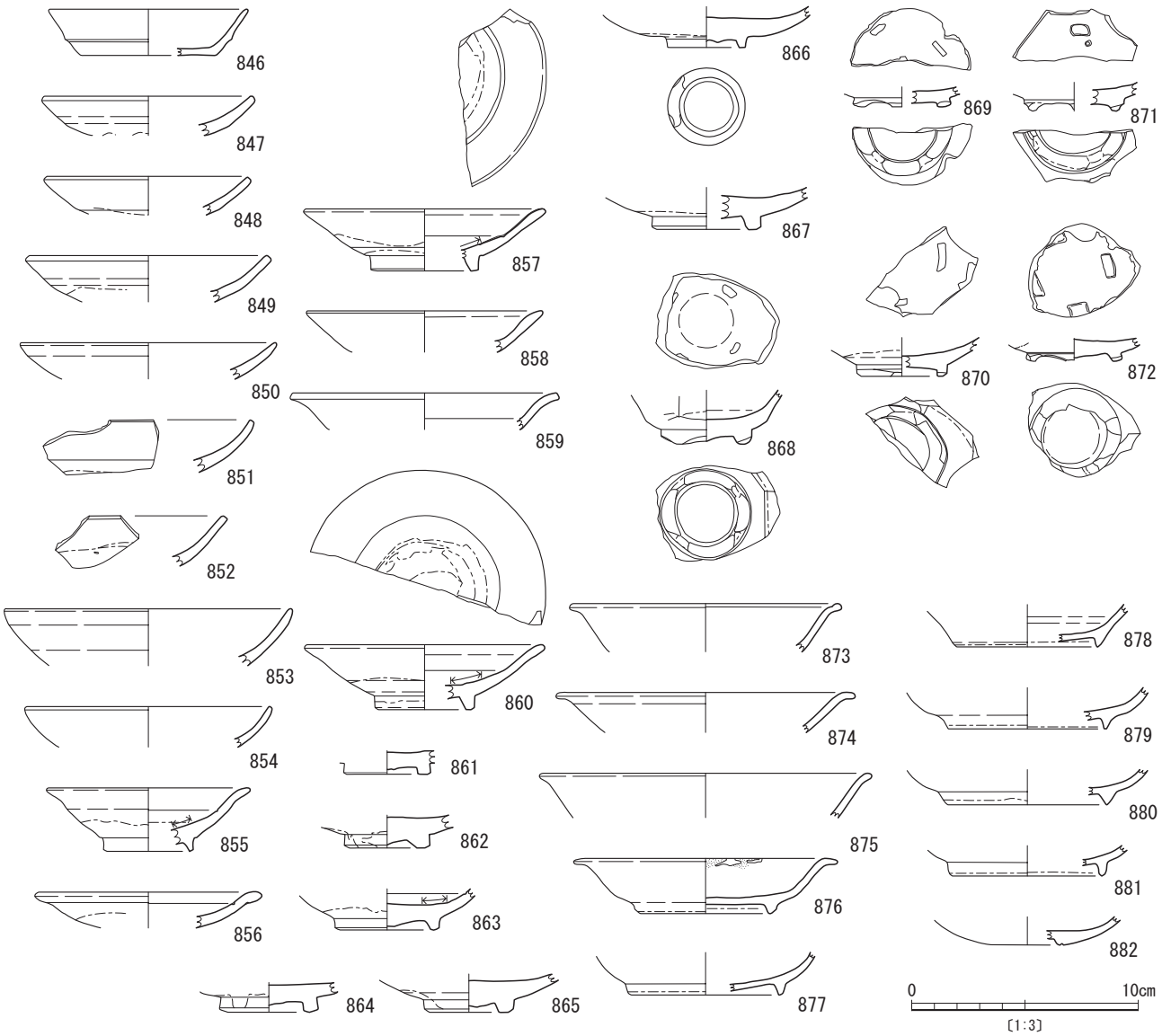
安定した平底で，外へ開きながらまっすぐ伸びる器形を呈し，口縁端部は丸く収めている。体部下半に突線があり，底は無釉となる。口径8.8cm，高さ2.05cm，底径6cmである。白色の釉である。

**9類（第118図847～872）**

小形の浅い皿で，口縁は内弯するものと外反するものとがある。概して底部は分厚く，高台は安定した高台と切り高台のものとがある。釉は透明で貫入のはいったものが多い。外面下半から高台内は無釉である。41点出土している。

847～854は内弯しながら立ち上がる器形をし，口唇部は面取りしている。口径は9.2～12.7cmで浅い作りである。胎土中に黒色粒・白色粒・石英などを含んでいる。胎土の色調は灰黄色あるいは灰白色を呈し，透明釉がかかっているが，外面下部は無釉である。

855～860は口縁部が外反するものである。外面の体部下半から高台内にかけては無釉で，見込みは釉がかき取ってあるものが多い。855は口径9.0cm，高さ2.8cm，高台直径4.0cmである。高台は細目に削って，腰部と境が明白である。見込みには砂目跡がある。856は口縁近くに内外面とも沈線があり，外面の一部にはススが付着している。857は外反度が弱く，見込みと外面高台に白泥を塗っている。高台は外面を直に，内面を斜めに鋭く削っており，内面には沈線もみられる。外面の口縁付近には小礫が付着している。口径10.7cm，高さ2.75cm，高台直径4.7cmである。858は外反度が弱く，直線的に伸びているが，859は外反度が強い。859の内面には段がある。860は口径10.6cm，高さ2.85cm，高台直径4.4cmで，見込みと高台の畳付部には白泥が付着している。高台の外面は直に，内面は斜めに削り込んで，畳付部も面取りしている。見込みは釉をかき取っており，体部下半




第118図　白磁（7）

から高台内にかけては露胎である。

861～867 は高台付近の破片で，高台外面は直に，内面は直あるいは斜めに削っている。高台直径は概して小さいが，3.5cm前後の小さいものと，4.5cm前後のやや大きなものとがある。861 は矩形を呈する低い高台である。862 は幅広の高台で，底部も分厚い。863 はやや細身の作りで，見込みは輪状に釉をかき取っている。高台内も削っている。864・865 も畳付部を面取りしており，865 は高台内をヘラで削ったあと，さらに中央部を削っている。866 は低い高台がやや歪んでおり，高台内も全面をなでたあと，さらに中央部を削っている。867 も畳付部を面取りし，高台・底部とも分厚い。

868～872 は高台を４～５か所削って，抉り高台としたものである。高台直径は 4.0～4.4cmである。見込みは重ね焼きのため，４か所に目跡が残っている。868 は多角坏状のもので，体部には縦方向の稜線がみえる。869～872 も同じように内面に目跡が残るが，872 が４か所あるのははっきりしているが，他は不明で，体部が皿か多角坏かも不明である。

**10 類（第 118 図 873～882）**

口縁端近くで外反する器形で，高台は畳付部が尖るものと，矩形のもの，碁笥底状のものとがある。12 点出土している。

873～875 は端反り風となる口縁近くの破片で，口径は 12.0～14.7cmある。873 は口縁部を折返して玉縁状にしている。874 の口縁が長く反るのに対し，875 は短く反る。

876 は口縁端を長く外反し，天井を向く範囲が広い。高台端は畳付部の釉を剥いでいる。口径 11.6cm，高さ 2.45cm，高台径 5.8cmである。体部や底部に釉切れが目立つ。

877～881 の畳付部は釉剥ぎをしており，尖っている。878 の外面体部下半と高台境は段を持たず，緩やかに移っている。881 は畳付部を面取りし，やや尖っている。

882 は碁笥底で，底径 3.2cmである。畳付部周辺が釉剥ぎされている。

**③坏（第 119 図 883）**

１点出土している。矩形の高台をもち，体部中位で屈曲して外へ開く口縁である。口径 10.5cm，高さ 2.8cm，高台径 4.5cmで，内面見込みは輪状に釉をかき取っている。外面の釉は上半が明オリーブ灰色のガラス質を呈するのに対して，高台から体部下半にかけては被熱が弱くて溶けきっていないため化粧土を塗った灰白色のままで残っている。素地は淡黄色，内面は浅黄色を呈する。

**④鉢（第 119 図 884・885）**

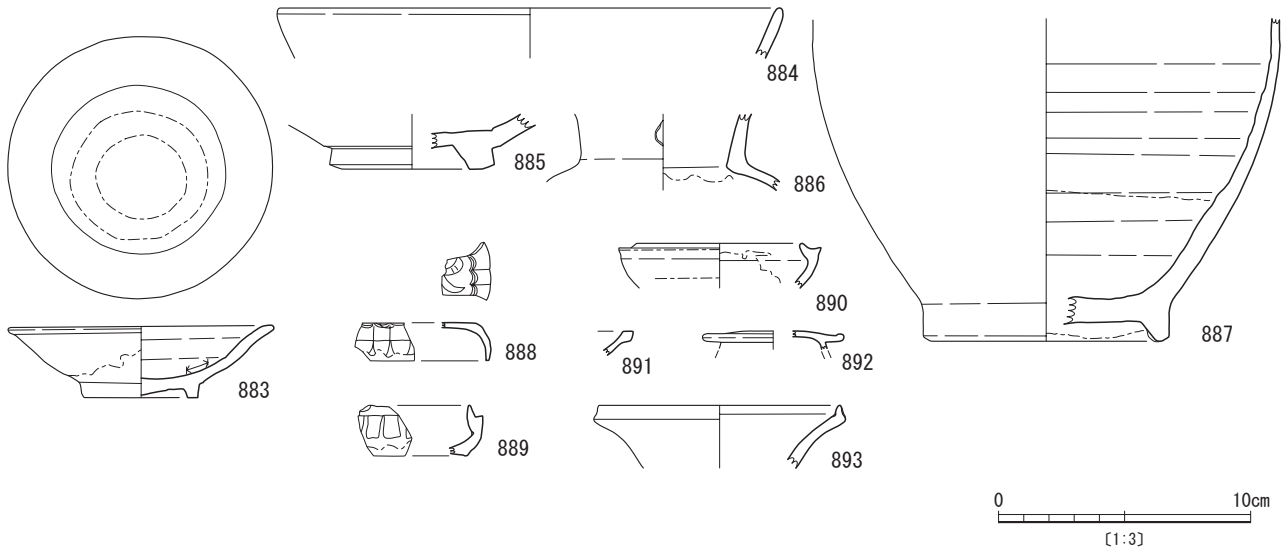
内弯気味に直口する口縁と肉厚の高台をもつ底部の２点が出土している。

884 は口径 20cmで，口縁端は丸く収まる。885 の高台直径は 6.5cmで，内外面とも斜めに削って逆台形の高台となる。雑な作りだが畳付部は面取りして調整しており，見込みには段を有する。内面には目跡があり，ススと鉄分が付着している。884・885 とも素地は灰黄色，釉の色は灰白色を呈し，胎土には白色粒子・黒色粒子・石英・褐色粒子などを含んでいる。885 の内面の釉は厚くかかっている。

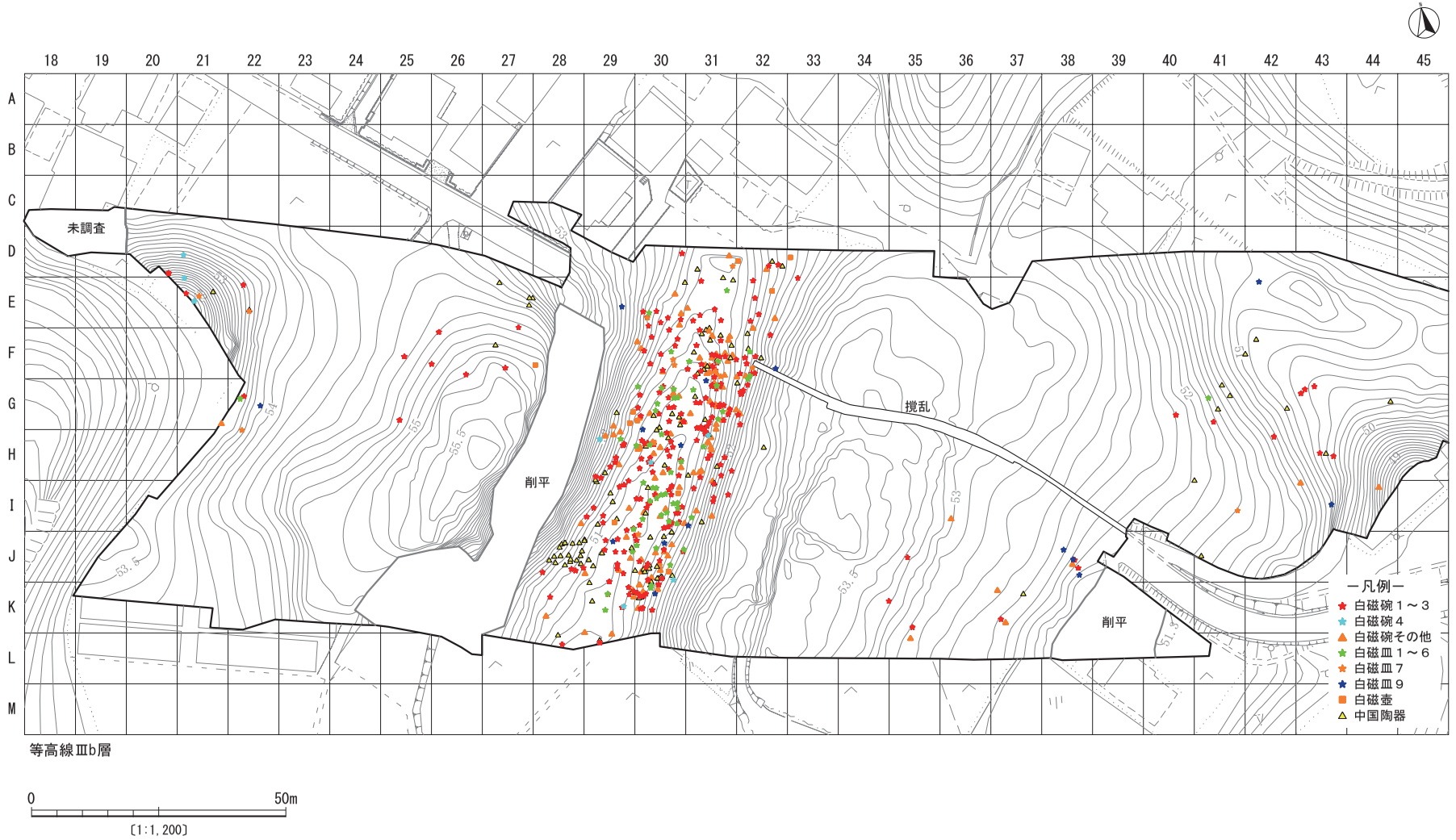
**⑤壺類（第 119 図 886・887）**

頸部と胴部があわせて６点出土している。

886 は口縁部から肩部にかけての破片で，頸部直径が 6.6cmである。やや外傾する口縁部には耳のはがれた痕跡があり，水注の可能性がある。肩は外へ開いている。肩部内面は横方向のヘラナデで，無釉である。灰色の細かい土を用い，無釉の部分は赤色を呈し，釉は明オリー




第 119 図　白磁（８）・青白磁




第 120 図　白磁・中国陶器分布図

ブ灰色をしている。

887 は残存最大径 18㎝．高台径 10.0㎝の壺の下半部である。胴中位から底に向かって細くなり，内面はでこぼことなる。胴の下位内面には部分的に釉垂れがみられる。透明の釉で，部分的にたまっている。高台から底も無釉だが，ここにも釉切れが目立つ。外面は灰白色，内面は浅黄色を呈し，内面の釉のまわりは赤色を呈する。

**白磁の分布状況（第 120 図）**

碗１～３と皿１～６はＤ～Ｊ－ 29～32 区の谷で大半が出土し，他地点での出土はまばらである。碗４と皿７・９は散在している。

**青白磁（第 119 図）**

合子，小壺の蓋と壺が７点出土している。

**①合子（第 119 図 888～891）**

蓋が１点，身が３点出土している。

888 は周辺に菊弁文があり，中央には草花文のある型作りの蓋である。天井部は平らで，口縁部まで丸みをおびて下っている。口唇部は平らに調整し，口縁付近の内外面は無釉である。

889 は外面に菊弁文のある型作りの身である。ややあげ底風となる底部から丸みをおびて立ち上がり，受け部は水平となり，端部は尖っている。内面は中位で屈曲し，外反しながら丸みをもって端部へ立ち上がる器形をしている。内面の屈曲部には釉だまりがある。888 とともに胎土は白色粒子・黒色粒子・石英などを含む灰白色を呈し，釉色は明緑灰色である。受け部から口縁と，底部は無釉である。

890 は口径 6.6㎝の身で，受け部の直径は８㎝である。丸みをおびた胴部で，ややくぼんだ内傾する受け部となり，端部は丸みをおびている。内面は中位でゆるやかに屈曲する。外面の口縁付近と底部，内面の口縁部付近は釉をかき取っている。

891 は受けのはっきりしない身で，内面は灰白色釉がかかっているが，外面は無釉となる。型押しの作りである。外へ開く器形をし，中位で上へ屈曲し，直に立ち上がる。端部は水平となる。

**②蓋（第 119 図 892）**

小壺の蓋と考えられる破片である。受けの最大直径は 5.6㎝で，端部は玉縁状に丸く整形している。灰白色の土に透明釉がかかっている。

**③壺（第 119 図 893）**

細い頸部から外へ開きながら立ち上がり，口縁部で短く内傾する器形をし，口径は 9.6㎝である。口縁部内面も沈線状に屈曲し，端部は尖る。口縁端近くの内外に釉が厚くかかっている。盤口壺の口縁部かと考えられる。灰白色の胎土に明緑灰色の釉がかかっている。

**染付**

碗・皿など総数 39 点が出土している。

**①碗（第 121 図 894～910）**

直口あるいは内弯する器形をし，高台が付く。

894～903 は直口あるいは内弯する口縁部である。

894 はまっすぐ口縁部へ伸びながら，端部近くでやや外反している。外面は全体的に牡丹唐草文が，内面は口縁端近くに四方襷文が帯状に描かれている。

895～898 はやや内弯気味に口縁部へ伸びている。内面は口縁端近くに１～２条の界線が巡っている。外面は 895 が口縁端近くに２条の界線が引かれ，その下には矢羽根状文が繰り返されている。896 の外面は上に１条，下に２条の界線が引かれ，その間に波涛文が描かれている。897 も 896 と同じような波涛文帯が口縁近くにあり，胴部には牡丹唐草文が描かれている。898 も同じように口縁部には波涛文帯があり，その下にも文様があるがはっきりしない。897・898 の口縁端近く内面には，１条の幅広界線がみられる。

899～903 はまっすぐ口縁部へ伸びる器形である。内面はいずれも口縁部に１～２条の界線が引かれている。外面は 899 が口縁部に２条ずつの界線に挟まれた列点文があり，胴部には蓮花文が描かれている。900 は口縁部に１条の界線が，胴部に大振りな牡丹唐草文が描かれている。901 は口縁部に波涛文が，胴部には唐草文らしきものが描かれている。902 は花文あるいは芭蕉葉文が，903 は唐草文，あるいは波濤文らしきものが描かれている。

904・905 は丸みをおびた胴部である。904 は外面の口縁部に雷文帯が，胴部には芭蕉葉文が描かれている。905 も同じような文様であるが，口縁部は波涛文かもしれない。

906～910 は胴部下半から高台の破片である。高台は断面が矩形のものと，丸みをもった三角形のもの，鋭い三角形のものがあり，直径は 5.0～7.0㎝である。畳付部の釉剥ぎがみられ，高台内と底の間には釉切れがみられる。906 の外面は腰部に１条，胴部下位に２条の界線があり，体部には蔓唐草文らしきものがみえる。見込みには２条の圏線に囲まれた花文がみられる。907 は外面の高台と腰部にあわせて３条の界線がみられ，体部にもなんらかの文様がある。見込みにも文字らしきものがみえる。908 の外面腰部には２条の界線が，その上には渦状文がある。909 は外面に蓮弁文が，見込みに圏線に囲まれた法螺貝文がある。底部中央は尖っている。910 の外面には２条の界線が，内面には法螺貝文がある。

**②皿（第 121 図 911～918）**

口縁は外反するものと内弯するものとがあり，底は碁笥底のものと高台の付くものとがある。

911～913 は口縁部から胴部の破片である。911・912 は外反しており，913 は内弯する。口径は 911 が 14.0㎝，912 が 10.0㎝である。911 は外面の口縁に１条の界線，

体部に唐草文が描かれる。内面は口縁部と体部下半に１条ずつの圏線がみられる。912 は外面口縁部に界線，内面口縁部に四方襷文帯がある。913 も口縁部内外面は 912 と同じだが，体部外面に界線が，体部内面に２条の圏線が描かれる。

914～916 は碁笥底で，畳付部は釉が剥ぎ取られている。底径は 2.0～3.4㎝である。914 は外面の胴部下半が芭蕉葉文と２条の圏線，見込みが１条の圏線に囲まれた唐草文がある。915 の外面は芭蕉葉文で，内面の体部は２条の圏線と連点文，見込みには菊花文が描かれている。外底部に砂目跡がみられる。916 は見込みに２条の圏線に囲まれた唐草文が描かれているが，一部に細沈線格子文がみえる。

917･918 は高台で，畳付部は釉剥ぎされる。917 はまっすぐ立っているが，918 はやや内側に傾いている。高台直径は 8.0㎝と 12.0㎝である。917 は外面腰部に２条の圏線が，見込みに花樹文が描かれている。918 は見込みに２条の圏線が２重に巡り，法螺貝文が描かれている。



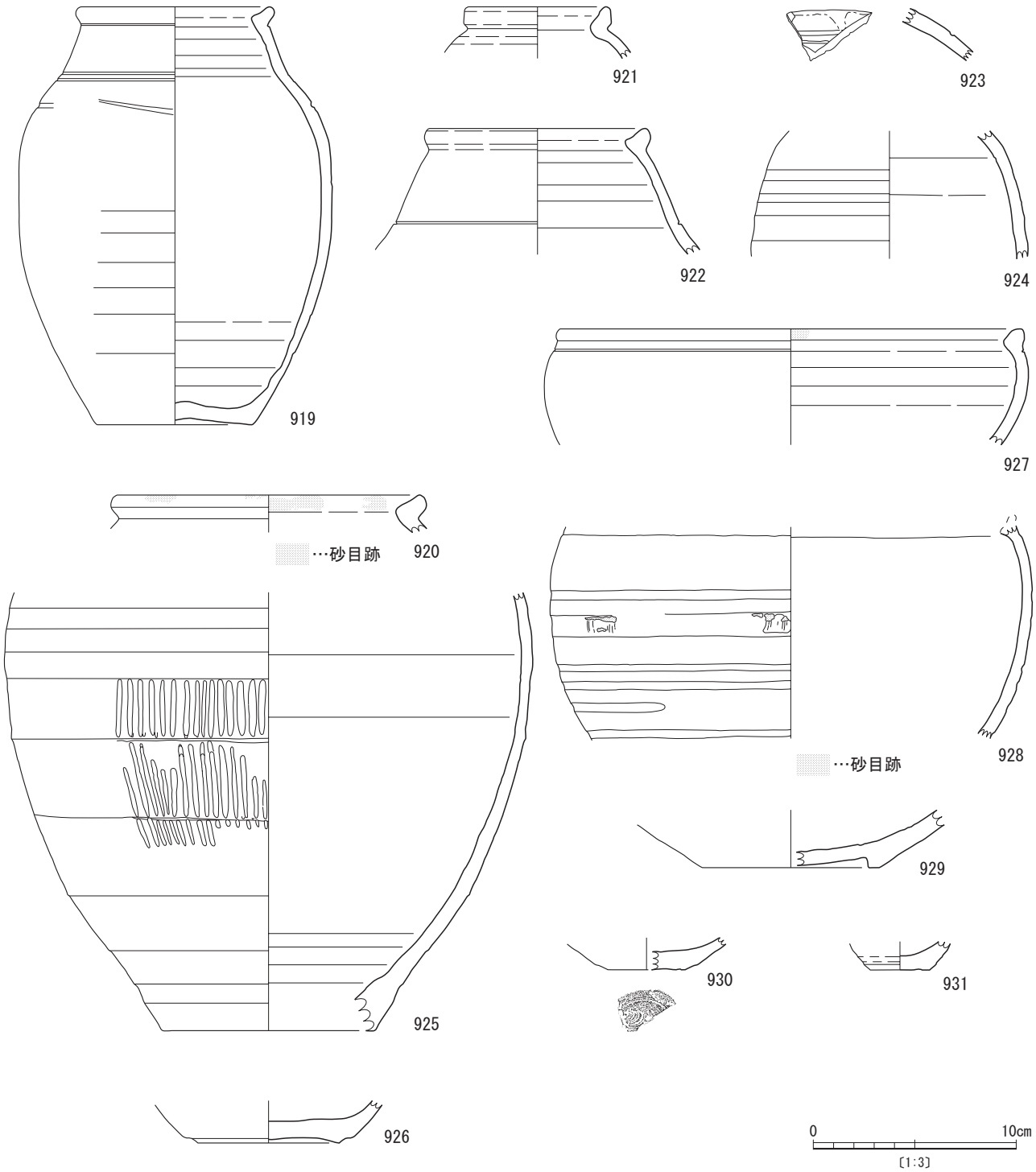

第 121 図　染付

**(6) 輸入陶器（第 122・123 図：919～938）**

中国製陶器が 86 点出土している。器種には壺・鉢・皿・碗・甕がある。

**壺（第 122 図 919～926）**

いずれも褐釉の壺である。919 は口径 9.8cm，底径 7.8cm，高さ 20.6cmの完形品で，胴上半に最大径がある。ややいびつな形状をしている口縁部はくの字状に屈曲し，端部は丸みをおびている。肩部に２条，さらにその下に１条の浅い凹線が巡っており，底は安定した平底で，ややあげ底となる。底部の縁には目痕が残っている。920 は「く」の字状に屈曲する直径 15.6cmの口縁部で，口縁内面から端部に焼成時に用いられた砂目跡が残っている。921 は口径 7.2cmの壺で，強く外反する口縁部だが，端部が上に立ち上がっている。外面の釉は光沢がない。922 も「く」の字状に屈曲する直径 11.2cmの口縁部であるが，内側にも少し張り出している。肩部に１条の




第 122 図　中国製陶器（１）

細い凹線が巡っている。923 は肩部で，２条の沈線がみられる。上から暗茶褐色の釉が垂れている。924 はナデ肩状の壺で，最大径が 13.6cmである。925 は胴部中央付近に最大径のある大型壺である。最大径が 26.0cm，底径が 10.6cmで，最存高 21.6cmである。胴部は縦方向の規則的ナデ整形で，内外ともに濁灰緑色の釉がかかっている。底は露胎で，灰色あるいはにぶい橙色を呈している。926 は直径 7.0cmの底部で，あげ底風の平底となっている。底部近くが太いくぼみとなっており，内外とも釉はかかっていない。

**鉢（第 122 図 927～929）**

いずれも大形の褐釉鉢である。927 は口径 23.0cmで，内弯する体部と外反する口縁部から成る。口縁部は内側と外側へふくらみ，玉縁状を呈している。頸部に細い沈線があり，内傾した口縁部内面には砂目跡が残っている。928 は口縁部が欠けているが，深い鉢である。肩部に最大径があり，23.8cmである。口縁部内面が内側に張り出している。体部は浅く凹凸が目立つ。外面に焼成時の砂目痕がある。929 は直径 8.8cmの底部で，底を削って碁笥底状となっている。内外とも釉が溶けており，底には目痕がみえる。

**皿（第 122 図 930）**

緑釉皿である。底径 3.8cmの平底で，切り離しは糸切りである。外面は露胎で，内外に目痕がある。

**茶碗（第 122 図 931）**

建窯産天目茶碗の底部で高台を削り込み底径 3.0cmの平底風にしている。内面に厚く釉がかかっている。

**甕（第 123 図 932～938）**

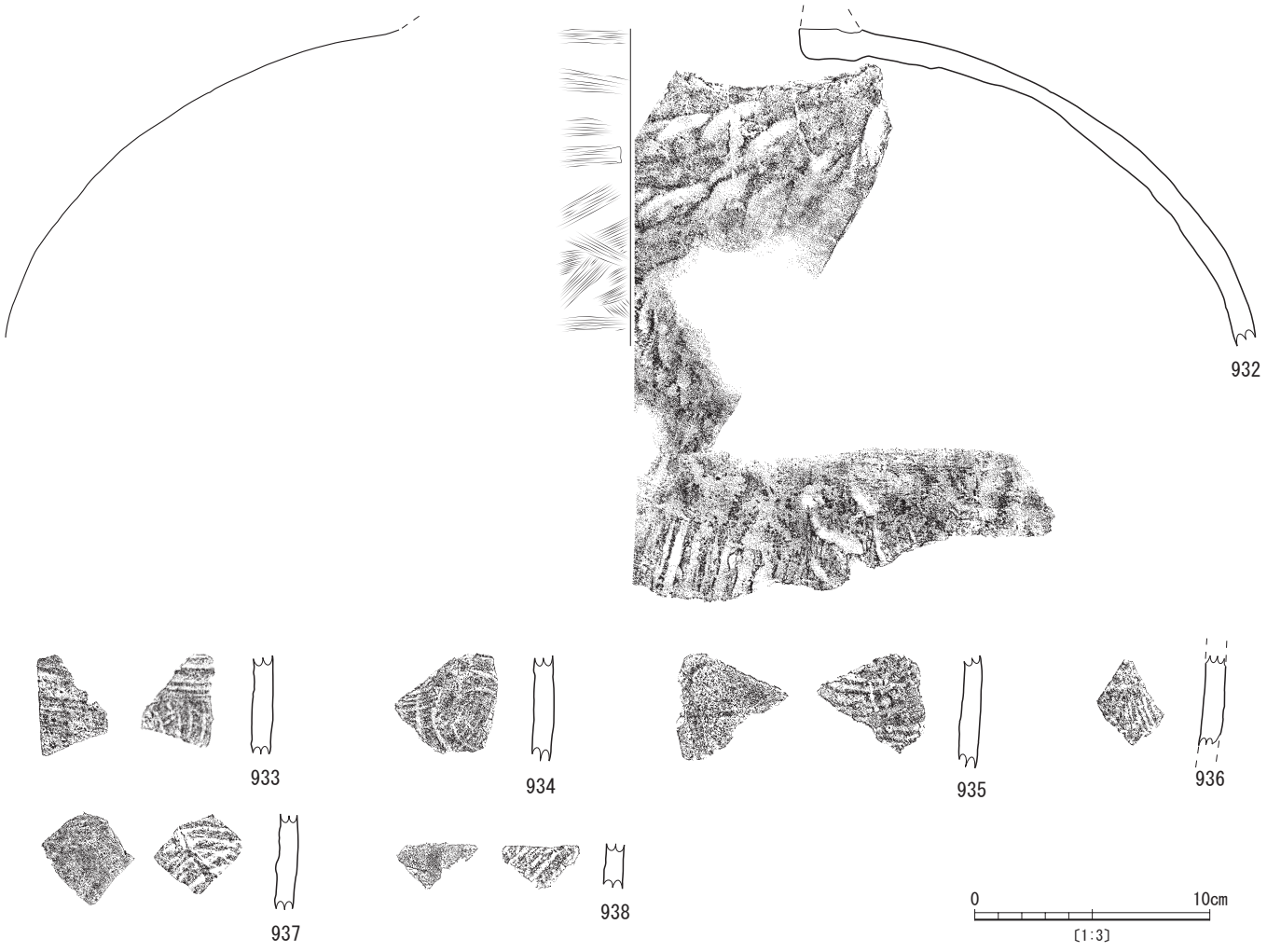
同一個体の無頸壺形甕である。932 は頸部から肩部の破片で，頸部の直径は 19.7cmである。口縁部は折り返す作りで，口縁部上面は 2.5cm幅剥脱している。外面タタキは条痕で，内面の当て具痕は上半が条痕，下半が同心円である。12 世紀末～13 世紀初頭のものである。

**(7) 土製品**

土錘・円盤形土製品・ふいごの羽口などの土製品がある。

**土錘（第 124 図 939）**

円筒状の土錘が１点出土している。断面が 2.9cmの円形を呈し，長さは 3.3cmと短い。直径１cmの孔があいており，重さは 29 ｇである。ヘラでナデており，角はつぶ




第 123 図　中国製陶器（２）

している。軟質に焼け，灰白色を呈する。

**円盤形土製品（第 124 図 940～947）**

直径 1.8cmの小さいものから直径９cmほどの大きなものまで大小様々の円盤形土製品がある。この中には孔をうがったものもある。いずれも土師器の小皿や坏の破片を再加工したものである。

940～942 は直径 1.8～3.4cmの小形のものである。

940 は直径 2.2 × 2.3cmの略円形で，厚さ 0.8cmである。上下面・周辺とも摩耗している。941 も直径 1.8cmの円形のもので，上下面・周辺を丁寧に磨いている。厚さは 0.6cmほどと薄い。942 は坏の底の周辺を打ち欠いて，形を整えているもので，直径が 3.4cm，厚さが 0.4～1.2cmである。

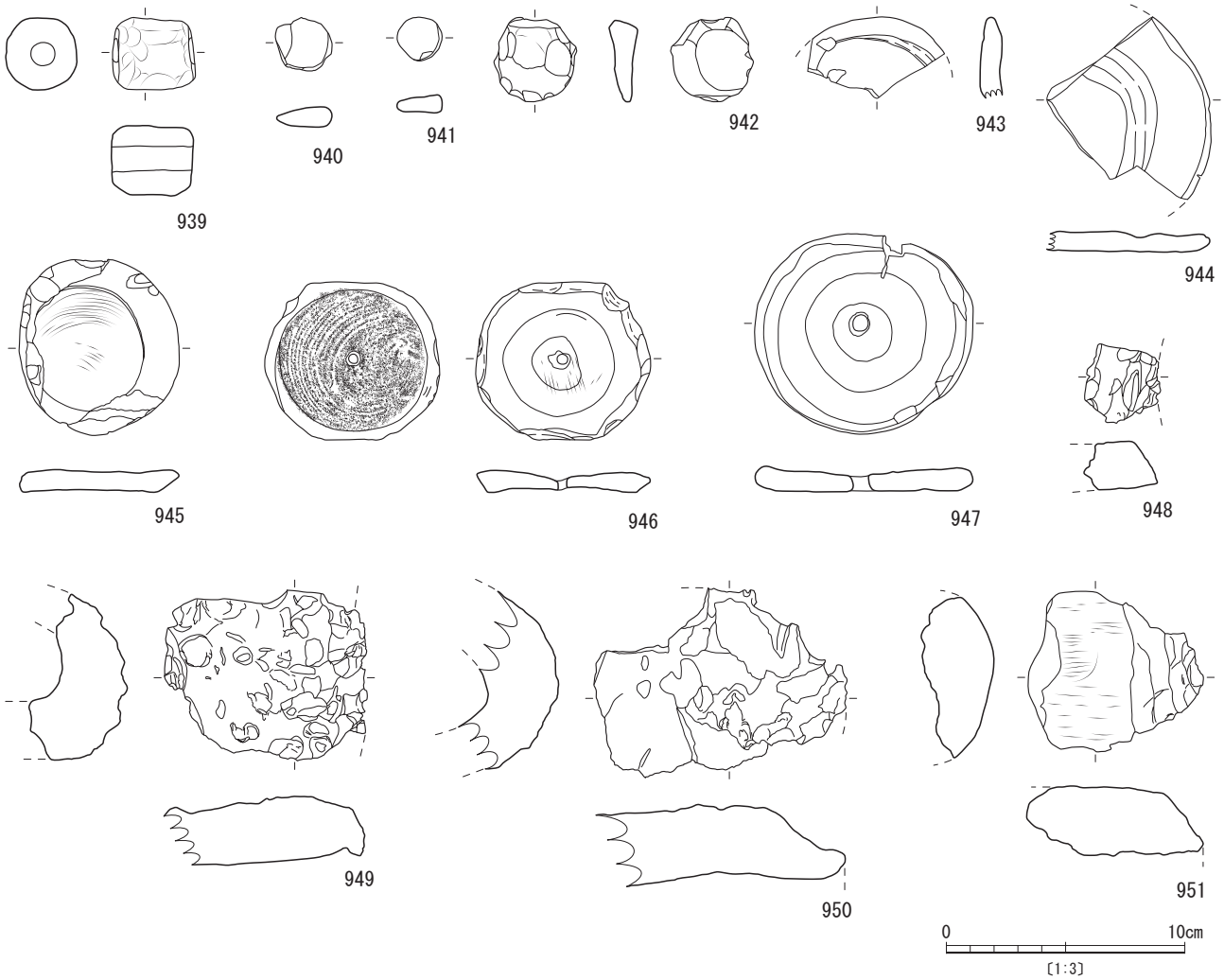
943～945 は直径が 7.5～11cmのものである。943 はヘラ切底の坏底を再利用した４分の１ほどの破片で，周辺は丁寧に研磨している。944 は坏の底を再利用しており，周辺・表裏とも摩耗が目立つ。直径は約 11cm，厚さは 0.8cmある。945 は 5.7 × 7.5cmの楕円形をしており，ヘラ切り底の周辺を打ち欠いたあと，研磨して形を整えているが，摩滅が目立つ。

946 と 947 は円の中央に孔のあいたものである。

946 は径が 6.5～7.3cm，厚さが 0.5～0.9cmある坏の底の周辺を打ち欠いたあと，周辺を丁寧に研磨して形を整えている。坏の底は糸切り離しである。橙色を呈しているが，一部はにぶい赤橙色を呈している。947 も坏の底の周辺を打ち欠いて形を整えたもので，周辺や穿孔部の痕も丁寧に研磨している。径が 8.4～9.1cm，厚さが 0.7～１cmあり，孔径は 0.6cmである。切り離し部ははっきりしないが，内面にコゲの痕跡があり，本来灯明皿として使われたものと考えられる。

**ふいごの羽口（第 124 図 948～951）**

破片が 12 点出土した。この中には，接合できなかったが同一個体と考えられるものがある。図化できたものは，いずれも火口に近い先端近くの破片である。孔径は約 3.5cm，外径は９cmほどである。外面先端部は鉄分の溶解したものが付着しており，やや内側は白っぽい灰色を呈している。内面は橙色，そのまわりは赤黒色を呈している。外面調整はヘラナデである。




第 124 図　土製品

### (8) 石製品

#### 滑石製石鍋（第 125 図 952～964）

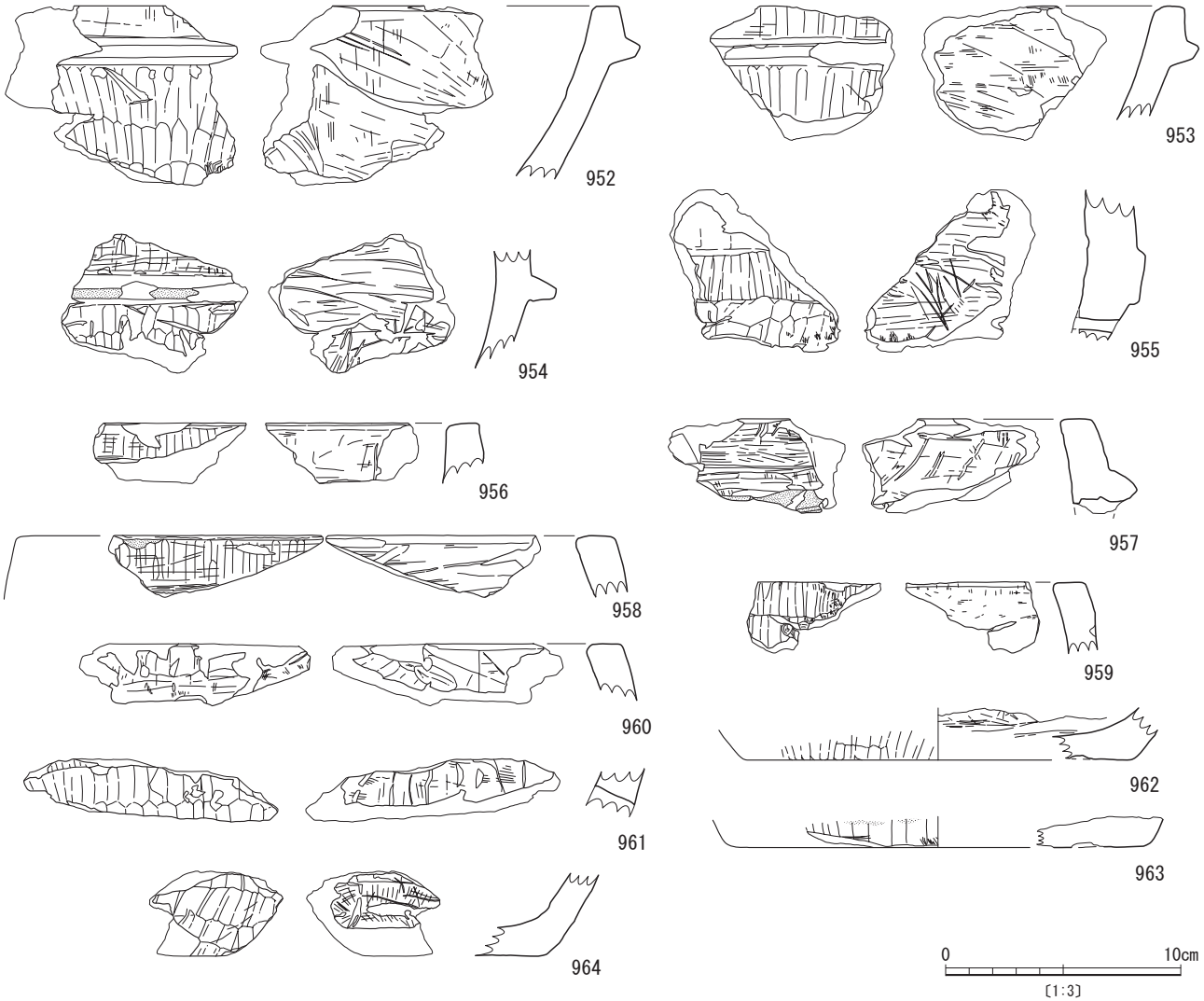
滑石製石鍋は 71 点出土しており，そのうちの 13 点を図化した。全て破片であって，分布は谷周辺の 29・30 区に多く，21・36・37 区に点在する。

952～960 は，口縁から鍔にあたる部分であり，952～956 は鍔から口縁にかけて直立するもの，957～960 は内湾するものである。大きさは，957 が推定径 14cm前後とやや小型で，958 は口径 26.2cm，その他は概ね口径 20～25cm程度のものとみられる。鍔は，952，953 は断面形が不整な台形を，954 はやや下に傾いた形状をしている。955 は幅広の鍔であったとみられるが，再加工で削り落としている。961 は胴部，962～964 は底部であり，底径は，962 が 16.5cm，963 は 18cmである。調整は，外面は縦方向のノミ痕で，鍔から口縁にかけては，さらに横方向の擦痕がみられる。内面は縦横方向，主に横方向の擦痕がみられる。954，957 は鍔～胴下に，961～963 は胴部にススが付着している。また，955・961 には穿孔があり，959 では穿孔途中の凹痕がみられる。

#### 滑石製石製品（第 126・127 図 965～984）

滑石製石製品は 34 点出土しており，そのうちの 20 点を図化した。分布は石鍋同様，谷周辺の 30・31 区からほとんどが出土している。基本的に石鍋破片からの再加工品とみられる。

965～968 は，バレン状を呈する。大きさは 1.9～9.7cm，形状は台形や楕円形と様々で，965 と 966 は摘み部に横方向の穿孔がある。969 は，ひょうたん形を呈し全面に細かい再調整が施されるが，表面左下部に石鍋の面を若干残している。970～975 は，錘や温石などの用途が考えられるものである。970～973 は，上方に 1 か所穿孔があり，970 は，石鍋の口縁を下にして鍔を削り落として再利用している。971 は，石鍋の底部を用いており，表面右半部にススが残存している。972 は，穿孔部に鉄屑のようなものが付着する。974 は，上下を欠損しているが両側縁中央に幅 1～2㎜，深さ 1～2㎜の溝が巡っているのを確認できる。973 は，表面にススが付着した石鍋面




第 125 図　滑石製石鍋




第 126 図　滑石製石製品（1）

を残し上下を再加工して方形に仕上げている。その他，976 はほぼ全周を，977 は片方の縁辺を薄く加工したもので，976 は表面中央に石鍋面を残している。978～983 は，加工によって不整三角形または四角形などにしている。981 は，上部の一端に抉り部をもつ。984 は石鍋の胴部片で，器面に尖った道具による線刻画（見返りの鹿か？）が彫られている。胴体を横方向の一本線，そこから下方に伸びる４本の脚，そして強調された角と目を描いた横顔を表現している。なお，裏面左側には幅２～３㎜，深さ２㎜の縦方向の溝もある。




第 127 図　滑石製石製品（２）

**砥石（第 128～130 図 985～1006）**

22 点図化した。Ⅱ層出土のものを主として，概ね中世の砥石であると判断した。大別して，３つに分類した。

**１類**　985～991 の７点は，横断面が略正方形を呈する角柱状の置き砥石であり，胴中央部が砥ぎ減りして内湾した作業面をもつ。985 が完形である他は折れ面を留める。砥ぎ面は基本的に４面であり，985・987 の作業面には敲打痕もみられ，985 では発達した窪みを呈する。他，988 は縦方向の線状痕が顕著なもので，著しく被熱している。幾つかに分断したものが接合し，図上，断片ａの正面に新たな砥ぎ減りと，断片ｃの折れ面にも砥ぎ痕があり，再利用が認められる。また，似通ったもので，990 の下端折れ面にも砥ぎ痕がみられる。石材は砂岩が占め，990 のみ木目模様の流紋岩である。

**２類**　992～997 の６点は，方形または長方形として扁平を呈するものである。表裏を作業面として欠けたものが多く，992・993 には片減りがみられ，992 はその折れ面が磨られている。他，994 の右側面には，両面から「施溝分割」を行った段違いの切り込みが見受けられ，主に裏面から深い溝が入っている。石材は 992～994 が木目模様の目立つ白色の流紋岩だが，993・994 は被熱赤化著しい。995 は軟らかい流紋岩質の砂岩である。

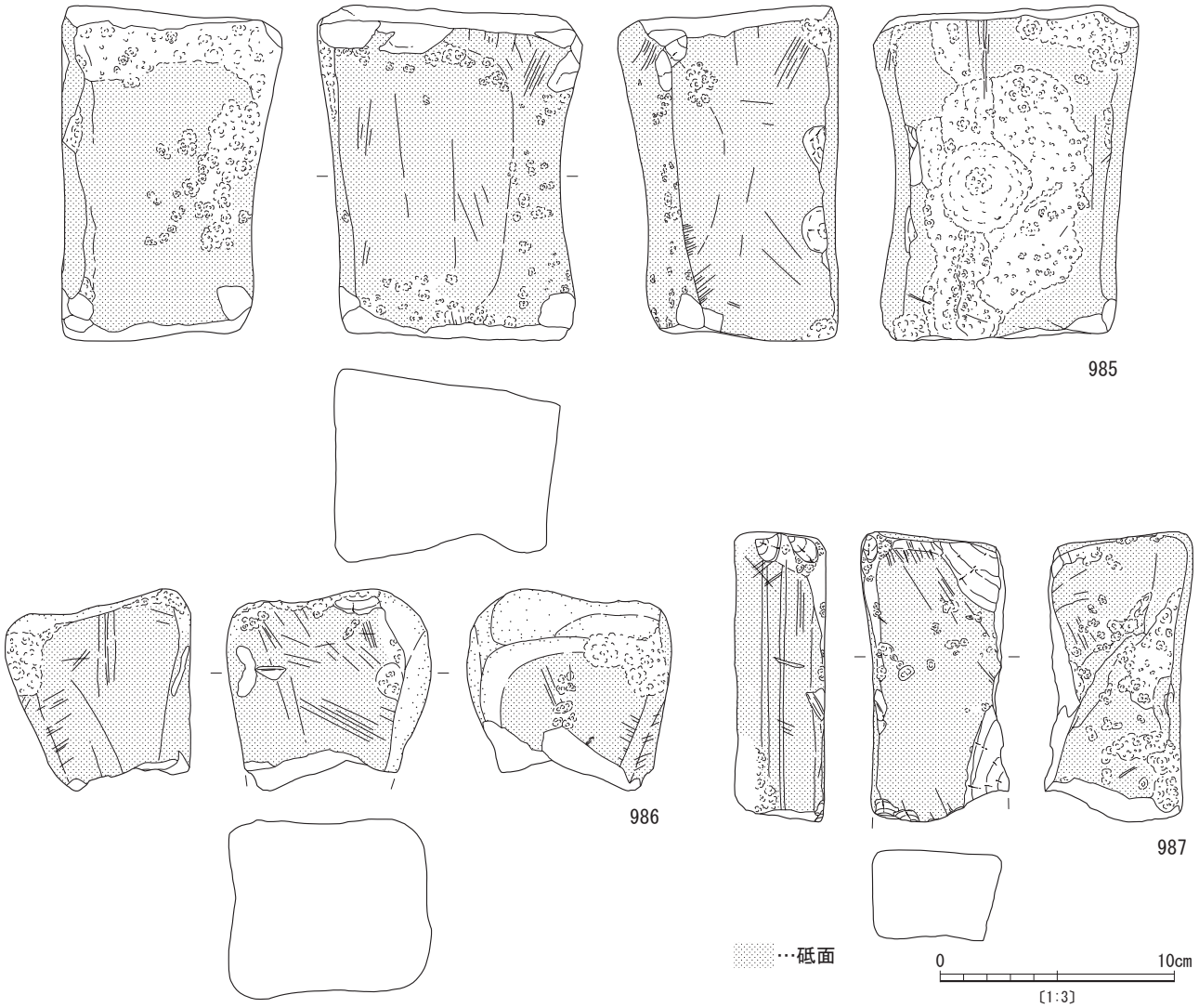
**３類**　998～1006 の９点は，長さ５㎝前後の大きさで残存する小型薄手の部類である。いずれも表裏を作業面として，一端か両端を欠くが，999 は斜行した折れ面が磨られている。これらのうち，1003～1006 は側面の角が落ちており，特に，1004～1006 の３点は，表裏の作業面がやや丸みを帯びた特徴をもつ。石材では白色の流紋岩はみられず，主として 1000・1002～1006 が砂岩であるほか，998・999・1001 は粘板岩を用いている。

**その他の石製品（第 130 図 1007）**

1007 は凝灰岩製で，手水鉢等の縁破片の可能性がある。

**軽石製品（第 130 図 1008～1011）**

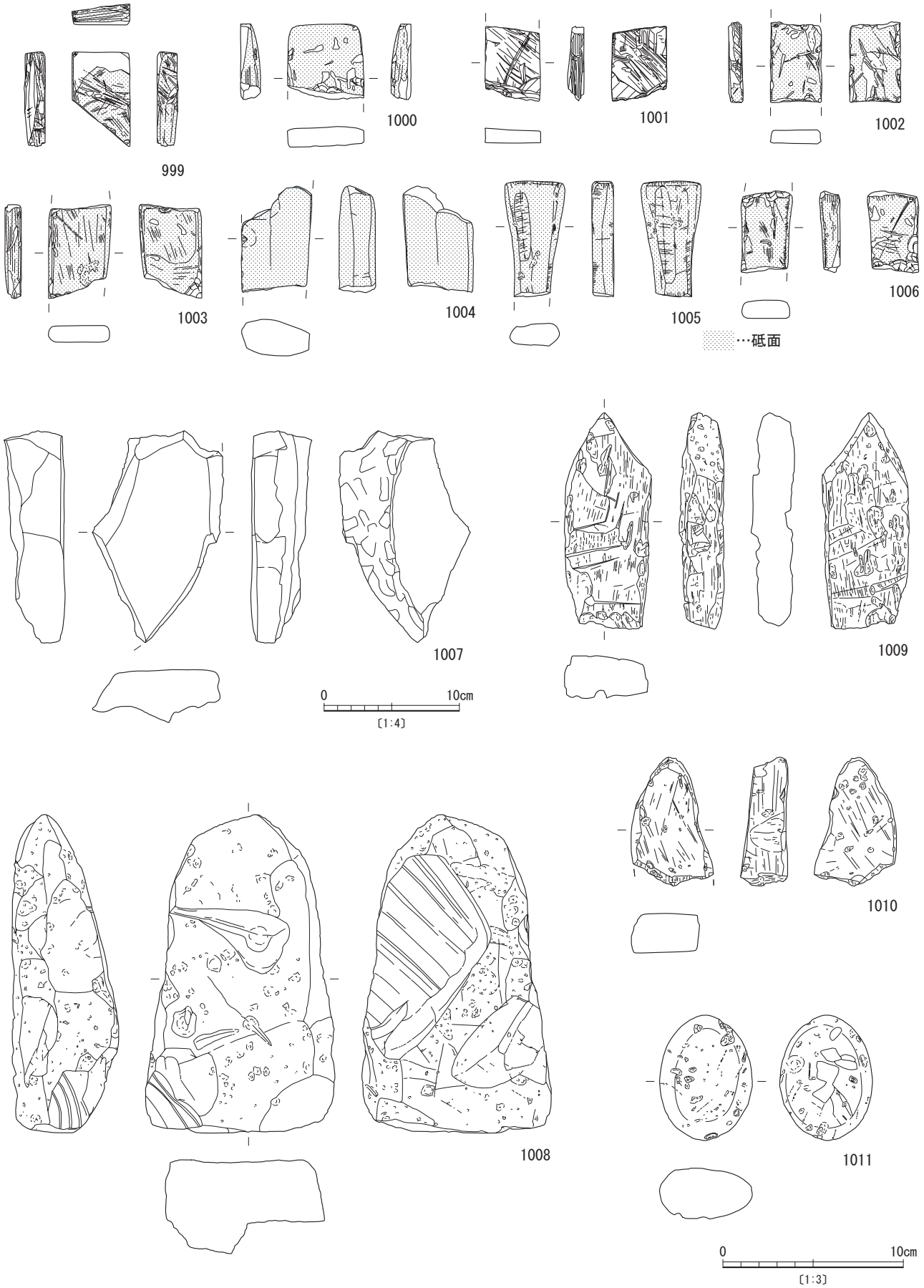
1008～1010 の大小３点は，いずれも端部を切り妻形に尖らせた角柱状を呈し，雑な整形により板碑様に形作られたものである。1011 は楕円形に整形されている。



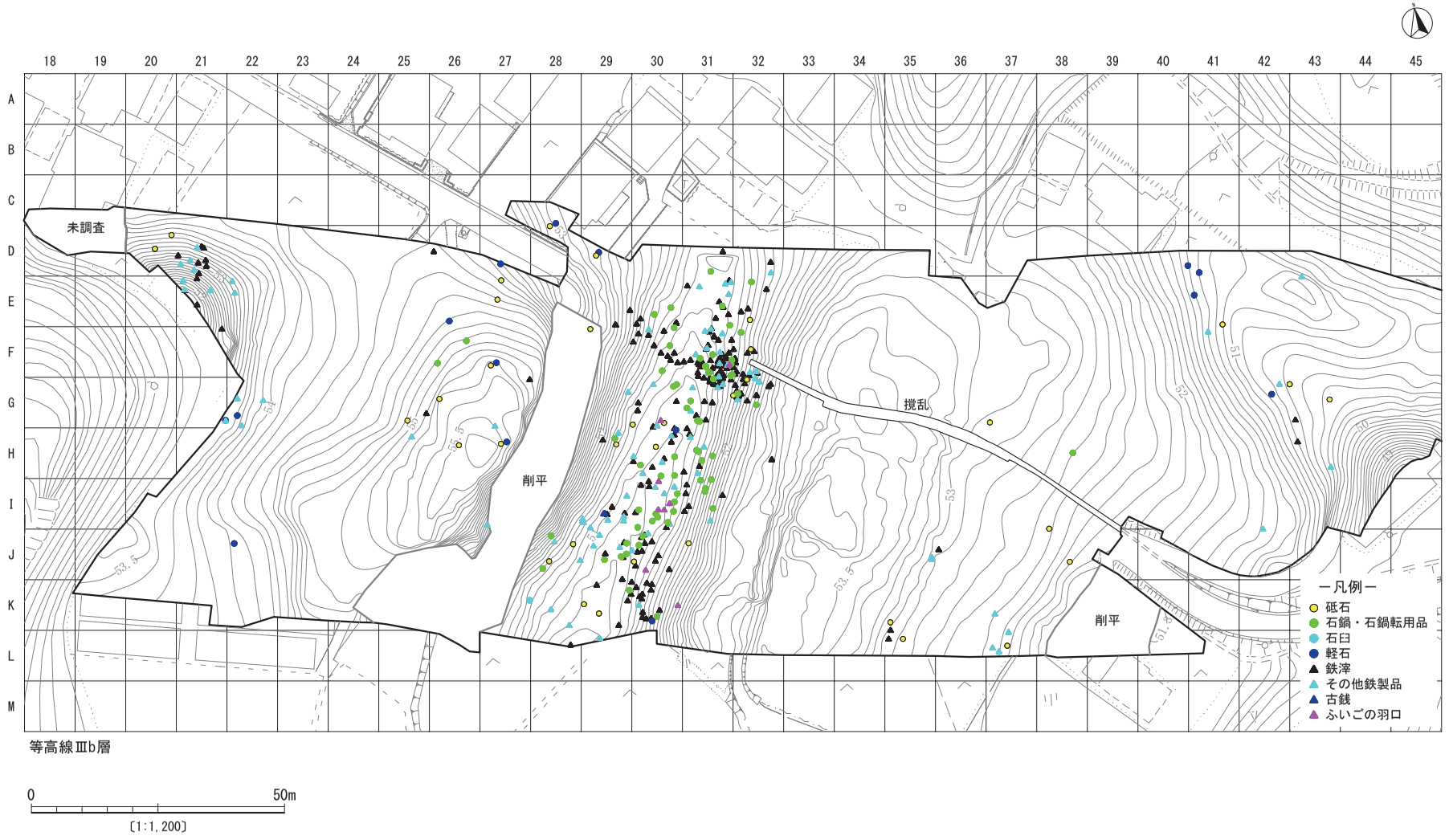

第 128 図　砥石（１）




第129図　砥石（2）




第 130 図　砥石（3）・石製品・軽石製品




第131図　石器・石製品・金属製品分布図

### (9) 鉄製品（第 132 図 1012～1033）

22 点が出土しているが，破損品が多く，用途のはっきりしないものも含まれる。種類には刃器様鉄製品・刀子・小刀・鏃・棒状鉄製品（鏃？）・環・板状鉄製品・釘・鍋（？）・埦型滓などがある。

1012 は鎌状の形をした薄い作りの刃器様鉄製品である。背部は鎌の背のように外反しているが，厚さは 2.5㎜しかない。刃先は欠けているが，鋭い刃をもつ刃部は内弯しており，刃先近くで屈曲して上へ向かって伸びている。刃の幅は 2.3cm，残存長は 4.8cmである。

1013～1015 は刀子である。1013 は身の先端部を欠いた残存長 9.8cmの破片である。錆化が進み，錆ぶくれなどのため刃部がはっきりしないが，幅は 1.1cmである。柄部との境もはっきりしないが，柄部の長さは約 1.8cm，幅 0.6cm，厚さ 0.7cmである。1014 は刃部のみの破片で，残存長 5.3cm，幅 1.4cm，背の厚さ 0.2cmである。1015 も刃部のみの破片で，残存長 4.8cm，幅 1.8cm，背の厚さ 0.3cmである。

1016 は小刀で刃先が欠けている。身部と柄部の境付近で折れ曲がっている。残存長は 13.7cmで，刃部の幅 2.5cm，背の厚さ 0.4cmで，柄部は長さ 3.5cm，幅 1.2～1.5cm，厚さ 0.35cmである。

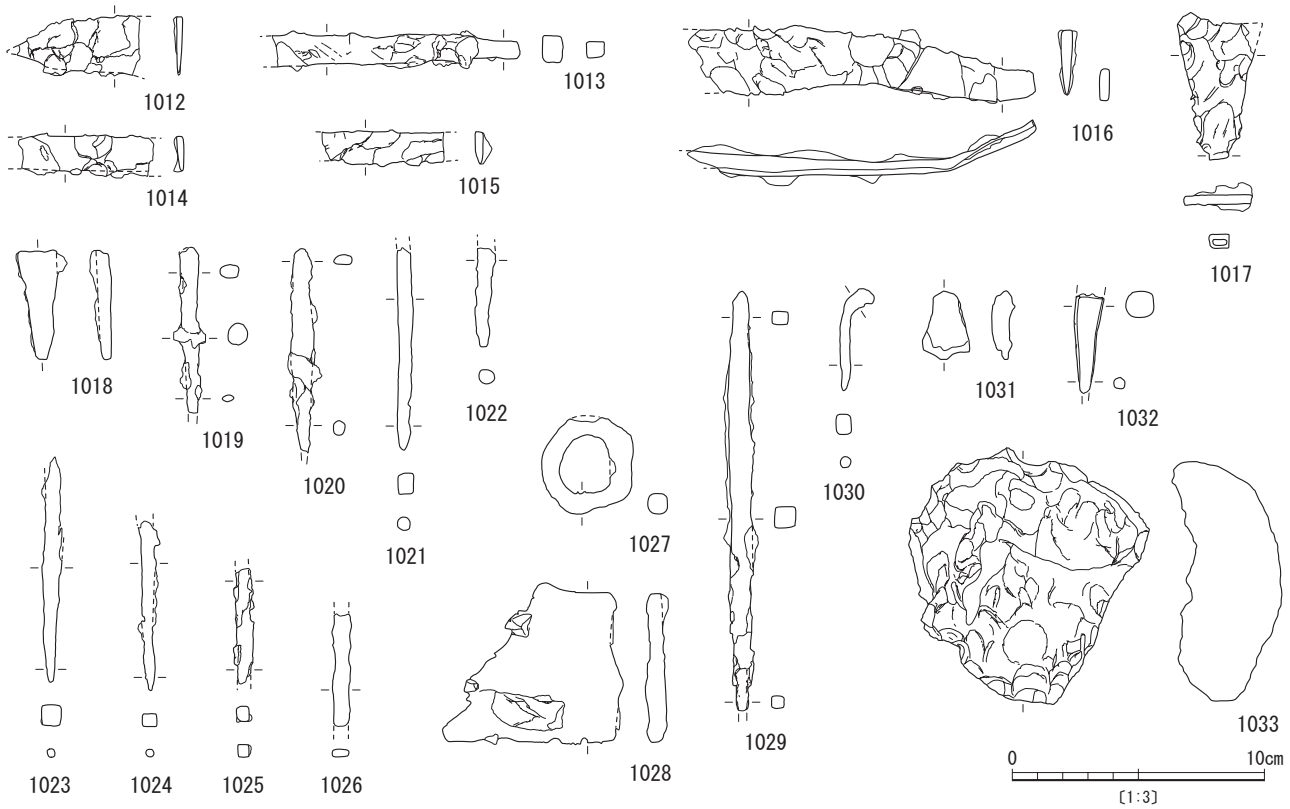
1017～1024 は鏃である。1017 は茎部を欠いているが，残存長 5.5cm，先端幅 2.5cm（想定 3.3cm），厚さ 0.3cmである。わずかに残っている茎部は長さ 0.3cm，幅 0.8cm，厚さ 0.55cmで袋状になっている。1018 は長さ 4.3cm，最大幅 1.6cm，厚さ 0.5cmの圭頭鏃である。1019～1024 は茎部が断面方形をし，末端が丸みをもつ丸根系鉄鏃である。いずれも身部を欠いている。1019 は長さ 6.55cm，幅 1.3cm，厚さ 0.5cmの先端がゆるやかな三角形を呈する細形平根のもので，断面は身部が扁平な略方形，茎部が楕円形を呈している。身部と茎部の境には茎 0.8cmほどの鍔状のふくらみがある。1020 も 1019 と同じような形状をしており，長さ 8.0cm，幅 0.9cm，厚さ 0.4cmで，身部の断面は扁平な楕円形である。1021 は残存長 8 cm，断面は一辺 0.5cm，先端近くは径 5 cmである。1022 は残存長 3.9cmで，断面は錆化が進んで，丸みをおび，径 5 ㎜ほどとなっている。

1023 は残存長 8.9cm，断面は一辺 0.8cmと太いが，基部近くは径 0.3cmほどしかない。

1024 は残存長 6.7cm，断面が一辺 0.5cmで，基部近くは径 0.3cmほどである。

1025・1026 は断面が矩形となる棒状鉄製品であるが，形状や大きさからして，1019～1024 と同じく，末端が丸みをもつ丸根系鉄鏃であろうと考えられる。1025 は残存長 4.5cm，断面 0.5cm，1026 は残存長 4.4cmで，断面は錆化が進み 0.3cm× 0.6cmしかない。

1027 は環である。内外とも錆化が進んでいるが，完形である。外周径約 4 cm，内周径 2 ～2.2cmで，身部の直径は 0.8cmである。




第 132 図　鉄製品

1028 は板状鉄製品である。平面形は台形をしており，上辺３㎝，下辺７㎝，高さ６㎝である。厚さは 0.9㎝と分厚い。各辺とも直線ではなく，幾分か屈曲している。

1029 は茎部が一部欠けているが，長さが 16.6㎝ある先端が鑿状を呈するもので，先端部の断面は幅６㎜，厚さ５㎜の長方形，身部中央は８㎜四方の方形断面である。茎部は５㎜四方の断面である。用途は不明である。

1030 は錆化が進んでいるが，角釘と考えられる。残存長４㎝で，摩耗して現状では径 0.4㎝ほどの円形の断面をしている。頭部は 0.6 × 0.8㎝の角形を呈している。

1031 は長さ 2.7㎝，最大幅 1.8㎝，厚さ 0.7㎝ほどの平面が台形状を呈したもので，内外断面が弧状を呈していることから鉄鍋の可能性がある。

1032 はくさび状を呈しているが，先端が 1.1㎝四方の隅丸方形を呈している。両端が欠けている可能性があり，残存長 3.9㎝である。茎部断面は 0.45 × 0.5㎝の円形を呈し，重さが 7.9 ｇである。

1033 は埦型滓である。径が 9.5 × 10㎝ほどの略円形を呈し，厚さは４㎝，重さは 480 ｇある。上部がややへこんでいる。

**（10）渡来銭（第 133 図 1034～1043）**

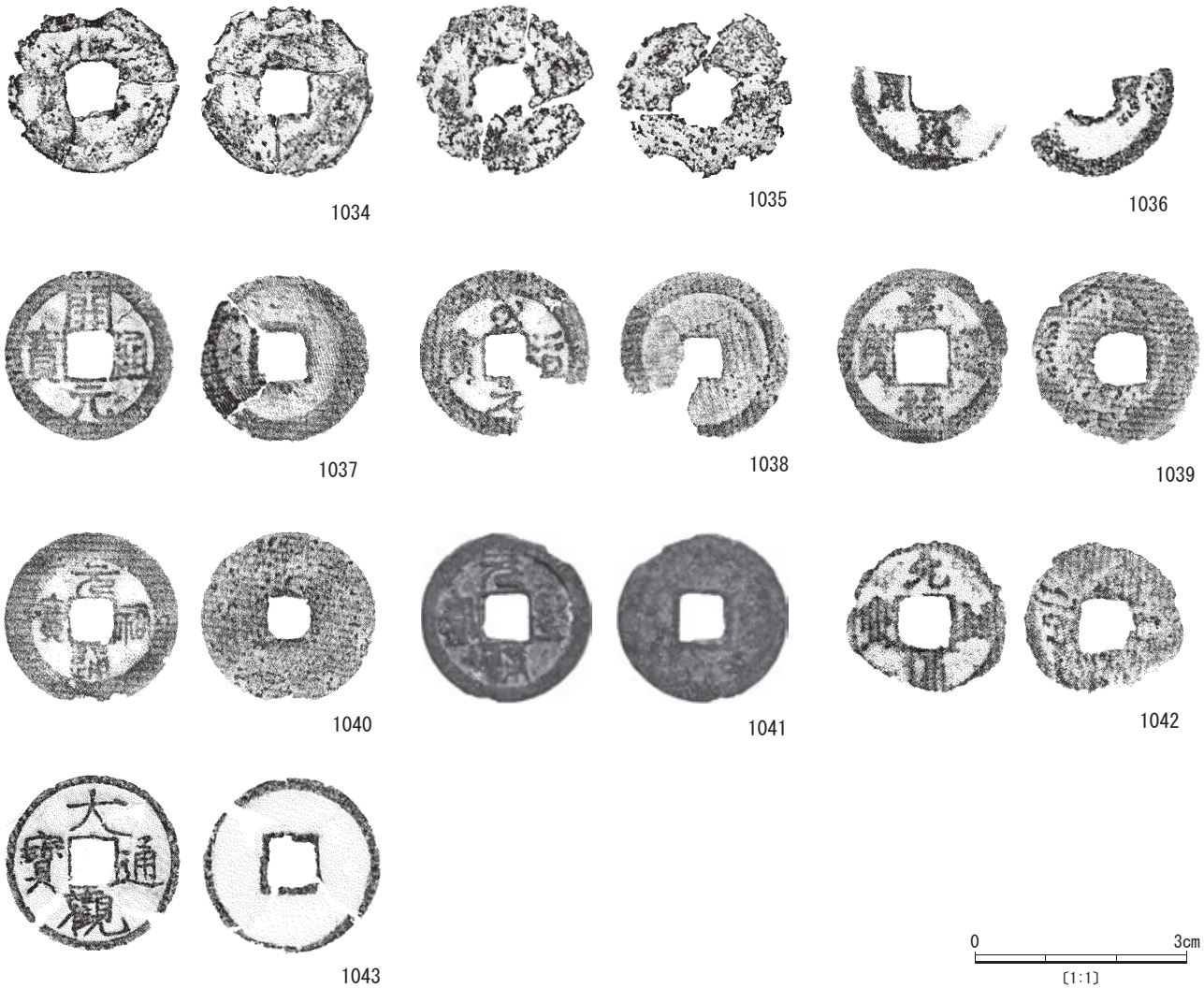
中国製古銭は祭祀遺構２号から 13 点出土しているが，その他に４か所で 10 点出土している。

1034～1036 はＪ－ 35 区Ⅲａ層でまとまって出土した。いずれも摩滅したり，破損しており，字が読みとれない。出土状況からして祭祀遺構の可能性がある。

1037～1041 はＩ－ 29 区Ⅱｂ層で集中して出土した。開元通寶（初鋳 960 年）・至道元寶・（初鋳 995 年）・嘉祐通寶（初鋳 1056 年）・元祐通寶（初鋳 1086 年）・元豊通寶（初鋳 1078 年）である。元豊通寶には朱が付着している。これもなんらかの遺構に伴った可能性がある。

1042 は元祐通寶かと思われ，近世の道跡で出土している。裏面に木片らしきものが付着している。

1043 はＦ－ 25 区で採集された大観通寶（初鋳 1107 年）である。




第 133 図　渡来銭

## 第３節　近世の調査

近世の遺構は，第２地点の東側にはみられず，Ⅰ－33区付近の標高53.7ｍを頂点とする中央小丘陵周辺と，Ｇ・Ｈ－26・27区の標高56.2ｍを頂点とする西側小丘陵周辺に偏在する（第135図）。中央小丘陵周辺では，東側斜面に溝状遺構１条と西側斜面に柱穴１基がある。西側小丘陵周辺では，南側斜面に溝状遺構２条と土坑１基・土坑墓５基，西側斜面に溝状遺構３条が分布する。また，西側小丘陵の頂部付近には，時期不明の溝状遺構３条が検出された。一方，西側小丘陵の南側斜面から東側斜面にかけて，Ｊ・Ｋ－24～26区及びＥ・Ｌ－27・28区付近では，中世末以降の造成により３段地形に改変を受けており，１段目は現代の，２段目は近世の，３段目は中世末から近世の造成面と考えられ，Ⅱ～Ⅳ層が残存しない状況がみられる。また，調査区随所で中世末から近現代における削平か所が見受けられ，近世包含層の残存状況は良くない。

西側小丘陵頂部の北側斜面には，発掘調査前は祠が祀られ，小規模ながらも鎮守的な景観が広がっていたが，この空間がいつまでさかのぼれるかは不明である。西側小丘陵と中央小丘陵の間には，Ｄ－31区からＬ－28区へかけて，南北方向の谷筋が通っている。遺構内遺物で流れ込みとみられるものや包含層遺物の中には，中世末以降の造成の際に，祠が祀られた区域から流れ込んだり，廃棄されたものもあると考えられる。

次に，土坑墓５基からはそれぞれ人骨が出土しているほか，遺構内遺物では，土師器１点，東播系須恵器１点，薩摩焼５点，青磁３点，白磁１点，鉄製品１点，古銭34枚（計46点）が出土した。包含層からは，肥前系陶磁器や薩摩焼などの近世陶磁器が143点，古銭が４枚出土している。

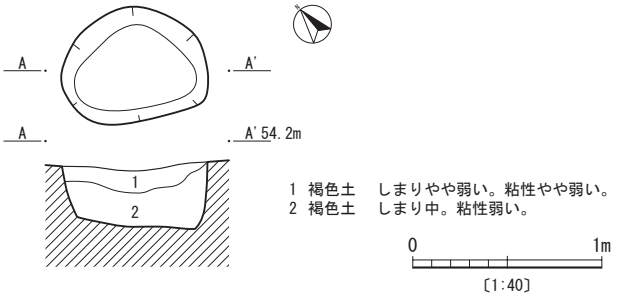
### １　遺構

#### (1) 土坑（第134図）

Ｊ－26区では，Ⅱ～Ⅶ層が近世の造成と判断される削平によりほとんど残っておらず，Ⅷ層で土坑１号を検出した。平面形は不整円形で，長径77㎝，短径61㎝，検出面からの深さは35㎝である。長軸は，南東－北西方向である。埋土は，褐色土でしまりが弱～中，粘性は弱い。遺物は出土していない。すぐ近くに近世土坑墓１～５号がある。

#### (2) 溝状遺構（第136～140図）

中近世以降のものと考えられる溝状遺構６条が検出されている。そのうち２条は，前述の近世土坑及び後述する近世土坑墓１～５号に近接して検出された。また３条は，調査区の西側微高地から調査区西外へ通じる斜面で，また１条は，調査区の中央微高地東側の斜面で検出された。検出状況と埋土状況，遺構内遺物から，近世の遺構として溝状遺構１～６号を掲載する。その他，時期が明確でなく，中世といった可能性も残る７～９号を，溝状遺構の一部として併せて掲載する。




第134図　土坑１号

**溝状遺構１号（第136図）**

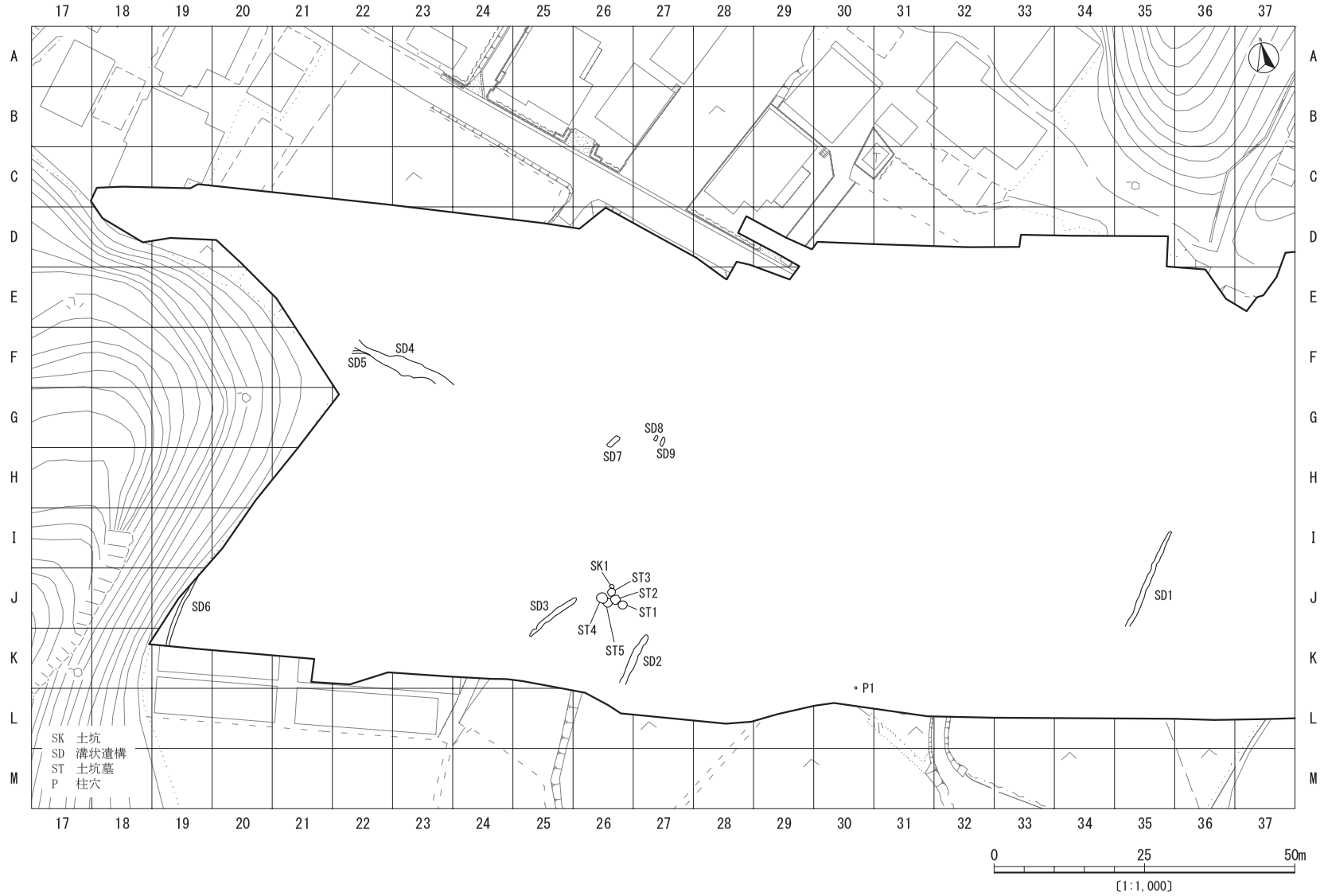
Ⅰ・Ｊ－35区のⅢａ層で検出した。確認された長さは17.5ｍ，幅1.0ｍ，検出面からの深さ18㎝である。標高53.2ｍの等高線に沿うように，おおよそ北東－南西方向（Ｎ35度Ｅ）に一直線に走っている。埋土は，Ⅲａ層よりわずかに明るい黒色土に，池田降下軽石，アカホヤ火山灰が微量に混じる単層である。遺物は，流れ込みと考えられる弥生土器片が出土している。周辺には中世の掘立柱建物跡９号などの掘立柱建物跡が検出されている。

**溝状遺構２号（第136図）**

Ｊ・Ｋ－27区のⅥ層で検出した。確認された長さは9.1ｍ，幅1.2ｍ，検出面からの深さ20㎝である。北東－南西方向（Ｎ41度Ｅ）へ伸びており，遺構南西側は調査区外の崖面へ続くと予想される。また，北東側は近現代の溝により削平を受けており，検出できなかったが，概ね微高地周囲の造成面に沿って，伸びていたと考えられる。遺構内からは，特に遺物は出土していない。溝状遺構２号は，中世の火葬土坑２号を切っていることと，上述の近世造成面との関係から，近世の道跡と考えられる。埋土の下層は，溝状遺構１号と同様に池田降下軽石やアカホヤを含む黒褐色土である。しかし，かかる調査区壁面の埋土上部層には，一段上の近世の造成面から流れ込んだⅡ・Ⅷ・Ⅸ層土による埋土がみられており，この造成面からは近世と考えられる薩摩焼が出土している。また，当該面のＪ－26区には近世墓が集中する。

**溝状遺構３号（第137図1044）**

Ｊ・Ｋ－25・26区のⅧ層での検出となった。切合い関係では中世土坑22号より新しい。確認された長さは10.0ｍ，幅0.95ｍ，検出面からの深さ20㎝である。東北東－西南西方向（Ｎ64度Ｅ）を軸とする。埋土は，黒褐色土で，底面にはⅧ層とみられる埋土がある。遺構に伴う遺物は出土していない。なお，Ｊ・Ｋ－25・26区付近は，中世から現代にかけての造成を受けていると考えられ，溝状遺構３号は，近世の造成と判断される２段目


17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37
A B C D E F G H I J K L M
SD4
SD5
SD8
SD9
SD7
SK1
ST3
ST2
ST1
ST4
ST5
SD3
SD6
SD2
SD1
P1
SK 土坑
SD 溝状遺構
ST 土坑墓
P 柱穴
0 25 50m
〔1:1,000〕

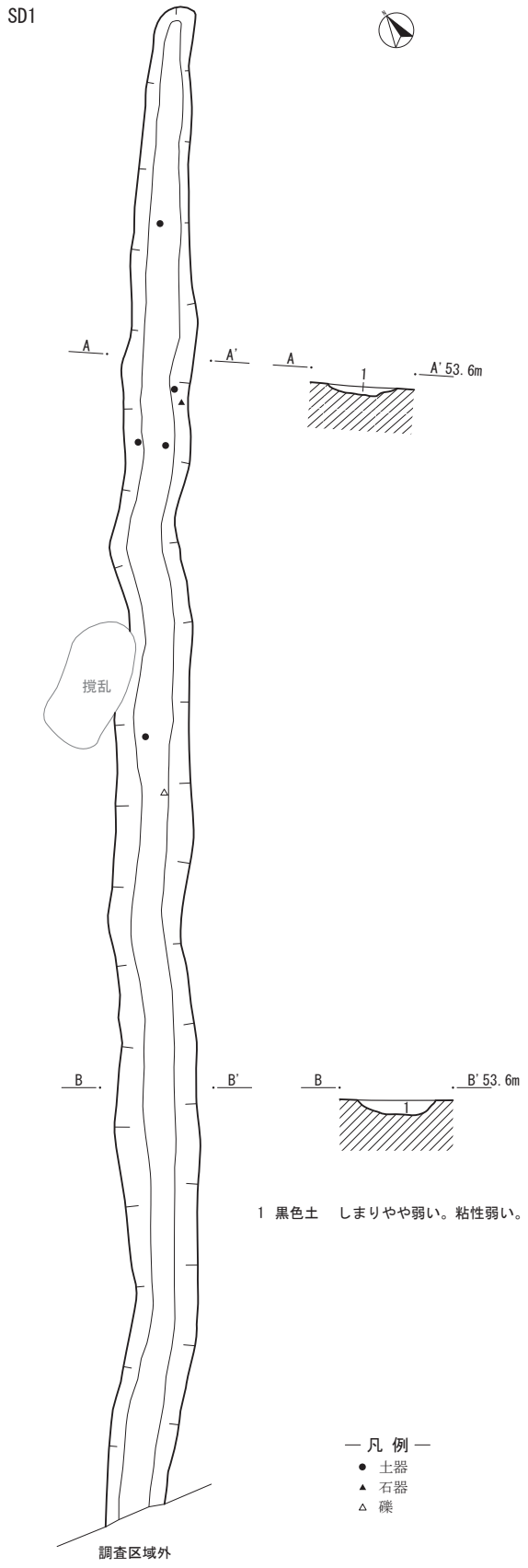
第135図　近世の遺構

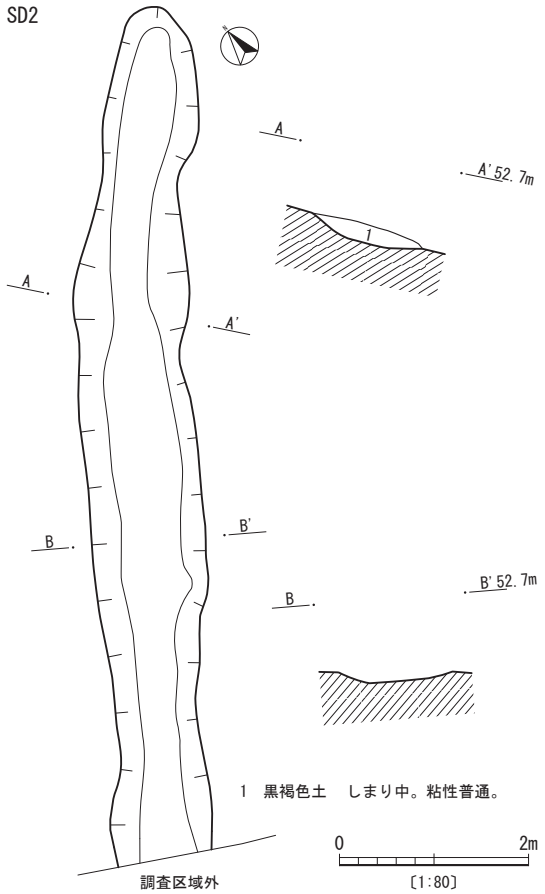
の造成面に沿って続いており，上部で染付などの陶磁器が出土していることから，近世遺構と考えられる。

1044は，底径22.0cmの苗代川系の薩摩焼で，甕または壺の胴下部から底部である。胎土は雲母，石英，小礫を含む黒色・白色・褐色粒子で，ロクロ成形されている。素地は明赤褐色，施釉部は内外面ともオリーブ黒色を呈する。

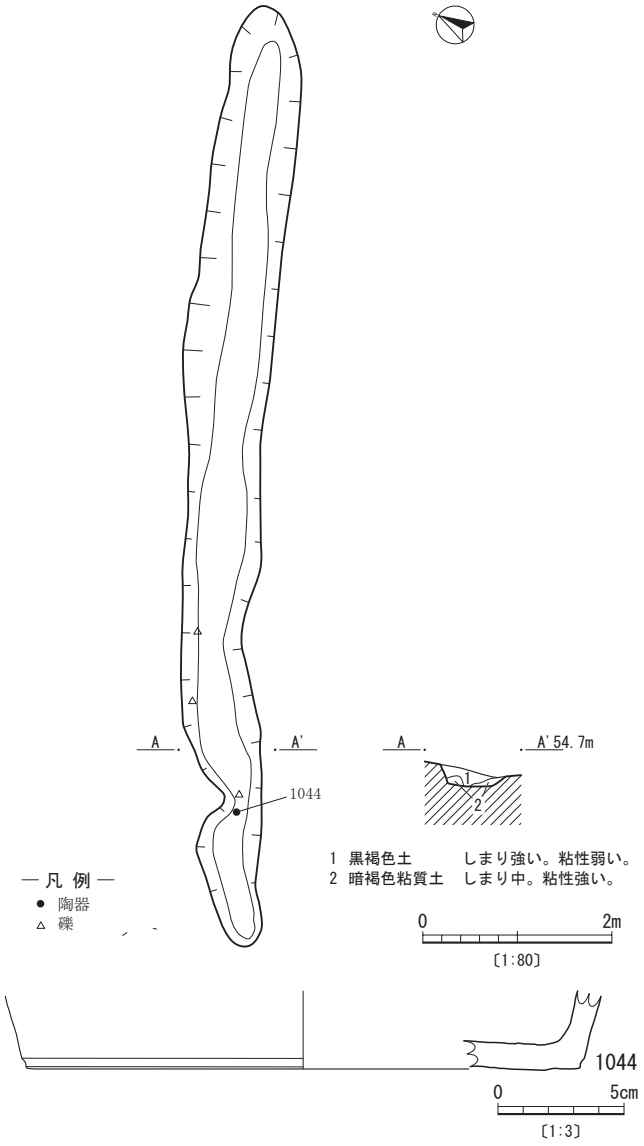
**溝状遺構４号（第138・139図1045～1049，1051，1052）**

Ｆ－22区のⅢｂ層上面及び，Ｆ－23区の表土除去後に検出した。確認された長さは20.6ｍ，上面幅2.8ｍ，底面幅2.1ｍ，検出面からの深さ22cmである。ほぼ北西－南東方向（Ｎ48度Ｗ）に伸び，等高線に直交するように微高地側のＧ－24区へ向かっている。Ｆ－23区の土層ベルトの埋土は，①層は褐灰色土で，近現代の表土の軽石を若干含むものであった。遺構上面の一部には，近世の溝状遺構５号と同一の硬化面第一面がみられ，その下部に重なり硬化面第２面が確認されている。Ｆ－22・23区境の土層ベルト断面では，自然の落ち込みにⅡ層とアカホヤ・池田降下軽石混じりの二次堆積層がみられ，現代の盛り土直下からアカホヤ層に達した掘り込みや，所々に上面で検出できなかった硬化面の痕跡がみられる




第136図　溝状遺構１号・２号




第 137 図　溝状遺構３号と出土遺物

ことから，中世末から近代に至るまで継続的に利用されていた可能性がある。その西側は，調査区外の谷へと続いているようであるが，Ｆ－ 21 区付近では検出できなかった。おそらくは，流水等で削られてしまったものと考えられる。西側の谷を下りた付近には，集落や畑等の広がりがあり，それらに通じる古道跡と推定される。

遺物は，青磁片２点，白磁片１点，土師器片１点，東播系須恵器片１点，薩摩焼１点，鉄製品１点が出土した。土師器と東播系須恵器は遺構埋土，他は遺構上層からの出土であるが，白磁片は近世の可能性がある。

1045 は，溝状遺構４号の埋土①から出土した，底径 7.8㎝の土師器の坏の底部片である。胎土は石英・雲母を含む黒色・白色・褐色粒子で，ロクロ成形され，内外ともに横方向にナデ調整，腰部は強くナデ調整される。素地は淡黄色，焼成後は内外ともに明黄褐色を呈する。1046 は，溝状遺構４号の埋土①から出土した，東播系須恵器の鉢の口縁部である。胎土は黒石・灰石・白石を含む細かい土で，ヘラで横方向にナデ調整され，軟質の焼成である。外面口縁は褐灰色，他は灰白色を呈する。1048 は，龍泉窯青磁皿の胴から高台部分である。底径 7.2㎝，胎土は灰白色の細かい土で，外底中央は露胎，厚く施釉されてオリーブ灰色を呈し，内外に貫入がみられ，高台内外に釉切れがある。1049 は，底径 6.2㎝の青磁碗Ⅲ類の底部片である。胎土は，黒色・白色粒子を含む緻密な土で灰白色，透明釉がかかり明緑灰色を呈する。1051 は，白磁碗の口縁部片である。細かい胎土で，透明釉がかかり灰白色を呈する。1047 は，口径 11.0㎝の龍門司系の薩摩焼の灯明皿の口縁部である。胎土は細かい灰色土，横方向にナデ調整され，施釉部は内面全面と外面釉垂れ部分が黄褐色，外面は部分的な露胎は灰赤色を呈す。1052 は，刃先が欠損した鉄製の鎌である。幅 2.8㎝，厚さ 3.0㎜，重量 59.2 ｇの鍛造品である。

**溝状遺構５号（第 138 図・139 図 1050）**

Ｆ－ 27 区のⅢｂ層上面で硬化面を検出した。確認された長さは 3.0 ｍ，幅 0.45 ｍ，検出面からの深さ 12㎝である。ほぼ東－西方向（Ｎ 80 度Ｗ）に伸びており，接する溝状遺構４号の硬化面第一面へと続いている。埋土は，黒褐色土の単一層であり，硬化面は何層かが合わさるように形成されている。また，西側調査区境の壁面にも同様の硬化面の断面がみられており，西側の谷部へ伸びていることから，下の集落や畑等へ下りる古道跡と考えられる。中世から近世へかけて使用されたものとみられる。

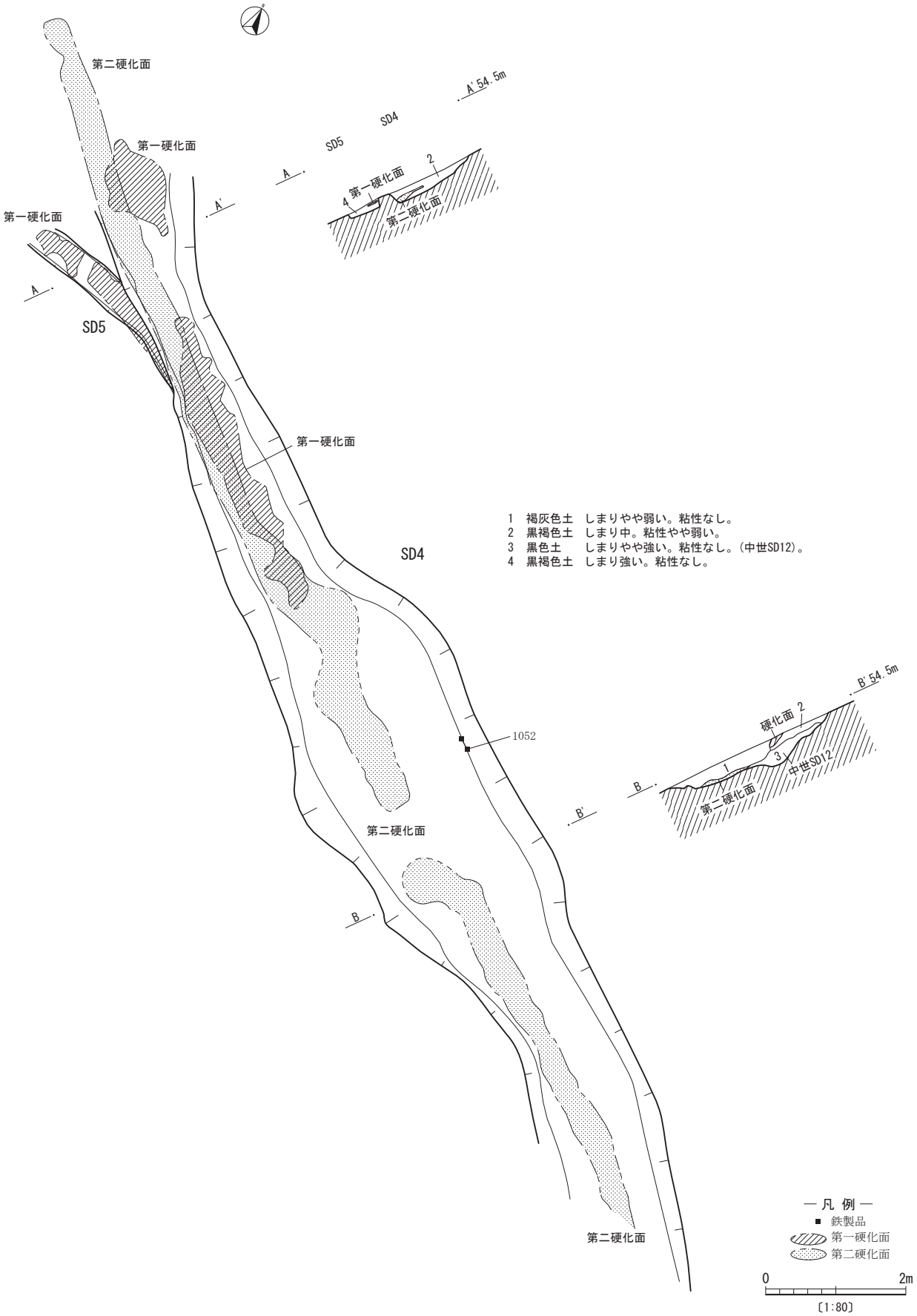
1050 は，溝状遺構５号の上層から出土した，龍泉窯青磁皿の口縁部片である。灰白色の細かい胎土で，オリーブ灰色を呈する。

**溝状遺構６号（第 140 図）**

Ｊ・Ｋ－ 19 区のⅢｂ層上面で検出した。確認された長さは 12.6 ｍ，幅 0.67 ｍ，検出面からの深さ 20㎝である。丘陵縁辺の等高線に沿うように，北東－南西方向（Ｎ 30～40 度Ｅ）に弓なりに曲がっている。埋土は２層に分層でき，①層は黒色土で上層に粒径の小さい軽石が混じり，②層は黒褐色土で極小のアカホヤ混じりである。レンズ状堆積がみられることから，自然堆積したものと考えられる。遺構内からの出土遺物はなく，崖面に沿って北東から南西に伸びていることから，畑等の区画である可能性が高い。時期は，①層に小粒の軽石が若干含まれることから，近世以降のものと考えられる。

**溝状遺構７号（第 140 図）**

Ｇ－ 26 区のⅡａ層上面で検出した。南西から北東方向へ下る溝状遺構である。確認された長さは 2.45 ｍ，幅 0.87 ｍ，検出面からの深さ８㎝である。埋土は，粘性がなくしまりが強い黒褐色土と黒色土で，レンズ状堆積をして，自然堆積と考えられる。土師器小片が出土した。



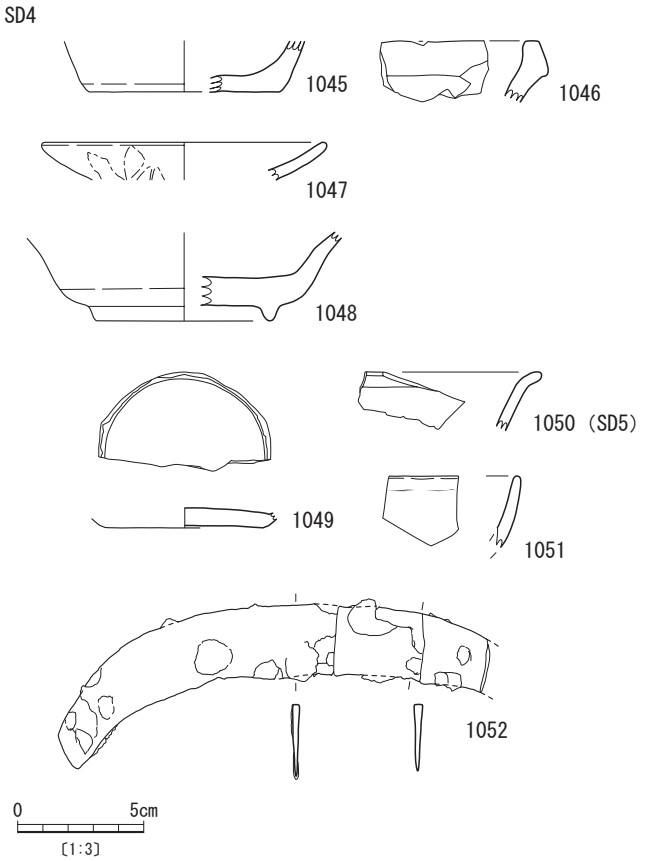

第138図　溝状遺構４号・５号

**溝状遺構８号（第 140 図）**

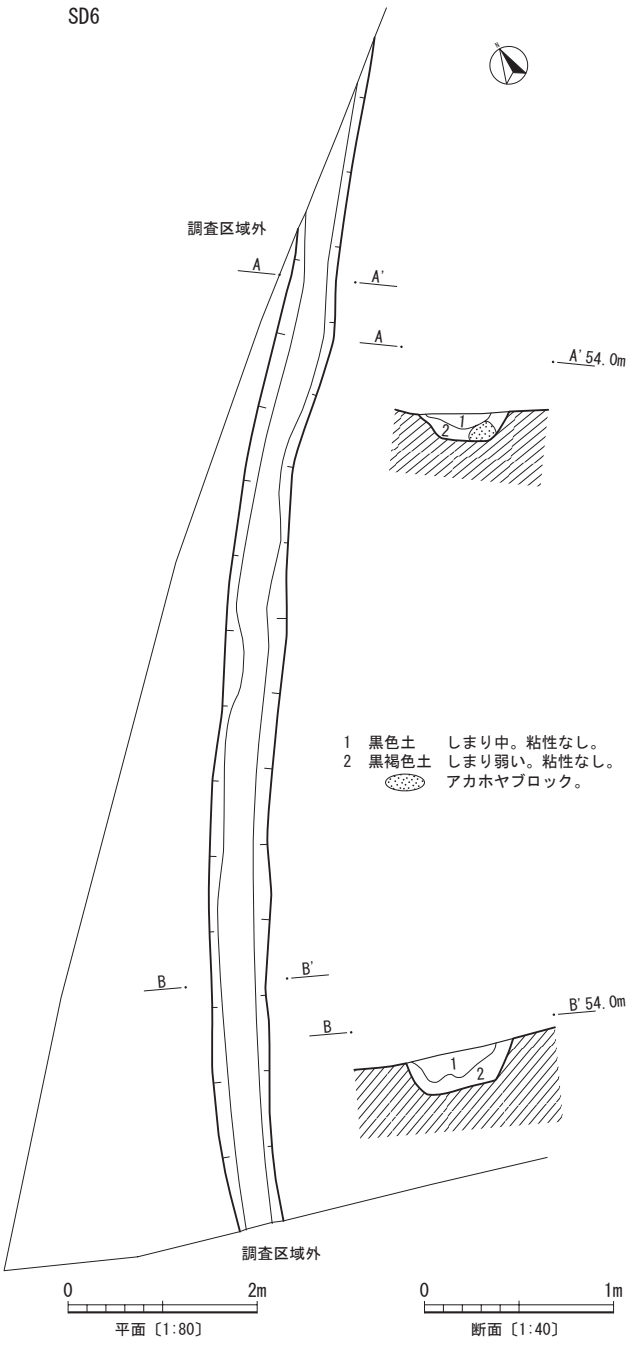
G－27 区のⅡａ層上面で検出した。確認された長さは 0.90 m，幅 0.48 m，検出面からの深さ６㎝である。埋土は，溝状遺構７号と同一で，黒褐色土と黒色土の２層によるレンズ状堆積がみられている。遺構内の出土遺物はなかった。

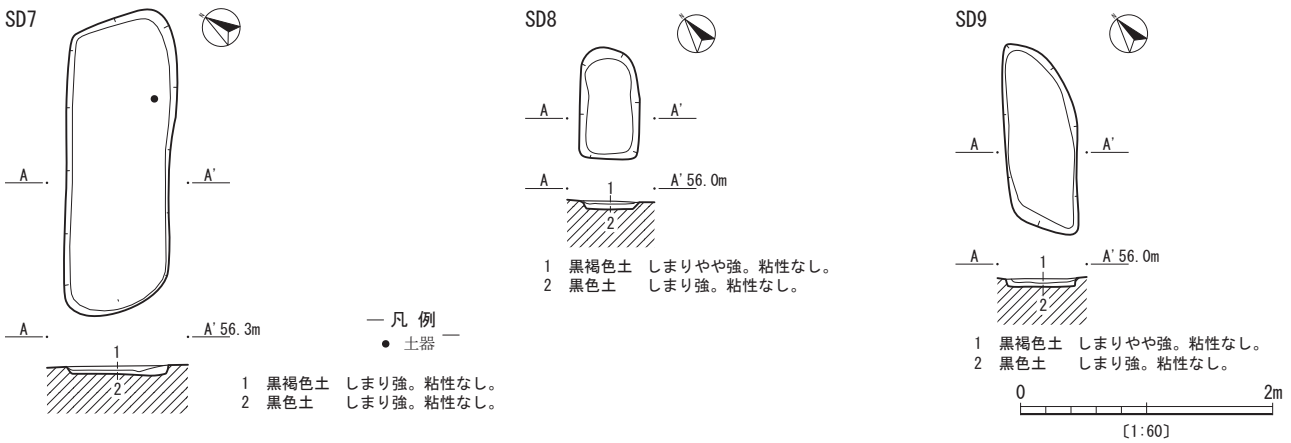
**溝状遺構９号（第 140 図）**

G－27 区のⅡａ層上面で検出した。確認された長さは 1.53 m，幅 0.58 m，検出面からの深さ７㎝である。埋土は，溝状遺構７・８号と同様の自然堆積とみられる。遺構内の出土遺物はなかった。




第 139 図　溝状遺構４号・５号の出土遺物




第 140 図　溝状遺構６号～９号

### (3) 土坑墓

近世土坑１号と同じくＪ－26区より，近世土坑墓５基が密集して検出された。そのＪ－26区では，表土及び腐植土下は，Ⅱ～Ⅳ層が中近世の造成と考えられる削平により，ほとんど残っていなかったため，いずれもⅤ～Ⅵ層での検出となった。各土坑から，人骨及び寛永通宝を含む古銭が出土したことから，近世の土坑墓と考えられる。人骨の取上げは，鹿児島女子短期大学の下野真理子助手に依頼し，現地で指導助言を得た。

**土坑墓１号（第141図）**

平面形は円形を呈し，上面径152cm，底面径106cm，検出面からの深さは132cmである。埋土は，Ⅱａ・Ⅱｂ層に該当する黒色が強い黒褐色土でアカホヤが多少混じり，全体的にしまりが弱い埋土である。埋葬時に埋め戻された土と判断される。人骨と六道銭である寛永通宝が６枚出土している。

人骨の残存状態はあまり良くなく，頭蓋骨と四肢の長骨だけが確認できた。骨の部位は，頭蓋・右大腿骨と上腕骨である。頭蓋は，頭蓋底が上を向き，頭頂部が底に面した状態で出土している。また，頭蓋が右大腿骨の膝下に潜っており，埋葬後動いたものと考えられ，木棺等の空間が保たれている間に遺体が朽ちたために，このような位置関係で出土したものと考えられる。骨盤をはじめとする上半身は墓坑東側にあり，顔や体の前面は墓坑中心部の西側を向くことがわかる。木棺の痕跡は確認できなかったが，人骨の出土位置から木棺に座葬されたものと推測される。人骨の性別は，成人男性である。

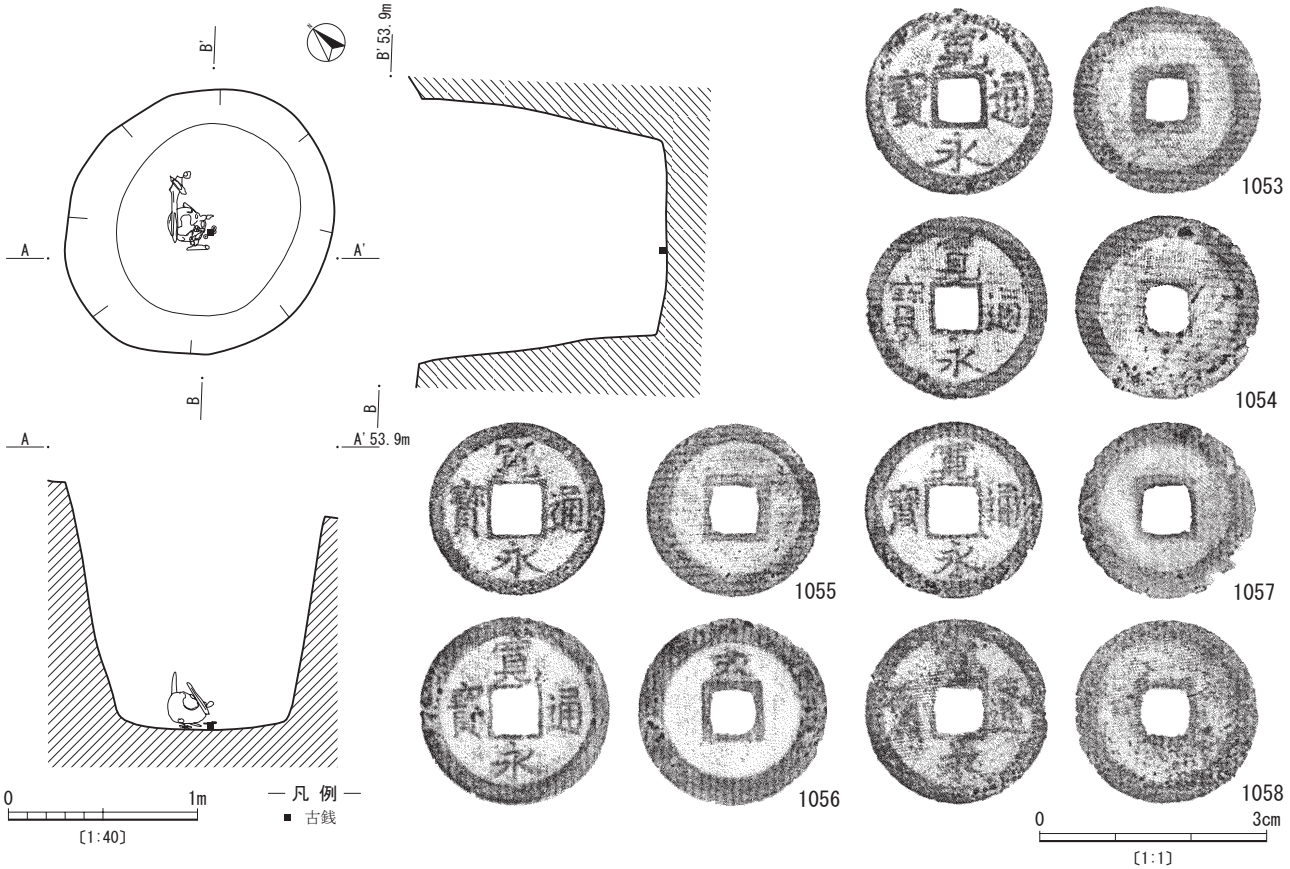
古銭は人骨と同位置から出土している。1056は裏面に「文」と鋳造されている。1053は古寛永の可能性があるが，他はおおむね新寛永と考えられる。

**土坑墓２号（第142図）**

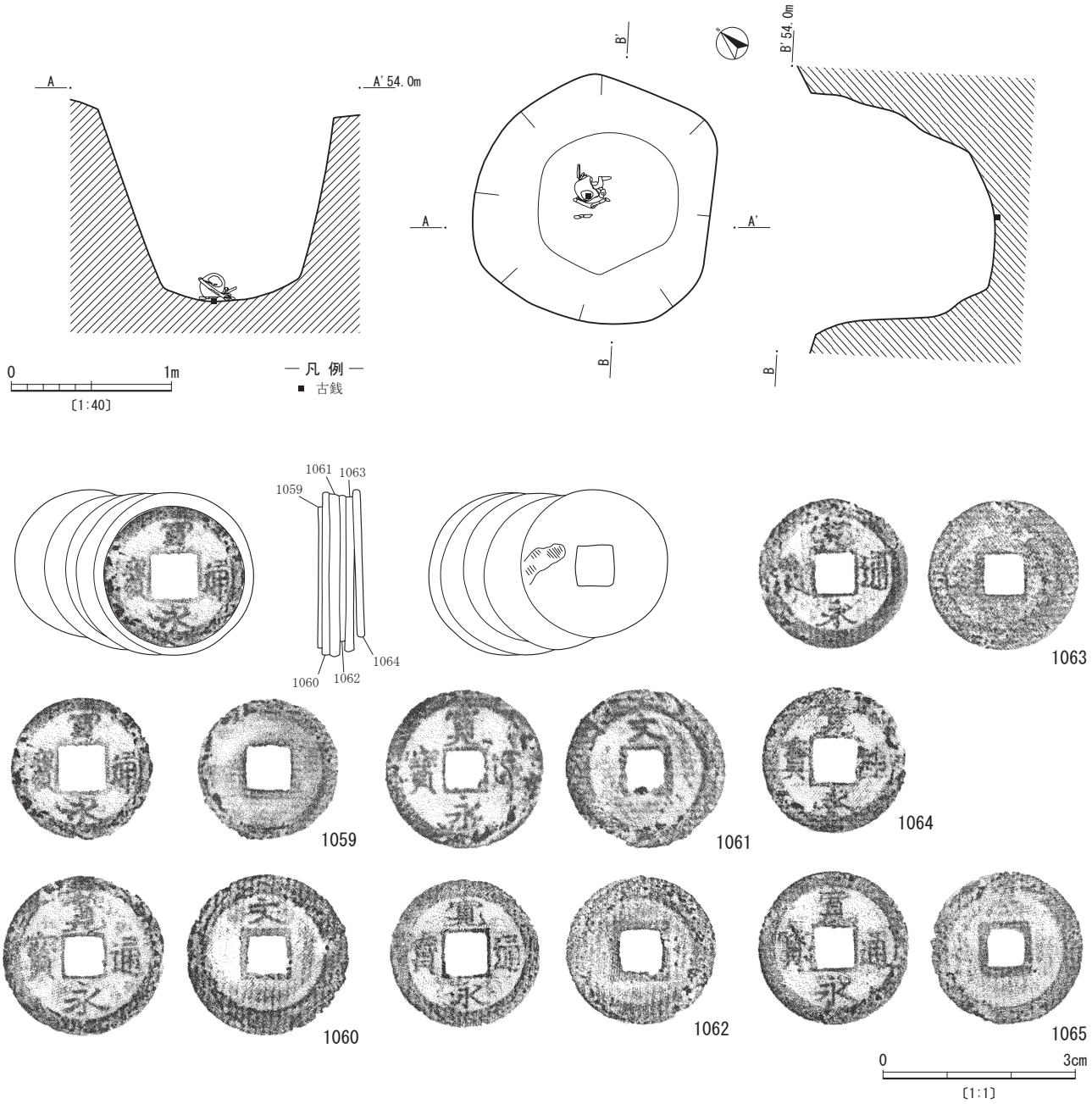
平面形は略円形を呈し，上面径165cm，底面径93cm，検出面からの深さは122cmである。埋土は，上部ににぶい褐色土があり，下部は灰色が強い褐色土でアカホヤが混じり，全体的にしまりが弱い。埋葬時に埋め戻された土と判断される。人骨と六道銭である寛永通宝が７枚出土している。

人骨の残存状態はあまり良くなく，頭蓋骨と四肢の長骨が確認できた。骨の部位は，頭蓋・左大腿骨と骨盤である。頭蓋は骨盤の上に顔を底に向け，後頭部が上を向いた状態であった。人骨の位置関係から，骨盤をはじめとする上半身は墓坑南側にあり，顔や体の前面は墓坑中心部の北側を向くことがわかる。木棺等の痕跡を確認できないが，木棺の空間内で遺体が朽ちた後に，埋土が覆ったとみられる。人骨の出土位置から木棺に座葬されたものと推測される。人骨の性別は不明で，成人である。

古銭は人骨と同位置から出土している。1059～1064は６枚重なって癒着して出土し，木片が付着していた。




第141図　土坑墓１号と出土遺物




第 142 図　土坑墓２号と出土遺物

また，1061・1064 には，繊維が付着していた。1060・1061 は裏面に「文」と鋳造されている。1065 は銭径から古寛永，他はおおむね新寛永と判断される。

**土坑墓３号（第 143 図）**

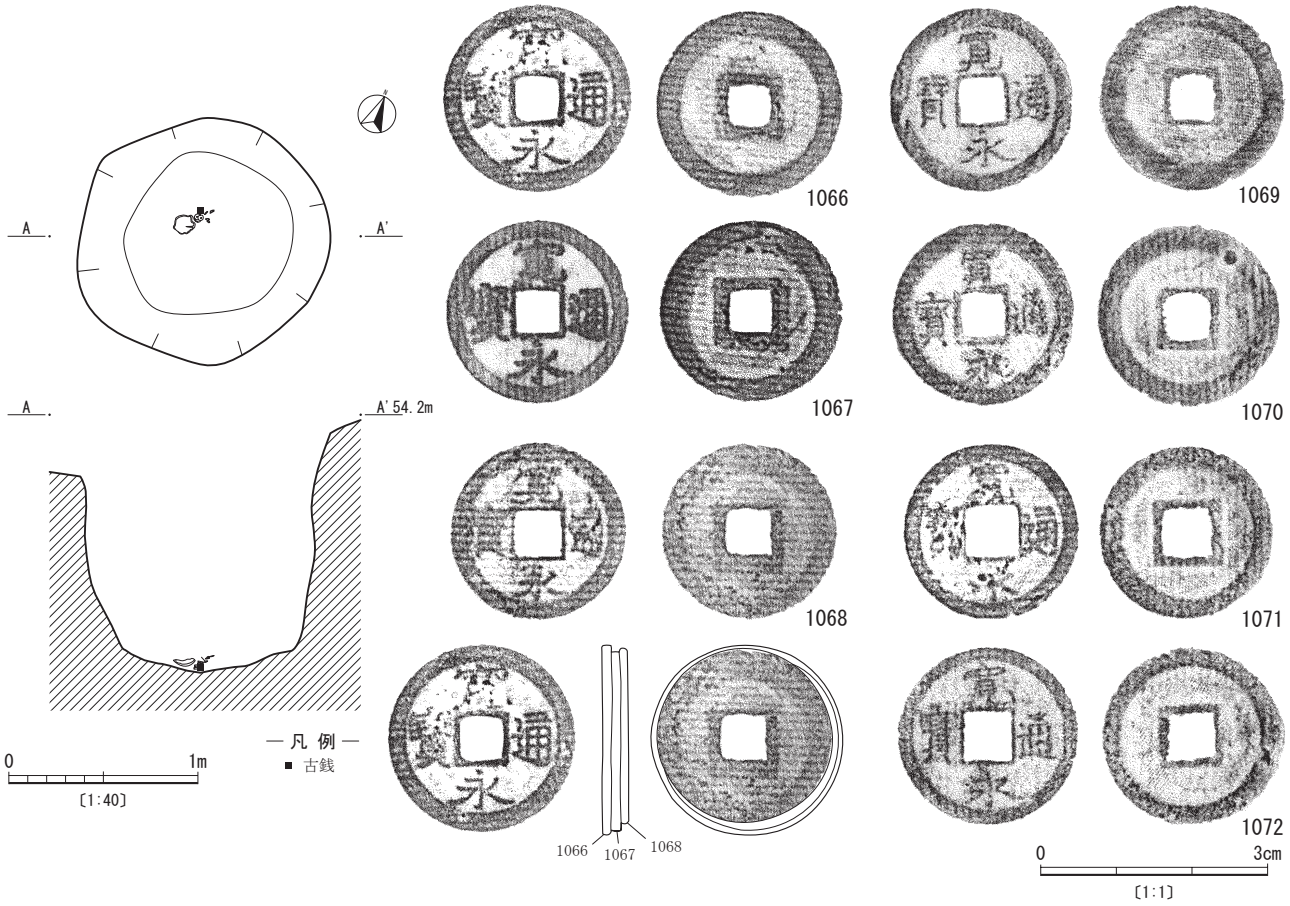
平面形は略円形を呈し，上面径 137cm，底面径 92cm，検出面からの深さは 128cmである。埋土は，上部に黒色が強い埋土があり，下部は灰色から暗赤色が強い褐色土でアカホヤが混じり，全体的にしまりが弱い。埋葬時に埋め戻された土と判断される。人骨と六道銭である寛永通宝が７枚出土している。

人骨の残存状態は良くなく，頭蓋骨と歯が確認できた。頭蓋は頭頂部が底に面した状態で検出された。木棺等の痕跡を確認できなかったが，棺桶の空間が保たれている間に頭部が底に落ち，後に棺桶が朽ちて埋土に覆われたとみられる。人骨の出土位置から木棺に座葬されたものと推測されるが，頭蓋骨と歯のみの検出であるため，埋葬時に体を向けた方位は不明である。人骨の性別は不明で，成人である。

古銭は人骨と同位置から出土している。1066～1068 は３枚重なって癒着していた。1066・1067 は字体から，1070 は銭径から古寛永の可能性があるが，他はおおむね新寛永と判断される。

**土坑墓４号（第 144 図）**

平面形は略円形を呈し，上面径 188cm，底面径 100cm，




第 143 図　土坑墓３号と出土遺物

検出面からの深さは 147cmである。埋土は，上部に黒色が強い埋土があり，下部は暗褐色土でアカホヤが混じり，全体的にしまりが弱い。埋葬時に埋め戻された土と判断される。人骨と六道銭である寛永通宝が７枚出土している。また，遺構上層の埋土から苗代川系の薩摩焼が２点出土しているが，流れ込みと判断される破片である。

人骨の残存状態はあまり良くなく，頭蓋骨と左右大腿骨及び頭骨が確認できた。頭蓋は頭頂部が底に面した状態で検出された。木棺等の痕跡は確認できなかったが，木棺内の空間が保たれている間に遺体が朽ちた状況と考えられる。人骨の出土位置から木棺に座葬されたものと推測される。人骨の性別は不明で，成人である。

古銭は人骨と同位置から出土している。1075～1079は５枚重なって癒着していた。1077 は裏面に「文」，1079 は「元」と鋳造されている。1075 は古寛永の可能性があるが，他はおおむね新寛永と判断される。

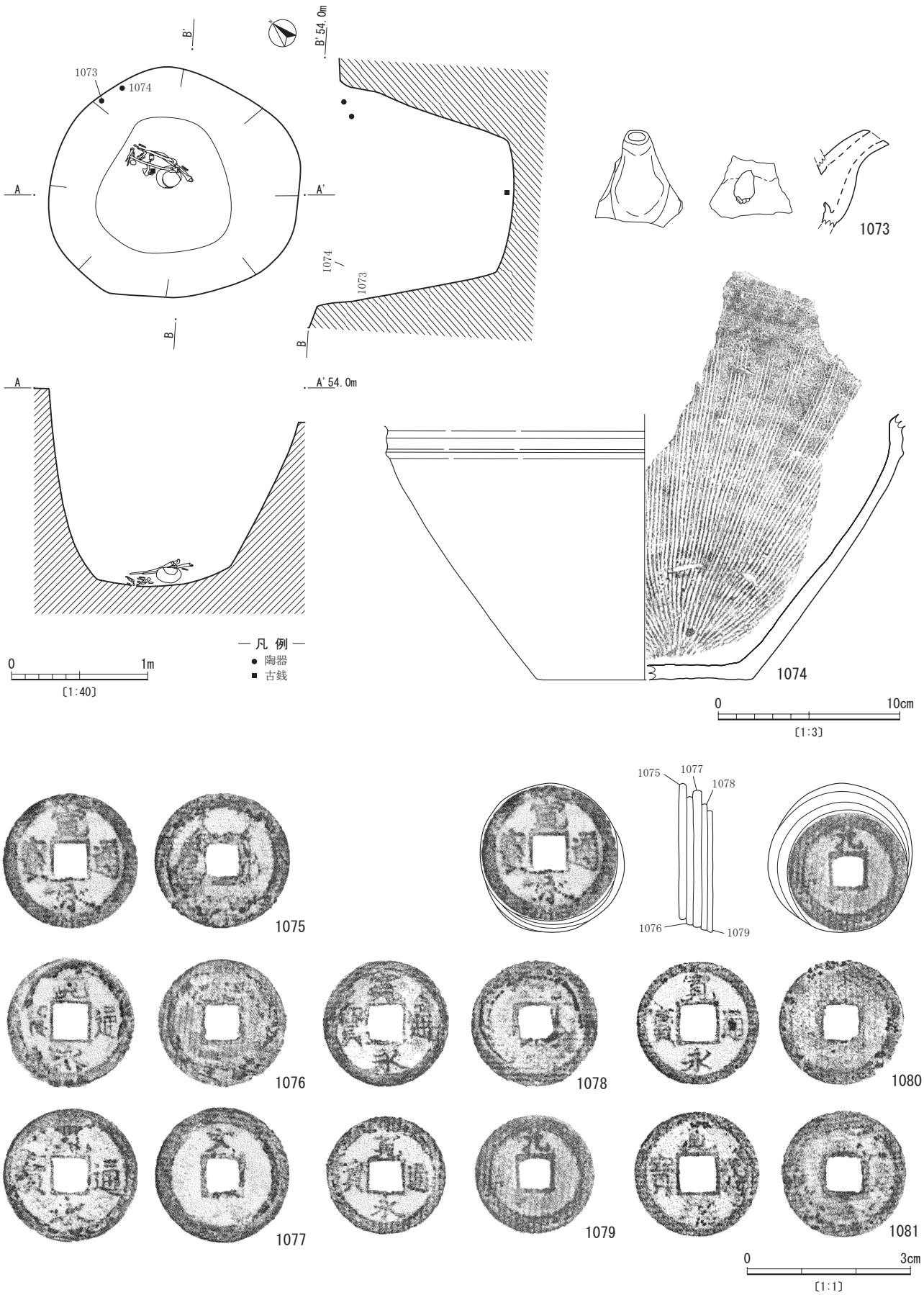
薩摩焼の 1073 は，石英・白石を含む褐色の胎土で，内面上部は無釉，施釉部はオリーブ黒色を呈する。土瓶の注ぎ口であるが，注ぎ口の本体側の孔が一つ穴であり，三つ穴の茶止め穴と異なる。茶止め穴と異なる用途があったか，通常の土瓶の前段階の鍋・釜系統から派生したものか，不明である。1074 は，底径 12.0cm，器高 14.6cm，内面に摺目をもち，内底面に貝目がある擂鉢の口縁から底部の破片である。石英・白石を含む赤褐色の胎土で，口縁内面は無釉，施釉部は黒褐色を呈する。

**土坑墓５号（第 145 図）**

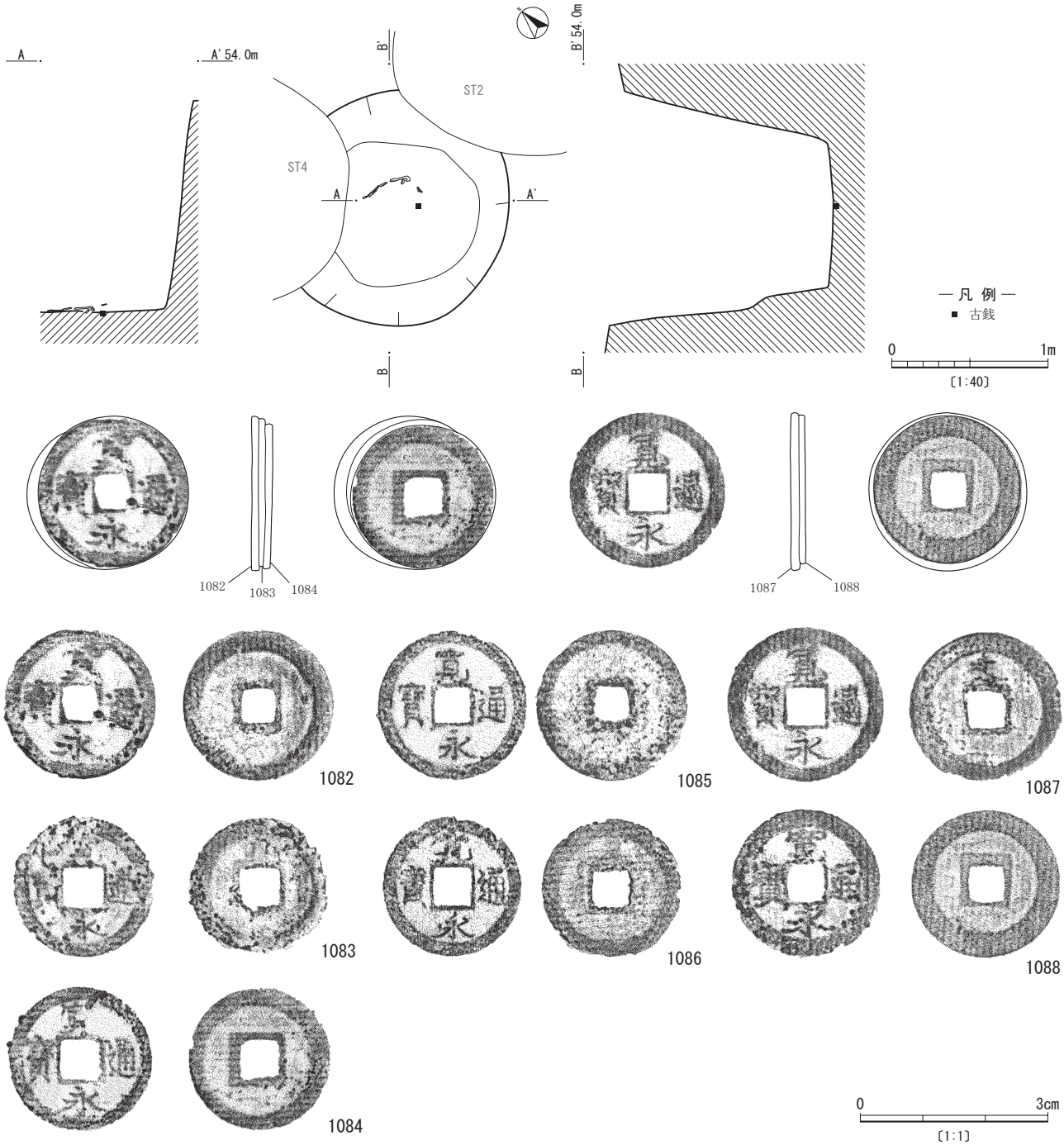
平面形は円形を呈し，上面径 155cm，底面径 100cm，検出面からの深さは 144cmである。埋土の上層は近現代の撹乱を受けているが，下層は埋葬時に埋め戻された土と判断される。なお，土坑墓５号は，土坑墓２・４号に切られており，Ｊ－ 26 区にある近世墓中において最も古い墓と判断される。人骨と六道銭である寛永通宝が７枚出土している。

人骨の残存状態は良くなく，右大腿骨だけが確認できた。右大腿骨の位置から，上半身は墓坑東側にあり，顔や体前面は墓坑中心の西側を向いていたことが推測される。木棺等の痕跡を確認できなかったが，人骨の出土位置から木棺に座葬されたものと推測される。人骨の性別は不明で，成人である。

古銭は人骨とほぼ同位置から出土している。1082～1084 の３枚，1087・1088 の２枚はそれぞれ重なって癒着していた。1087 は裏面に，「文」と鋳造されている。1082・1088 は字体から，1085 は銭径から古寛永の可能性もあるが，他はおおむね新寛永と考えられる。




第 144 図　土坑墓４号と出土遺物

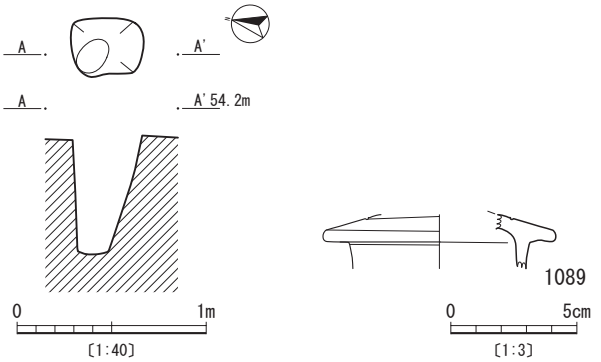



第 145 図　土坑墓５号と出土遺物

### (4) 柱穴（第 146 図）

K・L－30 区のⅢｂ層で，柱穴１号を検出した。形状は略方形を呈し，長径 38cm，短径 32cm，検出面からの深さは 65cmである。埋土は暗褐色土でアカホヤを含む。龍門司系の薩摩焼の蓋の破片が出土しており，近世遺構と考えられる。

1089 は，口径 9.2cm，欠損のある受け部の径 6.8cm。胎土に白石・石英を含み，ナデ調整され，上面に浅い沈線が施される。灰釉がかかり，外面はにぶい橙色，内面は黄灰色を呈する。




第 146 図　柱穴１号と出土遺物

## 2　包含層遺物

近世該当の包含層から出土した遺物は，磁器 100 点，陶器 682 点，古銭 4 点である。このうち，図化した遺物を以下に掲載する。掲載に際しては，まず各遺物を用途により大別し，その後それらを器種毎に細分する手法をとった。

### (1) 食膳具

食膳具として，碗 55 点，皿 19 点，蓋 3 点，土瓶 15 点，徳利 6 点がある。碗・皿は，磁器・陶器別にとりあげる。

#### ア　磁器碗（第 147・148 図 1090～1108）

1100・1108 以外は透明釉がかかる。胎土の多くは白色で，1093・1094・1102 は灰白色，1096・1097 は黄白色，1100 は黄灰色，1101・1103 は灰色である。

1090～1093 は，18 世紀中頃の肥前磁器の丸碗である。1090 は口縁部片で，外面に青磁釉がかかる。1092 は，高台が高く，内底面に「長命冨貴　金玉満堂」，外底面に「長命冨貴」の文字が描かれる。1093 は口径 9.9cm，波佐見焼の口縁～胴部片である。外面に草花文を描く。

1094～1096 は，18 世紀後半頃の碗の口縁部である。1094・1095 は肥前磁器である。1094 は口径 11.0cmの底部近くまでの破片で，外面に楼閣山水紋が描かれている。1095 は外面に杉葉文，内面に圏線が描かれる。

1096 は薩摩磁器である。

1097～1102 は 18 世紀後半の筒形碗で，1100 以外は肥前磁器である。1097 は口縁部片で，1098・1099 はともに口径 8.0cmの口縁部から底部近くの破片である。1098 は器高 5.4cmで，外面に山水文，内面に四方襷文と圏線を描く。1099 は外面に蔓草文が描かれる。1100 は，残存部分の最大径 7.9cmの胴中央部で，内底に 2 条の圏線を描き，施釉されて灰白色を呈するが，外底に釉切れが 4 か所ある。1101・1102 は，外面に圏線を描く底部である。1101 は底径 5.0cmで，内外面ともに圏線が描かれる。1102 は底径 3.9cm，細く高い高台で，外面には圏線が描かれる。

1103～1108 は，19 世紀初めから前半の碗で，1103 は肥前，1104～1108 は薩摩の磁器である。

1103～1107 は端反碗である。1103～1106 は安定した高台の付く底部で，見込みに蛇の目釉剥ぎ（1103・1105～1107），砂目（1107）がある。1104 は外面に岩波文が描かれる。1107 は口径 10.6cm，器高 5.4cm，底径 3.8cmで，ほぼ完形である。外面には蔓草文が描かれる。

1108 は口径 6.9cm，口縁～底部近くの破片である。

#### イ　陶器碗

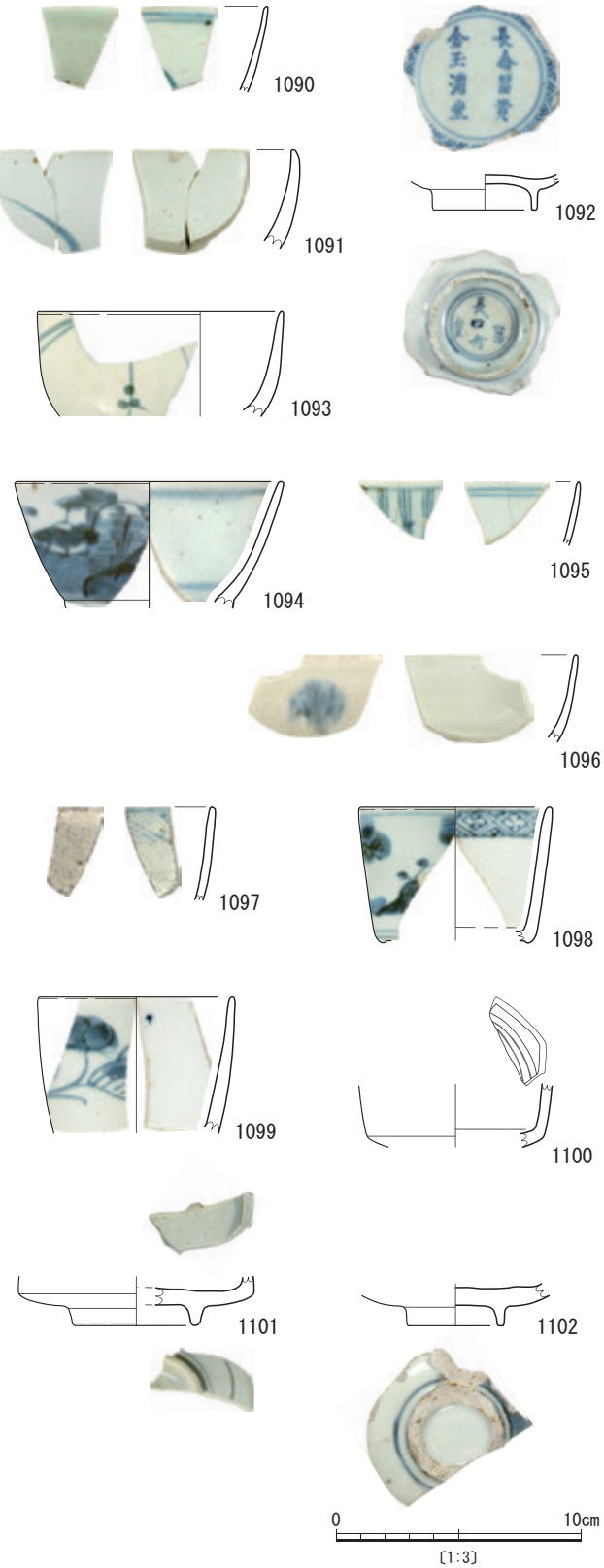
肥前陶器 4 点，薩摩焼 26 点，その他 6 点がある。

##### ①肥前陶器（第 147 図 1109～1112）

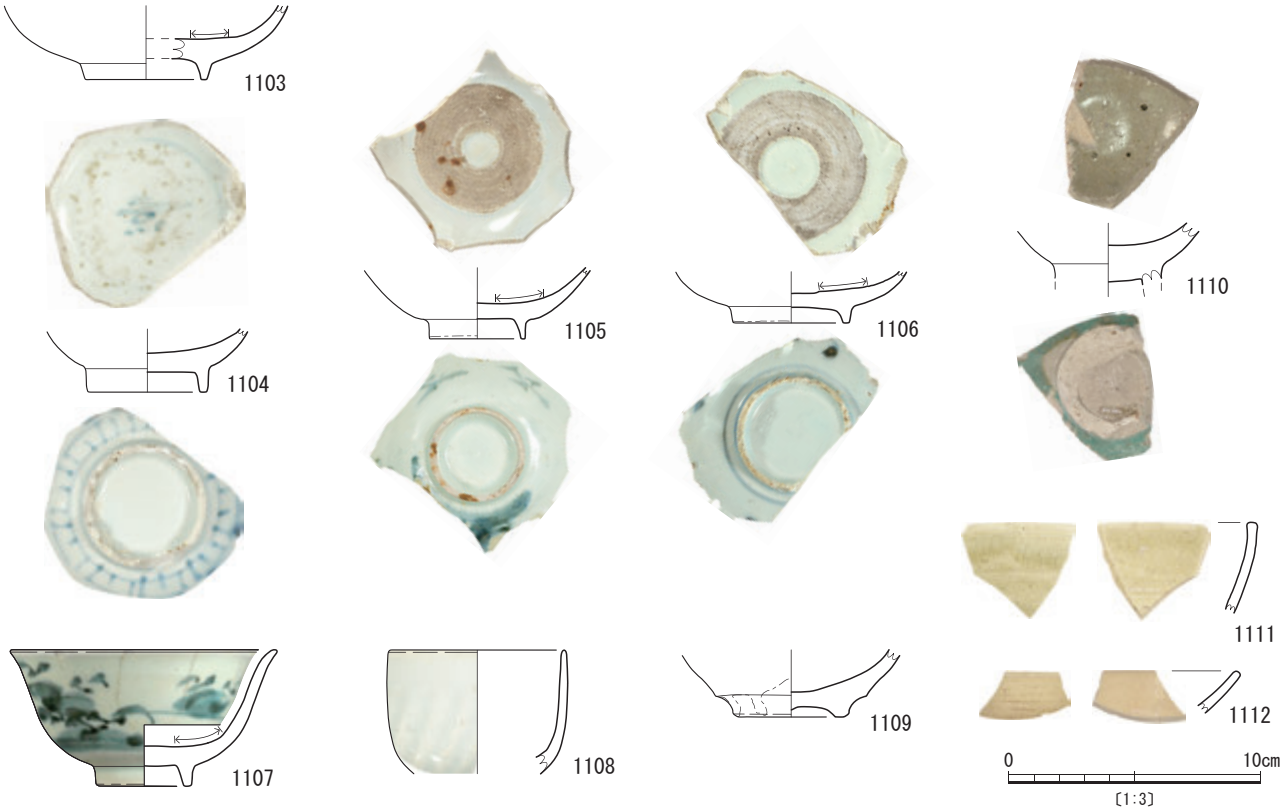
1109～1112 は肥前陶器である。

1109 は底径 4.8cm，16 世紀末から 17 世紀初頭の胴下部～高台部分で，外面下部のほとんどは露胎だが，上部は黄味を含む黒色釉が施され，下部には分厚く釉垂れがみられる。内面は同じような釉がかかる。

1110 は 17 世紀後半から 18 世紀前半の内野山系碗の底部である。胎土は黄灰色を呈する。外底面は無釉，内




第 147 図　碗（1）




第 148 図　碗（2）

面は透明釉，外面は銅緑釉がかかる。

1111・1112 は口縁部片で，浅黄色の胎土に透明釉がかかる。1112 は，皿の口縁部の可能性がある。

**②薩摩焼（第 149 図 1113～1138）**

1113～1138 は，龍門司系の碗で，胎土の粒子は細かい。

1114・1115 はほぼ完形である。1114 は，口径 11.5cm，底径 4.5cm，器高 6.0cmで，分厚い底部から丸みを帯びて立ち上がり，口縁端部はとがり気味となる。畳付以外は鉄釉が施釉される。1115 は，口径 10.9cm，底径 4.4cm，器高 5.3cmで，1114 と比べやや浅い器形だが，逆台形状の幅広の高台が付き，口縁端部は丸みをもっている。口縁部は内外とも厚く施釉される。1114・1115 ともに，内底部分は蛇の目釉剥ぎである。胎土の色調は，1114 がにぶい赤褐色で 1115 が黄灰色である。1114 の外底面は露胎である。釉色は，1114 は暗赤灰色，1115 の口縁部は極暗赤褐色で鉄釉部分は赤黒色を呈する。

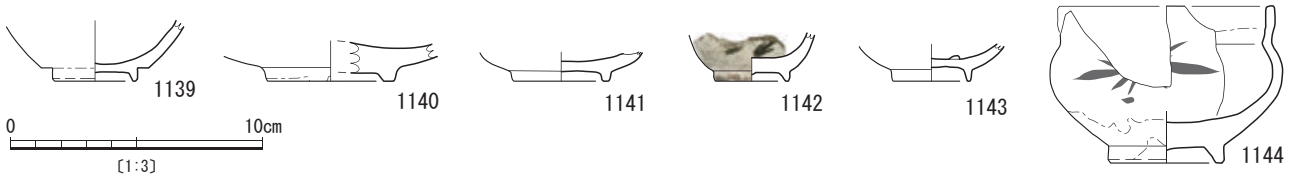
1113・1116～1121 は胴から高台部分で，底径は，1116 が 5.4cm，1118 が 4.6cm，1119・1121 が 5.0cmである。1113 は，底径 4.2cmで外底面も施釉された古手である。1116 の胎土は白色石を含む。色調は，1113 は浅黄色，1116・1119・1120 は赤褐色，1117・1121 はにぶい褐色，1118 は橙色である。1115～1121 の高台は無釉で，1115・1124 の畳付，1116・1131 の高台～畳付，1118 の外底面，1119 の畳付～外底部，1120・1121 の高台内と高台の一部は露胎である。施釉部分は，1113 は赤褐色，1117 は外面が黒色，内面中央は極暗赤褐色で鉄釉部分が赤黒色，1118 は暗オリーブ灰色，1119 は黒褐色，1120 はオリーブ褐色，1121 は灰赤色を呈する。1116～1121 は見込みに蛇の目釉剥ぎがある。1117 は，底径 4.4cm，高台内の底面下部に切り込みがある。1118 の内底は暗赤褐色に施釉される。1120 は，底径 5.2cmである。

1122～1128 は，同じく龍門司系だが白化粧土の製品である。1122 は，口径 11.6cm，底径 5.0cm，器高 5.3cmのほぼ完形である。分厚い底部から外へ開きながら直線的に伸びる器形を呈し，口縁端部はとがり気味となる。外へ開く分厚い高台が付く。高台～畳付は露胎で，施釉部分は，内面が灰黄色，外面が一部に釉のムラがあり，下部は緑色が強い灰黄褐色を呈する。1123 は口径 11.8cmの口縁～胴部片で，やや丸みを帯びた器形を呈し，口縁端部はとがり気味となる。外面下部の釉色はにぶい黄褐色である。

1124・1125・1127 は胴～高台部分である。1127 の高台は逆台形を呈し高い。1124 は底径 5.1cm，高台は低いが幅は 2.5～6.0㎜と広狭が顕著である。畳付から底は露胎，外面下半は透明釉がかかり灰オリーブ色，上半は白色釉がかかり，境付近で釉垂れが数か所ある。1125 は底径 4.2cmで高台が低い。胴下部の一部と高台は露胎，施釉部は外面は灰オリーブ色を呈し，内面は 4 か所の砂目がある。1126 は口径 10.0cm，小碗の口縁～胴部である。胴部と口縁部の境には明瞭な屈曲部がある。1127 は底径 4.7cm，高台～外底部は露胎，内面及び外面上部は灰


1113
1114
1115
1116
1117
1118
1119
1120
1121
1122
1123
1124
1125
1126
1127
1128
1129
1130
1131
1132
1133
1134
1135
1136
1137
1138
0
10cm
〔1:3〕

第149図　碗（3）




第 150 図　坏・碗

色，外面下部は黒褐色に施釉される。1128 は底径 4.6cm，底部～高台部分で，高台内外は露胎，にぶい黄褐色に施釉される。胎土の色調は，1122・1123 は赤褐色，1124 は暗灰黄色，1125・1126 は灰色，1128 は浅黄色である。施釉部は，1122・1124 の外面上部，1123 の外面上部から内面，1125 の内面，1126 は灰白色を呈する。1122・1123・1127・1128 は，見込みに蛇の目釉剥ぎがある。

1129～1132 は，底部から高台部分で，見込みに蛇の目釉剥ぎがある。1129～1131 は胴部で立ち上がる器形になる。1129 は底径 5.0cm，胎土は黄灰色，底部から高台部分は露胎で灰色，内外面は灰オリーブ色を呈し，見込みに砂目がある。1130 は底径 4.4cmで，腰折れがある。白色石を含む胎土は橙色，畳付から高台内面は露胎，化粧土と透明釉がかかり，外面下半はにぶい黄褐色，外面上半から内面は灰白色に施釉され，貫入がある。1131 は底径 4.7cm，胎土は赤褐色である。高台は露胎，施釉部は褐色を呈する。1132 は底径 4.8cm，胎土は灰白色である。畳付部分は露胎，施釉部は明オリーブ灰色を呈し，外底端に砂粒が付着する。皿の可能性もある。

1133～1138 は，鉄釉が施されて黒褐色を呈する口縁部片である。丸みのある器形を呈し，口縁端部も細く丸みを帯びる。口径は 12.0～13.1cmである。胎土の色調は，1133・1134 が赤褐色，1135 が明黄褐色，1136・1137 が橙色，1138 が白石を含み褐灰色である。

**ウ　坏・碗（第 150 図 1139～1144）**

1139～1141 は，産地不明の坏である。1139 は底径 3.4cm，胴～高台部分である。底部と高台は段となり，高台端部は三角形状である。灰白色の細かい胎土で，胴下半～高台は露胎，浅黄色釉がかかり貫入がある。1140 は底径 5.0cmの底部片で，分厚い底部に逆台形の低い高台が付く。胎土は黄白色，外底部は白濁した釉が部分的にかかる。1141 は底径 3.8cmの底部片で，胎土は灰色，底部は露胎，青磁釉がかかり，内面２か所にトチン痕がある。

1142・1143 は底径 3.0cmの小坏の底部である。絵唐津の 1142 は淡赤色の胎土である。産地不明の 1143 の胎土は黄白色で，透明釉がかかり，見込みに目痕が１か所残る。

1144 は口径 8.6cm，底径 4.6cm，器高 6.2cmのほぼ完形で，龍門司焼系薩摩焼の鉢状を呈する碗である。外面に楓文が描かれる。胎土はにぶい黄橙色土で，高台内は無釉，内外面に化粧土を施し，外面に透明釉がかかり，灰白色またはにぶい黄橙色，鉄絵は暗褐色を呈する。

**エ　皿**

磁器９点と陶器 10 点がある。

**①磁器（第 151 図 1145～1153）**

1145～1153 は，透明釉がかかった肥前系の磁器である。胎土は，白色・灰白色である。1145・1152 の内面，1145・1148・1150 の外面には圏線が描かれ，1146・1149・1152・1153 の見込みには蛇の目釉剥ぎ痕がある。

1145～1151 は，18 世紀代の皿である。1145・1146 は，波佐見焼の皿の口縁部で，内面に菊唐草文を描く。1146 は底部近くまで残り，口径 12.0cm，器高 1.8cmで，外面に唐草文を描く。1147～1151 は底部片で，1148・1149 の底径は 8.0cmである。1147 は底径 7.0cmで，畳付に釉剥ぎと砂目がある。1148 は，内面に草花文状の文様を描く。1150・1151 は大皿である。1150 は底径 11.0cmで劣化が著しい。1151 は底径 7.8cmで内面に十字四方襷文を描く。

1152・1153 は碗の底部片で，低い高台が付き，内面には蛇の目釉剥ぎ痕がある。1152 は底径 4.6cm，1153 は底径 6.0cm。

**②肥前系陶器（第 151 図 1154～1163）**

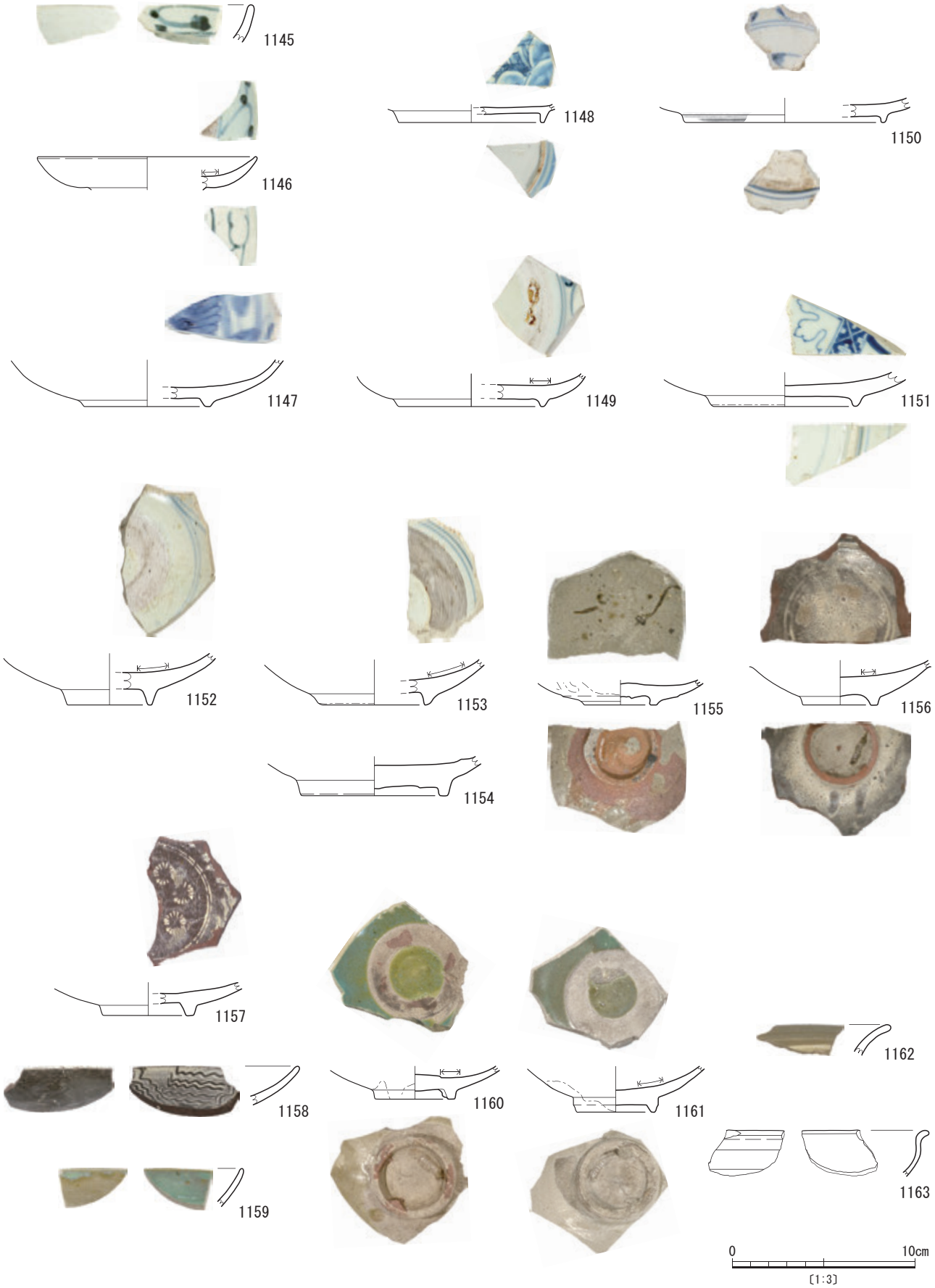
1154・1155 は，16 世紀末から 17 世紀初頭の唐津焼皿の底部である。1154 は分厚い底部である。底径 8.0cm，胎土は灰白色，外底面は部分的に透明釉がかかる。漳州窯の可能性もある。1155 は底径 4.0cm，胎土は灰色，外面下部は無釉部が目立ち，内面の一部に鉄釉がかかる。

1156・1157 は，17 世紀初頭から前半の三島手の唐津焼碗の底部で，見込みは２条圏線に囲まれた菊文のスタンプが押され，象嵌状を呈している。胎土は赤褐色である。1156 は底径 4.2cmで見込みに目痕が３か所あり，1157 は底径 5.0cmである。

1158 は，唐津焼皿の口縁部片で，内面には櫛状の波状文が施される。暗赤褐色の胎土である。

1159～1161 は，内野山系の陶器碗で，外面に透明釉がかかる。1159 は口縁部片で，胎土は灰色，内面は銅緑釉をかけ分ける。1160・1161 は底径 4.5～4.6cmの底部で，胎土は黄灰色，外底面は無釉，内面には透明釉がかかり，見込みに蛇の目釉剥ぎがある。1160 は，高台内に胎土目がみえ，釉剥ぎの上にトチン痕が残る。

1162・1163 は外反する碗の口縁部片で，胎土は，1162 が黄褐色で 1163 が灰白色である。1163 は，鉄釉が施され黒褐色を呈する。


1145
1146
1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
0
10cm
〔1:3〕

第 151 図　皿

### オ　蓋（第 152 図 1164～1166）

1164 は倒坏状の蓋である。胎土は灰白色で，内面に透明釉，外面に青磁釉がかかる。1090 と施釉法が似ている。

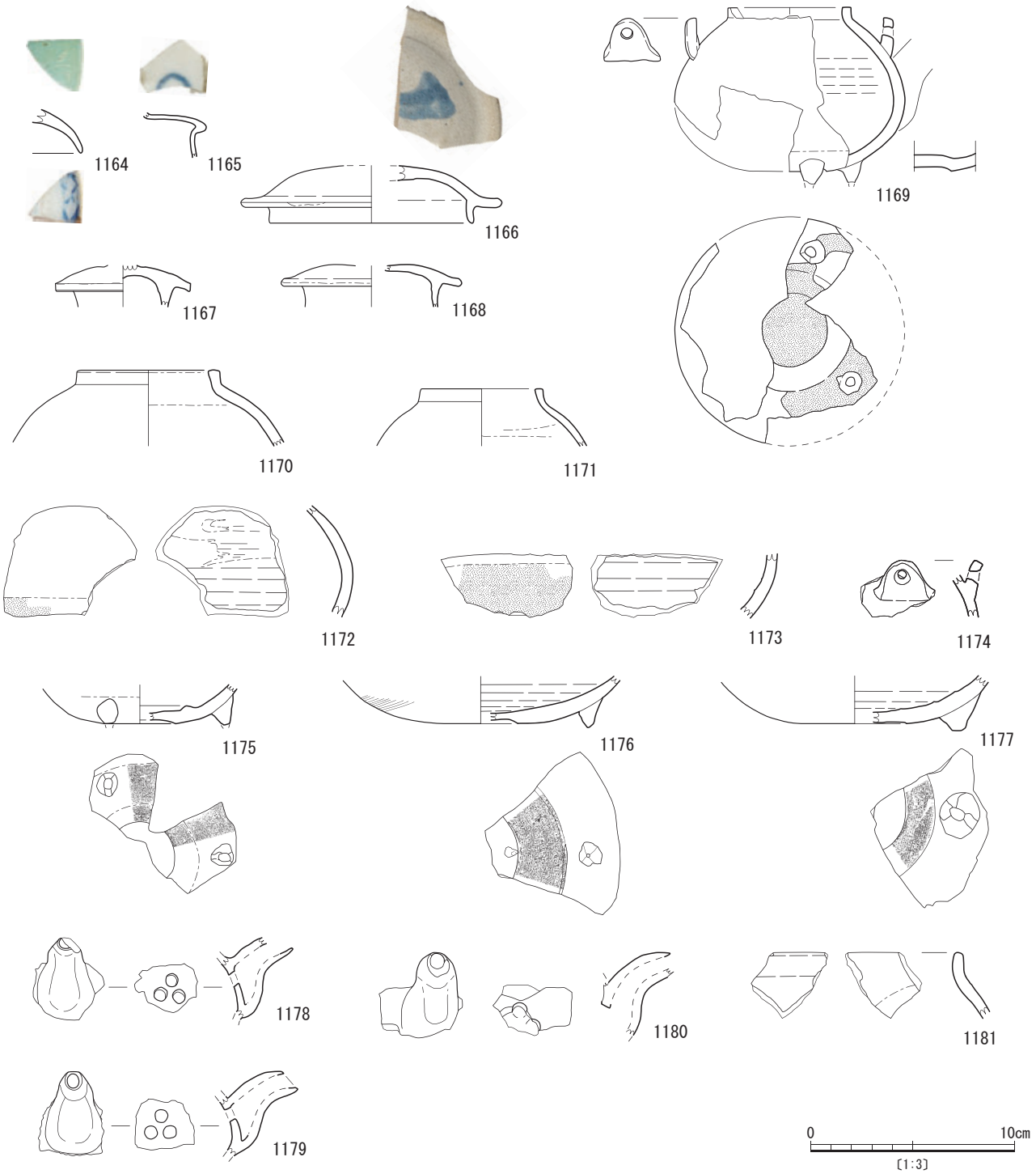
1165 は肥前系磁器の蓋で，天井部が外側へ張り出している。胎土は白色，透明釉がかかる。1166 は，陶器・磁器の区別が不明で，口径 10.0cm，器高 2.8cm，庇径 12.8cm である。胎土は黄色，内面は無釉で，上面に文様がある。

### カ　土瓶（第 152 図 1167～1181）

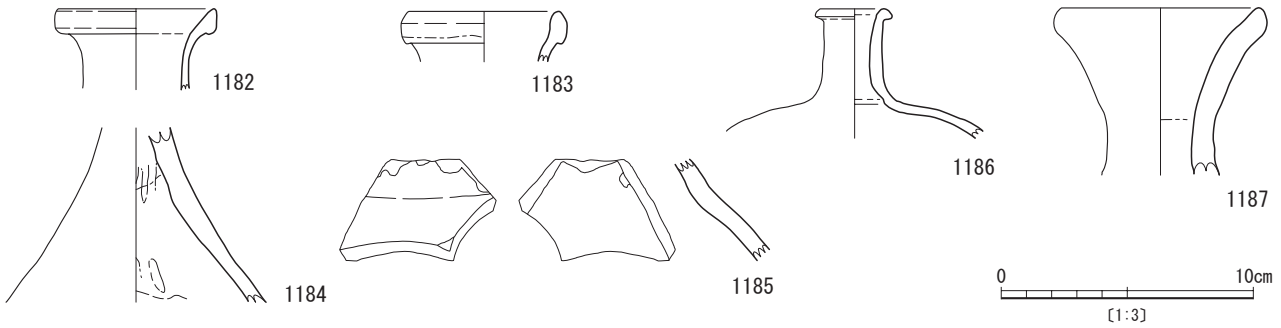
1167～1181 は，18 世紀後半から 19 世紀の苗代川系薩摩焼の土瓶である。石英･白石を胎土に含むものが多い。1173・1174・1178・1180 の胎土はにぶい褐色である。1167・1172・1175 の施釉部は黒褐色を呈する。

1167･1168 は上面のみ施釉された蓋で，胎土は，1167 が赤褐色で 1168 が灰色である。1168 は施釉部も灰色を呈する。

1169 は，口径 6.0cm，底径 3.6cm，器高 8.7cmの完形品




第 152 図　蓋・土瓶




第 153 図　徳利

で，胎土は褐色，外面胴部下位～底部は露胎だが煤が付着しているため黒褐色を呈する。口縁部は直に立ち上がり，胴部は丸みを帯びている。両側に把手が付き，片方に注ぎ口がある。底部には３か所に低い脚が付く。

1170・1171 は口縁部片である。1170 は口径 7.0cm，胎土はにぶい赤褐色，内面は無釉，施釉部は極暗褐色を呈し，口唇部は釉剥ぎされる。1171 は口径 6.0cm，胎土はにぶい黄褐色，口唇部～内面上部は無釉，施釉部は暗褐色を呈する。

1172・1173 は，丸みを帯びた胴部片である。1172 は，胎土は赤褐色，外面下半に煤が付着する。1173 は，施釉部は灰オリーブ色を呈し，腰部以下は無釉で煤が付着する。

1174 は，孔を穿たれた耳部分である。

1175～1177 は底部で，1175 は脚が２本，1176・1177 は脚が 1 本残る。1175・1176 は底径 3.6cmである。1175 は，胎土が灰褐色，外面の腰部以下が無釉である。1176 は，胎土が褐色，施釉部が暗灰黄色で外底面の窯道具跡と考えられる部分のみ黒褐色を呈する。1177 は底径 5.0cm，無釉で大きめの脚をもつ。

1178～1180 は注ぎ口である。1178・1179 は茶止め穴が三つあり，1180 も残存形状から本来三つあったと考えられる。1178 は施釉部が暗オリーブ褐色を呈する。1179 は，胎土が暗褐色，施釉部が暗オリーブ灰色を呈する。1180 は胎土がにぶい褐色を呈する。

1181 は口縁部で，胎土は石英を含むにぶい褐灰色，内面下部は無釉，施釉部は灰褐色を呈する。注ぎ口内側が一つ穴で，三つの茶止め穴をもつ通常の土瓶とは用途が異なるか，土瓶に先行する鍋・釜からの派生なのか不明である。

**キ　徳利（第 153 図 1182～1187）**

1182～1185 は，17 世紀後半から 18 世紀前半頃の苗代川系薩摩焼の徳利である。1182～1184 は，堂平窯産の可能性がある。

胎土は，石英・白石を含み，1182 は暗赤灰色，1183・1185 は灰色，1184 は灰黄色である。いずれも鉄釉が施される。1182・1183 はオリーブ黒色を呈する口縁部で，1182 は口径 6.4cmで 17 世紀後半頃，1183 は口径 6.6cmで 17 世紀のものと考えられる。1184・1185 は頸部～胴部の破片で，1184 の内面下部は無釉，施釉部は黒褐色を呈し，1185 の施釉部はオリーブ灰色を呈し，内面には鉄分と考えられる黒斑がみられる。

1186・1187 は，1182～1185 より新しい薩摩焼の口縁部である。1186 は口径 3.1cmの細首の口縁部で，端部は外へ広がっている。肩部は外へ張っている。胎土は石英を含む褐灰色，施釉部は暗赤褐色を呈する。1187 は口径が 8.4cm，外反する分厚い龍門司系薩摩焼で壺の可能性もある。胎土はにぶい褐色，内面は無釉，化粧土に透明釉が施されている。

**(2) 貯蔵具**

貯蔵具は，鉢・擂鉢 18 点，蓋２点，壺・甕 16 点がある。

**ア　鉢（第 154 図 1188～1194）**

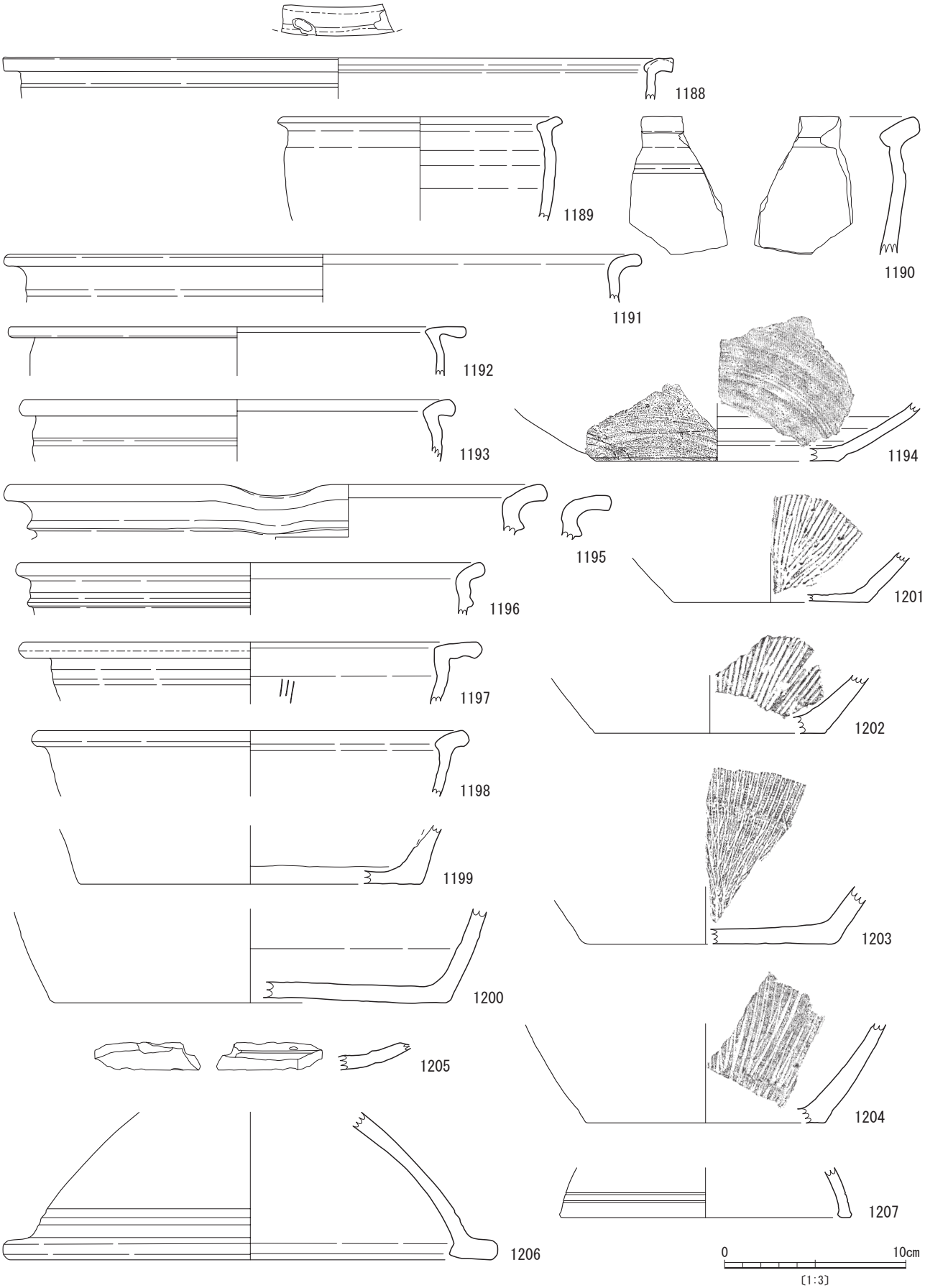
いずれも，苗代川系薩摩焼である。

1188～1190 は，18 世紀後半と考えられる片口鉢の口縁部片で，口唇部は無釉，施釉部はオリーブ黒色を呈する。胎土の色調は，1188・1189 は暗褐色，1190 は赤褐色である。1188 は，口径 37.7cmのＬ字状口縁で口唇部に貝目が残る。1189 は，口径 15.7cmで内側がやや下がる。1190 は，1189 よりもさらに内側が下がる口縁で，胎土に小礫・砂粒を含み，鉄釉を施される。

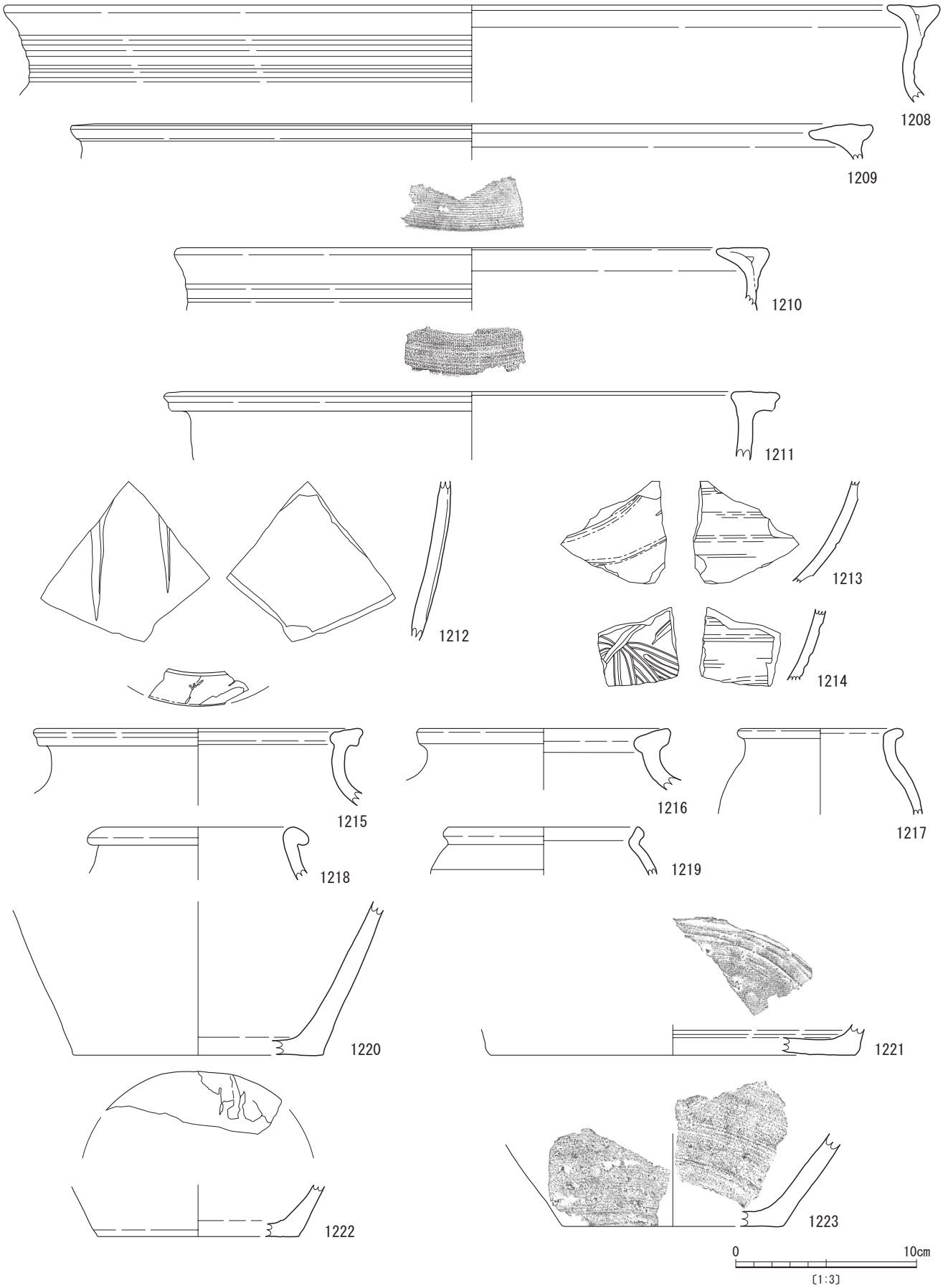
1191～1194 は，施釉部がオリーブ黒色を呈する 18 世紀後半頃の鉢である。1191 は丸みを帯びたＬ字状口縁，1192 は鋤先状口縁，1193 は端部の分厚いＬ字状口縁である。1191～1193 は口唇部が無釉の口縁部，1194 は底部である。胎土は，1192・1194 は石英，1192 は白石を含み，1191 は暗褐色，1192～1194 はにぶい赤褐色である。口径は，1191 が 35.1cm，1192 が 25.2cm，1193 が 24.0cmで鉄釉が施される。1194 は，底径 13.3cmの安定した平底で外底面から胴下部は無釉である。

**イ　擂鉢（第 154 図 1195～1204）**

1195～1198 は，口縁部で内側がやや下がるＬ字状を呈する。いずれも胎土に石英を含み，口唇部は無釉である。口径は，1195 は 29.9cm，1196 は 25.8cm，1197 は 25.4cm，1198 は 24.0cmである。胎土の色調は，1195 は赤褐色，1196 は暗褐色，1197 は灰黄褐色，1198 は褐灰色である。


1188
1189
1190
1191
1192
1193
1194
1195
1196
1197
1198
1199
1200
1201
1202
1203
1204
1205
1206
1207
0
10cm
〔1:3〕

第 154 図　鉢・擂鉢・蓋


1208
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215
1216
1217
1218
1219
1220
1221
1222
1223
0
10cm
〔1:3〕

第155図　甕・壺

注ぎ口をもつ 1195 の口縁内面は無釉である。1196 の内面上部は無釉である。1197 の内面に三条の摺目がある。1195・1197・1198 はオリーブ黒色，1196 は黒褐色に施釉される。

1199～1204 は安定した平底である。底径は，1199 が 18.8cm，1200 が 22.2cm，1203 が 14.6cm，1204 が 13.2cm，1202 が 12.6cm，1201 が 10.8cmで，1201～1204 は内面に摺目をもつ。胎土は，1199～1204 が石英，1203・1204 が白石を含む。色調は，1199 が灰褐色，1200・1202～1204 が赤褐色，1201 が褐灰色である。1203 の外底面は無釉，施釉部は 1200・1201・1203 がオリーブ黒色，1199・1202・1204 が黒褐色を呈し，1201 は部分的に剥落がみられる。

擂鉢は，ほかに，近世土坑墓 4 号の埋土から 1075 が出土している。

1205 は，器種・産地とも不明であるが，鉢の底部の可能性がある。中国釉薬を施されている可能性もあり，中世にさかのぼることも考えられる。

**ウ　蓋（第 154 図 1206・1207）**

1206・1207 は苗代川系薩摩焼の器種不明の蓋である。1206 は底径 27.4cmのＬ字状，1207 は底径 16.0cmで肥厚する。1206 は石英を含む褐色，1207 は砂粒を含む赤褐色で，口唇部は無釉となり，施釉部は，1206 は暗オリーブ褐色，1207 は鉄釉が施されオリーブ黒色を呈する。

1206 は鉢の可能性もある。

**エ　甕（第 155 図 1208～1214）**

1208～1214 は，苗代川系薩摩焼の甕である。

1208～1211 は口縁部である。1208 は，口径 51.8cmと大型の資料で頸部から強く外反し口縁端部は内外に張り出している。外部に粘土を貼り付けている。1209 は，口径 44.4cmで 1208 と同じく内外に肥厚しているが，特に内側が鋭く突出している。1210 は，口径 32.8cmで内側へ強く突き出しているが，そこから粘土を外へ折り曲げている。1211 は，口径 34.0cmのＬ字状に曲がる資料で口唇部には凹線が巡る。1210 と 1211 は天井部をハケ様の道具でナデている。

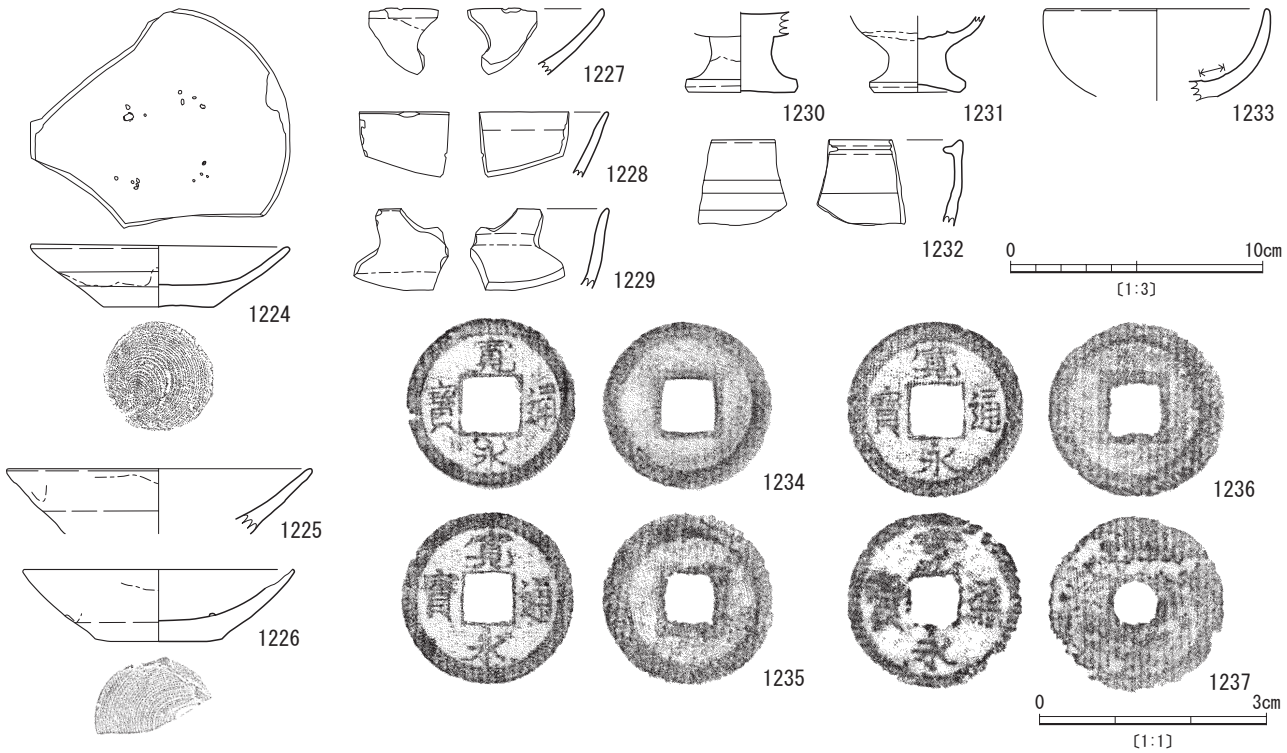
胎土には，1208 が白石，1210・1211 が石英を含む。色調は，1208・1210 が赤褐色，1209 が褐灰色，1211 がにぶい黄色で，1210・1211 の口唇は無釉である。1208 の施釉部は暗オリーブ褐色を呈する。1210 の施釉部は黒褐色を呈する。1211 の施釉部は灰オリーブ色を呈する。

1208・1209 は 18 世紀前半から中頃，1210 は 18 世紀代，1211 は 18 世紀後半から 19 世紀と考えられる。

1212～1214 は胴部片で，胎土は石英・白石を含む赤褐色，鉄釉部分がオリーブ黒色を呈し，外面に掻き落とし文を施す。1213 と 1214 は同一個体と考えられる。

**オ　壺（第 155 図 1215～1219）**

1215～1219 は，苗代川系薩摩焼の壺口縁部である。1215・1216 は大型，1217～1219 は中小型である。1215・1216 は口縁端部が内外に張り出し，さらに 1215 の外面には凹線が施される。1217 は，緩やかなＬ字状口縁でナデ肩状の器形を呈する。1218 は，口唇部が下がる。1219 は，くの字状口縁で胴部は外へ張る。口径は，1215 が




第 156 図　灯明皿・仏具・古銭

18.2cm，1216 が 14.0cm，1217 が 9.1cm，1218 が 12.2cm，1219 が 11.0cmである。

白石・石英などを胎土に含む。胎土の色調は，暗褐色，にぶい褐色，灰色，にぶい橙色，にぶい赤褐色である。1216・1217 の口唇部と 1218 の内面は無釉，1218 は鉄釉が施され，施釉部は，1215・1217 はオリーブ黒色，1215 の内面は灰白色，1216・1218 は黒褐色，1219 は暗褐色を呈し，1215・1216 は口唇部に目痕が残る。1219 の口縁部は，中世の中国製陶器壺の形状に似る。

**カ　壺・甕の底部（第 155 図 1220～1223）**

1220～1223 は，苗代川系薩摩焼の壺・甕の底部片だが，鉢の可能性もある。いずれも安定した平底である。1220 は底径 13.7cmで，底面に貝目痕をもつ。1221 は底径 20.0cmで，筒状に立ち上がる可能性がある。1222 は底径 11.0cm，1223 は底径 12.2cmである。いずれも石英，1220 は白石，1223 は小礫を胎土に含む。胎土の色調は，褐灰色，暗灰黄色，にぶい赤褐色である。

施釉部分は，1220・1221 はオリーブ黒色，1222 は灰オリーブ色，1223 はにぶい黄色を呈する。1220 は外底面まで施釉された 18 世紀前半以前のもので，他は外底面が施釉されていないため，その後のものである。

**(3) その他**

他に灯明皿，仏具，古銭がある。

**ア　灯明皿（第 156 図 1224～1229）**

1224～1229 は，龍門司系薩摩焼の灯明皿である。1224～1227 は，外面口縁付近から内面が施釉される。1224 は，口径 10.3cm，器高 2.5cm，底径 4.4cmで糸切り底，胎土は橙色，施釉部は灰オリーブ色を呈し，内底 4 か所に砂目がある。1226 は，口径 10.8cm，器高 2.8cm，胎土は灰黄褐色，施釉部は暗オリーブ色を呈し，残存部に胡麻目痕３か所がみられ，本来は４か所あったと考えられる。糸切り底，胎土は黒褐色で施釉部はオリーブ褐色を呈する。

1228・1229 の胎土は白石を含み，化粧土に褐釉を施す。胎土は，1228 はにぶい褐色，1229 はにぶい黄橙色である。

**イ　仏具（第 156 図 1230～1233）**

1230～1232 は龍門司系，1233 は苗代川系薩摩焼である。

1230・1231 は，高坏状仏飯具の下部から脚台部分で，胎土は細かい土で，脚台は露胎である。1230 は底径 4.4cmの浅い上げ底で，胎土は白石を含み，施釉部はオリーブ褐色を呈する。1231 は底径 3.8cmで，脚台はにぶい赤橙色で，外面上部は施釉されて灰白色を呈する。内面は赤褐色を呈し，胡麻目が付着している。

1232 は，香炉の口縁部で，口唇から外面は鉄釉が施され黒褐色を呈している。1233 は口径 9.0cmの口縁部で，暗褐色に施釉され，見込みは蛇の目釉剥ぎ取りが行われている。古手の小埦の可能性もある。

胎土の色調は，1230 がにぶい赤褐色，1231 が赤橙色，1232・1233 がにぶい黄橙色である。

**ウ　古銭（第 156 図 1234～1237）**

古銭が４枚出土している。

1234 はＦ－ 27 区Ⅰ層から，1235・1236 はＥ－ 27 区Ⅰ層から出土した寛永通寶である。1237 は，Ｇ－ 41 区Ⅱｂ層から出土した。一部の刻字が判読しがたく，形状も他の３点とやや異なるが，寛永通寶と思われ，古寛永の可能性がある。

## 第３表　古代遺構出土土師器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 層 | 取上番号 | 種別 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 調整 | | | 色調 | | 胎土 | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 底面 | 外面 | 内面 | 白石 | 茶石 | 雲母 | 石英 | | |
| 15 | 1 | P2 | ① | － | 黒色土師器 | 埦 | 口縁～底 | 15.9 | 7.1 | 6.2 | 横ヘラミガキ | 横ヘラミガキ | 高台貼付→ナデ | にぶい黄橙 | 黒 | ○ | ○ | ○ | ○ | 良好 | 見込放射状のミガキ |

## 第４表　古代の土師器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 調整 | | | 色調 | | 胎土 | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 底面 | 外面 | 内面 | 白石 | 茶石 | 雲母 | 石英 | 黒石 | 小礫 | | |
| 17 | 2 | E32 | Ⅱa | 11463 | 坏 | 口縁～胴 | (17.0) | － | ナデ | ナデ | － | 橙 | 橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 内面スス |
| | 3 | F31 | Ⅱ | 38420 | 坏 | 底 | － | 10.2 | ナデ | ナデ | 板状圧痕 | 灰黄 | にぶい黄～淡黄 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | 良好 | 工具抉り痕 |
| | 4 | K30 | Ⅱ | 25914 | 埦 | 底 | － | 6.1 | ナデ | ナデか | ヘラ切り→ナデ | にぶい黄橙 底:にぶい橙 | 灰褐 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | 良好 | 充実高台,外面一部スス |
| | 5 | D32 | Ⅱa | 11476 | 埦 | 底 | － | 6.3 | ナデ | ナデ | ヘラ切り→ナデ | にぶい橙 | にぶい橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 充実高台,内面スス |
| | 6 | K30 | Ⅱ | 24381 | 埦 | 胴～底 | － | 6.7 | ナデ | ナデ | ヘラ切り→ナデ | 浅黄 | 浅黄 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 充実高台 |
| | 7 | L29 | Ⅲa | 34087 | 埦 | 底 | － | 6.9 | ナデ | ナデ | 切り離し不明,ナデ | 浅黄 | 浅黄 | | ○ | ○ | ○ | | | 良好 | 充実高台,内外スス |
| | 8 | K28 | Ⅱ | 23814 | 埦 | 底 | － | 6.5 | ナデ | ナデ | 切り離し不明,ナデ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | | ○ | ○ | ○ | | | 良好 | 充実高台 |
| | 9 | H42 | Ⅱa | 8837 | 埦 | 高台 | － | 5.0 | － | － | 高台貼付→ナデ | にぶい黄橙～淡黄 | 灰 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 普通 | 内外摩滅 |
| | 10 | J28 | Ⅱ | 23559 | 埦 | 高台 | － | (7.4) | ナデ | ナデ | ナデ | にぶい橙 | にぶい橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 内外摩滅 |
| | 11 | H30 | Ⅱ | 24873 | 埦 | 胴～高台 | － | － | ナデ | 布目痕→ナデ | ナデ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 内外薄くスス |
| | 12 | L28 | Ⅰ | － | 大皿 | 口縁～底 | (12.9) | (10.0) | ナデ | ナデ | 板状圧痕 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | ○ | | | ○ | ○ | | 良好 | 器高:2.8cm,耳皿風 |
| | 13 | J28・30 | Ⅰ,Ⅱ | 24166他 | 甕 | 口縁 | － | － | ナデ | 口縁:ヘラナデ 胴:横ヘラケズリ | － | 橙 | 橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 良好 | 口唇:矩形 |
| | 14 | J28 | Ⅱ | 25051 | 甕 | 口縁 | － | － | ナデ | ナデ | － | にぶい褐 | にぶい褐 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 良好 | 内外スス |
| | 15 | J28 | Ⅱ | 24260 | 甕 | 口縁 | － | － | ヘラナデ | ヘラナデ | － | 橙 | 橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 良好 | 口唇:矩形 |
| | 16 | J28 | Ⅱ | 25039 | 甕 | 口縁 | － | － | ナデ | 口縁:ヘラナデ 胴:横ヘラケズリ | － | 橙 | 橙 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 良好 | 口唇:矩形,内外スス |
| | 17 | J28 | Ⅱ | 25011 | 甕 | 口縁 | － | － | ナデ | 口縁:ヘラナデ 胴:横ヘラケズリ | － | 橙 | 橙 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 良好 | 口唇:矩形,内外スス |
| | 18 | J28 | Ⅱ | 23581 | 甕 | 頸 | － | － | ハケナデ | 斜ヘラケズリ | － | 橙 | 橙 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 良好 | 内外スス |
| | 19 | K28 | Ⅰ | － | 壺 | 口縁 | (10.6) | － | ナデ | ナデ | － | にぶい黄 | にぶい黄 | ○ | ○ | | | ○ | | 良好 | |
| 18 | 20 | I28 | Ⅱ | － | Ⅲ | 口縁～腰 | － | － | ヘラミガキ | ヘラミガキ | － | 黒 | 黒 | ○ | | ○ | ○ | | | 良好 | |
| | 21 | F31 | Ⅱ | 27625 | 坏 | 口縁 | － | － | ヘラミガキ | ヘラミガキ | － | 黒 | 黒 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 良好 | |
| | 22 | K29・30 | Ⅱ | － | 坏 | 口縁 | － | － | ヘラミガキ | ヘラミガキ | － | 黒 | 黒 | ○ | | ○ | ○ | | | 良好 | |
| | 23 | H30 | Ⅰ | － | 坏 | 口縁 | － | － | ヘラミガキ | ヘラミガキ | － | 黒 | 黒 | ○ | | ○ | | | | 良好 | |
| | 24 | H31 | Ⅱ | － | 不明 | 底 | － | － | － | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 黒 | 黒 | ○ | | ○ | | | | 良好 | |
| | 25 | F25 | Ⅰb | 18435 | 坏 | 胴～底 | － | (7.5) | ヘラケズリ→ミガキ | ミガキ | － | 浅黄 | 黒 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | 良好 | 手持ちヘラケズリ,外面スス |
| | 26 | J30 | Ⅱ | 25176 | 埦 | 口縁 | － | － | ミガキ | ヘラミガキ | － | 浅黄 | 黒 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 良好 | 外面摩滅 |
| | 27 | H30 J29 | Ⅱ | 26545 | 埦 | 口縁 | (17.0) | － | ヘラミガキ | ヘラミガキ | － | にぶい黄橙 | 黒 | | ○ | ○ | | ○ | | 良好 | 内面剥離 |
| | 28 | H29 | Ⅱ,Ⅱa | 24612 | 埦 | 口縁 | (16.5) | － | ヘラミガキ | ヘラミガキ | － | にぶい黄橙 | 黒 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 良好 | 外面摩滅 |
| | 29 | H・I30 | Ⅰ,Ⅱ | 26606他 | 埦 | 口縁～胴 | (15.0) | － | ヘラミガキ | 横ヘラミガキ | － | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | | ○ | ○ | ○ | | | 良好 | 外面摩滅 |
| | 30 | E32 | Ⅲb | 16474他 | 埦 | 口縁～胴 | (15.0) | － | ナデ→ミガキ | 横ヘラミガキ | － | にぶい黄橙 | 黒 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 外面凹凸のナデ痕・摩滅 |
| | 31 | H30 | Ⅱ | 24832他 | 埦 | 口縁～胴 | (16.9) | － | ヘラミガキ | 横ヘラミガキ | － | 浅黄橙 | 黒 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 外面摩滅,外面スス |
| | 32 | G42 | Ⅱb | 10795 | 埦 | 口縁～胴 | (16.9) | － | 横ヘラミガキ | 横ヘラミガキ | － | にぶい黄橙～灰黄褐 | 黒 | ○ | | ○ | ○ | | | 良好 | 外面スス,締りよい |
| | 33 | H31 | Ⅱ | 28498 | 埦 | 口縁 | (16.0) | － | ヘラミガキ | 横ヘラミガキ | － | 暗赤褐～暗灰黄 | 暗赤褐～暗灰黄 | ○ | | ○ | ○ | | | 良好 | 外面やや摩滅 |
| | 34 | H42 | Ⅱa | 8867 | 埦 | 口縁 | － | － | 横ヘラミガキ | 横ヘラミガキ | － | 黒～にぶい黄橙 | 灰～黒 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 良好 | 外面スス,締りよい |
| | 35 | H41 | Ⅱa | － | 埦 | 腰 | － | － | ― | 横ヘラミガキ | ナデ | 浅黄 | 黒 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 良好 | 外面摩滅 |
| | 36 | K・L30 | Ⅱ | 33850 | 埦 | 腰 | － | (9.6) | 横ヘラミガキ | ヘラミガキ | ナデ | にぶい黄橙 | 黒 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 高台欠損 |
| | 37 | I29・30 J29・30 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱa | 25095他 | 埦 | 胴～高台 | － | (7.4) | ナデ | ヘラミガキ | ナデ | 橙～にぶい黄橙 | 黒 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良好 | |
| | 38 | H・J30 | Ⅱ | 24214他 | 埦 | 胴～高台 | － | 6.6 | ヘラミガキ | 一方向のヘラミガキ | ナデ | 浅黄 | 黒 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 外面摩滅 |
| | 39 | I31 | Ⅱ | 28591 | 埦 | 高台 | － | (7.5) | ナデ | ヘラミガキ | ナデ | 浅黄橙～褐灰 | 黒 | ○ | ○ | ○ | | | | 良好 | 高台内スス,締りよい |
| | 40 | F32 | Ⅱ | 36984 | 埦 | 高台 | － | (7.6) | ナデ | ヘラミガキ | ナデ | にぶい黄橙 | 黒 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 良好 | |
| | 41 | L29 | Ⅱ | 33893 | 埦 | 高台 | － | (6.9) | ナデ | ヘラミガキ | 高台貼付→ナデ | にぶい黄橙 | 黒 | ○ | ○ | ○ | | | | 良好 | |
| | 42 | F25 | Ⅰ | － | 埦 | 胴～高台 | － | (6.5) | 横ヘラミガキ | 横ヘラミガキ | ナデ | 浅黄 | 黒 | ○ | ○ | ○ | | | | 良好 | 内外摩滅,外面スス |

## 第４表　古代の土師器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 調整 | | | 色調 | | 胎土 | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 底面 | 外面 | 内面 | 白石 | 茶石 | 雲母 | 石英 | 黒石 | 小礫 | | |
| 18 | 43 | E32<br>G31 | Ⅱ，Ⅱa | 11427<br>他 | 埦 | 胴～高台 | － | (7.6) | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ナデ | にぶい橙 | 黒 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 良好 | 外面摩滅 |
| | 44 | G24 | Ⅱ | － | 埦 | 高台 | － | (6.9) | ナデか | ヘラミガキ | ナデ | にぶい橙 | 黒褐～<br>にぶい黄橙 | ○ | ○ | ○ | | | | 良好 | 内外ススス |
| | 45 | G32 | Ⅱ | 36958 | 埦 | 胴～高台 | － | (6.7) | ナデ | ヘラミガキ | ナデ | 浅黄橙 | 橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 良好 | 内外ススス，外面磨滅 |

※土師器2～19，黒色土器20～44，内赤土師器45

## 第５表　古代の須恵器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 調整 | | 色調 | | 胎土 | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | 白石 | 黄白石 | 茶石 | 石英 | 灰石 | 黒石 | | |
| 19 | 46 | D33 | Ⅰ | － | 坏 | 口縁 | ナデ | ナデ | 灰白 | 灰白 | ○ | | ○ | | ○ | | 良好 | 外面やや剥離 |
| | 47 | D27 | Ⅱ | 18833 | 壺 | 肩 | ヘラ横ナデ | 当て具<br>→ヘラナデ | 灰白 | 灰オリーブ | | | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 頸部径：4.0cm<br>外頸部自然釉 |
| | 48 | J30<br>K29・30<br>L28 | Ⅰ，Ⅱ | 25862<br>他 | 壺 | 胴 | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 褐灰 | 褐灰 | ○ | | | ○ | ○ | | 良好 | 肩部径：20.6cm<br>肩部外面黄白胡麻 |
| | 49 | E31 | Ⅲ | 16021 | 壺 | 胴 | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 最大径：23.0cm<br>外面×印か，肩一部自然釉 |
| | 50 | F29 | Ⅱ | 23506 | 壺 | 胴 | 正格子タタキ<br>→ヘラナデ | 同心円当て具<br>→ヘラナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | | | 良好 | |
| | 51 | Ⅰ・J26・27<br>J28 | Ⅰ，Ⅰc，<br>Ⅱ | 25062<br>他 | 甕 | 口縁<br>～頸 | 横ナデ | 横ナデ | 暗赤褐 | 暗赤褐 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 口径：34.8cm<br>内面黄白胡麻 |
| | 52 | D20 | Ⅱ | 19794 | 甕 | 肩 | 条痕タタキ | 同心円当て具 | 暗灰 | 灰 | ○ | | ○ | | | | 良好 | |
| | 53 | G43 | Ⅰ | 9105 | 甕 | 胴 | 条痕タタキ<br>→ナデ | 同心円当て具<br>→ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | ○ | ○ | | | 普通 | 軟質 |
| | 54 | F22 | Ⅰ | － | 甕 | 胴 | 条痕タタキ | 同心円当て具 | 灰 | 灰 | ○ | | | | | | 良好 | － |
| | 55 | K29 | Ⅰ | － | 甕 | 胴 | 条痕タタキ | 同心円当て具 | 赤灰 | 明赤褐 | ○ | | | ○ | | | 良好 | やや摩滅 |
| | 56 | E40 | Ⅰa | － | 甕 | 胴 | 長格子タタキ | 条痕当て具 | 褐灰 | 暗灰黄 | ○ | | | ○ | | | 良好 | － |
| | 57 | D31 | Ⅱb | 16174 | 甕 | 胴 | 格子タタキ<br>→横ナデ | 同心円当て具 | 灰 | 灰 | ○ | | | ○ | | ○ | 良好 | 58と同一 |
| | 58 | I29 | Ⅱ | 23897 | 甕 | 胴 | 格子タタキ<br>→横ナデ | 同心円当て具 | 灰 | 灰 | ○ | | | ○ | | ○ | 良好 | 57と同一 |
| | 59 | G31 | Ⅱ | 37045 | 甕 | 胴 | 長格子タタキ<br>→一部ヘラナデ | 条痕当て具 | 灰 | 灰 | ○ | | ○ | ○ | | | 良好 | 上下面やや磨き |
| | 60 | I25 | Ⅰ | 18075 | 甕 | 胴 | 条痕タタキ | 条痕当て具 | 褐灰 | 灰 | ○ | | | ○ | | | 良好 | － |

## 第６表　中世遺構出土土師器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 遺構番号(旧) | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 調整 | | 色調 | 胎土 | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | 外内面 | 底面 | 外内面 | 白石 | 茶石 | 灰石 | 黒石 | 雲母 | 石英 | |
| 32 | 62 | SB10 | SB44 | ① | － | 坏 | 口～底 | 13.0 | 9.0 | 3.0 | ナデ | 不明 | 浅黄橙 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| | 63 | | | － | 24584他 | 坏 | 胴～底 | － | 7.0 | － | ヘラナデ | 糸切 | 浅黄橙 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| 36 | 71 | SK3 | SK192 | ① | 25401 | 坏 | 口～胴 | － | － | － | ナデ | － | 浅黄橙 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | 普 | 内外著しい摩滅 |
| | 72 | | | － | － | 小皿 | 胴～底 | － | (8.0) | － | ナデ | 糸切 | 鈍い橙～浅黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | | 良 | |
| | 73 | | | ① | － | 小皿 | 胴～底 | － | (7.0) | － | ナデ | 糸切 | 鈍い橙 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| 39 | 80 | SK11 | SK301 | ① | － | 小皿 | 口～底 | (8.7) | 7.0 | 2.4 | ナデ | 糸切→ナデ | 鈍い黄橙 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 普 | Ⅱb類，内外摩滅<br>夾雑物多 |
| 45 | 83 | SL2 | SK295 | － | － | 坏 | 口～胴 | (12.1) | － | － | ナデ | － | 浅黄～橙 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 84 | SL4 | SK297 | － | － | 小皿 | 底 | － | (7.0) | － | ナデ | 糸切 | 灰黄褐 | ○ | | | ○ | ○ | | 良 | 緻密な土 |
| 47 | 85 | 祭1 | SK149 | ① | 23169 | 小皿 | 完形 | 8.2 | 5.3 | 2.1 | ナデ | 糸切→ナデ | 鈍い橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良 | 締り良 |
| 54 | 107 | SD5 | SD13 | ① | 17481 | 小皿 | 口～底 | (8.4) | (6.4) | 1.9 | ナデ | 糸切→ナデ | 橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外やや摩滅<br>夾雑物多 |
| | 108 | | | ① | 17478 | 小皿 | 口～底 | (9.0) | (6.2) | 2.1 | ナデ | 糸切 | 鈍い橙～淡橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 普 | 内外摩滅 |
| | 109 | | | ① | 37281 | 坏 | 口～底 | (14.8) | (11.1) | 3.2 | ナデ | － | 橙～鈍い黄橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外著しい摩滅<br>夾雑物多 |
| 57 | 121 | SD7 | SD36 | ① | 37265 | 坏 | 口～底 | (12.4) | (9.0) | 3.5 | ナデ | 不明 | 浅黄橙～橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 外面やや摩滅 |
| | 122 | | | ① | 27972 | 坏 | 口～底 | (10.8) | (6.3) | 3.2 | ナデ | 糸切 | 浅黄橙～橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 内外やや摩滅 |
| | 123 | | | ① | 25341 | 小皿 | 底 | － | 6.3 | － | ナデ | 糸切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| 60 | 153 | SD8 | SD35 | ⑤ | 25104 | 小皿 | 口～底 | (8.2) | (6.6) | 2.3 | ナデ | 不明 | 鈍い赤褐～橙 | ○ | | | ○ | ○ | | 良 | 締りよい |
| | 154 | | | ④ | 25378 | 小皿 | 口～底 | (10.0) | (7.0) | 3.4 | ナデ | 糸切 | 鈍い黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| 65 | 165 | SD13 | SD23 | ① | － | 坏 | 胴～底 | － | (8.6) | － | 不明 | 不明 | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外著しい摩滅 |
| | 167 | SD14 | SD17 | － | － | 小皿 | 底 | － | (5.6) | － | ナデ | 糸切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 171 | SD15 | SD18 | ② | 19453 | 小皿 | 胴～底 | － | (8.0) | － | ナデ | 糸切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| 66 | 175 | 地1 | SK251 | － | － | 坏 | 口～底 | (12.0) | (9.0) | 2.5 | ナデか | 不明 | 灰白～橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外著しい摩滅<br>夾雑物多 |
| 68 | 177 | 地2 | SK148<br>・186 | ⑦ | 24140他 | 坏 | 口～底 | 11.1 | 8.6 | 3.3 | ナデ | 糸切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 普 | 内外摩滅，鉄分多<br>形状不整形 |
| | 178 | | | ① | 24141 | 坏 | 口～底 | (12.0) | (8.5) | 3.0 | ナデ | 不明 | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| | 179 | | | ① | 26757 | 坏 | 胴～底 | － | (11.0) | － | ナデ | 不明 | 浅黄 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| | 180 | | | － | 22923 | 坏 | 胴～底 | － | (10.0) | － | ナデ | 不明 | 鈍い橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 外面剥離 |
| | 181 | | | － | － | 坏 | 胴～底 | － | (9.5) | － | ナデ | 不明 | 淡赤橙～灰白 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 普 | 全体的に赤焼け |
| 69 | 184 | 地3 | SK170 | － | － | 小皿 | 胴～底 | (6.0) | － | － | ナデ | 糸切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外やや摩滅 |
| 74 | 193 | ST1 | SK32 | － | ST1-1 | 小皿 | 完形 | 8.2 | 5.5 | 1.6 | ナデ | 糸切 | 橙～鈍い黄橙 | ○ | | | ○ | | ○ | 良 | |
| | 194 | | | － | ST1-2 | 小皿 | 胴～底 | (8.3) | 6.1 | 1.4 | ナデ | 糸切，見込穿孔 | 浅黄橙，一部橙 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 普 | 夾雑物多 |
| | 195 | | | － | ST1-3 | 小皿 | 底 | － | 7.0 | － | 内面<br>ナデ | 糸切<br>→ナデ | 淡黄 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| | 196 | | | － | ST1-4 | 坏 | 口～底 | 12.4 | 8.4 | 3.3 | ナデ | 切離不明 | 淡黄 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅 |

## 第６表　中世遺構出土土師器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 遺構番号(旧) | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 調整 | | 色調 | 胎土 | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | 外内面 | 底面 | 外内面 | 白石 | 茶石 | 灰石 | 黒石 | 雲母 | 石英 | | |
| 75 | 199 | ST2 | SK30 | － | ST2-4 | 羽釜 | 完形 | 6.0 | 5.0 | 4.0 | ヘラナデ | 糸切→ナデ | 内:鈍い黄褐<br>外:明黄褐～黒 | | ○ | | | ○ | | 普 | 鍔と口縁部欠損著<br>外面スス |
| 76 | 202 | ST3 | SK59 | ① | 16642 | 小皿 | 口～底 | (8.8) | 6.2 | 2.0 | ナデ | 糸切 | 灰白 | ○ | | | ○ | | ○ | 普 | |
| | 203 | | | ① | 16644 | 小皿 | 口～底 | 8.2 | 6.1 | 2.0 | ナデ | 糸切 | 浅黄橙 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 普 | 底部一部剥離<br>形状不整形 |
| | 204 | | | ① | 16643 | 小皿 | 完形 | 8.8 | 6.6 | 1.5 | ナデ | 糸切 | 灰白 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 普 | 底部一部剥離<br>形状不整形 |
| | 205 | | | ① | 16645 | 小皿 | 完形 | 8.9 | 5.8 | 1.5 | ナデ | 糸切 | 浅黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外剥離 |
| | 206 | | | ① | 16646 | 坏 | 口～底 | 12.5 | 7.4 | 3.5 | ナデ | 糸切 | 灰白 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 内外剥離 |
| | 207 | | | ① | － | 坏 | 口～底 | (13.0) | － | － | ナデ | － | 灰白 | | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| 77 | 208 | ST4 | SK244 | ① | 30046 | 小皿 | 口～底 | 8.5 | 6.6 | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ナデ→板状圧痕 | 浅黄 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 良 | |
| | 209 | | | ① | 30045 | 小皿 | 口～底 | 8.8 | 7.5 | 1.2 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 褐灰 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 210 | | | ① | 30047 | 小皿 | 完形 | 9.0 | 6.8 | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 灰黄褐 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 211 | | | ① | 30049 | 小皿 | 完形 | 8.3 | 7.2 | 1.1 | ナデ | ヘラ切→ナデ→板状圧痕 | 淡黄～橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 鉄分やや多 |
| | 212 | | | ① | 30048 | 小皿 | 口～底 | 8.8 | 6.8 | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 黄灰 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| 78 | 215 | ST5 | SK249 | ① | ST5-3 | 小皿 | 完形 | 9.4 | 7.7 | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ハケナデ | 明褐 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 216 | | | ① | ST5-5 | 小皿 | 完形 | 9.0 | 7.0 | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ナデ→板状圧痕 | 橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 良 | 見込み円状の溝 |
| | 217 | | | ① | ST5-6 | 小皿 | 完形 | 9.5 | 7.4 | 2.0 | ナデ | ヘラ切→板状圧痕→ナデ | 橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 218 | | | ① | ST5-4 | 坏 | 口～底 | (13.8) | (9.0) | 2.1 | ナデ | ヘラ切→板状圧痕 | 橙～浅黄橙 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 219 | | | ① | ST5-2 | 坏 | 完形 | 15.1 | 11.5 | 2.2 | ナデ | ヘラ切→板状圧痕→ナデ | 外:明褐<br>内:鈍い黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| 79 | 222 | ST6 | SK250 | ① | ST6-1 | 小皿 | 口～底 | (10.0) | (8.0) | 1.6 | ナデ | ヘラ切→板状圧痕→ナデ | 暗灰黄 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 良 | |
| | 223 | | | ① | ST6-2,6 | 小皿 | 口～底 | 9.3 | 6.9 | 1.5 | ナデ | 雑なヘラ切 | 外:鈍い黄<br>内:黄灰 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 224 | | | ① | ST6-5 | 小皿 | 口～底 | 8.8 | 6.6 | 1.5 | ナデ | 糸切→板状圧痕 | 鈍い黄 | ○ | | | ○ | ○ | | 良 | |
| | 225 | | | ① | ST6-4 | 小皿 | 口～底 | 9.4 | 7.8 | 1.7 | ナデ | ヘラ切→板状圧痕 | 鈍い黄橙 | ○ | ○ | | | ○ | | 良 | |
| | 226 | | | ① | ST6-3 | 坏 | 口～底 | 12.80 | 9.0 | 3.3 | ナデ | ヘラ切 | 灰白 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 良 | |
| 83 | 236 | P7 | P1755 | ① | － | 坏 | 底 | － | 8.0 | － | ナデ | 糸切 | 鈍い黄橙 | | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 237 | P10 | P1818 | ① | － | 小皿 | 口～底 | 8.5 | 6.5 | 1.3 | ナデ | 糸切 | 淡赤橙 | ○ | | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 238 | P11 | P2276 | ① | － | 坏 | 口～底 | 11.6 | 8.6 | 3.5 | ナデ | 不明 | 赤橙 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | 普 | 外面剥離,内外摩滅 |

## 第７表　中世遺構出土国産陶器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 遺構番号(旧) | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 調整 | | 色調 | | 胎土 | | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | 白石 | 茶石 | 灰石 | 黒石 | 黄白石 | 石英 | 輝石 | | |
| 49 | 100 | 祭2 | SK257 | － | － | 擂鉢 | 完形 | 備前 | 31.4 | 14.4 | 12.1 | 横ナデ<br>底:ナデ | 横ナデ | 口:灰赤<br>胴:暗赤褐<br>底:明赤褐 | 極暗赤褐 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | 良 | 10条単位で12組<br>口唇:一部自然釉 |
| 51 | 103 | SD3 | SD12 | － | 13740 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | － | － | 横ナデ | 横ナデ | 口:やや光沢のある黒<br>胴:灰色 | 灰 | ○ | | | | | ○ | | 良 | 凹凸あり |
| 54 | 115 | SD5 | SD13 | － | － | 鉢 | 底 | 東播系 | | (9.2) | | ヘラナデ<br>底:糸切 | ヘラナデ | 灰 | 灰 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | 良 | 内面使用痕 |
| | 116 | | | ① | 17480 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | | (9.2) | | ヘラ横ナデ<br>底:糸切 | ヘラ横ナデ | 褐灰 | 褐灰 | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | 良 | |
| | 118 | | | ① | 37283 | 碗 | 胴～高台 | 近世陶器 | | (4.4) | | － | － | 黒<br>高台:灰褐 | 黒 | ○ | ○ | | | | ○ | | 良 | 胴下半～高台内無釉<br>輪状釉剥ぎ<br>産地:薩摩（龍門司） |
| 57 | 133 | SD7 | SD36 | ① | 25362 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | (29.6) | | | 横ナデ | 横ナデ | 灰白 | 灰白 | ○ | | ○ | | | ○ | | 良 | 内外:施釉<br>高台:無釉 |
| | 134 | | | ① | 25335 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | － | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 口:黒<br>胴:灰 | 灰 | ○ | | | | | | ○ | 普 | |
| | 135 | | | ① | － | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | － | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 口:黒<br>胴:黄灰 | 黒 | ○ | | | | ○ | | ○ | 普 | |
| | 136 | | | ① | 25332 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | － | － | 横ナデ | 横ナデ | 口:暗青灰<br>胴:灰 | 灰 | ○ | | | | | ○ | | 良 | |
| | 137 | | | ① | 37247 | 鉢 | 底 | 東播系 | | 9.6 | | ナデ | ナデ | 黄灰 | 黄灰 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | 良 | |
| | 138 | | | ① | 25293 | 広口壺 | 頸～胴 | カムィヤキ | － | － | － | 長格子タタキ→横ナデ | 格子当て具→横ナデ | 暗灰 | 灰 | ○ | | | | | ○ | | 良 | 内部:暗赤褐 |
| 58 | 139 | SD7 | SD36 | ① | 28111 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | (25.6) | | | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 鈍い赤褐 | 鈍い赤褐 | ○ | ○ | | | | ○ | | 良 | 掻き目６条 |
| | 140 | | | ① | 25331 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 須恵質系土器 | (24.2) | | | 横ハケナデ | 横ハケナデ | 灰白 | 灰白 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 良 | 口縁一部:黒褐 |
| | 141 | | | ① | 27978 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | － | － | － | 横ナデ | 横ナデ | 暗赤褐 | 暗赤褐 | ○ | ○ | | | | ○ | | 良 | 掻き目７条<br>内面:浅黄色胡麻 |
| | 142 | | | ① | 28021 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | － | － | － | 横ナデ | 横ナデ | 暗青灰 | 暗青灰 | ○ | ○ | | | | ○ | | 良 | 掻き目11条 |
| | 143 | | | ① | 28017 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | (28.4) | | | 横ナデ | 横ナデ | 口:暗赤褐<br>胴:黒褐 | 暗赤褐 | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | 良 | 内面:オリーブ黄色胡麻 |

## 第７表　中世遺構出土国産陶器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 遺構番号(旧) | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 調整 | | 色調 | | 胎土 | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | 白石 | 茶石 | 灰石 | 黒石 | 黄白石 | 石英 | 輝石 | |
| 58 | 144 | SD7 | SD36 | ① | 25350 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | － | － | － | 横ナデ | 横ナデ | 口:鈍い赤褐 胴:橙 | 橙 | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | 良 | |
| | 145 | | | ①, Ⅱ | 25322他 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | － | － | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 青褐 | 青灰 | ○ | ○ | | ○ | | | | 良 | 掻き目８条<br>使用痕 |
| | 146 | | | ① | 26888 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | － | － | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰赤 | 黄灰 | ○ | ○ | | | ○ | | | 良 | 外面:一部黄色胡麻<br>内面:胡麻 |
| | 147 | | | ① | 28024 | 擂鉢 | 胴～底 | 備前 | | (14.0) | | 横ナデ<br>底:ナデ | 横ナデ | 黄灰～灰黄 | 黄灰～灰黄 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | 良 | 掻き目８条<br>使用痕 |
| 60 | 159 | SD8 | SD35 | ④, Ⅱ | 25382他 | 鉢 | 口縁～底 | 東播系 | (29.5) | 9.0 | 9.9 | 横ナデ<br>底:糸切 | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | | 良 | 底部砂目痕 |
| 64 | 164 | SD12 | SD31 | ① | 22135 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | － | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 口:暗灰色<br>胴:灰 | 灰 | ○ | | ○ | | | ○ | | 良 | |
| 65 | 170 | SD14 | SD17 | ② | 19450 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | － | － | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 口:灰白<br>胴:褐灰 | 灰黄 | ○ | | ○ | | | ○ | | 良 | 掻き目４条幅広 |
| 66 | 176 | 地1 | SK251 | ① | 33059 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | － | － | 横ナデ | 横ナデ | 口:黒<br>胴:黄灰 | 黄灰 | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | 良 | |
| 69 | 183 | 地3 | SK170 | － | － | 擂鉢 | 胴 | 備前 | － | － | － | 不明 | 不明 | 鈍い赤褐 | 鈍い赤褐 | ○ | | | | | ○ | | 良 | 掻き目単位不明<br>外面施釉,胎土:灰 |
| 71 | 187 | 火1 | SK234 | ③ | － | 鉢 | 口縁～底 | 東播系 | (29.3) | (15.0) | 11.0 | 口縁:ナデ<br>縦ハケナデ | 横・斜位ハケナデ | 灰白 | 灰白 | ○ | | | | | ○ | | 普 | 内面～口縁付近:灰 |
| 78 | 220 | ST5 | SK249 | ① | 26617 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | － | － | － | 横ナデ | 横ナデ | 黄灰 | 黄灰 | ○ | | | ○ | | ○ | | 良 | |

## 第８表　中世遺構出土船来産陶磁器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 遺構番号(旧) | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 胎土色調 | 釉薬色調 | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34 | 64 | SI | SI21 | 下層 | － | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:10.0 | － | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良 | － | 白皿４類 | 森田Ｄ類 | |
| | 65 | | | 床 | 7594 | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:18.0 | － | 灰白 | 淡緑 | | 良 | 龍泉窯系 | 青磁６類 | 上田D-1類 | |
| | 66 | | | 下層 | － | 碗 | 高台 | 青磁 | 底径:(5.4) | － | 灰白 | 淡緑 | 高台内釉剥 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁６類 | 上田Ｄ類 | |
| 36 | 74 | SK3 | SK192 | ① | 25404 | 皿 | 口縁 | 白磁 | － | － | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良 | － | 白磁４類 | Ⅲ類 | |
| | 75 | | | ① | 25396 | 碗 | 口縁 | 青磁 | － | 外:雷文 | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良 | 龍泉窯系 | 青磁５類 | 上田C-2類 | |
| 38 | 78 | SK6 | SK202 | ① | 28154 | 坏 | 口縁～胴 | 白磁 | － | － | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良 | － | 白磁５類 | 森田Ｄ類 | 多角坏<br>内面貫入 |
| 40 | 81 | SK12 | SK302 | ① | － | 碗 | 胴～高台 | 青磁 | 底径:6.0 | 見込:草花文 | 灰 | オリーブ灰 | 外底,高台畳付一部無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁２類 | Ⅰ-2～4類 | 外底部砂目痕 |
| 43 | 82 | SK25 | SK178 | － | 22803 | 碗 | 胴 | 青磁 | － | 外:鎬蓮弁文 | 灰白 | 明緑灰 | | 良 | 龍泉窯系 | 青磁３類 | Ⅱ-b類 | |
| 47 | 86 | 祭1 | SK149 | ① | 23170 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(11.1) | － | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良 | － | 白磁４類 | Ⅲ類 | |
| 51 | 101 | SD3 | SD12 | － | 13737 | 碗 | 口縁 | 白磁 | － | － | 灰 | 灰白 | | 良 | － | 白磁１類 | Ⅰ-4類 | |
| | 102 | | | － | 13735 | 碗 | 口縁 | 青磁 | － | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | 灰オリーブ | | 良 | 龍泉窯系 | 青磁３類 | Ⅱ-b類 | |
| 54 | 110 | SD5 | SD13 | ①, Ⅱb | 37284他 | 碗 | 胴～高台 | 白磁 | 口径:(6.1) | － | 灰白 | 灰白 | 胴下～高台無釉 | 良 | － | 白磁２類 | Ⅴ類 | |
| | 111 | | | ① | 37289 | 碗 | 胴～高台 | 白磁 | 底径:(5.6) | 見込:1条の界線 | 灰白 | 明緑灰 | 底～高台無釉 | 良 | － | 白磁４類 | Ⅸ類 | |
| | 112 | | | ①, Ⅱb | 37282他 | 碗 | 胴～高台 | 青磁 | 底径:6.4 | － | 灰白 | 灰オリーブ | 高台内無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁６類 | 上田D-2類 | 貫入 |
| | 113 | | | ② | 17475 | 碗 | 胴～高台 | 青磁 | 底径:5.8 | － | 灰 | 灰オリーブ | 外底一部無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁６類 | 上田D-1類 | 焼台粘土付着 |
| | 114 | | | ① | 37289 | 碗 | 胴 | 青磁 | － | 内:花文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良 | 龍泉窯系 | 青磁２類 | Ⅰ-4類 | |
| 55 | 119 | SD6 | SD37 | Ⅲb | 30225 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(14.4) | － | 灰白 | 灰白 | | 良 | － | 白磁３類 | Ⅶa類 | |
| | 120 | | | ① | 37925他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(18.0) | － | 灰白 | 灰白 | | 良 | － | 白磁２類 | Ⅴ-4類か Ⅷ類 | |
| 57 | 124 | SD7 | SD36 | ① | － | 皿 | 底～高台 | 白磁 | 底径:3.9 | － | 淡黄 | 灰白 | 底～高台無釉 | 良 | － | 白皿５類 | 森田Ｄ類 | 貫入 |
| | 125 | | | ① | 28055 | 皿 | 胴～高台 | 白磁 | 底径:3.6 | － | 白 | 明緑灰 | 底～高台無釉 | 良 | － | 白皿５類 | 森田Ｄ類 | 貫入 |
| | 126 | | | ①, Ⅲa | 23086他 | 碗 | 胴～高台 | 青磁 | 底径:6.6 | 内:８区画・草花文,陽刻 | 黄灰 | オリーブ灰 | 見込円形畳付～高台内釉剥 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁６類 | 上田D-2類 | |
| | 127 | | | ① | 25351 | 碗 | 胴～高台 | 青磁 | 底径:6.1 | 外:雷文帯<br>内:二重界線,草花文押印 | 黄灰～浅黄 | 灰オリーブ | 高台内無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁３類 | 上田C-2類 | |
| | 128 | | | ① | 28022 | 碗 | 底～高台 | 青磁 | 底径:6.0 | 見込:草花文印刻 | 灰 | 灰オリーブ | 高台脇～内無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁６類 | Ⅳ-イ類 | |
| | 129 | | | ① | 26889 | 碗 | 胴～高台 | 青磁 | 底径:5.8 | 外:二重界線<br>見込:界線,草花文 | 灰 | オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁６類 | 上田D-2類 | 貫入<br>高台内砂目跡 |
| | 130 | | | ① | 26910 | 碗 | 底～高台 | 青磁 | 底径:(7.2) | 見込:不明文 | 灰白 | 緑灰 | 高台内無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁６類 | Ⅳ-イ類 | |

## 第８表　中世遺構出土船来産陶磁器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 遺構番号(旧) | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 胎土色調 | 釉薬色調 | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 57 | 131 | SD7 | SD36 | ① | 27975 | 碗 | 胴～高台 | 青磁 | 底径:5.2 | 見込:界線 | 灰 | 灰オリーブ | 畳付～高台内釉剥 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁碗６類 | 上田D-2類 | |
| | 132 | | | ① | 29425 | 盤 | 底～高台 | 青磁 | － | 内:連弁文 | 灰白 | オリーブ灰 | 高台内釉剥 | 良 | 龍泉窯系 | － | － | 貫入 |
| 60 | 155 | SD8 | SD35 | ⑤ | 25212 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.0) | － | 灰白 | 灰オリーブ | | 良 | － | 白磁碗１類 | Ⅳ類 | |
| | 156 | | | ⑤ | 25215 | 碗 | 口縁 | 白磁 | － | － | 鈍い橙 | 灰黄 | | 良 | － | 白磁碗１類 | Ⅳ類 | 貫入 |
| | 157 | | | ④, Ⅱ | 26060他 | 碗 | 底～高台 | 白磁 | 底径:(7.0) | 見込:沈線 | 灰白 | 灰白 | 外面無釉 | 良 | － | 白磁碗１類 | Ⅳ類 | |
| | 158 | | | ⑤, Ⅱ | 25216 | 皿 | 口縁～高台 | 青磁 | 口径:(12.0)<br>底径:(5.4)<br>器高:3.3 | 内:三重沈線,片彫文<br>見込:片彫文 | 灰黄 | オリーブ灰 | 高台内無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁皿１類 | － | 稜花皿<br>高台内砂粒付着 |
| 65 | 166 | SD13 | SD23 | ① | 19439 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | － | 鏡蓮弁文 | 灰 | 灰オリーブ | | 良 | 龍泉窯系 | 青磁碗３類 | Ⅱ-b類 | |
| | 168 | SD14 | SD17 | ① | 19449 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(15.8) | － | 灰 | オリーブ灰 | | 良 | 龍泉窯系 | 青磁碗６類 | 上田D-2類 | 貫入 |
| | 169 | | | ① | 18695 | 皿 | 胴～高台 | 白磁 | 底径:(6.0) | － | 灰 | 灰 | 見込:幅広輪状釉剥,胴下半～高台無釉 | 良 | － | 白磁皿５類 | 森田D類 | |
| | 172 | SD15 | SD18 | 覆土 | － | 碗 | 胴～高台 | 白磁 | 底径:(7.0) | 見込:沈線 | 灰白 | 灰オリーブ | 外面無釉 | 良 | － | 白磁碗１類 | Ⅳ類 | |
| | 173 | | | ② | 19457 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | － | | 灰 | オリーブ灰 | | 良 | 龍泉窯系 | 青磁碗６類 | 上田D-2類 | |
| | 174 | | | ①, Ⅱ, Ⅱa | 18705他 | 碗 | 口縁～高台 | 青磁 | 口径:(14.8)<br>口径:(6.0)<br>器高:6.6 | 見込:界線,蓮花文 | 灰黄～灰白 | 灰オリーブ | 高台内無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁碗６類 | 上田D-2類 | |
| 73 | 191 | 火2 | SK185 | ② | 29495 | 皿 | ほぼ完形 | 青磁 | 口径:11.1<br>底径:5.2<br>器高:3.2 | 口縁:二重界線 | 黄灰<br>高台内:鈍い褐 | 暗オリーブ | 外底・高台内一部無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁皿１類 | － | 稜花皿 |
| | 192 | | | ① | 29035 | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(10.0) | － | 灰黄 | オリーブ灰 | | 良 | 龍泉窯系 | 青磁碗５類 | 上田C類 | |
| 75 | 197 | ST2 | SK30 | － | ST2-1 | 碗 | 完形 | 白磁 | 口径:17.1<br>底径:6.3<br>器高:6.5 | － | 灰白 | 灰オリーブ | 胴下～高台内無釉 | 良 | － | 白磁碗２類 | Ⅴ-4類 | |
| | 198 | | | － | ST2-2 | 碗 | ほぼ完形 | 白磁 | 口径:16.5<br>底径:6.6<br>器高:6.3 | － | 浅黄橙 | 灰黄 | 見込:円状掻取,胴部下～見込無釉 | 良 | － | 白磁碗２類 | Ⅴ-4類かⅧ類 | |
| | 200 | | | － | ST2-3 | 碗 | 胴 | 青磁 | － | 内外:櫛歯文 | 鈍い黄橙 | 黄褐 | 外面釉切 | 良 | 同安窯系 | 青磁碗１類 | Ⅰ-1b類 | 内面貫入<br>福建産 |
| 82 | 230 | P1 | P206 | ① | － | 甕 | 胴 | 陶器 | － | 内調整:同心円当て具<br>外調整:格子タタキ<br>→ヘラ横ナデ | 外面:黒褐 | 内面:褐灰 | 外面無釉 | 良 | － | － | － | 中国製 |
| | 232 | P3 | P1015 | ① | － | 碗 | 胴～高台 | 青磁 | 底径:5.6 | 外:界線１条<br>内底:草花文,界線 | 灰白 | オリーブ灰 | 高台内無釉 | 良 | 龍泉窯系 | 青磁碗６類 | 上田Dかe類 | 貫入 |
| 83 | 234 | P5 | P2731 | ① | － | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:11.8 | － | 灰白 | 灰白 | 口唇部掻取 | 良 | － | 白磁碗４類 | Ⅸ類 | |

※分類　森田分類は　森田勉「14～16世紀の白磁と分類と編年」『貿易陶磁研究NO.2』1982
上田分類は　上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究NO.2』1982
その他の分類は　大宰府教育委員会『大宰府条坊跡ⅩⅤ-陶磁器分類編-』2000
をそれぞれ参考にした。(変更あり)

## 第９表　中世遺構出土石器・石製品観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 遺構番号(旧) | 層 | 取上番号 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | 61 | SB6(P2) | SB47(P2) | Ⅰ | － | 石製品 | 4.0 | 3.4 | 1.2 | 17.4 | 滑石 | パレン状 |
| 34 | 68 | SI | SI21 | 床直 | 7624 | 石製品 | 18.0 | 12.4 | 11.0 | 690.1 | 軽石 | |
| | 69 | | | ① | 7136 | 磨石類 | 7.8 | 11.1 | 4.0 | 568.2 | 安山岩 | |
| 35 | 70 | SK1 | SK23 | ① | 7336 | 石製品 | (32.4) | 15.5 | 13.3 | 2,012 | 軽石 | |
| 36 | 76 | SK3 | SK192 | ① | 25403 | 石製品 | 13.6 | 8.9 | 9.3 | 591.4 | 軽石 | |
| 38 | 79 | SK6 | SK202 | ① | 28151 | 石製品 | 12.2 | 12.1 | 8.9 | 415.3 | 軽石 | |
| 51 | 104 | SD3 | SD12 | ① | 13719 | 砥石 | (8.5) | (8.9) | (6.9) | 709.8 | 砂岩 | |
| | 105 | | | ① | 13749 | 砥石 | (11.4) | (13.1) | (8.1) | 1,040 | 凝灰岩 | |
| | 106 | | | ① | 13765 | 石製品 | 20.0 | 14.0 | 5.8 | 502.7 | 軽石 | |
| 54 | 117 | SD5 | SD13 | ① | 37288 | 石製品 | 4.7 | 4.4 | 2.5 | 61.7 | 滑石 | |
| 59 | 148 | SD7 | SD36 | ① | 36576 | 砥石 | (4.6) | 3.0 | 1.6 | 35.8 | 砂岩 | |
| | 149 | | | ① | 37239 | 砥石 | (6.3) | (3.1) | 1.2 | 30.7 | 砂岩 | |
| | 150 | | | ① | 27985 | 砥石 | (13.5) | (8.8) | (3.2) | 377.2 | 砂岩 | |
| | 151 | | | ① | 29420 | 砥石 | (8.3) | (14.0) | (8.6) | 1,298 | 砂岩 | |
| | 152 | | | ① | 29428 | 砥石 | 10.3 | 5.4 | 2.5 | 153.3 | 流紋岩 | |
| 61 | 160 | SD8 | SD35 | ② | 25192 | 砥石 | 6.5 | 4.5 | 1.4 | 55.7 | 頁岩 | |
| | 161 | | | ② | 25194 | 砥石 | (12.0) | (8.0) | (7.6) | 1,011 | 砂岩 | |
| | 162 | | | ③・⑤ | 25198・25199・25203 | 茶臼 | － | － | 9.4 | 5,200 | 凝灰岩 | 推定直径34.0cm |
| | 163 | | | ④ | 25200・25201 | 茶臼 | － | － | 12.2 | 2,600 | 凝灰岩 | 推定径20.7cm |
| 68 | 182 | 地2 | SK148・186 | － | － | 石製品 | 14.0 | 15.7 | 11.0 | 931.9 | 軽石 | |
| 69 | 185 | 地3 | SK170 | － | － | 五輪塔（空輪） | 12.5 | 14.7 | 13.3 | 2,300 | 凝灰岩 | |
| 71 | 188 | 火1 | SK234 | ③ | 火1-№55 | 石皿・台石 | 19.3 | 17.5 | 11.2 | 3,110 | 凝灰岩 | |
| | 189 | | | ③ | 火1-№33 | 磨石 | 11.1 | 10.6 | 7.7 | 940.0 | 砂岩 | |
| 73 | 190 | 火2 | SK30 | ② | 28160 | 石皿・台石 | 29.0 | 25.6 | 8.7 | 8,700 | 砂岩 | |
| 78 | 221 | ST5 | SK249 | － | ST5-№7 | 玉状製品 | 1.2 | 1.3 | 0.9 | 2.0 | 水晶 | |
| 81 | 227 | SG7 | SG7 | Ⅱa | 18 | 石鍋 | 19.1 | 12.3 | 7.9 | 1,423 | 滑石 | |
| | 228 | | | Ⅱb | － | 五輪塔（火輪） | 42.3 | 18.0 | 16.3 | 6,900 | 凝灰岩 | |
| | 229 | | | － | － | 五輪塔（地輪） | 41 | 39 | 12.2 | | 凝灰岩 | |
| 82 | 233 | P4 | P2378 | － | － | 石製品 | (9.4) | (7.0) | (10.5) | 186.4 | 軽石 | |
| 83 | 235 | P6 | P2805 | － | 37533 | 石製品 | 4.8 | 3.3 | 1.0 | 18.6 | 滑石 | パレン状 |
| | 239 | P8 P9 | P1903 P1919 | － | － | 石製品 | 29.1 | 23.0 | 12.3 | 12,300 | 花崗岩 | |

## 第 10 表　中世遺構出土金属製品観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 遺構番号(旧) | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34 | 67 | SI | SI21 | | | 刀子 | | 左7.4 右7.3 | 1.6 | 0.3 | | ２本癒着 |
| 37 | 77 | SK5 | SK196 | ① | － | 刀子 | | 22.5 | 2.6 | 0.7 | 105.3 | |
| 69 | 186 | 地3 | SK170 | ① | 22961 | 鉛玉 | | | | | 5.5 | 鉛99%，鋼カブラか |
| 76 | 201 | ST2 | SK30 | ① | | 無名湖洲鏡 | ― | 直径12.0 | | | | 表に布痕・ベンガラ付着 |
| 77 | 213 | ST4 | SK244 | ① | | 鉄滓 | － | 6.0 | 6.0 | 3.5 | 12.4 | |
| | 214 | | | ① | | 鉄滓 | － | 8.0 | 4.5 | 4.5 | 23.7 | |

## 第 11 表　中世遺構出土渡来銭観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 遺構番号(旧) | 層 | 取上番号 | 器種 | 分類 | 銭径(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 時期 | 背面 | 初鋳年 | 書体 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 48 | 87 | 祭2 | SK257 | ① | － | 渡来銭 | 開元通寶 | 24.6 | 1.4 | 2.5 | 唐 | 上月 | 621年 | 真書 | |
| | 88 | | | ① | － | 渡来銭 | 治平元寶 | 24.6 | 1.4 | 2.3 | 北宋 | － | 1064年 | 真書 | |
| | 89 | | | ① | － | 渡来銭 | 治平元寶 | 24.8 | 1.4 | 3.4 | 北宋 | － | 1064年 | 篆書 | |
| 49 | 90 | 祭2 | SK257 | ① | － | 渡来銭 | 開元通寶 | 23.8 | 1.4 | 2.2 | 唐 | 上月 | 621年 | 真書 | |
| | 91 | | | ① | － | 渡来銭 | 咸平元寶 | 24.9 | 1.3 | 3.4 | 北宋 | － | 998年 | 真書 | |
| | 92 | | | ① | － | 渡来銭 | 天聖元寶 | 24.6 | 1.4 | 2.9 | 北宋 | － | 1023年 | 篆書 | |
| | 93 | | | ① | － | 渡来銭 | 皇宋通寶 | 24.9 | 1.2 | 3.1 | 北宋 | － | 1039年 | 篆書 | |
| | 94 | | | ① | － | 渡来銭 | 開元通寶 | 24.0 | 1.5 | 3.6 | 唐 | 不明 | 621年 | 真書 | |
| | 95 | | | ① | － | 渡来銭 | 不明 | 24.3 | 1.5 | 3.5 | － | － | － | 不明 | |
| | 96 | | | ① | － | 渡来銭 | 乾徳元寶 | 23.2 | 1.3 | 1.6 | 前蜀 | － | 919年 | 真書 | 劣化 |
| | 97 | | | ① | － | 渡来銭 | 天聖元寶 | 25.3 | 1.4 | 3.5 | 北宋 | － | 1023年 | 真書 | |
| | 98 | | | ① | － | 渡来銭 | 洪武通寶 | 24.0 | 1.8 | 3.8 | 明 | － | 1368年 | 真書 | |
| | 99 | | | ① | － | 渡来銭 | 咸元通寶 | 26.0 | 1.0 | 1.8 | | － | | 真書 | 鐵維付着 |
| 82 | 231 | P2 | P2931 | ① | － | 渡来銭 | 政和通寶 | | | | 北宋 | － | 1111年 | 篆書 | |

## 第 12 表　中世の土師器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 調整 | | 色調 | 胎土 | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 外・内面 | 底面 | | 白石 | 茶石 | 灰石 | 黒石 | 雲母 | 石英 | | |
| 84 | 240 | H29 | Ⅱ | 24608他 | 坏 | 口縁～底 | (17.4) | (11.8) | 2.6 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 暗灰黄～黒褐 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 241 | H31 | Ⅱ | 28454他 | 坏 | 口縁～底 | (17.0) | (9.5) | 3.0 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 淡黄 | | ○ | | ○ | ○ | | 良 | 緻密な土 |
| | 242 | G32 | Ⅱ,Ⅱb | 36919他 | 坏 | 口縁～底 | (15.6) | 8.8 | 3.2 | ナデ | ヘラ切→板状圧痕→ナデ | 灰白 | | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 緻密な土 |
| | 243 | F30 | Ⅱ | － | 坏 | 口縁～底 | (15.8) | 9.0 | 3.1 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 緻密な土 |
| | 244 | F31 | Ⅱb | 37128他 | 坏 | 口縁～底 | (15.8) | (8.6) | 3.3 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 内:浅黄橙<br>外:橙～浅黄橙 | | | | ○ | ○ | ○ | 良 | 緻密な土 |
| | 245 | G・H30 | Ⅱ | 24889他 | 坏 | 口縁～底 | (14.0) | (6.6) | 3.2 | ナデ | 板状圧痕 | 内:褐灰<br>外:にぶい褐 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 締り良 |
| | 246 | D32 | Ⅱb | 16133 | 坏 | 口縁～底 | (13.0) | (7.7) | 2.9 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 口唇部面取り |
| | 247 | J35 | Ⅲa | － | 坏 | 胴～底 | － | (10.8) | － | ナデ | ヘラ切→ナデ | 灰白 | | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 緻密な土 |
| | 248 | G31 | Ⅱ | 27565 | 坏 | 胴～底 | － | 11.2 | － | ナデ | 雑なヘラ切→ナデ | 内:にぶい黄橙<br>外:橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 小礫含む,内外スス,締り弱 |
| | 249 | E・F 31・32 | Ⅲ | － | 坏 | 胴～底 | － | (12.0) | － | ナデ | ヘラ切→ナデ | 内:褐灰<br>外:灰黄 | ○ | | | | ○ | ○ | 良 | 内面黒色 |
| | 250 | F31 | Ⅱb | 38418 | 坏 | 胴～底 | － | (9.0) | － | ナデ | ヘラ切→ナデ | 内:浅黄橙<br>外:橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 良 | |
| | 251 | J28・30 | Ⅰ,Ⅱ | 25478 | 坏 | 底 | － | (10.3) | － | ナデ | ヘラ切→ナデ | 内:橙<br>外:浅黄橙 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 普 | 小礫含む,締り弱 |
| | 252 | H30 | Ⅱ | 24855 | 坏 | 口縁～底 | (10.6) | (7.8) | 2.6 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 内:灰白<br>外:橙 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 外面一部橙色,緻密な土,締り良 |
| | 253 | G29 | Ⅱ | 23283他 | 坏 | 口縁～底 | (13.8) | (10.0) | 3.2 | ナデ | 糸切 | 内:にぶい黄橙<br>外:黒褐～灰黄褐 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 254 | H29 | Ⅱ | 23377他 | 坏 | 口縁～底 | (14.0) | 11.0 | 3.1 | ナデ | 糸切 | にぶい黄 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 緻密な土,締り良 |
| | 255 | E31 | Ⅱ | － | 坏 | 口縁～底 | (13.0) | (8.4) | 3.2 | ナデ | 糸切 | にぶい橙 | ○ | ○ | | | | ○ | 良 | 締り良 |
| | 256 | K29 | Ⅱ | 23798 | 坏 | 口縁～底 | (13.0) | (8.6) | 3.3 | ナデ | 糸切 | にぶい橙 | ○ | | | ○ | | | 良 | 焼成ムラ,締り良 |
| | 257 | K37 | Ⅰ | － | 坏 | 口縁～底 | (11.4) | (8.3) | 3.4 | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | ○ | | | ○ | | ○ | 良 | 締り良 |
| | 258 | I23 | Ⅱb | 22428 | 坏 | 口縁～底 | (11.3) | 7.3 | 3.4 | 内:ハケナデ<br>外:ナデ | 糸切→ナデ | 灰黄 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 普 | |
| | 259 | I・J30 | Ⅱ,Ⅱa,Ⅲ | 24208他 | 坏 | 口縁～底 | (10.8) | 6.2 | 3.1 | ナデ | 糸切 | 内:にぶい橙<br>外:灰褐～黒褐 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | 見込渦巻き状のナデ |
| 85 | 260 | H36 | Ⅲa | 29060 | 坏 | 口縁～底 | (12.0) | 8.8 | 3.5 | ナデ | 糸切 | 褐 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 普 | 小礫含む,締りやや弱 |
| | 261 | H36 | Ⅲa | 29059 | 杯 | 口縁～底 | (11.7) | 7.9 | 3.5 | ナデか | 糸切 | 淡黄 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅,小礫含む |
| | 262 | I29・30 | Ⅱ,Ⅱb | 26625他 | 坏 | 口縁～底 | (12.0) | 8.8 | 3.7 | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | 見込ススス |
| | 263 | I29 | Ⅱb | － | 坏 | 口縁～底 | (13.4) | (9.6) | 3.1 | ナデ | 糸切か→ナデ | にぶい黄橙 | ○ | | | ○ | | ○ | 良 | 一部比熱,小礫含む |
| | 264 | L28 | Ⅰ | － | 坏 | 口縁～底 | (11.2) | (6.6) | 3.2 | ナデ | 糸切か | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| | 265 | F22 | Ⅲa | 22134 | 坏 | 口縁～底 | (11.0) | (7.4) | 3.0 | ナデ | 糸切か | にぶい橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 266 | J28 | Ⅰ | － | 坏 | 口縁～底 | (11.2) | (7.7) | 3.2 | ナデ | 糸切 | にぶい橙 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 267 | J38 | Ⅲa | 22979 | 坏 | 口縁～底 | (11.2) | (7.6) | 3.3 | ナデ | 糸切か | 内:浅黄橙<br>外:にぶい黄橙 | ○ | ○ | | | | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| | 268 | K28 | Ⅰ | － | 坏 | 口縁～底 | (11.6) | (7.3) | 3.2 | ナデ | 糸切 | 橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 269 | K25 | Ⅳ | 22928 | 坏 | 口縁～底 | (11.2) | (7.6) | 3.1 | ナデ | 糸切か→ナデ | 浅黄橙～にぶい橙 | | ○ | | ○ | | ○ | 普 | 内外摩滅,小礫含む |
| | 270 | K37 | Ⅰ | － | 坏 | 口縁～底 | (10.6) | (7.5) | 3.2 | ナデ | 糸切か→ナデ | 橙 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅,薄くスス |
| | 271 | J28 | Ⅰ | － | 坏 | 口縁～底 | (11.4) | (8.8) | 3.1 | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | ○ | | | ○ | | ○ | 普 | |
| | 272 | I40.41 | Ⅱ | 14585 | 坏 | 口縁～底 | (11.0) | (6.8) | 3.9 | ナデ | 糸切か→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| | 273 | E25 | Ⅱ | － | 坏 | 口縁～底 | (10.8) | (8.0) | 2.1 | ナデ | 糸切 | 内:浅黄橙<br>外:灰白 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 良 | |
| | 274 | E31 | Ⅲa | 16302 | 坏 | 胴～底 | － | (9.6) | － | ナデ | 糸切 | 内:にぶい黄橙<br>外:灰黄褐 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 275 | H29 | Ⅱ | 26398 | 坏 | 胴～底 | － | (10.0) | － | ナデ | 糸切→ナデ | 浅黄橙 | | | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内面剥離 |
| | 276 | L37 | Ⅱb | 26761 | 坏 | 胴～底 | － | (9.6) | － | ナデ | 糸切 | にぶい褐 | ○ | | | ○ | | | 普 | 焼成ムラ |
| | 277 | G31・32 | Ⅰ,Ⅱb | － | 坏 | 口縁 | (16.5) | － | － | ナデ | － | にぶい橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 278 | F31 | Ⅱb | 39633 | 坏 | 口縁 | (15.6) | － | － | ナデ | － | 内:浅黄<br>外:黒褐 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 279 | F31 | Ⅱb | 36867 | 坏 | 口縁 | (14.0) | － | － | ナデ | － | 浅黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 280 | H31 | Ⅱ | 28525 | 坏 | 口縁～胴 | (14.0) | － | － | ナデ | － | 灰白 | | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| 86 | 281 | H31 | Ⅱ | 28513他 | 坏 | 口縁 | (15.0) | － | － | ナデ | － | にぶい黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 282 | F32 | Ⅱb | 36611 | 坏 | 口縁～胴 | (13.6) | － | － | ナデ | － | 内:褐灰～にぶい黄橙<br>外:褐灰 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 283 | G31 | Ⅱ | 27630 | 坏 | 口縁 | (13.6) | － | － | ナデ | － | 浅黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 284 | F30 | Ⅱ | － | 坏 | 口縁 | (15.2) | － | － | ナデ | － | にぶい橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 285 | G25 | Ⅱ | － | 坏 | 口縁～胴 | (12.4) | － | － | ナデ | － | にぶい橙 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 286 | G31 | Ⅱ | 27578 | 坏 | 口縁～胴 | (13.4) | － | － | ナデ | － | 浅黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 287 | I29 | Ⅱa | － | 坏 | 口縁～胴 | 11.4 | － | － | ナデ | － | にぶい橙 | ○ | | | ○ | | ○ | 良 | 締りやや弱 |
| | 288 | F41 | Ⅱb | 11207 | 坏 | 口縁～胴 | (13.5) | － | － | ナデ | － | 淡黄 | | | | ○ | ○ | ○ | 普 | 締りやや弱 |
| | 289 | G30・31 | Ⅱ | 23933他 | 坏 | 底～胴 | － | (8.8) | － | ナデ | 不明 | にぶい橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 290 | G43 | Ⅱa | 9024 | 坏 | 口縁～底 | － | (8.0) | 1.7 | ナデ | 板状圧痕→ナデ | 浅黄橙 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | 内面ススス |
| | 291 | L29 | Ⅱ | 33891 | 坏 | 胴～底 | － | (8.0) | 2.5 | ナデ | 不明 | 浅黄橙 | | ○ | | | ○ | | 良 | 内外摩滅・ススス,緻密な土 |
| | 292 | J28・29・30 | Ⅱ | 24305他 | 坏 | 胴～底 | － | 5.8 | － | 内:不明<br>外:ナデ | 不明 | にぶい黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |

## 第 12 表　中世の土師器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 調整 | | 色調 | 胎土 | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 外・内面 | 底面 | | 白石 | 茶石 | 灰石 | 黒石 | 雲母 | 石英 | | |
| 86 | 293 | G30・31 | Ⅱ | 26498他 | 埦 | 底 | − | 7.3 | − | ナデ | 糸切 | 内:褐灰<br>外:灰黄 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 充実高台 |
| | 294 | G30 | Ⅱ | 24905 | 埦 | 底 | − | 7.0 | − | ナデ | 糸切 | 淡黄 | | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 充実高台,緻密な土 |
| | 295 | E25・26 | Ⅰ−②,Ⅱ | 18023他 | 埦 | 底 | − | (8.0) | − | ナデ | 糸切 | 淡黄 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 良 | 充実高台 |
| 87 | 296 | F29 | Ⅱ | 23502 | 小皿 | 口縁～底 | (10.0) | (8.0) | 1.9 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい橙 | | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 297 | G31 | Ⅱb | 39236 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (6.7) | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 浅黄 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 298 | G30 | Ⅱ | 24902 | 小皿 | 口縁～底 | (8.4) | (6.4) | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 淡黄 | | | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 299 | F30・31 | Ⅱb | 37123他 | 小皿 | 口縁～底 | (9.4) | (7.2) | 1.3 | ナデ | ヘラ切 | 橙 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 良 | 内外摩滅,小礫含む |
| | 300 | H31 | Ⅱ | 28516 | 小皿 | 口縁～底 | 9.8 | 7.6 | 1.4 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 内外摩滅 |
| | 301 | G31 | Ⅱb | 39234 | 小皿 | 口縁～底 | 8.8 | 6.2 | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい黄橙 | ○ | ○ | | | ○ | | 良 | |
| | 302 | F43 | Ⅱa | 9820 | 小皿 | 口縁～底 | 9.0 | 6.8 | 1.3 | ナデ | ヘラ切→ナデ<br>→板状圧痕 | 浅黄 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 303 | F32 | Ⅱb | 36977 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (7.2) | 1.1 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 黄～浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 304 | G31 | Ⅱb | 39206 | 小皿 | 口縁～底 | (8.4) | (5.4) | 1.5 | ナデ | 糸切か | 褐灰 | ○ | | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 305 | F31 | Ⅱb | 39283 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (6.2) | 1.1 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 内外面橙色 |
| | 306 | F31 | Ⅱb | 36767 | 小皿 | 口縁～底 | (8.6) | (6.5) | 1.1 | ナデ | ヘラ切 | 浅黄 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 良 | |
| | 307 | F32 | Ⅱb | 37084 | 小皿 | 口縁～底 | 9.1 | 7.0 | 1.1 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 灰黄～黄灰 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 308 | F31 | Ⅱ | 27535 | 小皿 | 口縁～底 | (10.0) | (8.6) | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 309 | G31 | Ⅱ | 27677 | 小皿 | 口縁～底 | (8.4) | (6.7) | 1.3 | ナデ | ヘラ切 | にぶい橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 310 | G31 | Ⅱ | 28072 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (7.0) | 1.4 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 灰黄褐 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 311 | G32 | Ⅱ | 29017 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (7.4) | 1.2 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 灰白 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 312 | G31 | Ⅱ | − | 小皿 | 口縁～底 | (9.2) | (7.0) | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 浅黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 313 | G31 | Ⅱb | 39232 | 小皿 | 口縁～底 | (7.9) | (6.0) | 1.3 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 314 | F31 | Ⅱb | 39242 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (7.2) | 1.5 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | 良 | |
| | 315 | H31 | Ⅱ | 28523他 | 小皿 | 口縁～底 | (8.7) | (7.2) | 1.3 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 良 | |
| | 316 | G31 | Ⅱb | 37044 | 小皿 | 口縁～底 | (8.6) | (6.4) | 1.4 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい橙 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 317 | H31 | Ⅱ | 28538 | 小皿 | 口縁～底 | (8.8) | (7.0) | 1.3 | ナデ | ヘラ切→板状圧痕→ナデ | にぶい黄橙 | | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 318 | F31 | Ⅱb | 39611 | 小皿 | 口縁～底 | (8.6) | (7.0) | 1.1 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 浅黄 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 外面一部橙色 |
| | 319 | H31 | Ⅱ | 28512他 | 小皿 | 口縁～底 | (8.4) | (6.6) | 1.0 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい黄橙 | ○ | ○ | | | ○ | | 良 | |
| | 320 | F31 | Ⅱb | 37095 | 小皿 | 口縁～底 | 8.6 | 6.8 | 1.3 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 内:灰黄<br>外:にぶい橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 内外やや摩滅 |
| | 321 | H31 | Ⅱ | 28355 | 小皿 | 口縁～底 | (10.0) | (7.3) | 1.1 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| 88 | 322 | G31 | Ⅱ | 27594 | 小皿 | 口縁～底 | (9.4) | (7.4) | 1.3 | ナデ | ヘラ切 | にぶい黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 底部黒色 |
| | 323 | J37 | Ⅰ | − | 小皿 | 口縁～底 | (10.0) | (8.0) | 1.2 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 灰白 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 内外面一部淡黄色 |
| | 324 | G43 | Ⅱa | 9054 | 小皿 | 口縁～底 | (8.8) | (7.1) | 1.2 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 内:浅黄橙<br>外:浅黄橙 | ○ | ○ | | | | ○ | 良 | |
| | 325 | E32 | Ⅱa | 11454 | 小皿 | 口縁～底 | (10.0) | (8.4) | 1.6 | ナデ | ヘラ切 | 灰黄 | ○ | ○ | | | ○ | | 良 | |
| | 326 | H30 | Ⅱ | 26550他 | 小皿 | 口縁～底 | (9.6) | 8.0 | 1.0 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 良 | |
| | 327 | F31 | Ⅱb | 37148 | 小皿 | 口縁～底 | 8.0 | 7.0 | 0.9 | ナデ | ヘラ切→板状圧痕→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | | ○ | | 良 | |
| | 328 | H31 | Ⅱ | 28501 | 小皿 | 口縁～底 | (8.3) | (6.8) | 0.9 | ナデ | ヘラ切→板状圧痕→ナデ | 黄灰 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 329 | D33,F31 | Ⅱ,Ⅱb | 37169他 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (7.4) | 1.0 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい橙～灰黄褐 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 330 | F31 | Ⅱb | 39246 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (7.5) | 1.1 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | | | ○ | 良 | 外面橙色 |
| | 331 | H31 | Ⅱ,Ⅱa | 28518他 | 小皿 | 口縁～底 | (9.2) | (7.6) | 1.0 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 灰黄 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 332 | H27 | Ⅰ | 18574 | 小皿 | 口縁～底 | (9.2) | (8.0) | 1.1 | ナデ | ヘラ切 | 浅黄 | ○ | | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 333 | G31 | Ⅱb | 37001 | 小皿 | 口縁～底 | (8.6) | (7.2) | 1.1 | ナデ | ヘラ切→ナデ | 浅黄 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 334 | F31 | Ⅱb | 37215 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (7.2) | 1.5 | ナデ | ヘラ切 | 浅黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 内面斑状スス |
| | 335 | F31 | Ⅱb | 38416 | 小皿 | 口縁～底 | (9.8) | (8.8) | 1.1 | ナデ | ヘラ切→板状圧痕か | にぶい橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 良 | 鉄分多量 |
| | 336 | F・G31 | Ⅱb | 37046他 | 小皿 | 口縁～底 | 8.3 | 7.4 | 1.7 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 337 | I29・30 | Ⅱ | 23903他 | 小皿 | 口縁～底 | 10.0 | 7.3 | 2.0 | ナデ | ヘラ切→ナデ | にぶい黄橙 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅,小礫含む |
| | 338 | I29 | Ⅱ | 26346 | 小皿 | 口縁～底 | 9.0 | 6.7 | 1.7 | ナデ | 糸切 | にぶい橙～黄灰 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 339 | I28・29 | Ⅱ | 23426他 | 小皿 | 口縁～底 | 10.0 | 7.4 | 1.7 | ナデ | 糸切 | 灰～にぶい黄 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 340 | I23 | Ⅱb | 22429 | 小皿 | 口縁～底 | 9.0 | 7.0 | 1.4 | ナデ | 糸切→ナデ | 浅黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 内外薄くスス |
| | 341 | D32 | Ⅲa | − | 小皿 | 口縁～底 | (8.5) | (6.8) | 1.2 | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 342 | G31 | Ⅱ | 27642 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (7.6) | 1.2 | ナデ | 糸切→ナデ | 内:にぶい黄橙<br>外:浅黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 343 | H43 | Ⅱa | 8750 | 小皿 | 口縁～底 | (9.2) | (7.0) | 1.5 | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | | ○ | ○ | ○ | | ○ | 良 | 小礫含む |
| | 344 | H31 | Ⅱ | 28434 | 小皿 | 口縁～底 | (8.8) | (7.2) | 1.0 | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 345 | F31 | Ⅱb | − | 小皿 | 口縁～底 | (8.2) | (6.6) | 1.1 | ナデ | 糸切か | 浅黄橙 | | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 緻密な土 |
| | 346 | F31 | Ⅱb | 39255 | 小皿 | 口縁～底 | (9.4) | (8.0) | 1.4 | ナデ | 糸切か | 浅黄橙～にぶい橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 347 | E22 | Ⅱ | 21199 | 小皿 | 口縁～底 | 8.2 | 6.4 | 2.0 | ナデ | 糸切か→ナデ | 淡黄 | | | | ○ | ○ | ○ | 良 | 内表面一部橙 |
| | 348 | J30 | Ⅱ | 25191 | 小皿 | 口縁～底 | (9.8) | (8.2) | 1.7 | ナデ | 糸切→ナデ | 内:橙 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 349 | F31 | Ⅱb | 37131 | 小皿 | 口縁～底 | (9.8) | (8.2) | 1.9 | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 緻密な土 |
| | 350 | F・G 24・25 | ② | 22663 | 小皿 | 口縁～底 | (9.2) | (7.4) | 1.8 | ナデ | 糸切→ナデ | 橙 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| 89 | 351 | H31 | Ⅱ | 28421 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (6.8) | 1.3 | ナデ | 糸切 | にぶい橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 352 | F31 | Ⅱb | 37181他 | 小皿 | 口縁～底 | (8.3) | (6.4) | 1.0 | ナデ | 糸切 | 浅黄 | ○ | | | | ○ | ○ | 良 | 緻密な土 |
| | 353 | F31 | Ⅱb | 38462他 | 小皿 | 口縁～底 | (9.0) | (7.8) | 1.4 | ナデ | 糸切 | にぶい橙～灰黄褐 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 焼成ムラ |
| | 354 | G22 | Ⅱa | 18606 | 小皿 | 口縁～底 | (8.3) | (6.4) | 1.9 | ナデ | 糸切 | 橙～にぶい黄橙 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | 小礫含む |
| | 355 | K28 | Ⅱ | 23825 | 小皿 | 口縁～底 | (7.6) | (5.6) | 1.8 | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙～浅黄 | ○ | | | ○ | | | 良 | 小礫含む |
| | 356 | F24 | Ⅱ | 21789 | 小皿 | 口縁～底 | (8.6) | (6.8) | 2.1 | ナデ | 切り離し不明 | にぶい橙 | ○ | ○ | | ○ | | | 普 | 小礫含む |

## 第 12 表　中世の土師器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 調整 | | 色調 | 胎土 | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 外・内面 | 底面 | | 白石 | 茶石 | 灰石 | 黒石 | 雲母 | 石英 | | |
| 89 | 357 | E25,F24 | Ⅰ,Ⅱb | 18167他 | 小皿 | 口縁～底 | (10.0) | (7.0) | 3.2 | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | ○ | | | ○ | | ○ | 良 | 締りややあり |
| | 358 | L28 | Ⅰ | － | 小皿 | 口縁～底 | (8.4) | (6.0) | 2.1 | ナデ | 糸切 | 灰黄 | ○ | | | ○ | | ○ | 良 | 焼成にムラ |
| | 359 | H23 | Ⅰ | － | 小皿 | 口縁～底 | (8.0) | (5.5) | 2.4 | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | ○ | | | ○ | | | 良 | 締り良 |
| | 360 | H30 | Ⅱ,Ⅱa | － | 小皿 | 胴～底 | － | 6.2 | － | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | 緻密な土 |
| | 361 | H30,I29 | Ⅱ | 23413他 | 小皿 | 胴～底 | － | 7.3 | － | ナデ | 糸切→ナデ | にぶい黄橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅,緻密な土 |
| | 362 | J31 | Ⅰ | － | 小皿 | 胴～底 | － | (7.4) | － | ナデ | 糸切 | 内:にぶい黄橙<br>外:浅黄橙 | | ○ | | | ○ | ○ | 良 | |
| | 363 | E22 | Ⅱ | 21198 | 小皿 | 底 | － | (8.0) | － | ナデ | 糸切→ナデ<br>→板状圧痕 | 浅黄橙～褐灰 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 内面剥離 |
| | 364 | G31 | Ⅱ | 27497他 | 小皿 | 底 | － | 6.4 | － | － | 糸切 | にぶい黄橙 | ○ | | | | ○ | ○ | 良 | 緻密な土 |
| | 365 | K29 | Ⅱ | 25239 | 小皿 | 底 | － | 6.8 | － | － | 糸切 | 灰白 | | | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| | 366 | F30<br>H20・30 | Ⅰ,Ⅱ,<br>Ⅱb | 37407他 | 小皿 | 胴～底 | － | 7.2 | － | ナデ | 糸切 | 内:黄灰<br>外:灰黄 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | 緻密な土 |
| | 367 | D21 | Ⅱ | 19695 | 小皿 | 底 | － | 5.4 | － | ナデ | 糸切 | にぶい黄橙 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 368 | Ⅰ・J30 | Ⅱ,Ⅱa | 24209他 | 小皿 | 底 | － | 6.8 | － | ナデ | 糸切 | 浅黄 | ○ | | | | | ○ | 良 | |
| | 369 | L28 | Ⅱ | 33931 | 小皿 | 口縁～底 | (9.6) | (6.8) | 2.3 | ナデ | ナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | 普 | 内外磨滅,小礫含む |
| | 370 | G31 | Ⅱ | 27614他 | 小皿 | 口縁～底 | 10.0 | 7.6 | 2.7 | ナデ | ナデ | 淡黄 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 371 | F32 | Ⅱb | 36978 | 小皿 | 口縁～底 | (9.4) | (7.4) | 1.2 | ナデ | ナデ | 灰黄～黄灰 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 372 | F31 | Ⅱb | 36760 | 小皿 | 口縁～底 | (9.6) | (8.0) | 1.0 | ナデ | ナデ | 橙～にぶい橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 373 | G31 | Ⅰ,Ⅱ | － | 小皿 | 口縁～底 | (9.8) | (8.4) | 1.0 | ナデ | 不明 | にぶい黄橙 | | | | ○ | ○ | ○ | 普 | |
| | 374 | G32 | Ⅰ | － | 小皿 | 口縁～胴 | (10.0) | － | － | ナデ | 不明 | にぶい橙 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 375 | F43 | Ⅱa | － | 小皿 | 口縁～胴 | (9.0) | － | － | ナデ | － | 内:にぶい褐<br>外:にぶい赤褐 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | 締りあり |
| | 376 | F31 | Ⅰ | － | 小皿 | 口縁 | (8.4) | － | － | ナデ | － | 褐灰～にぶい橙 | ○ | ○ | | ○ | | ○ | 普 | 締り弱い |
| | 377 | F23 | Ⅲb | － | 小皿 | 底～胴 | － | 7.6 | － | ナデ | ナデ | 灰白 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 普 | 内外摩滅 |
| | 378 | Ⅰ・J29 | Ⅱ | 24184他 | 小皿 | 底～胴 | － | 4.4 | － | ナデ | 不明 | 淡黄 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 379 | H31 | Ⅱ | － | 不明 | 底～胴 | － | － | － | ナデ | 板状圧痕 | 褐灰 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 良 | 鉄分多量,締りあり |
| | 380 | F24 | Ⅲa | － | 不明 | 底 | － | － | － | ナデ | － | 内:にぶい黄橙<br>外:黄灰 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | |
| | 381 | F31 | Ⅱb | 37532 | 坏 | 口縁～底 | 10.8 | 5.5 | 2.2 | ナデ→ヘラミガキ | 糸切→ナデ | 黒 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 良 | |

## 第 13 表　瓦器・瓦質土器・須恵質土器・土師質土器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 調整 | | 色調 | 胎土 | | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 外・内面 | 白石 | 茶石 | 雲母 | 黄白石 | 石英 | 灰石 | 黒石 | 輝石 | |
| 91 | 382 | F32 | Ⅱa | － | 皿 | 口縁～底 | 瓦器 | 器高:1.7 | 横ナデ | 横ナデ | 灰 | | | | | | | ○ | | 良好 | 胎土:灰白 |
| | 383 | E30 | Ⅱb | 37448 | 坏 | 底 | 瓦器 | － | 丁寧なナデ | 丁寧なナデ | 灰白 | | | | | | | ○ | | 良好 | 楠葉型瓦器 |
| | 384 | D32,J29 | Ⅱ,Ⅱb | 16127他 | 垉 | 口縁 | 瓦器 | 口径:(11.4) | 指押え | ヘラミガキ | 灰,一部灰白 | ○ | | | | | ○ | | | 普通 | 楠葉型瓦器b-4期 |
| | 385 | D33,E31,H30 | Ⅱ,Ⅱb | 15911他 | 鍋 | 口縁 | 土師質土器 | － | 指押え | 丁寧なハケ横ナデ | 灰白 | | ○ | | | | | ○ | ○ | 普通 | 386・387と同一か |
| | 386 | D32,G・H・I29,H・I30 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱa,Ⅲa | 24786他 | 鍋 | 口縁～胴 | 瓦質土器 | 口径:(25.2) | 指押え | 丁寧なハケ横ナデ | 外:暗灰黄<br>内:灰白<br>口縁:灰 | | | | | ○ | | | ○ | 普通 | 385・387と同一か |
| | 387 | I31,J29・30,K24 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱa | 1764他 | 鍋 | 口縁～胴 | 瓦質土器 | 口径:(23.0) | 粗いヘラ横ナデ | 丁寧なヘラ横ナデ | 外:灰<br>内:灰白 | | | | | | ○ | ○ | ○ | 普通 | 385・386と同一か |
| | 388 | F30,H29・30,I30,J29・30,K29・L29・30 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱb | 23686他 | 釜 | 胴～底 | 瓦質土器 | 底径:(18.0) | 手づくね指押し・ナデ | 丁寧なナデ | 灰,部分的に灰白 | ○ | | | | ○ | ○ | | | 良好 | |
| | 389 | G30,I30,J29・30・31 | Ⅰ,Ⅱ | 24101他 | 釜 | 口縁～胴 | 瓦質土器 | 口径:(25.0) | ヘラ横ナデ,指押え | ハケナデ | 灰白,部分的に灰 | ○ | ○ | | | | | | ○ | 普通 | |
| | 390 | E30,I29・30,J30・31 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱb | 24708他 | 釜 | ツバ～胴 | 瓦質土器 | － | ヘラ横ナデ,指押え | ヘラ横ナデ | 灰白,一部淡橙 | ○ | ○ | | | | ○ | | ○ | 普通 | 作りが薄い |
| | 391 | E・F31・32 | Ⅱ | － | 釜 | 脚 | 瓦質土器 | － | ヘラナデ | | 灰白,部分的に灰 | ○ | | | | | ○ | | ○ | 普通 | |
| | 392 | H31 | Ⅱ | － | 釜 | 脚 | 瓦質土器 | － | ヘラナデ | | 灰白 | ○ | | | | | | | ○ | 良好 | |
| | 393 | G29・30,H30・45,I30,J30 | Ⅱ | 23295他 | 甕 | 口縁～胴 | 土師質土器 | 口径:(29.0) | 口縁ヘラ横ナデ,胴ハケ縦横ナデ | ハケ横ナデ,口縁丁寧なヘラナデ | 浅黄橙 | | ○ | | | | ○ | | ○ | 良好 | 外面スス,紀伊産 |
| | 394 | H30 | Ⅰ | － | 鉢 | 胴～底 | 土師質土器 | 底径:(7.8) | 雑な横ナデ<br>底:糸切 | 雑な横ナデ | 灰白 | | | ○ | | | ○ | | | 良好 | コゲあり |
| 92 | 395 | G25 | Ⅰ,Ⅱb | 17921他 | 鉢 | 胴～底 | 須恵質土器 | 底径:(15.2) | ヘラナデ<br>底:糸切 | ヘラ横ナデ | 灰白 | ○ | | | | | ○ | | ○ | 良好 | |
| | 396 | H29 | Ⅱ | 23355 | 鉢 | 底 | 須恵質土器 | 底径:(11.5) | ヘラナデ<br>底:ヘラナデ | ヘラ横ナデ | 灰白 | ○ | | | | | | ○ | | 良好 | 外面スス |
| | 397 | K29 | Ⅰ | － | 擂鉢 | 口縁～胴 | 須恵質土器 | － | ヘラ横ナデ | ヘラナデ | にぶい黄 | ○ | | | | | ○ | | ○ | 良好 | 掻き目6条以上,口唇部はへこみ |
| | 398 | E21 | Ⅱ | 19556 | 擂鉢 | 胴 | 須恵質土器 | － | 横方向ヘラナデ | | 橙,一部にぶい褐 | ○ | | | | | | | ○ | 良好 | 掻き目5条以上,使用痕 |
| | 399 | G21 | Ⅱa | 18589 | ほうろく | 把手 | 土師質土器 | 長:3.5<br>幅:3.0<br>厚:1.2 | ヘラナデ | ヘラナデ | 浅黄橙 | ○ | | ○ | | | | | ○ | 良好 | |
| | 400 | D28 | Ⅰ | － | ほうろく | 把手 | 土師質土器 | 長:5.0<br>幅:3.0<br>厚:1.0 | ヘラナデ | ヘラナデ | 浅黄橙 | | | | | | ○ | ○ | ○ | 良好 | |
| | 401 | J31 | Ⅰ | － | ほうろく | 把手 | 土師質土器 | 幅:2.7<br>厚:1.6 | ヘラナデ | ヘラナデ | 浅黄橙 | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | 良好 | |

## 第 14 表　東播系須恵器･カムィヤキ･備前焼･常滑焼･灰釉陶器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 調整 | | 色調 | | 胎土 | | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | 白石 | 茶石 | 雲母 | 黄白石 | 石英 | 灰石 | 黒石 | 輝石 | |
| 93 | 402 | J29,K36 | Ⅱ,Ⅲ | 23641他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(20.2) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗青灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | 口縁釉で光沢あり |
| | 403 | J30 | Ⅱ | 23661 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(19.4) | 横ナデ | 丁寧な横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | ○ | | | 普通 | 口唇釉で光沢あり,軟質 |
| | 404 | D32,G30 | Ⅱ | 23979他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(35.0) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗青灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | ○ | | | 良好 | 作りが薄い |
| | 405 | H30 | Ⅱ | 26583 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 黄灰<br>口縁:褐灰 | 黄灰 | ○ | | | | ○ | ○ | | | 良好 | 作りが薄い |
| | 406 | G31 | Ⅱ | 27484 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 黄灰 | 黄灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | |
| | 407 | J35 | Ⅲa | 36366 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(26.6) | 横ナデ | 横ナデ | 褐灰<br>口縁:黄灰 | 褐灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | 口縁釉で光沢あり |
| | 408 | D32･33,E32,H31 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱa･b,Ⅲa | 11449他 | 鉢 | 完形 | 東播系 | 口径:(26.2)<br>底径:(10.4)<br>器高:9.2 | ハケ横ナデ | ハケ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | 見込み使用痕 |
| | 409 | E31 | Ⅱ | － | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | |
| | 410 | I30 | Ⅰ | － | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | | | 普通 | 内外面一部剥離,小礫含む |
| | 411 | I31 | Ⅱ | 28269 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | ○ | | | | ○ | | | 良好 | 小礫含む |
| | 412 | G30 | Ⅱ | 23971 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | ○ | | | ○ | | | | 良好 | 口縁釉で光沢あり |
| 94 | 413 | D32･33 | Ⅱ,Ⅱa･b | 15943他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(28.8) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | ○ | | | | | 良好 | |
| | 414 | E27,F31 | Ⅰ,Ⅱ | 18830他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(31.0) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 褐灰<br>口縁:灰 | 褐灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | 小礫含む |
| | 415 | F32 | Ⅰ | － | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | 口縁釉で光沢あり |
| | 416 | E29･30 | Ⅱb,撹乱 | 36452他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | | | | | 良好 | 口縁釉で光沢あり |
| | 417 | D20 | Ⅰ | － | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰<br>口縁:暗オリーブ灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | |
| | 418 | H30 | Ⅱ | 24021 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | | | ○ | | 良好 | 口縁釉で光沢あり |
| | 419 | I30 | Ⅱ | 24746他 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | 良好 | |
| | 420 | E21 | Ⅱ | 19571 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 青灰<br>口縁:青黒 | 青灰 | ○ | ○ | | | | | | | 良好 | 注口･口縁釉で光沢あり |
| | 421 | D30,E32 | Ⅲ,Ⅲa | 16000他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(24.0) | ヘラ横ナデ | ハケナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | | | ○ | | 良好 | |
| | 422 | H22 | Ⅱa | 18631 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | 注口･口縁は釉で光沢あり,小礫含む |
| | 423 | F30 | Ⅱ,Ⅱa･b | 37368他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(37.6) | ハケ,ヘラナデ | ハケ,ヘラナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | 小礫含む |
| 95 | 424 | F26 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅲa | 18151他 | 鉢 | 口縁～底 | 東播系 | 口径:(26.2)<br>底径:(11.6)<br>器高:8.2 | ヘラ横ナデ<br>底:糸切<br>→ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | 良好 | 小礫含む |
| | 425 | E･F31<br>G･H30 | Ⅱ,Ⅱb | 24811他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(35.4) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 青灰<br>口縁:暗青灰 | 青灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | 内外凹凸顕著,内面下半部使用痕 |
| | 426 | G･H31,I29,J30 | Ⅰ,Ⅱ | 24339他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(33.8) | 横ナデ | 横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | 小礫含む |
| | 427 | E･H31 | Ⅱ | － | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | | ○ | | | 良好 | 口縁釉で光沢あり |
| | 428 | D53 | Ⅱa | － | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | ○ | | | ○ | | | | 良好 | |
| | 429 | G43 | Ⅱa | 8999 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | |
| | 430 | G43 | Ⅱa | 9064他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 青灰<br>口縁:暗灰 | 青灰 | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | 良好 | |
| | 431 | G43 | Ⅱa | 9093 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | ○ | | | | | | | 良好 | |
| 96 | 432 | E･F27 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱb | 18111他 | 鉢 | 完形 | 東播系 | 口径:25.0<br>底径:(9.6)<br>器高:8.6 | 胴:ヘラナデ<br>底:丁寧なナデ | ヘラナデ | 浅黄橙 | 浅黄橙 | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | 普通 | 上半部4状程の積み上げ痕,赤茶石含む |
| | 433 | H･I29 | Ⅱ | 23348他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | | ○ | ○ | | 良好 | 口縁釉で光沢あり,小礫含む |
| | 434 | E21 | Ⅱ | 19552 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰黄<br>口縁:黄灰 | 灰黄 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 普通 | |
| | 435 | H30 | Ⅱ | 24823 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | 良好 | |
| | 436 | G22,I25 | Ⅱa,Ⅲa | 18622他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰<br>口縁:オリーブ黒 | 灰 | ○ | | | | ○ | ○ | | | 良好 | 口唇部欠,口縁釉で光沢あり,作りが薄い |
| | 437 | K28･L29 | Ⅱ | 23824他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(22.6) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | |
| | 438 | F26 | Ⅰ | － | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 青灰<br>口縁:暗青灰 | 青灰 | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | 普通 | |
| | 439 | J38 | Ⅱb | 22838 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | ○ | ○ | | | | 良好 | 口縁釉で光沢あり,作りが薄い |
| | 440 | I30 | Ⅱ | 24720 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 褐灰<br>口縁:黒褐 | 褐灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | |

## 第 14 表　東播系須恵器・カムィヤキ・備前焼・常滑焼・灰釉陶器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 調整 | | 色調 | | 胎土 | | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | 白石 | 茶石 | 雲母 | 黄白石 | 石英 | 灰石 | 黒石 | 輝石 | |
| 96 | 441 | H31, J29 | Ⅱ | 23616他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | 口唇部磨耗 |
| | 442 | E28 | Ⅲa | 36431 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰<br>口縁:黒褐 | 灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | 口縁釉で光沢あり |
| | 443 | J・K29 | Ⅱ | 23607他 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | 口径:25.0 | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:青灰 | 灰 | ○ | ○ | | | | ○ | | | 良好 | |
| | 444 | F・G30 | Ⅱ | 23924他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰白<br>口縁:一部黒褐 | 灰白 | ○ | | | | ○ | ○ | | | 不良 | 内面にコゲ,やや磨滅,軟質 |
| | 445 | F31 | Ⅱb | 36871 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 褐灰<br>口縁:青灰 | 褐灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | |
| | 446 | I29 | Ⅱ, Ⅱb | 23908他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | 口径:(35.8) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | ○ | | | ○ | | | | 良好 | 小礫含む |
| | 447 | H31 | Ⅱ | 28492 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰白<br>口縁:暗青灰 | 灰白 | ○ | | | | ○ | ○ | | | 普通 | やや軟質 |
| | 448 | H31 | Ⅱ | 28438 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰白<br>口縁:灰 | 灰白 | ○ | ○ | | | ○ | | | | 普通 | |
| | 449 | I29 | Ⅱ | 24654他 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:青黒 | 灰 | ○ | ○ | | | ○ | | | | 良好 | 口縁釉で光沢あり,小礫含む |
| | 450 | H29・30 | Ⅱ | 23336他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰白<br>口縁:暗灰 | 灰白 | ○ | | | | | ○ | ○ | | 普通 | 口縁釉でやや光沢あり,<br>やや軟質 |
| | 451 | K29 | Ⅱ | 25936 | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 青黒 | 暗青灰 | ○ | | | ○ | | | ○ | | 普通 | 内面剥離,瓦質 |
| | 452 | G43 | Ⅱa | 9035 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰白<br>口縁:黒褐 | 灰白 | ○ | ○ | | | | | | | 普通 | |
| | 453 | D・E31 | Ⅱ, Ⅱa | 16034他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗灰 | 灰 | ○ | ○ | | | ○ | | | | 普通 | |
| | 454 | D・I32 | Ⅱ, Ⅲa | 28273他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰<br>口縁:暗青灰 | 灰 | ○ | | | | | | | | 良好 | |
| | 455 | J29・30 | Ⅰ, Ⅱ | 23667他 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰白<br>口縁:黄灰 | 灰白 | ○ | | | | ○ | | | | 普通 | |
| | 456 | J28 | Ⅱ | 24298 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰白<br>口縁:灰 | 灰白 | ○ | | | | ○ | | | | 普通 | |
| | 457 | I26 | Ⅰ | 18069 | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 黄灰<br>口縁:青黒 | 黄灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | 小礫含む |
| 97 | 458 | F30, I31 | Ⅱ, Ⅱb | 28270他 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | 底径:10.0 | 横ナデ | 横ナデ | 灰白 | 灰白 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | 底面剥脱著しい |
| | 459 | J33 | Ⅰ | － | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | 底径:(9.3) | ヘラ横ナデ<br>底:糸切<br>→ヘラナデ | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | 良好 | |
| | 460 | I29・31 | Ⅱ | 26380他 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | 底径:(12.6) | ヘラ横ナデ<br>底:糸切<br>→ヘラナデ | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | 良好 | |
| | 461 | I・J29 | Ⅱ, Ⅱa | 23618他 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | 底径:(10.8) | ヘラ横ナデ<br>底:繊維状ハケナデ | ヘラ横ナデ | 灰白 | 灰白 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | |
| | 462 | L29 | Ⅱ | 33903 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 青灰 | 青灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | |
| | 463 | I31 | Ⅱ | 28162 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | 底径:(10.2) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰白 | 灰白 | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | 良好 | 内面使用痕 |
| | 464 | I30, J29 | Ⅱ | 23597他 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | 底径:(14.8) | 横ナデ | 横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 普通 | 内外磨耗顕著 |
| | 465 | I26 | Ⅰ | － | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | － | ヘラナデ<br>底:糸切 | ヘラナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | ○ | ○ | | | | 普通 | 内面使用痕 |
| | 466 | G・I30 | Ⅱ | 24929他 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | 底径:10.2 | ヘラ横ナデ<br>底:糸切 | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | 内面・底面使用の為摩耗 |
| | 467 | E26・27 | Ⅰ, Ⅱ | 18379他 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | 底径:13.0 | ヘラ縦ナデ<br>底:糸切 | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | | ○ | | | 良好 | |
| | 468 | I26 | Ⅲa | － | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | 良好 | 内面使用痕 |
| | 469 | E21 | Ⅱ | 19530 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ<br>底:糸切 | ヘラ横ナデ | 褐灰 | 褐灰 | ○ | | | | ○ | | ○ | | 良好 | 内面使用痕 |
| | 470 | J31, G30 | Ⅱ | 24004他 | 鉢 | 胴～底 | 東播系 | 底径:(9.8) | ヘラ横ナデ<br>底:糸切 | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | ○ | ○ | | | 良好 | 底面擦痕,小礫含む |
| | 471 | D27 | Ⅱb | 20649 | 鉢 | 底 | 東播系 | － | ヘラナデ<br>底:糸切 | ヘラナデ | 灰白 | 灰白 | ○ | | | | ○ | | | | 普通 | やや磨滅,軟質 |
| | 472 | I30 | Ⅱ | 24775 | 鉢 | 底 | 東播系 | － | ヘラナデ<br>底:糸切<br>→棒状圧痕 | ヘラナデ | 黒褐 | 黒褐 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | 内側使用痕 |
| 98 | 473 | H31 | Ⅱ | 28380他 | 甕 | 口縁 | 東播系 | 口径:(21.6) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 青黒 | 灰白<br>口縁:青黒 | ○ | ○ | | | | | | ○ | 普通 | 内面剥脱顕著,瓦質か,軟質 |
| | 474 | J26 | Ⅰ | － | 甕 | 肩 | 東播系 | － | 条痕タタキ<br>頸部:ナデ | 同心円当具→ヘラナデ | 褐灰 | 褐灰 | ○ | | | | | | | | 良好 | 内面剥脱顕著 |
| | 475 | D25 | Ⅰ | － | 甕 | 胴 | 東播系 | － | 条痕タタキ | ヘラナデ | 褐灰 | 褐灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | |
| | 476 | H43 | Ⅰa | － | 壺 | 胴 | カムィヤキ | － | 横ナデ | 格子当具→横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | ○ | | | | | | ○ | 良好 | 器壁内部:暗赤褐 |
| | 477 | I30, J31 | Ⅱ | 26672他 | 壺 | 胴 | カムィヤキ | － | 長格子タタキ<br>→ナデ | 正格子当具→横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | | | | ○ | 良好 | 器壁内部:暗赤褐 |
| | 478 | G41 | Ⅱ | － | 壺 | 胴 | カムィヤキ | － | 長格子タタキ<br>→ナデ | 正格子当具→横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | | | | ○ | 良好 | 器壁内部:暗赤褐 |
| | 479 | G41 | Ⅱa | 9144 | 壺 | 胴 | カムィヤキ | － | 長方形タタキ<br>→ナデ | 格子当具→ナデ | 灰 | 灰 | ○ | ○ | | | | | | | 良好 | 器壁内部:暗赤褐 |
| | 480 | E42 | Ⅱa | 10069 | 壺 | 底 | カムィヤキ | 底径:(13.0) | ナデ | ナデ | 灰 | 灰 | ○ | | | | | | | ○ | 良好 | 器壁内部:暗赤褐 |

## 第 14 表　東播系須恵器・カムィヤキ・備前焼・常滑焼・灰釉陶器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 調整 | | 色調 | | 胎土 | | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | 白石 | 茶石 | 雲母 | 黄白石 | 石英 | 灰石 | 黒石 | 輝石 | |
| 100 | 481 | G25 | Ⅲa | 22120 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 赤褐 | 赤灰 | ○ | ○ | | | | | | | 良好 | 胡麻,1類 |
| | 482 | F30 | Ⅰ | − | 擂鉢 | 口縁 | 備前 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 暗青灰 | 暗青灰 | ○ | ○ | | | | | | | 良好 | 器壁内部:暗赤褐,胡麻,1類 |
| | 483 | F31 | Ⅰ | − | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 褐灰 | 褐灰<br>口縁:黒 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | 良好 | 2類 |
| | 484 | E26 | Ⅰ | − | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 赤褐 | 赤褐 | ○ | | | ○ | ○ | | | | 良好 | 2類 |
| | 485 | G41 | Ⅱa | 9136 | 擂鉢 | 口縁 | 備前 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰赤 | 灰赤 | ○ | ○ | | | | | | | 良好 | 口縁に淡黄色胡麻,小礫含,2類 |
| | 486 | K37 | Ⅰ | − | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 褐灰 | 褐灰 | ○ | | | | | | | | 良好 | 2類 |
| | 487 | F28 | Ⅰ | − | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 褐灰 | 灰赤 | ○ | | | | | ○ | | | 良好 | 小礫含,3類 |
| | 488 | D31 | Ⅱa | 15963 | 擂鉢 | 胴 | 備前 | − | 横ナデ | 横ナデ | 褐灰 | 褐灰 | ○ | | | | ○ | | | | 良好 | 白っぽい胡麻,小礫含,3類 |
| | 489 | E26 | Ⅰ | 18017 | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | − | 横ナデ | 横ナデ | 橙<br>口縁:灰赤 | 橙 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | 良好 | 口縁外胡麻,3類 |
| | 490 | J38 | Ⅰ | − | 擂鉢 | 口縁～胴 | 備前 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰赤<br>口縁:褐灰 | 灰赤 | ○ | ○ | | | | | | | 良好 | 口縁外胡麻,使用痕,4類 |
| | 491 | J28 | Ⅰ | − | 擂鉢 | 口縁 | 備前 | − | 横ナデ | 横ナデ | 赤<br>口縁:灰赤 | 灰赤 | ○ | | | ○ | | | | | 良好 | 内胡麻,4類 |
| | 492 | L35 | Ⅰ | − | 擂鉢 | 口縁 | 備前 | − | 横ナデ | 横ナデ | 赤褐 | 赤褐 | ○ | | | | | | ○ | | 良好 | 表面剥脱顕著,5類 |
| | 493 | H34 | Ⅰ | − | 擂鉢 | 口縁 | 備前 | − | 横ナデ | 横ナデ | 赤褐 | 赤褐 | ○ | ○ | | | | | | | 良好 | 外側欠損,注口内側に胡麻,5類 |
| | 494 | K27 | Ⅱ | 24128 | 壺 | 口縁～肩 | 備前 | − | 横ナデ | 横ナデ | 赤褐 | 赤褐 | ○ | ○ | | | | | | | 良好 | 肩部外胡麻 |
| | 495 | I32 | Ⅰ | − | 壺 | 胴～底 | 備前 | 底径:(11.5) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | にぶい赤褐 | 灰褐 | ○ | | | | ○ | ○ | | | 良好 | 底凹凸,小礫含む |
| | 496 | G33 | Ⅰ | − | 壺 | 胴～底 | 備前 | − | ヘラ縦ナデ | ヘラ横ナデ | 赤褐 | 褐灰 | | ○ | | ○ | | ○ | | | 良好 | 外面と底に胡麻 |
| | 497 | G22,J28 | Ⅰ,Ⅱ | 20900他 | 壺 | 肩～胴 | 備前 | 最大径:(18.0) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 暗灰,灰褐 | 褐灰 | ○ | ○ | | | ○ | | | | 良好 | 肩部に浅黄色の胡麻 |
| | 498 | J33 | Ⅰ | − | 甕 | 口縁 | 備前 | − | 横ナデ | 横ナデ | 暗赤褐<br>釉:オリーブ黄 | にぶい橙,赤灰 | ○ | ○ | | | ○ | | | | 良好 | 口縁自然釉で光沢あり |
| | 499 | J38 | Ⅲa | − | 鉢 | 口縁～胴 | 東播系 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | 良好 | 口唇釉で光沢あり |
| 101 | 500 | F21 | Ⅰ | − | 壺 | 肩 | 常滑 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ→布目当具痕 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | 良好 | 胡麻,501と同一個体 |
| | 501 | H26 | Ⅰ | 18184 | 壺 | 肩 | 常滑 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ→布目当具痕 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | 良好 | 胡麻,500と同一個体 |
| | 502 | E21 | Ⅱ | 19557 | 壺 | 胴～底 | 常滑 | 底径:(7.6) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 灰 | 灰<br>釉:淡黄 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | 良好 | 内面自然灰釉 |
| | 503 | J35 | Ⅰ | − | 甕 | 口縁～胴 | 常滑 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | にぶい褐～暗赤褐<br>釉:灰オリーブ | にぶい褐～暗赤褐<br>釉:灰オリーブ | ○ | ○ | | | | | | | 良好 | 内外厚い自然灰釉,焼きぶくれ |
| | 504 | E31 | Ⅰ | − | 甕 | 口縁 | 常滑 | − | 横ナデ | 横ナデ | 灰<br>釉:灰オリーブ | 灰<br>釉:灰オリーブ | ○ | | | | | ○ | | | 良好 | 内外自然灰釉 |
| | 505 | E22 | Ⅱ | 19619 | 甕 | 肩 | 常滑 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 褐灰・赤褐 | 褐灰・赤褐,釉:暗オリーブ,赤 | ○ | ○ | | | ○ | | | | 良好 | 外厚い自然灰釉,焼きぶくれ |
| | 506 | H27 | Ⅰ | − | 甕 | 肩 | 常滑 | − | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | 暗赤<br>釉:黄 | 褐灰 | ○ | | | | | ○ | | | 良好 | 外面自然灰釉,小礫含む |
| | 507 | D29,F28 | Ⅰ,Ⅱ | 17134他 | 甕 | 胴～底 | 常滑 | 底径:(23.0) | ヘラ横ナデ | ヘラ横ナデ | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | ○ | ○ | | | | ○ | | | 良好 | 内底灰白の胡麻 |
| | 508 | L29 | Ⅱ | 33902 | 甕 | 胴～底 | 常滑 | − | ヘラナデ<br>底:繊維状圧痕 | ヘラナデ | 灰黄褐 | 明オリーブ灰 | ○ | | | | ○ | ○ | | | 良好 | 内面自然灰釉,小礫含む |
| | 509 | D20,E25,F21 | Ⅰ,Ⅱ | 17999他 | 甕 | 胴～底 | 常滑 | 底径:(16.0) | ヘラナデ | ヘラナデ | にぶい褐～明黄褐 | にぶい黄褐 | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | 良好 | |
| | 510 | E31,G30<br>H27・29<br>J27・29<br>K30<br>遺物集中1号 | Ⅰ,Ⅱ | 23378他 | 甕 | 胴下～底 | 常滑 | 底径:16.0 | ヘラ縦ナデ<br>底:繊維痕 | ヘラ横ナデ | 褐灰 | 褐灰～浅黄 | ○ | ○ | | | ○ | | | | 良好 | |
| | 511 | D18 | Ⅱ | 18944 | 卸皿 | 口縁～胴 | 灰釉陶器 | − | ヘラナデ | ヘラナデ | 灰白<br>釉:オリーブ灰 | 灰白<br>釉:オリーブ灰 | ○ | | | | | | | | 良好 | 内外薄い釉 |
| | 512 | I36 | Ⅲa | − | 卸皿 | 胴 | 灰釉陶器 | − | ヘラナデ | ヘラナデ | 灰白 | 灰白<br>釉:オリーブ灰 | | | | | | | | | 良好 | 外面破損,内面薄い釉 |
| | 513 | G27 | Ⅰ | 17899 | 底卸目皿 | 底 | 灰釉陶器 | 底径:10.6 | ヘラナデ→高台内格子ヘラ描き | ヘラナデ | 褐灰<br>釉:オリーブ灰 | 褐灰<br>釉:オリーブ灰 | ○ | | | | | | | | 良好 | 高台内は露胎,4ヶ所に目痕、小礫含む |

## 第 15 表　青磁·白磁·青白磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 色調 | | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 胎土 | 釉色 | | | | | | |
| 102 | 514 | D31·32 E30·31·32 F31·32 H30·34, J28 | Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ | 23852 他 | 碗 | 口縁～底 | 青磁 | 口径:(17.0) | 外:縦位櫛描文 内:弧状櫛描文、押圧文 | 灰白 | オリーブ黄 | 胴下半無釉 | 良好 | 同安窯系 | 同碗1類 | Ⅰ-1b類 | |
| | 515 | D32 | Ⅱb | 16128 | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | - | 灰 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 同安窯系 | 同碗1類 | Ⅰ類 | |
| | 516 | G31 | Ⅱ | 27532 | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 内:横位沈線文、櫛描文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 同安窯系 | 同碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 517 | E22·31 F31, H30 | Ⅱ, Ⅱb, Ⅲa | 19633 他 | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | - | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 同安窯系 | 同碗2類 | Ⅱ類 | |
| | 518 | F30 | Ⅱb | 36535 他 | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | - | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 同安窯系 | 同碗2類 | Ⅱ類 | 貫入 |
| | 519 | D33, E31 F32, G30·31 H31 | Ⅰ, Ⅱ, Ⅱa | 24914 他 | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(17.0) | 内:浅沈線2条 | 灰白 | 浅黄 | | 良好 | 同安窯系 | 同碗2類 | Ⅱ類 | 貫入 |
| | 520 | G31, L34 | Ⅱ, Ⅲa | 27493 他 | 碗 | 口縁～底 | 青磁 | 口径:(15.6) | 内:浅沈線1条 | 灰 | 暗オリーブ | 胴下半無釉 | 良好 | 同安窯系 | 同碗2類 | Ⅱ類 | 貫入 |
| | 521 | F29 | Ⅱb | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:横位沈線文 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 同安窯系 | 同碗2類 | Ⅱ類 | 外反, 内面貫入 |
| | 522 | D32·34 F31, K36 | Ⅰ, Ⅱ | - | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(18.2) | 外:斜位浅沈線文 | 灰白 | オリーブ黄 | | 良好 | 同安窯系 | 同碗2類 | Ⅱ類 | 4㎜大の石英質礫含む |
| | 523 | H29～31 I28～31 J28 | Ⅰ, Ⅱ | 24738 他 | 碗 | 口縁～底 | 青磁 | 口径:(18.1) | 外:粗い櫛描文, 界線 内:波状櫛描文 | 浅黄 | にぶい黄 | 外面釉切 | 良好 | 同安窯系 | 同碗2類 | Ⅲ-1c類 | 見込み段有 |
| | 524 | I33 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:縦位櫛描 内:花文 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | 同安窯系 | 同碗2類 | Ⅰ-1cか Ⅲ類 | 525と同一 |
| | 525 | G31, H30 | Ⅰ, Ⅱ | 24849 他 | 碗 | 胴 | 青磁 | - | 外:縦位櫛描 内:花文 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | 同安窯系 | 同碗2類 | Ⅰ-1cか Ⅲ類 | 524と同一 |
| | 526 | H·J 31 | Ⅰ, Ⅱ | 28364 他 | 碗 | 胴 | 青磁 | - | 外:櫛描文 | 灰 | オリーブ黄 | | 良好 | 同安窯系 | | Ⅰ-1cか Ⅲ-1類 | |
| | 527 | G43 | Ⅱa | 9047 | 碗 | 胴下 | 青磁 | - | 外:横位平行線片彫 | 灰白 | オリーブ黄 | 胴下部無釉 | 良好 | 同安窯系 | | Icか Ⅲ-1類 | |
| | 528 | D42 | Ⅰ | - | Ⅲ | 底 | 青磁 | 底径:(5.0) | - | 灰 | オリーブ灰 | 底部無釉 | 良好 | 同安窯系 | | Ⅰ-1a類 | 内貫入 |
| | 529 | H29·30, I30 | Ⅱ | 24793 他 | Ⅲ | 口縁～底 | 青磁 | 口径:(10.2) 底径:(4.8) 器高:1.9 | 内:櫛描文, ヘラ片彫文 | 灰白 | 灰オリーブ | 底部無釉 | 良好 | 同安窯系 | | Ⅰ-1b類 | |
| | 530 | G31 | Ⅱ | 27660 | Ⅲ | 口縁 | 青磁 | - | 内:片彫文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 同安窯系 | | Ⅰ-1b類 | |
| | 531 | F43 | Ⅱa | 9825 | Ⅲ | 底 | 青磁 | 底径:(5.4) | 内:櫛描文, ヘラ片彫文 | 灰白 | 明オリーブ灰 | 底部無釉 | 良好 | 同安窯系 | | Ⅰ-1b類 | 底に浅い穴 |
| | 532 | F31 | Ⅱb | 36642 | Ⅲ | 口縁 | 青磁 | 口径:(10.4) | - | 灰 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 同安窯系 | | Ⅰ-1b類 | |
| | 533 | I30 | Ⅱ | 24776 | Ⅲ | 口縁 | 青磁 | 口径:(10.0) | - | 灰 | オリーブ黄 | | 良好 | 同安窯系 | | Ⅰ類 | |
| | 534 | K37 | Ⅲa | 24564 | Ⅲ | 口縁 | 青磁 | 口径:(13.6) | - | 灰 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 同安窯系 | | Ⅰ類 | |
| | 535 | E41 | Ⅰ | - | 大Ⅲ | 口縁 | 青磁 | - | - | 灰白 | オリーブ黄 | | 良好 | 同安窯系 | | Ⅰ類 | 貫入 |
| 103 | 536 | F32 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(16.4) | - | 灰白 | 明緑灰 口縁:明るい明緑灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 537 | E30, F31 | Ⅰ, Ⅱb | 36633 他 | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(16.4) | - | 灰白 | 明緑灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 538 | E24 | 撹乱 | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:16cm? | - | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 539 | F31 | Ⅱb | 36779 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | - | - | 灰白 | オリーブ黄 口縁:オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 540 | I29 | Ⅱ | 23387 | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | - | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 541 | D31 | Ⅲ | 15983 | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | - | にぶい赤褐 | 黄褐 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 542 | D32 | Ⅱ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | - | 灰 | 灰オリーブ 口縁:明青灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 543 | D33 | Ⅱ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | - | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 544 | E32 | Ⅱb | 16149 | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | - | 灰 | 緑灰 口縁:明るい | | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 545 | G31, I38 | Ⅰ, Ⅱ | 27518 他 | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:6.5 | - | 灰 底:橙 | 灰オリーブ | 畳付～高台内無釉, 内外釉切多 | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 546 | K29 | Ⅰ | - | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(6.5) | - | 灰白 | 灰 | 畳付～高台内無釉, 内外釉切多 | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | |
| | 547 | D29 | Ⅱ | 17136 | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(6.4) | - | 灰 | 暗オリーブ | 高台～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青碗1類 | Ⅰ-1a類 | 貫入, 目痕 |

## 第 15 表　青磁·白磁·青白磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 色調 | | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 胎土 | 釉色 | | | | | | |
| 103 | 548 | D32 | Ⅱ | − | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | 内:花文 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | |
| | 549 | E31·32, H39 | Ⅱ, Ⅱa | 11472他 | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | 内:片彫蓮華文 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | |
| | 550 | E31 | Ⅱ | − | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | 内:片彫蓮華文 | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | 貫入 |
| | 551 | E29, J31 | Ⅱ | 36429他 | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | 内:片彫蓮華文 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | |
| | 552 | D32 | Ⅱ | − | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | 内:片彫蓮華文 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | 貫入 |
| | 553 | F32, G31 | I | − | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | 内:片彫蓮華文 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | 貫入 |
| | 554 | G31, J29 | Ⅱ | 24204他 | 碗 | 胴 | 青磁 | − | 内:片彫と櫛描で蓮華葉文 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | |
| | 555 | K30 | I | − | 碗 | 胴下 | 青磁 | − | 内:片彫キノコ状文 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | 貫入 |
| | 556 | G32·43 | I | − | 碗 | 胴 | 青磁 | − | 内:片彫と櫛描で蓮華文 | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | 貫入 |
| | 557 | E24 | Ⅱa | 20046 | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(6.2) | 内:片彫と櫛描で蓮華文 | 灰 | 灰オリーブ | 高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | |
| | 558 | F30, G31, I31 | Ⅱ | 29024他 | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:5.8 | 内:浅い圏線, 片彫蓮華文 | 灰 | 灰オリーブ | 高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2類 | 貫入<br>見込み砂目 |
| | 559 | E32, G31 | I, Ⅱa | 11417他 | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(17.2) | 内:2本分割沈線、片彫飛雲文 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-4類 | |
| | 560 | G31 | Ⅱ | 27679 | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | 内:不明文 | 灰白 | オリーブ灰, 口縁:内外明青灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-4類 | |
| | 561 | I37 | Ⅲa | 24545 | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(5.6) | 見込み:圏線, 片彫蓮華文か片彫キノコ状文 | 灰白 | 灰オリーブ | 高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2～4類 | |
| | 562 | F27 | I | 17907 | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(6.2) | 見込み:圏線, 片彫蓮華文か片彫キノコ状文 | 灰 | 灰オリーブ | 高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2～4類 | |
| | 563 | I26 | I | 18197 | 碗 | 底 | 青磁 | − | 見込み:圏線, 片彫蓮華文か片彫キノコ状文 | 灰 | 灰オリーブ | 高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I-2～4類 | |
| | 564 | E30 | Ⅲ | 16019 | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(16.2) | − | 灰赤 | オリーブ黄 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I類か Ⅱ類 | |
| | 565 | F31 | I, Ⅱb | 36653他 | 碗 | 底～高台 | 青磁 | 底径:(5.4) | − | 灰白 | 灰オリーブ | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I類か Ⅱ類 | 貫入 |
| | 566 | E21 | I | − | 碗 | 底～高台 | 青磁 | 底径:(5.2) | − | 灰白 | 灰オリーブ | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I類か Ⅱ類 | 畳付に砂 |
| | 567 | J29 | Ⅱ | 23614 | 碗 | 底～高台 | 青磁 | 底径:(5.2) | − | 灰白 | オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I類か Ⅱ類 | |
| | 568 | F32, H30 | Ⅱ, Ⅱb | 24050他 | 碗 | 胴～高台 | 青磁 | 底径:(5.2) | − | 灰 | オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I類 | 小碗？ |
| | 569 | C27·28 | I | − | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(4.8) | 見込み:幾何学文 | 灰白 | オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | I類か Ⅱ類 | |
| 104 | 570 | D33 | Ⅱ | − | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(17.2) | 外:片彫蓮弁文 | 赤褐 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | |
| | 571 | H30 | Ⅱ | 24842 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(16.1) | 外:片彫蓮弁文 | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | |
| | 572 | F32 | Ⅱ | − | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | − | 外:片彫蓮弁文 | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | |
| | 573 | H30 | Ⅱ | 24018 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | − | 外:片彫蓮弁文 | 灰 | オリーブ黄 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | |
| | 574 | H30 | Ⅱ | 24038 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | − | 外:片彫蓮弁文 | 灰 | 暗オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | |
| | 575 | H41 | 撹乱 | − | 碗 | 胴 | 青磁 | − | 外:片彫蓮弁文 | 灰 | 灰白 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | |
| | 576 | G30 | Ⅱ | 23951 | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | 外:片彫蓮弁文 | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | |
| | 577 | G32 | I | − | 碗 | 胴 | 青磁 | − | 外:片彫蓮弁文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | |
| | 578 | E28·30 | Ⅱa·b | 17918他 | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:(5.8) | 外:片彫蓮弁文 | 灰 | 暗オリーブ | 高台内分的に無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | 高台内砂目 |
| | 579 | F23, J28 | Ⅱ, Ⅲa | 22352他 | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:5.4 | 外:片彫蓮弁文 | 灰 | 灰オリーブ | 高台内分的に無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | 高台内砂目 |
| | 580 | F30 | I | − | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(5.1) | 外:片彫蓮弁文 | 赤褐 | 灰オリーブ | 高台無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-a類 | |
| | 581 | E·J28 | Ⅱ, Ⅱa | 17919他 | 碗 | 完形 | 青磁 | 口径:16.0<br>底径:5.0<br>器高:7.3 | 外:鎬蓮弁文<br>内:爪型様の文様<br>見込み:圏線, ヘラ描幾何学文 | 灰 | オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 582 | J30 | Ⅱ | 23683 | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(16.4) | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 583 | H29 | Ⅱ | 26434 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(15.4) | 外:鎬蓮弁文 | にぶい褐 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 584 | I29 | Ⅱ | 24639他 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(16.2) | 外:鎬蓮弁文 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 585 | G30 | Ⅱ | 23929 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(16.2) | 外:鎬蓮弁文 | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 586 | E·J30 | Ⅱ, Ⅱb | 23655他 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(16.0) | 外:鎬蓮弁文 | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 587 | I29 | Ⅱ | 26372 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(17.2) | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |

## 第 15 表　青磁·白磁·青白磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 色調 | | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 胎土 | 釉色 | | | | | | |
| 104 | 588 | H29 | Ⅱ | 24611 | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(16.5) | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | 暗オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 589 | I36,J28 | Ⅱ,Ⅲa | 23547他 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(16.0) | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 590 | K25 | Ⅱ | 23312 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | - | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | オリーブ黄 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 591 | F30 | Ⅱb | 36542 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | - | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 592 | F41 | Ⅱb | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 593 | G30 | Ⅱ | 23939 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | - | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 594 | H21 | Ⅱ | 21019 | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 595 | I26 | Ⅰ | 18758 | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | - | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| | 596 | D32 | Ⅱ | - | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | - | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | 貫入 |
| | 597 | F32,H29 | Ⅱ,Ⅱb | 23341他 | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:6.0 | 外:鎬蓮弁文<br>見込み:八花文 | 灰 | オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | 貫入 |
| | 598 | G24 | Ⅱ | - | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:5.4 | 見込み:圏線,渦巻文 | 灰白 | オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | 貫入<br>高台外砂目 |
| | 599 | H30 | Ⅱ | 24876 | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:5.8 | 外:鎬蓮弁文 | 灰 | 明緑灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-b類 | |
| 105 | 600 | L38 | Ⅱ | - | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:5.7 | - | 灰白 | 灰オリーブ | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ類 | |
| | 601 | F28 | Ⅰ | 18770 | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:(5.6) | 外:鎬蓮弁文<br>見込み:草花文 | 灰 | 緑灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-c類 | |
| | 602 | F21 | Ⅱ | 18007 | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(5.0) | 見込み:草花文 | 灰 | オリーブ | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-c類 | 貫入<br>高台砂目 |
| | 603 | F27 | Ⅱ | - | 碗 | 底～高台 | 青磁 | 底径:5.7 | 外:鎬蓮弁文<br>見込み:蓮花文 | 灰 | オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-c類 | 高台砂目 |
| | 604 | J31 | Ⅰ | - | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:5.8 | 外:鎬蓮弁文<br>見込み:蓮花文 | 灰 | 灰オリーブ | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁3類 | Ⅱ-c類 | 貫入 |
| 106 | 605 | K30 | Ⅱ | - | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:4.8 | 外:蓮弁文<br>見込み:魚と雲？ | 灰白 | 明オリーブ灰 | 高台内釉剥 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅱ類 | 高台内砂目痕 |
| | 606 | J28 | Ⅰ | - | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:(5.4) | 外:蓮弁文<br>見込み:圏線 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅱ類 | |
| | 607 | G22 | Ⅱa | 18613 | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:蓮弁文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅲ類 | |
| | 608 | E42 | Ⅱa | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:蓮弁文 | 灰黄 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅲ類 | |
| | 609 | F･K30 | Ⅱ | 27442他 | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:蓮弁文 | 灰黄褐 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅲ類 | |
| | 610 | H22 | Ⅱa | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:蓮弁文 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅳ類 | |
| | 611 | L29 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:蓮弁文<br>内:櫛描文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅳ類 | |
| | 612 | K29 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(14.0) | 外:蓮弁文 | 橙 | にぶい黄橙 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅳ類 | |
| | 613 | J28 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(12.0) | 外:蓮弁文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅳ類 | |
| | 614 | G32･41 | Ⅰ,Ⅱa | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(14.0) | 外:蓮弁文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅳ類 | |
| | 615 | E41 | Ⅱa | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(15.0) | 外:蓮弁文 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁4類 | 上田b-Ⅳ類 | 気泡 |
| | 616 | F30 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(15.0) | 外:雷文帯<br>内:雲文か | 灰白 | 緑灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁5類 | 上田C-Ⅱ類 | |
| | 617 | F41 | Ⅰa | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(15.0) | 外:雷文帯 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁5類 | 上田C-Ⅱ類 | |
| | 618 | F30 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(15.4) | 外:雷文帯、ラマ式連弁文 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁5類 | 上田C-Ⅱ類 | |
| | 619 | J30 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:雷文帯 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁5類 | 上田C-Ⅱ類 | |
| | 620 | G32 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 外:雷文帯か | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁5類 | 上田C-Ⅱ類? | |
| | 621 | J31 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | 内:沈線文 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁5類 | 上田C類? | 貫入 |
| | 622 | D32 | Ⅱa | 15952 | 碗 | 胴 | 青磁 | - | 外:雷文帯、ラマ式連弁文 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁5類 | 上田C-2類 | |
| | 623 | F21 | Ⅰ | - | 碗 | 胴 | 青磁 | - | 外:雷文帯、ラマ式連弁文 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁5類 | 上田C-2類？ | 外面貫入 |
| | 624 | K29 | Ⅰ | - | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:(6.1) | 外:草花文<br>見込み:界線,草花文 | 灰白 | オリーブ灰 | 高台内釉剥 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁5類 | 上田C-2類? | |
| | 625 | L38 | Ⅱ | - | 碗 | 胴～底 | 青磁 | 底径:(5.8) | 外:草花文<br>内:圏線,スタンプ文 | 灰白<br>高台内:にぶい橙 | オリーブ灰 | 高台内釉剥 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁5類 | 上田C-Ⅱ類? | 高台内砂目痕 |
| 107 | 626 | I･J26･27 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(15.0) | 見込み:界線 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-1類 | |
| | 627 | L28 | Ⅰ | - | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(13.4) | - | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | | 外反<br>内外貫入 |
| | 628 | F30 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 青磁 | - | - | 灰 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-1類 | 内外貫入 |

## 第 15 表　青磁·白磁·青白磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 色調 | | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 胎土 | 釉色 | | | | | | |
| 107 | 629 | I22 | Ⅱ | − | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | − | 灰 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-1類 | 内外貫入 |
| | 630 | E32 | Ⅰ | − | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(15.4) | 外面:浅凹線1条 | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-1か D-2類 | 1か所浅い段 |
| | 631 | I43 | Ⅱb | 15610 | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(18.4) | − | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-1類 | |
| | 632 | J38 | Ⅱb | 23031 | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(15.4) | − | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-2類 | |
| | 633 | J38 | Ⅰ | − | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(16.0) | − | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-2類 | 内外貫入 |
| | 634 | J28 | Ⅰ | − | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(16.6) | − | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-2類 | 内外貫入 |
| | 635 | E20 | Ⅱ | − | 碗 | 口縁 | 青磁 | 口径:(16.6) | − | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-2類 | 内外貫入 |
| | 636 | J38 | Ⅲa | 23120 | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | − | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-2類 | 外反<br>内外貫入 |
| | 637 | G25 | Ⅰ | 18756 | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | − | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-2類 | 内外貫入 |
| | 638 | K37 | Ⅱb | − | 碗 | 口縁 | 青磁 | − | − | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-2類 | |
| | 639 | C27·28 | Ⅰ | − | 碗 | 胴 | 青磁 | − | 内:印花文？ | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-2類？ | |
| | 640 | J28 | Ⅰ | − | 碗 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(16.0) | − | 灰白 | 明緑灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田E-2類 | 貫入 |
| | 641 | J38 | Ⅰ | − | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(5.4) | − | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-1か D-2類 | |
| | 642 | D29 | Ⅱ | 17137 | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(6.0) | − | 灰白<br>高台:黒 | オリーブ灰 | 高台内掻取 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田D-1か D-2類 | |
| | 643 | J38 | Ⅰ | − | 碗 | 底 | 青磁 | − | 見込み:草花スタンプ文 | 褐灰 | オリーブ灰 | 高台内掻取 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田Ⅱ～Ⅳ類 | 内面貫入<br>高台欠損 |
| | 644 | J32 | Ⅰ | − | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(6.2) | 見込み:草花スタンプ文 | 灰白 | オリーブ灰 | 高台内釉剥 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田Dか E類 | |
| | 645 | H25,J28 | Ⅰ | − | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(5.5) | 見込み:圏線、草花スタンプ文 | 灰白 | 明緑灰 | 畳付～高台内一部無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | Ⅳ-イ類 | |
| | 646 | J28 | Ⅰ | − | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(5.6) | − | 灰白 | 明オリーブ灰 | 高台外～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | Ⅳ-イ類 | |
| | 647 | J38 | Ⅲa | 23109 | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:6.2 | 内外:2本1組の縦沈線<br>見込み:草花スタンプ文 | 灰 | オリーブ灰 | 高台内蛇の目状釉剥 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | Ⅳ類？ | |
| | 648 | F29 | Ⅱb | 36398 | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(6.0) | 見込み:草花スタンプ文 | 灰白 | 明オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | Ⅳ-イ類 | |
| | 649 | H21,K29 | Ⅰ,Ⅱ | 23809 | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:5.2 | 見込み:草花スタンプ文 | 灰白 | オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | Ⅳ-イ類 | |
| | 650 | J38 | Ⅱb | 23030 | 皿？ | 底 | 青磁 | 底径:(6.6) | − | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | 上田2～4群 | |
| | 651 | E23 | Ⅰ | − | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(5.0) | − | 灰白<br>高台:橙 | オリーブ灰 | 畳付釉剥 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁6類 | Ⅲ類 | 貫入 |
| 108 | 652 | K28 | Ⅰ | − | 碗 | 底 | 青磁 | 底径:(9.4) | 見込み:貼付蓮花文 | にぶい黄橙 | オリーブ灰 | 畳付～高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁7類 | Ⅳ類 | |
| 109 | 653 | J29 | Ⅰ | − | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(13.0) | − | 灰 | オリーブ黄<br>口唇:浅黄 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | Ⅳ類？ | |
| | 654 | G21 | Ⅱa | 18585 | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(12.0) | − | 灰～黄橙 | 黄灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | |
| | 655 | F21 | Ⅰ | − | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(12.0) | − | 灰 | オリーブ灰<br>口唇:灰色 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 貫入 |
| | 656 | K28 | Ⅱ | 23821 | 皿 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(13.1) | − | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | |
| | 657 | E21 | Ⅱ | 19550 | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(13.0) | − | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 貫入 |
| | 658 | H21 | Ⅱa | 18650 | 皿 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(11.6) | − | 灰 | オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 光沢なし |
| | 659 | H26 | Ⅰ | 18260 | 皿 | 口縁～胴 | 青磁 | 口径:(13.2) | − | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 貫入 |
| | 660 | E21 | Ⅱ | 19558 | 皿 | 口縁～底 | 青磁 | − | − | 灰 | オリーブ灰 | 高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 貫入 |
| | 661 | F21 | Ⅱ | 18000 | 皿 | 口縁 | 青磁 | − | − | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | |
| | 662 | I26 | Ⅰ | − | 皿 | 口縁～底 | 青磁 | 口径:12.3<br>底径:5.7<br>器高:3.1 | 内:圏線,蓮花文<br>見込み:圏線,桜花文と「寿」字 | 灰 | オリーブ灰 | 高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 稜花皿 |
| | 663 | D20 | Ⅱ | − | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(11.9) | 内口縁:沈線2条 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 貫入,稜花皿 |
| | 664 | G40 | Ⅱa | 9178 | 皿 | 口縁～胴 | 青磁 | − | 外:幾何学文<br>内:圏線2条、草花文 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | Ⅲ類 | 内面貫入,稜花皿 |
| | 665 | G43 | Ⅰ | − | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(11.8) | 内口縁:沈線2条 | 灰 | 灰オリーブ | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 貫入,内面砂目,稜花皿 |
| | 666 | G24 | Ⅱ | 22143 | 皿 | 口縁 | 青磁 | − | 内口縁:沈線2条 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 貫入,稜花皿 |
| | 667 | D41 | Ⅱa | − | 皿 | 口縁 | 青磁 | − | 内口縁:沈線2条 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 貫入,稜花皿 |
| | 668 | G41 | Ⅰ | − | 皿 | 口縁 | 青磁 | − | − | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青皿1類 | | 貫入,口縁砂粒,稜花皿 |

## 第 15 表　青磁·白磁·青白磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 色調 | | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 胎土 | 釉色 | | | | | | |
| 109 | 669 | D20 | I | − | 皿 | 口縁 | 青磁 | − | 内:沈線1条 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁1類 | | 稜花皿 |
| | 670 | E42 | IIa | − | 皿 | 口縁 | 青磁 | − | 内:沈線2〜3条 | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁1類 | | 稜花皿 |
| | 671 | K37 | IIb | − | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(11.0) | 外:蓮弁文<br>内:片彫文 | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | | 碁笥底？ |
| | 672 | E21 | II | 17977 | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(12.0) | 外:蓮弁文<br>内:片彫文 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | | 碁笥底？ |
| | 673 | F43 | IIa | − | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(9.4) | − | 灰 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | | |
| | 674 | H30 | II | 24051 | 皿 | 口縁 | 青磁 | 口径:(10.4) | − | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | 青磁2類 | | |
| | 675 | C12 | I | − | 皿 | 底 | 青磁 | 底径:(7.5) | 見込み:圏線,草花文 | 灰白 | オリーブ灰 | 高台内一部無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | | | |
| | 676 | E24 | I | − | 皿 | 底 | 青磁 | 底径:(6.2) | 見込み:花スタンプ文 | 灰 | 暗オリーブ | 畳付〜高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | | | |
| | 677 | J29 | I | − | 皿 | 底 | 青磁 | − | − | 灰 | 明オリーブ灰 | 見込み輪状釉剥,外胴下〜高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | | | |
| | 678 | K37 | I | − | 皿 | 底 | 青磁 | 底径:(6.0) | − | 灰白 | 灰白 | 見込み輪状釉剥,畳付〜高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | | | |
| | 679 | L28 | I | − | 皿 | 底 | 青磁 | 底径:(7.6) | − | 灰白 | オリーブ灰 | 見込み輪状釉剥,高台内無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | | | |
| | 680 | J28 | I | − | 皿 | 底 | 青磁 | 底径:4.6 | − | 灰白 | 浅黄 | 見込み輪状釉剥,畳付釉剥 | 良好 | 龍泉窯系 | | | |
| | 681 | I40 | I | − | 皿 | 底 | 青磁 | 底径:4.8 | 外:縦沈線<br>見込み:菊花文 | 灰白 | 明緑灰色<br>外:オリーブ灰 | 畳付〜高台内一部無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | | | |
| 110 | 682 | H21 | IIa | 18676 | 坏 | 口縁〜胴 | 青磁 | 口径:(13.0) | 外:片彫蓮弁文 | 灰 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | | Ⅳ類 | 口縁外反 |
| | 683 | I29 | II | 23401 | 小碗 | 口縁 | 青磁 | − | − | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | | I-1類 | |
| | 684 | F32 | I | − | 小碗 | 口縁 | 青磁 | − | 口縁:縦位凹み1条 | 灰白 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | | | 碁笥底？<br>外貫入 |
| | 685 | F23 | II | 21957 | 小碗 | 底 | 青磁 | 底径:3.0 | − | 灰白 | 明オリーブ灰 | 外面胴下〜底無釉 | 良好 | 龍泉窯系 | | | 碁笥底<br>内面貫入 |
| | 686 | D27 | I | 18105 | 盤 | 口縁 | 青磁 | − | − | 灰色 | オリーブ灰 | | 良好 | 龍泉窯系 | | Ⅳ類以降 | 貫入 |
| | 687 | J26·27 | I | − | 碗 | 胴下半〜高台 | 青磁 | 底径:5.6 | 見込み:浅い花弁スタンプ文 | 灰色 | オリーブ灰 | 胴下半〜高台内無釉 | 良好 | 磁竈窯系 | | | |
| | 688 | F30 | I | − | 坏 | 胴〜底 | 青磁 | 底径:(4.4) | − | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | 朝鮮陶磁 | | | 見込み砂目<br>高台砂付着<br>李朝陶器？ |
| | 689 | J28 | I | − | 碗 | 胴〜底 | 青磁 | 底径:4.4 | − | 黄灰 | オリーブ灰 | 外面無釉 | 良好 | 朝鮮陶磁 | | | 外:にぶい黄褐,高台砂目<br>李朝陶器？ |
| 112 | 690 | F31,H30 | I, II | 27556他 | 碗 | 口縁〜底 | 白磁 | 口径:(16.0)<br>底径:(6.8)<br>器高:6.5 | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半〜高台内無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ-1 | |
| | 691 | C27·28,G25 | I | 20376他 | 碗 | 口縁〜底 | 白磁 | 口径:(16.8)<br>底径:(7.2)<br>器高:6.5 | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半〜高台内無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 692 | D36,H31<br>J29·30<br>L29,SD36 | ①II | 23721他 | 碗 | 口縁〜底 | 白磁 | 口径:(17.5)<br>底径:7.0<br>器高:6.6 | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半〜高台内無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 693 | I29 | II | 24681 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(17.0) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 694 | I29 | II,IIa | 26370他 | 碗 | 口縁〜胴 | 白磁 | 口径:(17.0) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 695 | H29 | II | 23380他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.0) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 696 | L35 | IIIa | − | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(17.6) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 697 | G22 | IIa | 18593 | 碗 | 口縁 | 白磁 | − | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 698 | F30 | I, II | 27462他 | 碗 | 口縁〜胴 | 白磁 | 口径:(16.2) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 699 | G31,H30 | II | 24062他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.8) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 700 | J30,K29 | I, II | 25242他 | 碗 | 口縁〜胴 | 白磁 | 口径:(18.4) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 701 | E31 | III | 16025 | 碗 | 口縁〜胴 | 白磁 | 口径:(16.0) | − | 灰白 | 灰オリーブ | 胴下半無釉,口縁部半に無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 702 | J29 | II | 25525 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:5.3 | − | 灰白 | オリーブ | 外面無釉 | 良好 | 広東 | 白磁1類 | II-4類か | 内面重焼痕<br>目痕 |
| | 703 | K30 | II | 30043 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:(5.6) | − | 灰白 | 灰オリーブ | 外面無釉 | 良好 | 広東 | 白磁1類 | II-4類か | |
| | 704 | G30,J29 | II | 23925他 | 碗 | 口縁〜胴 | 白磁 | 口径:(18.0) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |

## 第 15 表　青磁·白磁·青白磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 色調 | | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 胎土 | 釉色 | | | | | | |
| 112 | 705 | G32, I29·30 | Ⅱ, Ⅱb | 23909他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | − | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 706 | G30·31 | Ⅱ | 23961他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | − | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| 113 | 707 | E21·22 | Ⅱ | 19551他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.7) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 708 | F31, G32 | Ⅱb | 36725他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.2) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 709 | J26 | Ⅰ | − | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.2) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 710 | K35 | Ⅲa | 34023 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.5) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 711 | I30, J29 | Ⅱ | 23625他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.2) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 712 | F32, G31 | Ⅰ, Ⅱ | 27624他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.6) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 713 | H31, J28 K29 | Ⅱ | 25065他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.0) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 714 | F32, G30·31 | Ⅱ, Ⅱb | 23922他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.5) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 715 | D20, I30 J29 | Ⅰ, Ⅱ | 21096他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.4) | − | 浅黄 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 716 | I31 | Ⅱ | 28275 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.6) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 717 | F31·32 | Ⅱb | 36708他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(17.0) | − | 浅黄 | 灰白 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 718 | G43 | Ⅱb | 10699 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(18.1) | − | 灰白 | 浅黄 | | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 719 | F32 | Ⅱa | 11392 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(15.4) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 720 | E32 | Ⅲa | 16205 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(14.2) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 721 | D32 | Ⅱ | − | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:7.2 | − | 灰白 | 灰白 | 外面無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 722 | G31, J30 | Ⅱ | 25122他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:6.7 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 内面釉剥, 外面無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 723 | E33, G41 | Ⅱ, Ⅱb | 15923他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:6.8 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰黄 | 外面無釉 | 普通 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 724 | K28 | Ⅱ | 23826 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:6.4 | − | 灰白 | 浅黄 | 外面無釉 | 普通 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 725 | E27, G31·32 | Ⅰ, Ⅱ, Ⅱb, Ⅲ | 18336他 | 碗 | 胴～底 | 白磁 | 底径:7.6 | 見込み:沈線 | 淡黄 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 726 | F32, G31 | Ⅱb | 39208他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:7.0 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 727 | F27 | Ⅱ | 18861 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:6.5 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 外面無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 728 | F31, G40 | Ⅱb | 14571他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:6.9 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 高台無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 729 | H43 | Ⅱa·b | 11924他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:6.8 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 730 | F30·31 | Ⅰ, Ⅱb | 37388他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:5.6 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉, 内面一部釉切 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 731 | J30 | Ⅱ | 25129 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:7.0 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 732 | G33 | Ⅰ | − | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:6.4 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 733 | D32 | Ⅱ | − | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:(7.5) | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 外面無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 734 | G31, J28 | Ⅱ | 25224他 | 碗 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(6.7) | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 735 | D30, E30·31 | Ⅱa·b | 16033他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:(6.8) | − | 灰白 | 灰白 | 外面無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| | 736 | F32, H30·31 | Ⅱ, Ⅱb | 24052他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:6.5 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白磁1類 | Ⅳ類 | |
| 114 | 737 | F31 G31·32 I30 | Ⅰ, Ⅱ, Ⅱb | 24116他 | 碗 | 口縁～底 | 白磁 | 口径:(16.4) 底径:(6.0) 器高:6.5 | 内口縁·見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白磁2類 | V−4a類 | |
| | 738 | J35 | Ⅱ | 36262 | 碗 | 完形 | 白磁 | 口径:17.6 底径:6.0 器高:7.4 | 見込み:沈線 | 淡黄 | 浅黄 | 胴下半～高台内無釉, 見込一部無釉 | 良好 | | 白磁2類 | V4a類 | 貫入 |
| | 739 | F31 G30·31 H29·30·31 | Ⅰ, Ⅱ, Ⅱb | 24852他 | 碗 | 口縁～底 | 白磁 | 口径:17.2 底径:6.0 器高:6.5 | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白磁2類 | V−4類 | |
| | 740 | I29 | Ⅱ | 26350 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.4) | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁2類 | V−4a類 | 内外面気泡 |
| | 741 | H31, I30 | Ⅱ | 26670他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.4) | 内口縁:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁2類 | V−4a類 | 外面気泡 |
| | 742 | G·H30 | Ⅱ | 24800他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.5) | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白磁2類 | V−4a類 | |
| | 743 | G·J30 | Ⅱ | 23659他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.0) | 内口縁·見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白磁2類 | V−4類か | |

## 第 15 表　青磁·白磁·青白磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 色調 | | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 胎土 | 釉色 | | | | | | |
| 114 | 744 | G31·32 | Ⅰ, Ⅱ | 28609他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.4) | − | 灰 | オリーブ灰 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類 | 775と同一 |
| | 745 | E32, F31 | Ⅱb | 15890他 | 碗 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(6.0) | 見込み:沈線 | 灰 | オリーブ灰 | 胴下～高台無釉, 見込み　部無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類 | 774と同一 |
| | 746 | K28·30·32 | Ⅱ | 23769他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(17.4) | 見込み:沈線 | 灰白 | 明オリーブ灰 | 胴下部無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類 | |
| | 747 | G31, J30 | Ⅱ | 27490他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(18.6) | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下部無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類 | |
| | 748 | J29·30 | Ⅱ | 23596他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(17.1) | 内:櫛描文 | 灰黄 | 灰オリーブ | | 普通 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅦ類 | |
| | 749 | F31·32, K29 | Ⅱ, Ⅱa·b | 23797他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | − | 内:櫛描文 | 灰白 | 浅黄 | | 普通 | | 白碗2類 | Ⅴ−4b類 | 貫入 |
| | 750 | H30 | Ⅱ | 24797 | 碗 | 口縁 | 白磁 | − | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類 | |
| | 751 | F31, G30 | Ⅱ, Ⅱb | − | 碗 | 胴 | 白磁 | − | 内:櫛目文 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ類 | |
| | 752 | K30 | Ⅱ | 25249 | 碗 | 胴 | 白磁 | − | 内:櫛目文 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 高台無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ類 | 外面気泡 |
| | 753 | L35 | Ⅰ | − | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:(6.2) | − | 灰白 | 明オリーブ灰 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ類 | |
| | 754 | J26 | Ⅱ | − | 碗 | 底 | 白磁 | − | − | 灰黄 | 灰黄 | 高台無釉 | 普通 | | 白碗2類 | Ⅴ類 | 貫入, 被熱で一部黒色化 |
| | 755 | F31, J29 | Ⅱ, Ⅱb | 24306他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:(6.0) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ類 | |
| | 756 | I30·31, J30 | Ⅰ, Ⅱ | 28243他 | 碗 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(6.3) | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ類 | |
| | 757 | G41, J34 | Ⅰ, Ⅱa | 9170他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:(5.5) | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ類 | 外面気泡 |
| 115 | 758 | G31 H30·31 J29 | Ⅱ, Ⅱb | 24851他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(17.0) | − | にぶい黄 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 貫入 |
| | 759 | F30, G31·32 I30 | Ⅰ, Ⅱ, Ⅱb | 36475他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(17.0) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 760 | F31·32 | Ⅰ | − | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(17.0) | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下部無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 外面気泡 |
| | 761 | F·G32, I30 | Ⅱ, Ⅱb | 24086他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.8) | − | 灰黄 | 灰黄 | 胴下部無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 貫入 外面気泡 |
| | 762 | I29 J·K29·30 | Ⅱ, Ⅱa | 23762他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(17.0) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 763 | E31 | Ⅲa | 16300 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(17.2) | − | 灰白 | 上部:灰白 下部:灰 口縁:灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 外面気泡 |
| | 764 | F31 | Ⅱb | 37225 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(18.8) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 765 | I31 | Ⅱ | 28281 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(15.2) | 内:沈線 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 766 | E30 | Ⅱb | 36439 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.0) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 767 | K37 | Ⅰ, Ⅲa | 24563 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.2) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 外面気泡 |
| | 768 | F31 | Ⅱ | − | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.0) | − | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 貫入 外面気泡 |
| | 769 | F·G30 | Ⅱ, Ⅱb | 27466他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | − | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下部無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 770 | F31, I30 | Ⅱ, Ⅱb | 24119他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | − | − | 灰白 | 灰白 | 胴下部無釉 | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 771 | G30 | Ⅱ | 23943 | 碗 | 口縁 | 白磁 | − | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4a類かⅧ類 | |
| | 772 | J30, L35 | Ⅲ, Ⅲa | − | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.0) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 外面気泡 |
| | 773 | H31 | Ⅱ | − | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | − | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 外面気泡 |
| | 774 | E·F31 | Ⅰ, Ⅲa | − | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(17.0) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 外面気泡 |
| | 775 | F31 | Ⅱb | 36794 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(15.5) | − | 灰オリーブ | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 776 | H30, I29 | Ⅱ, Ⅱa | 24806他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.0) | 見込み·内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 気泡·貫入 |
| | 777 | F32 | Ⅱb | 36673 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.6) | 内:沈線 | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 778 | F31 | Ⅱb | 36793 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.0) | − | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 779 | E32 | Ⅲb | 16489 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(15.8) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | 外面気泡 |
| | 780 | I30 | Ⅱ | 26619 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.0) | 内:沈線 | 灰 | 灰 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 781 | F30, J29·30 | Ⅱ, Ⅱb, Ⅲ | 24190他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(16.0) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−4類かⅧ類 | |
| | 782 | E30 | Ⅱb | 36453 | 碗か皿 | 口縁 | 白磁 | − | − | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | | 白碗2類 | Ⅴ−2かⅡ, Ⅲ類 | |

## 第 15 表　青磁·白磁·青白磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 色調 | | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 胎土 | 釉色 | | | | | | |
| 116 | 783 | F30, J29 | Ⅱ, Ⅱb | 23648他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(14.4) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗3類 | Ⅶ-a類 | 貫入 |
| | 784 | J29, K30 | Ⅱ | 23736他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.0) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗3類 | Ⅶ-a類 | 786と同一？ |
| | 785 | G43 | Ⅱa | 9065 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | - | - | 灰白 | 灰白～オリーブ黄 | | 良好 | | 白碗3類 | Ⅶ-a類 | |
| | 786 | J30 | Ⅰ | - | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.0) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗3類 | Ⅶ-a類 | 784と同一？ |
| | 787 | C27·28 | Ⅱ | - | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(17.6) | - | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗3類 | Ⅶ-a類 | 外面気泡 |
| | 788 | H30, I31 | Ⅱ | 24058他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(17.4) | 外:二重圏線<br>内:草花文 | 灰白 | オリーブ黄 | | 良好 | | 白碗3類 | Ⅶ-b類 | 稜花碗？<br>内面目痕 |
| | 789 | H29 | Ⅱ | 23358 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | - | 内:草花文 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗3類 | Ⅶ-b類 | 790と同一 |
| | 790 | I·J31 | Ⅰ, Ⅱ | 28301他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | - | 内:草花文 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗3類 | Ⅶ-b類 | 789と同一 |
| | 791 | E·F31 | Ⅱ, Ⅱb | 27684他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:(4.8) | - | 浅黄 | 浅黄 | 胴下半～高台内無釉 | 普通 | | 白碗3類 | Ⅶ類 | 外面鉄分付着 |
| | 792 | H30 | Ⅱ | 24888他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | - | - | 灰黄 | 灰白～灰オリーブ | 胴下部無釉 | 普通 | | 白碗3類 | Ⅷ-2類？ | 貫入, 気泡 |
| | 793 | G30·31 | Ⅱ | 26524他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(15.0) | - | 灰黄 | 灰 | 胴下部無釉, 見込み掻取 | 良好 | | 白碗3類 | Ⅷ-2類？ | 貫入, 高台剥離 |
| | 794 | D32 | Ⅱb | 15945 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(15.5) | - | 灰 | 灰オリーブ～灰白 | 胴下部無釉, 見込み掻取 | 良好 | | 白碗3類 | Ⅷ-2類？ | |
| | 795 | F·G31 | Ⅱ, Ⅱb | 28602他 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(15.0) | - | 灰 | 灰白 | | 良好 | | 白碗3類 | Ⅷ-2類？ | |
| | 796 | E30, F31 | Ⅱb | 37449他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(16.0) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | 胴下部は無釉 | 良好 | | 白碗3類 | Ⅷ-2類？ | |
| | 797 | J38 | Ⅲa | 23088他 | 皿 | 胴～高台 | 白磁 | 底径:5.9 | - | 灰白 | | 畳付～高台内無釉 | | | 白碗3類 | | 貫入, 断面に砂(被熱？) |
| | 798 | J30, K29 | Ⅱ | 25137他 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:(6.3) | 見込み:沈線 | 灰黄 | 明緑灰 | 見込み輪状釉剥, 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白碗3類 | Ⅷ類 | 見込み重焼痕 |
| | 799 | J30 | Ⅱ | 24098 | 碗 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(6.7) | - | 灰白 | 灰白 | 見込み輪状釉剥, 外面無釉 | 良好 | | 白碗3類 | Ⅷ類 | 見込み重焼痕 |
| | 800 | E21 | Ⅱ | 19566 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(14.0) | 外:二重界線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗4類 | Ⅸ類 | 口禿:浅黄 |
| | 801 | J30 | Ⅱ | 23712 | 碗 | 口縁～胴 | 白磁 | - | - | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗4類 | Ⅸ類 | 口禿:灰黄 |
| | 802 | K29 | Ⅱ | 23788 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(14.6) | 内:沈線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗4類 | Ⅸ類 | 口禿:浅黄 |
| | 803 | D21 | Ⅱ | 19753 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(11.8) | - | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白碗4類 | Ⅸ類 | 口禿:灰黄, スス |
| | 804 | D32 | Ⅲa | - | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(11.2) | - | 灰白 | 明オリーブ灰 | | 良好 | | 白碗4類 | Ⅸ類 | 口禿:灰白, スス |
| 117 | 805 | I30, J31 | Ⅱ | 24742他 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(10.4) | - | 灰白 | オリーブ黄 | 胴下半無釉 | 良好 | 広東 | 白皿1類 | Ⅵ-1A類 | |
| | 806 | K29 | Ⅱ | 25937 | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(11.6) | - | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白皿1類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 807 | J28 | Ⅰ | - | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(11.6) | - | 灰白 | 灰白 | 胴下部無釉 | 良好 | | **白皿2類** | | 貫入 |
| | 808 | I40 | Ⅰa | - | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | - | - | 灰白 | 灰白 | 胴下部無釉 | 良好 | | **白皿2類** | | |
| | 809 | F30 | Ⅰ | - | 皿 | 口縁～底 | 白磁 | - | - | 灰白 | 明緑灰 | 内外口縁付近施釉 | やや良好 | | **白皿2類** | | 貫入, スス |
| | 810 | F31 | Ⅰ | - | 皿か | 底 | 白磁 | 底径:(8.4) | - | 灰白 | 灰白 | 内口縁～外面施釉 | やや良好 | | 白皿3類 | | 貫入, スス |
| | 811 | H30·33 | Ⅰ, Ⅱ | 24843他 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(10.8) | - | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 良好 | | 白皿3類 | Ⅱ類？ | |
| | 812 | F41 | Ⅱb | - | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(11.4) | - | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白皿3類 | 森田D類 | |
| | 813 | G22 | Ⅱa | 18592 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(9.6) | - | 灰白 | 灰白 | 胴下部無釉 | 良好 | | 白皿3類 | 森田D類 | |
| | 814 | G31 | Ⅱ | 27610 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(9.4) | - | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | | 白皿4類 | Ⅱ類かⅢ類 | |
| | 815 | I30 | Ⅱ | 26646 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(10.8) | 内面:沈線 | にぶい黄橙～灰黄 | 灰白 | | 普通 | | 白皿4類 | Ⅱ類かⅢ類 | 貫入 |
| | 816 | I30 | Ⅱ | 24694 | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:(4.6) | - | 灰白 | 灰白 | 見込み輪状釉剥, 外面無釉 | 良好 | | 白皿4類 | Ⅱ類かⅢ類 | 見込み目跡 |
| | 817 | E·F·G31, H30 | Ⅰ, Ⅱ, Ⅱa | 16044他 | 皿 | 口縁～底 | 白磁 | 口径:(10.4)<br>底径:5.4<br>器高:2.2 | - | 灰白 | 灰白 | 胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白皿4類 | Ⅲ-2類 | 内面胡麻 |
| | 818 | F31 | Ⅱb | - | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(11.0) | 内面:圏線 | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白皿4類 | Ⅲ-2類 | 内面胡麻 |
| | 819 | I29, K30 | Ⅱ, Ⅱa | 25256他 | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(10.0) | - | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白皿4類 | Ⅲ類 | |
| | 820 | I30, J29 | Ⅰ, Ⅱ | 26650他 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(10.0) | 内面:圏線 | 灰白 | 明オリーブ灰 | 見込み釉剥, 胴下部無釉 | 良好 | | 白皿4類 | Ⅲ類 | |
| | 821 | I30 | Ⅱ | 24090他 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(10.0) | - | 灰白 | 灰白 | 見込み釉剥, 胴下部無釉 | 良好 | | 白皿4類 | Ⅲ類 | |
| | 822 | L27 | Ⅰ | - | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(12.0) | - | 灰白 | 灰白 | 見込み釉剥, 胴下部無釉 | 良好 | | 白皿4類 | Ⅲ類 | 貫入 |

## 第 15 表　青磁·白磁·青白磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 色調 | | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 胎土 | 釉色 | | | | | | |
| 117 | 823 | G41 | Ⅱa | 9171 | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(10.6) | − | 灰黄 | 灰白 | 見込み釉剥,胴下部無釉 | 良好 | | 白皿4類 | Ⅲ類 | |
| | 824 | J29 | Ⅱ | 24196 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(10.0) | 見込み:沈線 | オリーブ黒 | 灰白 | 見込み釉剥,胴下部無釉 | 良好 | | 白皿4類 | Ⅲ類 | 貫入 |
| | 825 | D32 | Ⅱ | − | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:(5.0) | − | 灰白 | 灰白 | 見込み輪状釉剥,外面無釉 | 良好 | | 白皿4類 | Ⅲ類 | 内外重焼痕 |
| | 826 | I30·31 | Ⅱ | 24722他 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(11.4) | 内面沈線 | 灰白 | 灰白 | 見込み釉剥,胴下部無釉 | 良好 | | 白皿4類 | | |
| | 827 | I30,J29 | Ⅱ | 23795他 | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | − | − | 灰白 | 灰白 | 見込み釉剥,胴下部無釉 | 良好 | | 白皿4類 | | |
| | 828 | G30 | Ⅱ | 23926他 | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:(4.6) | − | 灰白 | 灰白 | 見込み輪状釉剥,胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿4類 | | 見込み重焼の砂,貫入 |
| | 829 | F30·31·32,G30·31,H30 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱb | 23923他 | 皿 | 口縁～底 | 白磁 | 口径:10.3<br>底径:2.6<br>器高:2.6 | − | 灰黄 | オリーブ | 胴下部～底部無釉 | 良好 | 広東 | 白皿5類 | Ⅳ-1A類 | |
| | 830 | D33 | Ⅱ | − | 皿 | 口縁 | 白磁 | − | 見込み:草花文 | 灰 | オリーブ黄 | | 良好 | 広東 | 白皿5類 | Ⅳ-1A類 | 貫入 |
| | 831 | G30 | Ⅱ | 23914 | 皿 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(4.0) | 見込み:沈線 | 灰白 | オリーブ黄 | 胴下部～底部無釉 | 良好 | 広東 | 白皿5類 | Ⅳ-1A類 | |
| | 832 | I30,J31 | Ⅰ,Ⅱ | 24753他 | 皿 | 胴～底 | 白磁 | 底径:3.4 | − | 灰白 | オリーブ黄 | 胴下部～底部無釉 | 良好 | 広東 | 白皿5類 | Ⅳ-1A類 | |
| | 833 | F31 | Ⅱb | 36848 | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:(3.2) | − | | オリーブ黄 | 底部無釉 | 良好 | 広東 | 白皿5類 | Ⅳ-1A類 | |
| | 834 | G31 | Ⅱ | 27629 | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(10.3) | − | 灰白 | オリーブ黄 | 胴下部無釉 | 良好 | 広東 | 白皿6類 | Ⅳ-1A類 | 薄釉 |
| | 835 | E21 | Ⅱ | 19555 | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:(5.4) | 内面:草花文 | 灰·淡黄 | 灰オリーブ | 底部無釉 | 良好 | 広東 | 白皿6類 | Ⅷ-Ⅱb類 | 内面に貫入 |
| | 836 | I41 | Ⅱa | 9201 | 碗 | 口縁～底 | 白磁 | 口径:(10.8) | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰 | 口縁釉剥 | 良好 | | 白皿7類 | Ⅸ-1b.c類 | 口禿:灰白 |
| | 837 | K29 | Ⅰ | − | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(9.6) | 見込み:沈線 | 灰白 | 灰白 | 口縁釉剥 | 良好 | | 白皿7類 | Ⅸ類 | 口禿:灰黄 |
| | 838 | E22 | Ⅱ | 19615 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(8.4) | − | 灰白 | 灰白 | 口縁釉剥,胴下部無釉 | 良好 | | 白皿7類 | Ⅸ類 | 口禿:灰白 |
| | 839 | F31·32 | Ⅰ,Ⅱb | − | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(10.6) | − | 灰白 | 灰白 | 口縁釉剥 | 良好 | | 白皿7類 | Ⅸ類 | 口禿:明黄褐 |
| | 840 | F31 | Ⅱb | 37180 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(10.6) | − | 灰白 | 灰オリーブ | 口縁釉剥 | 良好 | | 白皿7類 | Ⅸ類 | 口禿:灰白 |
| | 841 | E30 | Ⅰ | − | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(11.8) | − | 灰白 | 灰オリーブ | 口縁釉剥 | 良好 | | 白皿7類 | Ⅸ類 | 口禿:浅黄 |
| | 842 | F30 | Ⅱb | 36495 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(11.6) | − | 灰白 | 灰オリーブ | 口縁釉剥 | 良好 | | 白皿7類 | Ⅸ類 | 口禿:灰白 |
| | 843 | F31·32 | Ⅱb | 36768他 | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(12.0) | − | 灰白 | 灰白 | 口縁釉剥 | 良好 | | 白皿7類 | Ⅸ類 | 口禿:明黄褐 |
| | 844 | F31 | Ⅱb | 36782 | 碗 | 底 | 白磁 | 底径:(6.0) | − | 灰白 | 灰白 | 全面施釉 | 良好 | | 白皿7類 | Ⅸ類 | |
| | 845 | D31 | Ⅱb | 16159 | Ⅲ | 底 | 白磁 | 底径:(5.6) | − | 灰白 | 灰白 | 底部無釉 | 良好 | | 白皿7類 | Ⅸ-2類 | 底部目痕 |
| 118 | 846 | G21 | Ⅱa | 18586 | 坏 | 口縁～底 | 白磁 | 口径:(8.8)<br>底径:(6.0)<br>器高:2.1 | 胴下部:突線 | 灰白 | 白 | 底部中央無釉 | 良好 | | 白皿8類 | 森田B類 | |
| | 847 | E29 | Ⅱb | 36419 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(9.4) | − | 灰黄 | 灰白 | 胴下部一部無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 848 | K37 | Ⅱa | 23241 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(9.2) | − | 灰黄 | 灰白 | 胴下部無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入,<br>外面重焼痕 |
| | 849 | L28 | Ⅰ | − | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(10.4) | − | 暗灰黄 | 灰白 | 胴下部無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | |
| | 850 | G22 | Ⅱa | 18600 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(11.4) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 851 | J38 | Ⅰ | − | 皿 | 口縁 | 白磁 | − | − | 灰黄 | 灰白 | 胴下部無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 852 | E41 | Ⅰa | − | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | − | − | 灰白 | 灰白 | 胴下半無釉 | 普通 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 853 | G33 | Ⅰ | − | 皿 | 口縁～胴 | 白磁 | 口径:(12.7) | − | 灰 | 灰白 | | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | |
| | 854 | J38 | Ⅲa | 22985 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(10.9) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 855 | F32 | Ⅱb | − | 皿 | 口縁～底 | 白磁 | 口径:(9.0)<br>底径:(4.0)<br>器高:2.8 | − | 灰白 | 灰白 | 見込み輪状釉剥,胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 見込み砂目 |
| | 856 | G31 | Ⅱb | 37035 | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口縁:(10.0) | 内外:沈線 | 灰白 | 灰オリーブ | 見込み釉剥,胴下半無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 外面スス |
| | 857 | H30·J29 | Ⅱ | 23622他 | 皿 | 口縁～底 | 白磁 | 口径:(10.7)<br>底径:(4.7)<br>器高:2.8 | − | 灰 | 灰オリーブ | 見込み釉剥,胴下半無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 見込み·高台重焼跡,白泥,外口縁付近小礫付着 |
| | 858 | J28 | Ⅱ | − | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(10.4) | − | 灰白 | 灰オリーブ | | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | |
| | 859 | J28 | Ⅰ | − | 皿 | 口縁 | 白磁 | 口径:(12.0) | 内:圏線 | 白 | 灰白 | | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 860 | J30 | Ⅱ | 25170 | 皿 | 口縁～底 | 白磁 | 口径:10.6<br>底径:4.4<br>器高:2.9 | − | 浅黄 | 明オリーブ灰 | 見込み輪状掻取,胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 見込み·畳付付近重焼跡,白泥 |

## 第 15 表　青磁·白磁·青白磁観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 色調 | | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | 胎土 | 釉色 | | | | | | |
| 118 | 861 | D32 | Ⅱ | − | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:3.7 | − | 灰黄 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 862 | J38 | Ⅱb | 23004 | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:3.8 | − | 灰白 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 863 | D27 | Ⅰ | − | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:4.7 | 内:沈線 | 浅黄 | 灰白 | 見込み輪状釉剥,胴下半～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 864 | K28 | Ⅰ | − | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:(4.4) | − | 灰黄 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 865 | I43 | Ⅱb | 15611 | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:4.0 | − | 灰黄 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 866 | J38 | Ⅰ | − | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:3.4 | − | 灰白 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | |
| | 867 | I31 | Ⅱ | 28161 | 皿 | 底 | 白磁 | 底径:(4.8) | − | 灰白 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 貫入 |
| | 868 | E42 | Ⅱa | 10039 | 坏 | 底 | 白磁 | 底径:4.0 | − | 灰白 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | 森田D類 | 目跡4か所割高台 |
| | 869 | H22 | Ⅱ | − | 不明 | 底 | 白磁 | 底径:4.4 | − | 灰白 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | | 目跡2か所割高台 |
| | 870 | K37 | Ⅰ | − | 不明 | 底 | 白磁 | 底径:4.0 | − | 淡黄 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | | 目痕2か所割高台,貫入 |
| | 871 | J41 | Ia | − | 不明 | 底 | 白磁 | 底径:(4.4) | − | 白 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | | 目痕1か所 |
| | 872 | K29 | Ⅰ | − | 不明 | 底 | 白磁 | 底径:4.0 | − | 灰白 | 灰白 | 胴下部～高台内無釉 | 良好 | | 白皿9類 | | 目痕4か所貫入 |
| | 873 | G43 | Ⅱa | − | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(12.0) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白皿10類 | 森田E類 | |
| | 874 | D28 | Ⅰ | − | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(13.2) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白皿10類 | 森田E類 | |
| | 875 | E30 | Ⅱb | − | 碗 | 口縁 | 白磁 | 口径:(14.7) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | 白皿10類 | 森田E類 | |
| | 876 | L29 | Ⅱ | 33888 | 皿 | 口縁～底 | 白磁 | 口径:(11.6)<br>底径:(5.8)<br>器高:2.5 | − | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | | 白皿10類 | 森田E2類 | 口縁付近一部溶解 |
| | 877 | G32 | Ⅰ | − | 碗 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(7.0) | − | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | | 白皿10類 | 森田E2類 | 釉剥:浅黄,高台に砂付着 |
| | 878 | E29 | Ⅰ | − | 坏 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(6.2) | − | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | | 白皿10類 | 森田E2類 | 碁笥底<br>釉剥:灰白 |
| | 879 | F31 | Ⅰ | − | 皿 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(7.0) | − | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | | 白皿10類 | 森田E2類 | 釉剥:浅黄 |
| | 880 | K31 | Ⅰ | − | 皿 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(7.0) | − | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | | 白皿10類 | 森田E2類 | 釉剥:灰白 |
| | 881 | F31 | Ⅰ | − | 皿 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(6.7) | − | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | | 白皿10類 | 森田E2類 | 碁笥底<br>釉剥:灰黄 |
| | 882 | L27 | Ⅰ | − | 皿 | 胴～底 | 白磁 | 底径:(3.2) | − | 灰白 | 灰白 | 一部釉剥 | 良好 | | 白皿10類 | 森田E3類 | 碁笥底<br>釉剥:浅黄 |
| 119 | 883 | I28 | Ⅲ | 29792 | 坏 | 完形 | 白磁 | 口径:10.5<br>底径:4.5<br>器高:2.8 | − | 淡黄 | 浅黄～灰白 | 見込み輪状釉剥 | 良好 | | | Ⅲ-1類 | |
| | 884 | I36 | Ⅲa | 29264 | 鉢 | 口縁 | 白磁 | 口径:(20.0) | − | 灰黄 | 灰白 | | 普通 | | | | 磁州窯,貫入大型製品？ |
| | 885 | I31 | Ⅱ | 28186 | 鉢 | 底 | 白磁 | 底径:6.5 | − | 灰黄 | 灰白 | | 普通 | | | | 磁州窯,見込目跡,貫入大型製品？ |
| | 886 | I30 | Ⅱ | 24726 | 壺類 | 頸 | 白磁 | 頸部:(6.6) | − | 灰 | 明オリーブ灰 | | 良好 | | | | 口縁に耳剥落痕 |
| | 887 | D32･33<br>E31･32<br>F28･31<br>G28･29･30･33<br>H30,I29<br>J28･30,L35 | Ⅰ,Ib,Ⅱ,Ⅱa･b･Ⅲb | 18822他 | 壺類 | 胴下～底 | 白磁 | 最大径:(18.0)<br>底径:(10.0) | − | 灰白 | 浅黄,一部赤 | 内面の胴下～底に釉,畳付～高台内一部施釉 | 良好 | | | | 内面凹凸が目立つ |
| | 888 | F30 | Ⅱb | 36523 | 合子(蓋) | 上面～受 | 青白磁 | − | 外:草花文型押し,菊弁文 | 灰白 | 明緑灰 | 口縁付近無釉 | 良好 | | | C～D期 | 型づくり |
| | 889 | F31 | Ⅰ | − | 合子(身) | 胴～底 | 青白磁 | − | 外:菊弁文 | 灰白 | 明緑灰 | 口縁付近無釉 | 良好 | | | C～D期 | 型づくり |
| | 890 | E31 | Ⅱa | 16028 | 合子(身) | 口縁 | 青白磁 | 口径:(6.6) | − | 灰白 | 明オリーブ灰 | 蓋受部･胴下部掻取,内面一部施釉 | 良好 | | | | 掻取:にぶい黄橙,白磁の可能性 |
| | 891 | G30 | Ⅱ | 24926 | 合子(身) | 口縁～胴 | 青白磁 | − | − | 灰白 | 灰白 | 外面無釉 | 良好 | | | | |
| | 892 | J33 | Ⅰ | − | 蓋 | 肩～受け | 青白磁 | 庇径:(5.6) | − | 灰白 | 灰白 | | 良好 | | | | 貫入 |
| | 893 | I34 | Ⅰ | − | 壺 | 口縁 | 青白磁 | 口径:(9.6) | 屈曲部内面:沈線 | 灰白 | 明緑灰 | | 良好 | | | | 盤口壺？ |

## 第 16 表　染付観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 文様 | 胎土色調 | 釉薬色調 | 施釉範囲 | 焼成 | 産地 | 永吉分類 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 121 | 894 | J37 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 染付 | － | 外:牡丹唐草文<br>内:四方襷文 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | b群 | |
| | 895 | K29 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 染付 | － | 外:界線2条,矢羽根状文<br>内:界線2条 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 896 | D32 | Ⅱ | － | 碗 | 口縁 | 染付 | － | 外:界線上1条・下2条,波涛文帯<br>内:界線1条 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 897 | F32 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 染付 | － | 外:下界線上1条・下2条,波涛文帯,牡丹文<br>内:界線1条 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 898 | G32 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 染付 | － | 外:界線上下2条,波涛文帯<br>内:界線2条 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 899 | G43 | Ⅱa | － | 碗 | 口縁 | 染付 | － | 外:界線上下2条,列点文,蓮華文<br>内:界線2条 | 灰白 | 明緑灰 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 900 | K37 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 染付 | － | 外:界線1条,牡丹唐草文<br>内:界線1条 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 901 | L28 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 染付 | － | 外:波涛文,唐草文<br>内:界線1条 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 902 | F31 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 染付 | － | 外:花文<br>内:界線1条 | 灰黄 | 灰黄 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 903 | I38 | Ⅱb | － | 碗 | 口縁 | 染付 | － | 外:唐草文？<br>内:界線1条 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 904 | E29 | Ⅰ | － | 碗 | 胴 | 染付 | － | 外:雷文帯,芭蕉葉文 | 灰白 | 明緑灰 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 905 | H21 | Ⅰ | － | 碗 | 胴 | 染付 | | 外:雷文帯？,芭蕉葉文(波涛文？) | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 906 | D27 | Ⅰ | － | 碗 | 底 | 染付 | 底径:(6.4) | 胴:蔓唐草文,界線2条<br>腰:界線１条<br>見込み:圏線2条,花文 | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | － | － | － | |
| | 907 | H35 | Ⅰ | － | 碗 | 底 | 染付 | 底径:(5.0) | 腰:界線1条<br>高台:界線2条<br>胴:不明文<br>見込み:不明文字 | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | － | － | － | |
| | 908 | G32 | Ⅰ | － | 碗 | 底 | 染付 | 底径:(7.0) | 高台:界線2条<br>胴:渦状文 | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | － | － | － | |
| | 909 | K25 | Ⅰ | － | 碗 | 底 | 染付 | 底径:(7.0) | 胴:連弁文<br>見込み:圏線1条,法螺貝文 | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | － | － | － | |
| | 910 | H32 | Ⅰ | － | 碗 | 底 | 染付 | 底径:(5.6) | 腰・高台:界線1条<br>見込み:圏線1条,法螺貝文 | 白 | 明青灰 | 畳付釉剥 | 良好 | － | － | － | |
| | 911 | F31 | Ⅰ | － | 皿 | 口縁 | 染付 | 口径:(14.0) | 外:界線1条,唐草文<br>内口縁:界線1条<br>見込み:界線1条 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 912 | E29 | Ⅰ | － | 皿 | 口縁 | 染付 | 口径:(10.0) | 外:界線1条<br>内口縁:四方襷文帯<br>見込み:界線1条 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 913 | F31 | Ⅰ | － | 皿 | 口縁 | 染付 | － | 外口縁・腰:界線1条<br>内口縁:四方襷文帯<br>胴内面:圏線2条 | 灰白 | 灰白 | － | 良好 | － | － | － | |
| | 914 | G32 | Ⅰ | － | 皿 | 底 | 染付 | 底径:(3.0) | 外:芭蕉葉文,界線2条<br>見込み:圏線1条,唐草文 | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | － | － | － | 碁笥底 |
| | 915 | D・E42 | Ⅰ,Ⅱa | － | 皿 | 底 | 染付 | 底径:(2.6) | 外:芭蕉葉文<br>胴内:連点文,界線2条<br>見込み:菊花文 | 灰白 | 明青灰 | 畳付釉剥 | 良好 | － | － | － | 碁笥底,底部砂目跡 |
| | 916 | I26 | Ⅱ | － | 皿 | 底 | 染付 | 底径:(3.4) | 見込み:圏線2条,唐草文 | 灰黄 | 灰白 | 底部釉剥 | 良好 | － | － | － | 碁笥底,見込布跡,畳付・見込み砂目跡 |
| | 917 | H30 | Ⅰ | － | 皿 | 底 | 染付 | 底径:(8.0) | 腰:圏線2条<br>見込み:花樹文 | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | － | － | － | |
| | 918 | D26 | Ⅰ | － | 皿 | 底 | 染付 | 底径:(12.0) | 見込み:圏線2条,法螺貝文 | 灰白 | 灰白 | 畳付釉剥 | 良好 | － | － | － | |

## 第 17 表　中国陶器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 口径(cm) | 調整 | | 色調 | | 胎土 | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 外面 | 内面 | 白石 | 茶石 | 黄白石 | 石英 | 黒石 | 赤茶石 | |
| 122 | 919 | F31,G42,J29・30,K29・30・36,L28・29 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱa・b Ⅲ,Ⅲa | 23761他 | 壺 | 口縁～底 | 中国陶器 | 口径:9.8 底径:7.8 器高:20.6 胴最大径:15.4 | ろくろ | ろくろ | 釉:暗オリーブ | 釉:暗オリーブ | ○ | | | | | | 良好 | 褐釉,外面に凹線3条 底部目跡 |
| | 920 | D32 | Ⅱb | 15941 | 壺 | 口縁 | 中国陶器 | 口径:(15.6) | － | － | 釉:暗オリーブ | 釉:オリーブ黄 | ○ | | | | ○ | | 良好 | 褐釉,口縁内砂目跡 |
| | 921 | I41 | Ⅱa | 9191 | 壺 | 口縁 | 中国陶器 | 口径:(7.2) | 横ナデ | 横ナデ | 釉:灰褐 | 釉:灰褐 | ○ | | | | | ○ | 良好 | 褐釉,釉薬比熱変色 胎土:橙 |
| | 922 | E31,F31～33,G31・32,H29・32,I30 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱa・b | 36581他 | 壺 | 口縁～胴 | 中国陶器 | 口径:(11.2) | 丁寧な横ナデ | 丁寧な横ナデ | にぶい黄橙 釉:淡黄 | にぶい黄橙 釉:淡黄 | ○ | ○ | | | ○ | | 普通 | 褐釉,釉薬比熱変色 頸部凹線 |
| | 923 | F31 | Ⅰ | － | 壺 | 肩 | 中国陶器 | － | 横ナデ | 横ナデ | 灰白 釉:黒褐 | 灰白 | ○ | | | ○ | | | 良好 | 褐釉,外面釉垂 肩部沈線2条 |
| | 924 | G・H30,I29 | Ⅰ・Ⅱ | 23393 | 壺 | 肩～胴 | 中国陶器 | 最大径:13.6 | 横ろくろ | 横ろくろ | 釉:オリーブ黒 | 浅黄胡麻 | ○ | ○ | | ○ | | | 良好 | 四耳壺,外面施釉 |
| | 925 | E31,F31 G30・31 H30・31 | Ⅱ,Ⅱb,Ⅲ | 16020他 | 壺 | 胴～底 | 中国陶器 | 最大径:(26.0) 底径:(10.6) | 縦ナデ | ろくろ | 釉:濁灰緑 | オリーブ黄 | ○ | | | | ○ | | 良好 | 底部無釉 胎土:灰～にぶい橙 |
| | 926 | G43 | Ⅰ | － | 壺 | 胴～底 | 中国陶器 | 底径:(7.0) | ろくろ | － | 暗灰黄 釉:明黄褐 | 暗灰黄 | ○ | ○ | | | | | 良好 | 褐釉,外面釉垂 |
| | 927 | D32,E31・32,F31・32,G32,I38 J29,K30 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱa・b,Ⅲa | 11389他 | 鉢 | 口縁～胴 | 中国陶器 | 口径:(23.0) | 横ナデ | 横ナデ | 釉:黄褐 | にぶい黄 | ○ | ○ | | | | | 良好 | 肩部沈線,口縁内砂目 外面光沢あり |
| | 928 | E30,F31,G30,H30・31,I31 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱb | 28375他 | 鉢 | 口縁～胴 | 中国陶器 | 肩部最大径:(23.8) | － | － | 釉:オリーブ灰 | 釉:オリーブ灰 | ○ | ○ | | | | | 良好 | 外面中央砂目2か所 内外光沢あり 口唇部欠損 |
| | 929 | E27,G41・42 | Ⅰ | 18076 | 壺 | 底 | 中国陶器 | 底径:8.8 | 横方向ヘラナデ | 横方向ヘラナデ | にぶい褐 釉:オリーブ | にぶい褐 釉:オリーブ | ○ | | | | | | 良好 | 褐釉,部分的に釉残 碁笥底粘土目跡4か所 |
| | 930 | G41 | Ⅱa | 9165 | Ⅲ | 底 | 中国陶器 | 底径:(3.8) | 底:糸切 | 横ナデ | 橙 | 釉:暗オリーブ | ○ | ○ | | | ○ | | 良好 | 緑釉,内外とも粘土目痕4か所 |
| | 931 | H31 | Ⅱ | 28424 | 碗 | 底 | 中国陶器 | 底径:3.0 | ろくろ | － | 褐灰 | 釉:黒 | ○ | ○ | | | | | 良好 | 建窯産天目碗 内面釉厚く一部褐釉 |
| 123 | 932 | F31,I29,J28・29,K29 | Ⅰ,Ⅱ | 23552他 | 甕 | 肩 | 中国陶器 | 頸部径:19.7 | 格子叩き→縦・横・斜ナデ | 同心円当具・条痕→ヘラナデ | 灰 | 灰 頸部:にぶい赤褐 | ○ | ○ | ○ | | | | 良好 | 頸部付近に叩跡薄く残存 無頸壺型甕 |
| | 933 | I29 | Ⅱ | 24658 | 甕 | 胴 | 中国陶器 | － | 格子叩き又は条痕→ナデ | 同心円当具 | 極暗赤褐 | 黒褐 | ○ | | | ○ | | ○ | 良好 | 光沢あり |
| | 934 | G41 | Ⅱa | 9157 | 甕 | 胴 | 中国陶器 | － | 格子叩き又は条痕→ナデ | 同心円当具 | 極暗赤褐 釉:にぶい黄 | 黒褐 釉:にぶい黄 | ○ | | | ○ | | ○ | 良好 | 内外施釉,光沢あり |
| | 935 | E31 | Ⅱa | 16050 | 甕 | 胴 | 中国陶器 | － | 格子叩き又は条痕→ナデ | 同心円当具 | 極暗赤褐 釉:にぶい黄 | 黒褐 釉:にぶい黄 | ○ | | | ○ | | ○ | 良好 | 内外施釉,光沢あり |
| | 936 | D31 | Ⅲ | 15980 | 甕 | 胴 | 中国陶器 | － | 格子叩き又は条痕→ナデ | 同心円当具 | 極暗赤褐 釉:にぶい黄 | 黒褐 釉:にぶい黄 | ○ | | | ○ | | ○ | 良好 | 内外施釉,光沢あり |
| | 937 | F42 | Ⅱa | 9636 | 甕 | 胴 | 中国陶器 | － | 格子叩き又は条痕→ナデ | 同心円当具 | 極暗赤褐 釉:にぶい黄 | 黒褐 釉:にぶい黄 | ○ | | | ○ | | ○ | 良好 | 内外施釉,光沢あり |
| | 938 | D31 | Ⅱ | － | 甕 | 胴 | 中国陶器 | － | 格子叩き又は条痕→ナデ | 同心円当具 | 極暗赤褐 釉:にぶい黄 | 黒褐 釉:にぶい黄 | ○ | | | ○ | | ○ | 良好 | 内外施釉,光沢あり |

## 第18表　土製品観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 種別 | 法量(cm) | 調整 | | 色調 | 胎土 | | | | | | | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 外面 | 内面 | 外・内面 | 白石 | 茶石 | 黄白石 | 石英 | 灰石 | 黒石 | 輝石 | | |
| 124 | 939 | D21 | Ⅱ | 17964 | 土錘 | 完形 | 土製品 | 径:2.9<br>長さ:3.3<br>孔径:1.0 | ヘラナデ | | 灰白 | | ○ | | ○ | ○ | | | 普通 | 重さ:29ｇ |
| | 940 | I30 | Ⅰ | － | 円盤形土製品 | 完形 | 土製品 | 径:2.3<br>厚:0.8 | | | 灰白 | | | | | | | | 普通 | 磨耗 |
| | 941 | E20 | Ⅱ | － | 円盤形土製品 | 完形 | 土製品 | 径:1.8<br>厚:0.7 | ミガキ | ミガキ | 灰白 | | | | | | | | 普通 | 坏転用 |
| | 942 | H29 | Ⅱ | 26403 | 円盤形土製品 | 完形 | 土製品 | 径:3.4<br>厚1.2 | 打欠整形 | | 灰白 | | ○ | | | | ○ | ○ | 普通 | 坏転用 |
| | 943 | J28 | Ⅱ | 23572 | 円盤形土製品 | － | 土製品 | 径:7.5<br>厚:0.9 | 丁寧なミガキ<br>底:ヘラ切 | | 灰白 | | | | | | ○ | ○ | 普通 | 坏転用 |
| | 944 | H30 | Ⅱ | 24861 | 円盤形土製品 | － | 土製品 | 径:11.0<br>厚:0.8 | | | 灰白 | ○ | | | | | ○ | ○ | 普通 | 磨耗 |
| | 945 | H36 | Ⅱb | 29063 | 円盤形土製品 | － | 土製品 | 径:7.5<br>厚:0.9 | 打欠ミガキ<br>底:ヘラ切 | | 灰白 | | ○ | | | | ○ | ○ | 普通 | 坏転用,磨耗 |
| | 946 | H30 | Ⅱ | 24848 | 紡錘車 | 完形 | 土製品 | 径:6.5～7.3<br>厚:0.5～0.9<br>孔径:0.4 | 打欠→丁寧なミガキ<br>底:糸切 | | 外:にぶい赤橙～橙<br>内:橙 | | ○ | | ○ | | | ○ | 普通 | 坏転用 |
| | 947 | G29 | Ⅱ | 24582 | 紡錘車 | 完形 | 土製品 | 径:8.4～9.1<br>厚:1.0<br>孔径:0.7 | 打欠→丁寧なミガキ | | 灰色 | | ○ | | ○ | | | | 普通 | 内面コゲ<br>(灯明皿に転用？) |
| | 948 | L30 | Ⅱ | 33872 | 鞴羽口 | 先端 | 土製品 | － | ヘラナデ | ヘラナデ | 外:暗灰<br>内:赤 | ○ | | ○ | ○ | | | | 普通 | 小礫含む,外面鉄滓付着 |
| | 949 | J30 | Ⅱ | 25131 | 鞴羽口 | 先端付近 | 土製品 | 孔径:3.0程度 | ヘラナデ | ヘラナデ | 外:暗灰<br>内:橙～赤黒 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 普通 | 小礫含む,外面鉄滓付着 |
| | 950 | I30 | Ⅱ | 26660他 | 鞴羽口 | 先端 | 土製品 | 孔径:2.8以上 | ヘラナデ | ヘラナデ | 外:灰白～暗灰<br>内:橙～赤黒 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 普通 | 小礫含む,外面鉄滓付着 |
| | 951 | F31 | Ⅱb | 37098 | 鞴羽口 | 先端 | 土製品 | － | ヘラナデ | ヘラナデ | 外:灰<br>内:淡赤橙 | | ○ | | ○ | ○ | | | 普通 | 小礫含む,外面一部鉄滓付着 |

## 第19表　石器・石製品観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 石材 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 125 | 952 | I30・31 | Ⅱ | 24721・28218 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | － | － | 179.4 | 口縁～鍔 |
| | 953 | I30 | Ⅱ | 24697 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | － | － | 105.0 | 鍔 |
| | 954 | F32 | Ⅱa | 11404・28360 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | － | － | 112.4 | 鍔 |
| | 955 | E31 | Ⅱa | 16303 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | － | － | 140.8 | 口縁～鍔 |
| | 956 | I31 | Ⅱ | 28280 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | － | － | 36.4 | 口縁 |
| | 957 | J29 | Ⅱ | 25114 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | － | － | 87.8 | 口縁～鍔 |
| | 958 | F30 | Ⅱ | 37389 | 滑石製石鍋 | 滑石 | 25.0 | － | － | 61.6 | 口縁 |
| | 959 | F31 | Ⅱ | 36790・39243 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | － | － | 34.8 | 口縁・穿孔途中 |
| | 960 | G31 | Ⅱ | 26494 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | － | － | 60.7 | 口縁 |
| | 961 | F26 | Ⅰb | 18371 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | － | － | 76.2 | 胴部 |
| | 962 | J28 | Ⅱ | 25223 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | (16.5) | － | 101.6 | 底部 |
| | 963 | F31 | Ⅱ | 37153 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | (17.4) | － | 69.1 | 底部 |
| | 964 | F31 | Ⅱ | 27515 | 滑石製石鍋 | 滑石 | － | － | － | 66.5 | 底部 |
| 126 | 965 | G31 | Ⅱ | 28598 | 滑石製石製品 | 滑石 | 9.7 | 6.3 | 3.0 | 181.7 | |
| | 966 | H38 | Ⅱa | 13657 | 滑石製石製品 | 滑石 | 4.2 | 3.9 | 1.6 | 21.2 | |
| | 967 | G32 | Ⅱb | 39356 | 滑石製石製品 | 滑石 | 1.9 | 1.5 | 1.3 | 4.1 | バレン状 |
| | 968 | F31 | Ⅱb | 39444 | 滑石製石製品 | 滑石 | 2.9 | 2.2 | 1.0 | 4.6 | バレン状 |
| | 969 | G30 | Ⅱ | 23949 | 滑石製石製品 | 滑石 | 3.0 | 1.9 | 1.2 | 6.7 | |
| | 970 | I36 | Ⅰ | 2014・296 | 滑石製石製品 | 滑石 | 9.9 | 8.4 | 2.4 | 278.8 | |
| | 971 | G31 | Ⅱ | 28075 | 滑石製石製品 | 滑石 | 6.9 | 2.7 | 1.7 | 31.4 | 穿孔 |
| | 972 | J31 | Ⅰ | － | 滑石製石製品 | 滑石 | 3.4 | 4.5 | 1.1 | 20.7 | 穿孔 |
| | 973 | F31 | Ⅱb | 39245 | 滑石製石製品 | 滑石 | 4.4 | 6.2 | 1.9 | 50.4 | 穿孔 |
| 127 | 974 | F31 | Ⅱb | 36757 | 滑石製石製品 | 滑石 | 5.0 | 4.9 | 2.6 | 108.5 | |
| | 975 | H29 | Ⅱ | 26422 | 滑石製石製品 | 滑石 | 3.5 | 4.8 | 1.8 | 46.6 | |
| | 976 | F31 | Ⅱb | 36744 | 滑石製石製品 | 滑石 | 7.4 | 4.9 | 1.5 | 64.8 | |
| | 977 | J28 | Ⅱ | 23544 | 滑石製石製品 | 滑石 | 7.0 | 4.8 | 1.9 | 81.4 | |
| | 978 | G30 | Ⅱ | 24930 | 滑石製石製品 | 滑石 | 6.8 | 2.1 | 1.8 | 34.2 | |
| | 979 | J29 | Ⅱ | － | 滑石製石製品 | 滑石 | 5.1 | 1.9 | 1.6 | 18.0 | |
| | 980 | F30 | Ⅱ | 27468 | 滑石製石製品 | 滑石 | 3.5 | 2.2 | 1.9 | 14.3 | |
| | 981 | H43 | Ⅱa | － | 滑石製石製品 | 滑石 | 2.3 | 2.0 | 1.0 | 7.9 | |
| | 982 | D32 | Ⅱ | － | 滑石製石製品 | 滑石 | 3.1 | 1.4 | 0.7 | 3.3 | |
| | 983 | J29 | Ⅱ | － | 滑石製石製品 | 滑石 | 3.2 | 1.8 | 0.8 | 6.9 | |
| | 984 | E32 | Ⅰ | 18359 | 滑石製石製品 | 滑石 | 4.8 | 8.1 | 1.7 | 88.0 | 線刻画 |
| 128 | 985 | G26 | Ⅱ | 19251 | 砥石 | 砂岩 | (14.3) | (11.4) | (9.4) | 2,390.8 | |
| | 986 | D20 | Ⅱ | 19789 | 砥石 | 砂岩 | (8.6) | 8.7 | 7.9 | 781.4 | |
| | 987 | J28 | Ⅱ | 23849 | 砥石 | 砂岩 | (12.3) | (6.4) | 3.9 | 520.6 | |
| 129 | 988 | F29,G32,H27 | Ⅰ,Ⅱ,Ⅱb | 23501・18506・36930 | 砥石 | 砂岩 | (11.5) | (5.6) | (5.0) | 526.7 | |
| | 989 | H37 | Ⅱa | 13538 | 砥石 | 砂岩 | (8.1) | 4.3 | 4.7 | 277.2 | |
| | 990 | J28 | Ⅱ | 23575 | 砥石 | 流紋岩 | (3.8) | (6.1) | (5.0) | 145.5 | |
| | 991 | J32 | Ⅰ | － | 砥石 | 流紋岩 | (5.80) | 3.10 | (3.70) | 78.7 | |
| | 992 | G24 | Ⅰ | － | 砥石 | 流紋岩 | 7.50 | 7.50 | 2.90 | 251.6 | 天草 |
| | 993 | F27 | Ⅰ | － | 砥石 | 流紋岩 | (7.5) | (7.20) | (3.90) | 247.8 | 天草 |
| | 994 | L35 | Ⅰ | 31585 | 砥石 | 流紋岩 | (10.60) | (7.00) | (2.50) | 224.8 | 天草 |
| | 995 | K29 | Ⅱ | 23810 | 砥石 | 砂岩 | (5.6) | 8.30 | (2.2) | 150.4 | |
| | 996 | D28 | Ⅱb | 17175 | 砥石 | 砂岩 | (8.3) | (6.3) | 2.2 | 159.1 | |
| | 997 | E27 | Ⅰ | 18094 | 砥石 | 凝灰岩 | 6.9 | 7.5 | 2.0 | 92.1 | |
| | 998 | G30 | Ⅱ | 24896 | 砥石 | 砂岩 | (5.1) | 4.2 | 1.1 | 27.0 | |
| 130 | 999 | E32 | Ⅱa | 11418 | 砥石 | 凝灰岩 | (5.2) | 3.2 | 1.2 | 21.6 | |
| | 1000 | H30 | Ⅱ | － | 砥石 | 砂岩 | (4.1) | (4.2) | (1.1) | 28.1 | |
| | 1001 | D20 | Ⅱ | 17967 | 砥石 | 頁岩 | (4.1) | 3.1 | (0.9) | 17.5 | |
| | 1002 | G43 | Ⅱa | 9094 | 砥石 | 砂岩 | (4.5) | 2.9 | 0.8 | 20.1 | |
| | 1003 | H30 | Ⅱ | 24047 | 砥石 | 砂岩 | (5.2) | 3.5 | 0.9 | 28.3 | |
| | 1004 | G30 | Ⅱ | 26541 | 砥石 | 砂岩 | (5.9) | (3.9) | (2.0) | 64.1 | |
| | 1005 | G32 | Ⅱb | 36902 | 砥石 | 砂岩 | (6.40) | 3.30 | 1.20 | 39.1 | |
| | 1006 | J28 | Ⅰ | － | 砥石 | 砂岩 | (4.50) | (2.80) | (1.20) | 24.5 | |
| | 1007 | K27 | Ⅱ | 23835 | 手水鉢 | 凝灰岩 | 15.7 | 9.4 | 4.3 | 660.0 | |
| | 1008 | D29 | Ⅱ | 17142 | 軽石製品 | 軽石 | 17.6 | 10.5 | 5.9 | 229.0 | |
| | 1009 | H27 | Ⅰ | 17893 | 軽石製品 | 軽石 | 12.0 | 4.8 | 2.5 | 51.7 | |
| | 1010 | G31 | Ⅱ | 27555 | 軽石製品 | 軽石 | 7.1 | 4.6 | 2.6 | 31.4 | |
| | 1011 | G31 | Ⅱ | 27637 | 軽石製品 | 軽石 | 6.9 | 5.1 | 2.8 | 36.4 | |

## 第 20 表　鉄製品観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 132 | 1012 | H21 | Ⅱ | 21023 | 不明 | 刃先 | (4.8) | 2.3 | 2.5 | 7.2 | 薄い作り　背部は鎌の背のように外反 |
| | 1013 | I29 | Ⅱa | 29403 | 刀子 | 柄～刃部 | 9.8<br>柄1.8 | 1.1<br>柄0.7 | | 24.3 | 先端欠損 |
| | 1014 | K37 | Ⅲa | 23234 | 刀子 | 刃 | (5.3) | 1.4 | 0.2 | 8.5 | |
| | 1015 | K28 | Ⅱ | 24398 | 刀子 | 刃 | (4.8) | 1.8 | 0.3 | 4.5 | |
| | 1016 | I29 | Ⅱ | 24939 | 小刀 | 刃先欠損 | (13.7)<br>柄3.5 | 2.5<br>柄1.2～1.5 | 0.4<br>柄0.35 | 38.2 | |
| | 1017 | L28 | Ⅱ | 33912 | 鏃 | 柄部一部欠損 | (5.5)<br>柄0.3 | (2.5)<br>柄0.8 | - | 44.5 | 想定最大幅3.3cm長さ5.5cm以上 |
| | 1018 | H29 | Ⅱ | 23339 | 鏃 | 完形 | 4.3 | 1.6 | 0.5 | 7.2 | |
| | 1019 | E31 | Ⅱb | 16181 | 鏃 | 完形 | (6.55) | 1.3 | 0.5<br>鍔0.9<br>茎0.3 | 8.2 | |
| | 1020 | H43 | Ⅱb | 14179 | 鏃 | 完形 | 8.0 | 0.9 | 0.4、茎0.6 | 12.4 | |
| | 1021 | H30 | Ⅱ | 26569 | 鏃 | 先端欠損 | (8.0) | 0.5 | 0.8 | 9.6 | |
| | 1022 | H30 | Ⅱ | 26569 | 鏃 | 先端欠損 | (3.9) | 0.7 | 0.6 | | |
| | 1023 | H30 | Ⅱ | 26590 | 鏃 | 基部欠損 | 8.9 | 0.8 | 0.8 | 10.4 | 基部は径0.3cm |
| | 1024 | E21 | Ⅱ | 19587 | 鏃 | 茎部 | (6.7) | 0.5 | 0.5 | 4.3 | 基部は径0.3cm |
| | 1025 | G22 | Ⅱa | 18616 | 棒状鉄製品 | 柄部？（折れ） | 4.5 | 0.5 | 0.5 | 3.9 | |
| | 1026 | G29 | Ⅱ | 24581 | 棒状鉄製品 | | 4.4 | 0.6 | 0.3 | 3.1 | |
| | 1027 | J28 | Ⅱ | 23549 | 環 | 完形 | 外径約4.0 | 内径2.0～2.2 | 0.8 | 14.3 | 内外ともに錆進行 |
| | 1028 | I29 | Ⅱ | 24678 | 板状鉄製品 | | 3.0～7.0 | 6 | 0.9 | 16.1 | |
| | 1029 | F41 | Ⅱa | 9878 | 鉄製品 | 茎わずかに欠損 | 16.6 | 0.8 | 0.8 | 38.6 | 刃部幅0.6cm厚さ0.5cm茎部幅0.5cm厚さ0.5cm |
| | 1030 | I30 | Ⅱ | 26668 | 釘？ | | 4.0 | 0.6 | 0.8 | 2.9 | 基部は径0.4cm |
| | 1031 | D21 | Ⅱ | 19767 | 不明 | | 2.7 | 1.8 | 0.7 | 6.2 | |
| | 1032 | E31 | Ⅱa | 16309 | 鉄製品 | 完形 | 3.9 | 1 | 1.1 | 7.9 | くさび状 |
| | 1033 | I27 | Ⅰ | 18827 | 椀型滓 | 完形 | 直径9.5×10.0 | | 4 | 478.9 | |

## 第 21 表　渡来銭観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区(遺構) | 層 | 取上番号 | 器種 | 分類 | 時期 | 初鋳年 | 書体 | 背面 | 銭径(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 133 | 1034 | J35 | Ⅲa | - | 渡来銭 | 不明 | - | - | - | - | | | | |
| | 1035 | J35 | Ⅲa | - | 渡来銭 | 不明 | - | - | - | - | | | | |
| | 1036 | J35 | Ⅲa | - | 渡来銭 | 不明 | - | - | - | - | | | | 欠損 |
| | 1037 | I29 | Ⅱb | 25405 | 渡来銭 | 開元通寶 | 唐 | 960年 | 真書 | - | 24.2 | 1.1 | 2.2 | |
| | 1038 | I29 | Ⅱb | 25406 | 渡来銭 | 至道元寶 | 北宋 | 995年 | 行書 | - | 24.9 | 1.3 | 1.8 | 1/8欠損 |
| | 1039 | I29 | Ⅱb | 25408 | 渡来銭 | 嘉祐通寶 | 北宋 | 1056年 | 真書 | - | 25.1 | 1.0 | 1.5 | |
| | 1040 | I29 | Ⅱb | 25407 | 渡来銭 | 元祐通寶 | 北宋 | 1086年 | 篆書 | - | 24.9 | 1.1 | 2.3 | |
| | 1041 | I29 | Ⅱb | 25409 | 渡来銭 | 元豊通寶 | | 1078年 | 篆書 | - | 24.0 | 1.2 | 2.5 | 朱付着 |
| | 1042 | (SD33) | - | 29791 | 渡来銭 | 元祐通寶 | 北宋 | 1086年 | 真書 | - | (22.9) | 1.1 | 1.3 | 裏面木片？付着 |
| | 1043 | F25 | Ⅰ | 18024 | 渡来銭 | 大観通寶 | | 1107年 | 真書 | - | | | | |

## 第 22 表　近世遺構出土遺物観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 分類 | 法量(cm) | 調整 | 胎土色調 | 釉の色調 | 施釉範囲 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 137 | 1044 | SD1 | ① | 24479 | 甕か壺 | 胴～底 | 近世陶器 | 底径:(22.0) | ろくろ | 明赤褐 | オリーブ黒 | － | 良好 | 薩摩(苗代川系) |
| 139 | 1045 | SD4 | ① | － | 坏 | 底部 | 土師器 | 底径:(7.6) | 横ナデ | 淡黄 | － | － | 普通 | |
| | 1046 | SD4 | ① | － | 鉢 | 口縁 | 東播系 | － | ヘラ横ナデ | 灰白,<br>外口縁:褐灰 | － | － | 普通 | 軟質 |
| | 1047 | SD4･F24 | Ⅰ | － | 灯明皿 | 口縁 | 近世陶器 | 口径:(11.2) | 横ナデ | 灰･灰赤 | 黄褐 | － | 良好 | 薩摩(龍門司系) |
| | 1048 | F24･G25 | Ⅰ | 19333<br>他 | 皿 | 胴～高台 | 青磁 | 底径:(7.2) | － | 灰黄,高台付近:赤橙 | オリーブ灰 | 外底中央釉剥 | 良好 | 龍泉窯,厚い釉,内外貫入<br>青皿2類 |
| | 1049 | SD4･F24 | Ⅰ | － | 碗 | 底部 | 青磁 | 底径:(6.2) | － | 灰白 | 明緑灰<br>釉:透明 | － | 良好 | 青碗Ⅲ類 |
| | 1050 | SD5 | － | － | 皿 | 口縁 | 青磁 | － | － | 灰白 | オリーブ灰 | － | 良好 | 龍泉窯 |
| | 1051 | SD4･F24 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 白磁 | － | － | 灰白 | 灰白<br>釉:透明 | － | 良好 | |
| 144 | 1073 | SK4･J33 | ①･<br>Ⅰ | 22954<br>他 | 土瓶 | 注ぎ口 | 陶器 | － | － | 褐 | オリーブ黒 | 内面接合付近無釉 | 良好 | 薩摩(苗代川系)<br>同一個体片1点 |
| | 1074 | SK4･J26 | ①･<br>Ⅱ | 22953<br>他 | 摺鉢 | 口縁～底 | 陶器 | 底径:(12.0) | － | にぶい赤褐 | オリーブ黒 | 内面上部無釉 | 良好 | 薩摩(苗代川系)<br>内面･底部目跡 |
| 146 | 1089 | P1 | － | 2398 | 蓋 | 受欠損 | 近世陶器 | 庇径:(9.2) | ナデ | にぶい橙 | 外:灰<br>内:黄灰 | 外面施釉 | 良好 | 薩摩(龍門司) |

## 第 23 表　近世遺構出土銭観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 遺構番号 | 層位 | 取上番号 | 器種 | 分類 | | 背面 | 銭径(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(cm) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 141 | 1053 | SK162 | － | 23865 | 古銭 | 寛永通寶 | 古 | － | 25.3 | 1.2 | 2.5 | |
| | 1054 | | － | 23865 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 24.7 | 1.3 | 3.3 | |
| | 1055 | | － | 23865 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 23.3 | 1.3 | 2.8 | |
| | 1056 | | － | 23865 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | 文 | 25.3 | 1.5 | 4.0 | |
| | 1057 | | － | 23865 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 23.8 | 1.1 | 2.8 | |
| | 1058 | | － | 23865 | 古銭 | 寛永通寶 | 新？ | － | 24.7 | 1.2 | 2.5 | |
| 142 | 1059 | SK163 | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新？ | － | 22.3 | 1.0 | 1.5 | |
| | 1060 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | 文 | 25.2 | 1.5 | 3.1 | |
| | 1061 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | 文 | 25.2 | 1.6 | 3.6 | 繊維付着 |
| | 1062 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 23.4 | 1.1 | 2.4 | |
| | 1063 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新？ | － | 23.7 | 1.3 | 2.9 | |
| | 1064 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 22.9 | 1.3 | 1.6 | 繊維付着 |
| | 1065 | | － | 23864 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 24.3 | 1.4 | 2.6 | |
| 143 | 1066 | SK164 | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 古 | － | 24.9 | 1.1 | 3.1 | |
| | 1067 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 古 | － | 24.2 | 1.3 | 3.7 | |
| | 1068 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 23.2 | 1.0 | 2.6 | |
| | 1069 | | － | 23866 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 24.6 | 1.5 | 3.2 | |
| | 1070 | | － | 23866 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 24.3 | 1.1 | 2.4 | |
| | 1071 | | － | 23866 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 23.3 | 1.1 | 2.5 | |
| | 1072 | | － | 23866 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 23.7 | 1.1 | 2.6 | |
| 144 | 1075 | SK165 | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 古 | － | 25.2 | 1.3 | 3.1 | |
| | 1076 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 23.6 | 1.3 | 3.3 | |
| | 1077 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | 文 | 25.0 | 1.6 | 4.2 | |
| | 1078 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 23.6 | 1.3 | 2.5 | |
| | 1079 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | 元 | 22.1 | 1.5 | 2.7 | |
| | 1080 | | － | 23862 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 23.3 | 1.2 | 2.9 | |
| | 1081 | | － | 23862 | 古銭 | 寛永通寶 | 古？ | － | 23.5 | 1.1 | 2.2 | |
| 145 | 1082 | SK167 | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 古 | － | 24.4 | 1.2 | 3.1 | |
| | 1083 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新？ | － | 22.3 | 1.0 | 1.9 | |
| | 1084 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 23.2 | 1.3 | 2.5 | |
| | 1085 | | － | 23863 | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | － | 24.2 | 1.5 | 3.6 | |
| | 1086 | | － | 23863 | 古銭 | 寛永通寶 | 新？ | － | 22.5 | 1.3 | 2.5 | |
| | 1087 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 新 | 文 | 25.1 | 1.2 | 3.5 | |
| | 1088 | | － | － | 古銭 | 寛永通寶 | 古 | － | 23.9 | 1.1 | 2.8 | |

## 第 24 表　近世出土遺物観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 分類 | 法量(cm) | 文様 | 胎土色調 | 釉薬色調 | 施釉 | 産地 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 147 | 1090 | G43 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 磁器 | － | 内:圏線,不明文 | 白 | 青 | | 肥前系 | 良好 | 青磁釉,18C中頃 |
| | 1091 | I33 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 磁器 | － | 外:不明文 | 灰白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C中頃 |
| | 1092 | J28 | Ⅰ | － | 碗 | 底 | 磁器 | 底径:(4.2) | 見込み:「長命富貴,金玉満堂」,帯状文<br>高台:圏線2条<br>高台内:「長命富貴」 | 白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C中頃 |
| | 1093 | H32 | Ⅰ | 29654 | 碗 | 口縁～胴 | 磁器 | 口径:(10.0) | 外:草花文 | 灰白 | 透明 | | 肥前系(波佐見) | 良好 | 18C中頃 |
| | 1094 | G41 | Ⅰ | － | 碗 | 口～胴下 | 磁器 | 口径:(11.0) | 内:圏線<br>外:桜閣山水文 | 灰白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C後半 |
| | 1095 | G33 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 磁器 | － | 内:圏線 | 白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C後半 |
| | 1096 | G25 | Ⅴ | － | 碗 | 口縁 | 磁器 | － | | 黄白 | 透明 | | 薩摩 | 良好 | 18C後半 |
| | 1097 | F43 | Ⅱa | － | 筒型碗 | 口縁 | 磁器 | － | 内:四方襷文 | 黄白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C後半 |
| | 1098 | I33 | Ⅰ | － | 筒型碗 | 口～胴下 | 磁器 | 口径:(8.0) | 内:四方襷文<br>外:圏線,山水文 | 白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C後半 |
| | 1099 | D24 | Ⅱ | － | 筒型碗 | 口～胴下 | 磁器 | 口径:(8.0) | 外:草花文 | 白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C後半 |
| | 1100 | E43 | Ⅱa | 9849 | 筒型碗 | 胴中央 | 磁器 | － | 腰:圏線2条 | 灰黄 | 灰白 | 外面釉切4か所 | 肥前系 | 良好 | 18C後半 |
| | 1101 | D19 | Ⅰ | － | 筒型碗 | 底 | 磁器 | 底径:(5.2) | 内外:圏線 | 灰 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C後半 |
| | 1102 | F24 | Ⅰ | － | 筒型碗 | 底 | 磁器 | 底径:(3.9) | 外:圏線 | 灰白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C後半 |
| 148 | 1103 | J32 | Ⅰ | － | 端反碗 | 底 | 磁器 | 底径:(4.8) | | 灰 | 透明 | 見込み<br>蛇の目釉剥 | 肥前系 | 良好 | 19C初～前半 |
| | 1104 | J37 | Ⅰ | － | 端反碗 | 底 | 磁器 | 底径:(4.8) | 見込み:圏線,岩波文 | 白 | 透明 | | 薩摩 | 良好 | 19C初～前半 |
| | 1105 | D27,E43 | Ⅰ,Ⅱa | － | 端反碗 | 底 | 磁器 | 底径:(3.8) | | 白 | 透明 | 見込み<br>蛇の目釉剥 | 薩摩 | 良好 | 19C初～前半 |
| | 1106 | F41 | Ⅰ | － | 端反碗 | 底 | 磁器 | 底径:4.6 | | 白 | 透明 | 見込み<br>蛇の目釉剥 | 薩摩 | 良好 | 19C初～前半 |
| | 1107 | G25 | Ⅰ | 19364 | 端反碗 | ほぼ完形 | 磁器 | 口径:10.6<br>底径:3.8<br>器高:5.4 | 外:山水文 | 白 | 透明 | 見込み<br>蛇の目釉剥 | 薩摩 | 良好 | 19C初～前半<br>見込み砂目 |
| | 1108 | H35 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁～胴下 | 磁器 | 口径:(7.0) | － | 白 | 透明 | | 薩摩 | 良好 | 19C初～前半 |
| | 1109 | C27･28 | Ⅰ | － | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:4.6 | － | 黄褐･暗赤褐 | 黄みを含む黒 | 分厚い釉,胴下～高台無釉 | 肥前 | 良好 | 16C末～17C初 |
| | 1110 | I28 | Ⅰ | － | 碗 | 底 | 陶器 | － | － | 黄灰 | 外:銅緑<br>内:透明 | 底面無釉 | 肥前系(内野山系) | 良好 | 17C後半～18C前半 |
| | 1111 | C12 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 陶器 | － | － | 淡黄 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | |
| | 1112 | H31 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 陶器 | － | － | 淡黄 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 皿の可能性 |
| 149 | 1113 | D27 | Ⅰ | － | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:4.2 | － | 浅黄 | 赤黒 | 畳付無釉,見込み蛇の目釉剥 | 薩摩(龍門司) | 良好 | |
| | 1114 | J26 | Ⅰ | 17937他 | 碗 | ほぼ完形 | 陶器 | 口径:11.5<br>底径:4.5<br>器高:6.0 | － | にぶい赤褐 | 暗赤灰 | 畳付無釉,見込み蛇の目釉剥 | 薩摩(龍門司) | 良好 | |
| | 1115 | J26 | Ⅰ | 17936他 | 碗 | ほぼ完形 | 陶器 | 口径:10.9<br>底径:4.4<br>器高:5.3 | － | 黄灰 | 極暗赤褐 | 部分的に釉切,見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | |
| | 1116 | G24 | Ⅲa | － | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:5.4 | － | 明赤褐 | 赤黒 | 見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | |
| | 1117 | F28 | Ⅱ | 19356 | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:(4.4) | － | 明褐 | 黒褐 | 見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | |
| | 1118 | J26 | Ⅱ | － | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:4.6 | － | 橙 | 暗オリーブ灰 | 見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | |
| | 1119 | I26 | Ⅱa | － | 碗 | 底～高台 | 陶器 | 底径:5.0 | － | 明赤褐 | 黒褐 | 見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | |
| | 1120 | H27 | Ⅰ | － | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:5.2 | － | にぶい赤褐 | オリーブ褐 | 見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | |
| | 1121 | G33 | Ⅰ | － | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:(5.0) | － | にぶい褐 | 灰赤 | 見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | |
| | 1122 | J26 | Ⅱ | － | 碗 | 完形 | 陶器 | 口径:11.6<br>底径:5.0<br>器高:5.3 | － | 暗赤褐 | 透明<br>白化粧:灰黄 | 見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 外面上部～内面白化粧土 |
| | 1123 | J26 | 撹乱 | － | 碗 | 口縁～胴 | 陶器 | 口径:11.8 | － | にぶい赤褐 | 透明<br>白化粧:灰白 | 見込み<br>蛇の目釉剥 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 外面上部～内面白化粧土 |
| | 1124 | H27 | Ⅰ | － | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:5.1 | － | 暗灰黄 | 透明<br>白化粧:灰白 | 釉垂数か所,高台内無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 外面上部～内面白化粧土,高台幅が2.5㎜～6㎜と広狭顕著 |
| | 1125 | L32 | Ⅰ | － | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:4.2 | － | 灰 | 透明<br>白化粧:灰オリーブ | 胴下～高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 外面上部～内面白化粧土,見込み砂目4か所 |
| | 1126 | H33 | Ⅰ | － | 小碗 | 口縁～胴 | 陶器 | 口径:10.0 | － | 灰 | 透明<br>白化粧:灰白 | | 薩摩(龍門司) | 良好 | 外面上部～内面白化粧土 |
| | 1127 | E27 | Ⅰ | 17913 | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:4.7 | － | にぶい赤褐 | 透明<br>白化粧:灰白 | 内面釉切2か所,見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 外面上部～内面白化粧土 |
| | 1128 | L27 | Ⅰ | － | 碗 | 底～高台 | 陶器 | 底径:4.6 | － | にぶい赤褐 | 透明<br>白化粧:淡黄 | 見込み蛇の目釉剥,高台内無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 外面上部～内面白化粧土 |

## 第 24 表　近世出土遺物観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 分類 | 法量(cm) | 文様 | 胎土色調 | 釉薬色調 | 施釉 | 産地 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 149 | 1129 | J37 | Ⅰ | － | 碗 | 底～高台 | 陶器 | 底径:5.0 | － | 黄灰 | 透明 白化粧:灰オリーブ | 見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 外面上部～内面白化粧土,畳付と見込み砂目 |
| | 1130 | I26 | Ⅰ | － | 碗 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:4.4 | － | にぶい橙 | 透明 白化粧:灰白 | 見込み蛇の目釉剥,高台内無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 外面上部～内面白化粧土,貫入 |
| | 1131 | J37 | Ⅲa | 23133 | 碗 | 底～高台 | 陶器 | 底径:(4.7) | － | にぶい赤褐 | 外:褐 内:明黄褐 | 見込み蛇の目釉剥,畳付～高台内無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 見込み砂目 |
| | 1132 | J33 | Ⅰ | － | 碗 | 底～高台 | 陶器 | 底径:4.8 | － | 灰白 | 明オリーブ灰 | 見込み蛇の目釉剥,畳付無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 高台内砂粒付着 |
| | 1133 | D24 | Ⅱ | － | 碗 | 口縁 | 陶器 | 口径:(12.0) | － | にぶい赤褐 | 黒褐 | | 薩摩(龍門司) | 良好 | 鉄釉 |
| | 1134 | E･F24 | Ⅰ,Ⅱ | － | 碗 | 口縁 | 陶器 | 口径:(13.1) | － | 暗赤褐 | 黒褐 | | 薩摩(龍門司) | 良好 | 鉄釉 |
| | 1135 | F40 | Ⅰa | － | 碗 | 口縁 | 陶器 | 口径:(12.8) | － | 明黄褐 | 黒褐 | | 薩摩(龍門司) | 良好 | 鉄釉 |
| | 1136 | F33 | Ⅰ | － | 碗 | 口縁 | 陶器 | － | － | 橙 | 黒褐 | | 薩摩(龍門司) | 良好 | 鉄釉 |
| | 1137 | J37 | Ⅱb | － | 碗 | 口縁 | 陶器 | － | － | 橙 | 黒褐 | | 薩摩(龍門司) | 良好 | 鉄釉 |
| | 1138 | E21 | Ⅱ | － | 碗 | 口縁 | 陶器 | － | － | 褐灰 | 黒褐 | | 薩摩(龍門司) | 良好 | 鉄釉 |
| 150 | 1139 | J22 | Ⅰ | － | 坏 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:(3.4) | － | 灰白 | 浅黄 | 胴下半～高台無釉 | 不明 | 良好 | 貫入 |
| | 1140 | E31 | Ⅱ | － | 坏 | 底～高台 | 陶器 | 底径:(5.0) | | 黄白 | 白濁 | 畳付～高台内無釉 | 不明 | 良好 | |
| | 1141 | H34 | Ⅰ | － | 坏 | 底～高台 | 陶器 | 底径:(3.8) | － | 灰 | 明オリーブ灰 | 底部無釉 | 不明 | 良好 | 青磁釉,内面トチン痕2か所 |
| | 1142 | H35 | Ⅰ | － | 小坏 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:3.0 | | 淡赤 | 灰白 | | 肥前系 | 良好 | |
| | 1143 | H34 | Ⅰ | － | 小坏 | 胴～高台 | 陶器 | 底径:(3.1) | － | 黄白 | 透明 | | 不明 | 良好 | 目跡1か所 |
| | 1144 | I25 | Ⅰ | 18207他 | 碗 | ほぼ完形 | 陶器 | 口径:(8.6) 底径:4.6 器高:6.2 | 外:楓文 | にぶい黄橙 | 透明 白化粧:灰白 | 畳付～高台内無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 内面上～外面白化粧土,鉢状 |
| 151 | 1145 | L32 | Ⅰ | － | 皿 | 口縁 | 磁器 | － | 内:菊唐草文 | 白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C,波佐見 |
| | 1146 | D23 | Ⅱ | － | 皿 | 口縁～胴 | 磁器 | 口径:(12.0) | 内:菊唐草文,圏線 外:唐草文,圏線 | 白 | 透明 | 見込み 蛇の目釉剥 | 肥前系 | 良好 | 18C,波佐見 |
| | 1147 | F30 | Ⅰ | | 皿 | 底 | 磁器 | 底径:(7.0) | 内:草花状文 | 白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C |
| | 1148 | J28 | Ⅰ | － | 皿 | 底 | 磁器 | 底径:(8.0) | 内:草花状文 外:圏線 | 白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C |
| | 1149 | H44 | Ⅱ | － | 皿 | 底 | 磁器 | 底径:(8.0) | 内:草花文 | 白 | 透明 | 見込み 蛇の目釉剥 | 肥前系 | 良好 | 18C |
| | 1150 | H37 | Ⅰ | | 皿 | 底 | 磁器 | 底径:(11.0) | | 白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C |
| | 1151 | L35 | Ⅰ | － | 皿 | 底 | 磁器 | 底径:(7.8) | 内:十字四方襷文 外:圏線 | 白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | 18C |
| | 1152 | I37 | Ⅲa | 29339 | 皿 | 底 | 磁器 | 底径:(4.6) | | 灰白 | 透明 | 見込み 蛇の目釉剥 | 肥前系 | 良好 | |
| | 1153 | G42 | Ⅰ | － | 皿 | 底 | 磁器 | 底径:(6.0) | 内:圏線 | 白 | 透明 | 見込み 蛇の目釉剥 | 肥前系 | 良好 | |
| | 1154 | J28,K28 | Ⅰ | － | 皿 | 底 | 陶器 | 底径:8.0 | | 灰白 | 透明 | 底部無釉 | 肥前系(唐津か) | 良好 | 16C末～17C初 |
| | 1155 | H32 | Ⅰ | 29652 | 皿 | 底 | 陶器 | 底径:4.0 | － | 灰 | 灰オリーブ,一部黒 | 底部無釉 | 肥前系(唐津) | 良好 | 16C末～17C初 |
| | 1156 | F28 | Ⅰ | － | 碗 | 底 | 陶器 | 底径:4.2 | 三島手 | 赤褐 | 灰～灰白 | 畳付無釉 | 肥前系 | 良好 | 17C初～前半,見込みトチン痕3か所 |
| | 1157 | G33 | Ⅰ | － | 碗 | 底 | 陶器 | 底径:(5.0) | 三島手 | 赤褐 | 外:暗赤褐 内:暗赤褐・灰白 | | 肥前系 | 良好 | 見込み2か所残存,畳付に砂目 |
| | 1158 | F31 | Ⅰ | － | 皿 | 口縁 | 陶器 | － | | 暗赤褐 | 外:黒褐 内:灰白・黒褐 | | 肥前系 | 良好 | |
| | 1159 | J27 | Ⅲa | － | 碗 | 口縁 | 陶器 | － | － | 灰 | 外:透明 内:銅緑 | | 肥前系(内野山系) | 良好 | |
| | 1160 | I26 | Ⅰ | － | 皿 | 底 | 陶器 | 底径:4.5 | － | 黄灰 | 外:浅黄 内:銅緑 | 見込み蛇の目釉剥,胴下～高台無釉 | 肥前系(内野山系) | 良好 | 高台に3～4か所砂目,見込みトチン痕4か所 |
| | 1161 | I26 | Ⅰ | － | 皿 | 底 | 陶器 | 底径:4.6 | － | 黄灰 | 外:浅黄 内:銅緑 | 見込み蛇の目釉剥,高台無釉 | 肥前系(内野山系) | 良好 | 見込みと高台に砂目 |
| | 1162 | G33 | Ⅰ | － | 皿 | 口縁 | 陶器 | － | － | 黄褐 | 外:暗黄灰～黄褐 内:黄褐・灰白 | | 肥前系 | 良好 | |
| | 1163 | J41 | Ⅰa | － | 皿 | 口縁 | 陶器 | － | － | 灰白 | 黒褐 | | 肥前系 | 良好 | 鉄釉 |
| 152 | 1164 | K37 | Ⅱb | － | 蓋 | 蓋 | 磁器 | － | 内:四方襷文 | 灰白 | 外:明緑灰 内:透明 | | 肥前系 | 良好 | 青磁釉 |
| | 1165 | I33 | Ⅰ | － | 蓋 | 蓋 | 磁器 | － | 外:不明文 | 白 | 透明 | | 肥前系 | 良好 | |
| | 1166 | H27 | Ⅰ | － | 蓋 | 蓋 | 磁器 | 口径:(10.0) 器高:(2.8) 庇径:(12.8) | | 黄 | 外:灰白 | | 肥前系 | 良好 | |
| | 1167 | I41,J42 | Ⅰa,Ⅱa | － | 土瓶蓋 | 蓋 | 陶器 | 庇径:(6.6) | － | にぶい赤褐 | 外:黒褐 | 上面施釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1168 | F23 | Ⅰ | － | 土瓶蓋 | 蓋 | 陶器 | 庇径:(8.8) | － | 灰 | 外:灰 | 上面施釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1169 | E28,F27･28 | Ⅰ,Ⅱ | 18551他 | 土瓶 | 口縁～底 | 陶器 | 口径:(6.0) 底径:3.6 | － | 褐 | 黒褐 | 上面施釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 胴下～底部はスス付着で黒褐色を呈する |

## 第 24 表　近世出土遺物観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 分類 | 法量(cm) | 文様 | 胎土色調 | 釉薬色調 | 施釉 | 産地 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 152 | 1170 | H38 | I | － | 土瓶 | 口縁 | 陶器 | 口径:(7.0) | － | にぶい赤褐 | 外:極暗褐<br>内:下部灰白 | 口唇部釉剥,内面上部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1171 | K37 | I | － | 土瓶 | 口縁 | 陶器 | 口径:(6.0) | － | にぶい黄褐 | 暗褐 | 口唇～内面上部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1172 | J27 | I | － | 土瓶 | 胴 | 陶器 | － | － | 赤褐 | 黒褐 | 外面胴下部,内面胴上部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉 |
| | 1173 | C51 | I | － | 土瓶 | 胴 | 陶器 | － | － | にぶい褐 | 灰オリーブ | 腰部から無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 厚くスス付着 |
| | 1174 | J41 | Ⅰa | － | 土瓶 | 耳 | 陶器 | － | － | にぶい褐 | 黒褐 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1175 | H32<br>J33 | I | － | 土瓶 | 底 | 陶器 | 底径:(3.6) | － | 灰褐 | 黒褐 | 外面腰部から無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1176 | I27 | Ⅲa | 22525 | 土瓶か鍋 | 底 | 陶器 | 底径:(3.6) | － | 褐 | 外内:暗灰黄<br>底部:黒褐 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1177 | L35 | I | － | 鍋か | 底 | 陶器 | 底径:(5.0) | － | 明赤褐 | オリーブ黒 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉 |
| | 1178 | J33 | Ⅵ | 37973 | 土瓶 | 注ぎ口 | 陶器 | － | － | にぶい褐 | 暗オリーブ褐 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 茶止め穴3つ |
| | 1179 | D27 | I | － | 土瓶 | 注ぎ口 | 陶器 | － | － | 暗褐 | 外・内口:縁暗オリーブ<br>灰 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 茶止め穴3つ |
| | 1180 | G43 | I | － | 土瓶 | 注ぎ口 | 陶器 | － | － | にぶい褐 | 淡黄 | 接合部付近無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 茶止め穴3つ？ |
| | 1181 | C50 | I | － | 土瓶 | 口縁 | 陶器 | － | － | 褐灰 | 灰褐 | 内面下部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| 153 | 1182 | J31 | I | － | 徳利 | 口縁 | 陶器 | 口径:(6.4) | － | 暗赤灰 | オリーブ黒 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉,17C後半<br>堂平窯の可能性 |
| | 1183 | H22 | Ⅱa | － | 徳利 | 口縁 | 陶器 | 口径:(6.6) | － | 灰 | オリーブ黒 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉,17C |
| | 1184 | F21 | I | － | 徳利 | 胴 | 陶器 | － | － | 灰黄色 | 外:黒褐 | 内面無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉,17C後半～18C前半 |
| | 1185 | D32 | I | － | 徳利 | 胴 | 陶器 | － | － | 灰 | オリーブ灰・黒の斑点:鉄分？ | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 17C後半～18C前半 |
| | 1186 | H33・35 | I | － | 徳利 | 口縁 | 陶器 | 口径:3.1 | － | 褐灰 | 暗赤褐 | | 薩摩 | 良好 | |
| | 1187 | D27 | I | － | 徳利 | 口縁 | 陶器 | 口径:(8.4) | － | にぶい褐 | 外:透明 | 白化粧土 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 壺の可能性 |
| 154 | 1188 | I32 | Ⅱ | － | 片口鉢 | 口縁 | 陶器 | 口径:(37.7) | － | 灰褐 | 黒褐 | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉,18C後半<br>口唇部に貝目 |
| | 1189 | D27 | I | － | 片口鉢 | 口縁 | 陶器 | 口径:(15.7) | － | 暗褐 | オリーブ黒 | 口唇部部分的に無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 18C後半 |
| | 1190 | I・J<br>26・27 | I | － | 片口鉢 | 口縁 | 陶器 | － | － | 赤褐 | 外:オリーブ黒<br>内:灰褐 | 口唇部無釉部あり | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉,18C後半<br>口唇部に目跡,内面白色がかる |
| | 1191 | H33 | I | － | 鉢 | 口縁 | 陶器 | 口径:(35.1) | － | 褐灰 | オリーブ黒 | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉,18C後半<br>内面口縁下に貝目 |
| | 1192 | G33 | I | － | 鉢 | 口縁 | 陶器 | 口径:(25.2) | － | にぶい赤褐 | オリーブ黒 | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 18C後半 |
| | 1193 | E22 | Ⅱ | 17995 | 鉢 | 口縁 | 陶器 | 口径:(24.0) | － | にぶい赤褐 | オリーブ黒 | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉,<br>内面白色がかる |
| | 1194 | H26 | I | 18526 | 鉢 | 底 | 陶器 | 底径:(13.3) | － | にぶい赤褐 | 外:オリーブ黒<br>内:暗褐 | 胴下部～底部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1195 | F28 | I | － | 擂鉢 | 口縁 | 陶器 | 口径:(29.9) | － | 赤褐 | 外:黒褐<br>内:暗褐 | 口縁内面無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1196 | J27 | I | － | 擂鉢 | 口縁 | 陶器 | 口径:(25.8) | － | 暗褐 | 黒褐 | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1197 | I20 | Ⅱ | － | 擂鉢 | 口縁 | 陶器 | 口径:(25.4) | － | 灰黄褐 | オリーブ黒 | 口唇縞状に無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1198 | J27 | I | － | 擂鉢 | 口縁 | 陶器 | 口径:(24.0) | － | 褐灰 | オリーブ黒 | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1199 | D27 | Ⅱb | 20579 | 擂鉢 | 底 | 陶器 | 底径:(18.8) | － | 灰褐 | 外:黒褐<br>内:褐灰 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1200 | F24 | I | 18170 | 擂鉢 | 底 | 陶器 | 底径:(22.2) | － | 赤褐 | 外:オリーブ黒<br>内:灰褐 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1201 | F31 | I | － | 擂鉢 | 底 | 陶器 | 底径:(10.8) | － | 褐灰 | オリーブ黒 | 外面釉切あり | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1202 | J27 | I | － | 擂鉢 | 底 | 陶器 | 底径:(12.6) | － | にぶい赤褐 | 外:黒褐<br>内:暗赤褐 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1203 | G21 | Ⅱa | 18588 | 擂鉢 | 底 | 陶器 | 底径:(14.6) | － | にぶい赤褐 | オリーブ黒 | 底部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1204 | E28 | Ⅲa | － | 擂鉢 | 底 | 陶器 | 底径:(13.2) | － | にぶい赤褐 | 黒褐 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1205 | L34 | Ⅲa | － | 鉢か | 底 | 陶器 | | － | 灰 | 外:灰褐,白胡麻<br>内:暗赤褐 | | 不明 | 良好 | 中世の可能性<br>底黒褐 |
| | 1206 | I・J<br>26・27 | I | － | 蓋 | 口縁 | 陶器 | 庇径(27.4) | － | 褐 | 暗オリーブ褐 | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1207 | I33 | I | － | 蓋 | 口縁 | 陶器 | 庇径(16.0) | － | 暗赤褐 | オリーブ黒 | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉 |

## 第 24 表　近世出土遺物観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 部位 | 分類 | 法量(cm) | 文様 | 胎土色調 | 釉薬色調 | 施釉 | 産地 | 焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 155 | 1208 | H27 | I | − | 甕 | 口縁 | 陶器 | 口径:(51.8) | − | 灰褐 | オリーブ黒 | 口唇部一部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉, 18C前半～中頃 |
| | 1209 | K35 | I | − | 甕 | 口縁 | 陶器 | 口径:(44.4) | − | 黄灰 | 褐 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉, 18C前半～中頃 |
| | 1210 | J27 | I | − | 甕 | 口縁 | 陶器 | 口径:(32.8) | − | にぶい赤褐 | 黒褐 | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 18C |
| | 1211 | F28 | Ⅱ | 19360 | 鉢 | 口縁 | 陶器 | 口径:(34.0) | − | にぶい黄 | 灰オリーブ | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 18C後半～19C |
| | 1212 | G31 | I | − | 甕 | 胴 | 陶器 | − | 外面に掻落文 | 赤褐 | オリーブ黒 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉 |
| | 1213 | J26 | 撹乱 | − | 甕 | 胴 | 陶器 | − | 外面に掻落文 | 明赤褐 | オリーブ黒 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉<br>1214と同一 |
| | 1214 | J27 | I | − | 甕 | 胴 | 陶器 | − | 外面に掻落文 | 明赤褐 | オリーブ黒 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉<br>1213と同一 |
| | 1215 | F28 | I | 18813 | 壺 | 口縁 | 陶器 | 口径:(18.2) | − | 暗褐 | 外:オリーブ黒<br>内:灰白 | 口唇無釉部あり | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 口唇部に貝目跡<br>大型 |
| | 1216 | J32 | I | − | 壺 | 口縁 | 陶器 | 口径:(14.0) | − | にぶい褐 | 黒褐 | 口唇部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 口唇部に貝目跡<br>大型 |
| | 1217 | D27 | I | − | 壺 | 口縁 | 陶器 | 口径:(9.1) | − | 灰 | オリーブ黒 | 口唇・胴部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 中小型 |
| | 1218 | D31 | Ⅱ | − | 壺 | 口縁 | 陶器 | 口径:(12.2) | − | にぶい橙 | 外:黒褐 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉, 中小型 |
| | 1219 | J38 | I | − | 壺 | 口縁 | 陶器 | 口径:(11.0) | − | にぶい赤褐 | 暗褐 | 内面無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉, 中小型<br>口唇～内口縁砂目 |
| | 1220 | H～J26 | I | 17890他 | 壺か甕 | 胴～底 | 陶器 | 底径:(13.7) | − | 褐灰 | オリーブ黒 | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 底部に目跡<br>鉢の可能性 |
| | 1221 | E29 | I | − | 壺か甕 | 底 | 陶器 | 底径:(20.0) | − | にぶい赤褐 | オリーブ黒 | 底部は釉がまだら | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 筒状？ |
| | 1222 | I53 | I | − | 壺か甕 | 底 | 陶器 | 底径:(11.0) | − | 暗灰黄 | 灰オリーブ | | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| | 1223 | F28 | I | − | 鉢 | 底 | 陶器 | 底径:(12.2) | − | にぶい赤褐 | にぶい黄 | 底部無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | |
| 156 | 1224 | I･J26･27 | I | − | 灯明皿 | 完形 | 陶器 | 口径:10.3<br>底径:4.4<br>器高:2.5 | − | 橙色 | 灰オリーブ | 外面体～底部無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 底部糸切<br>内面砂目4か所 |
| | 1225 | G32 | I | − | 灯明皿 | 口縁 | 陶器 | 口径:(12.2) | − | 灰 | 外･内口縁:オリーブ褐 | 外口縁～内面釉, 外面他無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 外面スス |
| | 1226 | F23 | I | − | 灯明皿 | 口縁～底 | 陶器 | 口径:(10.8)<br>底径:(5.0)<br>器高:2.8 | − | 灰黄褐 | 暗オリーブ | | 薩摩(龍門司) | 良好 | 底部糸切, 砂目跡<br>脚3か所残存 |
| | 1227 | H35 | I | − | 灯明皿 | 口縁 | 陶器 | − | − | 黄灰 | オリーブ黒 | 外面～内面に釉, 外面体～底面無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 底部糸切<br>底部スス付着 |
| | 1228 | J31 | I | − | 碗 | 口縁 | 陶器 | − | − | にぶい褐 | 暗褐 | | 薩摩(龍門司) | 良好 | 褐釉 |
| | 1229 | H28 | Ⅷ | − | 碗 | 口縁 | 陶器 | − | − | にぶい黄橙 | オリーブ褐 | 内外上面白化粧土 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 化粧土に褐釉 |
| | 1230 | F32 | I | − | 高坏 | 胴～脚台 | 陶器 | 底径:4.4 | − | にぶい赤褐 | オリーブ褐 | 脚部下～底無釉 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 仏飯具 |
| | 1231 | G33 | I | − | 高坏 | 胴～脚台 | 陶器 | 底径:3.8 | − | 赤橙 | 外:灰白<br>内:赤褐 | 脚部無釉, 白化粧土 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 仏飯具<br>内面砂目 |
| | 1232 | L37 | Ⅲa | 29757 | 碗 | 口縁 | 陶器 | − | − | にぶい黄橙 | 外:黒褐 | 内面無釉 | 薩摩(苗代川系) | 良好 | 鉄釉, 仏具 |
| | 1233 | J23, K25 | 撹乱 I | − | 不明 | 口縁～胴 | 陶器 | 口径:(9.0) | − | にぶい黄橙 | 暗褐 | 見込み蛇の目釉剥 | 薩摩(龍門司) | 良好 | 古手の小碗？ |

## 第 25 表　近世出土銭観察表

| 図版番号 | 掲載番号 | 出土区 | 層 | 取上番号 | 器種 | 分類 | | 背面 | 銭径(cm) | 厚さ(cm) | 重さ(cm) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 156 | 1234 | F27 | I | 18363 | 銭 | 寛永通寶 | 新？ | − | 22.5 | 0.9 | 1.8 | |
| | 1235 | E27 | I | 17912 | 銭 | 寛永通寶 | 新 | − | 23.0 | 0.9 | 1.9 | |
| | 1236 | E27 | I | 17908 | 銭 | 寛永通寶 | 新 | − | 23.4 | 1.0 | 1.8 | |
| | 1237 | G41 | Ⅱb | 12009 | 銭 | 寛永通寶 | 古？ | − | 23.8 | 1.8 | 4.8 | |

# 第５章　自然科学分析

## 第１節　自然科学分析の種類と目的

第２地点における自然科学分析は，平成 25 年度に「種実同定」と「放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）」，平成 26 年度に「出土試料の自然科学分析（年代測定，樹種同定）」を行った。

「種実同定」及び「放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）」では，竪穴住居跡・竪穴建物跡４基から採取した５試料の種実同定により，当時の植物利用に関する資料を得るとともに，種実同定作業を経て年代測定に適した試料を選定した上で，試料の年代を測定することによって，遺構の年代を知る手がかりとした。「出土試料の自然科学分析（年代測定，種実同定）」では，竪穴住居跡４基，土坑１基，溝状遺構１条から検出した炭化物 10 点について，放射性炭素年代測定を行い，遺構の年代を知る手がかりとするとともに，一部の試料は種実同定を行い，当時の植物利用に関する資料を得たが，種実同定については，本報告書対象年代とは異なる時代の遺構から採取された試料である。

分析結果については，第２節以降に詳細に記載してあるので，譲ることとしたい。なお，今回は第２地点の古代・中世・近世に関する科学分析を対象とした。第１地点については，平成 27 年度刊行報告書に，第２地点（旧石器時代・縄文時代編）は平成 28 年度刊行報告書にそれぞれ記載済みで，第２地点（縄文晩期・弥生・古墳時代編）及び第３地点については，今後刊行する報告書において報告する予定である。このため，納品された報告書を基に第２地点（古代・中世・近世編）のみ再編を行い，体裁を整えて掲載している。また，平成 25 年度自然科学分析委託の「樹種同定」及び「放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）」については，委託業務の際には樹種同定によって分析対象となった炭化物に対して年代測定を行っているが，本報告書掲載に際しては，年代測定で対象試料を示した上で樹種同定の分析報告を記載する。

**自然科学分析に関する一覧**

| 掲載節 | 分析の内容 | 分析委託業者 |
|---|---|---|
| 第２節 | 放射性炭素年代（ＡＭＳ測定） | 株式会社加速器分析研究所 |
| 第３節 | 種実同定 | 株式会社加速器分析研究所 |
| 第４節 | 放射性炭素年代測定 | 株式会社パレオ・ラボ |

## 第２節　永吉天神段遺跡における放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）

（株）　加速器分析研究所

### １　測定対象試料

永吉天神段遺跡は，鹿児島県曽於郡大崎町永吉に所在し，持留川とその支流に挟まれた標高約 35 ｍの河岸段丘及び標高約 50 ｍのシラス台地に立地する。測定対象試料は，SI10，SI13，SI19，SI21 から出土した炭化物や炭化種実の合計５点である（表１：表は，本報告書掲載遺構 SI21＝中世竪穴建物跡のみ掲載）。試料は，調査現場にて採取された土の中からフローテーションにより回収され，種実同定（別稿種実同定報告参照）を行った後，年代測定に適した試料を選定した。試料５は，炭化イネ頴・胚乳（完形）３点のうち１点を測定試料とした。

試料が出土した遺構はⅢ層で検出され，弥生時代と推定されている。Ⅱ層は弥生時代，Ⅴ層は縄文時代早期の遺物包含層と捉えられている。

### ２　化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い，根・土等の付着物を取り除く。
(2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後，超純水で中性になるまで希釈し，乾燥させる。AAA 処理における酸処理では，通常１ mol/ℓ（１Ｍ）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い，0.001M から１Ｍまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が１Ｍに達した時には「AAA」，１Ｍ未満の場合は「AaA」と表１に記載する。
(3) 試料を燃焼させ，二酸化炭素（$CO_2$）を発生させる。
(4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
(5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し，グラファイト（C）を生成させる。
(6) グラファイトを内径１㎜のカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，測定装置に装着する。

### ３　測定方法

加速器をベースとした$^{14}$C-AMS 専用装置（NEC 社製）を使用し，$^{14}$C の計数，$^{13}$C 濃度（$^{13}$C/$^{12}$C），$^{14}$C 濃度（$^{14}$C/$^{12}$C）の測定を行う。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 4　算出方法

(1) $\delta^{13}C$ は，試料炭素の$^{13}C$ 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第 26 表）。AMS 装置による測定値を用い，表中に「AMS」と注記する。

(2) $^{14}C$ 年代（Libby Age：yrBP）は，過去の大気中$^{14}C$ 濃度が一定であったと仮定して測定され，1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には，Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。$^{14}C$ 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に，補正していない値を参考値として表 2 に示した。$^{14}C$ 年代と誤差は，下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また，$^{14}C$ 年代の誤差（± 1 σ）は，試料の$^{14}C$ 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

(3) pMC（percent Modern Carbon）は，標準現代炭素に対する試料炭素の$^{14}C$ 濃度の割合である。pMC が小さい（$^{14}C$ が少ない）ほど古い年代を示し，pMC が 100 以上（$^{14}C$ の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため，補正した値を表 1 に，補正していない値を参考値として第 27 表に示した。

(4) 暦年較正年代とは，年代が既知の試料の$^{14}C$ 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ，過去の$^{14}C$ 濃度変化などを補正し，実年代に近づけた値である。暦年較正年代は，$^{14}C$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり，1 標準偏差（1 σ＝68.2%）あるいは 2 標準偏差（2 σ＝95.4%）で表示される。グラフの縦軸が$^{14}C$ 年代，横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は，$\delta^{13}C$ 補正を行い，下一桁を丸めない$^{14}C$ 年代値である。なお，較正曲線および較正プログラムは，データの蓄積によって更新される。また，プログラムの種類によっても結果が異なるため，年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは，暦年較正年代の計算に，IntCal09 データベース（Reimer et al. 2009）を用い，OxCalv4.2 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については，特定のデータベース，プログラムに依存する点を考慮し，プログラムに入力する値とともに参考値として第 27 表に示した。暦年較正年代は，$^{14}C$ 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

## 5　測定結果

試料の測定結果を第 26，27 表に示す。$^{14}C$ 年代は，5 点のうち，試料 5 は明瞭に異なる年代値を示している。暦年較正年代（1 σ）は，1 が縄文時代後期前葉頃，2 ～ 4 が弥生時代中期頃，5 が中世から近世頃に相当する（小林編 2008，藤尾 2009）。試料の炭素含有率はすべて 60% 以上の十分な値で，化学処理，測定上の問題は認められない。

## 文献


Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

藤尾慎一郎 2009「弥生時代の実年代」西本豊弘編『新弥生時代のはじまり　第 4 巻　弥生農耕のはじまりとその年代』雄山閣　9-54

小林達雄編 2008『総覧縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会　アム・プロモーション

Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radio-


第 26 表　放射性炭素年代測定結果（$\delta^{13}C$ 補正値）

| 測定番号 | 試料名 | 採取場所 | 試料形態 | 処理方法 | $\delta^{13}C$（‰）（AMS） | $\delta^{13}C$ 補正あり | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | Libby Age（yrBP） | pMC（%） |
| IAAA-130195 | 5 | SI21 P2　Ⅲ層 | 炭化イネ穎・胚乳 | AaA | -26.20 ± 0.42 | 390 ± 20 | 95.23 ± 0.29 |

［#5806］

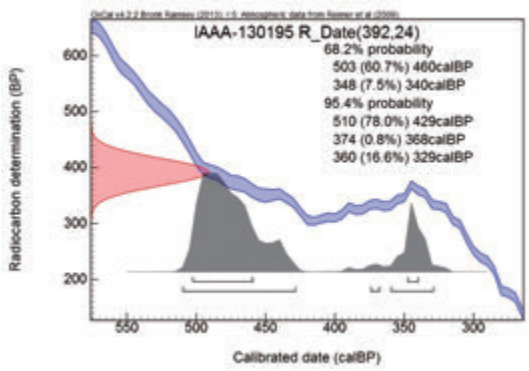
第 27 表　放射性炭素年代測定結果（$\delta^{13}C$ 未補正値，暦年較正用$^{14}C$ 年代，較正年代）

| 測定番号 | $\delta^{13}C$ 補正なし | | 暦年較正用（yrBP） | 1 σ暦年代範囲 | 2 σ暦年代範囲 |
|---|---|---|---|---|---|
| | Age（yrBP） | pMC（%） | | | |
| IAAA-130195 | 410 ± 20 | 94.99 ± 0.28 | 392 ± 24 | 503calBP - 460calBP（60.7%）<br>348calBP - 340calBP（ 7.5%） | 510calBP - 429calBP（78.0%）<br>374calBP - 368calBP（ 0.8%）<br>360calBP - 329calBP（16.6%） |

［参考値］

carbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111–1150

Stuiver M. and Polach H. A. 1977 Discussion : Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355–363




第 157 図　暦年較正年代グラフ（参考）

## 第３節　永吉天神段遺跡における種実同定

（株）加速器分析研究所

### はじめに

永吉天神段遺跡は鹿児島県曽於郡大崎町永吉に所在し，持留川とその支流に挟まれる河岸段丘および台地上に位置する。本分析調査では，弥生時代と推定される遺構から出土した種実遺体の同定を実施し，当時の植物利用に関する資料を得る。

### １　試料

試料は，SI10 より１試料，SI13 より１試料，SI19 より２試料，SI21 より１試料の合計５試料である（試料１～５。以下では，本報告書該当試料である試料５：SI21 試料１点のみを掲載する）。土壌のフローテーションによって回収され，乾燥した状態でポリ袋やアルミホイルに収納されている。各試料の詳細は結果とともに第 28 表に示す。なお，これら５試料の中から各１点について放射性炭素年代測定が実施されている（年代測定報告参照）。

### ２　分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し，ピンセットを用いて同定が可能な種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は，現生標本および石川（1994），中山ほか（2000），吉崎（1992）等を参考に実施し，個数を数えて一覧表で示す。分析後は，種実遺体を分類群毎に容器に入れて保管する。

### ３　結果

全５試料を通じて，被子植物５分類群（草本のイネ，イネ科，カヤツリグサ属，マメ科（アズキ類？），エノキグサ）14 個の種実が抽出・同定された（第 28 表）。以下に試料５のみ状況を述べる。

・SI21 P2（試料５）

炭化した栽培種のイネの穎・胚乳が３個，胚乳が６個と，栽培種の可能性があるマメ科（アズキ類？）の種子が１個，計 10 個が確認された。種実以外では，炭化材（最大 33㎜）が多く，植物片，砂礫などが確認され，軽石類も多く含まれる。

以上の結果を踏まえ，検出された種実の形態的特徴を以下に述べる。また，炭化種実の写真を図版１に示す。

・イネ（*Oryza sativa* L.）イネ科イネ属

胚乳と胚乳を包む穎（果）は，炭化しており黒色。胚乳は，長さ 3.7～5.2㎜，幅 1.5～2.8㎜，厚さ 1.5～2.1㎜のやや偏平な長楕円体。基部一端には，胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で，２～３本の縦隆条がある（図版１－１～７）。SI21 P2 より出土した胚乳９個中３個の表面には，穎の破片（籾殻）の付着が確認された（図版１－１～３）。

穎は，完形ならば，長さ６～7.5㎜，幅３～４㎜，厚さ２～３㎜程度のやや偏平な長楕円体。基部に大きさ１㎜程度の斜切状円柱形の果実序柄と１対の護穎を有し，その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は５脈，内穎は３脈をもち，ともに舟形を呈し，縫合してやや偏平な長楕円形の稲籾を構成する。果皮は薄く，表面には顆粒状突起が縦列する。

・マメ科（Leguminosae）

第 28 表　種実同定結果

| 試料名 | 出土位置 | 重量 | 同定結果 | | | | | 枝番 | 計測値（㎜） | | | | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 分類群 | 部位 | 状態 | | 個数 | | 高さ | | 幅 | | 厚さ | | |
| 5 | SI21 P2 Ⅲ層 | 6.671kg | イネ | 穎胚乳 | 完形 | 炭化 | 3 | 1 | 4.3 | | 2.8 | | 2.1 | | ・イネ胚乳：枝番３は別袋より確認<br>・マメ科：半分厚，初生葉欠損<br>・炭化材多い（最大 33㎜），植物片，砂礫（軽石類多い） |
| | | | | | | | | 2 | 5.2 | | 2.8 | | 1.7 | | |
| | | | | | | | | 3 | 4.4 | | 2.5 | | 1.5 | | |
| | | | | 胚乳 | 完形 | 炭化 | 3 | 1 | 4.4 | | 2.3 | | 1.6 | | |
| | | | | | | | | 2 | 4.9 | | 2.5 | | 1.9 | | |
| | | | | | | | | 3 | 3.7 | | 1.5 | | 1.5 | | |
| | | | | | 破片 | 炭化 | 3 | － | － | | － | | － | | |
| | | | マメ科（アズキ類?） | 種子 | 破片 | 炭化 | 1 | － | 4.4 | + | 3.4 | | 1.6 | + | |

種子は，炭化しており黒色。出土種子は，子葉の合わせ目から割れた半分未満の破片で，残存長 4.4㎜，幅 3.4㎜，半分厚さ 1.6㎜を測り，完形ならばやや偏平な楕円体となる。

子葉合わせ目から半割した面はやや平滑で，胚軸跡の溝が確認される。半割面は，北大基準（吉崎，1992）の「アズキグループ（幼根が臍の終わり程から急に立ち上がり，胚珠中央に向けて伸びる）」に該当する初生葉を欠損するが，その痕跡（図版１－８ｂ）が確認されることから，アズキ類（*Vigna* subgen. *Ceratotropics*（Piper）Verdc.；ササゲ属）である可能性が高い。種皮は薄く，表面はやや平滑～粗面で，断面は柵状。

## ４　考察

種実同定の結果，SI21 P2 から炭化した穀類のイネ，SI21 P2 から栽培種の可能性があるマメ科（アズキ類？）が確認された。これらは，周辺で栽培されていたか，近辺より持ち込まれたかは不明であるが，当時の本遺跡周辺域で利用された植物質食料と考えられ，火を受けて炭化したとみなされる。

また，SI21 P2 から出土したイネには，胚乳表面に穎の付着が確認されたことから，穎（籾）のついた生米の状態で火を受けたと判断される。

## 文献

石川茂雄　1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会　328p.

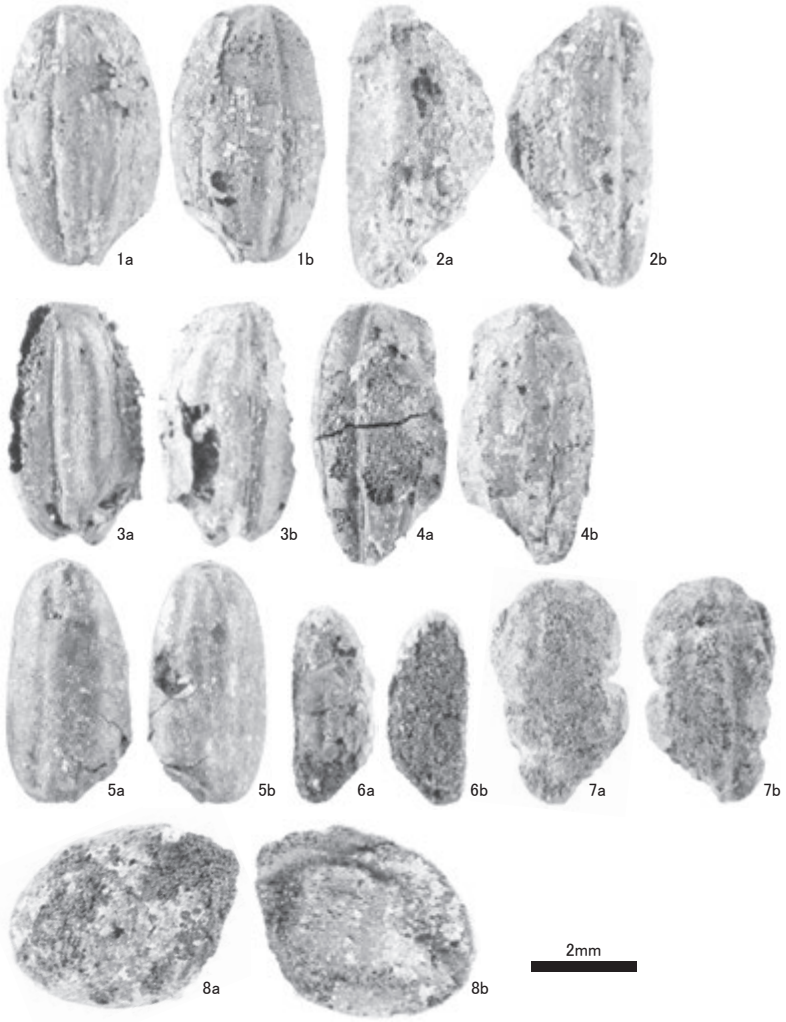
中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000『日本植物種子図鑑』東北大学出版会　642p.

吉崎昌一　1992「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』No.355，2-14.

※　本分析は，パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

※　SI21 は，本報告書掲載の中世竪穴建物１号である。

本文中写真2　種実遺体




1．イネ 穎・胚乳(試料5;SI21 P2)
2．イネ 穎・胚乳(試料5;SI21 P2)
3．イネ 穎・胚乳(試料5;SI21 P2)
4．イネ 胚乳(試料5;SI21 P2)
5．イネ 胚乳(試料5;SI21 P2)
6．イネ 胚乳(試料5;SI21 P2)
7．イネ 胚乳(試料2;SI13 西ベルト 床着 ①層)
8．マメ科(アズキ類?) 種子(試料5;SI21 P2)

## 第４節　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・安昭　炫・佐藤正教
廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani
・小林克也

### １　はじめに

鹿児島県大崎町に位置する天神段遺跡より検出された試料について，加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

### ２　試料と方法

試料は，SI45 から炭化材２点，SI34 の床直から炭化種実１点，SI34 の SK1 から炭化材１点，SI35 から炭化材１点，SI43 から炭化材１点，SI47 の SK4 から炭化材１点，SK99 から炭化材２点，SD25 から炭化材１点（試料 No.10：PLD-27798）の炭化材の，計 10 点である。以下は，本報告当該試料である試料 No.10 について記載する。

試料は調製後，加速器質量分析計（パレオ・ラボ，コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた$^{14}$C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後，$^{14}$C 年代，暦年代を算出した。

### ３　結果

表５に，同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}$C），同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲，慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した$^{14}$C 年代を，図２に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり，今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

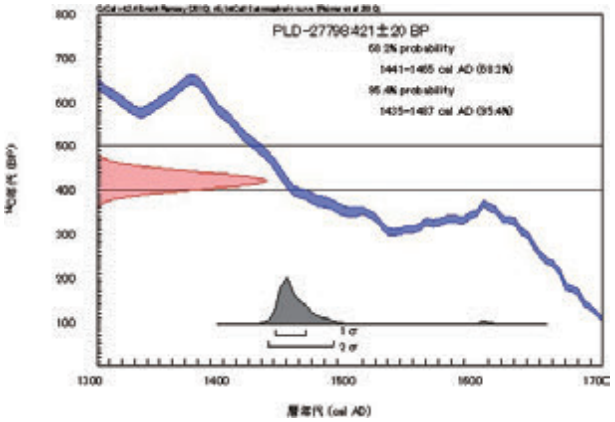
$^{14}$C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。$^{14}$C 年代（yrBP）の算出には，$^{14}$C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また，付記した$^{14}$C 年代誤差（± 1 σ）は，測定の統計誤差，標準偏差等に基づいて算出され，試料の$^{14}$C 年代がその$^{14}$C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお，暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは，大気中の$^{14}$C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された$^{14}$C 年代に対し，過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の$^{14}$C 濃度の変動，および半減期の違い（$^{14}$C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して，より実際の年代値に近いものを算出することである。$^{14}$C 年代の暦年較正には OxCal4.2（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお，１σ暦年代範囲は，OxCal の確率法を使用して算出された$^{14}$C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり，同様に２σ暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は，その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は$^{14}$C 年代の確率分布を示し，二重曲線は暦年較正曲線を示す。

### ４　考察

測定結果を暦年較正結果に示した（第 158 図）。以下，２σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して結果を整理する。

SD25 の試料 No.10（PLD-27798）は 1435-1487 cal AD（95.4%）で，15 世紀代の暦年代を示した。これは，室町時代に相当する。




第 158 図　暦年較正結果

### 引用・参考文献

Bronk Ramsey, C.（2009）Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

藤尾慎一郎　2009「弥生時代の実年代」西本豊弘編『新弥生時代のはじまり　第４巻　弥生農耕のはじまりとその年代』 9-54，雄山閣.

中村俊夫　2000「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の 14C 年代編集委員会編『日本先史時代の 14C 年代』 3-20，日本第四紀学会.

Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J.（2013）IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

※　SD25 は，発掘調査時に SD18 に統合された。本報告書では中世溝状遺構 15 号として掲載した。

第 29 表　測定試料及び処理

| 測定番号 | 遺跡データ | 資料データ | 前処理 |
|---|---|---|---|
| PLD-27798 | 遺構：SD25<br>試料 No.10<br>遺物 No.19456 | 種類：炭化物（タケ亜科）<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 N，水酸化ナトリウム：1.0 N，塩酸：1.2 N） |

第 30 表　放射性炭素年代測定及び暦年較正の比較

| 測定番号 | $\delta^{13}C$（‰） | 暦年較正年代（yrBP ± 1 σ） | $^{14}C$ 年代（yrBP ± 1 σ） | $^{14}C$ 年代を暦年代に較正した年代範囲 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 σ暦年代範囲 | 2 σ暦年代範囲 |
| Pld-27798<br>SD25<br>試料№10 | -27.51 ± 0.19 | 421 ± 20 | 420 ± 20 | 1441-1465 cal AD（68.2%） | 1435-1487 cal AD（96.4%） |

# 第６章　総括

## 第１節　古代について

日向国から４郡を割いて設置された大隅国は，鹿児島湾奥の曽於郡に国府が置かれ，日向・肥後・薩摩国と結ぶ駅路は曽於郡のみを通り，豊前･豊後両国から公民 200 戸を移住させて律令制度の浸透・定着が図られた。奈良時代のうちに曽於郡から菱刈・桑原両郡が分置されたのに対し，半島部の大隅・姶羅・肝属３郡は，郷の帰属，郡域･位置が流動的で，日向国との国境も不明瞭である。

大崎町周辺は近代以前には日向国に属していたが，奈良時代の断片的情報である「大隅国風土記逸文」に見える海村的な「必志里」は，大崎町菱田を遺称地とする可能性があり，その場合，大崎町域が大隅国に含まれることになる。考古資料においても，鹿児島湾奥並びに都城盆地周辺では，東九州自動車道建設に伴う調査等によって当時の様相が判明しつつあるが，大隅半島中・南部については，いまだに不明な点が多いのが現状である。

永吉天神段遺跡のうち，档ヶ山集落南東端の持留川を臨む第１地点で，掘立柱建物跡６棟と土坑７基などからなる，９世紀から 10 世紀前半頃の古代集落の存在が明らかとなった。その性格については，「交通の要衝地の一つとして，水滴や焼塩土器・鉄製品など特殊なものをもつ識字層が居住したと考えられる」としている（埋調査セ 2016）。

第１地点の北西側にある第２地点では，古代の可能性がある柱穴が多数検出されたものの，古代の遺構と特定したのは黒色土器の可能性がある土器片を伴う１基のみであった。包含層出土遺物としては，土師器（耳皿状のものを含む）・黒色土器・内赤土師器・須恵器が 29～32 区の谷部分から集中して出土したが，第１地点の古代集落との関連については今後の課題である。

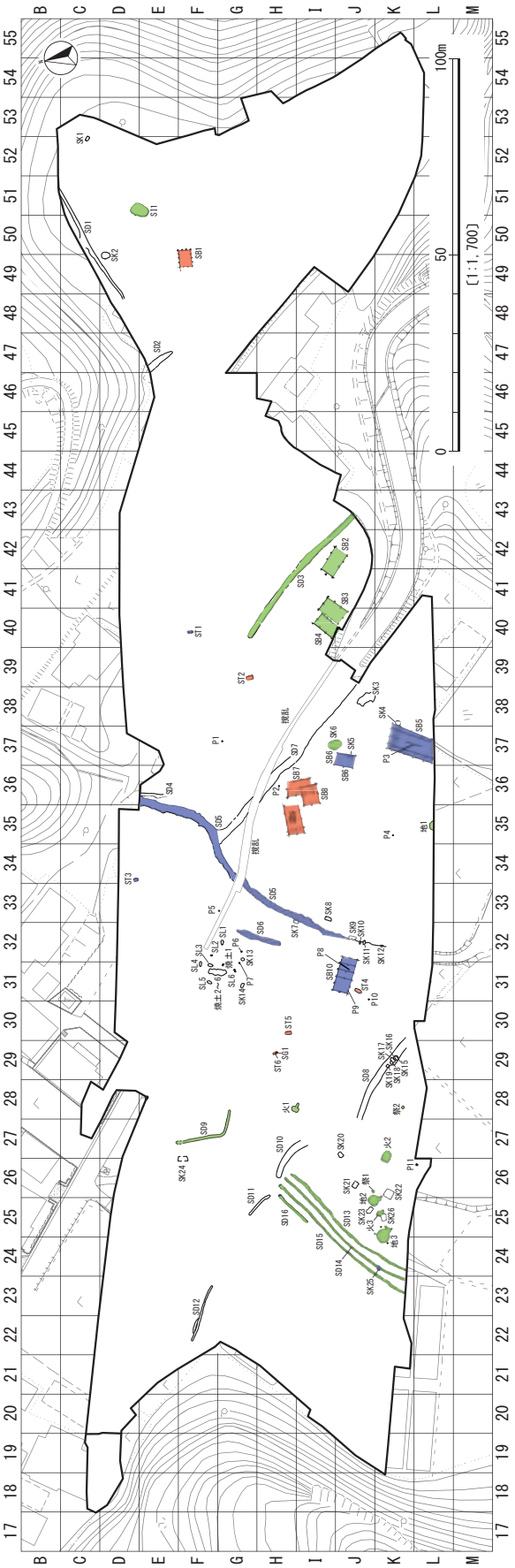
## 第２節　中世について

### １　中世遺構について

掘立柱建物跡が 10 棟検出されたが，その主軸の向きから３グループに分かれ，さらに主軸と関連すると考えられる溝状遺構等からおおよその時期を推定する。

#### (1) 平安時代末の遺構

第２地点北東の微高地に独立している掘立柱建物跡１号，中央微高地の東側斜面の掘立柱建物跡７～９号の４棟は，ほぼ南北方向の主軸をもつ。この時期の遺構には，土坑墓２・４～６号の４基がある。土坑墓４～６号は，11 世紀後半～12 世紀前半のヘラ切底の土師器が副葬された墓である。土坑墓２号は，糸切底の土師器のミニチュア羽釜，白磁の端反碗，湖州六花鏡が出土しており，12 世紀中頃の土坑墓と考えられる。




第 159 図　中世の遺構の推定年代（平安末，鎌倉時代，室町時代以降）

**(2) 鎌倉時代の遺構**

中央微高地東側斜面の掘立柱建物跡５・６号，西側斜面の掘立柱建物跡 10 号は，３棟にバラツキがあるが，おおむね北北東－南南西方向を主軸とし，掘立柱建物跡 10 号と平行する溝状遺構５・６号の２条との関係が考えられる。掘立柱建物跡 10 号の土師器は 13 世紀代と考えられる。溝状遺構５号は，遺構内遺物から 13 世紀後半～15 世紀の時期設定ができる。土坑墓１・３号は，13 世紀後半～14 世紀前葉の糸切底の土師器が副葬されている。

**(3) 室町時代以降の遺構**

中央微高地の東側斜面の掘立柱建物跡２～４号の３棟は，N 46～50° E となる北東－南西方向の軸を持ち，これと平行に走る溝状遺構３号と同時期のものと考えられる。これらの遺構は，本遺跡周辺の現在の区画割りに近い主軸方向をもつ。溝状遺構３号は，東播系須恵器の鉢や白磁碗，鎬蓮弁青磁碗の破片が出土しており，遺跡が所在する档ヶ山集落南麓の档ヶ山古石塔群へ通じていたと考えられる，中世に遡る道跡である。また，ほぼ同じ軸をとる溝状遺構 13～16 号（西側微高地の南側斜面）中の溝状遺構 15 号から検出された炭化材の放射性炭素年代は，15 世紀代の暦年代を示している。室町時代以降の区画と捉えておく。

この時期の遺構に祭祀遺構がある。祭祀遺構２号は，明代（1368～1644）に鋳造を開始した洪武通寶を含む癒着した古銭７枚と完形の備前焼擂鉢が伏せられた状態で出土した 14 世紀末～15 世紀の遺構であり，祭祀遺構１号は，遺構中央で，完形の糸切底の土師器小皿が底部を上に向けて出土した 15 世紀の遺構である。

火葬土坑については，３号は鎌倉時代まで遡る可能性があるが，概ね 14～15 世紀のものと考えられ，祭祀遺構や地下式坑とともに，中世の人々の精神世界を解明していくための貴重な資料となる。

また，南北方向を主軸とする掘立柱建物跡１号の近くに竪穴建物跡があるが，その主軸は北東－南西方向をとる。遺構内遺物から 14 世紀後半以降の竪穴建物跡と考えられる。柱穴内埋土中からも，16 世紀前半～17 世紀後半の炭化したイネ，栽培種の可能性があるマメ科が検出されている。

**(4) 祭祀遺構について**

祭祀遺構２号から出土した伏せた状態の備前焼擂鉢は，笠下遺跡（宮崎県延岡市）や油須木城跡（鹿児島市郡山町）に類例がある。笠下遺跡では，一頭分の牛の歯と明銭を伴って完形品が伏せた状態で出土しており，密教や修験道との関連が指摘されている。油須木城跡では，15 世紀後葉から 16 世紀前葉に相当する完形品が伏せた状態で出土しており，城普請等に伴う祭祀との関連が検討されている（有川 2004）。また，長田遺跡（志布志市有明町）では，土坑墓と推定される楕円形の遺構から，12 世紀の玉縁口縁の白磁碗を覆って伏せた土鍋片が出土している（関東の「鍋被り葬」とは直接関係しないとしている）。15 世紀～19 世紀にかけて東日本でみられる鍋被り葬については，特定の病気の罹患者や旅行死亡人が村落境などに埋葬された可能性が指摘されている（櫻井・小中 2016）。鉢・鍋類を伏せて埋納する行為については，南九州での類例の増加による検討の深化が期待される。

**(5) 地下式坑について**

本遺跡では，本県初の事例となる地下式坑が，第２地点で３基，第２地点北西の第３地点で７基検出された。第３地点の地下式坑については，別途作成される報告書にて掲載される。

地下式坑は，関東地方を中心に，九州北部では筑豊境の英彦山神宮が所在する英彦山周辺などにみられるが，遺構内遺物の大半が後世の流れ込みによるものと考えられ，遺構構築時期に伴う遺物の出土例が少ない遺構である。そのため，その使途も定説が定まっていない。本遺跡では，表土除去後の検出面においては竪坑部分の埋土がシラス混じりで確認されることが多く，近現代のものと想定していたが，調査の進行に伴い本体部分が検出され，再考をせまられた。

この遺構については，第２地点調査時に福岡大学桃﨑祐輔教授から地下式坑の可能性を示唆され，第３地点調査時には，鹿児島大学大学院理工学研究科井村隆介准教授に自然作用ではなく人為的なものとの所見を得，さらに大分県立博物館原田昭一企画普及課長から中世後期の地下式坑との指摘を受けた。竪坑平面の検出状況からすると，過去には，近現代のものとして調査されなかった場合もあった可能性がある。また，性格不明の大型土坑として報告された例（宮崎県都城市松原第１遺跡 18 号土坑）もみられ，他の地下式坑の立地環境との共通性や使途等，今後の検討が必要である。本遺跡が所在する档ヶ山集落の東端の持留川を臨む丘上には，天文四年（1535）再興棟札を収める彦三所大権現があり，信仰関連の立地・使途も検討する必要がある。

## ２　遺物について

遺物は，29～32 区の谷部から集中して出土している。ヘラ切底の土師器や白磁は，谷部にはみられるが，西側微高地にはみられない。一方，糸切底の土師器は西側微高地にもみられる。中世前期は中央微高地から谷部までの範囲で人々の活動がみられ，中世後期に進むにつれて，人々の活動範囲が谷部西方の西側微高地に広がっていったと考えられる。

**(1) 土師器について**

本報告書では，土師器の坏・皿について，口径が 10.5㎝以上のものを坏，以下のものを小皿とした。日向国では，12 世紀中葉以降，糸切底の土師器が出現するが，本遺跡

の 12 世紀相当の土坑墓４～６号から出土した土師器坏・小皿はいずれもヘラ切底で，13～14 世紀相当の土坑墓１・３号出土の土師器坏・小皿は糸切底である。12 世紀相当の土坑墓２号からは糸切底の土師器のミニチュア羽釜がみられるが，その他の遺構内遺物や包含層出土遺物を含めても，本遺跡の土師器の底部切離し技法がヘラ切から糸切へ移行する経過は不明である。本報告書掲載分の土師器坏・小皿の法量は第 31 表のとおりである。出土遺物の範囲では，ヘラ切底と糸切底の法量を比較すると，ヘラ切底の坏・小皿の法量差は明確であるのに対し，糸切底の坏・小皿の法量差は不明瞭である。ヘラ切底に対し糸切底の坏・小皿は，口径・底径は小型化し，器高は深くなる。

**第 31 表　中世土坑墓出土土師器法量**

| | 底面 | 口径（cm） | 底径（cm） | 器高（cm） |
|---|---|---|---|---|
| 坏 | ヘラ切 | 12.8 ～15.1 | 9.0～11.5 | 2.1～3.25 |
| | 糸切 | 10.8 ～12.5 | 6.3～ 8.6 | 3.2～3.5 |
| 小皿 | ヘラ切 | 8.25～10.0 | 6.6～ 8.0 | 1.1～2.0 |
| | 糸切 | 6.0 ～10.0 | 5.3～ 8.0 | 1.3～3.4 |

### (2) 煮炊具について

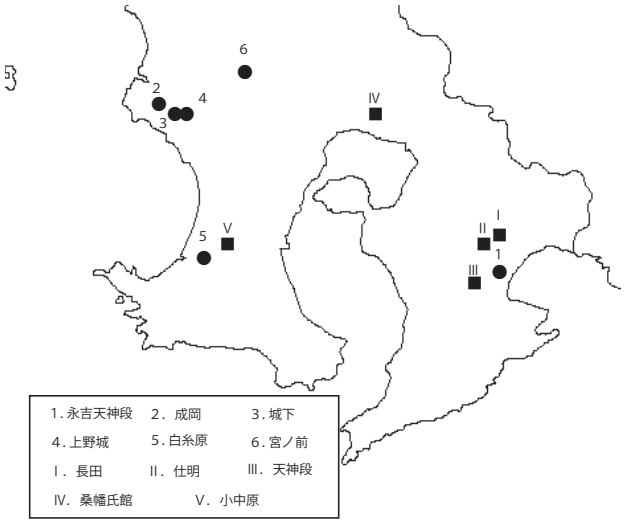
本県県出土の中世前半期の煮炊具に関する以前の検討では，中世前半期の資料は種類・数量ともに限られたものであった（上床 2004）。その後，調査件数の増加に伴い種類・数量とも増加してきた。県内出土資料を集成・検討した結果，以下のとおりの特徴がうかがえる。

ア　釜に関しては，ほとんどの資料が白色を基調とする色調を呈する。これは，「畿内系土製煮炊具」の特徴であり，本県資料群もその可能性が高いと考える。ただし，さつま町宮ノ前遺跡出土例は茶褐色を呈しており，東海系の可能性がある。

イ　鍋に関しては，桑幡氏館出土のものが「京都産」だが，ほかの３点は産地不明である。いずれも，土坑墓もしくは土坑から出土していることが特徴といえる。

以上のことから，本県内においては「釜」「鍋」ともに畿内産のものが多い傾向にある。このような中で，本遺跡出土 393（第 91 図）は，内面の口縁端付近が膨らみ，胎土に灰色石・茶色石・輝石などの小石が含まれ，これまでの本県出土例とは異なる形態・手法・胎土であった。そこで，西日本各地で実地調査を行い学識経験者の所見も得た結果，上述した特徴は，紀伊産の土師質釜，いわゆる「紀伊型釜」であることが判明した。

また，これまでの紀伊産土師質釜の出土地の南限は上ノ村遺跡（高知県土佐市新居）であり，本遺跡出土資料は国内の南限を新たに塗り替えるものであることも判明した。これまでの研究で，「畿内系土製煮炊具」や紀伊産土師質釜は，「広域流通品ではない」（徳永 2009，池澤 2010・2013）という指摘がされていたが，本遺跡の事例は，再検討を促す遺物の一つとして注目すべきである。




**第 160 図　中世前半期土製煮炊具分布図**

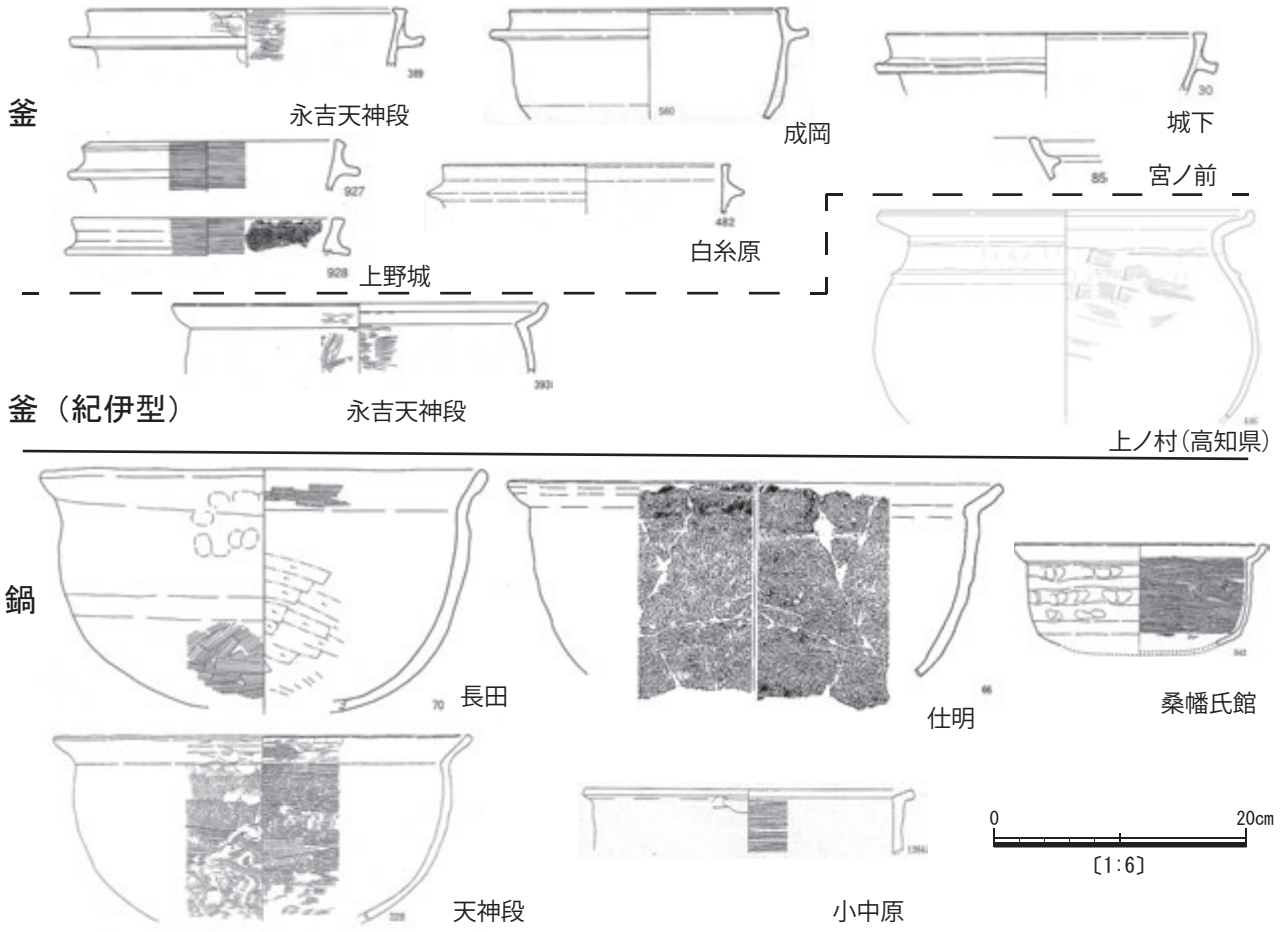
**第 32 表　鹿児島県内の土製煮炊具**

釜

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時　期 | 備　考 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 永吉天神段 | 曽於郡大崎町永吉字天神 | 13 世紀後葉頃か | 紀伊産土師質釜 | |
| 2 | 成岡 | 薩摩川内市中福良町字成岡 | 溝２は 12～13・不明（近世？） | 羽釜・滑石製石鍋も出土 | 白色 |
| 3 | 城下 | 薩摩川内市百次町字城下 | 中世前半 | 羽釜 | 白色 |
| 4 | 上野城 | 薩摩川内市百次町字上野城 | 中世前半 | 羽釜・２点出土 | 黒色・浅黄色 |
| 5 | 白糸原 | 南さつま市金峰町大字宮崎字白糸原 | 13 世紀後半の瀬戸瓶子も同一遺構内出土 | 羽釜・古道（溝状遺構）内から出土 | 灰白色 |
| 6 | 宮ノ前 | 薩摩郡さつま町求名字宮ノ前 | 土師質　瀬戸前期Ⅱ～Ⅲ頃（中世前半）か | 羽釜・瀬戸おろし皿出土・東海系か | 茶褐色 |

鍋

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 時　期 | 備　考 | 色調 |
|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ | 長田 | 志布志市有明町原田字長田 | 12 世紀後半～13 世紀前半 | ２号土壙中玉縁白磁と供伴 | 褐色 |
| Ⅱ | 仕明 | 志布志市有明町蓬原字仕明 | 12 世紀後半 | 16・17 号土坑において青白磁合子と供伴 | 褐色 |
| Ⅲ | 天神段 | 曽於郡大崎町野方字天神段 | 13 世紀 | 土坑墓１号中出土・同安窯系青磁碗等と供伴 | 褐色 |
| Ⅳ | 桑幡氏館 | 霧島市隼人町神宮二丁目 | 13 世紀（同一遺構内出土の土師器の年代観から） | 第８号土坑内出土 | |
| Ⅴ | 小中原 | 南さつま市金峰町大字新山字小中原 | 中世前半か | | |




第 161 図　鹿児島県出土の中世前半期土製煮炊具

## 第３節　近世について

### １　遺構

近世の遺構は，第２地点の中央微高地周辺と，西側微高地の南側斜面及び西側斜面上に点在する。

#### (1) 溝状遺構

近世の溝状遺構１～３・６号の４条は概ね北東－南西方向に軸をもち，溝状遺構４・５号の２条は，これに直交する方向の軸をもつ。第２地点を北西から南東に通じる現道と集落各戸の区画は，これを基軸としているようにみえる。溝状遺構４号は，中世末～近代まで利用されていたと考えられ，中世後期の溝状遺構も概ね似た軸をもっていることから，本遺跡一帯では，中世のある時期以降，この基軸が意識されていたと考えられる。

#### (2) 土坑墓

Ｊ-26 区では，土坑１基と，いずれも人骨と六道銭と考えられる古銭を伴う平面円形の土坑墓５基が，密集して検出された。六道銭は全て寛永通寶で，土坑墓１号は６枚，土坑墓２～５号は７枚が出土した。いずれも「文」字をもたない新寛永（鋳造期間は 1697～1712 年）を主体とし，土坑墓１・３～５号は寛永 13 年（1638）鋳造開始の古寛永を，土坑墓１・２・４・５号は寛文８年（1668）鋳造開始の背文銭を，土坑墓１・３号は背文銭と同時期の文無背銭を，土坑墓４号は寛保年間（1741～44）鋳造の背元銭を含み，元文４年（1736）鋳造開始の鉄銭は出土しないことから，概ね 18 世紀前半の銭貨流通状況を反映した土坑墓群と考えられる。このうち，土坑墓２・４号との切合い関係から土坑墓５号が最も古く，背元銭が出土した土坑墓４号が最も新しい可能性があるが，他の新旧関係は不明である。いずれも 18 世紀前半～中頃の土坑墓と考えられる。

いずれの土坑墓も木棺の痕跡を確認できなかったが，人骨の残存状況から，木棺内の空間が保たれている段階で頭骨が朽ちて棺底に落下したと考えられる。早桶タイプの木棺に座葬された成人の可能性が高いと推測され，土坑墓１・５号は西向き，土坑墓２号は北向きの座葬であったことがわかる（鹿児島女子短期大学下野真理子助手御教示）。本県近世墓の発掘調査成果によれば，平面円形の墓壙の場合は，遺体収納容器の平面形も円形の桶型木棺が想定でき，大隅半島ではこの組み合わせが多いとされる（藤井 2013）。本遺跡第２地点で検出した近世土坑墓も，同じ傾向にある。

## ２　遺物

### (1) 陶磁器

肥前系の陶磁器には，16 世紀末～17 世紀前半の陶器碗・皿，17 世紀後半～18 世紀前半の陶器碗，18 世紀代の磁器皿，18 世紀中頃～19 世紀前半の磁器碗・筒型碗がみられ，近世の全時期を通じて，肥前系陶磁器が流入している。

龍門司系の薩摩焼では，外底面まで施釉された古手の碗や，徳利，灯明皿が出土した。

苗代川系の薩摩焼には，18 世紀前半以前の壺・甕類の底部，18 世紀前半～19 世紀にかけての甕，18 世紀後半の鉢類などの他，仏具もみられる。17 世紀後半～18 世紀前半頃の徳利のなかで堂平窯産の可能性をもつものや，18 世紀後半～19 世紀の土瓶に，注口内側が１つ穴のものがみられ，用途による使い分けがみられる。

### (2) 寛永通寶

土坑墓５基から，六道銭 34 枚と包含層から出土した４枚の計 38 枚の寛永通寶が出土した。寛永通寶の法量による分類（高橋 2001，川根・石川・植木 2005）を参考に，本報告掲載寛永通寶を分類した。

掲載古銭のうち，鋳字体からＡ：古寛永（1053，1066～67，1075，1082，1088），Ｂ：背文銭（1056，1060～61，1077，1087）と判断される古銭 11 枚は，いずれも，この法量と合致している。Ｅ：背元銭１枚（1079）を除く，残る 26 枚の古銭を銭径・銭厚・重量で分類すると，Ｂと同時期のＣ：文無背銭は３枚（1054，1058，1069），Ｄ：元禄～正徳期の新寛永は 19 枚（1055，1057，1059，1062～64，1068，1071～72，1076，1078，1080～81，1083～84，1086，1234～36）の 22 枚が合致する。鋳字では新寛永にみえる３枚（1065，1070，1085）は，銭径がＡのみに合致する。また，1237 は，銭径・重量がＡに合致するが，各分類の法量を超える 1.8㎜の銭厚を測る。この４枚を除く出土古銭 34 枚は，17 世紀半ば～後半の 50 年間に鋳造されたＡ・Ｂ・Ｃの型が 14 枚，18 世紀前半頃の 50 年間に鋳造されたＤ・Ｅの型が 20 枚となる。

鉄製・真鍮製の寛永通寶が鋳造されるようになる近世後期の銭貨が見えず，土坑墓は 18 世紀前半～半ば頃の時期にとどまっている。近世陶磁器は，17 世紀代は少数で，大半が 18 世紀代のものと考えられる。調査対象範囲では住居跡等の遺構が検出されていないが，今回発掘調査された遺構・遺物からは，18 世紀代が調査対象範囲における集落の中心的な時代と考えられる。

# 第４節　永吉天神段遺跡周辺の歴史的環境

## １　永吉天神段遺跡所在地について

### (1) 档ヶ山（まてがやま）

本遺跡は，曽於郡大崎町永吉の小字天神の台地に所在するが，一帯は档ヶ山と呼ばれる。地名の由来は不詳だが，参考までに大修館書店版『大漢和辞典』で「档」の字義を調べると，一こしかけ，木の名のほかに，二ふち，文書の意味があり，参照語の「档案」には，官署の案文書，官署の記録とある。地名に用いられるのは珍しく，同書には当地「档ヶ山」が特記される。字義との関連は確かめられないが，第１地点の古代集落には識字層の存在が指摘されている（埋調査セ 2016）。また，第２地点Ｆ－ 44 区土層断面における植物珪酸体分析では，Ⅳａ層時期にはシイ属などが生育する照葉樹林が広がっていたことが推定されるが，Ⅲａ層時期にはイネ科植物の生育に適した定期的な刈り取りや火入れなどの人為的な植生干渉がなされていた可能性がある（埋調査セ 2017）。档ヶ山の地名の由来として，前記の字義や，マテバシイ等の植生分布の可能性をあげておく。

### (2) 天神

所在地の字「天神」については，周辺に天満宮に関するものは見当たらず，釈迦・観世音・阿弥陀を神体とする前述の彦三所大権現が所在する（「大崎名勝誌」）。筑豊境の英彦山神宮は天孫が下った地とされ，アメノオシホミミノミコト・イザナギノミコト・イザナミノミコトを祭神とするが，その本地仏は釈迦・千手観音・阿弥陀如来である。天神には，いわゆる天満宮の天神の意のほか，天神地祇の天津神の意味の天神がある。档ヶ山の小字天神は，彦三所大権現の神体が垂迹した天津神に関連するものととらえておく。

### (3) 永吉

大崎町永吉は，大崎町南部の持留川右岸を指すが，南北朝期の正平十四年（1359）島津氏久寄進状には「日向国救二郷永吉東方比志田内地頭屋敷二ヶ所」と見え，永吉に隣接または包含される比志田に地頭屋敷が所在している。比志田は現在の大崎町菱田と思われ，近隣には領家，春日島などの近衛家領島津荘所縁の地名があった（『大崎町史』）。薩摩国では「永吉名」＝「地頭名の各郡散在名」と考えられる（水上 1955）。鎌倉時代末に救仁院・救仁郷地方の地頭代官として志布志宝満寺に所領を寄進する源太資清は，北条残党等による建武元年（1334）「島津庄日向方南郷濫妨狼藉謀叛人等交名」の，鎌倉幕府最後の執権である赤橋守時家人の救仁郷源太（「薩藩旧記雑録」）と考えられる（五味 1967）。大崎町永吉は，南北朝以前に，島津荘日向方惣地頭である赤橋系北条氏の地頭名であった可能性がある。

### (4) 救仁郷（くにごう）

大崎町は，近代以前には大隅国ではなく，日向国諸県

郡救仁郷（救二郷）に属した。この状況は「建久図田帳」に日向国諸県郡の島津荘一円荘として救仁郷160町が見え，中世前期までさかのぼる。中世史料には，救仁郷内に蓬原・比志田・飯隈・益丸・永吉が見え，鹿児島県志布志市と大崎町の境を南流する菱田川を境に，右岸は救仁郷，左岸は救仁院（救二院）に分かれていた。

東九州自動車道（志布志ＩＣ～鹿屋串良ＪＣＴ間）建設に伴う発掘調査対象遺跡としては，見帰遺跡・安良遺跡・小牧古墳群・次五遺跡・木森遺跡が救仁院，春日堀遺跡・平良上Ｃ遺跡・宮脇遺跡・荒園遺跡・永吉天神段遺跡・京の塚遺跡が救仁郷に該当する。

救仁院・救仁郷は，日向国の律令郡郷名に見えず（「倭名類従抄」），日向国の古代駅名に「救仁」がある（「延喜式」）が，古代駅路の西海道の推定経路から志布志湾岸は離れており，駅名「救仁」と，大崎町域の「救仁郷」を関連づけることは難しい。救仁郷は平安時代後期の郡郷制の改編を経て定着した郷名の可能性がある。全国的には，■●国■●郡■●郷と，国郡郷名が一致する例が散見するが，その変化例として，「クニ」郷が考えられる。救仁郷が，日向国日向郡日向郷と称されていたとは考え難く，中世以降に地名が失われた大隅国大隅郡大隅郷が比定される（平田1993）。

本来，大隅国にあった救仁郷は，平安時代後期の郡郷制改編を経て，日向国諸県郡に移管された可能性がある。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて，救仁郷・救仁院の弁済使等に薩摩平氏の救仁院・安楽氏が知られ，近隣の櫛間院（宮崎県串間市域）や大隅国肝属郡等の島津荘内の弁済使等と互いに姻戚関係を築いていた（「薩藩旧記雑録」「備忘録抄」「肝付系図」「櫛間院本主次第手継系図」）。救仁郷・救仁院が大隅国から日向国へ移管されたものであれば，その契機は，万寿三年（1026）に平季基によって立荘された島津荘の成立・拡大と関連するものと考えられる。

## ２　遺跡と文献資料から見る中世前期の志布志湾岸

中世前期には，薩摩平氏系の救仁院氏・安楽氏に代わり，救仁院に伴姓安楽氏，救仁郷には志布志市有明町蓬原を拠点に伴姓救仁郷氏など，肝付氏族が見える。中世遺構・遺物が豊富な川久保遺跡（鹿屋市串良町細山田）は肝付氏族北原氏の本貫地に隣接するが，北原氏は救仁郷氏から分出し，後に安楽氏から養子を迎えたと考えられ（『東串良町郷土史』），菱田川から串良川の間で，救仁郷氏が活動していたと考えられる。日向・大隅両国の守護職と島津荘惣地頭職は，島津氏から北条氏一門に移り，救仁院宝満寺（志布志市）や柏原別府（肝属郡東串良町）を通じて種子島に至る航路･港湾権益を北条氏が握る（松尾2012）とともに，北条氏地頭代らの在地権益への浸食がみられる。志布志湾岸一帯で活動した北条氏の地頭代や被官らは，南九州外から進出した者（大隅惣地頭名越系北条氏の地頭代肥後氏・布施氏・門貫氏，鹿屋院地頭代津野氏，櫛間院地頭代と考えられる河野氏または阿野氏や野辺氏等）や，もともと島津荘弁済使などの在地勢力の庶流から被官化したと考えられる者（救仁郷源太，救仁郷弁済使宗頼，救仁院図師馬入道道西）がみられ，在来の弁済使らとの争論が絶えない。

中世後期以降，近世に至る救仁郷氏は，源姓を名乗っている。肝付氏族の系図によっては，伴姓救仁郷初代兼綱が養子を得て，その子孫は代々「宗」を通字（「伊地知季安著作集　肝付系図」）としており，源姓と考えられる救仁郷源太や弁済使宗頼は，この系統にあたるかもしれない。救仁郷氏の系譜の交替あるいは仮冒がみられ，肝付氏から離れていく。南北朝期には，本遺跡南方の胡麻ヶ崎城（曽於郡大崎町狩宿下）に後醍醐天皇近臣の千種忠顕の雑掌が入城したり，信濃国に由来すると考えられる楡井頼仲が志布志湾岸で活動したり，熊野水軍の南九州渡来などの争乱を経るが，その後は，南九州以外からの外来勢力の進入・定着はみられなくなる。広域流通品ではない紀伊産の土師質釜の出土南限を，高知県から南下させた本遺跡における出土例は，このような鎌倉・南北朝期の人の往来を念頭に検討する必要がある。後の日明貿易で堺を拠点に細川氏が活用する，紀伊半島から南九州に至る太平洋岸航路は，1340年代には既に存在していた（綿貫2010）。

本県や宮崎県では，湖州鏡の出土遺跡や奉納伝世された神社は，河川流域や周辺に水田をひかえた共通点があり，平安時代から鎌倉・室町時代にかけて，ある程度の政治力や経済力をもつ勢力の存在が想定でき，彼らが12世紀には末法思想を受容して湖州鏡を副葬したとされる（上村1994）。

また，紀伊産の土師質釜が出土した高知県上ノ村遺跡は，中世都市高岡町を支える13世紀の仁淀川下流域の川津機能を果たしていた（出原2010）。本遺跡では，第１地点の識字層と関わる古代集落，第２地点では，12世紀と考えられる中世土坑墓２号副葬の湖州六花鏡，鎌倉時代の太平洋岸の交易を推定できる紀伊産の土師質釜のほか，青磁・白磁・中国製壺や東海・播磨・備前産陶器の出土など，遠隔地との交流を行う政治・経済力を有する人々の存在が想定される。

近年の発掘調査の成果によって，従来不明瞭であった，大隅半島北部の中世の様相が，垣間見えてきている。郡元西原遺跡（宮崎県都城市）では，島津荘成立・拡大期の荘政所に関連すると想定される大溝が検出されている（現地説明会）。島津荘政所の荘務を預かる藤原姓富山氏の一族富山勾当安兼が百引村弁済使に補任（承安五年八月十四日付及び安元元年十二月日付「富山氏文書」『薩藩旧記雑録』前編巻一）された地の新田遺跡（鹿屋市輝北

町百引），その南東約６㎞の天神段遺跡（大崎町野方）では，古代・中世の遺構・遺物が豊富に発見され，大隅半島の南北方向や志布志湾との交通上の要衝の遺跡として注目されている。

本遺跡は，新田遺跡から天神段遺跡を経て，県道 64 号線で志布志湾へ向かう途上の持留川の対岸に所在する。大隅半島で古代駅路の存在を想定することは難しいが，今後の志布志湾岸など大隅半島各地の発掘調査成果の増加とともに，文献史との整理検討を進める中で，伝路などの古代交通路や島津荘内の交通路・港津施設の復元が深化されることで，本遺跡の志布志湾岸での古代・中世史上の位置づけの理解が深まると考えられる。

主な整理・報告書作成作業協力者（敬称略　50 音順）
池澤　俊幸，北野　隆亮，斎木　巌，佐藤　亜聖，
柴田　圭子，原田　昭一

## 引用・参考文献

有川孝行 2004『油須木城跡』郡山町埋蔵文化財発掘調査報告書第４集
池澤俊幸 2010「南四国に搬入された中世土器・陶磁器と海運」『中世土佐の世界と一条氏』市村高男編
池澤俊幸 2013「南四国・仁淀川流域の遺跡と水運」『中近世土器の基礎研究』25　日本中近世土器研究会
石野弥栄 2015「鎌倉～南北朝期河野氏の遠隔地所領支配」『中世河野氏権力の形成と展開』
出原恵三他 2010『上ノ村遺跡Ⅰ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 107 集
上床真 2004「鹿児島県における中世煮炊具の一様相」『研究紀要・年報 縄文の森から』第２号　鹿児島県立埋蔵文化財センター
小野信彦 1990『傘下遺跡』北方町文化財報告書第１集
鹿児島県教育委員会 1983『成岡・西ノ平・上ノ原遺跡』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書第 28 集
鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 2017『永吉天神段遺跡２　第２地点－１　旧石器・縄文時代編』（公財）埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(13)
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2002『鍛冶屋馬場遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 39 集
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『楠元・城下遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 57 集
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2009『市ノ原遺跡（第３地点）』鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書第 140 集
上村俊雄 1994「南九州出土の湖州鏡について」鹿児島大学法文学部紀要『人文学科論集』第 39 号
川根正教・石川功・植木真吾 2005「寛永通寶銅銭の形態的特徴と金属成分分析」『日本考古学』第 20 号　日本考古学協会編
北野隆亮 2005「和歌山平野における瓦器の分類と変遷―紀伊型瓦器椀の認識とその評価―」『紀伊考古学研究』第８号
北野隆亮 2006「紀伊型瓦器椀の編年と分布」『中近世土器の基礎研究』第 XX 号　日本中世土器研究会
霧島市教育委員会 2006「桑幡氏館跡」Ⅱ
鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 2016『永吉天神段遺跡　第１地点』（公財）埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（８）
五味克夫 1967「島津庄日向方救二院と救二郷」『日本社会経済史研究』古代中世編　寶月圭吾先生還暦記念会編
五味克夫 1994「志々目家文書の再考察」『鹿児島女子大学研究紀要』Vol.15-No.2
阪本敏行 2011「熊野水軍　中世前期を中心として」『海の熊野』森話社　谷川健一・三石学編
櫻井準也・小中美幸 2016「鍋被り葬研究の成果と新発見例」『日本考古学協会第 82 回総会　研究発表要旨』一般社団法人日本考古学協会
薩摩町教育委員会 2001「寺屋敷遺跡・通山遺跡・宮ノ前遺跡・犬木屋遺跡」薩摩町埋蔵文化財調査報告書第３集
高橋照彦 2001「近世銭貨の生産と品質規格－寛永通寶と長崎貿易銭の法量計測的研究－」『奈良国立博物館研究紀要　鹿園雑集』第２・３合併号
出口順一郎・堂込秀人 2003『長田遺跡』有明町埋蔵文化財調査報告書（２）
徳永貞紹 2009「肥前における中世前期の畿内系土製煮炊具」『新東晃一代表還暦記念論文集　南の縄文・地域文化論考』中巻　南九州縄文研究会新東晃一代表還暦記念論文集刊行会
橋口亘 2006「鹿児島県出土の備前焼」『備前歴史フォーラム　備前焼・海の道・夢フォーラム 2006～備前焼の歴史と未来像をもとめて～』備前市教育委員会・備前市歴史民俗資料館
平田信芳 1993「古代の大隅地域－大隅郡の境域と日向への道－」『歴史の道調査報告書　第五集　大隅地域の道筋』鹿児島県教育委員会
藤井大祐 2013「発掘調査事例からみた鹿児島県域の近世墓」『鹿児島考古』第 43 号　鹿児島県考古学会
松尾剛次 2012「中世叡尊教団の薩摩国・日向国・大隅国への展開－薩摩国泰平寺・日向国宝満寺・大隅国正国寺に注目して－」『山形大学人文学部研究年報』第９号
水上一久 1955「南北朝内乱に関する歴史的考察－特に薩摩・大隅地方について－」『金沢大学法文学部論集哲学史学篇』
綿貫友子 2010「中世の太平洋海運」『海事博物館研究年報』38

# 写　真　図　版



溝状遺構３号とその周辺（北西から）



G～Ｉ－42・43区 遺物出土状況（北西から）



鉄製品（1029）出土状況（Ｆ－41区）



Ｊ・Ｋ－28～30区 遺物出土状況と溝状遺構８号（西から）



石鍋転用品（984）出土状況（Ｅ－32区）



掘立柱建物跡５号とその周辺（西から）



Ⅰ・Ｊ－ 27～30 区境 南面土層とその周辺（南から）



黒色土師器（381）出土状況（Ｆ－ 31 区）



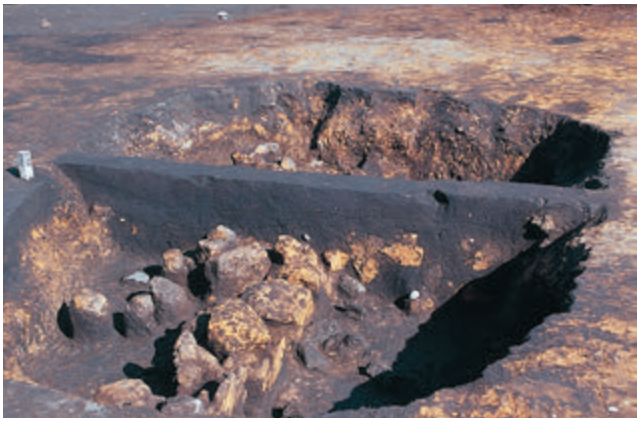
Ｊ・Ｋ－ 25・26 区 中世遺構と近世墓群（東から）



青磁碗（581）出土状況（Ｅ－ 28 区）



アカホヤブロック・礫出土状況（南東から）



土層（南西から）



南側の横穴（北から）



軽石出土状況（北東から）



完掘（北東から）

図版4　中世の掘立柱建物跡



1号（西から）



2号（北西から）



3号（北東から）



4号（北東から）



5号（北東から）



6号



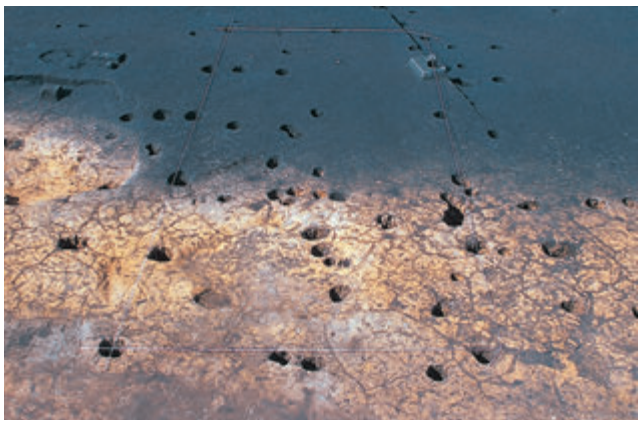
7号（南から）



8号（東から）



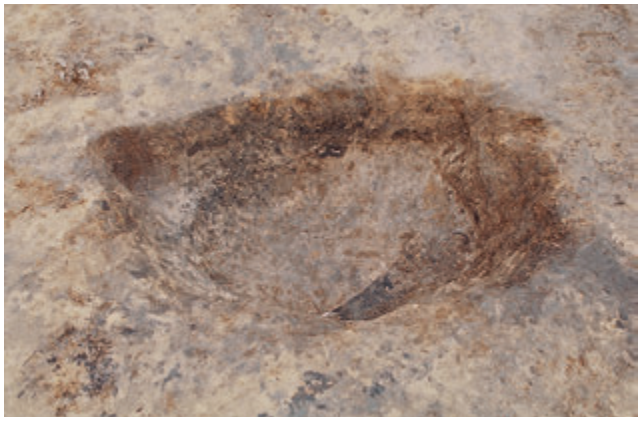
掘立柱建物跡９号（西から）



掘立柱建物跡 10 号（南東から）



土坑１号の検出状況（南西から）



土坑１号（南西から）



土坑２号（南東から）



土坑４号（北西から）



土坑３号の遺物出土状況（南東から）



土坑３号（西から）

図版6　中世の土坑



5号（南東から）



6号（南西から）



7号（南東から）



8号（西から）



9号の土層（西から）



9号（西から）



10・11号（西から）



12号（南から）



13 号（西から）



14 号（南西から）



15・16 号（南西から）



17・18 号の検出状況（北東から）



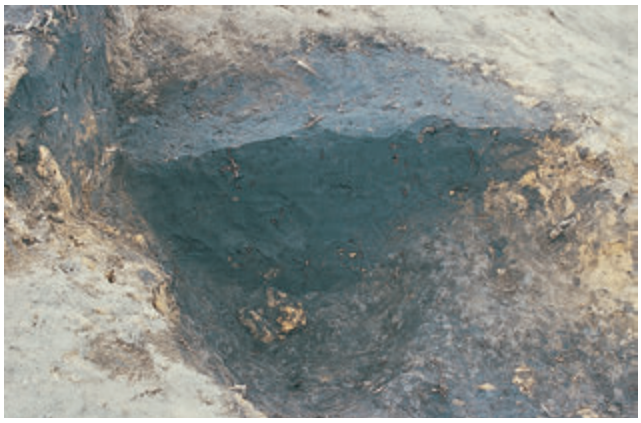
17 号（南西から）



18 号（南西から）



18 号の土層（南東から）



20 号（南西から）

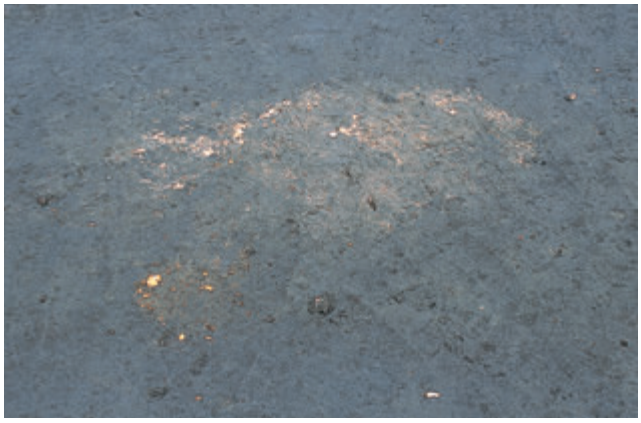

土坑 21 号（南から）


土坑 22 号（南東から）


土坑 23 号（南西から）


土坑 24 号（東から）


土坑 26 号（北から）


鍛冶関連遺構 1 号の焼土検出状況（南から）


鍛冶関連遺構 1 号の土層（南から）


鍛冶関連遺構 1 号（南から）



２号の焼土検出状況（東から）



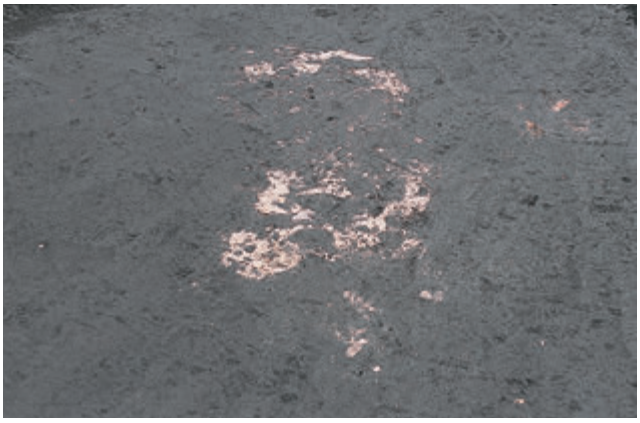
２号（東から）



３号の土層（東から）



３号（東から）



４号の焼土検出状況（西から）



４号（北から）



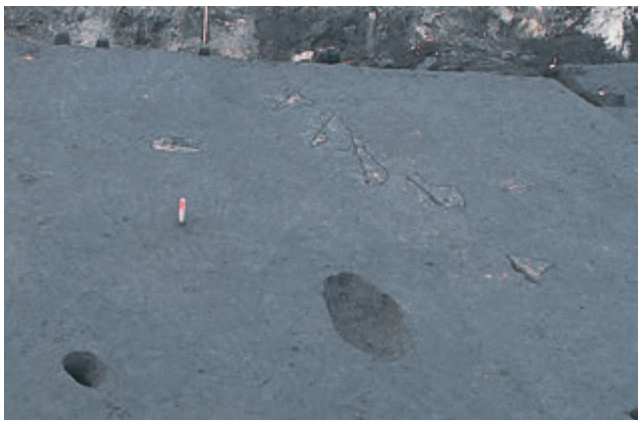
５号の焼土検出状況（南東から）



５号（北から）



鍛冶関連遺構６号（西から）



焼土１～６号（南西から）



焼土１号（北東から）



焼土２号（南から）



焼土３号（南から）



焼土４号（南東から）



焼土５号（東から）



焼土６号（南東から）


祭祀遺構１号の遺物出土状況（北から）


祭祀遺構１号（南から）


祭祀遺構２号の備前焼出土状況（南から）


祭祀遺構２号の古銭出土状況（西から）


祭祀遺構２号（北から）


溝状遺構１号（南西から）


溝状遺構２号の検出状況（南から）


溝状遺構２号の断面と形状（南東から）

図版12　中世の溝状遺構



3号の断面（南東から）



3号（北から）



4号（北から）



6号（北から）



5号（北東から）



5号（北から）



7号の遺物出土状況（南側：北西から）



7号（南側：南東から）



７号の遺物出土状況（北側：北西から）



７号（北側：北西から）



８号（北西から）



８号の断面（南東から）



９号（北から）



10 号の断面（南東から）



11 号（東から）



11 号の断面（南東から）

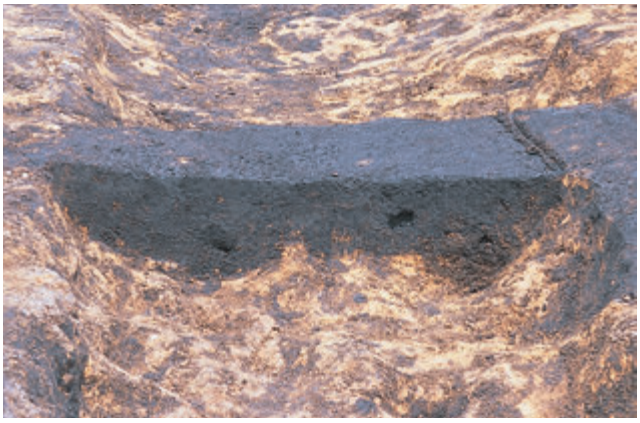
図版14　中世の溝状遺構



12 号（南東から）



14 号（東から）



12 号の断面（東から）



14 号の断面（西から）



13 号（東から）



13 号の断面（南西から）



溝状遺構 15 号（東から）



溝状遺構 16 号（北東から）



溝状遺構 15 号の断面（南西から）



溝状遺構 16 号の断面（南西から）



地下式坑 1 号（北から）



地下式坑 1 号の断面（北から）



地下式坑２号



地下式坑２号の断面（南東から）



地下式坑３号（南東から）



地下式坑３号の断面（南東から）



火葬土坑１号（南東から）



火葬土坑１号の礫出土状況（南東から）



火葬土坑１号の断面（北東から）



火葬土坑１号の断面（北東から）


火葬土坑２号（南から）


火葬土坑２号の断面（南から）


火葬土坑３号（南東から）


火葬土坑３号（南西から）


土坑墓１号（南から）


土坑墓１号の検出状況（南から）


土坑墓２号（南から）


土坑墓２号の遺物出土状況（西から）


土坑墓３号（南東から）


土坑墓４号（北西から）


土坑墓５号（東から）


土坑墓５号の副葬品出土状況（北東から）


土坑墓５号の断面（南から）


土坑墓６号の検出状況（南から）


土坑墓６号（南から）


柱穴８号の遺物出土状況


土坑１号（北から）


土坑１号の断面（南西から）


溝状遺構１号（北から）


溝状遺構２号（北から）


溝状遺構３号の断面（西から）


溝状遺構４号（西から）


溝状遺構５号（東から）


溝状遺構６号の断面（南西から）


溝状遺構６号（南から）


溝状遺構７号（南西から）

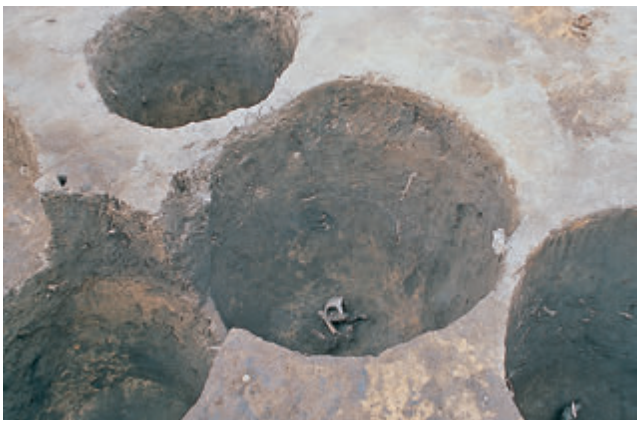

溝状遺構８号（南西から）


溝状遺構９号（南西から）


溝状遺構８号の断面（南西から）


土坑墓１号（南西から）


土坑墓１号の断面（南東から）



２号（南から）



２号の古銭出土状況



３号（北から）



３号の人骨と古銭出土状況



４号



４号の古銭出土状況

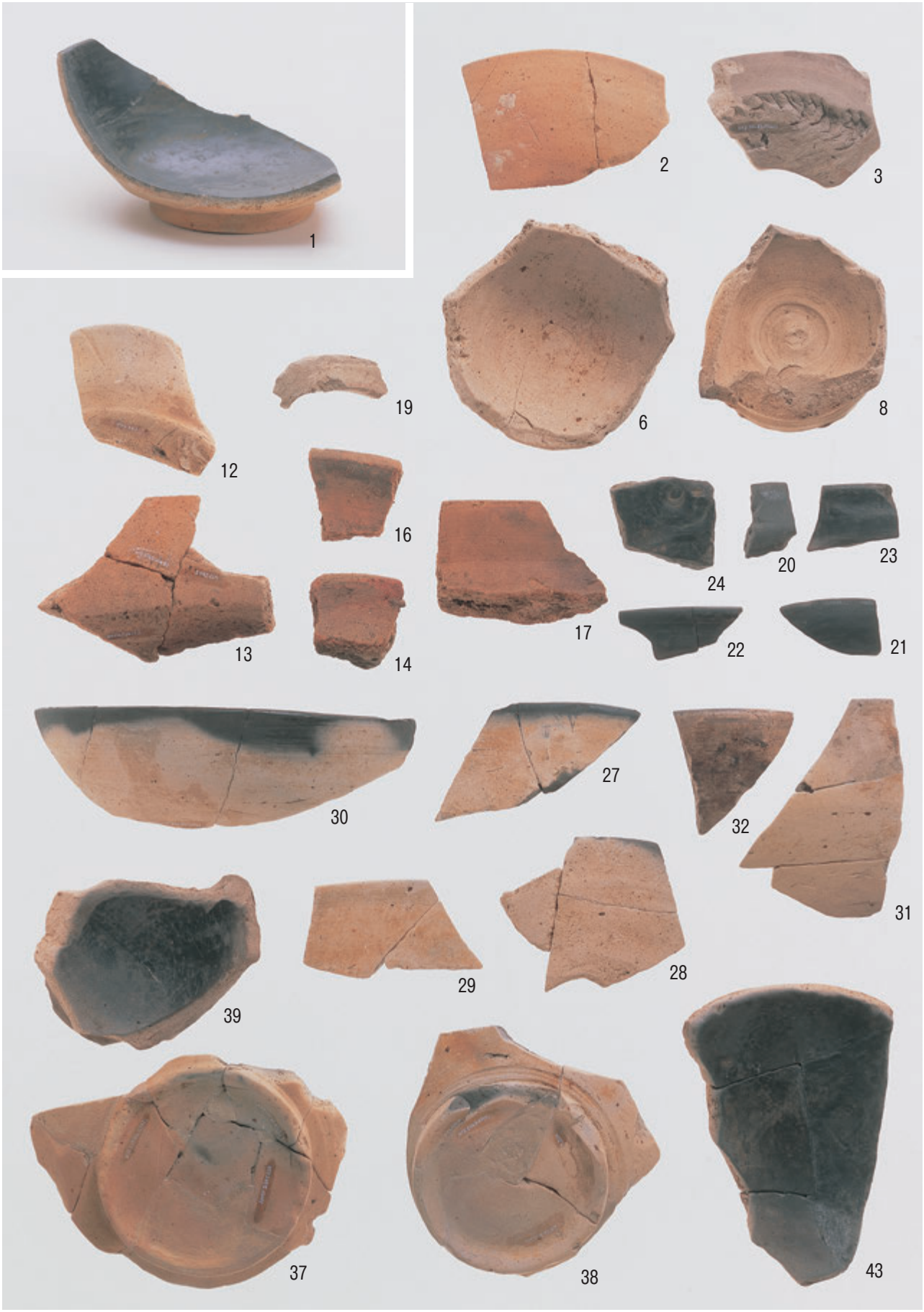


５号（南から）



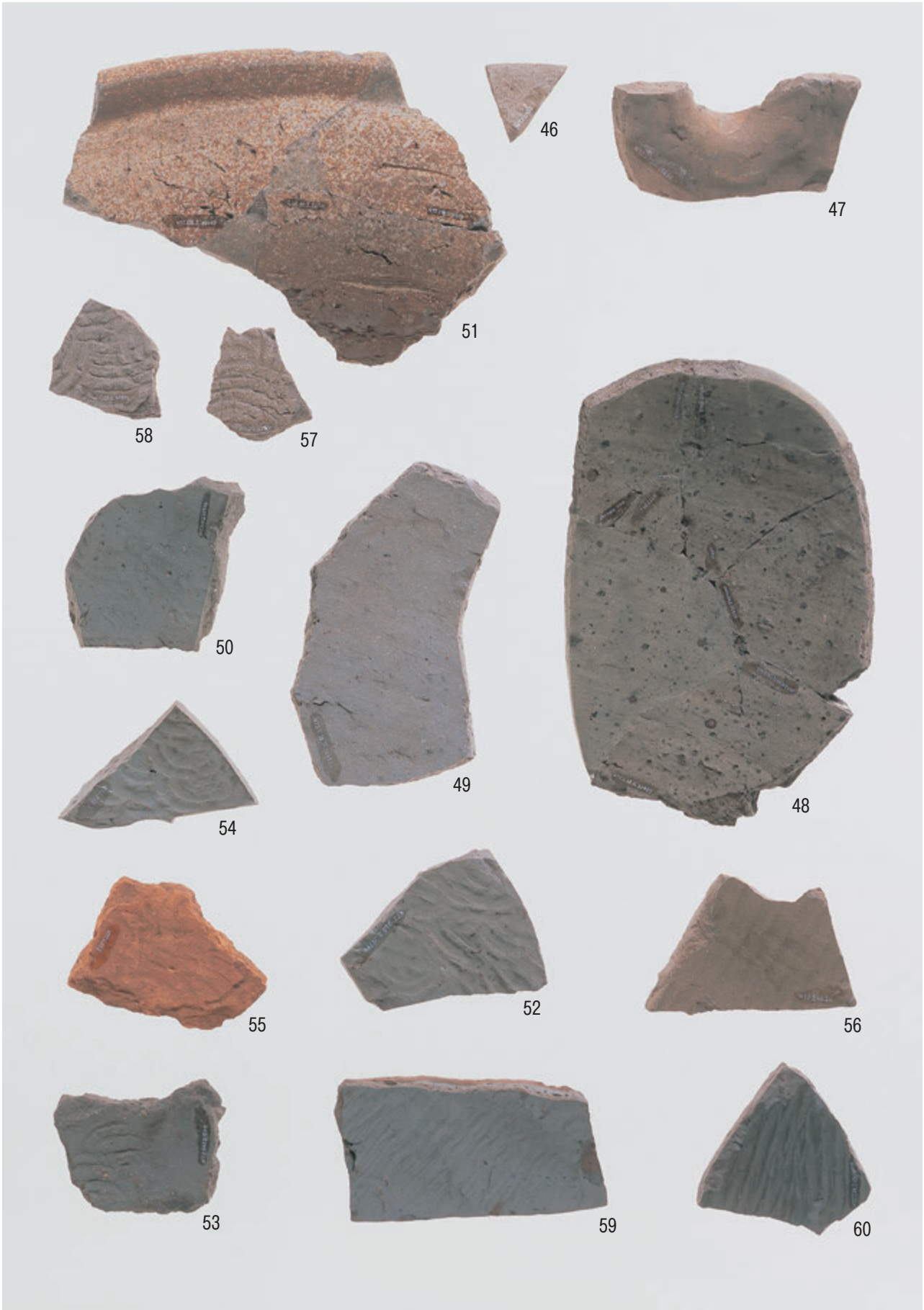
５号の古銭出土状況

図版22　古代の土師器・黒色土器

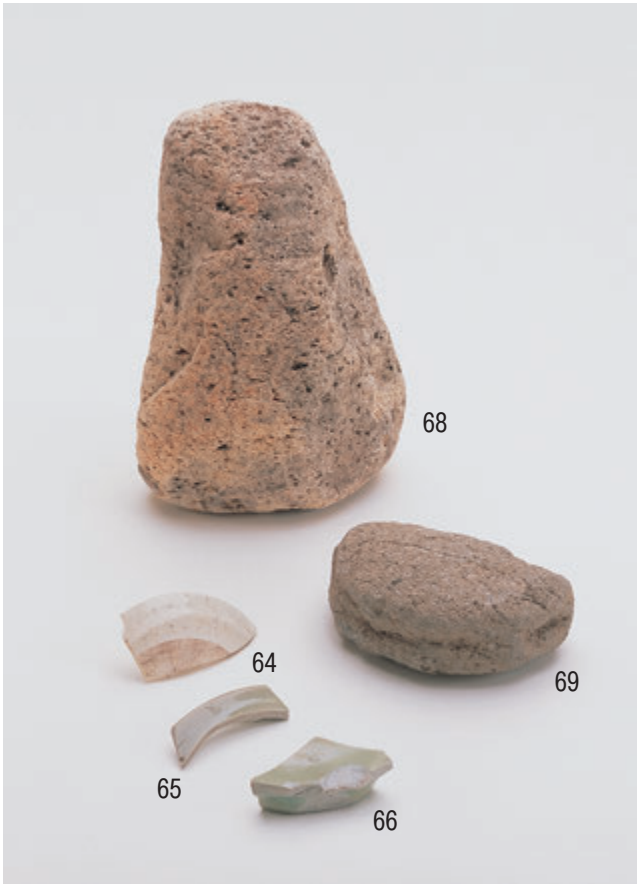



46
47
51
58
57
50
49
48
54
52
56
55
53
59
60

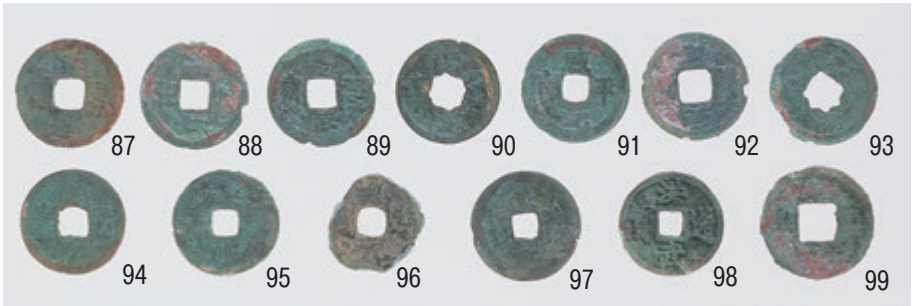
図版24　古代の須恵器（内面）




70
79
76
80
72
81
73
71
74
78
82
75


68
64
69
65
66


100


87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99

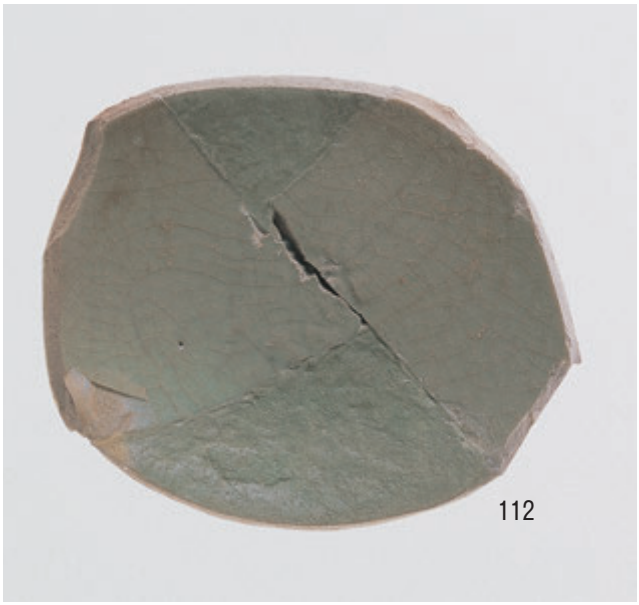

85

図版26　中世遺構出土の遺物（2）



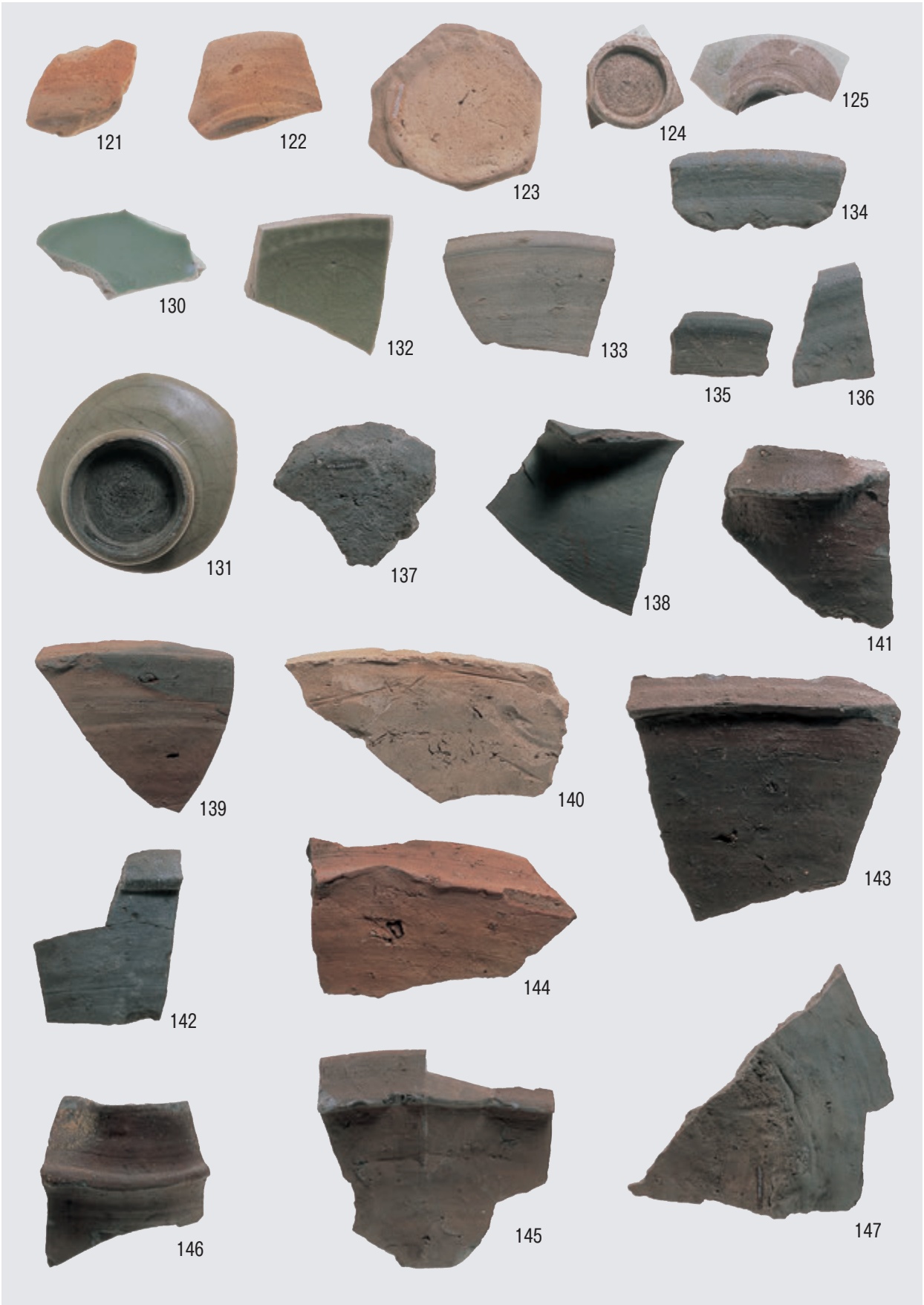

104
105
106


110


112


110


112


121
122
123
124
125
130
132
133
134
135
136
131
137
138
141
139
140
143
142
144
146
145
147


150
151
126
127
128
129
152
148
149

図版30　中世遺構出土の遺物（6）



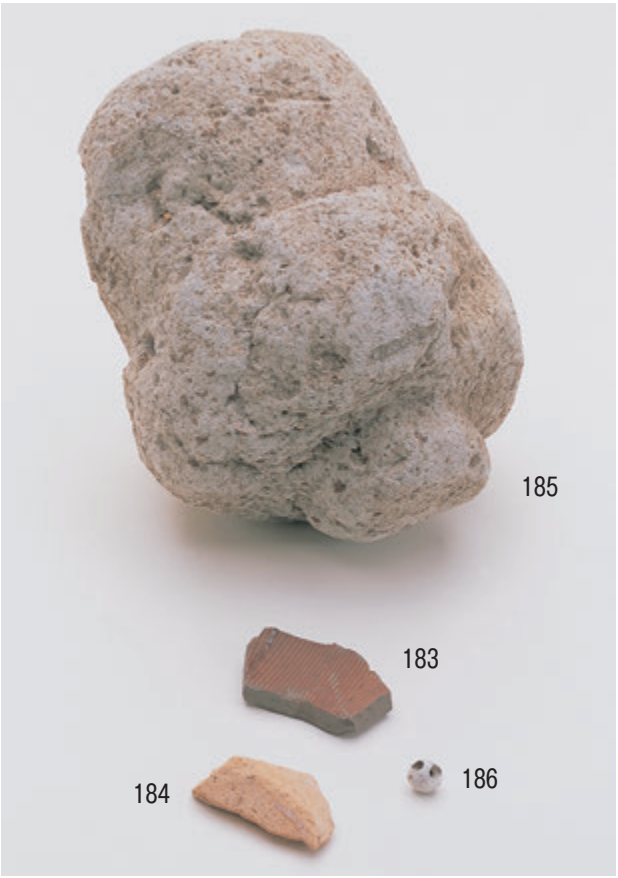




163
162
160
161

図版32　中世遺構出土の遺物（8）

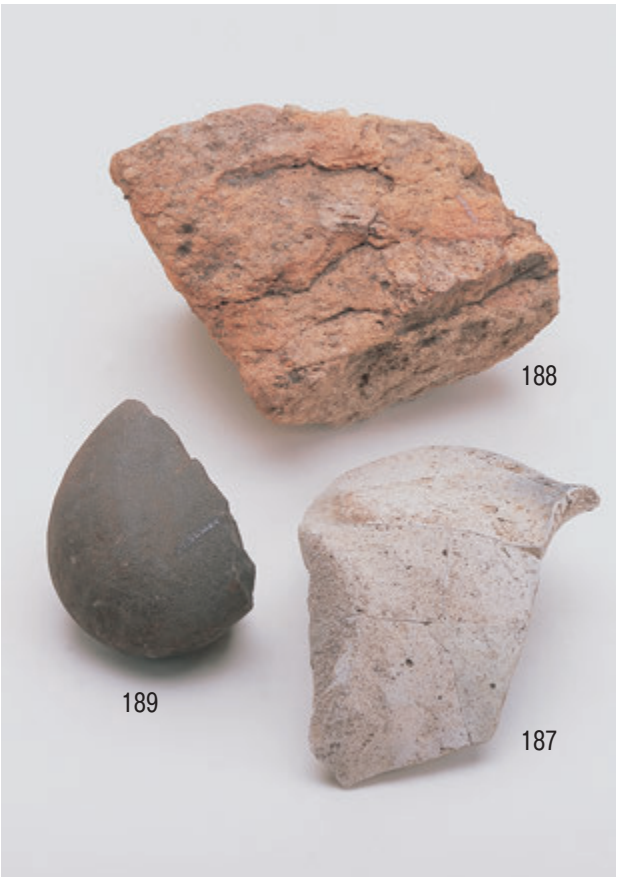









190
191
192


239
233
232
230
238
234
237
235
236

図版34　中世遺構出土の遺物（10）










209
212
211
210
214
208
213


219
215
218
217
216
221
220


226
223
224
225
222


229
227
228


201


242


259


337


243


260


338


245


261


339


246


262


340


248


294


347


254


302


357


256


319

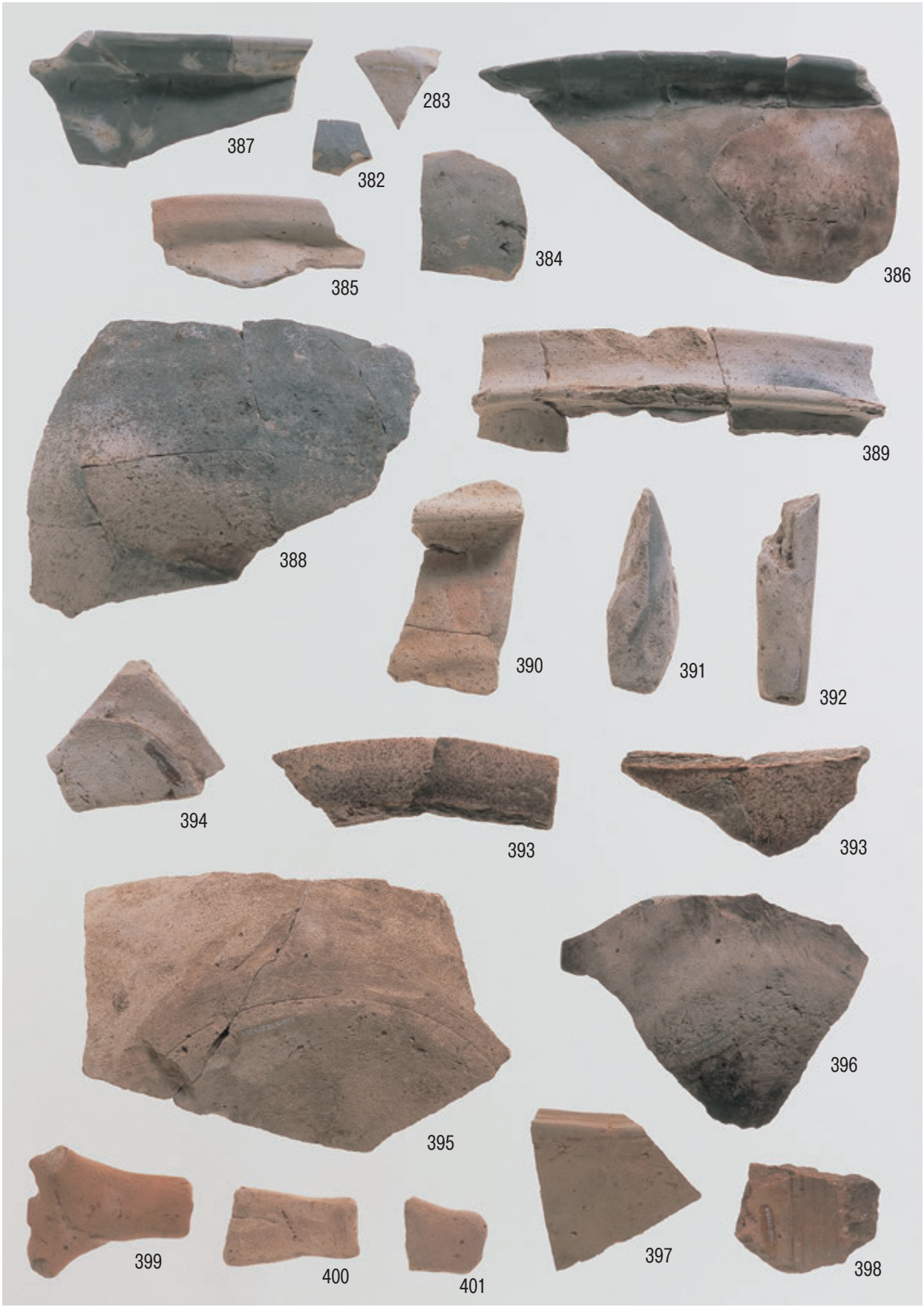

369


258


336


381

図版38　瓦質土器・須恵質土器・土師質土器

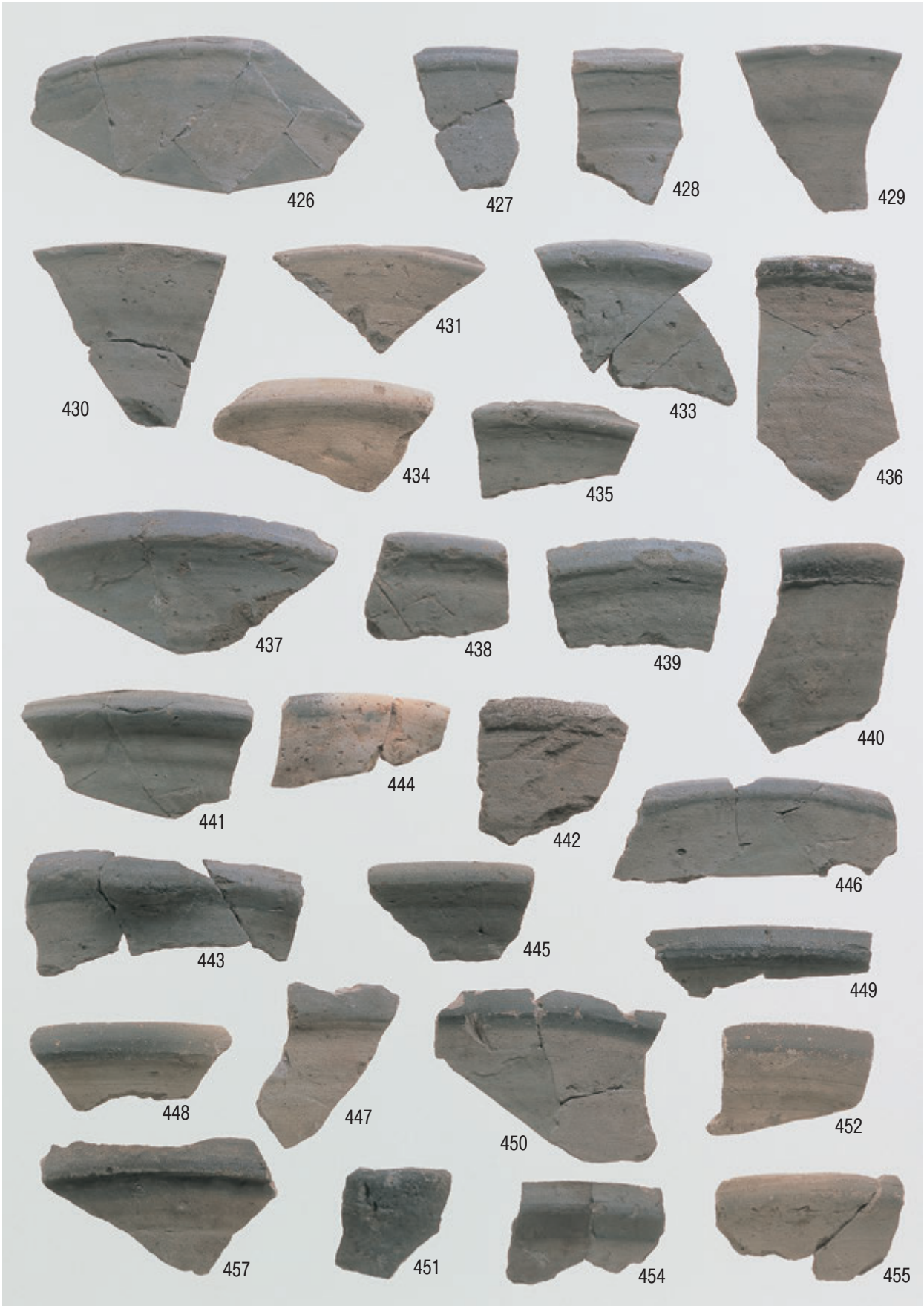



432


424

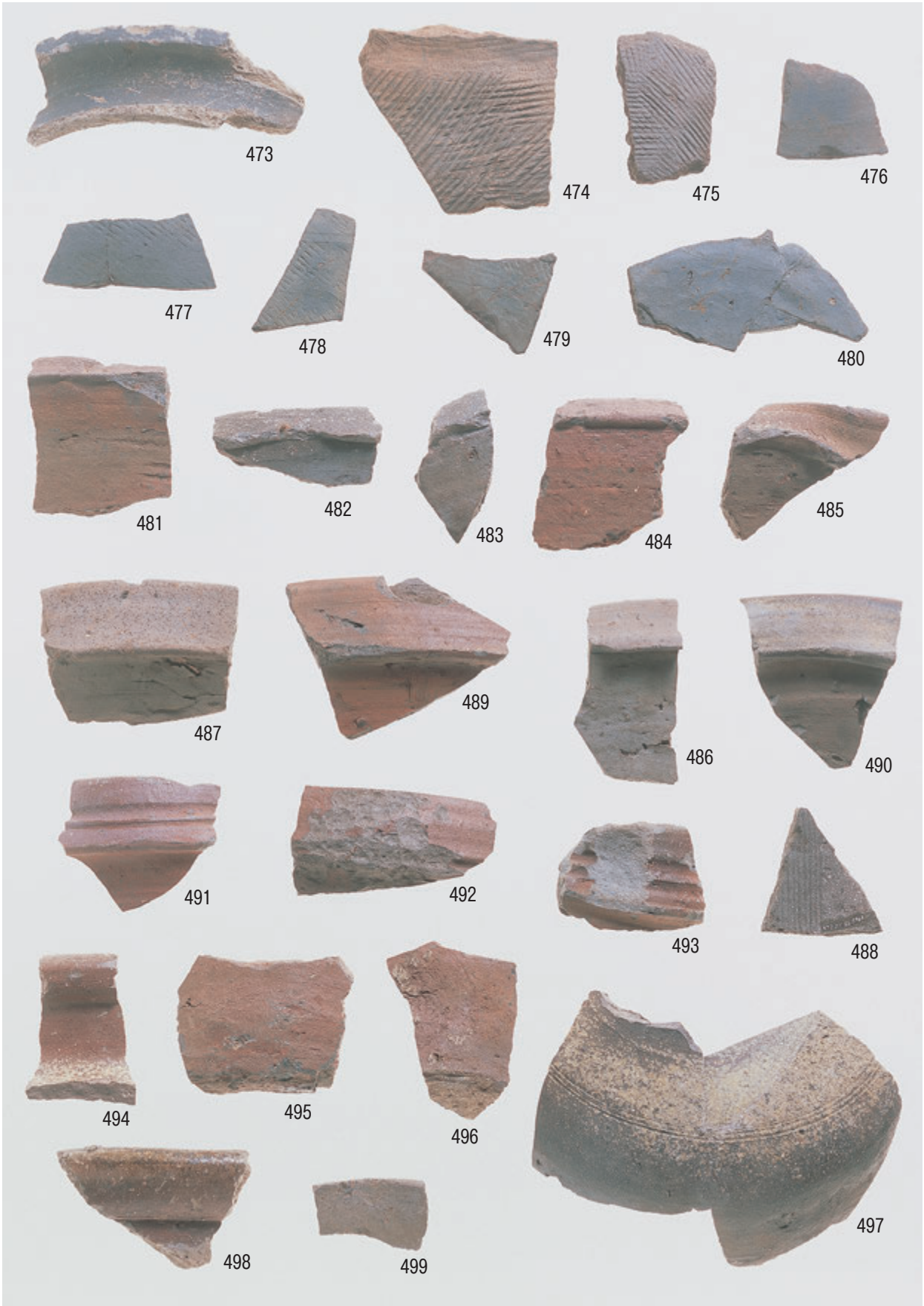

421
425
413
420
412
403
407
410
408
423

図版40　東播系須恵器（2）




458
462
461
459
464
468
460
469
466
463
470
467
471
465
472

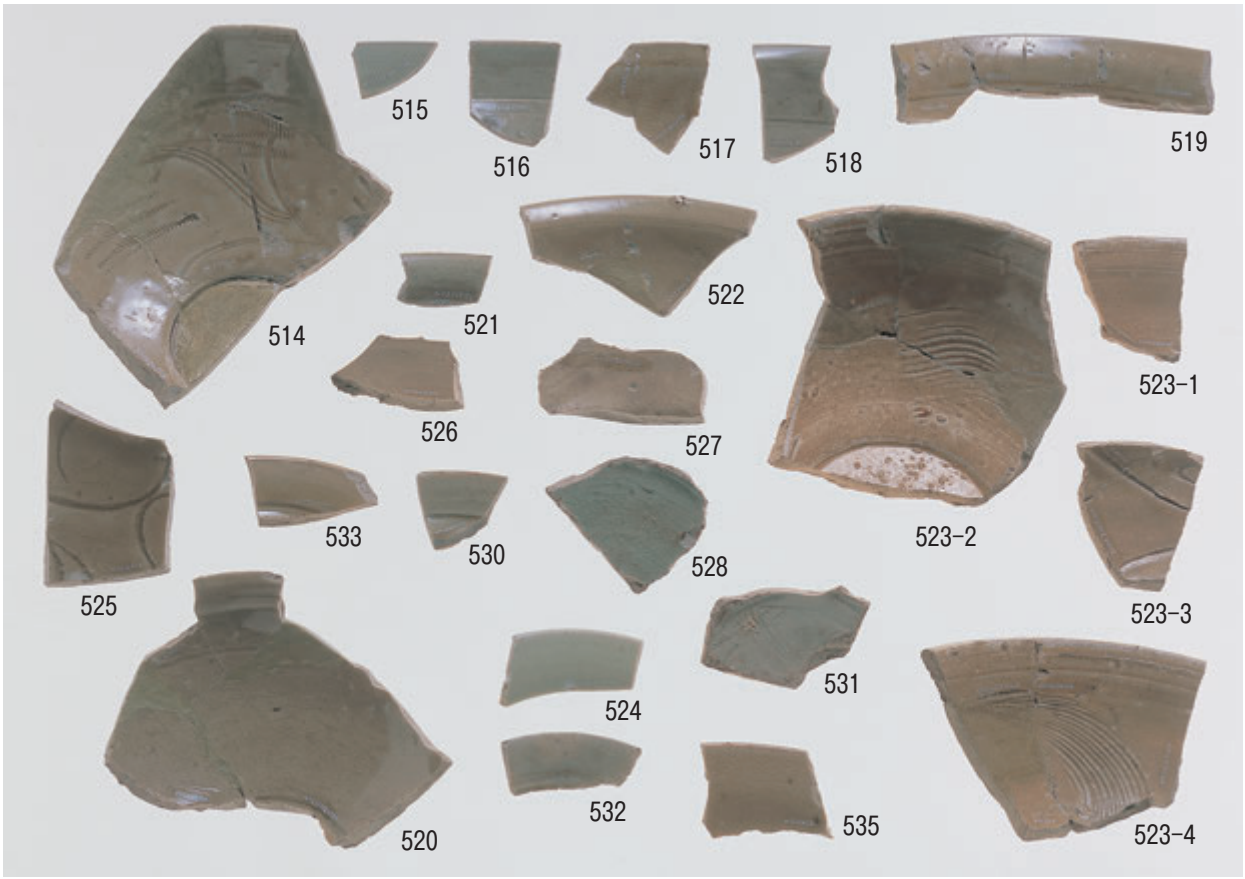
図版42　東播系須恵器（4）・カムィヤキ・備前焼

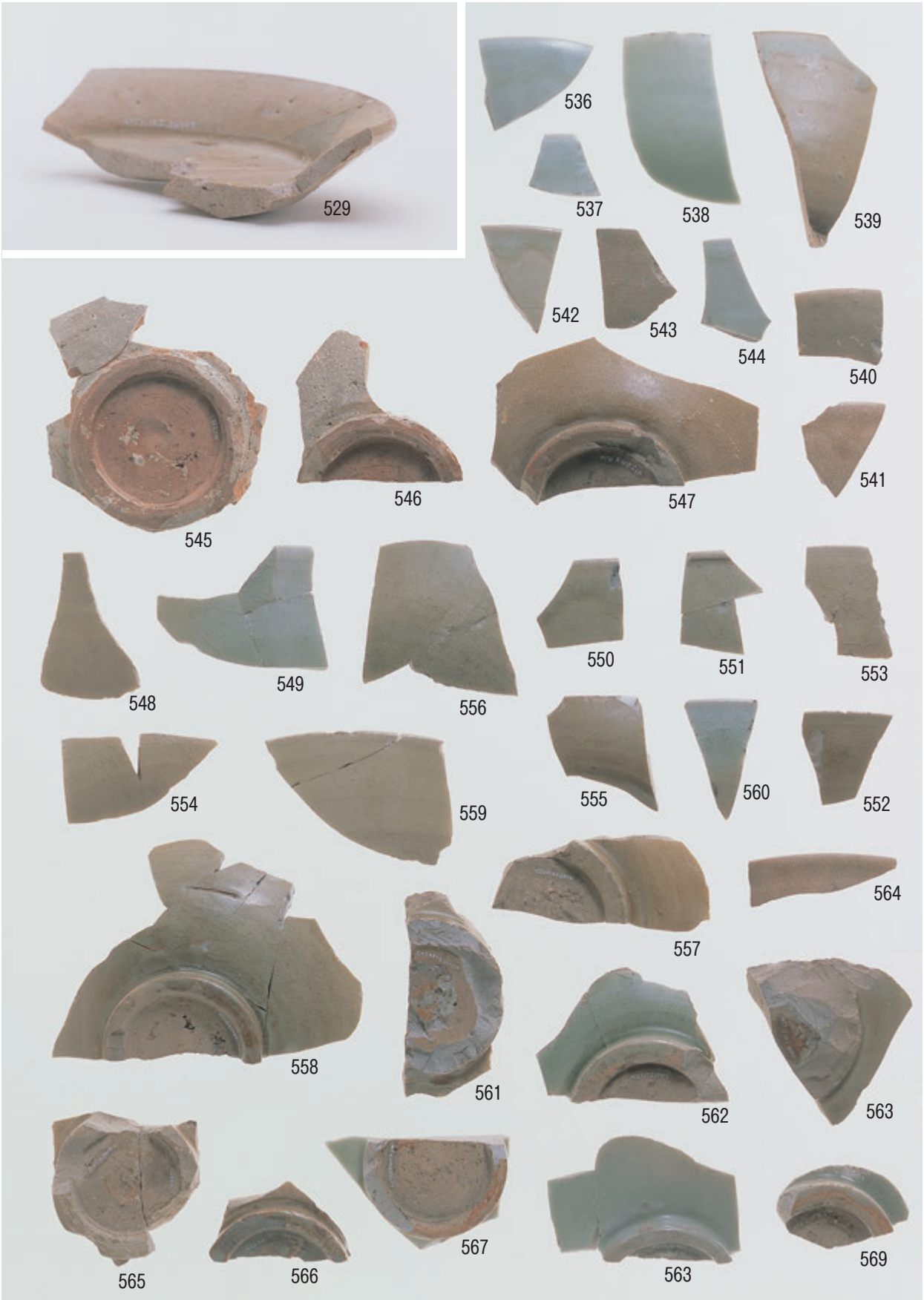



500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513

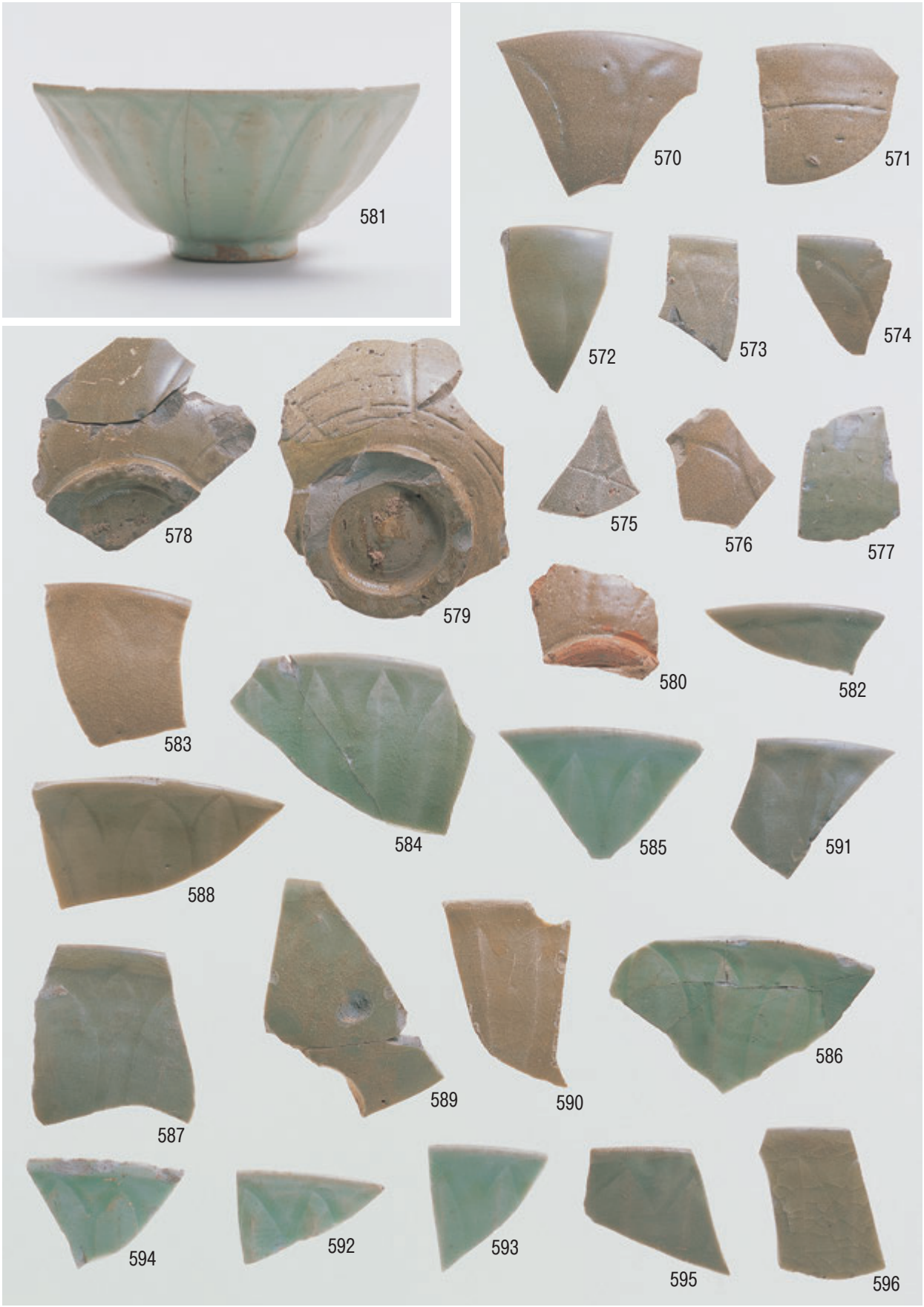
図版44　青磁（1）

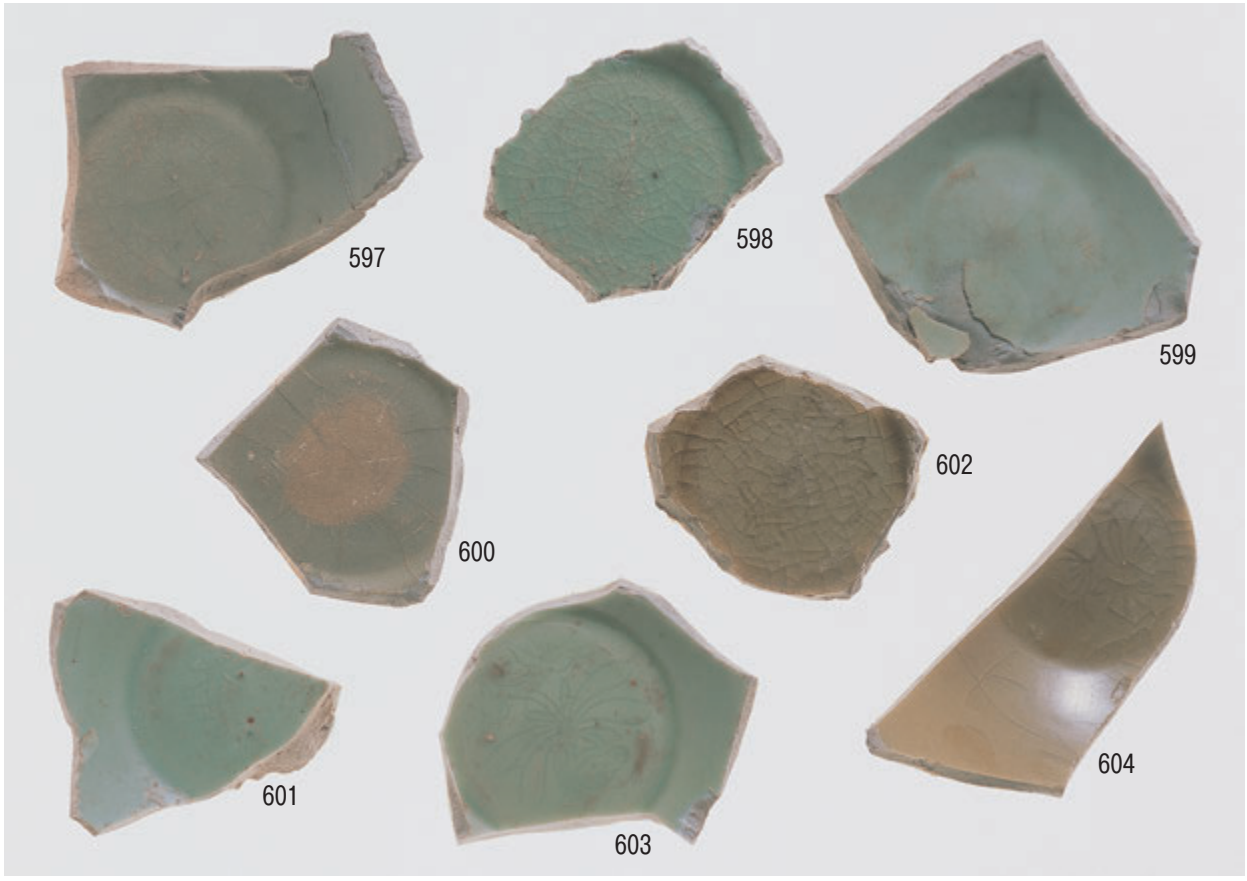

515
516
517
518
519
514
521
522
523-1
526
527
523-2
533
530
528
523-3
525
534
531
532
535
523-4
520


515
516
517
518
519
514
521
522
523-1
526
527
523-2
533
530
528
523-3
525
524
531
532
535
523-4
520

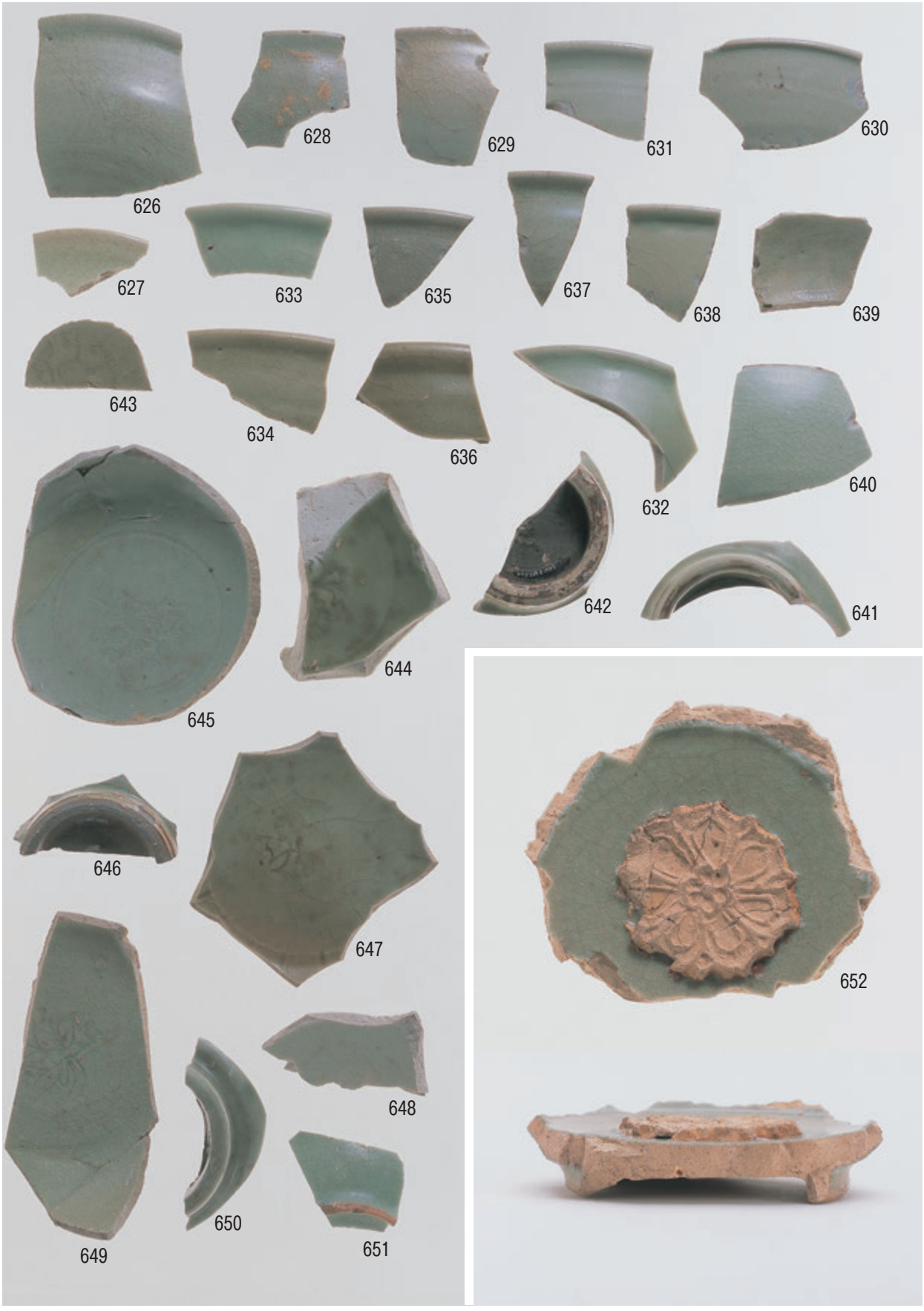

529
536
537
538
539
542
543
544
540
545
546
547
541
548
549
556
550
551
553
554
559
555
560
552
558
561
557
564
562
563
565
566
567
563
569

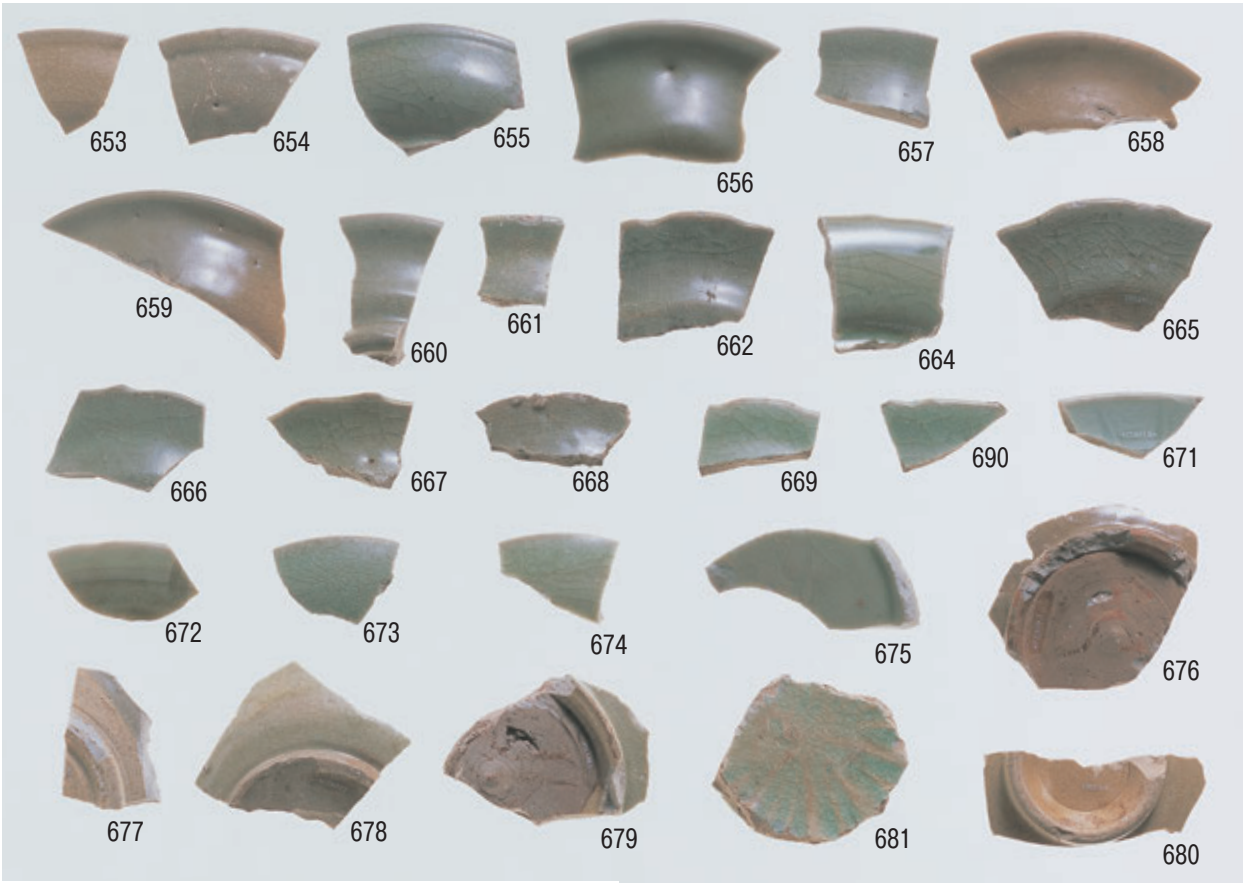
図版46　青磁（3）

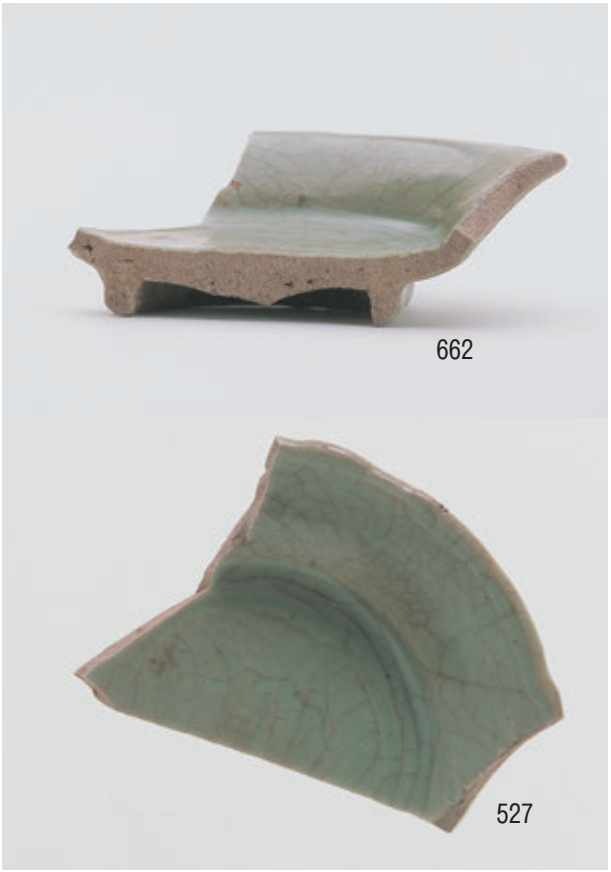

581
570
571
572
573
574
578
579
575
576
577
580
582
583
584
585
591
588
589
590
586
587
594
592
593
595
596


597
598
599
600
602
601
603
604


605
606
608
607
609
610
611
612
613
614
616
615
617
618
619
624
625
620
621
622
623

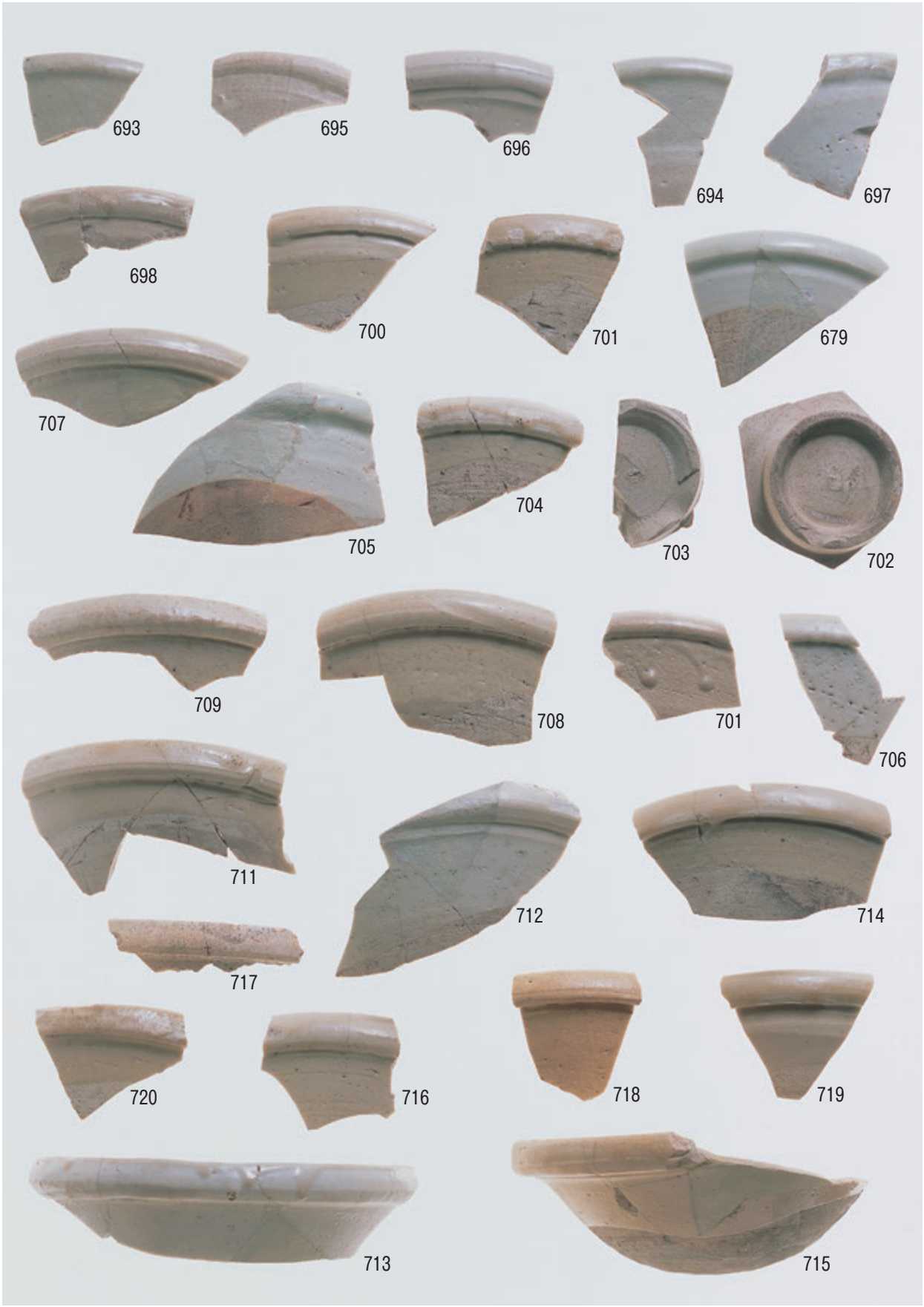

626
628
629
631
630
627
633
635
637
638
639
643
634
636
632
640
642
641
644
645
646
647
652
648
649
650
651


653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
664
665
666
667
668
669
690
671
672
673
674
675
676
677
678
679
681
680


662
527


682
683
686
684
685
688
687
689

図版50　白磁（1）

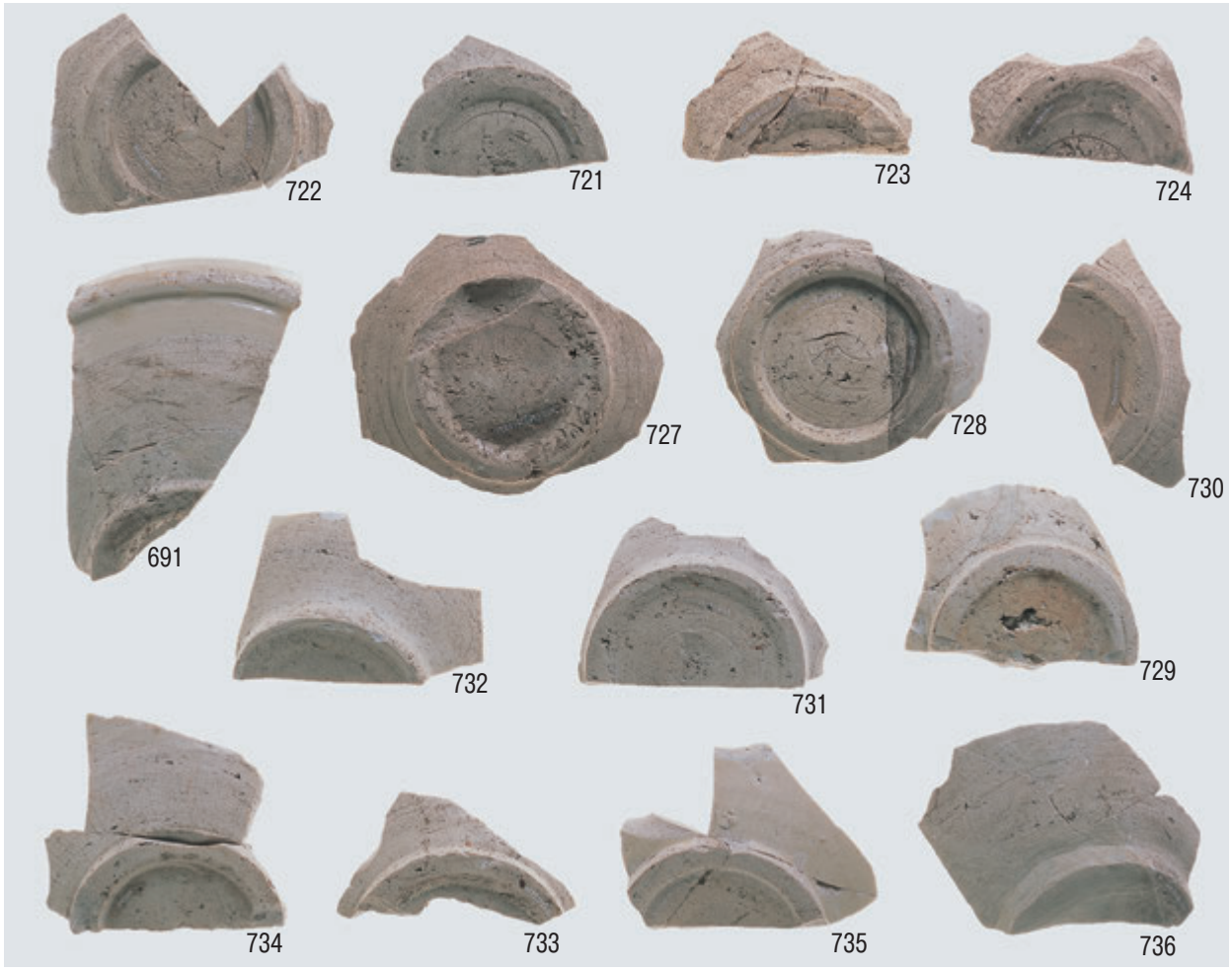

693
695
696
694
697
698
700
701
679
707
704
705
703
702
709
708
701
706
711
712
714
717
720
716
718
719
713
715


690

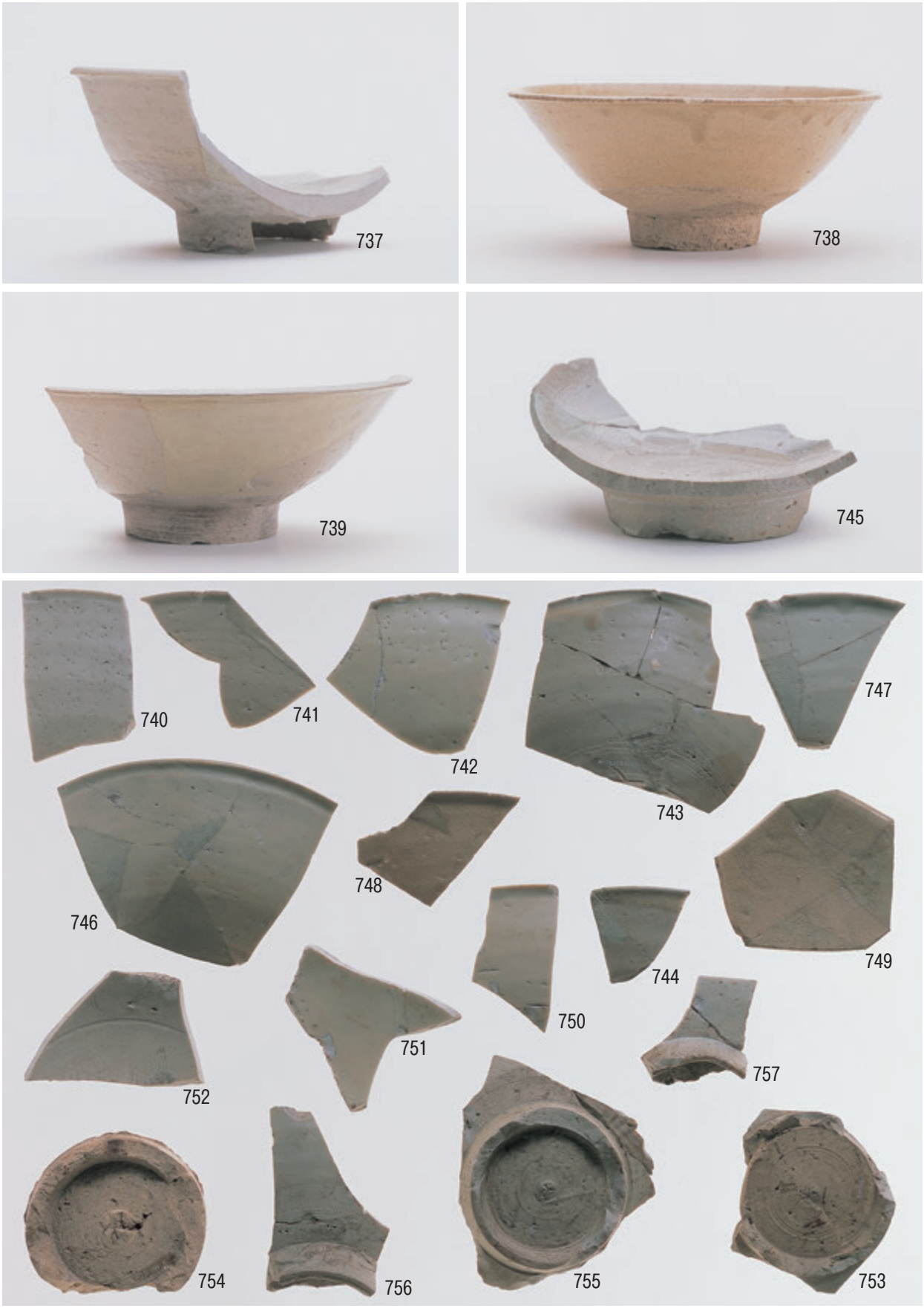

692

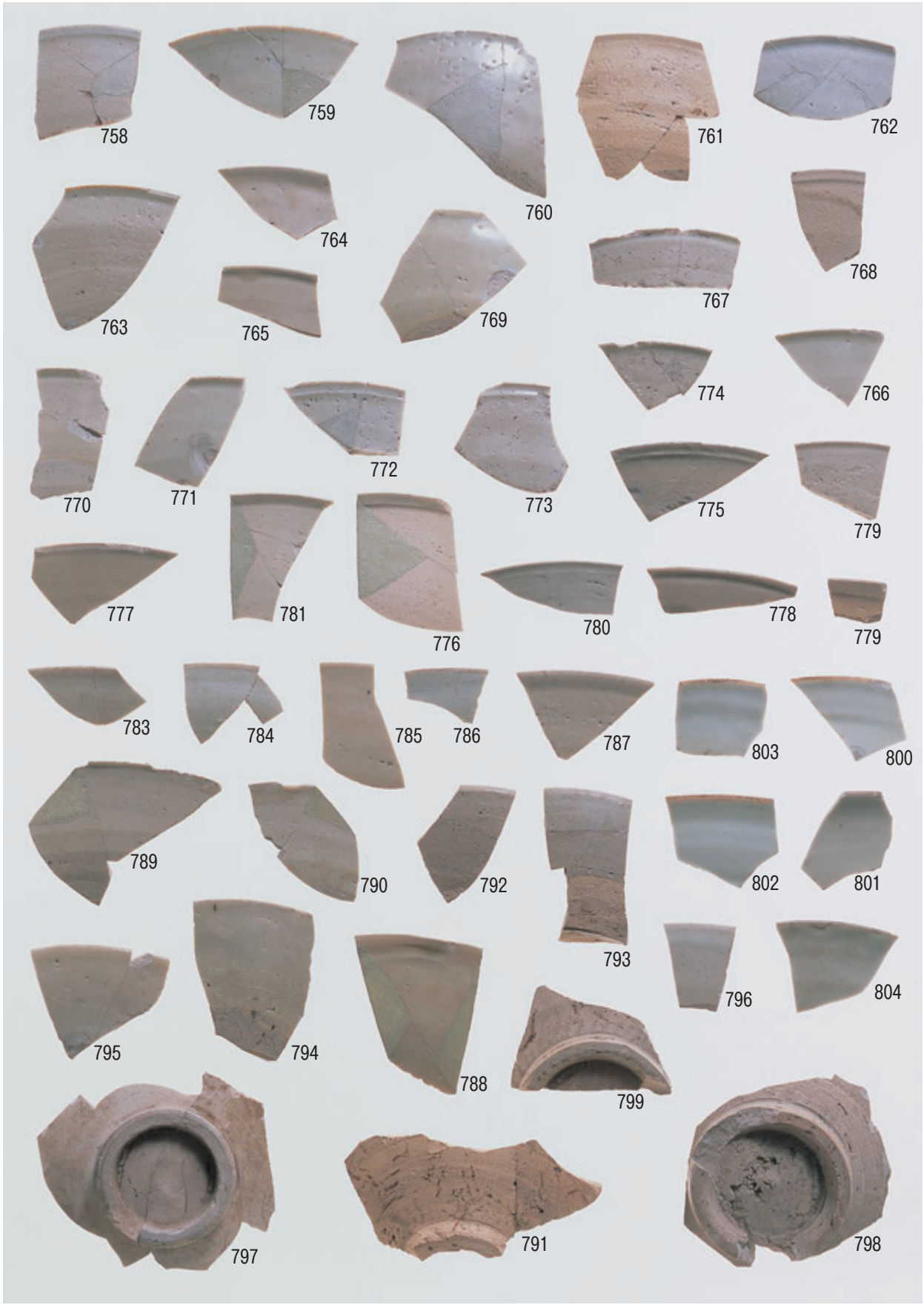

725


726


722
721
723
724
691
727
728
730
732
731
729
734
733
735
736

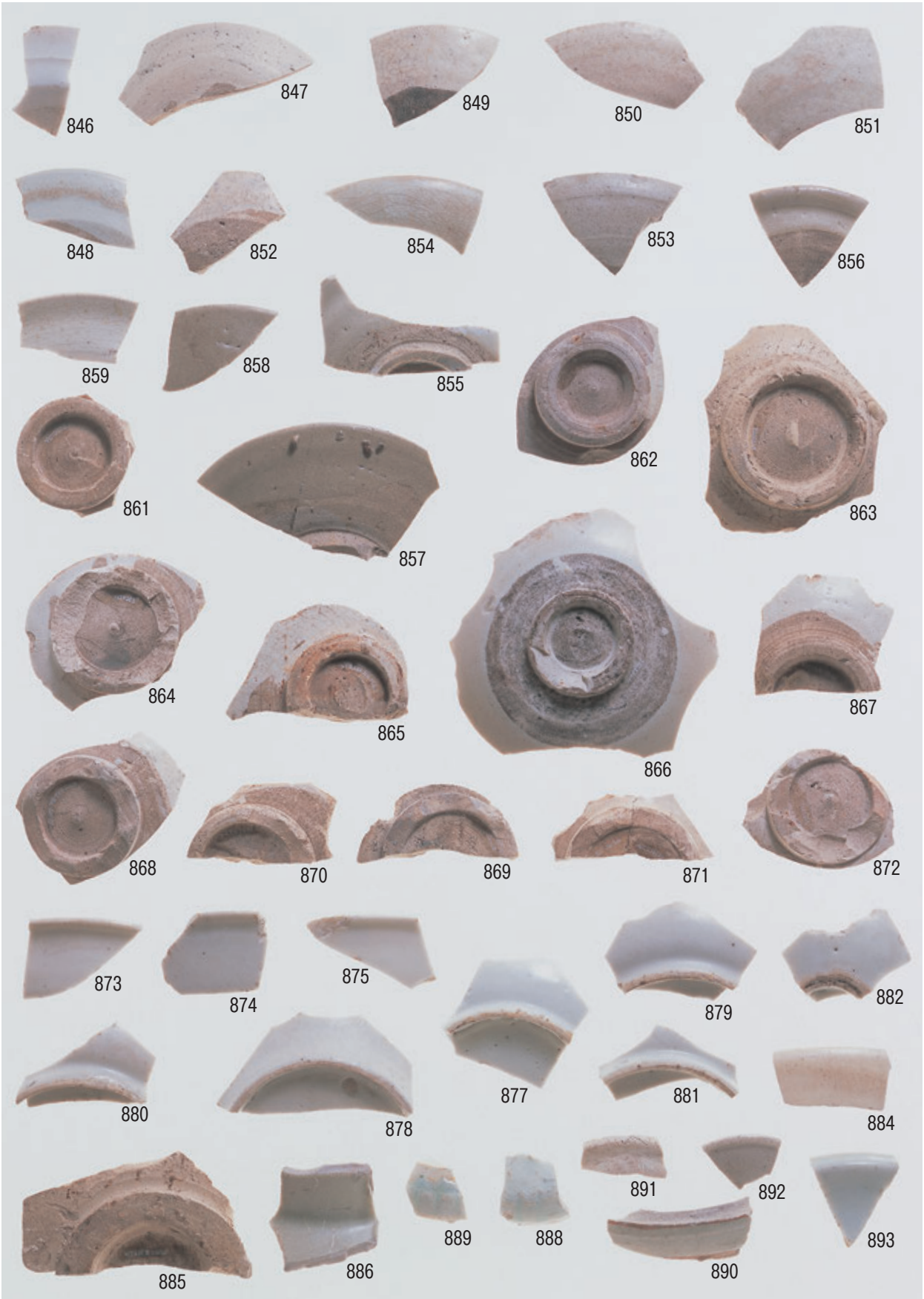
図版52　白磁（3）

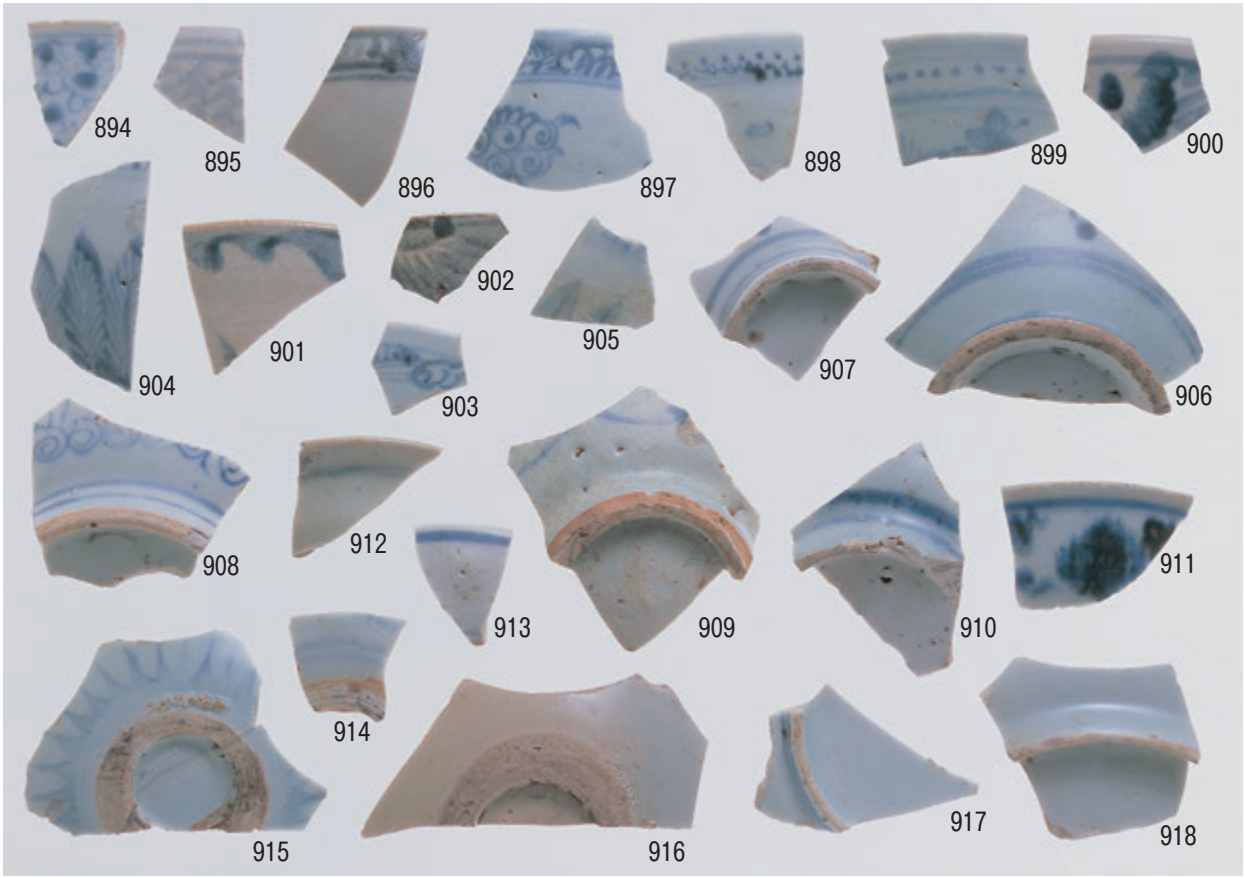

737
738
739
745
740
741
742
743
747
746
748
749
744
750
751
752
757
754
756
755
753


758
759
760
761
762
763
764
765
769
767
768
774
766
770
771
772
773
775
779
777
781
776
780
778
779
783
784
785
786
787
803
800
789
790
792
793
802
801
795
794
788
796
804
799
797
791
798

図版54　白磁（5）

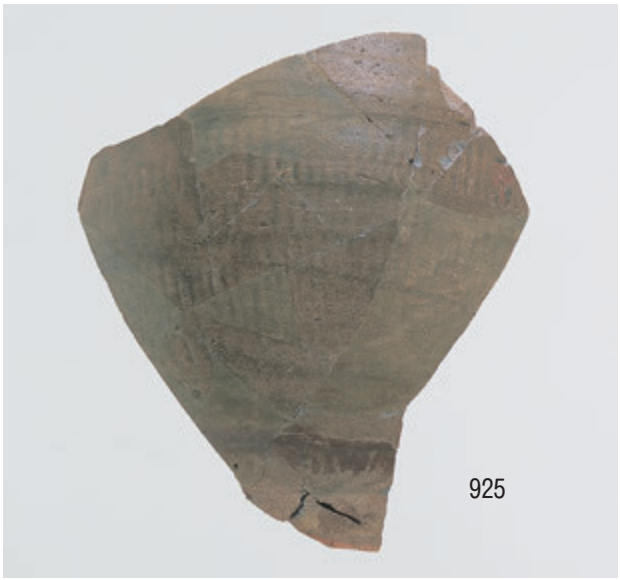

817
883
829
887
860
876
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
818
819
820
821
822
823
824
828
833
825
826
827
850
831
832
834
835
837
836
844
838
839
840
841
842
843
845

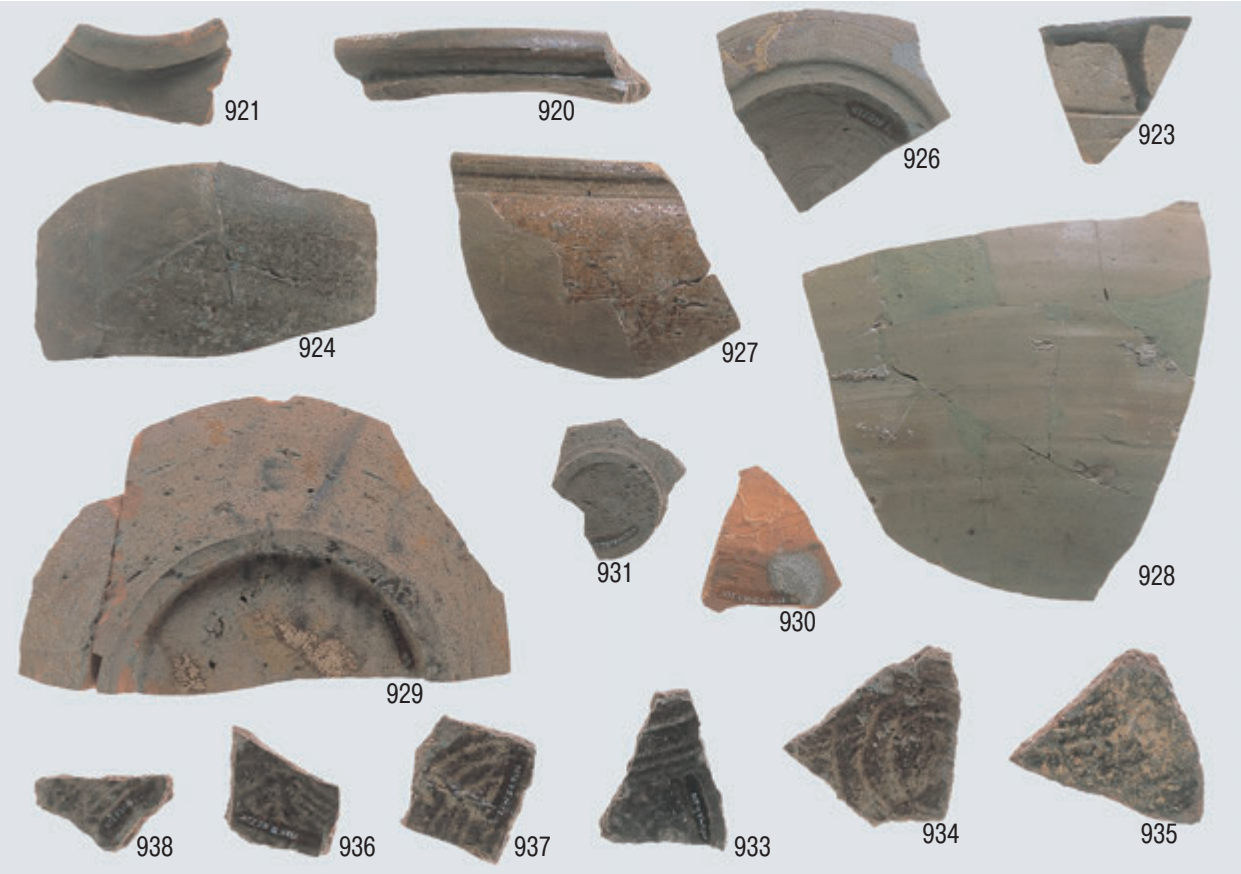

846
847
849
850
851
848
852
854
853
856
859
858
855
862
863
861
857
864
865
866
867
868
870
869
871
872
873
874
875
879
882
880
878
877
881
884
885
886
889
888
891
892
893
890

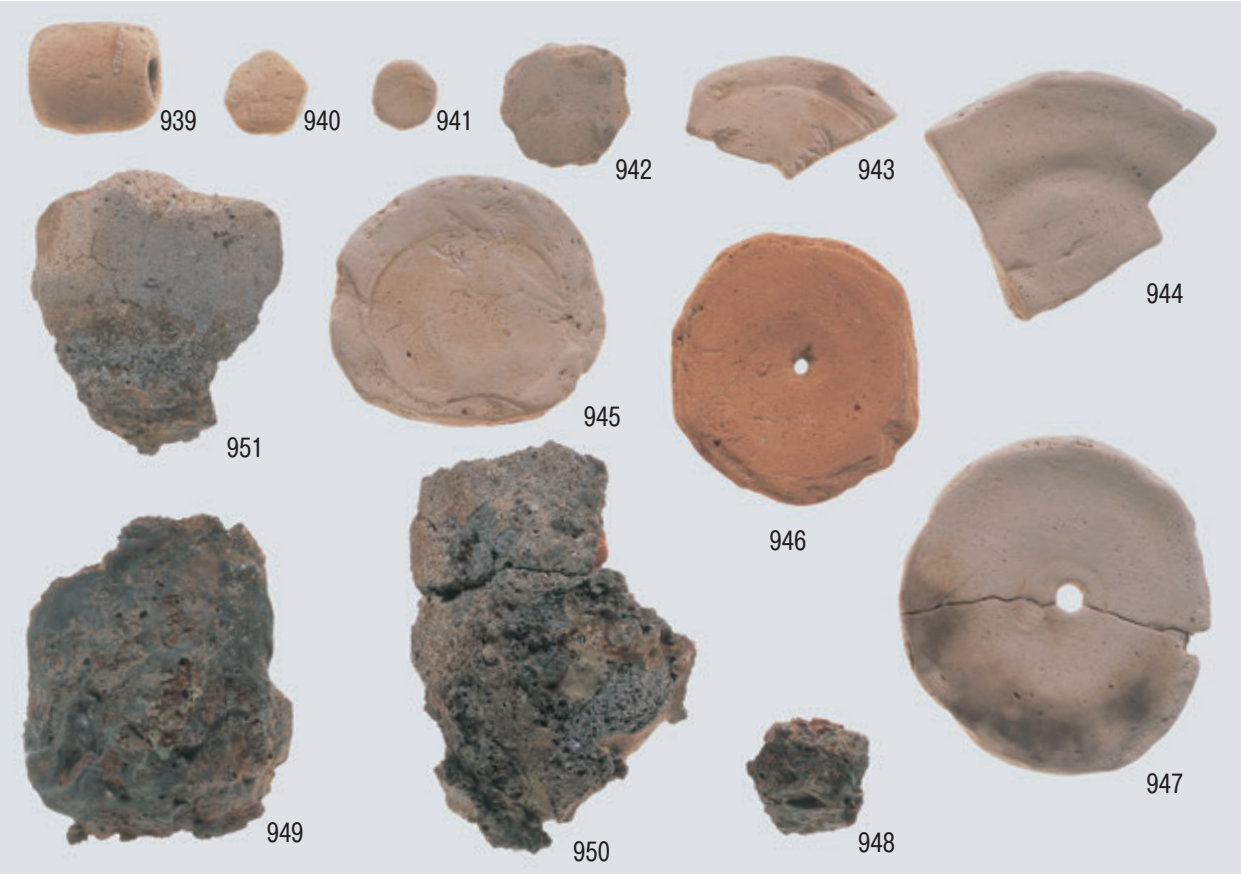

894
895
896
897
898
899
900
904
901
902
905
907
906
903
908
912
913
909
910
911
914
915
916
917
918


919


922


925


921
920
926
923
924
927
928
931
930
929
938
936
937
933
934
935


939
940
941
942
943
944
951
945
946
949
950
948
947

図版58　石鍋・滑石製品


952
953
954
955
959
957
958
960
961
956
962
963
964
965
966
967
969
968
970
971
972
973
976
977
975
974
978
979
980
981
982
983
984


985
986
987
988
989

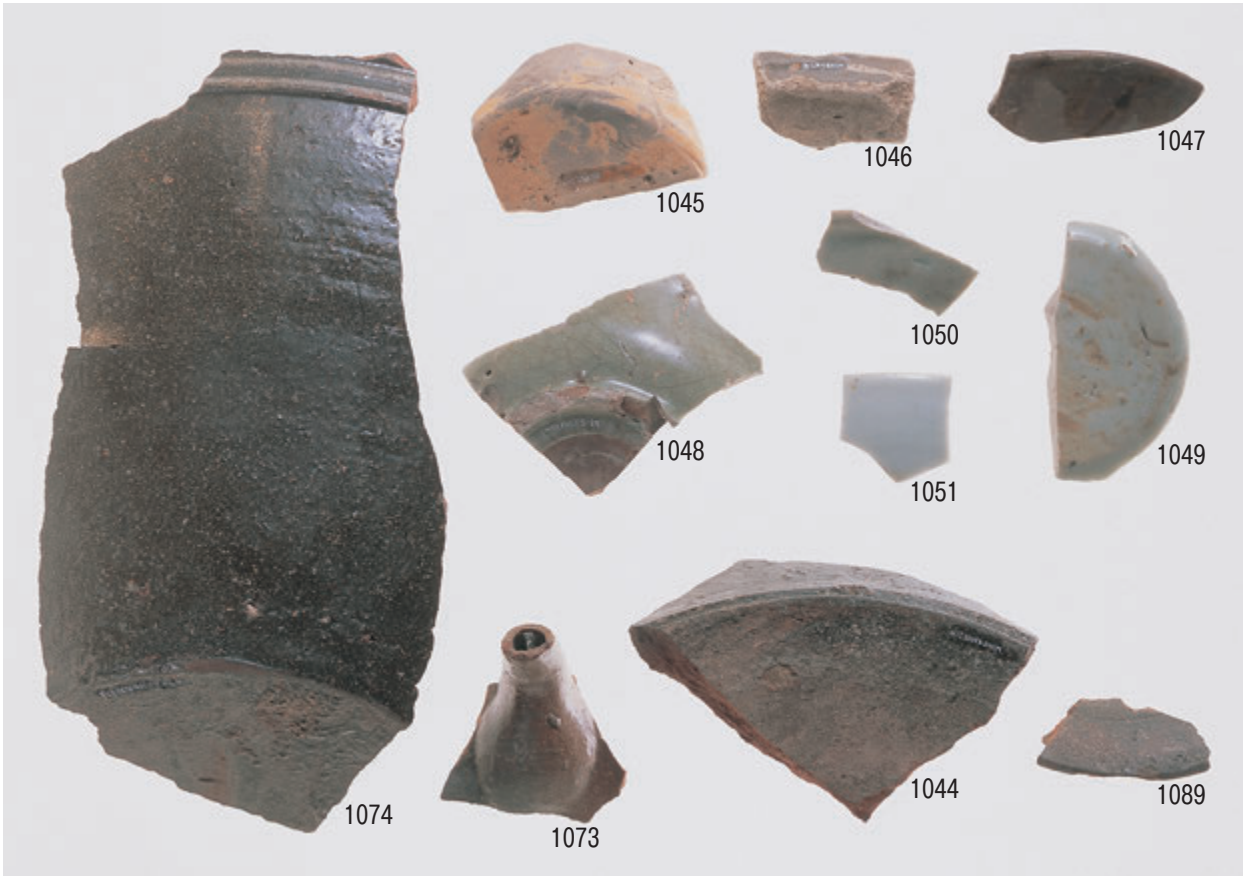

992
990
991
993
995
994
996
1004
999
1005
1001
1003
997
1006
1000
1002
998

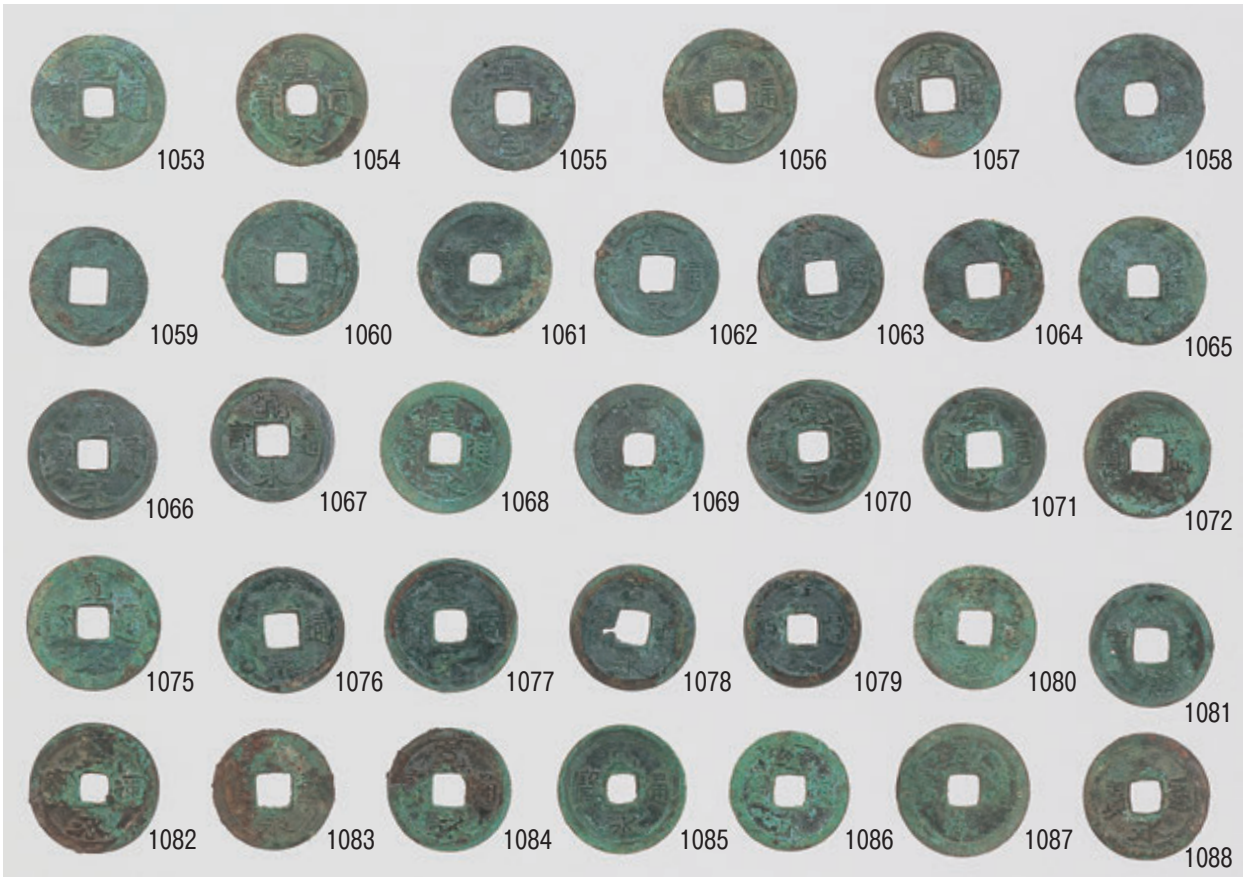
図版60　中国製陶器（3）・石臼・軽石製品

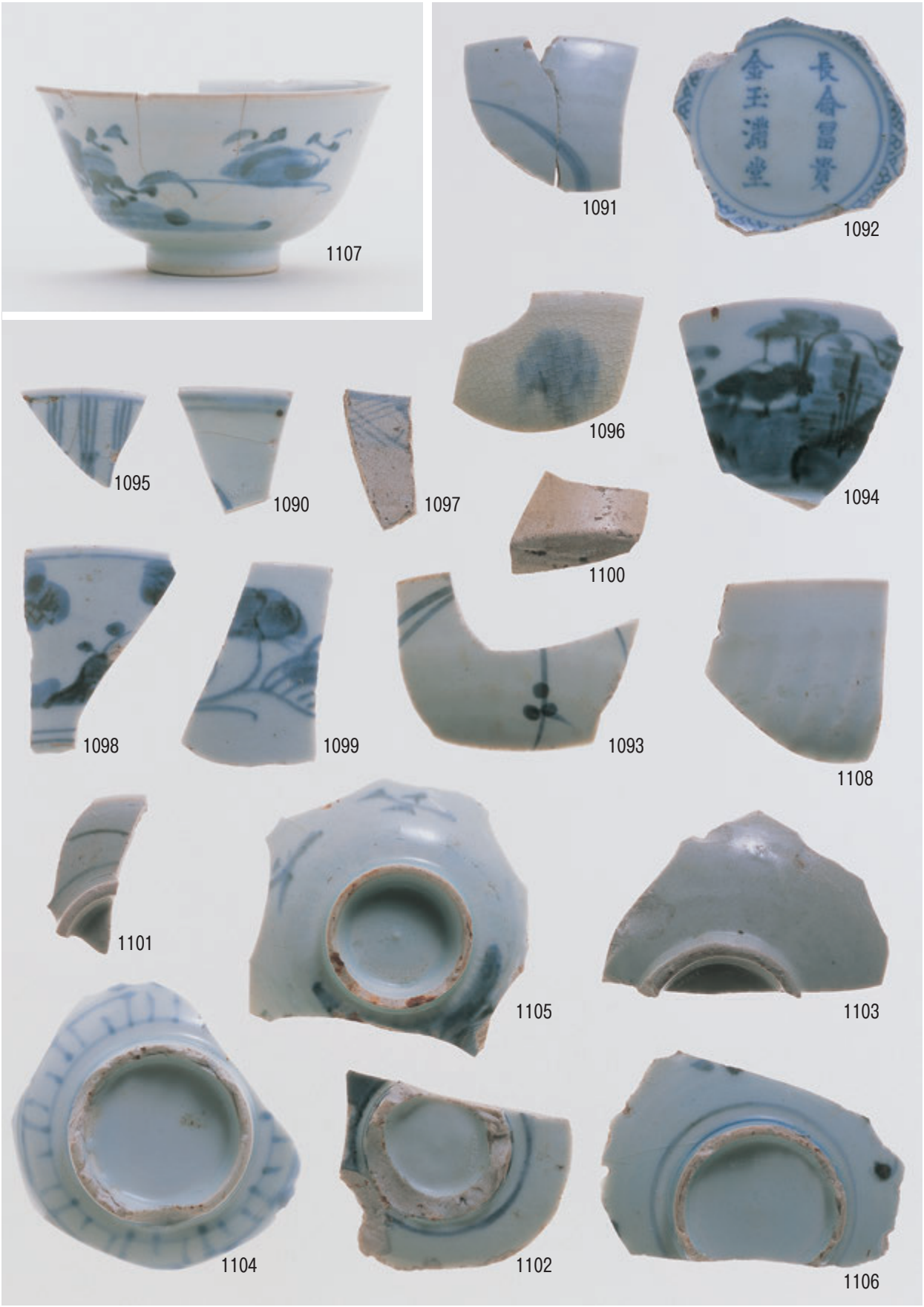



1016
1013
1018
1019
1020
1021
1012
1017
1015
1022
1014
1030
1031
1032
1024
1025
1026
1029
1023
1027
1028
1033
1036
1037
1038
1039
1040
1041
1042

図版62　近世遺構出土の陶磁器と六道銭




1107
1091
長命富貴
金玉滿堂
1092
1096
1095
1090
1097
1094
1100
1098
1099
1093
1108
1101
1105
1103
1104
1102
1106


1114


1124


1115

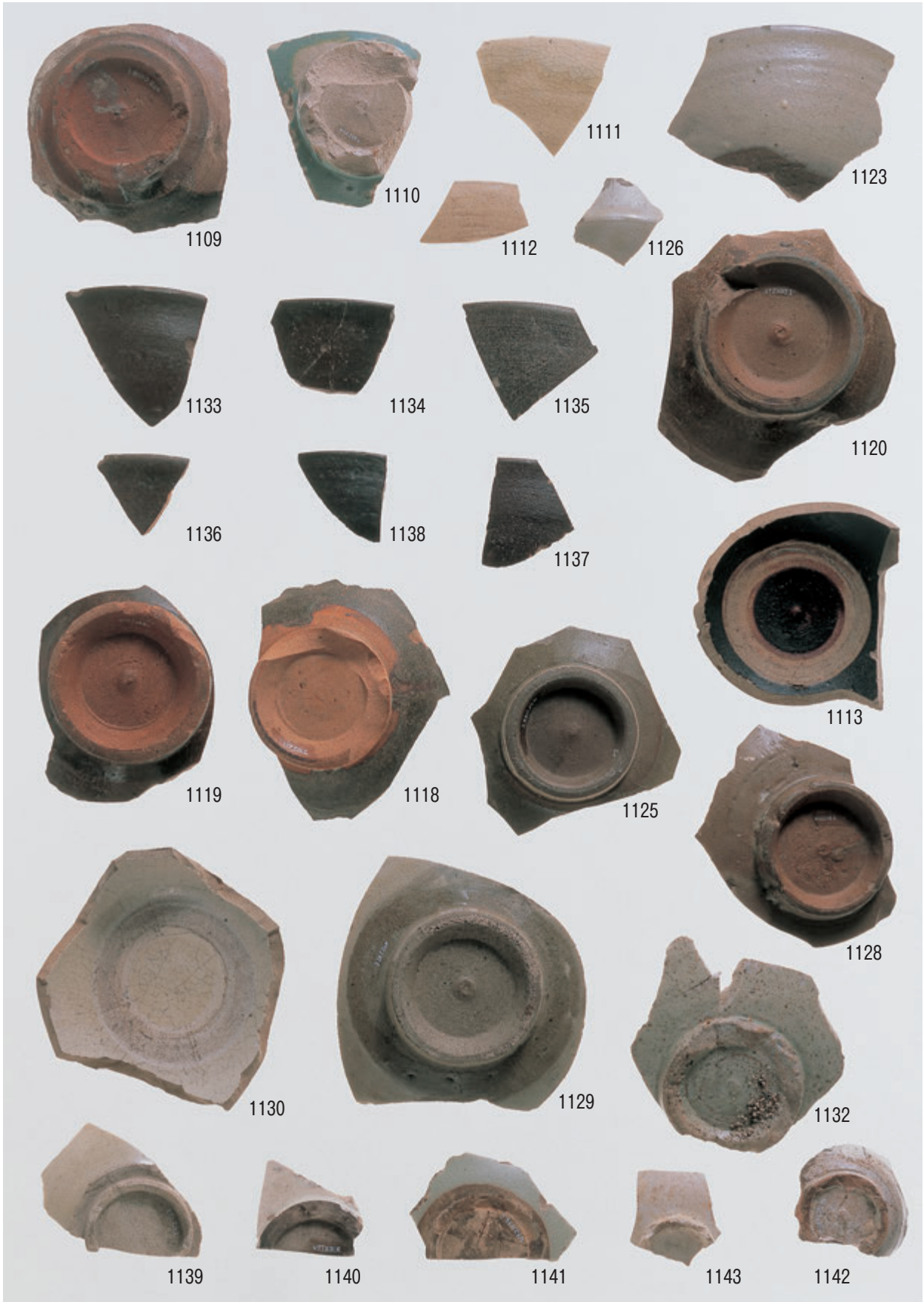

1144

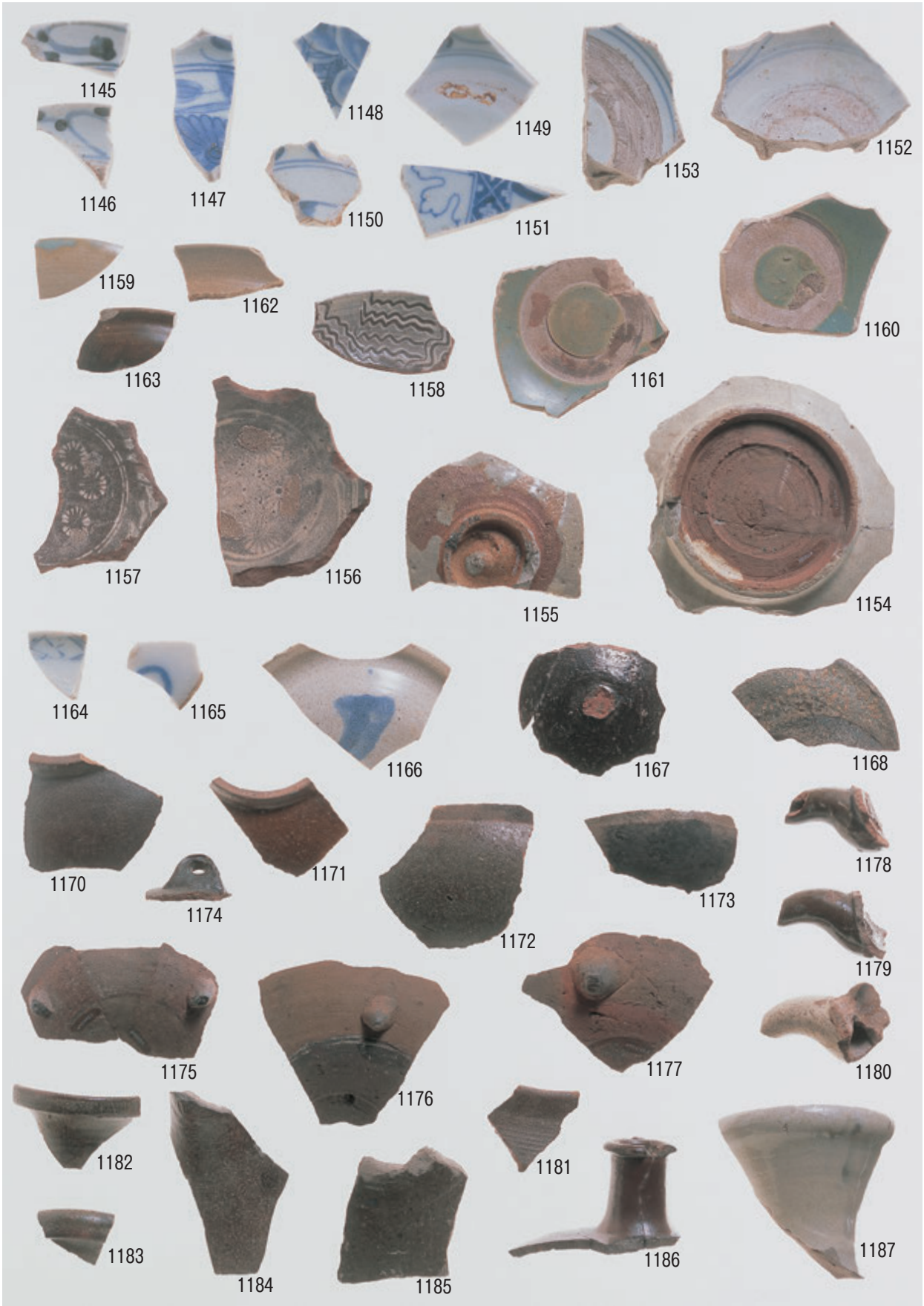

1116

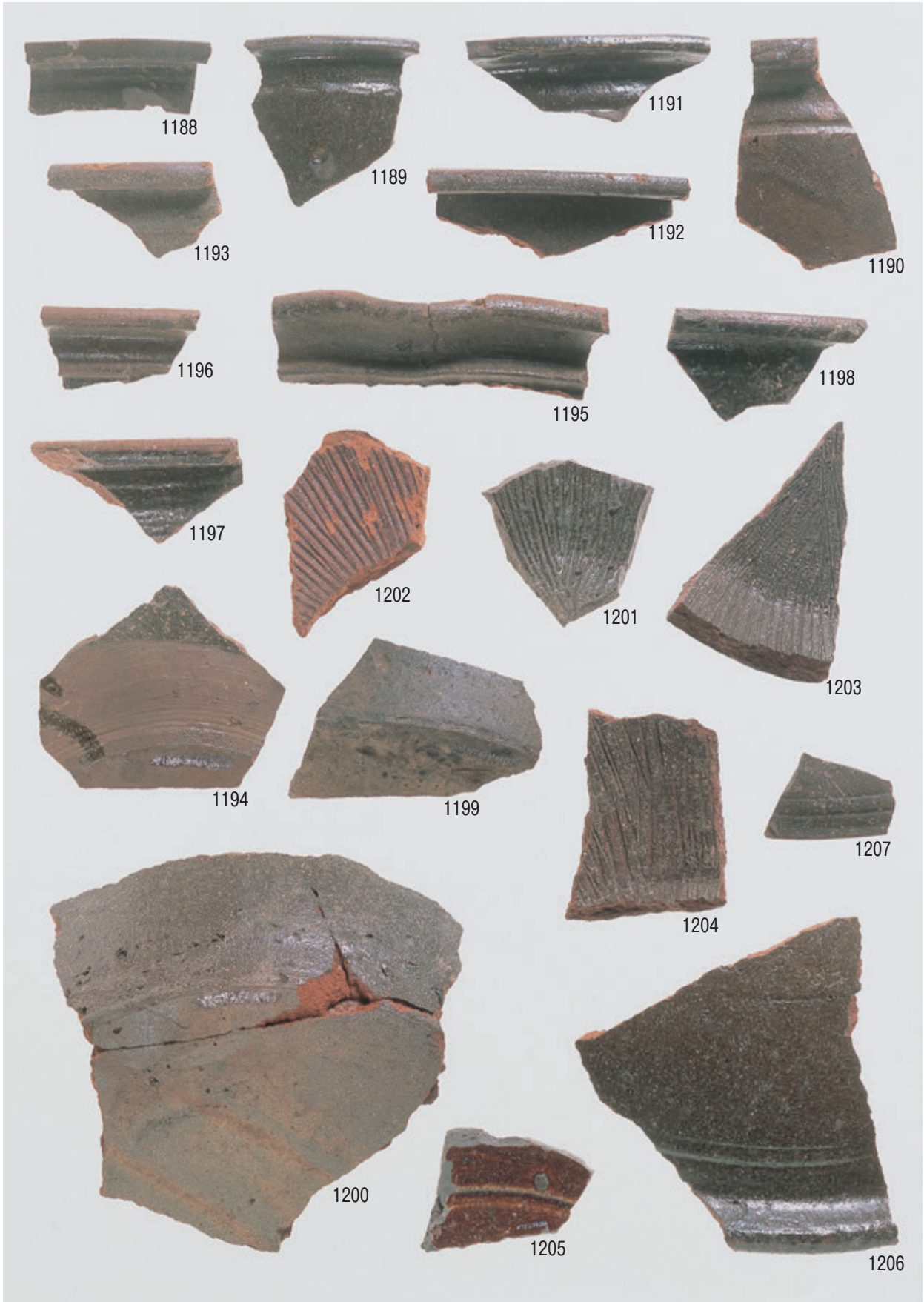

1169


1122


1224


1109
1110
1111
1123
1112
1126
1133
1134
1135
1120
1136
1138
1137
1113
1119
1118
1125
1128
1130
1129
1132
1139
1140
1141
1143
1142


1145
1146
1147
1148
1149
1150
1151
1152
1153
1154
1155
1156
1157
1158
1159
1160
1161
1162
1163
1164
1165
1166
1167
1168
1170
1171
1172
1173
1174
1175
1176
1177
1178
1179
1180
1181
1182
1183
1184
1185
1186
1187


1188
1189
1191
1190
1193
1192
1196
1195
1198
1197
1202
1201
1203
1194
1199
1207
1204
1200
1205
1206


1208
1210
1211
1217
1209
1216
1218
1213
1212
1219
1215
1214
1222
1223
1221
1220
1225
1226
1227
1228
1230
1231
1233
1233
1232
1229

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（17）
東九州自動車道建設（志布志ＩＣ～鹿屋串良 ＪＣＴ）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 永吉天神段遺跡３
# 第２地点-２

発 行 年 月　　２０１８年１月
編集・発行　　鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
TEL　0995-70-0574　　FAX　0995-70-0576
印　刷　所　　株式会社トライ社
〒892-0834　鹿児島市南林寺町12-6
TEL　099-226-0815　　FAX　099-225-7933



鹿児島県